秋田県文化財調査報告書第376集

小　林　遺　跡　Ⅱ

平安時代・中世編

――日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ――

２００４・３

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

小林遺跡 Ⅱ

平安時代・中世編

――日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ――

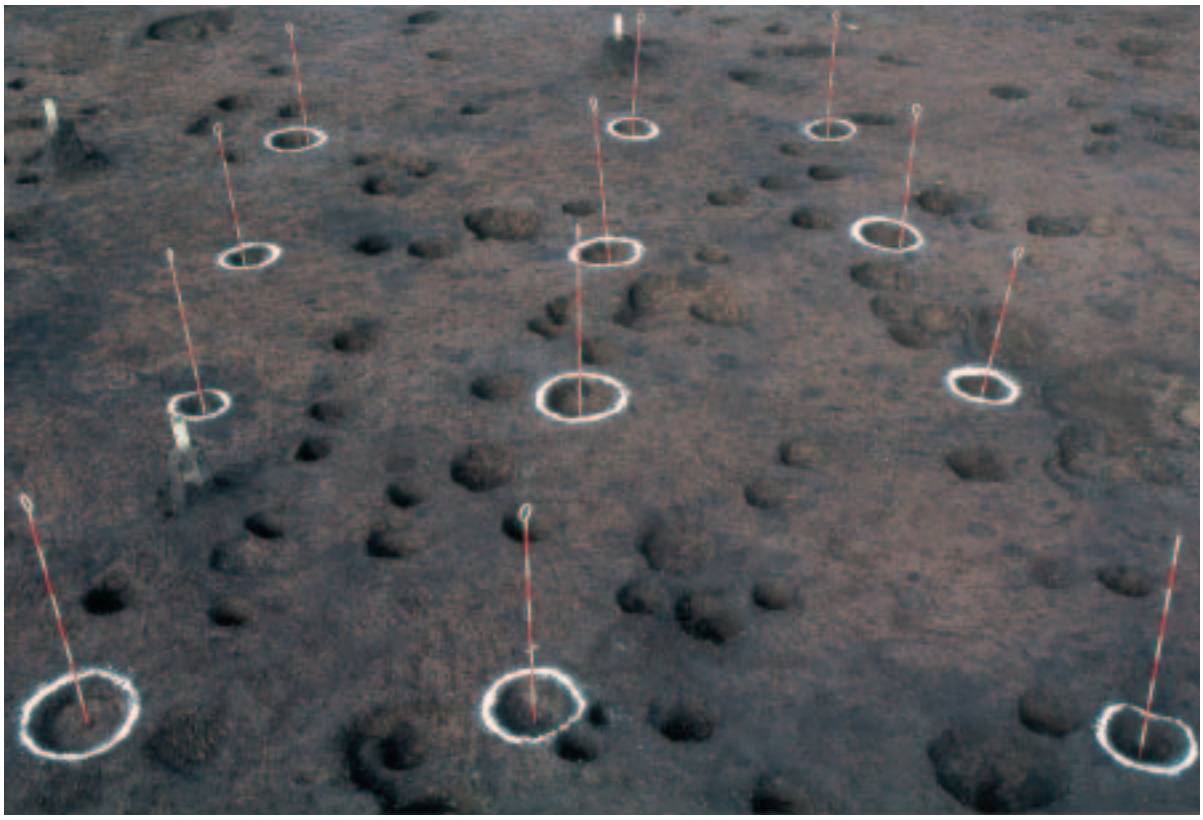
２００４・３

秋田県教育委員会

小林遺跡調査区（上が北）

1　ＳＳ2000（南西から）

2　ＳＩ1800（東から）



1　ＳＢ5917（東から）

2　ＳＷ3805・ＳＷ3806（北から）

序

本県には、これまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、日本海沿岸東北自動車道建設に先立って、平成12年度に琴丘町で実施した小林遺跡の発掘調査成果のうち平安時代と中世についてまとめたものであります。調査では、平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡のほか、製鉄炉、鍛冶炉、炭窯等が発見され、製鉄作業と密接に関わった平安時代の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました日本道路公団東北支社秋田工事事務所、琴丘町教育委員会、五城目町教育委員会、八郎潟町教育委員会など関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　　清

例　　言

1　本書は、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本書は、2000(平成12)年度に調査された秋田県山本郡琴丘町に所在する小林遺跡の調査結果のうち、平安時代・中世の遺構・遺物の報告を収めたもので、日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財報告書としては19冊目にあたる。縄文時代の遺構・遺物については、『秋田県文化財調査報告書第344集　小林遺跡Ⅰ　縄文時代編』として、平成14年度に刊行してある。

3　調査の内容については、すでにその一部が年報などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。

4　本書の執筆は、第2章第1節を渡邊慎一が、第4章第1節を吉川耕太郎・大森浩・藤田賢哉・太田剛・菊地亮・工藤幸作・小澤昌広・高橋浩樹・播摩芳紀・皆川友紀子・森川千春が、他を吉川が執筆し、編集は吉川がおこなった。

5　本書に使用した地形図は、国土地理院1／25,000『鹿渡』・同『五城目』と日本道路公団東北支社秋田工事事務所提供の1／1,000工事用図面である。

6　製鉄関連の遺構の調査方法については穴澤義功氏に現地にて指導していただいた。

7　網掛表示図面作成は三栄興業株式会社に委託した。

8　自然科学分析は、放射性炭素年代測定法・樹種同定を株式会社古環境研究所、株式会社パレオ・ラボ、製鉄関連遺物の保存処理を株式会社京都科学に委託した。

9　遺構配置図作成・空中写真撮影は株式会社シン技術コンサルに委託した。

10　本報告書を作成するにあたり、以下の方々からご指導・ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。(敬称略、五十音順)

穴澤義功・井上喜久雄・小山内透・木村将来・工藤雅樹・高島成侑・寺島文隆・中山　晋・福嶋宗人・藤原妃敏・山本信夫

凡　　例

1　遺構番号は、種類毎に略記号を付し、検出順に通し番号を付したが、後に検討の結果、遺構でないと判断したものは欠番とした。また、遺構には下記の略記号を使用した。

(遺構)

ＳＩ・・・竪穴住居跡	ＳＫＩ・・竪穴状遺構	ＳＢ・・・掘立柱建物跡
ＳＫＰ・・・柱穴様ピット	ＳＫ・・・土坑	ＳＮ・・・焼土遺構
ＳＸ・・・性格不明遺構	ＳＤ・・・溝跡	ＳＳ・・・製鉄炉・鍛冶炉
ＳＷ・・・炭窯		

(遺物)

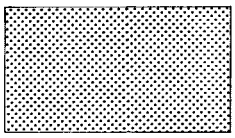
ＲＰ・・・土器　　ＲＱ・・・石製品　　ＲＭ・・・製鉄関連遺物　　Ｓ・・・礫

2　遺跡基本土層と遺構土層中の土色の色調表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』(1998年版)によった。

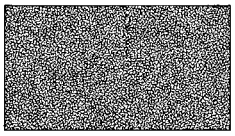
3　土層番号に用いた数字は、ローマ数字を遺跡基本土層に、算用数字を遺構土層に使用して区別した。

4　参考文献・註は各章末尾に記してある。

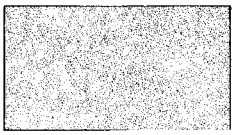
5　土器・製鉄関連遺物の計測部位、部位名称およびスクリーントーンの凡例は以下の通りである。



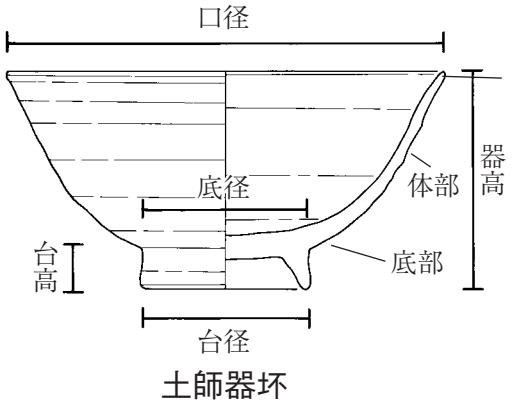
焼土範囲



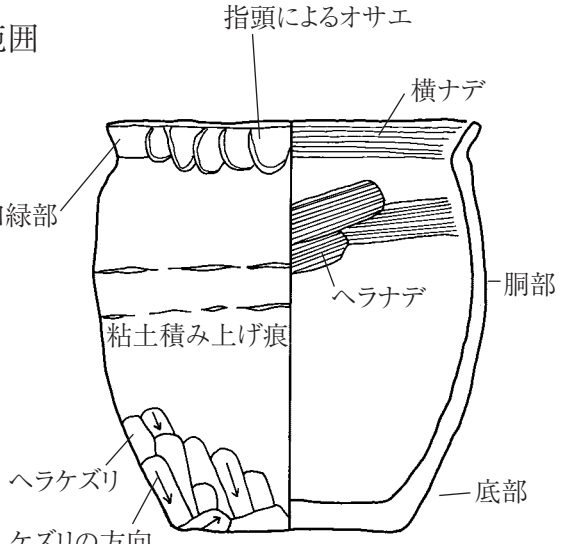
還元土範囲



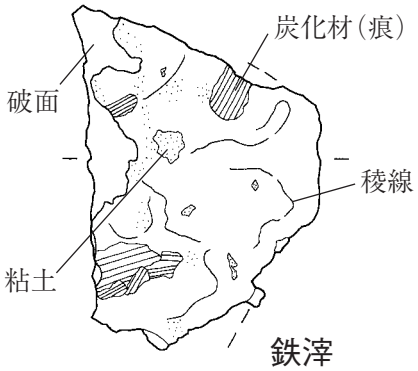
炭化物範囲



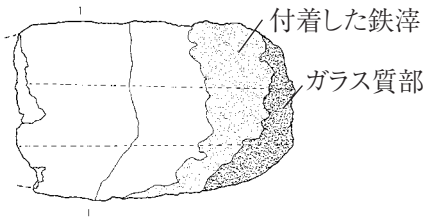
土師器坏



土師器甕



鉄滓



羽口

目　　次

巻頭図版

序

例言・凡例

目次

第１章　はじめに

　第１節　調査に至る経過 …… 1

　第２節　調査要項 …… 1

第２章　遺跡の環境

　第１節　遺跡の位置と立地 …… 5

　第２節　歴史的環境 …… 8

第３章　発掘調査の概要

　第１節　遺跡の概観 …… 12

　第２節　基本土層 …… 12

　第３節　調査の方法 …… 12

第４章　調査の記録

　第１節　平安時代の検出遺構と出土遺物 …… 18

　　１　竪穴住居跡

　　２　竪穴状遺構

　　３　掘立柱建物跡

　　４　柱穴様ピット

　　５　土坑

　　６　焼土遺構

　　７　溝跡

　　８　性格不明遺構

　　９　製鉄炉

　　10　鍛冶炉

　　11　炭窯

　第２節　平安時代における製鉄関連遺構と遺物の分析 …… 190

　　１　ＳＳ 2000

　　２　ＳＳ 3946

　　３　ＳＩ 1800

　　４　その他の遺構内出土製鉄関連遺物

　第３節　中世の検出遺構と出土遺物 …… 247

　　１　性格不明遺構

　　２　炭窯

第4節　出土遺物 …… 257
1　土師器
2　須恵器
3　陶磁器
4　土製品
5　石製品
6　製鉄関連遺物・鉄製品
第5章　まとめ …… 288
図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　小林遺跡調査範囲図 …… 2
第２図　日本海沿岸東北自動車道と関連遺跡 …… 3・4
第３図　小林遺跡の位置 …… 5
第４図　小林遺跡周辺の地形 …… 7
第５図　小林遺跡周辺の遺跡分布 …… 10
第６図　基本土層観察用トレンチ位置図 …… 14
第７図　基本土層図 …… 15
第８図　北側谷部土層断面 …… 16
第９図　竪穴住居跡・竪穴状遺構配置図 …… 86
第10図　掘立柱建物跡配置図 …… 87
第11図　土坑配置図 …… 88
第12図　焼土遺構配置図 …… 89
第13図　溝跡配置図 …… 90
第14図　製鉄関連遺構配置図 …… 91
第15図　検出遺構（竪穴住居跡①） …… 92
第16図　検出遺構（竪穴住居跡②） …… 93
第17図　検出遺構（竪穴住居跡③） …… 94
第18図　検出遺構（竪穴住居跡④） …… 95
第19図　検出遺構（竪穴住居跡⑤） …… 96
第20図　検出遺構（竪穴住居跡⑥） …… 97
第21図　検出遺構（竪穴住居跡⑦） …… 98
第22図　検出遺構（竪穴住居跡⑧） …… 99
第23図　検出遺構（竪穴住居跡⑨） …… 100
第24図　検出遺構（竪穴住居跡⑩） …… 101
第25図　検出遺構（竪穴住居跡⑪） …… 102
第26図　検出遺構（竪穴住居跡⑫） …… 103
第27図　検出遺構（竪穴住居跡⑬） …… 104
第28図　検出遺構（竪穴住居跡⑭） …… 105
第29図　検出遺構（竪穴住居跡⑮） …… 106
第30図　検出遺構（竪穴状遺構①） …… 107
第31図　検出遺構（竪穴状遺構②） …… 108
第32図　検出遺構（掘立柱建物跡①） …… 109
第33図　検出遺構（掘立柱建物跡②） …… 110
第34図　検出遺構（掘立柱建物跡③） …… 111
第35図　検出遺構（掘立柱建物跡④） …… 112

第36図　検出遺構(掘立柱建物跡⑤) …… 113
第37図　検出遺構(掘立柱建物跡⑥) …… 114
第38図　検出遺構(掘立柱建物跡⑦) …… 115
第39図　検出遺構(掘立柱建物跡⑧) …… 116
第40図　検出遺構(土坑①) …… 117
第41図　検出遺構(土坑②) …… 118
第42図　検出遺構(土坑③) …… 119
第43図　検出遺構(土坑④) …… 120
第44図　検出遺構(土坑⑤) …… 121
第45図　検出遺構(土坑⑥) …… 122
第46図　検出遺構(土坑⑦) …… 123
第47図　検出遺構(土坑⑧) …… 124
第48図　検出遺構(土坑⑨) …… 125
第49図　検出遺構(土坑⑩) …… 126
第50図　検出遺構(土坑⑪) …… 127
第51図　検出遺構(土坑⑫) …… 128
第52図　検出遺構(土坑⑬) …… 129
第53図　検出遺構(土坑⑭) …… 130
第54図　検出遺構(土坑⑮) …… 131
第55図　検出遺構(土坑⑯) …… 132
第56図　検出遺構(土坑⑰) …… 133
第57図　検出遺構(土坑⑱) …… 134
第58図　検出遺構(土坑⑲) …… 135
第59図　検出遺構(土坑⑳) …… 136
第60図　検出遺構(土坑㉑) …… 137
第61図　検出遺構(土坑㉒) …… 138
第62図　検出遺構(土坑㉓) …… 139
第63図　検出遺構(土坑㉔) …… 140
第64図　検出遺構(土坑㉕) …… 141
第65図　検出遺構(土坑㉖) …… 142
第66図　検出遺構(土坑㉗) …… 143
第67図　検出遺構(土坑㉘) …… 144
第68図　検出遺構(土坑㉙) …… 145
第69図　検出遺構(焼土遺構①) …… 146
第70図　検出遺構(焼土遺構②) …… 147
第71図　検出遺構(焼土遺構③) …… 148
第72図　検出遺構(焼土遺構④) …… 149

第 73 図　検出遺構（焼土遺構⑤）…… 150
第 74 図　検出遺構（溝跡①）…… 151
第 75 図　検出遺構（溝跡②）…… 152
第 76 図　検出遺構（溝跡③）…… 153
第 77 図　検出遺構（溝跡④）…… 154
第 78 図　検出遺構（溝跡⑤）…… 155
第 79 図　検出遺構（溝跡⑥）…… 156
第 80 図　検出遺構（溝跡⑦）…… 157
第 81 図　検出遺構（溝跡⑧）…… 158
第 82 図　検出遺構（溝跡⑨）…… 159
第 83 図　検出遺構（溝跡⑩）…… 160
第 84 図　検出遺構（溝跡⑪）…… 161
第 85 図　検出遺構（性格不明遺構①）…… 162
第 86 図　検出遺構（性格不明遺構②）…… 163
第 87 図　検出遺構（性格不明遺構③）…… 164
第 88 図　検出遺構（製鉄炉①）…… 165
第 89 図　検出遺構（製鉄炉②）…… 166
第 90 図　検出遺構（鍛冶炉①）…… 167
第 91 図　検出遺構（鍛冶炉②）…… 168
第 92 図　検出遺構（鍛冶炉③）…… 169
第 93 図　検出遺構（炭窯①）…… 170
第 94 図　検出遺構（炭窯②）…… 171
第 95 図　検出遺構（炭窯③）…… 172
第 96 図　検出遺構（炭窯④）…… 173
第 97 図　出土遺物（遺構内①）…… 174
第 98 図　出土遺物（遺構内②）…… 175
第 99 図　出土遺物（遺構内③）…… 176
第100図　出土遺物（遺構内④）…… 177
第101図　出土遺物（遺構内⑤）…… 178
第102図　出土遺物（遺構内⑥）…… 179
第103図　出土遺物（遺構内⑦）…… 180
第104図　出土遺物（遺構内⑧）…… 181
第105図　出土遺物（遺構内⑨）…… 182
第106図　出土遺物（遺構内⑩）…… 183
第107図　出土遺物（遺構内⑪）…… 184
第108図　出土遺物（遺構内⑫）…… 185
第109図　出土遺物（遺構内⑬）…… 186

第110図　出土遺物(遺構内⑭) …… 186
第111図　出土遺物(遺構内⑮) …… 187
第112図　出土遺物(遺構内⑯) …… 188
第113図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(炉壁) …… 195
第114図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(炉底塊) …… 196
第115図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(炉内滓) …… 197
第116図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(流出孔滓) …… 198
第117図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(流出溝滓) …… 199
第118図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(流動滓) …… 200
第119図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(羽口) …… 201
第120図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(砂鉄) …… 202
第121図　ＳＳ2000重量別遺物分布図(鉄滓１cm未満) …… 203
第122図　ＳＳ2000製鉄関連遺物構成図 …… 204
第123図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物① …… 205
第124図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物② …… 206
第125図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物③ …… 207
第126図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物④ …… 208
第127図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑤ …… 209
第128図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑥ …… 210
第129図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑦ …… 211
第130図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑧ …… 212
第131図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(炉壁) …… 213
第132図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(炉内滓) …… 214
第133図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(単位流動滓) …… 215
第134図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(流出孔滓) …… 216
第135図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(流出溝滓) …… 217
第136図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(流動滓) …… 218
第137図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(羽口) …… 219
第138図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(砂鉄) …… 220
第139図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(鉄滓１cm未満) …… 221
第140図　ＳＳ3946製鉄関連遺物構成図 …… 222
第141図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物① …… 223
第142図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物② …… 224
第143図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物③ …… 225
第144図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物④ …… 226
第145図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑤ …… 227
第146図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑥ …… 228

第147図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑦ …… 229
第148図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑧ …… 230
第149図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑨ …… 231
第150図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑩ …… 232
第151図　ＳＩ1800重量別遺物分布図(鉄滓) …… 233
第152図　ＳＩ1800重量別遺物分布図(鍛造剥片) …… 234
第153図　ＳＩ1800重量別遺物分布図(粒状滓) …… 235
第154図　ＳＩ1800重量別遺物分布図(羽口) …… 236
第155図　ＳＩ1800重量別遺物分布図(砂鉄) …… 237
第156図　ＳＩ1800製鉄関連遺物構成図 …… 238
第157図　ＳＩ1800内出土製鉄関連遺物① …… 239
第158図　ＳＩ1800内出土製鉄関連遺物② …… 240
第159図　ＳＩ1800内出土製鉄関連遺物③ …… 241
第160図　遺構内出土製鉄関連遺物① …… 242
第161図　遺構内出土製鉄関連遺物② …… 243
第162図　遺構内出土製鉄関連遺物③ …… 244
第163図　遺構内出土製鉄関連遺物④ …… 245
第164図　遺構内出土製鉄関連遺物⑤ …… 246
第165図　検出遺構(性格不明遺構①) …… 249
第166図　検出遺構(性格不明遺構②) …… 250
第167図　検出遺構(炭窯①) …… 251
第168図　検出遺構(炭窯②) …… 252
第169図　検出遺構(炭窯③) …… 253
第170図　出土遺物(炭窯内①) …… 254
第171図　出土遺物(炭窯内②) …… 255
第172図　出土遺物(炭窯内③) …… 256
第173図　出土遺物(遺構外①) …… 259
第174図　出土遺物(遺構外②) …… 260
第175図　出土遺物(遺構外③) …… 261
第176図　出土遺物(遺構外④) …… 262
第177図　出土遺物(遺構外⑤) …… 263
第178図　出土遺物(遺構外⑥) …… 264
第179図　出土遺物(遺構外⑦) …… 265
第180図　出土遺物(遺構外⑧) …… 266
第181図　出土遺物(遺構外⑨) …… 267
第182図　出土遺物(遺構外⑩) …… 268
第183図　出土遺物(遺構外⑪) …… 269

第184図　出土遺物（遺構外⑫）…… 270
第185図　出土遺物（遺構外⑬）…… 271
第186図　出土遺物（遺構外⑭）…… 272
第187図　出土遺物（遺構外⑮）…… 273
第188図　出土遺物（遺構外⑯）…… 274
第189図　出土遺物（遺構外⑰）…… 275
第190図　出土遺物（遺構外⑱）…… 276
第191図　出土遺物（遺構外⑲）…… 277
第192図　小林遺跡における製鉄空間の構造 …… 290
第193図　小林遺跡の変遷 …… 292

表 目 次

第１表　小林遺跡周辺の遺跡一覧 …… 11
第２表　遺構内出土土器観察表① …… 278
第３表　遺構内出土土器観察表② …… 279
第４表　遺構内出土土器観察表③ …… 280
第５表　遺構内出土土器観察表④ …… 281
第６表　遺構外出土土器観察表① …… 282
第７表　遺構外出土土器観察表② …… 283
第８表　遺構外出土土器観察表③ …… 284
第９表　遺構内出土製鉄関連遺物観察表① …… 285
第10表　遺構内出土製鉄関連遺物観察表② …… 286
第11表　遺構内出土製鉄関連遺物観察表③ …… 287

図版目次

巻頭図版１
　小林遺跡調査区（上が北）
巻頭図版２
　１　ＳＳ2000（南西から）
　２　ＳＩ1800（東から）
巻頭図版３
　１　ＳＢ5917（東から）
　２　ＳＷ3805・ＳＷ3806（北から）
図版１
　１　遺跡の遠景
　２　ＳＩ4300（西から）
　３　ＳＩ2550（西から）

図版２
　１　ＳＩ5839(西から)
　２　ＳＸ5838(西から)
　３　ＳＩ4000(南から)
図版３
　１　ＳＢ4071・ＳＢ5753(北から)
　２　ＳＫＰ687(南西から)
　３　ＳＳ3946(南から)
図版４
　１　ＳＳ２(南から)
　２　ＳＳ3947(北西から)
　３　ＳＷ１(南から)
図版５
　１　ＳＷ3831・ＳＷ3832(南東から)
　２　現地説明会風景１
　３　現地説明会風景２
図版６
　出土遺物①
図版７
　出土遺物②
図版８
　出土遺物③
図版９
　出土遺物④

付　　図

付図１　小林遺跡遺構配置図
付図２　柱穴様ピット配置図①
付図３　柱穴様ピット配置図②
付図４　柱穴様ピット配置図③
付図５　柱穴様ピット配置図④

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

日本海沿岸東北自動車道は、平成９年２月に新潟市～青森市までの全区間が路線の指定を受けている。秋田県におけるそれまでの路線名は、日本海沿岸東北自動車道象潟秋田線（象潟～秋田間）及び秋田琴丘線となっていた。小林遺跡に係る昭和琴丘間の20.7㎞については、平成３年12月に整備計画区間に決定され、平成５年12月の実施計画認可を経て平成６年11月に路線が発表された。

これを受けて秋田県教育委員会は、路線上の埋蔵文化財の確認のため平成８年の９・12月に分布調査を実施し、周知の遺跡３カ所、小林遺跡を含む新たに発見した遺跡16カ所の計19遺跡であることを確認し、いずれも確認調査が必要であるとの結果が出された。

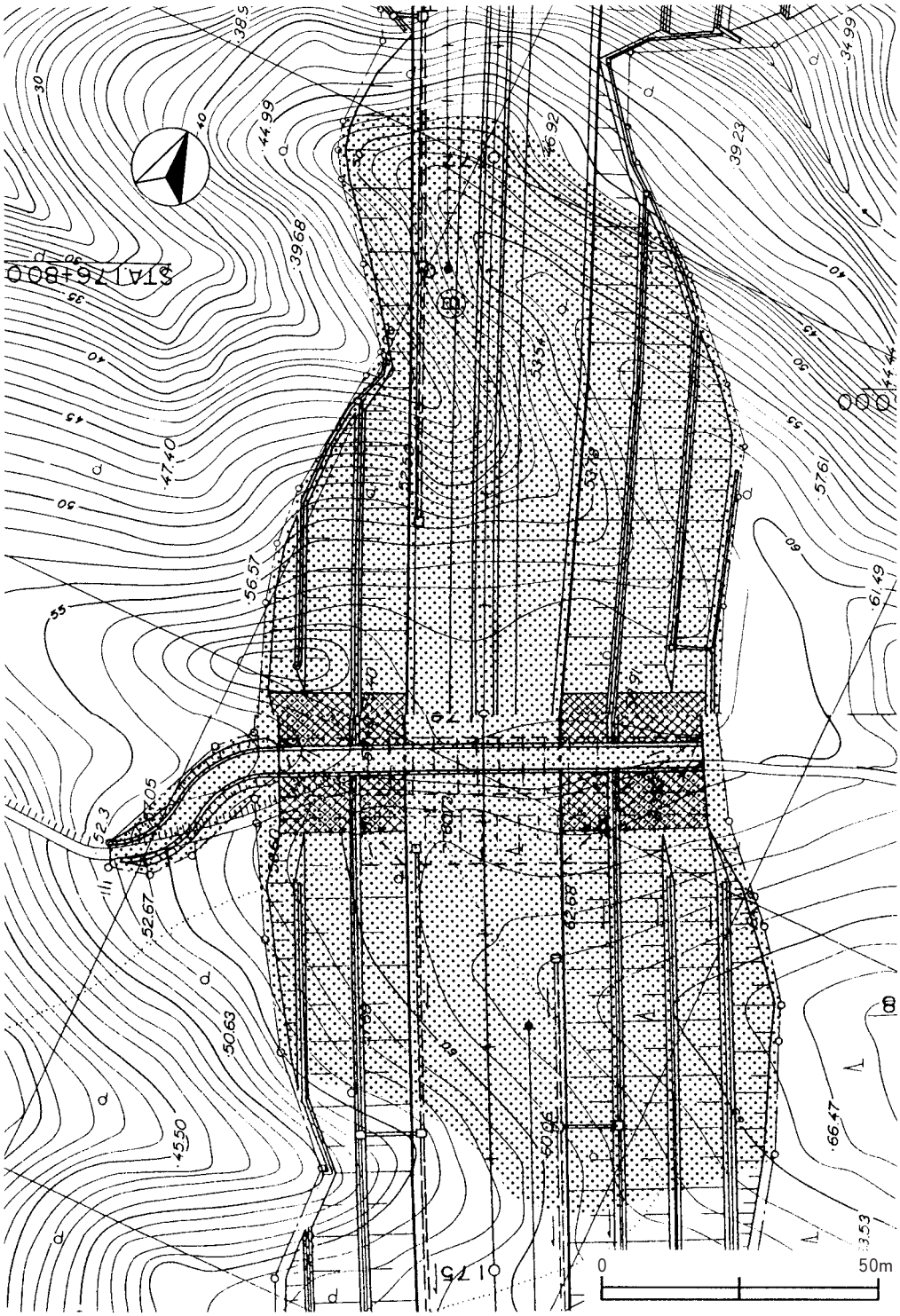
小林遺跡の確認調査は18,000㎡を対象として、平成10年10月から11月にかけて実施された。その結果、竪穴住居跡・土坑・柱穴などの遺構と、古代の土師器やフイゴの羽口、鉄滓等が多く出土し、平安時代における鍛冶関連の集落跡であることが予測された。なお、18,000㎡のうち南側の沢にあたる3,700㎡には遺構・遺物ともになく、本調査の対象範囲は14,300㎡となった。

第２節　調査要項

遺　跡　名　　小林遺跡
所　在　地　　秋田県山本郡琴丘町鯉川字小林39番地外
調 査 期 間　　平成12年４月24日～11月２日
調 査 目 的　　日本海沿岸東北自動車道建設事業
調 査 面 積　　14,300㎡
調査主体者　　秋田県教育委員会
調査担当者　　吉川　耕太郎（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　文化財主事）
　　大森　浩　　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　学芸主事）
　　藤田　賢哉　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　学芸主事）
　　太田　剛　　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　菊地　亮　　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　工藤　幸作　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　小澤　昌広　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　高橋　浩樹　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　播摩　芳紀　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　皆川　友紀子（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
　　森川　千春　（秋田県埋蔵文化財センター秋田中央分室　非常勤職員）
総務担当者　　成田　誠　　（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）

土橋　謙一　（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）
藤原　康悦　（秋田県埋蔵文化財センター総務課　副主幹）

調査協力機関　　日本道路公団東北支社秋田工事事務所　琴丘町教育委員会　五城目町教育委員会
八郎潟町教育委員会



第１図　小林遺跡調査範囲図

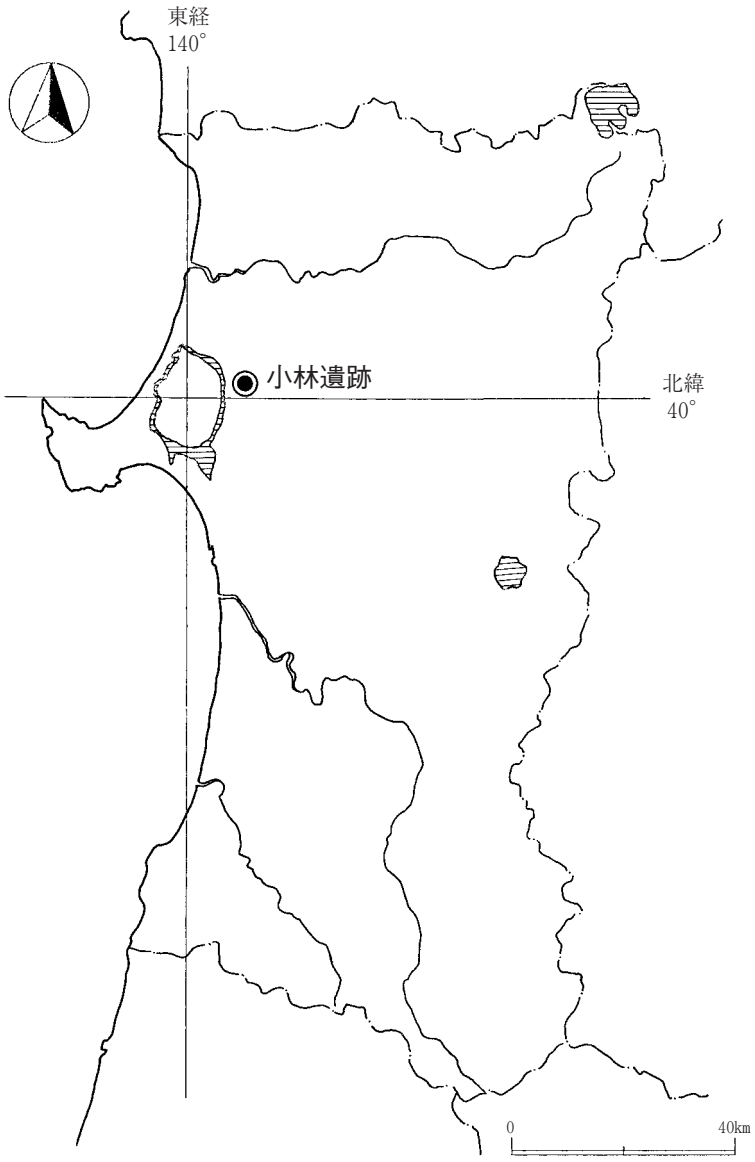
第2図　日本海沿岸東北自動車道と関連遺跡

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

小林遺跡はＪＲ奥羽本線鯉川駅から北東約２㎞の北緯40度00分12秒、東経140度５分33秒に位置する（第３図）。

遺跡の所在する秋田県山本郡琴丘町は、八郎潟残存湖の東部、出羽丘陵北西部にある（第４図）。町の西部、湖岸より約2.5㎞東では、標高90～200ｍの丘陵地が南北に走り、東側を北流する三種川上流の小又川と、この丘陵地を水源として西流し残存湖に注ぐ鯉川川、鹿渡川といった小河川の分水嶺を成す。湖岸では、北から鹿渡、鯉川、三倉鼻といった集落が湖岸のわずかな低地に沿って形成される。本遺跡は鯉川集落から東へ約１㎞、八郎潟残存湖岸から約1.5㎞東に位置する。



第３図　小林遺跡の位置

干拓以前の八郎湖は、陸繋島である男鹿半島を形成する二つの砂州と本州に囲まれた潟湖（ラグーン）であり、面積220.4ｋ㎡、最深4.7ｍであった。昭和32～42年における国の直轄事業「国営八郎潟干拓事業」により、現在の姿となっている。

遺跡周辺の地形は、山地、丘陵地、台地、低地に分けられる。『土地分類基本調査　五城目』『土地分類基本調査　森岳・羽後浜田』によると、三種川上流である小又川および鯉川川、鹿渡川の水源を発する丘陵地を鹿渡

丘陵地としている。鹿渡丘陵地では各河川により浸食を受け形成された谷底平野が発達するが、堤の構築及び水田化に伴う地形の改変が旧来から進んでいる。鹿渡丘陵地の南には森山(325.4m)、高岳山(221.4m)を中心とする森山高岳山山地が形成され、丘陵地から湖岸にかけて鹿渡台地、湖岸平野、干拓地がそれぞれ形成されている。森山高岳山山地の南では馬場目川水系による沖積低地及び干拓地が広がる。

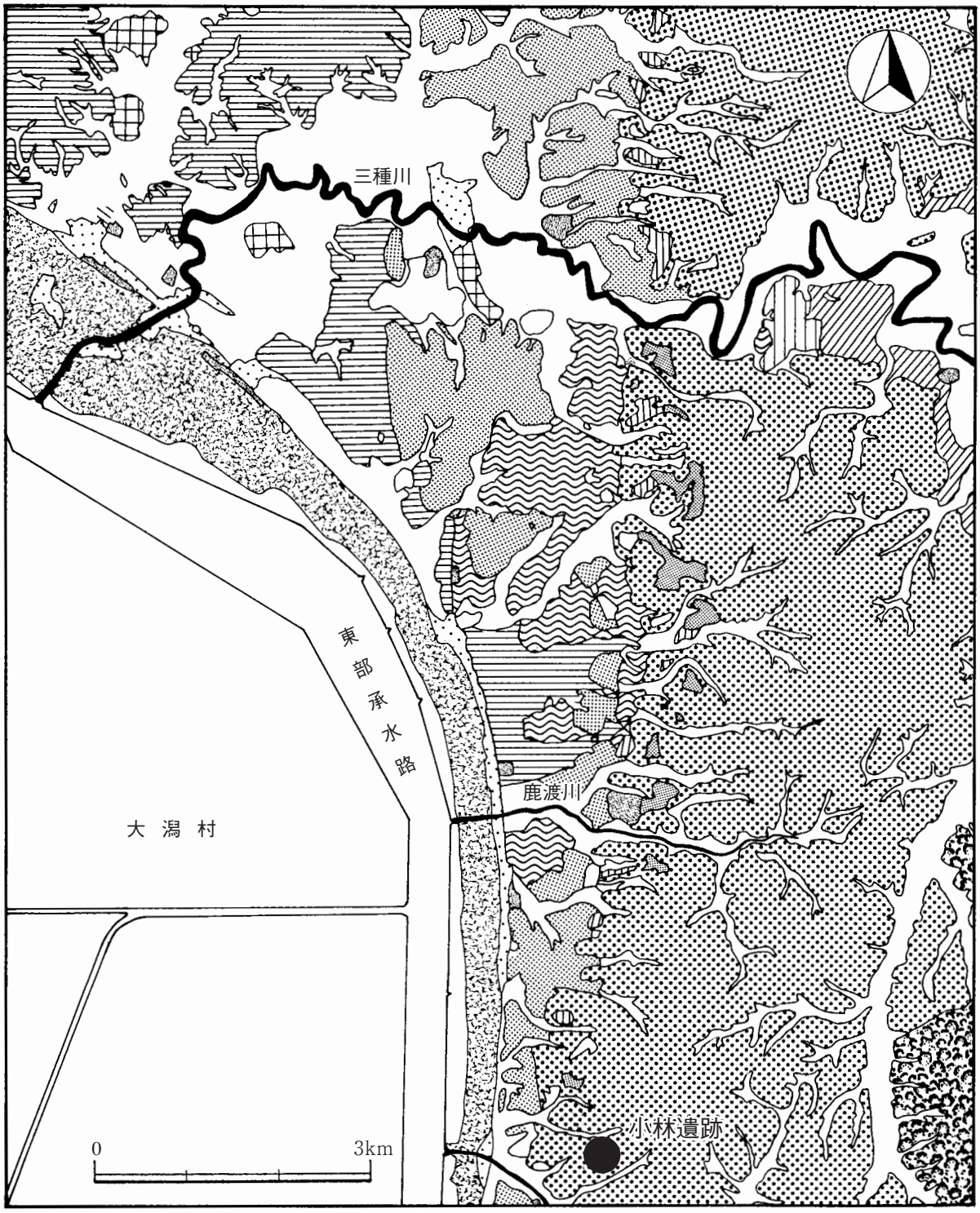
秋田県の地質は男鹿半島に分布する地層を対比の標準としている。遺跡周辺の地質は下位から新第三紀中新世の小谷沢層、女川層、船川層、天徳寺層、鮮新世の笹岡層、第四紀更新世の潟西層、段丘堆積物、完新世の段丘堆積物、沖積低地堆積物で構成されている。山地から湖岸に向かって地質時代の古い地層から若い地層が順に重なっているが、地層が褶曲しているため、南北の褶曲軸に沿って同一層が繰り返し露出している。このため湖岸に近い丘陵地の一部では、船川層の泥岩、女川層の珪質頁岩がみられる。また、鹿渡丘陵地、森山高岳山山地にそれぞれ火山岩類層がみられ、遺跡の南北にそれぞれ分布する。鹿渡丘陵地にみられる火山岩類は馬ノ松火山岩類と呼ばれており、岩種は石英安山岩、角閃石安山岩など多種にわたる。森山、高岳山では石英安山岩がみられる。

小林遺跡は、鯉川川水系により浸食を受ける鹿渡丘陵地、第四紀更新世に形成された潟西層の砂及び泥層上に立地する。遺跡の標高は58～62mである。

遺跡周辺の景観では、起伏の激しい丘陵地が多く稲作に適した沖積低地が非常に少ない。このため、畑作や八郎潟での水産業といった稲作以外の産業が古くから営まれ、地域の人々の暮らしを支えてきたことが現在の地形から推察される。

【参考文献】

秋田県　『土地分類基本調査　五城目』　1973(昭和48)年
秋田県　『土地分類　基本調査　森岳･羽後浜田』　1984(昭和59)年
秋田県教育委員会　『県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－家の下遺跡(１)－』　秋田県文化財調査報告書第256集　1995(平成７)年
秋田県教育委員会　『洲崎遺跡－県営ほ場整備事業(浜井川地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書303集　2000(平成12)年



丘陵地Ⅰ　丘陵地Ⅱ　山麓地と緩斜面
岩石段丘Ⅱ　岩石段丘Ⅰ＋　砂礫段丘Ⅰ
砂礫段丘Ⅱ　砂礫段丘Ⅲ＋　砂礫段丘Ⅲ
岩石段丘Ⅳ　谷底平野　砂堆
三角州と湖岸平野　人工改変地

第４図　小林遺跡周辺の地形

第２節　歴史的環境

琴丘町には、『秋田県遺跡地図（中央版）』によれば、縄文時代から中世まで多くの遺跡が発見されている。最近の当地域における大規模ほ場整備事業や道路建設事業に伴う発掘調査からは、旧石器時代から中世における遺跡数がさらに増加し、その調査結果から当地域における歴史の一端が明らかにされつつある（第５図・第１表）。

平成６年、長信田地区のほ場整備事業に伴い調査された家の下遺跡において、琴丘町では初めての旧石器時代の遺跡が確認された。遺跡は、下末吉面に相当すると考えられる森岳段丘面に立地しており、ナイフ形石器と台形様石器を主体とする石器群が検出され、県内でも珍しい環状ブロック群が確認された。平成11年、日本海沿岸東北自動車道建設事業に伴う堂の下遺跡（Ｄ）の調査では、基部加工形態のナイフ形石器と石刃が出土した。

縄文時代では、前期の狐森遺跡（18-10）がある。平成10年度にはほ場整備事業に伴い調査が行われ、また、平成10・11年度の２カ年にわたって日本海沿岸東北自動車道建設事業に伴う調査が、平成12年度には一般国道７号琴丘能代道路建設事業に伴う調査が行われている。ほ場整備事業に伴う調査では、縄文前期の円筒下層式土器のほかに中世の遺構が確認されている。さらに、日本海沿岸東北自動車道建設事業に伴う調査では円筒下層ａ式、同ｂ式の土器を主体とする捨て場が検出されている。平成10年に実施された日本海沿岸東北自動車道建設事業に伴う兵ヶ沢遺跡（18-8）の調査では、前期中葉の竪穴住居跡が検出された。後期前半では、家の下遺跡で多数のフラスコ状土坑が調査されている。堂の下遺跡からは、後期中頃の竪穴住居跡から細密な文様を施した石棒が見つかっている。晩期の遺跡には著名な高石野遺跡（18-7）がある。遺跡は、小林遺跡から北西約２㎞、標高20ｍ前後の台地上にあり、昭和57年の琴丘町教育委員会の調査では住居跡は検出されなかったものの、後期後半から晩期中頃までの土器が多数出土している。とくに晩期前半の大洞Ｂ、同ＢＣ式に伴う土製品が多く、中でも３点出土した海獣を模したと思われる土笛は町のシンボルにもなっている。

古代の遺跡では泉沢中台遺跡がある。平成６・７年にほ場整備事業に伴い発掘調査されたもので、10世紀の掘立柱建物跡、板塀跡等と共に製鉄関連遺構が４基検出されている。兵ヶ沢遺跡（18-8）の調査では、製鉄に関係すると考えられる炭窯が４基検出された。平成11年度に行われた一般国道７号琴丘能代道路建設事業に伴う盤若台遺跡（Ａ）の調査では、平安時代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡、製鉄炉等が確認された。また、北牛渕遺跡（18-11）や諏訪長根遺跡（18-13）でも土師器や須恵器が見つかっているが、発掘調査がなされていないため、詳細は不明である。

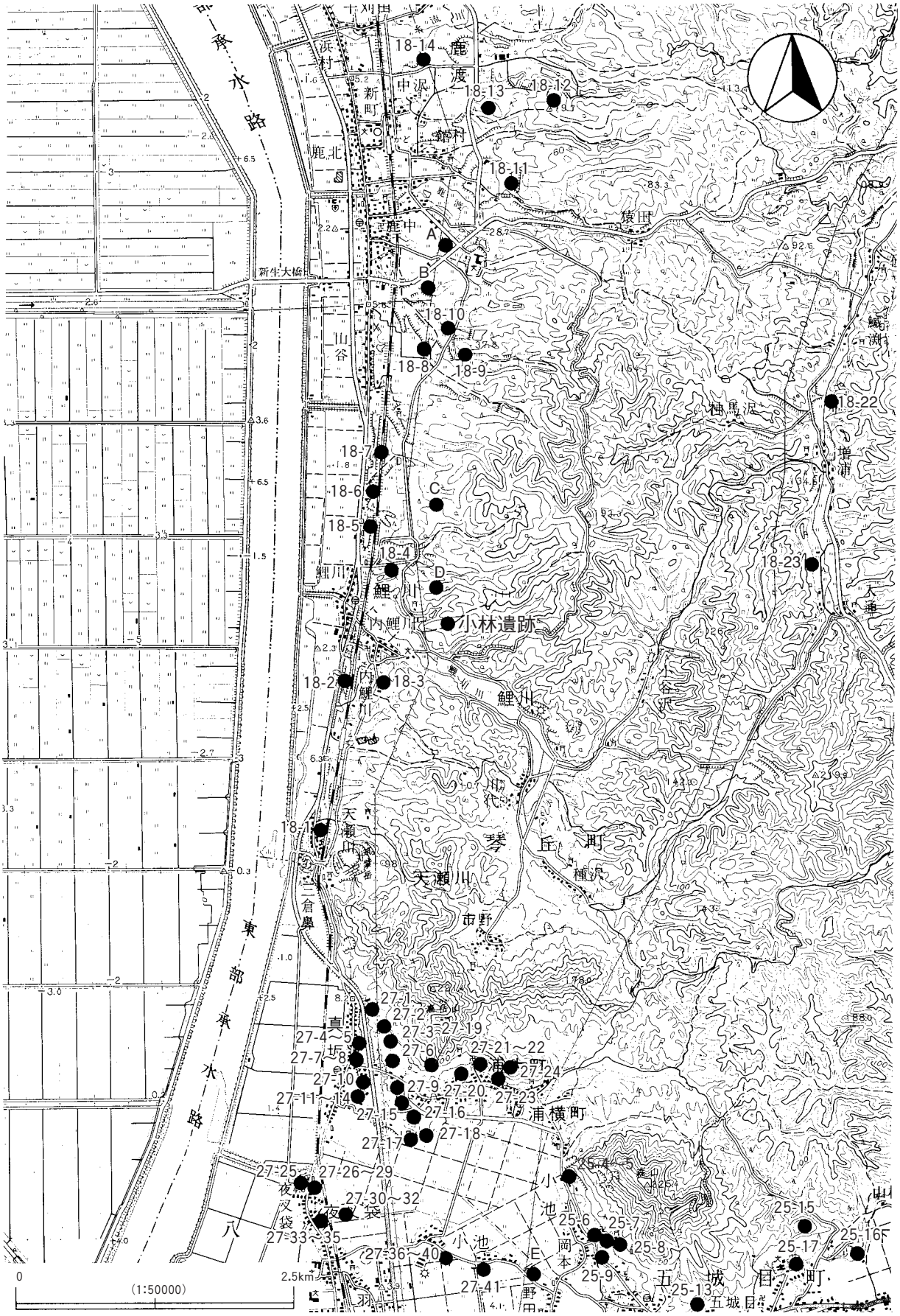
中世の遺跡では、平成10年度から３カ年計画で調査の行われた堂の下遺跡がある。小林遺跡とは谷を隔てた北側の丘陵にあり、遺跡の広がりは70,000㎡以上に及ぶ。平成10・11年度の調査では、13世紀の製鉄関連遺構や多数の鋳型が見つかっており、製鉄から鋳造まで行っていた大規模な生産遺跡であることが解明されている。主要地方道琴丘上小阿仁線高速交通関連整備事業に伴う盤若台遺跡（Ａ）の調査では、掘立柱建物跡、井戸、竪穴状遺構、土坑の他、鍛冶炉が検出されている。隣接する金仏遺跡（Ｂ）の調査でも同様に、製鉄関連の集落跡が見つかっている。また、盤若台遺跡では、地方有力者の墓とみなされる方形周溝墓が確認されている。 このほか、中世城館として館の越館（18-9）・古館城跡（18-12）・中野館（18-2）・信雄城跡（18-1）等があり、前２遺跡では空堀が確認されている。しかし、

城館に関する詳細な古記録類は皆無であり、また発掘調査が行われていないため詳しいことは不明である。『琴丘町史』には、「琴丘の地は安東氏の支配地であったことは間違いなく、言い伝えによると古館の領主国柄隼人は、湊安東氏の臣下であったようで、十六世紀の天文年間に桧山安東愛季と湊安東友季の間におこった湊合戦で、桧山安東氏に滅ぼされたという。琴丘町の現代にまでつながる地域の姿は、中世すなわち城館の時代にその礎がつくられたといってよい」と記されている。

琴丘町では旧石器時代から現代に至るまで、連綿と人々の営みを認めることができる。とくに、平安時代から中世にかけてこれまで様相が明らかではなかったが、1990年代に始まる一連の発掘調査により、この地域では製鉄関連遺跡が群として連なっており、盛んに製鉄が行われていたことが明らかになりつつある。製鉄が盛んであった理由の一つとして、鉄の原料となる砂鉄が基盤土層中に多く含まれており、容易に獲得できたことが挙げられよう。また、遺跡が沿岸に分布することは、海上交通の便を利用した交易もあったことを物語っていようか。このように、平安時代以降、砂鉄を原料とした製鉄が開始され、鉄製農耕具による沖積地の開発や鉄製品・鉄塊の流通などが活発に行われていたことが推測される。

【参考文献】

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図(中央版)』　1990(昭和59)年
秋田県教育委員会　『家の下遺跡(１)－県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第256集　1995(平成７)年
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第267集　1996(平成８)年
秋田県教育委員会　『家の下遺跡(２)　旧石器時代編－県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第275集　1998(平成10)年
秋田県教育委員会　『泉沢中台遺跡－県営ほ場整備事業(琴丘地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』　秋田県文化財調査報告書第276集　1998(平成10)年
秋田県教育委員会　『兵ヶ沢遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第296集　2000(平成12)年
秋田県教育委員会　『一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る発掘調査報告書Ⅷ－盤若台遺跡－』　秋田県文化財調査報告書第319集　2001(平成13)年
秋田県教育委員会　『盤若台遺跡－主要地方道琴丘上小阿仁線高速交通関連整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第331集　2001(平成13)年
秋田県教育委員会　『金仏遺跡－一般国道７号琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ－』　秋田県文化財調査報告書第333集　2002(平成14)年
秋田県教育委員会　『狐森遺跡－一般国道琴丘能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ－』　秋田県文化財調査報告書第345集　2002(平成14)年
秋田県教育委員会　『小林遺跡Ⅰ　縄文時代編－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅣ－』　秋田県文化財調査報告書第344集　2003(平成15)年
秋田県教育委員会　『堂の下遺跡Ⅰ　旧石器時代～弥生時代篇－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ－』　秋田県文化財調査報告書第356集　2003(平成15)年
琴丘町史編さん委員会　『琴丘町史』　琴丘町　1990(平成２)年



第５図　小林遺跡周辺の遺跡分布

番号	遺　跡　名	所　　在　　地	種　別	現　状	遺　　構　・　遺　　物
18－１	信雄館	琴丘町天瀬川字永の目53	館跡	畑地	
18－２	中野館	琴丘町鯉川字中野1-1	館跡	畑地･山林	空堀、段築
18－３	小野台	琴丘町鯉川字小野台35外	遺物包含地	畑地･宅地	縄文土器片
18－４	真山野	琴丘町鯉川字真山野7-3	遺物包含地	水田	縄文土器片
18－５	陣場野	琴丘町鯉川字陣場野33	遺物包含地	畑地	縄文土器片
18－６	鯉川高石野	琴丘町鯉川字高石野	遺物包含地	山林	
18－７	高石野	琴丘町鹿渡字高石野114	遺物包含地	畑地･山林	土壙、竪穴状遺構、縄文土器(中期～晩期)、土製品、石器
18－８	兵ヶ沢	琴丘町鹿渡字兵ヶ沢48	遺物包含地	畑地	石器
18－９	館の越館	琴丘町鹿渡字狐森20外	館跡	原野	空堀
18-10	狐森	琴丘町鹿渡字狐森29-1	遺物包含地	畑地･山林	縄文土器片、石器
18-11	北牛渕	琴丘町鹿渡字北牛渕27-1	遺物包含地	原野	縄文土器片
18-12	古館城跡	琴丘町鹿渡字諏訪長根65	館跡	山林	空堀、段築、井戸
18-13	諏訪長根	琴丘町鹿渡字諏訪長根79	遺物包含地	畑地･山林	縄文土器片、須恵器片、石器
18-14	鬼沢口	琴丘町鹿渡字鬼沢口184	遺物包含地	畑地	縄文土器片、石器
18-15	宝竜前	琴丘町鹿渡字宝竜前36	遺物包含地	水田･畑地	住居跡、フラスコ状土坑、縄文土器片(晩期)、石器
18-22	増浦	琴丘町上岩川字増浦341	遺物包含地	水田	
18-23	西増浦	琴丘町上岩川字西増浦2-30	遺物包含地	水田	
25－４	三石阿弥陀三尊塔	五城目町小池字森山下107-7	信仰碑	原野	種字、百ヶ日観音(サ)、勢至(サク)元文２年６月
25－５	東谷寺跡	五城目町小池字森山下3	寺院跡	原野･山林	石造物
25－６	板碑	五城目町小池字森山下68	板碑	墓地	種字、青面金剛(キシャ)
25－７	岡本城	五城目町小池字森山下83外	館跡	山林･畑地	
25－８	板碑	五城目町小池字森山下76	板碑	山林	種字、金剛大日(バン)貞治５年
25－９	岡本	五城目町小池字森山下88-45外	遺物包含地	宅地･畑地	竪穴住居跡、縄文土器(後期･晩期)、土偶、石器
25-13	神明前	五城目町字神明前18外	遺物包含地	畑地･山林	縄文土器片(中期･後期)
25-15	砂沢城	五城目町字羽黒前38外	館跡	公園	
25-16	杉ヶ崎	五城目町杉ヶ崎25-2外	遺物包含地	墓地公園	縄文土器片(中期、後期、晩期)
25-17	砂沢窯跡	五城目町字羽黒前26	窯跡	学校地	登窯、陶器片
27－１	大沢Ⅰ	八郎潟町真坂字大沢83-１外	遺物包含地	畑地	縄文土器片、石器
27－２	大沢Ⅱ	八郎潟町真坂字大沢119-1外	遺物包含地	畑地	石器
27－３	石塚Ⅰ	八郎潟町真坂字石塚55-２外	遺物包含地	畑地	縄文土器片、石器
27－４	大沢碑Ⅰ	八郎潟町真坂字大沢88	板碑	原野	判読不明自然石
27－５	大沢碑Ⅱ	八郎潟町真坂字大沢65外	板碑	原野	判読不明自然石
27－６	石塚Ⅱ	八郎潟町真坂字石塚179	遺物包含地	畑地	縄文土器片、石器
27－７	石塚延文2年碑	八郎潟町真坂字石塚	板碑	墓地	碑(願以比功徳)
27－８	石塚塔	八郎潟町真坂字石塚179	五輪塔	墓地	塔身
27－９	沢田Ⅰ	八郎潟町真坂字沢田43外	遺物包含地	畑地	縄文土器片(中期)、土製品、石器、石製品
27-10	沢田Ⅱ	八郎潟町真坂字沢田63外	遺物包含地	畑地	石器
27-11	沢田貞和2年碑	八郎潟町真坂字沢田63	板碑	畑地	碑
27-12	沢田碑Ⅰ	八郎潟町真坂字沢田63	板碑	畑地	碑
27-13	沢田碑Ⅱ	八郎潟町真坂字沢田63	板碑	畑地	碑
27-14	沢田碑Ⅲ	八郎潟町真坂字沢田63	板碑	畑地	碑
27-15	沢田Ⅲ	八郎潟町真坂字沢田106-1外	遺物包含地	畑地	石皿、石棒、石器
27-16	鳥屋崎	八郎潟町浦大町字鳥屋崎60外	遺物包含地	畑地	石器
27-17	寒ノ神石Ⅰ	八郎潟町浦大町字寒ノ神93外	遺物包含地	畑地･松林	石鏃、石匙、石皿
27-18	寒ノ神石Ⅱ	八郎潟町浦大町字寒ノ神58外	遺物包含地	畑地	縄文土器片、石器、鉄滓
27-19	善知鳥坂塔	八郎潟町浦大町字善知鳥26-3	五輪塔	山林	塔身
27-20	豊坂碑	八郎潟町浦大町字豊坂36	板碑	畑地	碑
27-21	里ヶ久塔Ⅰ	八郎潟町浦大町字里ヶ久52	宝篋印塔	墓地	基礎、応永５年銘有・笠
27-22	里ヶ久塔Ⅱ	八郎潟町浦大町字里ヶ久52	五輪塔	墓地	基礎、塔身、笠
27-23	里ヶ久塔Ⅲ	八郎潟町浦大町字里ヶ久19	宝篋印塔	墓地	塔　基礎、反花付壇上積式
27-24	浦城	八郎潟町浦大町字里ヶ久38	館跡	山林・原野	青磁、黄瀬戸、志野･明染付･越前系陶片
27-25	後谷地貞和5年碑	八郎潟町夜叉袋字後谷地88	板碑	墓地	碑
27-26	一向堂碑Ⅰ	八郎潟町夜叉袋字一向堂17	板碑	境内	碑
27-27	一向堂碑Ⅱ	八郎潟町夜叉袋字一向堂17	板碑	境内	碑
27-28	一向堂碑Ⅲ	八郎潟町夜叉袋字一向堂17	板碑	境内	碑
27-29	一向堂碑Ⅳ	八郎潟町夜叉袋字一向堂17	板碑	境内	碑
27-30	川原崎碑Ⅰ	八郎潟町夜叉袋字川原崎82	板碑	墓地	碑
27-31	川原崎文和2年碑	八郎潟町夜叉袋字川原崎82	板碑	墓地	碑
27-32	川原崎文和4年碑	八郎潟町夜叉袋字川原崎82	板碑	墓地	碑
27-33	地蔵畑貞和5年碑	八郎潟町夜叉袋字一向堂42-1	板碑	宅地	碑
27-34	地蔵畑貞和碑	八郎潟町夜叉袋字一向堂42-1	板碑	宅地	碑
27-35	地蔵畑碑Ⅰ	八郎潟町夜叉袋字一向堂42-1	板碑	宅地	碑
27-36	中島碑Ⅰ	八郎潟町小池字中島144	板碑	境ノ内	碑
27-37	中島碑Ⅱ	八郎潟町小池字中島144	板碑	境ノ内	碑
27-38	中島碑Ⅲ	八郎潟町小池字中島144	板碑	境ノ内	碑
27-39	中島碑Ⅳ	八郎潟町小池字中島144	板碑	境ノ内	碑
27-40	中島碑Ⅴ	八郎潟町小池字中島144	板碑	境ノ内	碑
27-41	萱戸家碑群	八郎潟町小池字萱戸家27-1	板碑	原野	種字、紀年の確認できるもの約20基
A	盤若台	琴丘町鹿渡字盤若台121	集落跡		縄文中・後期、古代、中世
B	金仏	琴丘町鹿渡字金仏31	集落跡		縄文前・中期、古代
C	中陣場	琴丘町鯉川字中陣場	散布地		鉄滓
D	堂の下	琴丘町鯉川字堂の下72	製鉄鋳造跡		旧石器～弥生、中世
E	北	五城目町野田字北38外	集落跡		縄文、平安、中世

第１表　小林遺跡周辺の遺跡一覧

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

小林遺跡は前章で述べたように、鯉川川に浸食された標高60ｍ前後の丘陵地上に位置し、調査区の北縁と南縁は沢により隔てられている。また、調査区内の北側には北西から南東方向に沢が入り込んでいる。この沢より南側の平坦面に平安時代を中心とする遺構・遺物がもっとも多く検出された。平坦面は調査範囲をこえて東西に延びていることから、遺跡範囲はより東西に広がると考えられる。

平安時代の遺構・遺物は、北側の沢を除く調査区のほぼ全面にわたって検出されたが、北側の尾根では平安時代の遺構が希薄となる一方、中世の地下式炭窯が検出された。

第２節　基本土層

遺跡の基本土層は、調査区を縦貫する計画路線のセンター杭を結ぶラインで以下の通り観察された。

第Ⅰ層　10YR3/3。調査区全体を覆う現地表土。縄文時代・平安時代の遺物を若干包含する。層厚は10～50cm。

第Ⅱ層　7.5YR3/2。調査区において断続的な堆積を示す。とくに中央の平坦部付近にはみられない。縄文時代・平安時代の遺物を若干包含する。層厚は５～20cm。

第Ⅲ層　10YR3/4。風化・砂質化した小礫や白色粒子を微量含む。とくに中央部付近において、縄文土器・石器・土師器・鉄滓を非常に多く包含する。層厚は10～30cm。

第Ⅳ層　7.5YR5/6。漸移層。調査区の南北尾根上では堆積が認められなかった。縄文時代・平安時代の遺物を若干包含する。層厚は10～20cm。

第Ⅴ層　7.5YR6/6。地山層。調査区中央平坦部以南ではしまり・粘性ともに強い粘質土であるが、調査区北側の谷落ち際より以北では砂質土に漸移的に変化する。砂質土中には砂鉄が含まれている。

調査区中央の平坦面は当初、人為的に造成されたものかと予測されたが、土層観察の結果、自然の地形であることが判明した。第７図にみるように南北の谷落ち際までの堆積は層厚が一定で、水平な堆積を示している。また、十和田ａ火山灰等は検出されなかった。

北側の谷部では第８図に示す土層が観察された。黄褐色土と暗褐色土の互層堆積は、数度にわたる土砂崩れが過去にあったことを示している。

第３節　調査の方法

１　調査区の設定

計画路線の基準杭STA.NO176+00中心杭を原点(MA50)とし、この原点から真北方向に基準点を選定し、この基準点に直行する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。グリッド杭には東から西に向かって東西方

向を示す・・・LS・LT・MA・MB・・・というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す・・・48・49・50・51・・・の２桁の数字を組み合わせた記号を記入し、各グリッド杭に両者を組み合わせ、グリッド呼称は南東隅の記号(MA50等)を用いた。

調査対象全域にグリッドを設定することにより、計画的な調査と同時に遺構の平面的位置の把握に努めた。

２　発掘方法及び記録作成

調査は確認調査の結果に基づき、表土除去は重機を用いて行い、その後にグリッド杭打設を行った。遺構の確認はⅣ～Ⅴ層上面を中心とし、一部Ⅲ層上面で行った。遺物は、層位毎に取り上げを行った。

＜遺構の記録＞検出された遺構は、図面と写真により記録を行った。図面に用いた縮尺は１／20を基本とし、遺物の微細図は１／10とした。半裁により遺構内部に堆積した覆土の土層を観察・記録し、平面実測図を作成するという手順をとった。柱穴様ピットについては、半裁後に土層注記を行い、完掘平面図はトータルステーション及び空中写真測量により作成した。地下式炭窯の完掘平面図は、トータルステーションで測量し、断面図と合成した。遺構番号は、確認毎に１から通し番号を付した。

＜遺物の取り上げ＞遺物は、遺跡名・出土グリッドもしくは遺構名・遺物番号・出土年月日を記入した袋に入れ、取り上げた。遺構外のものは層位毎にグリッド一括で取り上げ、遺構内のものは遺構内一括もしくは遺物番号を付して分布図・微細図を作成し、取り上げた。

＜写真の撮影＞記録のため撮影した写真は、35㎜判モノクロ・リバーサルをそれぞれ使い分けながら撮影した。

３　遺物整理の方法

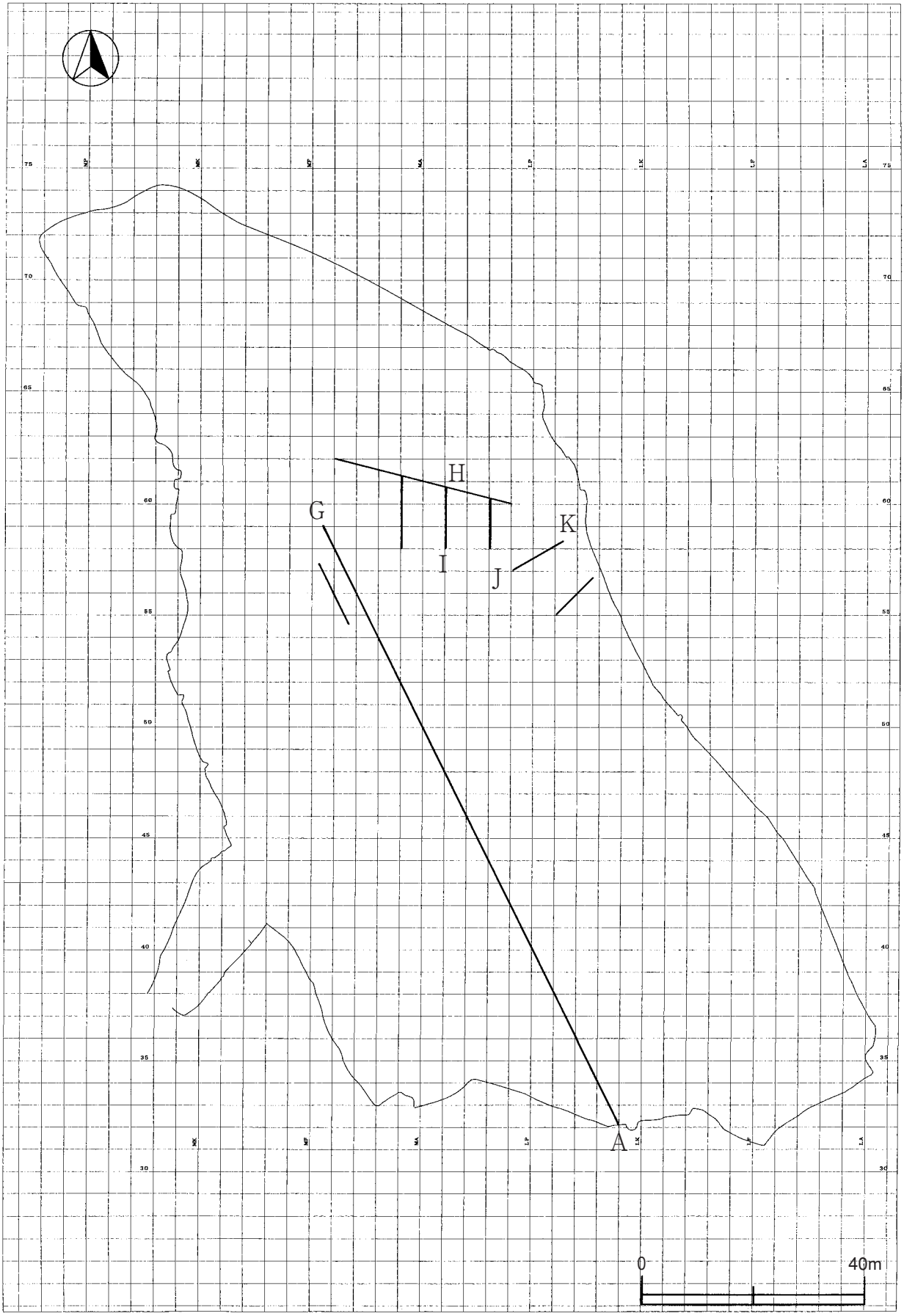
＜遺物の整理＞平安時代に帰属する遺物では土器と土製品、石製品、鉄製品、鉄滓等が出土した。これらの遺物を洗浄・分類し、接合作業、実測、写真撮影を行った。また、製鉄関連遺物を除く遺物には遺構名・グリッド名・層位・出土年月日を註記し、代表的な製鉄関連遺物には個票を付した。

＜土器・石製品・鉄製品・鉄滓の実測図作成＞ある程度復元された土器は図を作成し、必要に応じて土師器坏外底面や須恵器内外面の拓影を採った。遺物はすべて１／１で図化した。

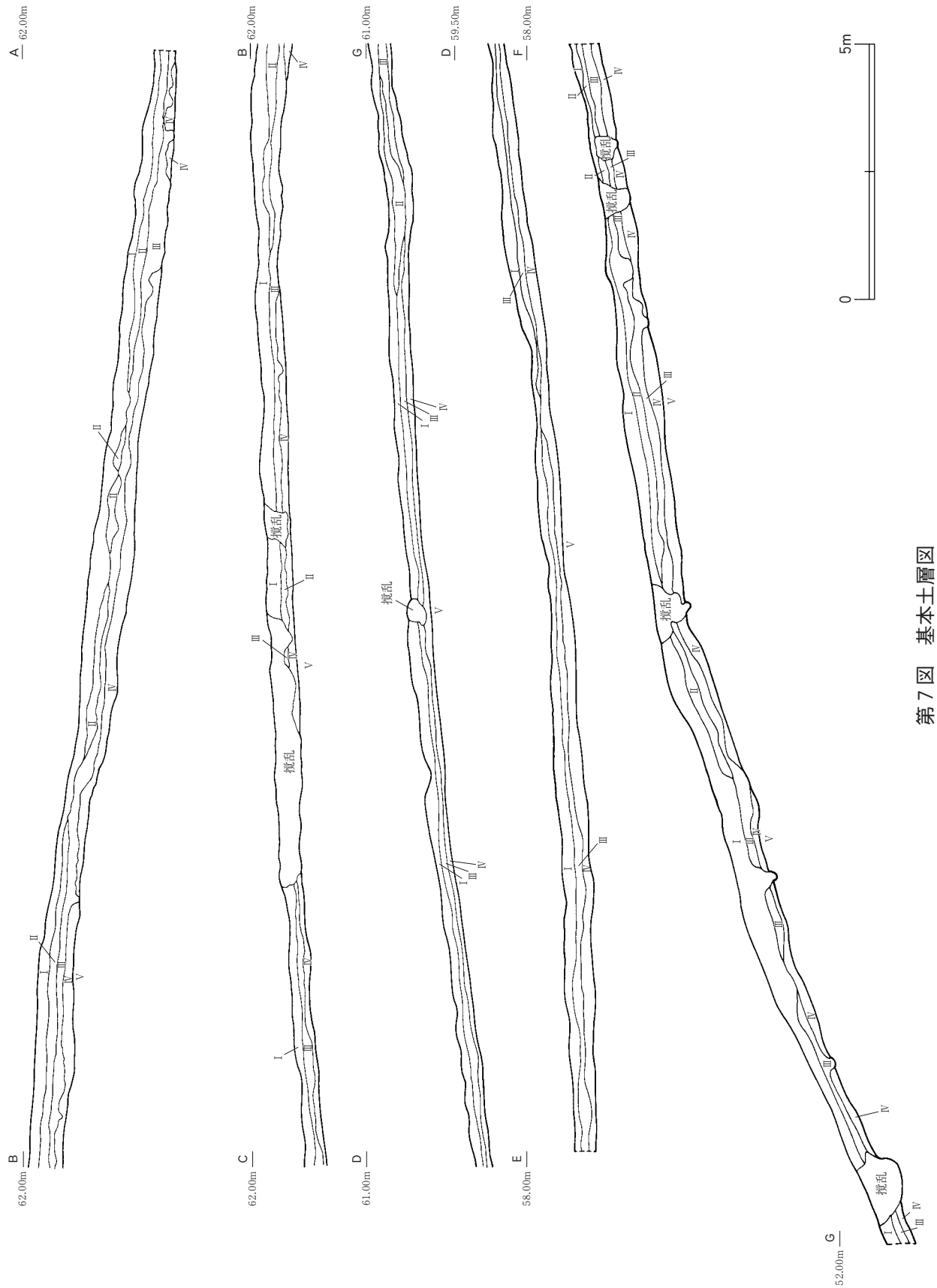
＜製鉄関連遺構と遺物の整理＞任意に選択した遺構のメッシュ・土壌サンプルに関しては、洗浄後、フルイがけにより１㎝以上と１㎝未満に分け、次の流れで整理作業を進めた。

１㎝以上：肉眼による一次分類(鉄滓類・土壁類)→磁着・特殊金属探知器による二次分類(金属反応あり・金属反応なし)→肉眼・磁着による三次分類(鉄塊系遺物・炉底塊・炉内滓・鍛冶滓・流動滓・その他鉄滓・鉄製品等)→計量→構成図作成のための四次分類→実測・写真撮影

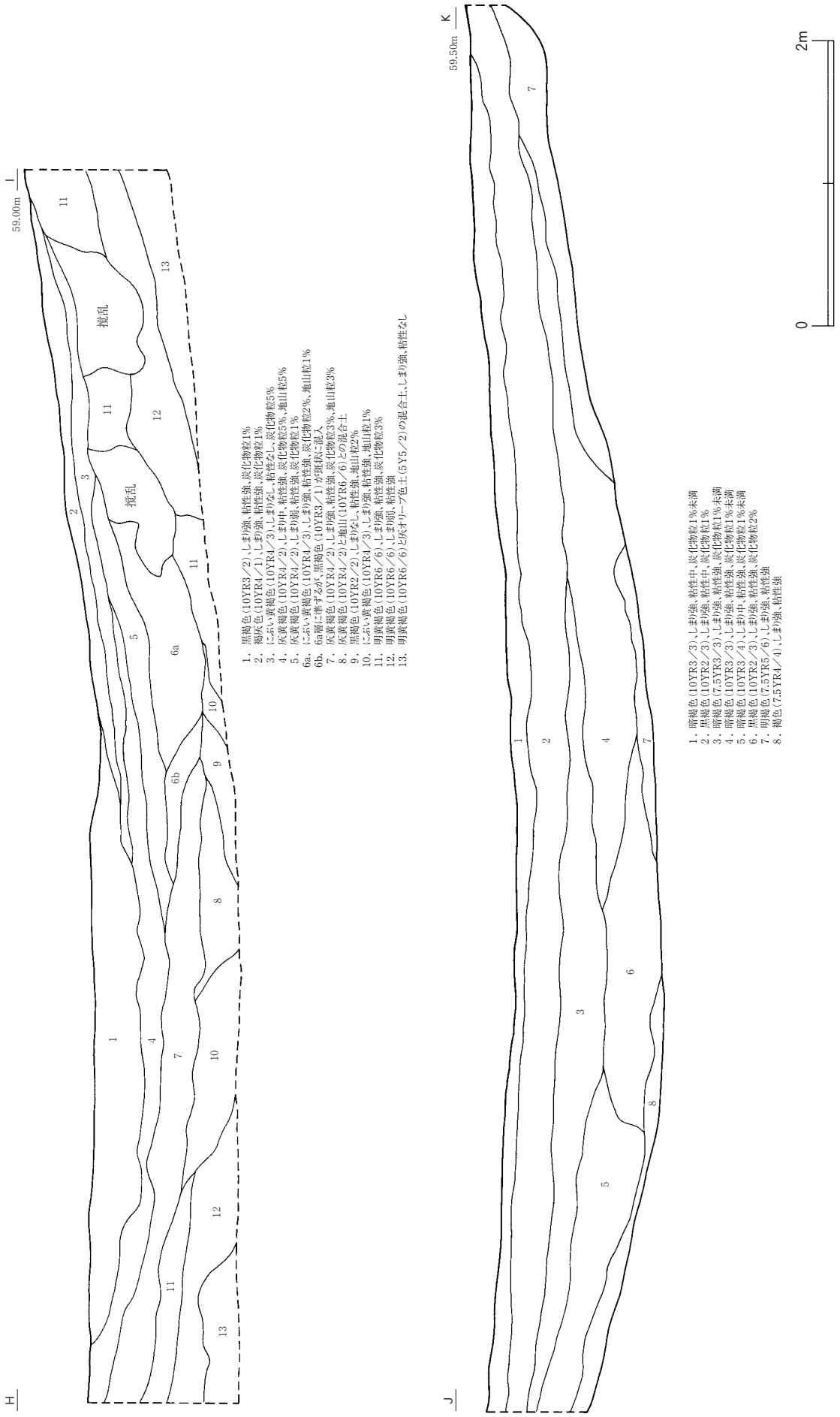
１㎝未満：磁着による一次分類(磁着あり・磁着なし)→フルイ(0.8㎜／2.0㎜／4.0㎜)による二次分類→肉眼による三次分類(鉄滓類・鍛造剥片・粒状滓・砂鉄・残砂等)→計量



第６図　基本土層観察用トレンチ位置図


A 62.00m
B 62.00m
G 61.00m
D 59.50m
F 58.00m
0
5m
撹乱
B 62.00m
C 62.00m
D 61.00m
E 58.00m
G 52.00m

第７図　基本土層図



第８図　北側谷部土層断面

＊発掘調査の経過

平成12年	調　査　状　況	特　記　事　項
４月24～28日	調査前風景の写真撮影。重機による表土除去。調査区南側から土坑・焼土遺構・柱穴様ピットの検出、調査。	水準測量業者・コンテナハウス等のリース業者に対する現地説明を行う。
５月１～12日	重機による表土除去。遺構の検出・調査。大井総合技術によるグリッド杭打設。	五城目町・八郎潟町作業員に対する説明会。コンテナハウスの設置。
５月15～19日	発掘器材の搬入。重機による表土除去。遺構の検出・調査。調査区南東隅で竪穴住居跡を１軒検出。	作業員を入れて本格的な調査を始める。
５月22～26日	遺構の検出・調査。調査区北西側の谷部から尾根部にかけて精査。	ベルトコンベア等リース品の搬入。
５月29～６月２日	調査区南側の基本土層図作成。	
６月５～９日	調査区南側斜面で大形の柱穴列を検出。縄文時代の陥し穴状土坑・フラスコ状土坑を検出。	
６月12～16日	調査区南側の調査。	
６月19～23日	調査区南側の調査。旧石器時代の試掘坑を設定し、調査。	
６月26～30日	調査区南側・中央部の調査。グリッド37ライン以南の空撮を行い、公団に引き渡す。	
７月３～７日	調査区南側・中央部の調査。南側尾根上で竪穴住居跡を１軒検出。調査区中央部で焼土遺構をまとまって検出。	
７月10～14日	調査区南側の尾根上で縄文時代の竪穴住居跡１軒、製鉄炉１基を検出。	埋蔵文化財センター秋田中央分室の臨時職員が見学のため来跡。
７月17～21日	調査区中央部東側で製鉄炉１基検出。	穴澤義功氏、調査指導のため来跡。
７月24～28日	調査区南側・中央部の調査。	
７月31～８月４日	グリッド37～40ラインの空撮を行い、公団に引き渡す。	調査に並行して鍛冶炉サンプル洗浄を開始する。
８月７～11日	調査区南側で粘土採掘坑と思われる土坑を検出。調査区中央部の焼土遺構より刻文の施された土師器が出土。	盆休み前の安全対策・環境整備を行う。
８月14～18日	盆休み	
８月21～25日	調査区中央部の焼土遺構から土製勾玉が出土。同中央部で竪穴住居跡３軒検出。	
８月28～９月１日	調査区北側の調査に着手。調査区北側の尾根西斜面で中世の地下式炭窯４基検出。グリッド40～45ラインの空撮を行い、一部公団に引き渡す。	穴澤義功氏、調査指導のため来跡。
９月４日～８日	調査区中央部西側で粘土採掘坑の可能性がある土坑を２基検出。	
９月11～14日	調査区北・南・中央部の調査。	
９月18～22日	調査区北・南・中央部の調査。	
９月25～29日	調査区南側の調査終了。	穴澤義功氏、調査指導のため来跡。
９月30日		現地説明会。
10月２～６日	旧石器時代の試掘坑を設定し、調査。	
10月10～13日	グリッド45～48ラインの空撮を行い、48ライン以南を公団に引き渡す。	
10月16～20日	八郎潟東部承水路から遺跡遠景写真撮影。	
10月23～27日	調査区北側・中央部の調査終了。グリッド48ライン以北の範囲の空撮。	
10月30～11月２日	調査区北側谷部の調査終了。公団立ち会いのもと現場引き渡す。現場の撤収。	

第４章　調査の記録

調査で検出した遺構は、竪穴住居跡11軒、竪穴状遺構４基、掘立柱建物跡33棟、柱穴様ピット5,089基、土坑235基、溝跡46条、焼土遺構56基、性格不明遺構８基、製鉄炉3基、鍛冶炉15基、炭窯16基、地下式炭窯4基の計5,520基である。これらの遺構は調査区全体にかけて第Ⅲ層上面～Ⅴ層上面で検出された。遺物は、平安時代の土師器・須恵器・石製品、その他鉄製品・鉄滓等が、第Ⅰ～Ⅴ層及び遺構覆土中から出土した。なお、縄文時代の遺構・遺物については平成14年度に報告してある。

第１節　平安時代の検出遺構と出土遺物

１　竪穴住居跡(第９図)

ＳＩ86(第15図)

ＬＤ34・ＬＥ34グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ712・ＳＤ713に切られている。北西側の壁は失われていた。平面形は、長軸(NE-SW)1.98m×短軸(NW-SE)1.94m(残存値)の推定隅丸方形を呈し、確認面からの深さは0.09mである。床面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は８層に分けられる。

焼土が住居内の南東寄りに検出された。掘り方は径0.6mの略円形で床面からの深さは0.08mである。地床炉の可能性がある。柱穴は検出されなかった。

遺物は、土師器坏(口縁部５点42.9g・体部60点231.1g・底部２点30.6g)、土師器甕(胴部28点581.4g・底部３点49.8g)、粘土塊(破片４点27.3g)、被熱礫(破片29点5053.7g)、礫(破片13点1312.0g)、焼土塊(１点354.0g)が出土した(第97図１・２)。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦880年、１σ年代幅西暦805－890年(88.8%)という値を得た。

ＳＩ1800(第16・17図、巻頭図版２－２)

ＬＲ40・ＬＲ41・ＬＳ40・ＬＳ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1908・ＳＤ374・ＳＫＰ3374・ＳＫＰ3398に切られている。平面形は、長軸(N-S)4.96m×短軸(E-W)4.2mの方形を呈し、確認面からの深さは0.12mである。床面は平坦で壁面は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

カマドは南西部で検出された。袖部が若干残っていたが木の根による撹乱が著しい。幅0.18～0.22m・深さ0.08～0.15mの壁溝が北壁と東壁から南壁にかけてめぐっている。また、径0.14～0.42m・深さ0.11～0.16mの柱穴が26基穿たれている。カマド北西側で長軸(N-S)0.92m×短軸(E-W)0.82m、床面からの深さ0.19mの土坑(ＳＫ01)とそれに重なるように焼土遺構(ＳＮ01)が検出された。

東側中央では長軸(N-S)0.54m×短軸(E-W)0.42m、床面からの深さ0.16cmの鍛冶炉(ＳＳ01)が検出された。また、その南側に長軸(NE-SW)0.66m×短軸(NW-SE)0.40m、床面からの深さ0.10mの土坑(ＳＫ02)が検出され、さらにその西側に鉄床石が検出された。これらは鍛冶作業に関わるものとしてセット関係で捉えられる。

遺物は、須恵器甕(胴部５点239.4g)、土師器坏(口縁部35点173.1g・体部37点402.9g・底部64点

591.7g)、土師器甕(口縁部18点1511.6g・胴部192点4225.3g・底部９点578.3g)、土錘(破片１点20.8g)、羽口(破片３点12.1g)、粘土塊(破片４点42.5g)、被熱礫(破片８点47.1g)、礫(破片１点33.7g)、鉄床石・鍛冶滓・鍛造剥片・炭化穀物が出土した(第97図３～15)。なお、製鉄関連遺物(第156～159図)に関する分析は本章第２節で述べる。

ＳＩ2550(第18図、図版１－３)

ＭＣ42・ＭＣ43・ＭＤ42・ＭＤ43グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫ3440・ＳＫＰ336・ＳＫＰ337・ＳＫＰ2697・ＳＫＰ3696に切られ、ＳＤ2241・ＳＤ2243を切っている。平面形は、長軸(N-S)3.38ｍ×短軸(E-W)3.22ｍの正方形に近い隅丸方形を呈し、確認面からの深さは0.31ｍである。南半分の床面には貼り床が認められ、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

カマドと考えられる焼成面が住居南東部において検出されたが煙道はみられなかった。北西側には長軸(NW-SE)0.70ｍ×短軸(NE-SW)0.64ｍの略長方形を呈する土坑(ＳＫ01)が検出された。壁溝は幅0.11～0.14ｍ・深さ0.08～0.12ｍで、東壁と南壁で検出された。また、径0.14～0.38ｍ・深さ0.11～0.24ｍの柱穴が20基穿たれている。

遺物は、青磁碗(口縁部１点6.5g)、須恵器甕(口縁部１点16.9g・胴部３点179.9g)、土師器坏(口縁部32点128.8g・体部228点420.0g・底部19点180.5g)、土師器甕(口縁部15点225.9g・胴部248点2196.8g・底部３点44.1g)、土錘(破片１点13.1g)、粘土塊(破片17点39.3g)、被熱礫(破片８点506.0g)、礫(破片11点242.5g)が出土した(第98図１～10)。

ＳＩ2891(第19図)

ＬＮ40・ＬＯ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＷ2873・ＳＫ3134・ＳＫ3178・ＳＫ3201に切られている。平面形は一辺約4.5ｍの正方形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。床面はほぼ平坦で、壁は東側のみ残存していたが、垂直に立ち上がる。覆土は１層である。

カマドは検出されなかったが、住居南東隅に焼成面が認められた。径0.16～0.32ｍ・深さ0.08～0.40ｍの柱穴が20基穿たれていた。本住居跡はカマドの反対側に掘立柱建物跡(ＳＢ2776)を伴う(註１)。

遺物は、土師器坏(体部２点9.2g)、土師器甕(胴部７点46.4g)、被熱礫(破片１点158.6g)が出土した。

ＳＩ4000(第20図、図版２－３)

ＭＦ52・ＭＦ53・ＭＧ52・ＭＧ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)4.63ｍ(残存値)×短軸(E-W)3.95ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。床面はやや凹凸があり、壁は垂直に立ち上がる。

中央部には、炉跡と考えられる浅い掘り込みをもつ焼成面が確認された。その南東側に被熱礫とともに炭だまりが一定の範囲に広がっていた。壁溝は、幅0.10～0.14ｍ、深さ0.10～0.20ｍで西壁から北壁にかけて検出された。また、径0.20～0.42ｍ、深さ0.04～0.75ｍの柱穴が19基穿たれていた。このうちＰ１・Ｐ２・Ｐ８・Ｐ12・Ｐ14は主柱穴と考えられる。住居東側には壁面から張り出した硬化面が認められた。出入口部と推定されようか。

遺物は、須恵器甕(底部１点67.8g)、土師器坏(口縁部５点15.8g・体部42点134.1g・底部８点145.5g)、土師器甕(口縁部５点26.1g・胴部41点450.0g・底部２点54.3g)、鉄滓(破片３点20.5g)、羽口(破片22点399.8g)、粘土塊(破片９点19.7g)、被熱礫(破片15点5241.9g)、礫(破片８点2232.9g)が出土した(第98図11～14)。

ＳＩ4085(第21・22図)

ＭＦ50・ＭＧ49・ＭＧ50・ＭＨ49・ＭＨ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3612・ＳＫＰ3975を切り、ＳＫ3565・ＳＫＰ3605に切られている。平面形は長軸(NE-SW)4.52ｍ×短軸(NW-SE)4.28ｍの方形を呈する。確認面からの深さは0.50ｍである。床面にはほぼ全面に貼り床が認められ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は詳細に観察すると43層に分けられた。

カマドは北東側に設けられており、煙道は撹乱により失われていた。壁溝は、幅0.10～0.16ｍ、深さ0.08～0.16ｍで北壁から西壁と南東壁において検出された。また、径約0.30ｍ、深さ0.30～0.40ｍの柱穴が２基穿たれていた。中央部には炭だまりが一定の範囲に認められた。

北西隅及び南側において土坑が各１基検出された。北西隅のＳＫ01は長軸(NW-SE)0.82ｍ×短軸(NE-SW)0.74ｍの隅丸方形を呈し、床面からの深さは0.66ｍである。底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。南側のＳＫ02は長軸(E-W)1.92ｍ×短軸(N-W)0.68ｍの隅丸方形を呈し、床面からの深さは0.51ｍである。東側に段をもち、底面は平坦で壁はほぼ垂直に立ち上がる。

遺物は、須恵器甕(胴部１点117.5g)、土師器坏(口縁部９点25.6g・体部21点77.3g・底部５点49.8g)、土師器甕(口縁部11点217.3g・胴部76点1068.5g・底部７点311.5g)、粘土塊(破片11点33.9g)、被熱礫(破片15点210.8g)が出土した(第99図１～５)。

また、西側にある掘立柱建物跡(ＳＢ2366)は、位置関係から本遺構に伴うものと考えられる。

ＳＩ4188(第23図)

ＬＳ50・ＬＴ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5517を切っている。平面形は一辺3.50～3.54ｍの正方形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１層である。

カマドは東壁に設けられていた。壁溝は、幅0.11ｍ、床面からの深さ0.12ｍで南壁西側においてのみ検出された。また、径0.18～0.41ｍ、深さ0.08～0.52ｍの柱穴が29基穿たれていた。

遺物は、須恵器甕(胴部２点109.3g)、須恵器長頸瓶(肩部１点52.1g)、土師器坏(完形１点130.9g・口縁部34点149.0g・体部131点257.8g・底部28点576.3g)、土師器甕(口縁部８点80.0g・胴部18点1279.6g・底部９点415.0g)、羽口(27点2200.0g)、粘土塊(10点36.0g)、被熱礫(破片30点3951.6g)が出土した(第99図６～16、第160図１～６)。

ＳＩ4300(第24図、図版１－２)

ＬＮ48・ＬＮ49・ＬＯ48・ＬＯ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ4700に切られ、ＳＮ4719を切っている。平面形は一辺3.86～4.07ｍの正方形を呈する。確認面からの深さは0.27ｍである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１層である。

カマドは検出されなかった。壁溝は、幅0.14～0.28ｍ、床面からの深さ0.12ｍで北壁を除いて検出された。また、径0.11～0.48ｍ、深さ0.08～0.41ｍの柱穴が22基穿たれていた。中央部南寄りには焼土遺構(ＳＮ01)が検出された。この焼土遺構は小規模ながら地床炉の可能性もある。

遺物は、須恵器甕(胴部２点24.2g)、土師器坏(口縁部22点66.5g・体部155点293.2g・底部29点307.2g)、土師器甕(口縁部10点76.6g・胴部179点1042.6g・底部４点59.6g)、土錘(３点36.3g)、木製の柄部が残る小刀(１点222.7g)、羽口(22点166.0g)、鉄滓(１点5.5g)、粘土塊(46点166.0g)、被熱礫(破片195点7594.0g)、礫(破片65点188.4g)が出土した(第100図１～11、第163図１～７)。

ＳＩ4444（第25図）

ＭＤ51・ＭＤ52・ＭＥ51・ＭＥ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5952・ＳＮ5805・ＳＤ5892を切り、ＳＫ4573・ＳＫ5806・ＳＫＰ3701・ＳＫＰ4094・ＳＫＰ4115・ＳＫＰ4387・ＳＫＰ4388・ＳＫＰ4389・ＳＫＰ4390・ＳＫＰ4392・ＳＫＰ4401・ＳＫＰ5891に切られている。平面形は一辺4.00～4.23ｍの正方形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は５層に分けられた。

カマドは東壁において検出された。壁溝は、幅0.11～0.21ｍ、床面からの深さ0.12ｍで東壁及び北西壁を除いて検出された。また、径0.11～0.41ｍ、深さ0.08～0.21ｍの柱穴が14基穿たれていた。北西側には径1.54ｍの土坑（ＳＫ01）と径1.24ｍの土坑（ＳＫ02）が検出された。

遺物は、須恵器甕（胴部２点13.5g）、土師器坏（口縁部42点200.1g・体部78点258.1g・底部23点385.6g）、土師器甕（口縁部20点385.6g・胴部146点1269.6g・底部10点408.3g）、羽口（６点63.8g）、粘土塊（21点171.2g）、被熱礫（破片24点2182.2g）、礫（破片10点242.4g）が出土した（第100図12～22、第161図１～３）。

ＳＩ5839（第26～28図、図版２－１）

ＬＰ53・ＬＰ54・ＬＱ53・ＬＱ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5953を切り、ＳＫ5954・ＳＫ6120・ＳＫ6128・ＳＸ5838に切られている。平面形は一辺3.62～3.72ｍの正方形を呈する。確認面からの深さは0.32ｍである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は14層に分けられた。

カマドは南壁において検出された。壁溝は、幅0.16～0.28ｍ、床面からの深さ0.10ｍで東壁及び北壁で検出された。また、径0.11～0.32ｍ、深さ0.11～0.26ｍの柱穴が９基穿たれていた。南西隅には土坑（ＳＫ01）が検出された。

遺物は、土師器坏（完形１点81.7g・口縁部56点207.4g・体部122点225.1g・底部34点1024.8g）、土師器甕（口縁部14点503.4g・胴部86点1352.3g・底部５点731.9g）、羽口（21点358.3g）、鉄滓（１点1.8g）、粘土塊（19点110.1g）、被熱礫（破片６点940.3g）、礫（破片１点181.1g）が出土した（第101図１～17、第102図１～３、第161図４～７、第162図１～６）。

ＳＩ5840（第29図）

ＬＲ56・ＬＲ57・ＬＳ56・ＬＳ57グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5866・ＳＫ5971・ＳＫ6055を切っている。平面形は一辺3.44～4.10ｍの正方形を呈する。確認面からの深さは0.42ｍである。北側は斜面下方になり、壁面は流失していた。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１層である。

カマドは南壁において検出された。壁溝は、幅0.14～0.21ｍ、床面からの深さ0.15ｍで南辺においてのみ検出された。また、径0.18～0.30ｍ、深さ0.08～0.49ｍの柱穴が７基穿たれていた。南東隅には径0.61ｍの土坑（ＳＫ01）が、北側には径0.78ｍの土坑（ＳＫ02）が検出された。

遺物は、須恵器甕（胴部１点29.9g）、土師器坏（口縁部９点28.0g・体部18点48.8g・底部13点312.5g）、土師器甕（口縁部４点141.6g・胴部80点1036.8g・底部１点84.0g）、土錘（２点18.8g）、砥石（１点177.6g）、カマド芯材（石製・２点12700.0g）、被熱礫（破片４点355.6g）、礫（破片４点21.4g）が出土した（第102図４～14）。

２　竪穴状遺構（第９図）

ＳＫＩ4013（第31図）

ＬＯ48・ＬＯ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4739・ＳＫＰ4740を切っており、ＳＫ3933

に切られている。平面形は一辺2.81～3.12ｍの正方形を呈する。壁溝のみの検出であったが、確認面からの深さは0.09ｍである。底面は平坦である。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＫＩ4707(第30図)

ＬＲ53・ＬＳ52・ＬＳ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ6305を切っており、ＳＫ4706に切られている。平面形は長軸(E-W)3.03ｍ×短軸(N-S)1.72ｍの長方形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＫＩ5200(第30図)

ＬＯ51・ＬＯ52・ＬＰ51・ＬＰ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)2.56ｍ×短軸(N-S)1.82ｍの長方形を呈し、東側に突出部をもつ。確認面からの深さは0.29ｍである。底面は小さな起伏がやや目立ち、壁は急に立ち上がる。また、突出部から遺構内にかけてはスロープ状の底面となる。覆土は１層である。壁面に沿って径0.18～0.34ｍ、深さ0.21ｍの柱穴が９基穿たれていた。

遺物は土師器坏(口縁部３点5.5ｇ・底部１点7.5g)が出土した(第103図１)。

炭化材による放射性炭素年代測定の結果、２σ年代幅西暦805－905年(52.9％)という値を得た。

ＳＫＩ5927(第31図)

ＬＰ63・ＬＰ64・ＬＰ65・ＬＱ63・ＬＱ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は一辺4.74～5.42ｍの正方形を呈する。ＳＫＩ4013同様、壁溝のみの検出であったが、確認面からの深さは0.08ｍである。底面は平坦である。

遺物は出土しなかった。

３　掘立柱建物跡(第10図)

本書では、柱穴様ピットを検討して掘立柱建物跡を復元するまでの作業を「掘立柱建物跡の認定」と表現する。認定の基準は、柱穴の形態・規模・覆土の特徴・柱穴どうしの位置関係・竪穴住居跡や溝跡との軸線との対応関係によるものである。掘立柱建物跡の認定は、調査中に現地にて行われたもの(「**現地認定**」)と、整理作業中において行われたもの(「**屋内認定**」)の二種類があり、前者の方がより確信に近い認定となっている。よって、本報告において、各掘立柱建物跡の認定が両者のうちのどちらなのかをそれぞれの記述において明記しておきたい。なお、掘立柱建物跡の認定については八戸工業大学工学部の高島成侑教授から御助言を頂いた。

ＳＢ15(第32図)

ＭＤ44・ＭＤ45・ＭＥ44・ＭＥ45グリッド第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－３°－Ｅ方向を向く２間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間約5.8ｍ、梁行総間約5.2ｍである。桁行方向の柱間は2.8～3.0ｍ、2.4～2.8ｍ。東側列のＰ３・Ｐ６・Ｐ９及び、西側列のＰ１・Ｐ４・Ｐ７は径0.8～1.3ｍ、深さ0.40～0.61㎝で中央列のＰ２・Ｐ５・Ｐ８に比べて大きい。

遺物は、土師器坏(口縁部１点2.8g・体部３点3.9g)、土師器甕(口縁部１点5.5g・胴部２点22.9g)、羽口(破片１点65.2g)、被熱礫(破片１点820.0g)が出土した。

ＳＢ345(第32図)

ＭＥ40・ＭＥ41・ＭＥ42・ＭＤ41・ＭＤ42グリッド第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－31°－Ｗ方

向を向く２間×２間の掘立柱建物跡である。桁行総間5.4m、梁行総間3.9m、柱間は桁行方向に2.2～3.2m、梁行方向に1.9～2.0mである。

遺物は、Ｐ３・Ｐ４から土師器(体部１点1.3g)が出土した。

ＳＢ373(第33図)

ＬＩ37・ＬＩ38・ＬＪ37・ＬＪ38グリッドの第Ⅴ層で確認された。屋内認定。Ｎ－20°－Ｗ方向を向く２間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間2.8m、梁行総間2.5m、柱間は梁行方向1.3～1.5m、桁行方向1.1～1.4mである。

遺物は、Ｐ７・Ｐ９から土師器(体部２点2.1g)が出土した。

ＳＢ426(第33図)

ＭＦ46・ＭＧ46グリッド第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－２°－Ｗ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間2.8m、梁行総間1.8mである。

遺物は、Ｐ４より土師器甕(胴部１点10g)、礫(破片３点125.0g)、鉄滓(５点25.0g)が出土している。

ＳＢ484(第33図)

ＬＯ38・ＬＯ39・ＬＰ38・ＬＰ39グリッドの第Ⅴ層で確認された。屋内認定。Ｎ－２°－Ｗ方向を向く２間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間3.5m、梁行総間2.0mに及ぶ。桁行方向の柱間は1.6m～1.9mである。

遺物は、Ｐ２から土師器坏(底部１点9.6g)、Ｐ４から鉄滓(４点48.0g)が出土した(第103図２)。

ＳＢ599(第33図)

ＭＤ39・ＭＤ40・ＭＥ39・ＭＥ40グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－17°－Ｗ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間3.6m、梁行総間3.4mである。

遺物は、Ｐ３から土師器坏(体部２点4.4g)が出土した。

ＳＢ609(第33図)

ＬＱ38・ＬＱ39・ＬＲ38・ＬＲ39グリッドの第Ⅴ層で確認された。屋内認定。Ｎ－４°－Ｗ方向を向く１間×４間の掘立柱建物跡である。桁行総間は4.9m、梁行総間は2.3m、桁行方向の柱間は0.5～2.6mである。

遺物は、Ｐ７から土師器坏(体部２点3.3g)、Ｐ８から土師器甕(胴部２点7.1g)が出土した。

ＳＢ858(第34図)

ＭＦ45・ＭＧ45グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－２°－Ｅ方向を向く２間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間4.6m、梁行総間1.2m、桁行方向の柱間は2.3mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ1234(第34図)

ＬＬ40・ＬＬ41・ＬＭ40・ＬＭ41グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－50°－Ｗ方向を向く３間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間3.9m、梁行総間2.4m、桁行方向の柱間は0.9～1.9mである。

遺物は、Ｐ５から土師器坏(体部１点3.2g)が出土した。

ＳＢ1236(第34図)

ＭＢ41・ＭＣ41グリッドの第Ⅴ層で確認された。屋内認定。Ｎ－６°－Ｗ方向を向く３間×１間の掘

立柱建物跡である。桁行総間3.7m、梁行総間1.8m、桁行方向の柱間は1.2～1.3mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ1311（第34図）

ＬM36・ＬM37・ＬN37グリッドの第Ⅴ層で確認された。屋内認定。Ｎ－９°－W方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。土坑（ＳＫ1161）を囲む。桁行総間3.4m、梁行総間3.0m、桁行方向の柱間は1.7～2.7m、梁行方向は0.4～2.3mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ1562（第34図）

ＭＩ48・ＭＩ49・ＭＪ48グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－25°－Ｅ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間は3.0m、梁行総間は2.8mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ1655（第34図）

ＬＲ39・ＬＲ40・ＬＳ39・ＬＳ40グリッドの第Ⅴ層で確認された。屋内認定。Ｎ－12°－W方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間3.3m、梁行総間2.5mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ1882（第35図）

ＭH44・ＭH45・ＭＩ44・ＭＩ45グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－２°－W方向を向く２間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間4.6m、梁行総間2.4m、桁行方向の柱間は2.0～2.6mである。鍛冶炉（ＳＳ1770）を囲んでいる。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ1883（第35図）

ＬＪ41・ＬＪ42・ＬＪ43・ＬK41・ＬK42・ＬK43グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－41°－W方向を向く２間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間3.7m、梁行総間3.0mである。桁行方向の柱間は1.8～1.9m、梁行方向の柱間は1.2～1.8mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ2065（第35図）

ＭＪ50・ＭＪ51・ＭK50・ＭK51グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－１°－W方向を向く２間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間4.1m、梁行総間3.9mである。桁行方向の柱間は1.5～2.4mである。

遺物は、Ｐ１から土師器坏（体部３点8.9g）、羽口（破片１点10.5g）が出土した。

ＳＢ2366（第21図）

ＭG49・ＭG50・ＭH49・ＭG50グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－22°－Ｅ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間4.8m、梁行総間2.5mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ2435（第35図）

ＬＩ43・ＬＩ44・ＬＪ43・ＬＪ44グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－４°－W方向を向く３間×２間の掘立柱建物跡である。桁行総間3.1m、梁行総間2.1m、柱間は桁行方向が1.4～1.7m、

梁行方向が0.6～0.8mである。

遺物は、Ｐ２及びＰ６から土師器甕(胴部５点23.8g)が出土した。

ＳＢ2477(第35図)

ＭＨ51・ＭＨ52・ＭＩ51・ＭＩ52グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－25°－Ｅ方向を向く２間×２間の掘立柱建物跡である。桁行総間1.8m、梁行総間1.7 m、柱間は桁行方向が0.8～0.9m、梁行方向が0.9mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ2521(第36図)

ＬＫ41・ＬＫ42・ＬＬ41・ＬＬ42グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－50°－Ｅ方向を向く２間×２間の掘立柱建物跡である。桁行総間5.1m、梁行総間4.2m、柱間は桁行方向2.3～2.8m、梁行方向は1.9～2.3mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ2776(第36図)

ＬＮ40・ＬＮ41・ＬＮ42・ＬＯ40・ＬＯ41・ＬＯ42グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－10°－Ｗ方向を向く２間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間5.0m、梁行総間4.5m、柱間は桁行方向は2.4～2.6m、梁行方向は1.9～2.6mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ2820(第36図)

ＬＪ45・ＬＪ46・ＬＫ45・ＬＫ46グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－11°－Ｗ方向を向く２間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間は3.9m、梁行総間は1.9mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ2912(第36図)

ＬＬ39・ＬＬ40・ＬＭ39・ＬＭ40グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－12°－Ｗ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間は2.2m、梁行総間は2.0mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ3168(第37図)

ＭＤ48・ＭＤ49・ＭＥ48・ＭＥ49・ＭＦ49グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－35°－Ｅ方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間4.5m、梁行総間3.9m、桁行方向の柱間は1.2～1.9m、梁行方向の柱間は1.8～1.9mである。

遺物は、Ｐ１・Ｐ９・Ｐ11から土師器坏(体部５点3.3g)が出土した。

ＳＢ3198(第37図)

ＬＯ43・ＬＯ44・ＬＰ43・ＬＰ44グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－76°－Ｅ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間は2.2m、梁行総間は2.1mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ4071(第37図、図版３－１)

ＬＯ51・ＬＯ52・ＬＯ53・ＬＰ51・ＬＰ52・ＬＰ53・ＬＱ51グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－68°－Ｗ方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間5.3m、梁行総間5.2

m、桁行方向の柱間は1.4～2.1m、梁行方向の柱間は2.4～2.8mである。

遺物は、Ｐ２から土師器坏(口縁部３点5.8g・底部２点15.9g)、Ｐ３から土師器坏(底部１点8.5g)・羽口(破片２点10.4ｇ)、Ｐ４から土師器甕(胴部１点6.3g)、Ｐ５から土師器坏(体部２点7.1g)、Ｐ７から土師器坏(体部１点4.9g)、礫(破片２点25.9g)、Ｐ８から土師器坏(底部１点9.5g)・土師器甕(胴部３点31.6g)、Ｐ９から土師器坏(体部２点6.6g)、土師器甕(胴部１点5.9g)・礫(破片３点18.7g)、鉄滓(１点9.3g)が出土した(第103図４)。

ＳＢ4329(第37図)

ＭＨ52・ＭＨ53・ＭＪ52・ＭＪ53グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－６°－W方向を向く２間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間3.5m、梁行総間2.1m、桁行方向の柱間は0.9～1.2m、梁行方向の柱間は0.5～2.0mである。

遺物は、Ｐ１から鉄滓(１点10.4g)、Ｐ５から土師器甕(胴部２点8.9g)、Ｐ７から土師器坏(体部１点2.1g)が出土した。

ＳＢ5753(第38図、図版３－１)

ＬＭ52・ＬＮ51・ＬＮ52・ＬＮ53・ＬＯ51・ＬＯ52・ＬＯ53グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－16°－Ｅ方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間6.1m、梁行総間4.9m、桁行方向の柱間は1.8～2.2m、梁行方向の柱間は2.4～2.5mである。

遺物は、Ｐ９から鉄滓(３点22.1g)、Ｐ12から土師器坏(体部１点4.2g)、鉄滓(１点3.5g)が出土した。

ＳＢ5917(第38図、巻頭図版３－１)

ＬＰ48・ＬＰ49・ＬＱ49・ＬＱ50・ＬＲ49グリッドの第Ⅲ層中で確認された。現地認定。Ｎ－21°－Ｅ方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間5.3m、梁行総間3.6m、桁行方向の柱間は1.5～2.1m、梁行方向の柱間は1.5～2.1mである。

遺物は、Ｐ９・Ｐ11から土師器坏(体部６点5.7g)が出土した。

ＳＢ5959(第39図)

ＬＮ54・ＬＮ55・ＬＯ54・ＬＯ55グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－10°－W方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間5.4m、梁行総間3.0m、桁行方向の柱間は1.6～2.0m、梁行方向の柱間は1.3～1.7mである。

遺物は出土しなかった。

ＳＢ6058(第39図)

ＬＯ53・ＬＯ54・ＬＰ53・ＬＰ54グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－12°－Ｅ方向を向く２間×２間の掘立柱建物跡である。桁行総間3.1m、梁行総間2.7m、桁行方向の柱間は1.1～1.9m、梁行方向の柱間は1.2～1.5mである。

遺物は、Ｐ１から土師器坏(体部１点2.3g)・羽口(破片１点5.8g)、礫(破片７点41.0g)、Ｐ８から鉄滓(２点13.1g)が出土している。

ＳＢ6108(第39図)

ＬＴ55・ＬＴ56・ＭＡ55グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－20°－W方向を向く３間×２間の総柱の掘立柱建物跡である。桁行総間4.8m、梁行総間3.0～3.2m、桁行方向の柱間は1.4～1.7m、梁行方向の柱間は1.4～1.6mである。

遺物は、Ｐ２から土師器坏(口縁部２点9.6g)が土した。

ＳＢ6235(第39図)

ＬＮ61・ＬＯ61・ＬＯ62グリッドの第Ⅴ層で確認された。現地認定。Ｎ－32°－Ｗ方向を向く１間×１間の掘立柱建物跡である。桁行総間2.0m、梁行総間1.4mである。

遺物は出土しなかった。

４　柱穴様ピット(付図２～５)

本遺跡からは多数の柱穴様ピットが検出された。そのうちの一部は掘立柱建物跡として再構成された。今後、その他の柱穴様ピットも掘立柱建物跡として認定される可能性は十分にある。そのなかで注目されるのはＳＫＰ687である(第10図、図版３－２)。直径は他の柱穴様ピットと変わらないものの、確認面からの深さが0.81mあり、周囲に同様な規模の柱穴様ピットがないことから、掘立柱建物跡を構成する柱穴と考えるには不自然である。深さ約0.50mのところから底面まで地山質の埋土が確認され、その埋土上面に土師器の坏４点が逆位に重なった状態で出土した(第10図、第103図７～10)。

５　土坑(第11図)

土坑は形態から、**１類**)平面が円形もしくは楕円形で、鍋底状のもの、**２類**)平面が円形もしくは楕円形を呈し、底面が平坦で壁が緩やかに立ち上がるもの、**３類**)平面が隅丸方形で、断面が逆台形状を呈するもの、**４類**)平面が円形もしくは楕円形を呈し、底面が平坦で壁が急に立ち上がるもの、に便宜的に分けることができる。このうち、４類は柱穴様ピットとすることもできるが、ここでは、掘立柱建物跡として認定されなかった径0.50m以上のものについては土坑として扱うこととする。

ＳＫ13(第40図)

ＭＥ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.86m×短軸(E-W)0.76mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.26mである。底面はほぼ平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点2.0g・体部２点6.4g)、土師器甕(胴部２点14.5g)、粘土塊(２点2.2g)が出土した。

ＳＫ18(第40図)

ＭＦ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径１.20mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.06mである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器杯(体部７点12.1g)、土師器甕(口縁部１点40.0g・胴部３点48.8g)、土錘(１点23.0g)、被熱礫(破片４点161.1g)、礫(破片２点81.3g)が出土した(第104図１)。

ＳＫ19(第40図)

ＭＤ45・ＭＥ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.61mの円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点4.1g・体部２点7.3g)、礫(破片１点1.0g)が出土した。

ＳＫ21(第40図)

ＬＫ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3411を切っている。平面形は長軸(NE-SW)１.02m×短軸(NW-SE)0.86mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.32mである。底面はほぼ平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は７層に分けられる。４類。

遺物は、１～４層を中心として土師器坏(口縁部１点5.9g・体部７点31.5g・底部５点61.0g)、土師器甕(口縁部１点12.2g・胴部27点459.7g)、羽口(破片３点179.0g)、粘土塊(破片４点12.0g)、被熱礫(破片３点41.1g)、礫(破片７点450.0g)が出土した(第104図２)。

ＳＫ23(第40図)

ＬＪ48・ＬＫ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3410・ＳＫ3559を切っている。平面形は長軸(NE-SW)1.64ｍ×短軸(NW-SE)1.30ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.19ｍである。底面は緩やかな凹凸があり、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(底部２点56.9g)、土師器甕(口縁部１点14.0g・胴部４点59.0g)、羽口(破片１点230.0g)、被熱礫(破片４点360.0g)が出土した。

ＳＫ38(第40図)

ＬＲ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.64ｍ×短軸(NW-SE)0.31ｍの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面はほぼ平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部16点44.2g・体部54点98.0g・底部14点261.8g)、土師器甕(口縁部９点179.8g・胴部85点1428.6g・底部４点191.2g)、土錘(破片３点6.6g)、鉄滓(破片３点393.7g)、羽口(破片13点134.9g)、粘土塊(破片48点112.8g)、被熱礫(破片47点3062.8g)、礫(破片42点304.4g)が出土した(第104図３～９)。

ＳＫ47(第41図)

ＭＤ46・ＭＤ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)１.75ｍ×短軸(N-S)１.44ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.28ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は４層に分けられる。３類。

遺物は、須恵器甕(胴部２点45.2g)、土師器坏(口縁部３点15.7g・体部14点79.1g・底部５点112.5g)、土師器甕(口縁部１点11.5g・胴部46点352.2g)、羽口(破片１点9.4g)、粘土塊(４点35.8g)、被熱礫(破片９点252.2g)、礫(破片５点65.5g)が出土した(第104図10～12)。

ＳＫ69(第41図)

ＭＢ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ70に切られている。平面形は長軸(E-W)0.70ｍ×短軸(N-S)0.60ｍ(残存値)の略円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ70(第41図)

ＭＢ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ69を切っている。平面形は長軸(E-W)0.56ｍ×短軸(N-S)0.42ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ88(第41図)

ＭＢ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.48ｍ×短軸(E-W)0.31ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は丸みを帯び、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆

土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ91（第41図）

ＬＧ38グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.98ｍ×短軸(NW-SE)0.68ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ92（第41図）

ＬＩ36グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)１.38ｍ×短軸(NW-SE)１.21ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ161（第41図）

ＬＧ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.62ｍ×短軸(E-W)0.44ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.08ｍである。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ162（第41図）

ＬＧ38グリッド・ＬＨ38グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ163を切っている。平面形は長軸(E-W)1.15ｍ×短軸(N-S)0.85ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.40ｍである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は７層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ163（第41図）

ＬＧ38グリッド・ＬＨ38グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ162に切られている。平面形は長軸(E-W)1.32ｍ(残存値)×短軸(N-S)1.25ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.63ｍである。底面は丸みを帯び、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ204（第42図）

ＬＥ34グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ713を切っている。平面形は長軸(N-S)0.96ｍ×短軸(E-W)0.71ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.34ｍである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がるが、北半分の壁は底面から約0.25ｍのところで外側に開く。覆土は６層に分けられる。３類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ277（第42図）

ＬＬ36グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.62ｍ×短軸(N-S)0.42ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.08ｍである。底面はほぼ平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ316（第42図）

ＭＣ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ322を切っている。平面形は長軸(NE-SW)1.02ｍ×短軸(NW-SE)0.68ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面はほぼ平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ360（第42図）

ＭＧ44・ＭＧ45グリッド第Ⅳ層で確認された。ＳＫ431を切っており、ＳＫＰ1051・ＳＫＰ1052に切られている。平面形は長軸(NE-SW)2.19ｍ×短軸(NW-SE)1.74ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.25ｍである。底面は平坦であるが西側に向かってやや傾斜している。壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部26点138.3g・体部45点174.0g・底部13点388.8g)、土師器甕(口縁部９点407.3g・胴部59点395.8g・底部４点183.8g)、土師器椀(底部１点36.1g)、流動滓(１点6.8g)、羽口(破片４点651.0g)、粘土塊(13点51.5g)、礫(破片８点996.4g)が出土した(第104図13～17)。このうち、土師器の椀は小形で、手づくね成形後にヘラケズリが施されているものである(第104図17)。

ＳＫ431（第42図）

ＭＦ45・ＭＧ45グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫ360・ＳＫＰ420・ＳＫＰ851・ＳＫＰ852・ＳＫＰ1050に切られている。平面形は長軸(E-W)0.92m(残存値)×短軸(N-S)0.98mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点2.6g・体部２点6.1g)が出土した。

ＳＫ494（第42図）

ＬＴ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ960を切っている。平面形は長軸(E-W)1.28ｍ×短軸(N-S)1.01ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.36ｍである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(体部６点22.8g・底部１点4.2g)、土師器甕(胴部12点61.1g)が出土した。

ＳＫ505（第43図）

ＭＣ39・ＭＣ40・ＭＤ39・ＭＤ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)2.10ｍ×短軸(N-S)1.74ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は２層に分けられる。底面には炭化粒子が、２層中には焼土粒子が一定の範囲で検出されたが、底面に被熱の痕跡は認められなかった。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部10点51.9g・体部12点102.9g・底部５点129.4g)、土師器甕(口縁部６点141.5g・胴部31点330.5g、底部３点137.1g)、粘土塊(破片74点311.9g)、被熱礫(破片６点257.1g)、礫(破片８点170.5g)が出土した(第105図１)。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦990年、２σ年代幅西暦890－1,020年という値を得た。また、同一試料の樹種はアスナロと同定された。

ＳＫ515（第43図）

ＭＤ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1037・ＳＫＰ1038を切っている。平面形は長軸(N-S)0.84ｍ×短軸(E-W)0.64ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は平坦で、

壁はほぼ垂直に立ちあがる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ520（第43図）

ＭＤ40・ＭＥ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.38ｍ×短軸(NE-SW)1.16ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は凹凸があり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点7.4g・体部４点6.7g・底部１点7.0g)、土師器甕(胴部２点3.3g)が出土した。

ＳＫ552（第43図）

ＭＢ35グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.80ｍ×短軸(NE-SW)0.70ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.47ｍである。底面は平坦で、壁は北西側に段をもち垂直に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ600（第43図）

ＬＳ40・ＬＴ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1036を切っている。平面形は径0.67ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.69ｍである。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ743（第43図）

ＭＥ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ744に切られている。平面形は径0.59ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ763（第43図）

ＬＢ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ765・ＳＫＰ766を切っている。平面形は長軸(NW-SE)1.70ｍ×短軸(NE-SW)0.64ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は凹凸があり、壁は東側で緩やかに、西側でやや角度をもって立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ793（第44図）

ＭＡ39グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫ800を切ってる。平面形は長軸(E-W)1.01ｍ×短軸(N-W)0.90ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面はやや凹凸があり、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ797（第44図）

ＭＡ39グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.71ｍ×短軸(N-S)0.56ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ800（第44図）

ＭＡ39グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫ793に切られている。平面形は径0.76ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏（体部６点23.3g・底部１点23.0g）、土師器甕（口縁部３点133.9g・胴部19点242.1g・底部２点78.8g）が出土した（第105図２）。

ＳＫ804（第44図）

ＭＢ40グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＤ787を切っている。平面形は長軸（E-W）0.90ｍ×短軸（N-S）0.81ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で西側にやや傾斜しており、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏（底部１点30.2g）が出土した（第105図３）。

ＳＫ805（第44図）

ＭＢ40グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＤ787を切っている。平面形は径0.65ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。また、東側には径0.20ｍ、深さ0.60ｍのピットが検出された。２類。

遺物は、土師器坏（体部１点1.4g・底部２点44.1g）、土師器甕（胴部１点51.3g）が出土した（第105図４）。

ＳＫ815（第44図）

ＭＦ46・ＭＦ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1693・ＳＫＰ1697を切っており、ＳＫ817に切られている。平面形は長軸（NW-SE）1.26ｍ（残存値）×短軸（NE-SW）1.23ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は平坦で、壁はやや急な角度で立ち上がる。覆土は４層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ816（第44図）

ＭＥ46・ＭＥ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ817・ＳＫＰ681に切られている。平面形は攪乱により南東側半分が失われているため不明。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は中心に向かってやや傾斜をもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ817（第44図）

ＭＥ46・ＭＦ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ815・ＳＫ816・ＳＫ818・ＳＫＰ1693を切っており、ＳＫＰ680・ＳＫＰ681に切られている。平面形は長軸（NW-SE）1.04ｍ×短軸（NE-SW）0.88ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.59ｍである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は15層に分けられる。このうち最下層（第15層）は地山質の覆土で、ＳＫＰ680はその層をやや掘り込んで底面としていることから、近接した時期に、ＳＫ817が地山質の土で埋め戻され、ＳＫＰ680が穿たれたと考えられる。４類。

遺物は、土師器坏（体部１点2.4g）、土師器甕（胴部１点11.6g）が出土した。

ＳＫ818（第44図）

ＭＥ46・ＭＦ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ817に切られている。平面形は径1.37ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.44ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は６層に分けられる。２類。

遺物は、須恵器甕（胴部１点12.3g）、土師器坏（口縁部８点166.9g・体部10点28.8g・底部２点11.7g）、土師器甕（胴部18点156.2g）、粘土塊（破片１点2.3g）、被熱礫（破片３点19.3g）、礫（破片１点4.3g）が出土した（第105図５）。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦960年、２σ年代幅西暦870－1,010年という値を得た。

ＳＫ1038（第43図）

ＭＤ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ515に切られている。平面形は長軸（NW-SE）0.50ｍ（残存値）×短軸（NE-SW）0.52ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.24ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1110（第45図）

ＭＤ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1109を切っている。平面形は径0.74ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.58ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は５層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏（口縁部17点42.6g・体部15点80.8g・底部３点27.5g）、土師器甕（胴部７点117.9g）、粘土塊（破片７点25.3g）、礫（破片２点4.8g）が出土した。

ＳＫ1121（第45図）

ＬＮ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.82ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。北西側には径0.30ｍ、深さ0.25ｍのピットが穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部３点18.7g・体部27点109.4g）、粘土塊（破片11点9.4g）、被熱礫（破片６点390.0g）、礫（破片10点300.0g）が出土した。

ＳＫ1126（第45図）

ＭＢ45・ＭＣ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1483を切っている。平面形は径1.32ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。中央南寄りには径0.12ｍ、深さ0.12ｍのピットが穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部５点12.2g・体部15点36.4g・底部２点24.7g）、土師器甕（口縁部２点40.1g・胴部35点296.3g・底部２点66.4g）、砥石（破片１点306.0g）、粘土塊（破片１点16.8g）、被熱礫（破片１点476.0g）が出土した。

ＳＫ1127（第45図）

ＭＤ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.85ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.34ｍである。底面は平坦で、壁は急な角度で立ち上がる。覆土は３層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏（口縁部５点30.0g・体部８点23.1g・底部１点2.9g）、土師器甕（胴部３点27.8g）、

粘土塊(破片３点9.7g)、礫(破片２点14.3g)、刀子(２点10.1g)が出土した(第164図３・４)。

ＳＫ1161(第45図)

ＬM37グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.70mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.27mである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1179(第46図)

ＭＣ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.63mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.08mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。底面にピットが２基穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点2.5g・体部10点19.1g・底部１点9.4g)、土師器甕(胴部２点11.9g・底部１点29.2g)、羽口(破片１点28.6g)、粘土塊(破片１点1.2g)が出土した。

ＳＫ1286(第46図)

ＭＤ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)1.06m×短軸(NW-SE)0.95mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.32mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は７層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部３点16.7g・胴部26点91.8g・底部４点148.0g)、土師器甕(胴部16点262.8g)、鉄滓(破片１点1.3g)、被熱礫(破片４点501.0g)が出土した(第105図６)。

ＳＫ1297(第46図)

ＭＪ45・ＭＫ45グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.69m×短軸(E-W)1.47mの略円形を呈する。確認面からの深さは遺構中央で0.27mである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。遺構中央に溝状の掘り込みが確認された。覆土は７層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.6g・体部５点14.2g・底部１点12.5g)、土師器甕(胴部15点219.7g)、羽口(破片１点16.1g)、粘土塊(破片３点7.9g)、被熱礫(破片１点450.0g)が出土した。

ＳＫ1339(第46図)

ＭＢ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1340に切られている。底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点6.6g)、土師器甕(胴部４点13.3g)出土した。

ＳＫ1340(第46図)

ＭＢ41・ＭＢ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1339を切っている。平面形は径1.32mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点6.4g・底部２点17.4g)、土師器甕(胴部10点50.8g・底部１点29.1g)が出土した。

ＳＫ1348(第47図)

ＬＴ41・ＭＡ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.60m×短軸(E-W)0.54mのの略円形を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1358(第47図)

ＬＴ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1355に切られている。平面形は径0.96ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.27ｍである。底面は丸みをもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1360(第47図)

ＭＢ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ2241とＳＤ2243、ＳＫＰ1359を切っており、ＳＫＰ2231とＳＫＰ6303に切られている。平面形は長軸(NE-SW)1.61ｍ×短軸(NW-SE)1.47ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部４点2.0g)、土師器甕(胴部１点3.7g)が出土した。

ＳＫ1367(第47図)

ＭＣ37グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)1.10ｍ×短軸(NW-SE)0.34ｍの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。底面にはピットが１基穿たれている。１類。

遺物は、土師器甕(胴部５点15.0g)が出土した。

ＳＫ1370(第47図)

ＭＢ37グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ6369を切っており、ＳＫＰ6280に切られている。平面形は長軸(E-W)0.82ｍ×短軸(N-S)0.76ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1460(第47図)

ＬＴ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.64ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1479(第48図)

ＬＲ35グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1480を切っている。平面形は長軸(NE-SW)0.52ｍ×短軸(NW-SE)0.42ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層のみである。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1480(第48図)

ＬＲ35グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1479に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.62ｍ×短軸(NW-SE)0.54ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層のみである。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1500（第48図）

ＭＤ38グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.60ｍ×短軸(N-S)0.52ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.46ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1503（第48図）

ＭＤ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1766を切っている。平面形は径0.80ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.50ｍである。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。４類。

遺物は、須恵器甕(胴部１点12.9g)、土師器坏(口縁部５点25.1g・体部６点43.0g・底部２点62.6g)、土師器甕(口縁部２点60.0g・胴部９点62.7g・底部１点18.4g)が出土した(第105図７・８)。

ＳＫ1505（第48図）

ＬＴ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.22ｍ×短軸(NE-SW)0.96ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は凹凸があり、壁はほぼ緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。底面に溝状の掘り込みが１基、ピットが３基穿たれていた。２類。

遺物は、土師器坏(底部１点41.8g)、粘土塊(破片２点22.3g)が出土した。

ＳＫ1512（第48図）

ＭＥ45・ME46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.64ｍ×短軸(E-W)0.58ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.36ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層のみである。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部５点17.3g・体部８点5.2g)、礫(破片１点1.7g)が出土した。

ＳＫ1549（第48図）

ＬＱ40・ＬＱ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.05ｍ×短軸(E-W)0.90ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏(体部２点3.1g)、土師器甕(胴部７点71.7g)が出土した。

ＳＫ1550（第48図）

ＬＱ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.92ｍ×短軸(NW-SE)0.75ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

遺物は、土師器坏(体部２点3.8g)、土師器甕(口縁部１点30.8g・胴部７点128.9g)、鉄滓(１点17.9g)(再結合滓)、粘土塊(破片７点92.1g)、礫(破片６点104.0g)が出土した。

ＳＫ1676（第49図）

ＬＣ42・ＬＤ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.75ｍ×短軸(NE-SW)0.58ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1687（第49図）

ＬＤ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ2761に切られている。平面形は径1.09ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1690（第49図）

ＬＥ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.74ｍ×短軸(E-W)0.65ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面はやや西側が傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1714（第49図）

ＭＥ46・ＭＦ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。東側半分は攪乱により失われている。平面形は長軸(NW-SE)1.06ｍ×短軸(NE-SW)0.54ｍ(残存値)の略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面はやや傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器甕(胴部３点44.3g)、粘土塊(破片１点3.5g)が出土した。

ＳＫ1730（第49図）

ＭＣ38グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.56ｍ×短軸(NE-SW)0.42ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1752（第49図）

ＬＳ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1675を切っている。平面形は長軸(W-E)0.52ｍ×短軸(N-S)0.21ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.19ｍである。底面は平坦で西側へ傾斜し、壁は西側で急に、東側で緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部６点382.9g・体部４点16.9g)、土師器甕(胴部６点119.2g)が出土した。

ＳＫ1766（第48図）

ＭＤ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1503に切られている。平面形は遺構の大半が失われているため不明。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1771（第49図）

ＬＧ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.52ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1772（第49図）

ＬＥ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.54ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1773（第49図）

ＬＥ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.73ｍ×短軸(N-S)0.63ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1774（第50図）

ＬＥ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.92ｍ×短軸(NW-SE)0.82ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.28ｍである。底面は平坦で、壁は西側で緩やかに、東側で急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1775（第50図）

ＬＥ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.72ｍ×短軸(E-W)0.63ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1776（第50図）

ＬＦ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.32ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁は西側で緩やかに、東側でやや急に立ち上がる。覆土は１層である。北側底面にピットが１基穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点5.9g)、鉄床石(破片１点201.0g)、羽口(破片１点44.6g)、被熱礫(破片１点13.1g)、礫(破片２点250.0g)が出土した。

ＳＫ1855（第50図）

ＬＧ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ2807を切っている。平面形は長軸(NW-SE)0.76ｍ×短軸(NE-SW)0.68ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1907（第50図）

ＬＲ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1909に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.85ｍ×短軸(NW-SE)0.75ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点2.9g・体部５点25.8g・底部２点38.1g)、土師器甕(胴部２点7.6g)が出土した(第105図９)。

ＳＫ1908（第16図）

ＬＲ41・ＬＳ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ1800を切っている。平面形は径1.49ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部５点13.4g・底部２点53.5g)、土師器甕(胴部７点88.7g・底部１点14.8g)、礫(破片３点28.9g)が出土した(第105図10)。

ＳＫ1909(第50図)

ＬＲ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ1907を切っている。平面形は径0.77ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。底面にピットが２基穿たれている。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1923(第50図)

ＬＴ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ2242を切っている。西側は攪乱により失われている。平面形は径0.50ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。北側底面に一部被熱箇所が認められた。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1974(第51図)

ＭＤ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.65ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ1975(第51図)

ＭＡ46グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は径1.10ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は４層である。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部３点16.7g・体部10点45.7g・底部１点38.5g)、土師器甕(口縁部１点60.9g・胴部12点106.7g)、被熱礫(破片１点8.7g)、礫(破片２点9.0g)が出土した(第105図11・12)。

ＳＫ2051(第51図)

ＭＪ49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.84ｍ×短軸(NE-SW)0.60ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.21ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部５点21.7g・体部２点7.1g)、土師器甕(胴部９点53.1g)、羽口(破片２点26.7g)、礫(破片２点24.1g)の他、底面から椀形鍛冶滓(１点53.8g)が出土した。

ＳＫ2075(第51図)

ＬＫ42・ＬＫ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.90ｍ×短軸(E-W)0.62ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で北側に傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2100(第51図)

ＬＳ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.76ｍ×短軸(E-W)0.62ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点2.4g)、礫(破片１点25.5g)が出土した。

ＳＫ2221（第51図）

ＬＲ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.56ｍ×短軸(N-S)0.38ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.29ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がり、西側では段がみられる。覆土は１層である。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2354（第51図）

ＭＤ43・ＭＥ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.88ｍ×短軸(N-S)0.75ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.07ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部８点37.1g・体部２点24.5g・底部２点65.7g)、土師器甕(胴部２点92.6g)が出土した。

ＳＫ2449（第51図）

ＬＪ44・ＬＪ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ2450に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.82ｍ×短軸(NW-SE)0.72ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2450（第51図）

ＬＪ44・ＬＪ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ2449を切っている。平面形は長軸(N-S)0.72ｍ×短軸(E-W)0.56ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2452（第51図）

ＭＤ43・ＭＤ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.61ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2484（第52図）

ＭＩ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.62ｍ×短軸(NW-SE)0.38ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2547（第52図）

ＭＤ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ2549を切っている。平面形は長軸(NW-SE)0.48ｍ×短軸(NE-SW)0.35ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.08ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部３点15.7g・体部７点25.5g・底部１点39.0g)、土師器甕(口縁部４点137.4g・胴部38点1115.3g・底部１点780.0g)、羽口(破片９点292.5g)、粘土塊(破片５点25.8g)、礫(破片９点381.7g)が出土した(第105図13)。

ＳＫ2549（第52図）

ＭＤ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ2547に切られている。平面形は長軸(N-S)0.86ｍ×短軸(NE-SW)0.35ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.08ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.6g・体部４点94.8g・底部２点33.0g)、土師器甕(口縁部３点230.3g・胴部33点422.0g・底部３点285.4g)、粘土塊(破片１点15.8g)が出土した(第105図14)。

ＳＫ2551（第52図）

ＬＲ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.70ｍ×短軸(NE-SW)0.26ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.26ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(体部４点14.8g)が出土した。

ＳＫ2692（第52図）

ＬＩ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.90ｍ×短軸(E-W)0.63ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2700（第52図）

ＬＣ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3172に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.97ｍ×短軸(NW-SE)0.85ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部９点27.5g・体部８点29.3g・底部４点194.3g)、土師器甕(口縁部２点101.9g・胴部17点228.4g・底部１点38.6g)、粘土塊(破片２点3.2g)、礫(破片２点3.6g)が出土した(第105図15・16)。

ＳＫ2772（第52図）

ＭＨ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.83ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ2797（第52図）

ＬＧ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.64ｍ×短軸(E-W)1.46ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部101点781.4g・体部262点803.0g・底部38点333.1g)、土師器甕(胴部９点63.0g・底部２点147.5g)、鉄滓(破片１点12.8g)、粘土塊(破片９点25.4g)、被熱礫(破片４点828.2g)、礫(破片７点199.5g)が出土した(第106図１～３)。

ＳＫ2889（第53図）

ＬＰ42・ＬＰ43・ＬＱ42・ＬＱ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ1900・ＳＫＰ3309を切っている。平面形は長軸(NE-SW)1.40ｍ×短軸(NW-SE)1.06ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.18

ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点12.7g・体部１点6.9g)、土師器甕(口縁部１点47.8g・体部６点79.4g)、羽口(破片27点410.6g)、被熱礫(破片４点18.3g)、礫(破片３点24.3g)が出土した。

ＳＫ3000(第53図)

ＬＮ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3063を切っている。平面形は径0.98ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.46ｍである。底面は平坦で北側に傾斜しており、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部６点22.5g・体部６点19.3g)、土師器甕(胴部30点340.0g)、粘土塊(破片５点6.3g)、被熱礫(破片７点900.0g)が出土した。

ＳＫ3063(第53図)

ＬＮ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3000に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.74ｍ(残存値)×短軸(NW-SE)0.74ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3141(第53図)

ＭＥ48・ＭＦ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.67ｍ×短軸(NE-SW)0.57ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。覆土は１層である。東側底面にピットが１基穿たれている。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点3.9g・体部６点3.8g・底部１点62.4g)、土師器甕(胴部６点57.8g・底部２点18.8g)、羽口(破片１点7.7g)、被熱礫(破片１点329.0g)、礫(破片１点7.2g)が出土した。

ＳＫ3175(第53図)

ＭＥ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3294に切られている。平面形は長軸(NW-SE)0.50ｍ×短軸(NE-SW)0.44ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(体部２点6.2g)が出土した。

ＳＫ3176(第53図)

ＬＦ43・ＬＦ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3016・ＳＫＰ3017を切っている。平面形は長軸(E-W)0.69ｍ×短軸(N-S)0.60ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.25ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3178(第53図)

ＬＮ40・ＬＯ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.62ｍ×短軸(E-W)0.40ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(底部１点10.5g)、土師器甕(胴部５点67.1g)、被熱礫(破片１点6.0g)が出土した。

ＳＫ3300(第54図)

ＬＪ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)1.56ｍ×短軸(NW-SE)0.89ｍの楕円

形を呈する。確認面からの深さは0.38ｍである。底面は丸みを帯び、壁はやや急に立ち上がる。北東側にテラス状の段をもつ。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏(体部11点28.6g・底部１点22.6g)、土師器甕(口縁部１点11.2g・胴部19点276.6g)、鉄滓(破片２点28.6g)、被熱礫(破片２点7.0g)、礫(破片５点17.6g)が出土した(第106図４)。

ＳＫ3360(第54図)

ＬＮ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.96ｍ×短軸(NW-SE)0.60ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.43ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3377(第40図)

ＬＪ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3412・ＳＫ3559を切っている。平面形は長軸(NE-SW)0.97ｍ×短軸(NW-SE)0.53ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.32ｍである。底面は起伏があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3405(第54図)

ＭＦ48・ＭＦ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3408に切られている。平面形は径0.52ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点7.8g・体部11点44.9g)、土師器甕(胴部10点48.9g)、礫(破片２点34.6g)が出土した。

ＳＫ3408(第54図)

ＭＦ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3405を切り、ＳＫＰ3696に切られている。平面形は径1.00ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(体部４点5.4g・底部２点72.9g)、土師器甕(胴部11点189.0g)、礫(破片４点179.0g)が出土した。

ＳＫ3410(第40図)

ＬＫ47・ＬＫ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ23・ＳＫ3454・ＳＫ3559に切られている。平面形は長軸(NE-SW)1.00ｍ(残存値)×短軸(NW-SE)0.88ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部６点21.9g・体部19点41.7g・底部１点9.2g)、土師器甕(胴部９点87.0g・底部１点14.6g)、羽口(破片４点32.9g)、粘土塊(破片11点12.0g)、被熱礫(破片３点11.7g)、礫(破片１点6.6.g)が出土した。

ＳＫ3411(第40図)

ＬＪ47・ＬＫ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3454・ＳＫ3558を切っており、ＳＫ21に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.92ｍ(残存値)×短軸(NW-SE)0.78ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。東側

底面にピットが１基穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点9.0g)、被熱礫(破片１点3.2g)が出土した。

ＳＫ3412(第40図)

ＬＪ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3563を切っており、ＳＫ3377・ＳＫ3559に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.46m(残存値)×短軸(NW-SE)0.32mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.28mである。底面は起伏があり、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部６点10.5g・体部点51.1g・底部２点49.0g)、土師器甕(口縁部３点78.3g・胴部21点205.8g)、鉄滓(破片７点44.6g)、被熱礫(破片３点8.9g)、礫(破片６点24.6gg)が出土した(第106図５)。

ＳＫ3445(第54図)

ＭＢ46・ＭＢ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3636を切っている。東側は攪乱により失われている。平面形は長軸(N-S)1.51m×短軸(E-W)0.71m(残存値)の楕円形を呈する。確認面からの深さは0.34mである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部４点10.5g・体部５点20.7g)、土師器甕(胴部７点116.3g)、礫(破片１点0.9g)が出土した。

ＳＫ3454(第40図)

ＬＪ47・ＬＪ48・ＬＫ47・ＬＫ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3410・ＳＫ3559・ＳＫ3563を切っており、ＳＫ3411・ＳＫ3558に切られている。平面形は長軸(N-S)1.06m×短軸(E-W)0.36m(残存値)の楕円形を呈する。確認面からの深さは0.26mである。底面は丸みを帯び、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.6g・体部９点20.0g・底部８点89.0g)、土師器甕(口縁部１点16.8g・胴部７点53.2g)、被熱礫(破片１点8.9g)、礫(破片６点36.3g)が出土した(第106図６)。

ＳＫ3558(第40図)

ＬＪ47・ＬＪ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3454・ＳＫ3563を切っており、ＳＫ3411に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.39m(残存値)×短軸(NW-SE)0.34m(残存値)の略円形を呈する。確認面からの深さは0.28mである。底面は起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3559(第40図)

ＬＪ48・ＬＫ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3410・ＳＫ3412・ＳＫ3563を切っており、ＳＫ23・ＳＫ3377・ＳＫ3454に切られている。平面形は長軸(NW-SE)0.56m(残存値)×短軸(NE-SW)0.70m(残存値)の楕円形を呈する。確認面からの深さは0.25mである。底面はやや起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点0.5g)、土師器甕(口縁部１点7.4g・胴部１点9.4g)、鉄滓(破片１点8.3g)、粘土塊(破片１点4.5g)が出土した。

ＳＫ3563(第40図)

ＬＪ47・ＬＪ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3412・ＳＫ3454・ＳＫ3558・ＳＫ3559に切

られている。平面形は遺構の大半が失われているため不明。底面はやや起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3565(第55図)

ＭＧ49・ＭＧ50グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)1.54ｍ×短軸(N-S)1.29ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。３類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.2g・体部３点9.6g・底部１点4.5g)、土師器甕(胴部８点221.3g・底部１点10.4g)、礫(破片１点4.5g)が出土した。

ＳＫ3636(第54図)

ＭＢ46・ＭＢ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3445に切られている。平面形は長軸(NE-SW)1.68ｍ×短軸(NW-SE)0.82ｍ(残存値)の略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.39ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3640(第55図)

ＭＣ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ2241・ＳＤ2243を切っている。平面形は長軸(N-S)0.66ｍ×短軸(E-W)0.52ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部４点15.4g・体部11点57.4g・底部２点85.4g)、土師器甕(口縁部２点77.2g・胴部26点416.2g・底部３点298.2g)、鉄滓(破片１点2.8g)、礫(破片１点40.1g)が出土した(第106図７・８)。

ＳＫ3669(第55図)

ＬＣ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3737を切り、ＳＫ3670を切っている。平面形は長軸(N-S)1.84ｍ×短軸(E-W)1.60ｍ(残存値)の略円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、須恵器甕(胴部１点14.6g)、土師器坏(口縁部１点3.0g・体部21点63.1g・底部２点14.8g)、土師器甕(口縁部２点90.4g・胴部18点158.0g・底部１点13.2g)、炉壁(破片４点15.8g)、被熱礫(破片３点20.7g)、礫(破片１点150.3g)が出土した(第106図９)。

ＳＫ3670(第55図)

ＬＣ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3669・ＳＫ3737を切っている。平面形は長軸(NE-SW)1.38ｍ(残存値)×短軸(NW-SE)1.54ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部３点36.8g・体部12点17.0g・底部１点20.0g)、土師器甕(口縁部１点24.6g・胴部19点205.3g・底部２点100.1g)、被熱礫(破片３点13.2g)が出土した(第106図10・11)。

ＳＫ3673(第55図)

ＭＦ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3834に切られている。平面形は長軸(N-S)0.95ｍ×短軸(E-W)0.56ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁は急に立

ち上がり、北側にテラス状の段をもつ。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は、礫(破片３点6901.1g)が出土した。

ＳＫ3737(第55図)

ＬＣ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3669とＳＫ3670に切られている。平面形は長軸(NW-SE)0.70m×短軸(NE-SW)0.53mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.26mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、礫(破片１点4.8g)が出土した。

ＳＫ3738(第56図)

ＭＧ50・ＭＧ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ3511を切り、ＳＫＰ4011・ＳＫＰ4688に切られている。平面形は長軸(E-W)1.54m×短軸(N-S)1.28mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.33mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がり、北東側にテラス状の段をもつ。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部７点25.2g・体部34点90.5g・底部９点427.4g)、土師器甕(口縁部２点28.0g・胴部22点212.8g・底部４点498.7g)、粘土塊(破片４点26.6g)、被熱礫(破片１点272.0g)、礫(破片２点5.3g)が出土した(第106図12～15)。

ＳＫ3772(第56図)

ＬＯ48・ＬＰ48グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)2.40m×短軸(NE-SW)1.50mの瓢箪形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部21点72.1g・体部27点78.3g・底部６点206.0g)、土師器甕(口縁部１点4.0g・胴部42点392.8g)、羽口(破片４点139.0g)、粘土塊(破片51点130.7g)、鍛冶滓(２点23.0g)が出土した(第107図１～３)。

ＳＫ3817(第56図)

ＭＩ69グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)2.24m×短軸(NE-SW)1.40mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16mである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3822(第70図)

ＬＰ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＮ3717がＳＫ3822の覆土上に検出された。平面形は長軸(E-W)2.00m×短軸(N-S)1.84mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.30mである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部６点15.1g・体部49点94.8g・底部９点169.5g)、土師器甕(口縁部３点41.2g・胴部59点457.5g)、羽口(破片10点63.2g)、被熱礫(破片１点106.7g)、礫(破片５点18.2g)が出土した(第107図４)。

ＳＫ3856(第56図)

ＭＧ49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.58m×短軸(NW-SE)0.52mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.24mである。底面はやや丸みがあり、壁は急に立ち上がる。覆土

は４層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3866（第56図）

ＭＧ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3868を切り、ＳＫＰ3867・ＳＫＰ3869・ＳＫＰ6304に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.51ｍ(残存値)×短軸(NW-SE)0.36ｍ(残存値)の略円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器甕(口縁部１点38.9g・胴部７点106.8g)、羽口(破片２点25.6g)、礫(破片２点66.7g)が出土した。

ＳＫ3933（第57図）

ＬＯ48・ＬＰ48・ＬＰ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＩ4013・ＳＫＰ4739を切っている。平面形は長軸(N-S)2.66ｍ×短軸(E-W)1.00ｍの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部10点47.5g・体部58点134.0g・底部14点150.1g)、土師器甕(口縁部１点18.2g・胴部46点307.9g・底部２点111.5g)、羽口(破片３点59.1g)、粘土塊(破片９点20.5g)、被熱礫(破片36点1223.6g)、礫(破片６点108.2g)が出土した(第109図５・６)。

ＳＫ3969（第57図）

ＬＳ46・ＬＳ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4047に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.50ｍ×短軸(NE-SW)1.08ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.44ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(体部１点4.5g)、粘土塊(破片１点10.9g)が出土した。

ＳＫ3975（第57図）

ＭＧ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ4085と切り合い関係をもつが、新旧は不明である。平面形は長軸(E-W)0.94ｍ×短軸(N-S)0.59ｍの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は丸みをもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(体部１点2.2g)、粘土塊(破片３点11.7g点)が出土した。

ＳＫ3983（第96図）

ＬＭ60・ＬＮ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＷ3982に切られている。平面形は径0.64ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、鉄滓(１点21.5g)、礫(破片１点111.5g)が出土した。

ＳＫ3985（第96図）

ＬＭ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3986に切られている。平面形は径0.57ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3986（第96図）

ＬＭ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3985を切っており、ＳＷ3982に切られている。平面形は径0.42ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は丸みを帯び、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3987（第96図）

ＬＮ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＷ3982に切られている。平面形は遺構の大半が失われているため、不明。確認面からの深さは0.34ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ3996（第57図）

ＭＦ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.60ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.06ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部１点3.1g）、羽口（破片１点12.7g）が出土した。

ＳＫ4024（第57図）

ＬＱ51・ＬＲ51グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）1.61ｍ×短軸（NE-SW）0.60ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.35ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、礫（破片１点1.6g）が出土した。

ＳＫ4083（第57図）

ＭＦ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）1.42ｍ×短軸（NE-SW）1.34ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部１点5.9g・体部６点16.2g・底部１点28.1g）、鉄滓（破片１点2.9g）、羽口（破片１点65.1g）、被熱礫（破片１点80.5g）、礫（破片１点5.3g）が出土した。

ＳＫ4102（第57図）

ＬＭ61グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（N-S）1.51ｍ×短軸（E-W）1.45ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.24ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏（体部２点19.5g）、土師器甕（口縁部３点76.4g・胴部15点444.0g・底部１点60.6g）、鉄床石（破片１点741.0g）、被熱礫（破片１点7.8g）、礫（破片１点4.9g）が出土した。

ＳＫ4117（第57図）

ＭＥ50・ＭＦ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）0.68ｍ×短軸（NE-SW）0.59ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器甕（胴部３点23.3g）が出土した。

ＳＫ4118(第58図)

ＭＥ51・ＭＦ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.65m×短軸(E-W)0.58mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.16mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器甕(胴部１点16.0g)、羽口(破片３点141.1g)、礫(破片１点32.6g)が出土した。

ＳＫ4124(第58図)

ＬＳ48・ＬＳ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4123を切っている。平面形は長軸(NE-SW)0.86m×短軸(NW-SE)0.75mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.15mである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(底部１点17.0g)が出土した。

ＳＫ4126(第58図)

ＬＴ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.72mの円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面はやや凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器甕(体部３点10.8g)が出土した。

ＳＫ4127(第58図)

ＬＴ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ4120を切り、ＳＫ4193に切られている。平面形は長軸(NW-SE)0.91m×短軸(NE-SW)0.80mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.53mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は５層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部９点44.1g・体部15点59.3g・底部８点203.1g)、土師器甕(口縁部４点81.9g・胴部31点629.0g・底部２点76.3g)、羽口(破片４点85.1g)、粘土塊(破片２点22.6g)、被熱礫(破片５点95.9g)、礫(破片４点146.9g)が出土した(第107図７・８)。

ＳＫ4147(第58図)

ＬＳ47・ＬＳ48・ＬＴ47グリッド第Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.66m×短軸(E-W)1.10mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.24mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。３類。

遺物は、土師器坏(口縁部８点39.8g・体部５点13.0g・底部２点25.2g)、土師器甕(口縁部２点37.9g・胴部51点684.5g・底部１点97.8g)、鉄滓(４点35.0g)、粘土塊(破片６点23.0g)、被熱礫(完形１点882.9g)が出土した。

ＳＫ4177(第58図)

ＭＪ47・ＭＪ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4428に切られている。平面形は長軸(N-S)1.55m×短軸(E-W)0.94mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.27mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は５層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点4.2g・体部８点8.9g・底部１点9.8g)、土師器甕(胴部５点20.7g・底部１点10.3g)、鉄滓(破片６点44.9g)、粘土塊(破片４点6.9g)、被熱礫(破片１点6.1g)が出土した。

ＳＫ4193(第58図)

ＬＴ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ4120・ＳＫ4127を切っている。平面形は長軸(NE-SW)0.40m(残存値)×短軸(NW-SE)0.58mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.28mである。底面は平

坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器甕(胴部４点59.5g)が出土した。

ＳＫ4199(第59図)

ＬＲ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.71m×短軸(NW-SE)0.65mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.19mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、須恵器甕(破片１点16.6g)、土師器甕(胴部４点120.4g)が出土した。

ＳＫ4200(第59図)

ＬＮ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ6117に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.65m×短軸(NE-SW)1.24mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.21mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は４層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部９点29.4g)、土師器甕(口縁部１点18.7g・胴部11点129.5g)が出土した。

ＳＫ4219(第59図)

ＬＰ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.80m×短軸(NE-SW)0.36mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(体部２点3.3g・底部１点17.6g)、被熱礫(破片３点10.7g)が出土した。

ＳＫ4318(第59図)

ＬＴ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.50m×短軸(E-W)0.45mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(底部１点56.7g)、土師器甕(口縁部１点186.9g・胴部６点168.7g・底部１点56.4g)が出土した(第109図９)。

ＳＫ4322(第59図)

ＬＴ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4174に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.23m×短軸(NE-SW)0.91mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部４点28.7g)、土師器甕(胴部４点36.4g)、被熱礫(破片１点1830.0g)出土した。

ＳＫ4323(第59図)

ＬＴ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4370に切られている。平面形は長軸(E-W)0.56m(残存値)×短軸(N-S)0.50mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部４点12.7g)、土師器甕(口縁部１点24.5g・胴部７点166.4g)、礫(破片１点29.7g)が出土した。

ＳＫ4400(第59図)

ＬＱ52・ＬＱ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ4420・ＳＫＰ5233に切られている。平面形

は長軸(NW-SE)1.75ｍ×短軸(NE-SW)1.70ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.36ｍである。底面は凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部19点103.2g・体部７点23.2g・底部12点463.6g)、土師器甕(口縁部４点260.3g・胴部62点871.0g・底部５点253.9g)、土錘(破片４点80.4g)、羽口(破片２点54.7g)、粘土塊(破片１点0.9g)、被熱礫(破片７点352.0g)、礫(破片９点358.7g)が出土した(第107図10～19)。

ＳＫ4432(第60図)

ＬＲ52グリッド第Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.28ｍ×短軸(NE-SW)0.98ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部23点104.5g・体部53点156.6g・底部５点128.7g)、土師器甕(口縁部９点138.4g・胴部128点1340.3g・底部４点858.6g)、小形壺(完形１点96.2g)、羽口(破片12点338.7g)、粘土塊(破片14点42.4g)、被熱礫(破片10点79.7g)、礫(破片11点131.9g)が出土した(第108図１～４)。

ＳＫ4468(第60図)

ＬＭ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ6286に切られている。平面形は長軸(E-W)0.72ｍ×短軸(N-S)0.62ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は丸みをもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点1.4g)が出土した。

ＳＫ4491(第60図)

ＬＲ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.00ｍ×短軸(E-W)0.72ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点1.5g)、礫(破片３点14.2g)が出土した。

ＳＫ4534(第60図)

ＬＭ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.70ｍ×短軸(NW-SE)0.48ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.26ｍである。底面は丸みをもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。北西側にピットが１基穿たれている。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ4536(第89図)

ＬＫ51・ＬＬ51グリッド第Ⅲ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.98ｍ×短軸(E-W)0.56ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は７層に分けられる。３類。

底面から遺構の長軸方向に沿って炭化材(丸材)が積み重ねられるように出土したほかに遺物は出土しなかった。本遺構は炭窯の可能性もあるが底面・壁面ともに被熱しておらず、こうした形態の炭窯も本遺跡では検出されていないため、ここでは土坑とした。このすぐ南側にはＳＳ3946があり、これと関わる遺構と考えられる。

ＳＫ4566(第60図)

ＭＨ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ4567を切っている。平面形は長軸(NE-SW)1.72ｍ×短

軸(NW-SE)1.30ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.26ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部３点33.2g・体部16点57.3g・底部４点71.7g)、土師器甕(胴部24点310.6g・底部２点101.7g)、粘土塊(破片５点11.8g)、被熱礫(破片３点36.9g)、礫(破片２点4.1g)が出土した(第108図５)。

ＳＫ4567(第60図)

ＭＨ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ4566に切られている。平面形は切られており不明であるが、長軸(NW-SE)1.04ｍ×短軸(NE-SW)0.51ｍ(残存値)をはかる。確認面からの深さは0.18ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ4573(第25図)

ＭＤ52グリッドＳＩ4444床面で確認された。ＳＩ4444を切られている。平面形は径1.70ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点9.0g・体部５点13.9g)、土師器甕(胴部15点246.7g)、粘土塊(破片４点9.6g)、被熱礫(破片１点463.0g)、礫(破片３点441.0g)が出土した。

ＳＫ4617(第60図)

ＭＡ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.73ｍ×短軸(E-W)0.59ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ4627(第60図)

ＬＳ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.88ｍ×短軸(E-W)0.73ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(体部１点2.4g)が出土した。

ＳＫ4646(第60図)

ＬＪ48・ＬＪ49・ＬＫ48Ｌ・Ｋ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.96ｍ×短軸(N-S)0.82ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられた。底面にピットが２基穿たれている。３類。

遺物は、土師器坏(底部２点35.5g)、土師器甕(胴部８点74.7g)、被熱礫(破片２点4.1g)、礫(破片１点10.2g)点が出土した(第108図６)。

ＳＫ4730(第60図)

ＬＰ64グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.65ｍ×短軸(N-S)0.57ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、被熱礫(破片１点290.0g)が出土した。

ＳＫ4784（第61図）

ＬＰ49・ＬＰ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)1.60ｍ×短軸(N-S)0.74ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。底面にピットが２基穿たれている。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ4800（第61図）

ＬＬ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5017を切り、ＳＫＰ5016に切られている。平面形は長軸(NE-SW)1.42ｍ×短軸(NW-SE)1.08ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.3g・体部４点13.0g・底部１点11.2g)、土師器甕(胴部８点70.0g)、被熱礫(破片１点2.3g)、礫(破片１点7.4g)が出土した。

ＳＫ4802（第61図）

ＬＯ50・ＬＯ51・ＬＰ50・ＬＰ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)1.88ｍ×短軸(NW-SE)1.75ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。底面にピットが１基穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部12点41.6g・体部12点51.1g・底部４点112.2g)、土師器甕(胴部30点216.0g)、土錘(破片１点5.0g)、羽口(破片３点278.0g)、礫(破片20点684.0g)、鉄滓(１点10.9g)が出土した(第108図７)。

ＳＫ4809（第90図）

ＬＫ50・ＬＬ50グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.71ｍ×短軸(NW-SE)0.68ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.31ｍである。底面は凹凸があり、壁は北側で急に、南側で緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。１類。

遺物は、鍛冶滓(13点53.5g)、流動滓(５点19.2g)、鍛造剥片が出土した。壁面や床面は被熱しておらず、製鉄関連遺物は北側にある鍛冶炉(ＳＳ3947)からの流れ込みと考えられる。

ＳＫ4850（第61図）

ＬＭ53・ＬＮ53グリッド第Ⅳ～Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5736を切っている。平面形は径1.50ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。底面は広く被熱していた。２類。

遺物は、須恵器甕(胴部３点855.0g)、土師器坏(口縁部55点292.2g・体部32点306.1g・底部７点207.7g)、土師器甕(口縁部２点9.2g・胴部12点148.6g・底部２点16.3g)、粘土塊(破片８点206.7g)、被熱礫(破片２点227.6g)、礫(破片７点4407.8g)が出土した(第108図８～12)。

ＳＫ4851（第62図）

ＬＬ53・ＬＭ53グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は径0.98ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.62ｍである。底面は凹凸があり、壁は西側で緩やかに、東側で急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ4875（第62図）

ＬＪ50・ＬＫ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径2.40ｍの略円形を呈し、南側には長軸1.30ｍの突出した掘り込みがある。確認面からの深さは0.62ｍである。底面は凹凸があり、壁は西側は緩やかに、東側は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部13点24.3g・体部28点170.3g・底部９点141.3g）、土師器甕（口縁部11点96.1g・胴部93点806.1g・底部５点123.0g）、土錘（破片１点11.6g）、炉壁（破片４点74.4g）、羽口（破片13点331.1g）、粘土塊（破片20点69.0g）、被熱礫（破片49点10529.2g）、礫（破片25点555.9g）が出土した（第108図13～15）。

ＳＫ4931（第62図）

ＭＡ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（E-W）0.90ｍ×短軸（N-S）0.74ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。北側にピットが１基穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏（体部３点19.7g・底部１点11.2g）、土師器甕（口縁部１点27.2g）、羽口（破片２点24.5g）、礫（破片８点61.0g）、鉄滓（１点25.8g）が出土した。

ＳＫ4938（第62図）

ＬＮ50グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸（E-W）0.82ｍ×短軸（N-S）0.69ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。ピットが２基穿たれている。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5000（第62図）

ＬＴ48・ＬＴ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ4120・ＳＫＰ5215・ＳＫＰ5312に切られている。平面形は長軸（N-S）1.36ｍ×短軸（E-W）0.68ｍの方形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。ピットが２基穿たれている。３類。

遺物は、土師器坏（口縁部２点17.8g・体部３点6.9g）、土師器甕（胴部２点18.6g）、鉄滓（破片１点9.9g）、粘土塊（破片６点27.3g）、礫（破片１点3.3g）が出土した。

ＳＫ5017（第61図）

ＬＬ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ4800に切られている。平面形は径0.60ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.36ｍである。底面は平坦で、壁は段をもちながら急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5018（第63図）

ＬＯ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）1.19ｍ×短軸（NE-SW）1.08ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏（口縁部１点12.1g・体部９点11.0g・底部１点17.2g）、土師器甕（胴部12点105.3g）、粘土塊（破片５点8.3g）、被熱礫（破片１点5.0g）が出土した（第108図16）。

ＳＫ5019（第63図）

ＬＭ48・ＬＭ49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.68ｍ×短軸(E-W)1.28ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(体部８点19.8g)、土師器甕(胴部７点134.9g)、羽口(破片１点23.0g)が出土した。

ＳＫ5020（第63図）

ＬＭ50・ＬＭ51グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫＰ5419・ＳＫＰ5423・ＳＫＰ5424を切っており、ＳＫＰ5422に切られている。平面形は長軸(NW-SE)0.85ｍ×短軸(NE-SW)0.57ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.37ｍである。底面は丸みをもち、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は、土師器甕(胴部２点8.8g)、羽口(破片１点950.0g)、粘土塊(破片６点24.8g)、被熱礫(破片２点76.2g)、礫(破片３点318.0g)が出土した。

ＳＫ5087（第63図）

ＭＩ45・ＭＩ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5088を切っている。平面形は長軸(NE-SW)0.49ｍ×短軸(NW-SE)0.44ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点3.6g)が出土した。

ＳＫ5212（第63図）

ＬＳ48・ＬＳ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4667・ＳＫＰ4668・ＳＫＰ5676に切られている。平面形は長軸(NE-SW)0.96ｍ×短軸(NW-SE)0.84ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.60ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層のみである。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点6.6g・体部４点11.2g)、土師器甕(胴部５点24.5g)、礫(破片３点13.9g)が出土した。

ＳＫ5235（第63図）

ＬＯ61グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.02ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点4.5g)、土師器甕(胴部２点44.8g)、羽口(破片３点35.3g)が出土した。

ＳＫ5256（第63図）

ＬＮ51・ＬＯ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5850を切り、ＳＫＰ5851に切られている。平面形は長軸(E-W)0.50ｍ×短軸(N-S)0.24ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、礫(１点35.0g)が出土した。

ＳＫ5272（第63図）

ＬＭ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.40ｍ×短軸(NE-SW)0.62ｍの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部３点9.3g・底部１点8.6g)、土師器甕(胴部６点60.3g)、被熱礫(破片１点

24.4g)が出土した。

ＳＫ5273(第64図)

ＬＮ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.72ｍ×短軸(E-W)0.50ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点1.0g)、土師器甕(胴部４点8.4g)、被熱礫(破片３点12.3g)、礫(破片９点45.5g)が出土した。

ＳＫ5310(第64図)

ＬＫ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.96ｍ×短軸(N-S)0.72ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は５層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点2.7g・底部１点29.3g)、土師器甕(口縁部１点18.2g・胴部１点44.7g)が出土した。

ＳＫ5340(第64図)

ＬＯ49・ＬＯ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.80ｍ×短軸(NE-SW)0.54ｍの不整形を呈する。確認面からの深さは0.40ｍである。底面は凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点8.8g・体部５点7.5g・底部３点33.8g)、土師器甕(胴部６点43.7g)、羽口(破片２点42.0g)が出土した。

ＳＫ5362(第24図)

ＬＯ49グリッドのＳＩ4300床面で確認された。ＳＩ4300に切られている。平面形は長軸(NE-SW)1.50ｍ×短軸(NW-SE)0.80ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.36ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏(体部９点17.3g)、土師器甕(胴部５点35.0g)、被熱礫(破片８点115.2)、礫(破片２点47.1g)が出土した。

ＳＫ5395(第64図)

ＬＪ49・ＬＪ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)1.84ｍ×短軸(N-S)1.60ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.39ｍである。底面は凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。３類。

遺物は、土師器坏(口縁部４点17.7g・体部８点27.9g・底部４点107.3g)、土師器甕(口縁部４点134.2g・胴部17点162.8g・底部２点38.8g)、湯口鉄塊(２点49.4g)、羽口(破片４点62.9g)、粘土塊(破片５点34.0g)、被熱礫(破片１点409.0g)、礫(破片３点155.0g)が出土した(第108図17・18、第163図８・９、第164図５)。

ＳＫ5400(第64図)

ＬＱ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)1.00ｍ×短軸(NW-SE)0.70ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5517(第23図)

ＬＳ50グリッドのＳＩ4188床面で確認された。ＳＩ4188に切られている。平面形は長軸(NW-SW)0.86ｍ×短軸(NE-SW)0.42ｍの隅丸長方形を呈する。確認面からの深さは0.06ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。３類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5621(第91図)

ＬＫ51グリッドⅣ層上面で確認された。平面形は径0.46ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は、鍛冶滓(７点18.6g)が出土した。西隣りにあるＳＳ4876との位置関係から、鉄床石の抜き取り穴の可能性がある。

ＳＫ5623(第64図)

ＬＪ51・ＬＫ51グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.42ｍ×短軸(E-W)1.10ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.50ｍである。底面はやや凹凸があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は７層に分けられる。２類。

遺物は、鉄滓(２点8.9g)が出土した。

ＳＫ5654(第65図)

ＬＪ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は、半分以上が調査区外にあるため不明である。確認面からの深さは0.32ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。類型化不可。

遺物は、土師器甕(胴部２点64.4g)、礫(破片２点202.3g)が出土した。

ＳＫ5704(第65図)

ＭＡ65・ＭＡ66・ＭＢ65・ＭＢ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.88ｍ×短軸(N-S)0.76ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5705(第65図)

ＬＴ64グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.58ｍ×短軸(NE-SW)1.37ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.68ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。西側にテラス状の段をもつ。覆土は４層に分けられる。４類。

遺物は、須恵器甕(胴部１点8.9g)、土師器坏(口縁部７点24.9g・体部16点60.9g・底部７点104.9g)、土師器甕(口縁部１点5.5g・胴部10点57.2g)、羽口(破片12点329.5g)、粘土塊(破片４点12.9g)、礫(破片13点170.6g)が出土した(第109図１・２)。

ＳＫ5707(第65図)

ＬＱ64グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.20ｍ×短軸(NE-SW)1.00ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。４類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5709(第65図)

ＬＳ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.86ｍ×短軸(NE-SW)0.58ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.28ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は急に立ち上がる。南東側にテラス状の段をもつ。覆土は４層に分けられる。４類。

遺物は、土師器甕(胴部１点22.1g)が出土した。

ＳＫ5712(第65図)

ＬＳ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5713・ＳＫ574・ＳＫ5746を切っている。平面形は長軸(NW-SE)1.08ｍ×短軸(NE-SW)0.76ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点2.7g)が出土した。

ＳＫ5713(第65図)

ＬＳ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5745を切っており、ＳＫ5712に切られている。平面形は径0.50ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.34ｍである。底面は平坦で南側に傾斜し、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.7g・体部４点30.4g)、土師器甕(胴部８点216.0g)、被熱礫(破片１点573.0g)が出土した。

ＳＫ5736(第61図)

ＬＭ53・ＬＮ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ4850に切られている。平面形は長軸(E-W)0.50ｍ×短軸(N-S)0.30ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.24ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5745(第65図)

ＬＳ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5712・ＳＫ5713に切られている。平面形は径0.44ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(体部１点2.6g)が出土した。

ＳＫ5746(第65図)

ＬＳ65・ＬＳ66・ＬＴ65・ＬＴ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5712に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.21ｍ×短軸(NE-SW)1.09ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.08ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部１点4.1g)が出土した。

ＳＫ5747(第66図)

ＬＬ53・ＬＬ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5869を切っており、ＳＤ5274に切られている。平面形は長軸(E-W)1.32ｍ×短軸(N-S)1.10ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は平坦で、壁はやや緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。北側底面にピットが１基穿たれている。２類。

遺物は、鉄滓（２点16.2g）が出土した。

ＳＫ5796（第66図）

ＬＬ54・ＬM54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）1.78ｍ×短軸（NE-SW）1.06ｍの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。底面は平坦で、北側底面にさらに掘り込みをもつ。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部１点4.7g・体部５点15.8g・底部１点16.2g）、土師器甕（口縁部１点22.9g・胴部７点72.0g）、粘土塊（破片１点11.6g）、被熱礫（破片３点76.5g）が出土した。

ＳＫ5865（第66図）

ＬＳ56・ＬＳ57グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）1.80ｍ×短軸（NE-SW）1.56ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.18ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏（口縁部２点3.4g・体部７点16.5g・底部２点30.3g）、土師器甕（胴部３点25.9g）、礫（破片１点6.7g）が出土した（第109図３）。

ＳＫ5866（第29図）

ＬＲ56グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5840に切られている。平面形は径1.24ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（底部１点38.5g）、土師器甕（胴部１点92.4g）が出土した（第109図４）。

ＳＫ5868（第66図）

ＬM55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（N-S）1.38ｍ×短軸（E-W）1.28ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.26ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏（体部９点36.0g）、土師器甕（胴部２点18.7g）、礫（破片１点208.0g）が出土した。

ＳＫ5869（第66図）

ＬＬ53・ＬＬ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5747に切られている。平面形は径0.58ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5870（第66図）

ＬＳ64・ＬＳ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NW-SE）1.04ｍ×短軸（NE-SW）0.88ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.24ｍである。底面は平坦で、壁は段をもちながらやや急に立ち上がる。覆土は１層である。壁面には一部被熱の痕跡が認められた。２類。

遺物は、土師器坏（体部９点29.4g・底部１点3.9g）、土師器甕（口縁部１点50.8g・胴部９点139.1g・底部１点15.3g）、礫（破片１点40.3g）が出土した（第109図５）。

ＳＫ5872（第67図）

ＬＳ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（N-S）0.84ｍ×短軸（E-W）0.71ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁は北側で緩やかに、南側でやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点2.5g)、土師器甕(胴部２点8.5g)、礫(破片２点40.1g)が出土した。

ＳＫ5873(第67図)

ＬＳ64グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.99m×短軸(NE-SW)0.62mの方形を呈する。確認面からの深さは0.40mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。３類。

遺物は、土師器甕(口縁部２点68.5g)、粘土塊(破片１点5.0g)、被熱礫(破片１点14.9g)、礫(破片１点11.0g)が出土した(第109図６・７)。

ＳＫ5883(第67図)

ＬＳ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5913を切っている。平面形は長軸(NW-SE)1.94m×短軸(NE-SW)0.82mの長楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。２類。

遺物は、土師器坏(体部３点14.8g)が出土した。

ＳＫ5884(第67図)

ＬＳ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.10m×短軸(E-W)0.94mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.10mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点6.3g・体部４点15.9g)、土師器甕(口縁部２点34.1g・胴部９点212.3g)、粘土塊(破片１点20.0g)、被熱礫(破片１点5.0g)が出土した。

ＳＫ5885(第67図)

ＬＴ54・ＬＴ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5886・ＳＫＰ5914・ＳＫＰ6019・ＳＫＰ6227に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.62m×短軸(NE-SW)0.88mの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部３点6.6g・底部１点2.3g)、土師器甕(胴部16点113.5g・底部１点14.6g)、土錘(破片１点16.5g)、礫(破片３点10.7g)が出土した。

ＳＫ5886(第67図)

ＬＴ54・ＬＴ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5885・ＳＫＰ5914を切っている。平面形は長軸(NW-SE)0.70m×短軸(NE-SW)0.66mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.26mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(体部２点6.7g)、土師器甕(胴部５点45.2g)、礫(破片１点5.7g)が出土した。

ＳＫ5895(第67図)

ＬＴ55・ＭＡ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.60m×短軸(NE-SW)1.56mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.18mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。南西側にピットが１基穿たれている。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.1g・体部22点33.2g・底部３点26.4g)、土師器甕(胴部13点96.0g)、羽口(破片１点2.1g)、粘土塊(破片16点30.6g)、鉄鍋(口縁部２点53.5g・胴部17点285.9g)、被熱礫(破片３点11.3g)、礫(破片５点15.1g)が出土した(第164図６～８)。

ＳＫ5913(第67図)

ＬＳ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5883に切られている。平面形は長軸(E-W)1.28m×短軸(N-S)1.18mの略円形を呈する。確認面からの深さは0.20mである。底面は東側に傾斜をもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点4.0g・体部11点22.2g・底部２点12.2g)、土師器甕(胴部12点72.2g・底部３点61.1g)、鉄滓(破片１点8.9g)粘土塊(破片２点3.4g)、被熱礫(破片４点7.5g)、礫(破片３点53.8g)出土した。

ＳＫ5953(第26図)

ＬＰ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5839に切られている。平面形は遺構の大半が切られているため不明。確認面からの深さは0.12mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5954(第26図)

ＬＰ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5839を切っており、ＳＫ6128に切られている。平面形は遺構の大半が切られているため不明。確認面からの深さは0.17mである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。類型化不可。

遺物は、土師器甕(胴部１点4.1g)が出土した。

ＳＫ5971(第29図)

ＬＲ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5840に切られている。平面形は、径0.80mで遺構の半分が失われているが円形を呈すると推測される。確認面からの深さは0.16mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ5972(第68図)

ＬＲ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ5867に切られている。平面形は長軸(NE-SW)1.44m×短軸(NW-SE)1.02mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.1g・底部１点13.4g)が出土した。

ＳＫ6003(第96図)

ＬＳ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＷ5874に切られている。平面形は長軸(NW-SE)0.60m×短軸(NE-SW)0.52mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.25mである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。１類。

遺物は、土師器坏(口縁部４点24.4g・体部12点36.6g)、土師器甕(胴部２点23.1g)が出土した。

ＳＫ6055(第29図)

ＬＲ56グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5840に切られている。平面形は、径0.70mで遺構の半分が失われているが楕円形を呈すると推測される。確認面からの深さは0.22mである。底面は不明で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。類型化不可。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.5g・体部１点0.8g)、土師器甕(胴部２点116.9g)が出土した。

ＳＫ6088（第68図）

ＬＱ56グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.80ｍ×短軸(NE-SW)0.52ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ6115（第68図）

ＬＯ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ6149・ＳＫＰ6150・ＳＫＰ6151に切られている。平面形は長軸(E-W)0.74ｍ×短軸(N-S)0.56ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.09ｍである。底面はやや起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。２類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ6128（第26図）

ＬＰ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5839・ＳＫ5954を切っており、ＳＫ5781に切られている。平面形は径0.86ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.25ｍである。底面は起伏があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。１類。

遺物は、土師器坏(体部３点12.4g・底部１点12.7g)が出土した。

ＳＫ6247（第68図）

ＭＡ54・ＭＡ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ6248に切られている。平面形は長軸(N-S)2.40ｍ×短軸(E-W)1.82ｍの不整形を呈する。確認面からの深さは0.29ｍである。底面は起伏があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

遺物は、土師器坏(体部６点17.9g・底部３点69.5g)、土師器甕(口縁部１点2.3g・胴部10点111.4g・底部２点47.8g)、粘土塊(破片２点8.1g)、被熱礫(破片２点3.9g)が出土した(第109図８)。

ＳＫ6248（第68図）

ＭＡ54・ＭＡ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ6247を切っている。平面形は長軸(N-S)1.48ｍ×短軸(E-W)0.94ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.40ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。３類。

遺物は、土師器坏(口縁部２点2.5g・体部14点38.2g・底部３点26.5g)、土師器甕(口縁部４点43.4g・胴部20点216.5g)、粘土塊(破片２点3.5g)、被熱礫(破片２点13.7g)、礫(破片１点44.6g)が出土した。

ＳＫ6305（第30図）

ＬＲ52・ＬＳ52・ＬＳ53グリッドのＳＫＩ4707床面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.50ｍ×短軸(NE-SW)0.78ｍの略隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.23ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。３類。

遺物は出土しなかった。

ＳＫ6306（第86図）

ＭＨ46グリッドのＳＸ4880覆土上で確認された。平面形は径0.59ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.34ｍである。底面は丸みを帯び、壁はやや急に立ち上がる。覆土は６層に分けられる。４類。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.7g・体部３点31.2g)、土師器甕(胴部３点27.9g)、羽口(破片５点

883.5g)、礫(破片２点162.9g)が出土した。

６　焼土遺構(第12図)

ＳＮ31(第69図)

ＬＭ53グリッド第Ⅲ層上面で確認された。トレンチにより遺構の大半が失われており、平面形は不明。

遺物は、土師器坏(体部４点12.6g・底部１点5.4g)、土師器甕(胴部14点91.6g)、炉壁(破片２点10.3g)、粘土塊(破片２点3.4g)、被熱礫(破片15点99.9g)、礫(破片20点117.4g)が出土した。

ＳＮ41(第69図)

ＬＲ49グリッド第Ⅲ層上面で確認された。ＳＤ2201に切られている。平面形は径0.73ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.20ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。

遺物は、土師器坏(底部１点11.5g)、土師器甕(胴部１点13.0g)、粘土塊(破片４点52.3g)が出土した。

ＳＮ90(第69図)

ＬＩ36グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.42ｍ×短軸(N-S)0.30ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面はやや丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ795(第69図)

ＭＡ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.48ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.04ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ1180(第69図)

ＭＢ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.61ｍの略台形を呈する。確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平坦で中央に窪みをもち、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ1260(第69図)

ＭＩ45グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は径1.03ｍの不定形な形状を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(口縁部２点12.2g・体部３点10.3g・底部２点22.3g)、土師器甕(口縁部２点25.2g・胴部25点90.8g・底部２点161.3g)、粘土塊(破片２点669.7g)、被熱礫(破片23点3466.8g)が出土した。

ＳＮ1380(第69図)

ＬＴ41グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫＰ6293に切られている。平面形は径0.35ｍの略円形を呈する。掘り込みは確認されなかった。覆土は３層に分けられた。

遺物は、土師器坏(体部１点2.4g)が出土した。

ＳＮ1902（第69図）

ＭＨ44グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は径0.52ｍの不定形な形状を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（体部５点14.3g）、土師器甕（胴部15点133.2g）が出土した。

ＳＮ1903（第69図）

ＭＨ45・ＭＩ45グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は径0.52ｍの不定形な形状を呈する。掘り込みは確認されなかった。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（口縁部２点3.2g）、土師器甕（胴部２点8.5g）が出土した。

ＳＮ2451（第69図）

ＭＤ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（NE-SW）0.70ｍ×短軸（NW-SE）0.62ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ2548（第69図）

ＭＤ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.08ｍのいびつな円形を呈する。確認面からの深さは0.26ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。東壁にピットが１基穿たれている。

遺物は、土師器甕（胴部８点102.7g・底部２点24.1g）、粘土塊（破片４点99.1g）、礫（破片３点5.3g）が出土した。

ＳＮ2763（第70図）

ＭＫ45グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸（E-W）0.36ｍ×短軸（N-S）0.26ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.05ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（口縁部４点29.4g・底部２点76.5g）、土師器甕（口縁部１点18.7g・胴部７点72.2g）、礫（破片５点288.1g）が出土した（第109図９・10）。

ＳＮ3238（第70図）

ＭＥ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3239を切っている。平面形は長軸（NW-SE）0.43ｍ×短軸（NE-SW）0.37ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（体部１点1.8g）、土師器甕（胴部１点3.9g）が出土した。

ＳＮ3371（第70図）

ＭＦ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3456・3457・3467に切られている。平面形は長軸（NE-SW）0.89ｍ×短軸（NW-SE）0.64ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

遺物は、土師器坏（口縁部１点5.1g・底部２点94.9g）、土師器甕（口縁部５点262.4g・胴部30点796.3g）、礫（破片１点60.6g）が出土した（第109図12）。

ＳＮ3402（第70図）

ＭＥ49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.62ｍ×短軸(NE-SW)0.48ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されなかった。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ3434（第70図）

ＭＢ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.48ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.06ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。焼土の広がりの南東側に暗褐色土が確認され、羽口が突き刺さった状態で出土した。鍛冶炉の可能性もあり、土壌サンプルを採取したが、鍛造剥片や粒状滓等の鍛冶関連遺物は検出されなかった。覆土は７層に分けられた。

遺物は、土師器坏(体部２点3.1g)、土師器甕(胴部４点67.1g)、羽口(破片16点310.0g)が出土した。

ＳＮ3577（第30図）

ＬＳ52グリッド第Ⅲ層中で確認された。ＳＫＩ4707・ＳＫ6305と接するようにして検出され、切り合い関係は不明である。平面形は長軸(NE-SW)0.58ｍ×短軸(NW-SE)0.36ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されなかった。

遺物は、土師器坏(体部９点41.2g)、土師器甕(胴部５点119.3g)、粘土塊(破片３点1.6g)が出土した。

ＳＮ3676（第70図）

ＬＱ50グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(N-S)0.65ｍ×短軸(E-W)0.46ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。周囲には径約0.30ｍの柱穴様ピットが本遺構を取り囲むように確認されている。何らかの関係があったのかもしれない。

遺物は、土師器坏(口縁部３点15.7g・体部１点2.7g・底部１点32.1g)、土師器甕(胴部17点53.0g)、粘土塊(破片２点10.6g)、土製勾玉(１点9.4g)、鉄滓(１点9.9g)が出土した(第109図11)。

ＳＮ3690（第70図）

ＬＴ50グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.96ｍ×短軸(NE-SW)0.62ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、４層に分けられる。

遺物は、土師器坏(口縁部４点27.4g・体部３点12.7g・底部１点18.4g)、土師器甕(口縁部８点3337.8g・胴部18点1007.3g)、礫(破片２点129.4g)が出土した(第110図１～５)。

ＳＮ3717（第70図）

ＬＰ48グリッド第Ⅲ層中で確認された。ＳＫ3822覆土上面に重なっており、本遺構の方が新しいことが分かる。平面形は長軸(NW-SE)1.00ｍ×短軸(NE-SW)0.60ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、３層に分けられる。

遺物は、土師器坏(底部１点4.8g)、土師器甕(口縁部１点12.8g・胴部７点41.4g・底部１点27.3g)、羽口(破片４点187.8g)、粘土塊(破片１点6.2g)が出土した。

ＳＮ3718（第71図）

ＬＰ49グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.10ｍ×短軸(NE-SW)1.02ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、６層に分けられた。ブロック状に堆積する１層は還元土である。

遺物は、土師器甕(胴部７点22.6g)、礫(破片５点237.2g)が出土した。

ＳＮ3741(第71図)

ＭＧ51・52グリッド第Ⅳ層上面で確認された。現代の木の根による撹乱より新しい。平面形は長軸(N-S)0.77m×短軸(E-W)0.55mの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.09mである。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ3870(第71図)

ＭＦ51グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は径0.61mのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、３層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ3900(第71図)

ＭＨ49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。遺構北東側は現代の掘り込みにより失われており、南西側はＳＫＰ3901を切っている。平面形は径0.31mの円形を呈する。確認面からの深さは0.08mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ4003(第71図)

ＬＱ48・49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.15m×短軸(E-W)0.74mのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。

遺物は、土師器坏(口縁部７点16.6g・体部13点35.0g・底部７点104.5g)、土師器甕(胴部７点103.9g・底部１点120.1g)、鉄滓(破片６点1.6g)、粘土塊(破片２点10.3g)、被熱礫(破片１点8.4g)が出土した。

ＳＮ4004(第71図)

ＬＱ49・ＬＲ49グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.87m×短軸(E-W)0.31mのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。

遺物は、土師器坏(口縁部15点86.0g・体部23点78.9g・底部６点131.6g)、土師器甕(口縁部１点7.6g・胴部11点51.0g)、土錘(破片１点9.8g)、被熱礫(破片３点13.9g)が出土した(第111図１～３)。

ＳＮ4122(第71図)

ＬＳ48グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(E-W)0.78m×短軸(N-S)0.34mのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、３層に分けられる。

遺物は、土師器坏(体部１点5.0g)、土師器甕(胴部２点28.6g)、礫(破片１点2.9g)が出土した。

ＳＮ4125(第71図)

ＬＳ48グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(N-S)0.54m×短軸(E-W)0.21mのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ4131(第71図)

ＬＳ47グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(N-S)0.40m×短軸(E-W)0.24mの略楕円形を呈する。掘り込みは確認されず、３層に分けられる。隣接するＳＮ4194と本来同一のものであった可

能性がある。

遺物は、土師器坏(口縁部１点6.0g)、土師器甕(胴部１点22.9g)が出土した。

ＳＮ4192(第71図)

ＬＳ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.58ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.04ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(底部１点20.1g)、土師器甕(口縁部１点41.1g・胴部５点63.6g)、礫(破片３点8.7g)が出土した。

ＳＮ4194(第71図)

ＬＳ47・ＬＳ48グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(N-S)0.47ｍ×短軸(E-W)0.26ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。鍛冶関連遺物の出土はなかったが、１層は還元土で、鍛冶炉の底面が残存している可能性も否めない。

遺物は、礫(破片２点0.9g)が出土した。

ＳＮ4306(第71図)

ＬＱ52グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.58ｍ×短軸(NW-SE)0.54ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。このすぐ北側にＳＮ4307があり、南北に並んで検出された状況は、ＳＮ4131とＳＮ4194の例に類似する。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.1g・体部３点17.3g・底部２点116.4g)、羽口(破片27点504.9g)、被熱礫(破片３点3.2g)、礫(破片２点2.7g)が出土した(第111図４・５)。

ＳＮ4307(第71図)

ＬＱ52グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.50ｍ×短軸(NW-SE)0.32ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、１層であった。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ4431(第71図)

ＬＲ52グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(E-W)0.95ｍ×短軸(N-S)0.79ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、３層に分けられる。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.7g・体部５点9.2g・底部３点15.6g)、土師器甕(口縁部５点218.0g・胴部37点716.8g・底部１点40.7g)、礫(破片５点29.9g)が出土した(第111図６)。

ＳＮ4433(第72図)

ＬＲ52グリッド第Ⅲ層中で確認された。ＳＤ4420に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.16ｍ×短軸(NE-SW)0.98ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.16ｍである。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(口縁部３点13.4g・体部９点30.3g・底部２点40.3g)、土師器甕(口縁部１点30.1g・胴部13点349.5g・底部３点167.1g)、炉壁(破片１点6.9g)、被熱礫(破片１点42.2g)、礫(破片１点10.7g)が出土した(第111図７)。

ＳＮ4623(第72図)

ＬＰ47・ＬＱ47グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形はブロック状に途切れた広がりとして検出された。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は、土師器坏(体部７点17.4g)が出土した。

ＳＮ4690（第72図）

ＬＰ49グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形はブロック状に途切れた広がりとして検出された。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は、土師器坏（体部３点1.9g）が出土した。

ＳＮ4691（第72図）

ＬＯ49・50グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸（E-W）0.99ｍ×短軸（N-S）0.69ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は、土師器坏（口縁部１点2.2g・体部２点16.4g）、土師器甕（胴部２点49.9g）が出土した。

ＳＮ4702（第72図）

ＬＴ49グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸（N-S）1.27ｍ×短軸（E-W）0.54ｍのいびつな形状を呈し、遺構中央の撹乱により分断されている。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ4719（第24図）

ＬＮ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ4300により切られており、ほとんど失われているため、遺構全体の形状は不明。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は、土師器坏（体部７点23.9g・底部１点7.3g）、土師器甕（胴部７点92.7g）、被熱礫（破片３点18.0g）、礫（破片１点6.4g）が出土した。

ＳＮ4801（第72図）

ＬＫ52グリッドの風倒木痕上で確認された。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。検出状況から、本来この場で火が焚かれたのではなく、二次的な堆積を示していると考えられる。

遺物は、須恵器甕（胴部１点20.9g）、土師器坏（口縁部17点87.3g・体部７点28.4g・底部６点165.7g）、土師器甕（口縁部５点243.9g・胴部61点777.3g・底部１点76.3g）、羽口（破片２点43.1g）、粘土塊（破片７点23.9g）、被熱礫（破片257点720.7g）、礫（破片９点33.1g）が出土した（第111図８～10）。

ＳＮ4806（第72図）

ＭＩ46・47グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸（NE-SW）0.72ｍ×短軸（NW-SE）0.51ｍの略方形を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。

遺物は、土師器甕（胴部１点15.5g）、羽口（破片１点123.6g）が出土した。

ＳＮ4807（第72図）

ＭＩ46グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫ5475の覆土上に構築されており、本遺構の方が新しい。平面形は長軸（NW-SE）0.34ｍ×短軸（NE-SW）0.16ｍの略楕円形を呈する。掘り込みは確認されず、１層であった。

遺物は、土師器坏（底部１点4.7g）、土師器甕（胴部１点5.7g）が出土した。

ＳＮ4848（第72図）

ＬＫ52グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は径0.46ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.06ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。

遺物は、土師器坏（体部２点4.2g・底部２点28.2g）、土師器甕（胴部１点21.1g）が出土した。

ＳＮ4881（第73図）

ＭＩ47グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)0.44ｍ×短軸(N-S)0.28ｍの菱形状を呈する。明確な掘り込みは確認されず、やや凹地となっていた。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ4992（第73図）

ＭＣ50グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.86ｍ×短軸(NW-SE)0.58ｍのいびつな形状を呈する。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ5005（第73図）

ＬＴ49グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.18ｍ×短軸(NE-SW)0.10ｍの方形を呈する。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は、鉄滓（２点51.6g)が出土した。

ＳＮ5086（第73図）

ＬＭ50グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(N-S)0.48ｍ×短軸(E-W)0.33ｍの略楕円形を呈する。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は、土師器坏(口縁部１点3.8g・体部６点7.2g)、土師器甕(胴部１点6.7g)、被熱礫(破片３点7.5g)が出土した。

ＳＮ5427（第73図）

ＬＴ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.72ｍ×短軸(E-W)0.64ｍの略円形を呈する。明確な掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ5708（第73図）

ＬＲ64グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.73ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は若干起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。

遺物は、鉄床石(破片１点1100.0g)が出土した。

ＳＮ5832（第87図）

ＭＩ46・ＭＪ46グリッドＳＸ5555底面で確認された。平面形は一辺(E-W)0.73ｍ(残存値)の略方形を呈する。掘り込みは確認されず、２層に分けられる。検出状況から、ＳＸ5555に関連する遺構と考えられる。

遺物は、土師器坏(口縁部７点33.2g)、土師器甕(口縁部２点58.2g・胴部５点94.1g)が出土した。

ＳＮ5863（第59図）

ＬＱ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5896を切っており、ＳＳ4482に切られている。平面形は径0.73ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面は丸みを帯び、南側にテラス状の段をもつ。覆土は３層に分けられる。

遺物は、土師器甕(口縁部１点15.8g・胴部１点71.5g・底部１点66.2g)、粘土塊(破片１点5.9g)が出土した。

ＳＮ6093（第73図）

ＬＳ54グリッド第Ⅳ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)0.42ｍ×短軸(NW-SE)0.34ｍの略楕円形を呈する。明確な掘り込みは確認されず、２層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ6169（第73図）

ＭＡ45・46グリッドのＳＤ1769・ＳＫＰ3291覆土上で確認され、これらよりも新しい。平面形は長軸(N-S)0.69ｍ×短軸(E-W)0.44ｍの略楕円形を呈する。掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ6170（第73図）

ＭＡ46グリッド第Ⅲ層中で確認された。サブトレンチにより北東側は失われた。平面形は長軸(NW-SE)0.48ｍ×短軸(NE-SW)0.21ｍのいびつな形状を呈する。明確な掘り込みは確認されず、１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＮ6249（第73図）

ＬＳ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＳ5871に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.22ｍ×短軸(NE-SW)1.13ｍの隅丸方形を呈する。確認面からの深さは0.15ｍである。底面は平坦で、壁は東側で緩やかに、西側でやや急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。底面のほぼ全面に被熱が認められる。

遺物は出土しなかった。

７　溝跡（第13図）

ＳＤ54（第90図）

ＭＤ46・ＭＥ47グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＳ２を切っており、ＳＫＰ687に切られている。総延長5.34ｍ、幅0.13～0.25ｍで、確認面からの深さは0.07～0.11ｍである。底面は丸底で、覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(口縁部１点1.5g・体部２点15.2g・底部１点24.9g)、土師器甕(胴部１点2.6g)、礫(破片２点3.6g)が出土した。

ＳＤ57（第74図）

ＭＤ47・ＭＥ47・ＭＥ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長6.86ｍ、幅0.18～0.25ｍで、確認面からの深さは0.09～0.11ｍである。遺構東端は木の根による撹乱により失われている。底面は丸底で、覆土は１層である。東から西方向に延び、ＳＤ3237の延長上で北側に屈曲する。本来同一の溝であった可能性もある。なお、遺構内にピットが2.08～2.51ｍ間隔で３基検出された。

遺物は、土師器坏(体部１点4.1g)が出土した。

ＳＤ97（第74図）

ＬＤ33・ＬＥ33グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長3.14ｍ、幅0.58～0.61ｍで、確認面からの深さは0.11～0.14ｍである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。東側底面に２つの段差をもち、その段差に対応するかのように径0.26ｍほどのピットが２基穿たれている。

遺物は、確認面で土師器坏(体部１点3.3g)が出土した。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、２σ年代幅西暦1,035－1,190年(97.7%)という値を得た。

ＳＤ374・ＳＤ787・ＳＤ1181(第75図)

ＬＳ37グリッドを基点として北へ約20m、西へ約26mの範囲で第Ⅳ層上面より検出された。これらはＳＤ374を大きな単位とする一連の遺構と考えられる。ＳＤ374はＳＩ1800を切っている。ＳＤ374は総延長68.52m、幅0.21～0.41mで、確認面からの深さは0.31～0.35mである。底面は平坦で壁は急に立ち上がる。覆土は１層であった。底面において径0.11～0.42mのピットが不規則に51基検出された。また、ＳＤ374の内側東辺と南辺に径0.53～0.72m、確認面からの深さ0.45～0.83mの土坑がほぼ等間隔に並んで検出された。柱穴列として、これらのＳＤと一連のものと考えられる。

ＳＤ787は、ＳＫ804・ＳＫ805に切られている。総延長8.17m、幅0.14～0.25m、確認面からの深さは0.21～0.31mである。底面は丸底で、壁は急に立ち上がる。底面からは径0.16～0.42mのピットが５基検出された。

ＳＤ1181は、総延長7.38m、幅0.17～0.32m、確認面からの深さは0.22～0.29mである。底面は丸底で、壁は急に立ち上がる。底面には径0.10～0.53mのピットが12基検出された。

遺物は、ＳＤ787内で土師器甕(胴部１点22.6g)が出土した。

なお、ＳＤ374内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、１σ年代幅西暦935－980年(57.8%)という値を得た。

ＳＤ713(第15図)

ＬＤ34・ＬＤ35・ＬＥ34・ＬＤ35グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ86のＳＫ01を切っており、ＳＫ200に切られている。総延長5.74m、幅0.32～0.61mで、確認面からの深さは0.05～0.12mである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。東側底面により深い掘り込みが確認された。また、径0.22mのピットが２基検出された。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ1510(第74図)

ＭＢ45・ＭＢ46・ＭＣ47グリッド第Ⅳ層上面で確認された。総延長4.11m、幅0.07～0.23mで、確認面からの深さは約0.05mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ1701(第13図)

ＭＧ44・ＭＧ45・ＭＨ45グリッド第Ⅳ層上面で確認された。総延長6.82m、幅0.21～0.24mで、Ｌ字状に屈曲する。東側に一部途切れる箇所がある。確認面からの深さは0.15～0.17mである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は１層である。径0.22～0.38mのピットが６基確認された。鍛冶炉(ＳＳ1770)に伴う掘立柱建物跡(ＳＢ1882)を囲う溝と考えられる。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ1711(第74図)

ＭＦ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1712を切っており、ＳＫ1714に切られている。総延長1.53m(残存値)、幅0.16～0.27mで、確認面からの深さは0.21～0.25mである。底面はやや丸みを帯び、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ1769（第73図）

ＭＡ46・ＭＢ46グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫＰ2190に切られている。総延長4.95m、幅0.18～0.24mで、Ｌ字状に屈曲する。確認面からの深さは0.12～0.21mである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。本遺構より西側延長線上にはＳＤ57があり、本来同一の溝であった可能性がある。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ1900（第76図）

ＬＪ43グリッドから西側へＬＴ43グリッドまでの第Ⅴ層上面で確認された。東西方向に延びる溝（ＳＤ1900a）と、南北方向に延びる溝（ＳＤ1900b）で構成されている。確認当初はつながっていたが、精査中に途切れてしまった。ＳＤ1901を切っており、ＳＫ1923・ＳＫ2889に切られている。総延長43.48m、幅0.23～0.32m、確認面からの深さは0.12～0.31mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。遺構底面において、径0.15～0.32mのピットが15基確認された。

遺物は、土師器坏（体部１点4.9g・底部２点24.6g）、粘土塊（破片１点1.3g）が出土した。

ＳＤ1901（第76図）

ＬＪ45グリッドから南側へＬＯ42グリッドまで湾曲し、そこから北側へＬＳ45グリッドまで湾曲して第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ2449・ＳＤ1900・ＳＤ2243に切られている。総延長48.48m、幅0.23～0.35m、確認面からの深さは0.21～0.35mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。遺構底面において、径0.15～0.21mのピットが、ほぼ１m間隔で26基確認された。

遺物は、土師器坏（体部５点8.0g・底部２点24.1g）、土師器甕（口縁部１点9.2g・胴部７点466.0g）、羽口（破片１点5.8g）、被熱礫（破片１点37.1g）が出土した。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、２σ年代幅西暦870－995年という値を得た。

ＳＤ2201（第77図）

ＬＱ49・ＬＲ44～50・ＬＳ42～45グリッド第Ⅲ層上面で確認された。ＳＫ4400・ＳＮ41・ＳＮ4433を切っている。総延長10.52m、幅0.23～0.32mで、確認面（第Ⅲ層上面）からの深さは0.32～0.36mである。底面は丸底で、壁は急に立ち上がる。覆土は２層に分けられる。本遺構より北側の延長線上にＳＤ6000があり、同一の溝であった可能性もある。

遺物は、土師器坏（口縁３点9.3g・体部５点22.5g・底部２点66.4g）、土師器甕（胴部18点142.2g・底部４点51.9g）、羽口（破片２点11.5g）、礫（破片６点427.0g）、鉄製鈴（２点・同一個体）、鉄滓（５点18.9g）が出土した（第164図９）。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、２σ年代幅西暦880－995年という値を得た。

ＳＤ2240（第77図）

ＭＡ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.15m、幅0.18～0.20mで、確認面からの深さは0.12mである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ2241（第77図）

ＭＡ42・ＭＢ42・ＭＣ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ2550・ＳＫ1360・ＳＫ3640・ＳＤ2357に切られている。総延長6.21ｍ、幅0.18～0.27ｍで、確認面からの深さは0.12～0.18ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（体部２点2.1g）、土師器甕（口縁部１点15.9g・胴部21点201.1g）、鉄滓（破片１点1.3g）、粘土塊（破片２点6.0g）、礫（破片３点15.9g）が出土した。

ＳＤ2243（第77図）

ＬＳ42・ＬＴ42・ＭＡ42・ＭＢ42・ＭＣ42グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ2550・ＳＫ3640に切られており、ＳＫ1360・ＳＤ1901・ＳＤ2357を切っている。総延長21.23ｍ、幅0.20～0.27ｍで、Ｌ字状に屈曲する。確認面からの深さは0.12～0.20ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（口縁部３点2.7g・体部６点13.4g）、土師器甕（口縁部２点61.6g・胴部18点89.8g・底部２点126.1g）、鉄滓（破片１点2.9g）、粘土塊（破片５点5.8g）、礫（破片１点106.9g）が出土した。

ＳＤ2357（第77図）

ＭＡ42・ＭＣ42・ＭＣ43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ2241を切っており、ＳＤ2243に切られている。総延長5.23ｍ、幅0.20～0.25ｍで、確認面からの深さは0.20～0.23ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（口縁部１点8.0g）が出土した。

ＳＤ2359（第13図）

ＭＣ43・ＭＣ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ3172に切られている。総延長11.21ｍ、幅0.20～0.35ｍで、Ｌ字状に屈曲する。確認面からの深さは0.21～0.32ｍである。底面は丸底で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。ＳＢ15に平行することから、これに伴う機能を有していたと考えられる。

遺物は、土師器坏（体部１点3.0g）、土師器甕（胴部１点7.3g）が出土した。

ＳＤ2650（第78図）

ＬＴ46・ＭＡ46グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫＰ2188・ＳＫＰ2898に切られている。総延長4.38ｍ、幅0.12～0.19ｍで、確認面からの深さは0.05～0.08ｍである。底面は丸底で、覆土は１層である。径0.18～0.26ｍのピットが３基確認された。

遺物は、土師器甕（口縁部１点36,6g）、土錘（破片１点13.6g）、粘土塊（破片１点1.5g）が出土した。

ＳＤ3237（第78図）

ＭＥ48・ＭＥ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.82ｍ、幅0.15～0.18ｍで、確認面からの深さは0.17～0.31ｍである。底面は丸底で、覆土は１層である。

遺物は、土師器坏（体部１点5.8g）が出土した。

ＳＤ3511（第78図）

ＭＦ50・ＭＧ50・ＭＧ51・ＭＨ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3738に切られている。途中分断しているが、総延長12.81ｍ、幅0.21～0.28ｍで、確認面からの深さは0.11～0.22ｍである。底面は丸底で、覆土は１層である。径0.30ｍのピットが２基検出された。東側延長線上にＳＤ3519があ

り、本来同一の溝であった可能性もある。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ3519（第79図）

ＬＫ46グリッドから北西方向にＭＡ49グリッドまでの第Ⅴ層上面で断続的に確認された。南東隅で屈曲し、やや弧状を描きながら北西方向に延びる。総延長46.48m、幅0.25～0.35mで、確認面からの深さは0.20～0.25mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ3568（第78図）

ＬＯ47・ＬＯ48グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.45m、幅0.20～0.24mで、確認面からの深さは0.12～0.15mである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。南端に径0.28mのピットが１基確認された。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ3656（第79図）

ＭＩ43・ＭＪ40～43グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ4093に切られている。総延長12.81m、幅0.25～0.31mで、確認面からの深さは0.20～0.32mである。底面は丸底で、覆土は１層である。径0.21～0.48mのピットが３基確認された。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ4704（第80図）

ＬＲ52・ＬＲ53・ＬＳ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ4705を切っており、ＳＫＰ4708・ＳＫＰ4710・ＳＫＰ4763・ＳＫＰ5187に切られている。総延長7.84m、幅0.12～0.18mで、Ｌ字状に屈曲する。確認面からの深さは0.09～0.12mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ4705（第80図）

ＬＲ52・ＬＲ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ4704・ＳＫＰ4708・ＳＫＰ5187に切られている。総延長は、サブトレンチにより北側が失われているが、残存部で5.24m、幅0.13～0.20mで、確認面からの深さ0.06～0.12mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ4721（第80図）

ＭＨ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.51m、幅0.15～0.21mで、確認面からの深さ0.18～0.22mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。東端に径0.25mのピットが１基確認された。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5274（第81図）

ＬＫ～ＬＰ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5747を切っている。西側で途切れている箇所があるが、総延長21.46m、幅0.25～0.36mで、確認面からの深さ0.15～0.29mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。底面からは径0.21～0.35mのピットが12基確認された。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5471（第80図）

ＭＤ49・ＭＥ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.65ｍ、幅0.22ｍで、確認面からの深さ0.15ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5472（第81図）

ＭＤ50・ＭＥ50グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.94ｍ、幅0.22ｍで、確認面からの深さ0.15ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5655（第81図）

ＬＴ49グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5671・ＳＫＰ5672・ＳＫＰ5673に切られている。総延長3.60ｍ、幅0.20～0.22ｍで、確認面からの深さ0.06～0.08ｍである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。径0.20ｍのピットが２基確認された。

遺物は、土師器坏（体部３点7.6g）、土師器甕（胴部１点6.3g）、羽口（破片１点4.3g）が出土した。

ＳＤ5714（第82図）

ＬＫ51・ＬＫ52グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長5.85ｍ、幅0.15～0.20ｍで、確認面からの深さ0.10ｍである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器甕（胴部２点16.9g）が出土した。

ＳＤ5716（第82図）

ＬＬ50・ＬＬ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5690・ＳＫＰ5691に切られている。総延長2.45ｍ、幅0.15～0.19ｍで、確認面からの深さ0.06～0.10ｍである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、被熱礫（破片２点179.1g）が出土した。

ＳＤ5717（第64図）

ＬＪ51・ＬＫ50・ＬＫ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5623・ＳＫＰ5737・ＳＫＰ5738に切られている。総延長4.34ｍ、幅0.14～0.22ｍで、確認面からの深さ0.15ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。底面および両端に径0.15～0.31ｍのピットが５基確認された。

遺物は、土師器坏（体部１点1.6g）、土師器甕（胴部３点15.9g）、粘土塊（破片３点5.9g）が出土した。

ＳＤ5836（第82図）

ＭＤ53・ＭＤ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5995・ＳＫＰ5861に切られている。中央はサブトレンチにより分断されているが、総延長5.60ｍ、幅0.12～0.27ｍで、確認面からの深さ0.18～0.24ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5867（第82図）

ＬＲ55・ＬＳ55・ＬＳ56・ＬＴ56グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ5972を切っている。総延長7.18ｍ、幅0.16～0.21ｍで、確認面からの深さ0.11ｍである。底面は丸底で、壁はそのまま緩やか

に立ち上がる。覆土は１層である。本遺構およびＳＤ5881は、位置関係からＳＩ5840を囲う機能が推定される。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5892(第83図)

ＭＥ50・ＭＥ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ4444・ＳＫＰ4153・ＳＫＰ4383・ＳＫＰ4384に切られている。総延長4.16m、幅0.19～0.25mで、Ｌ字状に屈曲する。確認面からの深さは0.12mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(体部１点9.2g)、土師器甕(胴部１点7.3g)が出土した。

ＳＤ5926(第83図)

ＬＧ64・ＬＧ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長1.50m、幅0.20～0.24mで、確認面からの深さは0.14mである。底面は丸底で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5929(第83図)

ＬＰ63・ＬＱ63グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長2.36m、幅0.16～0.24mで、コの字状を呈する。確認面からの深さは0.14mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5930(第83図)

ＬＰ62・ＬＰ63・ＬＱ61・ＬＱ62グリッド第Ⅴ層上面で確認された。途中２箇所で分断されているが、総延長11.68m、幅0.18～0.29mで、確認面からの深さは0.19～0.24mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。底面に径0.12～0.25mのピットが８基検出された。

遺物は、土師器坏(体部１点4.1g)が出土した。

ＳＤ5942(第84図)

ＬＰ52・ＬＰ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ5343に切られている。総延長3.22m、幅0.16～0.23mで、確認面からの深さは0.06～0.08mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＤ5977(第84図)

ＭＡ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ6020に切られている。総延長3.82m、幅0.21～0.27mで、確認面からの深さは0.14mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。遺構北端および中央付近に径0.25m～0.31mのピットが２基確認された。

遺物は、土師器甕(胴部２点11.9g)、礫(破片１点6.3g)が出土した。

ＳＤ6000(第84図)

ＬＱ56・ＬＲ53～56グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＸ5838に切られている。総延長12.63m、幅0.18～0.28mで、確認面からの深さは0.19～0.24mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(体部１点6.5g)が出土した。

ＳＤ6051（第84図）

ＭＡ56・ＭＢ56グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長4.22m、幅0.16～0.24mで、確認面からの深さは0.28mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、土師器坏(底部１点7.5g)が出土した。

ＳＤ6100（第84図）

ＬＰ55・ＬＱ54・ＬＱ55グリッド第Ⅴ層上面で確認された。総延長4.52m、幅0.17～0.24mで、確認面からの深さは0.20mである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

８　性格不明遺構

ＳＸ2513（第85図）

ＬＳ44・ＬＳ45・ＬＳ44・ＬＴ45グリッド第Ⅴ層上面検出の風倒木痕上で確認された。南西壁は発掘中のサブトレンチにより失われた。平面形は長軸(NE-SW)1.58m(推定値)×短軸(NW-SE)1.29mの略方形を呈する。確認面からの深さは0.49mである。底面は起伏があり、壁は急に立ち上がる。覆土は９層に分けられる。

遺物は、須恵器甕(胴部１点12.5g)、土師器坏(口縁部９点78.9g・体部42点117.0g・底部２点9.5g)、土師器甕(口縁部17点206.4g・胴部283点4127.4g・底部７点480.0g)、土錘(破片１点7.7g)、羽口(破片３点60.5g)、粘土塊(破片48点187.8g)、被熱礫(破片12点740.0g)、礫(破片８点32.2g)が出土した(第111図11)。

本遺構は、他の遺構に比べて土器片が多く出土し、覆土も人為的堆積を示していた。このことから、風倒木痕の窪みを利用した捨て場のような性格を推定することができる。

ＳＸ4880・ＳＸ5475・ＳＸ5555（第86・87図）

ＳＸ4880・ＳＸ5475・ＳＸ5555の３基の遺構は西から東へ上るように、階段状に検出された。すべて西側に開口している。これらＵ字状の掘り込みを一つの単位として便宜的にＳＸとし、３基を一群として捉えた。

ＳＸ4880は、ＭＨ46グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫ6306に切られている。平面形は、開口部に平行する中心軸径2.05mのＵ字状を呈する。確認面からの深さは0.11mである。底面は若干丸みを帯び、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。径0.15～0.46mのピットが壁際に３基、開口部端に３基検出された。

遺物は、土師器坏(体部10点25.2g)、土師器甕(胴部６点73.5g)、羽口(破片４点66.4g)、粘土塊(破片４点3.6g)、被熱礫(破片１点11.6g)、礫(破片１点10.3g)が出土した。

ＳＸ5475は、ＭＩ46グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫＰ2321に切られている。平面形は、開口部に平行する中心軸径2.21mのＵ字状を呈する。確認面からの深さは0.10mである。底面はやや起伏があり、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。西側底面に白色硬化面の広がりが確認され、東壁には焼土の流れ込みが認められた。また、底面が平坦で壁が急に立ち上がる土坑が、本遺構の底面に２基検出され、径0.17～0.22mのピットが壁際に５基検出された。

遺物は、土師器坏(口縁部10点41.4g・体部22点71.7g・底部７点105.3g)、土師器甕(口縁部１点19.9g・胴部36点765.9g)、土錘(完形２点30.2g)、粘土塊(破片11点90.4g)、被熱礫(破片１点18.0g)、

礫(破片２点40.5g)が出土した(第111図12～14)。

ＳＸ5555は、ＭＩ46・ＭＩ47・ＭＪ46・ＭＪ47グリッド第Ⅳ層上面で確認された。遺構東壁の一部は木の根による撹乱により失われていた。平面形は、開口部に平行する中心軸径3.81ｍのＵ字状を呈する。確認面からの深さは0.34～0.51ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。西側には段差がみられる。覆土は18層に分けられる。底面には長軸0.61～1.47ｍの土坑が３基、壁際には径0.26～0.44ｍのピットが３基検出された。

遺物は、土師器坏(口縁部17点169.0g・体部26点56.1g・底部９点294.6g)、土師器甕(口縁部９点339.6g・胴部53点838.7g・底部３点324.1g)、粘土塊(破片５点53.7g)、被熱礫(破片２点677.0g)、礫(破片３点7.3g)が出土した(第112図１～９)。なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦890年、２σ年代幅西暦780－905年(69.4％)という値を得た。

以上、３基の遺構は性格が不明であるが、底面に深い土坑をもつことから、粘土採掘坑の可能性もある。前述した10基の遺構が切り合っていたＳＫ21関連の土坑群も、他の地区ではそうした激しい切り合いが認められず、本遺構群同様、粘土採掘坑だった可能性がある。また、３基とも開口部端や壁際にピットが複数検出されたことから、覆い屋の存在を推定できよう。

ＳＸ5838(第26図、図版２－１・２)

ＬＱ53・ＬＱ54・ＬＲ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＩ5839・ＳＤ6000を切っている。平面形は径3.17ｍの円形を呈する。確認面からの深さは1.51ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は８層に分けられる。本遺構は、砂層を１ｍほど掘り込んでおり、水はけが非常に良好である。

遺物は、須恵器甕(胴部１点53.7g)、土師器坏(口縁部45点216.5g・体部34点219.3g・底部35点559.3g)、土師器甕(口縁部７点132.8g・胴部154点1205.3g・底部８点541.0g)、鉄滓(破片１点7.8g)、羽口(破片18点389.8g)、粘土塊(破片17点70.0g)、被熱礫(破片10点2985.0g)、礫(破片13点740.7g)が出土した(第112図10～17)。

９　製鉄炉(第14図)

ＳＳ2000(第88図、巻頭図版２－１)

ＬＨ41・ＬＩ41グリッド第Ⅳ層上面で確認された。炉体部と前庭部(作業場)により構成される半地下式竪形炉である。

炉体部の平面形は長軸(NE-SW)0.78ｍ×短軸(NW-SE)0.28ｍの隅丸長方形を呈し、確認面から炉床までの深さは0.23～0.33ｍである。底面はやや起伏をもち、前庭部へ緩やかに傾斜する。底面傾斜角は９度であり、壁は急に立ち上がる。炉体の両側は木の根により撹乱を受けている。炉壁の遺存状況は良好ではなく底面が残るのみである。炉床部(第18層)は粉状で炭混じりの層を基調とし、全体に青砂の混入が認められた。とくに底面では硬質化が著しい(E-F)。炉掘り方の底面から上位壁面まで弱く酸化しており、掘削後、炉構築前に防湿を目的とした空焼きが行われたと考えられる。炉に伴う送風施設は検出できなかったが、炉の南北は斜面地であるため、炉東側の平坦部(炉長軸線上)に本来あったであろうと推測される。操業回数は明らかにできなかったが、炉の両側に補修壁が認められ、複数回の操業があったことがうかがえる。

前庭部の平面形は、長軸(NE-SW)1.74ｍ×短軸(NW-SE)1.52ｍの略円形を呈し、確認面からの深さは

0.44ｍである。底面は平坦であるが、炉体側で若干窪んでおり(A-B)、強く被熱しているため、湯溜まりと推測される。壁面は急に立ち上がる。炉底西側から前庭部底面東側にかけて強い被熱と還元土が認められたが、排滓時のものと考えられる。

覆土は18層に分けられ、黄褐色土と暗褐色土(鉄滓層)の互層堆積が確認された。第17層は炉壁・流動滓・炭化物を主体とする鉄滓層である。それより上層は操業後の廃棄によるものと考えられる。

排水溝は検出されなかったが、炉の南北両側が斜面となった尾根上に位置するため、雨水の浸入などの影響は少なかったと考えられる。また、本来製鉄炉に付随するはずの排滓場を付近で検出することはできなかった。調査区外に廃滓場があるものと推測される。このことは他の２基の製鉄炉に関しても同様である。

遺物は製鉄関連を中心として、前庭部17層上面(鉄滓層)では土師器坏(完形１点)が逆位で出土したほか、土師器坏片が543.85ｇ出土した。製鉄関連遺物(第122～130図)の詳細は本章第２節で述べる。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦895年、１σ年代幅西暦910－975年(67.8%)という値を得た。また、同一試料の樹種はアスナロと同定された。

ＳＳ3946(第89図、図版３－３)

ＬＫ50・ＬＫ51・ＬＬ50・ＬＬ51グリッド第Ⅲ層上面で確認された。ＳＫ4811・ＳＫ4812・ＳＫＰ5694を切り、ＳＫ4537に切られている。炉体部と前庭部(作業場)により構成される半地下式竪形炉であるが、炉体部は現在の林道により大半が失われていた。

炉体部の平面形は、断面から推定すると、長軸(N-S)1.21ｍ×短軸(E-W)0.45ｍの楕円形を呈し、確認面から炉床までの深さは0.09ｍである。原位置での炉壁の遺存はみられなかった。断面(E-F)の観察から底面は丸みを帯び、やや起伏をもちながら南側の前庭部へと傾斜している。底面傾斜角は５～10度である。炉掘り方壁面が弱く被熱しており、炉構築前の空焼きがあったものと考えられる。炉に伴う送風施設は検出できなかった。送風施設があったと推定される位置にはＳＫ4536・ＳＫＰ5687・ＳＫＰ5688が検出された。前述したように、ＳＫ4536は底面に炭化材がまとまって出土し、製鉄炉と何らかの関係にあったものと考えられる。

前庭部の平面形は、径1.92ｍの略円形を呈し、確認面からの深さは0.54ｍである。底面は凹凸が顕著で、壁は急に立ち上がる。

覆土は15層に分けられる。鉄滓層(第３・５・８・10・11層)、炭層(第７・12・14層)、自然層の互層堆積が確認された。操業→炉内生成物のかき出し→操業という行為の繰り返し及び、最終的な鉄滓等の廃棄による堆積過程がうかがえる。堆積状況から操業回数は最低３回と推測される。

排水溝は検出されなかったが、ＳＳ2000と違って平坦面に位置するため、盛り土などによる雨水の侵入に対する何らかの施設があったのであろう。

なお、炉内採取の炭化物による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦1,025年、２σ年代幅西暦1,000－1,070年(48.4%)という値を得た。また、同一試料の樹種同定の結果、樹皮様の組織であった。

遺物は、製鉄関連を中心とするものが多く出土した(第140～150図)。詳細は本章第２節で述べる。

ＳＳ3980(第88図)

ＬＭ61グリッド第Ⅴ層上面で確認された。前庭部(作業場)のみ検出され、炉体部は調査区外へ延びている。前庭部の平面形は、径0.92ｍの略円形を呈し、確認面からの深さは0.14ｍである。底面は平

坦で壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は、炉内滓が25.7g、流動滓が56.8ｇ出土した。

10　鍛冶炉(第14図)

鍛冶炉はなるべくⅢ層中で検出するよう試みたが、Ⅴ層上面で確認されたものもある。この場合、遺構はほとんど残っておらず、鍛造剥片などの検出も困難であった。

また、鍛冶炉と焼土遺構とで判別しがたいものもあったが、鍛冶滓や鍛造剥片の出土状況、還元土の検出状況などから判断した。とくに鍛冶炉は、焼土の広がりの中央に還元土が堆積するといった、ドーナツ状の平面分布を特徴的に示す傾向にあった。本遺跡からは計15基の鍛冶炉が検出され、内２基を対象にメッシュ・サンプルによる調査を行った。しかし、整理作業に要する労力と時間的制約上、メッシュ・サンプルの分析は、ＳＩ1800の１基に限らざるを得なかった。その詳細は次節に譲る。

ＳＳ２(第90図、図版４－１)

ＭＤ46グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＤ54に切られている。平面形は径0.81ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面はやや起伏があり、壁は急に立ち上がる。覆土は４層に分けられる。遺構中央北寄りにピット様の浅い掘り込みが検出された。底面は全体が被熱により赤変しているが、還元を示す青灰色は認められなかった。

遺物は、土師器甕(胴部３点41.2g)、羽口(破片５点25.7g)、粘土塊(破片１点23.9g)、被熱礫(破片１点850.0g)、礫(破片１点4.7g)、椀形鍛冶滓(１点876.0g)、鍛冶滓(５点301.0g)、礫(１点75.4g)が出土した。

ＳＳ1770(第90図)

ＭＨ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ1763・ＳＫＰ1764に切られている。平面形は径0.59ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。壁面が被熱していた。ＳＢ1882に囲まれている。

遺物は出土しなかった。

ＳＳ2500(第90図)

ＭＩ51グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.47ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。ほぼ底面のみが残存していた。覆土は２層である。壁面・底面ともに被熱により赤化しており、中央部には還元土が見られた。

遺物は、土師器甕(胴部２点8.5g)、鉄滓(破片９点46.1g)、粘土塊(破片10点47.5g)、被熱礫(破片１点3.6g)が出土した。

ＳＳ3435(第90図)

ＭＡ48・ＭＢ48グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は長軸(NW-SE)0.61ｍ×短軸(NE-SW)0.48ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.12ｍである。底面はやや丸みを帯び、壁は急に立ち上がる。覆土は５層に分けられる。焼土・還元土の南側部分は失われていたが、本来はドーナッツ状を呈していたと考えられる。

遺物は、土師器甕(胴部９点46.7g)が出土した。

ＳＳ3947(第90図、図版４－２)

ＬＬ50グリッド第Ⅳ層上面で確認された。本遺構は底面のみが残存していた。平面形は長軸(N-S)

0.51ｍ×短軸(E-W)0.38ｍの楕円形を呈する。確認面から硬質化した還元土までの深さは0.04ｍで、還元土底面から深さ0.14ｍまで被熱が見られる。覆土は１層で、還元土以下は３層に分けられる。遺構東側には羽口装着痕が検出された。

遺物は、土師器坏(底部１点10.2g)、土師器甕(底部１点7.8g)、羽口(破片３点162.6g)、鍛冶滓(5点28.9g)、鍛造剥片、粒状滓が出土した。

ＳＳ3981(第91図)

ＬM61グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径0.31ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は丸みを帯び、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。壁面のみ被熱。

遺物は出土しなかった。

ＳＳ4027(第91図)

ＬＰ48・ＬＱ48グリッド第Ⅲ層中で確認された。遺構北側の一部が攪乱により失われている。炉体部の平面形は径0.34ｍの円形を呈し、焼土はその周囲に径0.54ｍの広がりを見せる。上半部は失われており、確認面からの深さは0.09ｍである。底面は丸みを帯び、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は２層で、還元土以下は２層に分けられる。

遺物は、土師器甕(胴部５点78.2g)、土師器坏(体部１点5.5g)、羽口(１点3.2g)、鍛冶滓(５点7.2g)が出土した。

ＳＳ4103(第91図)

ＬＱ48グリッド第Ⅲ層上面で確認された。トレンチにより遺構の大半が失われたが、焼土の上に還元土がのるドーナツ状を呈すると推測される。

遺物は出土しなかった。

ＳＳ4482(第59図)

ＬＱ53グリッド第Ⅲ層中で確認された。ＳＮ5863を切っている。平面形は径0.32ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は１層である。

遺物は出土しなかった。

ＳＳ4725(第91図)

ＬＰ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。炉体部の平面形は径0.38ｍの円形を呈し、それに続く掘り込みの平面形は長軸(NE-SW)0.68ｍ×短軸(NW-SE)0.47ｍのいびつな形状を呈する。確認面からの深さは炉体部で0.11ｍである。底面はやや起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分けられる。還元土のまとまった広がりは認められなかったが、焼土に多くの還元土ブロックが混入する。

遺物は、鍛冶滓(３点10.8g)が出土した。

ＳＳ4726(第91図)

ＬＰ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。炉体部はもっとも東側の掘り込みで、西側へと２つの掘り込みが続く。炉体部の平面形は長軸(NW-SE)0.55ｍ×短軸(NE-SW)0.32ｍの略楕円形を呈し、それに続く掘り込みの平面形は長軸(NE-SW)0.87ｍ×短軸(NW-SE)0.53ｍの瓢箪形を呈する。確認面からの深さは炉体部で0.12ｍである。底面は丸みがあり、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。

遺物は、鍛冶滓（４点21.0g）が出土した。

ＳＳ4751（第91図）

ＬＮ53グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)0.49m×短軸(E-W)0.37mのいびつな形状を呈する。確認面からの深さは0.12mである。底面がわずかに残っている程度であった。覆土は３層に分けられる。

遺物は、土師器杯(口縁部１点2.0g)、土師器甕(胴部１点3.3g)、粘土塊(破片１点8.7g)、被熱礫(破片１点14.3g)、礫(破片２点11.5g)、鍛冶滓（１点3.2g)が出土した。

ＳＳ4876（第91図）

ＬＫ51グリッド第Ⅲ層中で確認された。平面形は径0.42の円形を呈する。確認面からの深さは0.21mである。底面はやや丸みがあり、壁は急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。ＳＫ5621は覆土の状況や位置関係から、本遺構と何らかの関わりがあると思われ、前述したように鉄床石の抜き取り穴である可能性もある。

遺物は、土師器坏(体部３点4.3g)、椀形鍛冶滓（１点36.9g)、鍛冶滓（３点9.7g)が出土した。

ＳＳ5834（第92図）

ＭＦ53・ＭＦ54・ＭＧ54グリッド第Ⅴ層上面で確認された。北側の谷肩部に方形のプランを確認し、掘り下げた結果、竪穴状遺構内に鍛冶炉が検出された。竪穴状遺構は北側の谷落ち際で壁が失われていた。残存部東西方向の一辺は3.51mである。鍛冶炉を除く覆土は５層であった。鍛冶炉は炉体部とそれに続く掘り込みからなる。炉体部の平面形は長軸(NE-SW)0.57m×短軸(NW-SE)0.43mの楕円形を呈する。竪穴状遺構の床面から硬質化した還元土までの深さは0.10mである。還元土以下被熱部の厚みは0.08mである。底面は丸みがあり、壁はそのまま緩やかに立ち上がる。覆土は１層で、その下層に還元土・被熱土が見られた。本竪穴状遺構には、ＳＫ01・Ｐ１・Ｐ２が床面で検出されたが、覆土に多くの鉄滓が混入しており、鍛冶炉と何らかの関係があったと考えられる。

遺物は、須恵器甕(胴部１点9.5g)、土師器坏(口縁部37点187.1g・体部200点570.0g・底部69点1000.0g)、土師器甕(口縁部17点230.0g・胴部292点2960.0g・底部９点500.0g)、土錘(破片１点21.0g)、羽口(破片46点2070.0g)、粘土塊(破片12点73.1g)、被熱礫(破片44点2290.0g)、礫(破片21点1020.0g)、鍛冶滓(26点178.8g)、鍛造剥片、粒状滓が出土した。

ＳＳ5871（第91図）

ＬＳ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ6249を切っている。平面形は径0.39mの円形を呈する。確認面からの深さは0.11mである。底面はやや丸みがあり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。

遺物は出土しなかった。

11　炭窯（第14図）

ＳＷ１（第93図、図版４－３）

ＬＣ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫＰ67を切っている。平面形は径1.52mの円形を呈する。確認面からの深さは0.22mである。底面は平坦で、壁は西側で急に、東側で緩やかに立ち上がる。覆土は８層に分けられる。北西壁～底面付近に若干の被熱箇所が見られた。

遺物は、被熱礫（３点52.0g)が出土した。

ＳＷ45（第93図）

ＬＪ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)1.33ｍ×短軸(N-S)0.96ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。壁面および底面に、所々被熱箇所が見られた。

遺物は、土師器坏(体部１点1.7g)、土師器甕(胴部１点89.0g)、被熱礫(破片１点1.8g)が出土した。

ＳＷ81（第93図）

ＬＩ38・ＬＩ39グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.41ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。壁に所々若干の被熱箇所が見られた。

遺物は、土師器坏(体部４点4.1g・底部１点37.9g)が出土した。

ＳＷ85（第93図）

ＬＫ38・ＬＫ39・ＬＭ38・ＬＭ39グリッド第Ⅳ層中で確認された。ＳＫＰ130を切っている。平面形は長軸(E-W)1.74ｍ×短軸(N-S)1.53ｍの菱形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面はやや起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。２層下部及び壁面に強い被熱箇所が認められた。

遺物は出土しなかった。

ＳＷ89（第93図）

ＬＣ35・ＬＣ36グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.56ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面はやや起伏があり、壁はやや急に立ち上がる。覆土は３層に分けられる。壁面及び底面に強い被熱箇所が認められた。

遺物は、土師器甕(胴部３点42.3g)が出土した。

ＳＷ94（第93図）

ＬＯ35・ＬＯ36グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.49ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。南～西側の壁面及び底面に若干の被熱箇所が認められた。

遺物は、土師器坏(体部１点5.2g)、土師器甕(胴部５点86.3g)、粘土塊(破片２点5.3g)、被熱礫(破片１点98.9g)、礫(破片３点94.4g)が出土した。

ＳＷ99（第94図）

ＬＥ39・ＬＥ40グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.24ｍ×短軸(NE-SW)1.13ｍの略方形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。北側壁面に強い被熱箇所が認められた。

遺物は出土しなかった。

ＳＷ747（第94図）

ＬＣ32・ＬＣ33グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)1.24ｍ×短軸(NW-SE)1.13ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.22ｍである。底面は平坦で、壁はやや急に立ち上がる。覆土は４層に分けられる。被熱箇所は認められなかったが、遺構形状や底面に炭層が堆積していることなどから、炭窯と判断した。

遺物は、被熱礫(破片２点97.2g)が出土した。

ＳＷ1768(第94図)

ＬＴ46・ＬＴ47グリッド第Ⅳ層上面で確認された。ＳＫＰ2733を切っている。平面形は径1.28ｍの略円形を呈する。確認面からの深さは0.19ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は７層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。

遺物は、土師器坏(口縁部３点22.9g・体部４点6.9g・底部１点30.2g)、土師器甕(口縁部４点73.9g・胴部61点507.5g)、炉壁(破片１点5.3g)、粘土塊(破片15点42.7g)、被熱礫(破片15点443.0g)、礫(破片８点926.9g)が出土した。

ＳＷ2125(第94図)

ＬＫ43・ＬＫ44・ＬＬ43・ＬＬ44グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(N-S)1.43ｍ×短軸(E-W)1.25ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。

遺物は出土しなかった。

ＳＷ2873(第95図)

ＬＯ40・ＬＯ41グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3134を切っており、ＳＫＰ2874に切られている。平面形は長軸(E-W)2.08ｍ×短軸(N-S)1.93ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.39ｍである。底面は凹凸に富み、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。

遺物は、土師器坏(体部４点8.2g)、土師器甕(胴部１点43.4g)、被熱礫(破片２点882.0g)が出土した。

ＳＷ3694(第95図)

ＭＥ67・ＭＥ68・ＭＦ67・ＭＦ68グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は径1.74ｍの円形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。底面はやや丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は４層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。壁面及び底面より径約0.20ｍのピットが６基検出された。

遺物は出土しなかった。

ＳＷ3835(第95図)

ＭＩ69・ＭＪ69グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)1.27ｍ×短軸(N-S)1.11ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.10ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は１層である。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。

遺物は出土しなかった。

ＳＷ3982(第96図)

ＬＮ60グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ3986・ＳＫ3987を切っており、ＳＫ3983に切られている。平面形は長軸(NW-SE)1.44ｍ×短軸(NE-SW)1.18ｍの楕円形を呈する。確認面からの深さは0.32ｍである。底面はやや凹凸があり、壁は急に立ち上がる。覆土は６層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。径約0.14ｍのピットが２基確認された。

遺物は、土師器坏(体部４点4.8g)、土師器甕(胴部１点5.7g)、被熱礫(破片６点273.1g)が出土した。

ＳＷ5428（第96図）

ＬＱ65・ＬＱ66グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)1.32ｍ×短軸(NE-SW)1.15ｍのいびつな楕円形を呈する。確認面からの深さは0.11ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。径0.14ｍほどのピットが２基確認された。

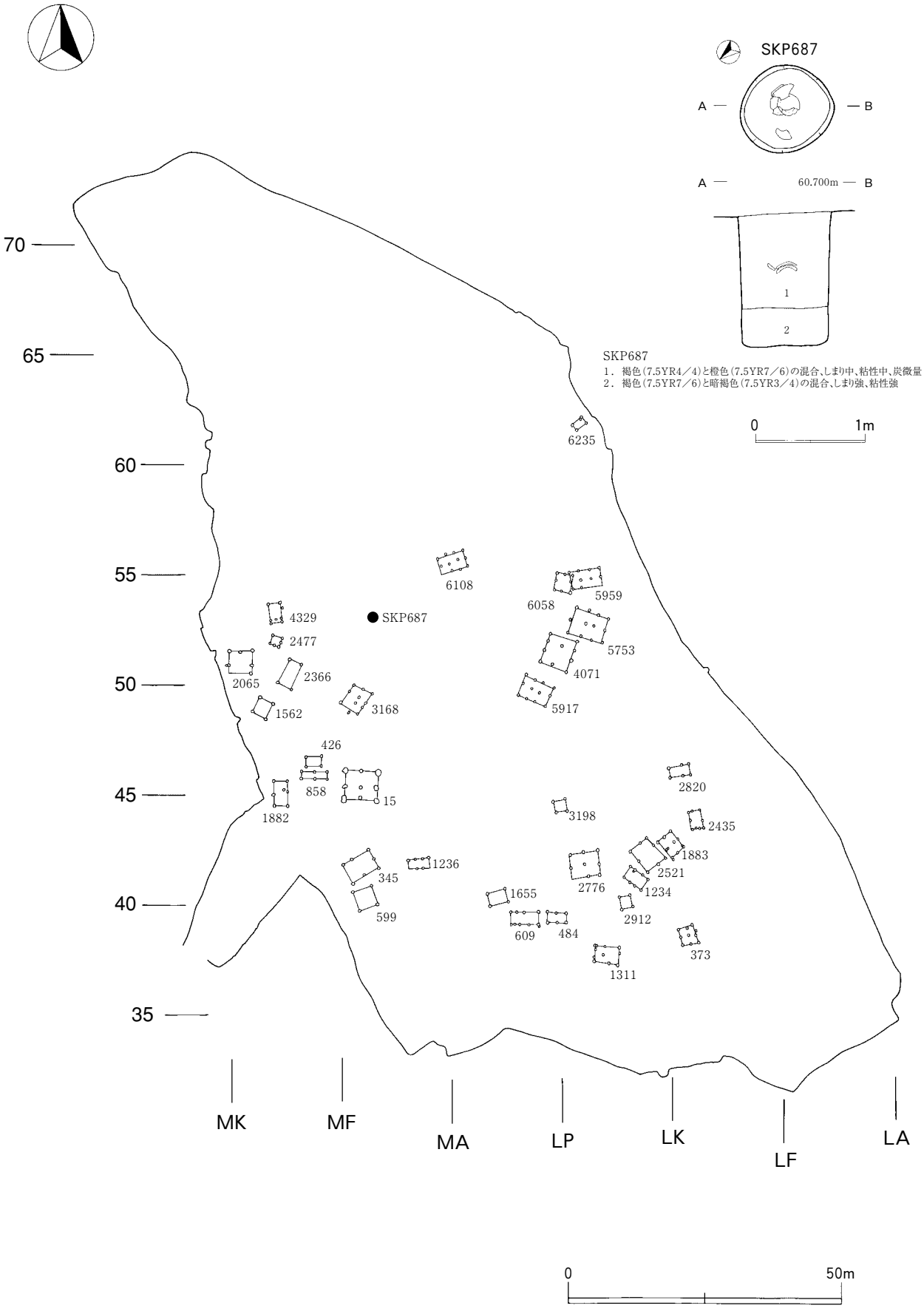
遺物は出土しなかった。

ＳＷ5874（第96図）

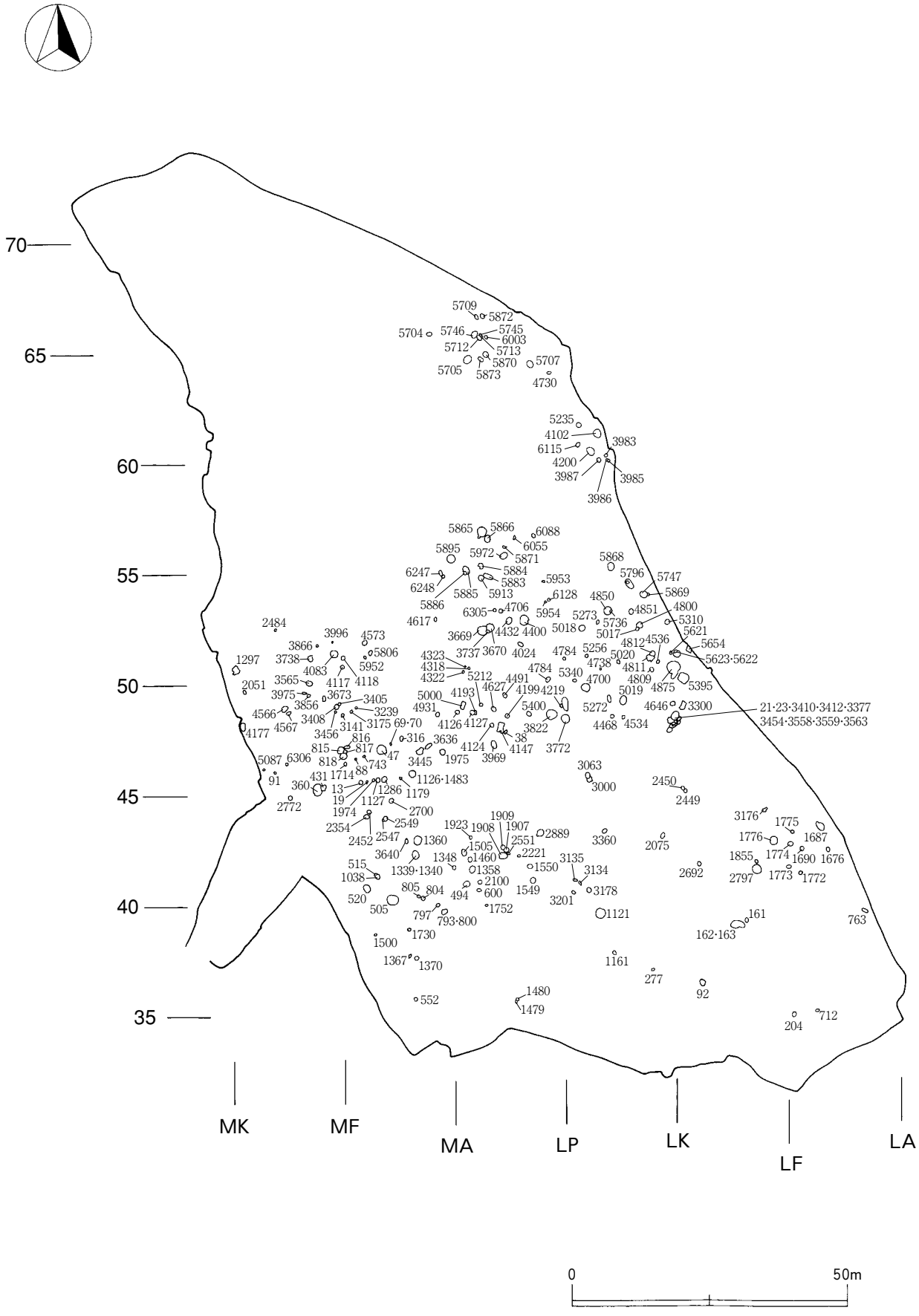
ＬＳ65グリッド第Ⅴ層上面で確認された。ＳＫ6003を切っている。平面形は長軸(N-S)1.55ｍ×短軸(E-W)1.38ｍの方形を呈する。確認面からの深さは0.13ｍである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がる。覆土は７層に分けられる。壁面及び底面全体に弱い被熱が見られる。

遺物は、土師器坏(底部１点10.9g)、土師器甕(口縁部１点12.2g)が出土した。

第９図　竪穴住居跡・竪穴状遺構配置図

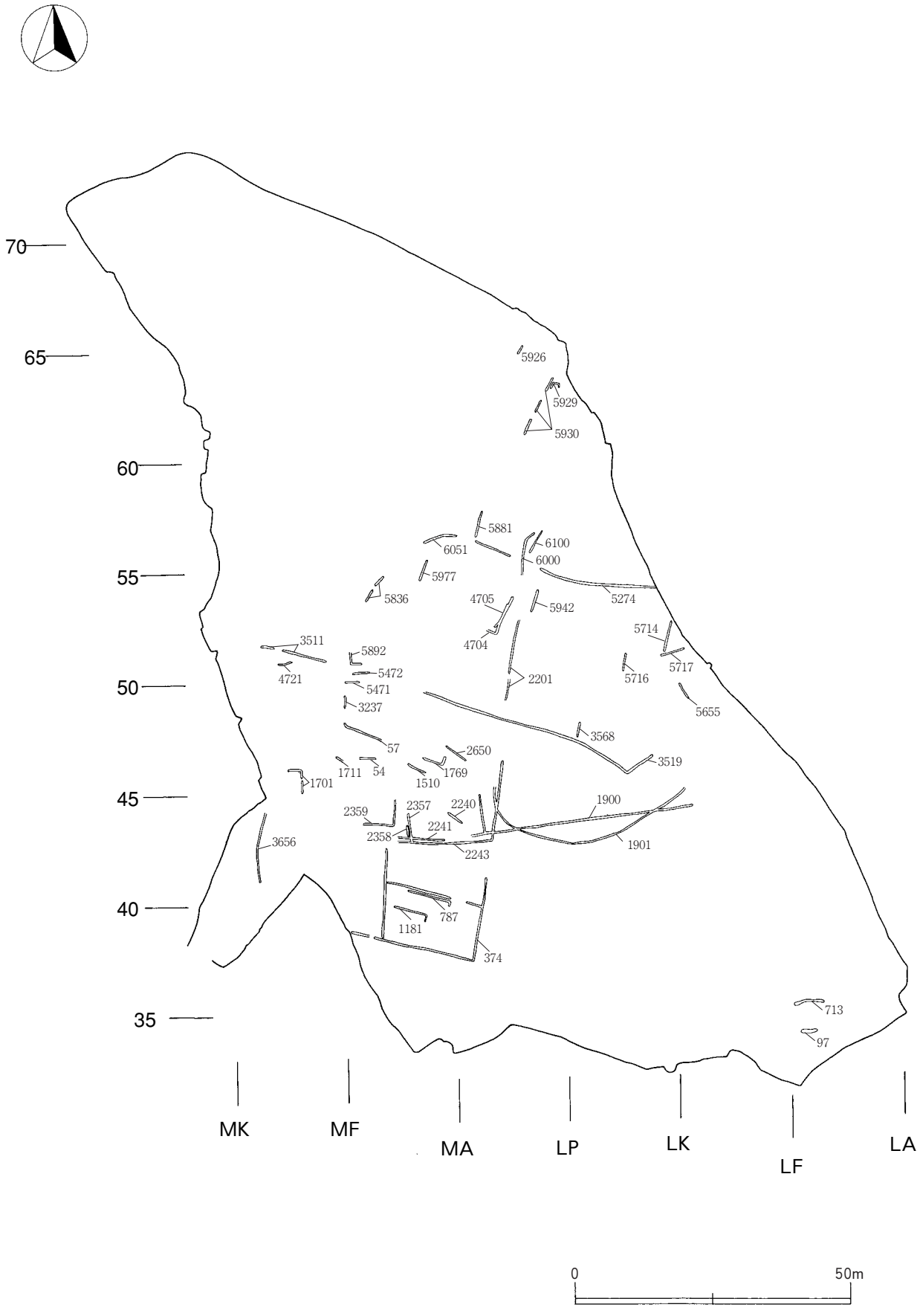


第10図　掘立柱建物跡配置図



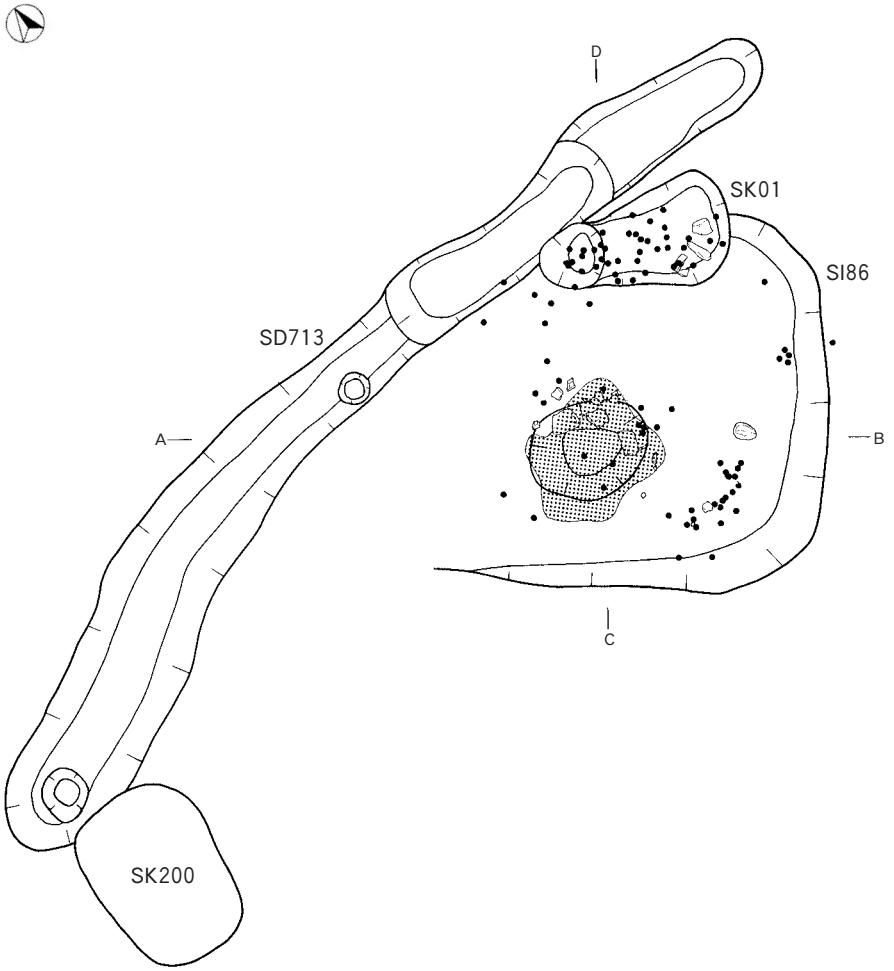
第11図　土坑配置図

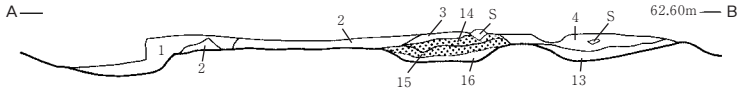
第12図　焼土遺構配置図

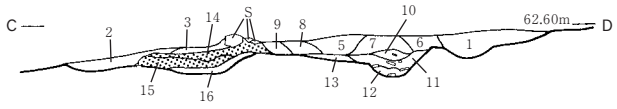

70
65
60
55
50
45
40
35
MK
MF
MA
LP
LK
LF
LA
5926
5929
5930
5881
6051
6100
6000
5977
5836
4705
5942
5274
4704
5714
5717
3511
5892
4721
5472
5471
5716
2201
3237
5655
3568
57
2650
3519
1711
54
1769
1701
1510
1900
2359
2357
2240
2241
2358
1901
2243
3656
787
1181
374
713
97
0
50m

第13図　溝跡配置図

第14図　製鉄関連遺構配置図

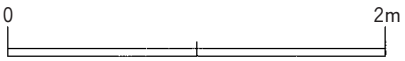




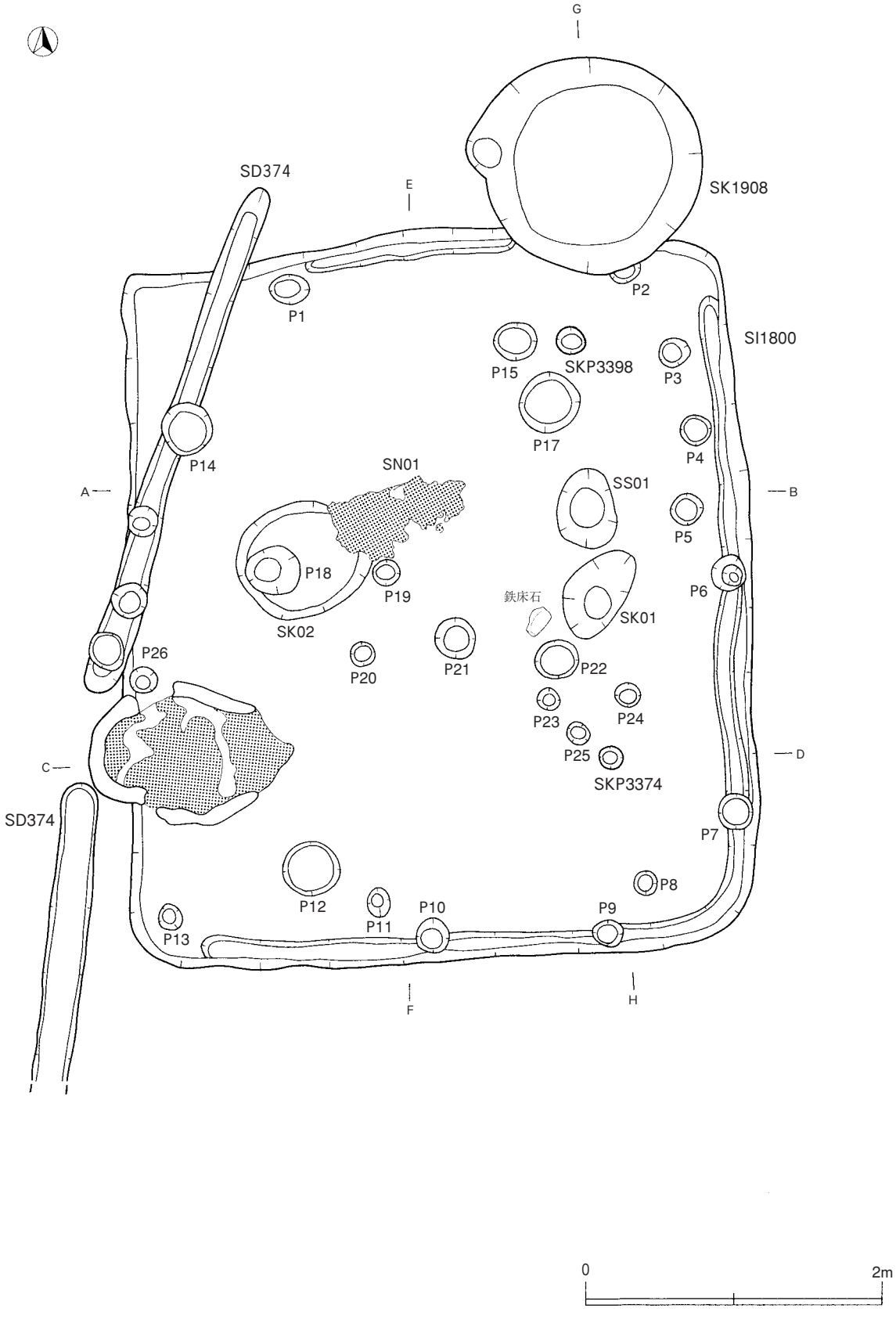


SD713
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒1%

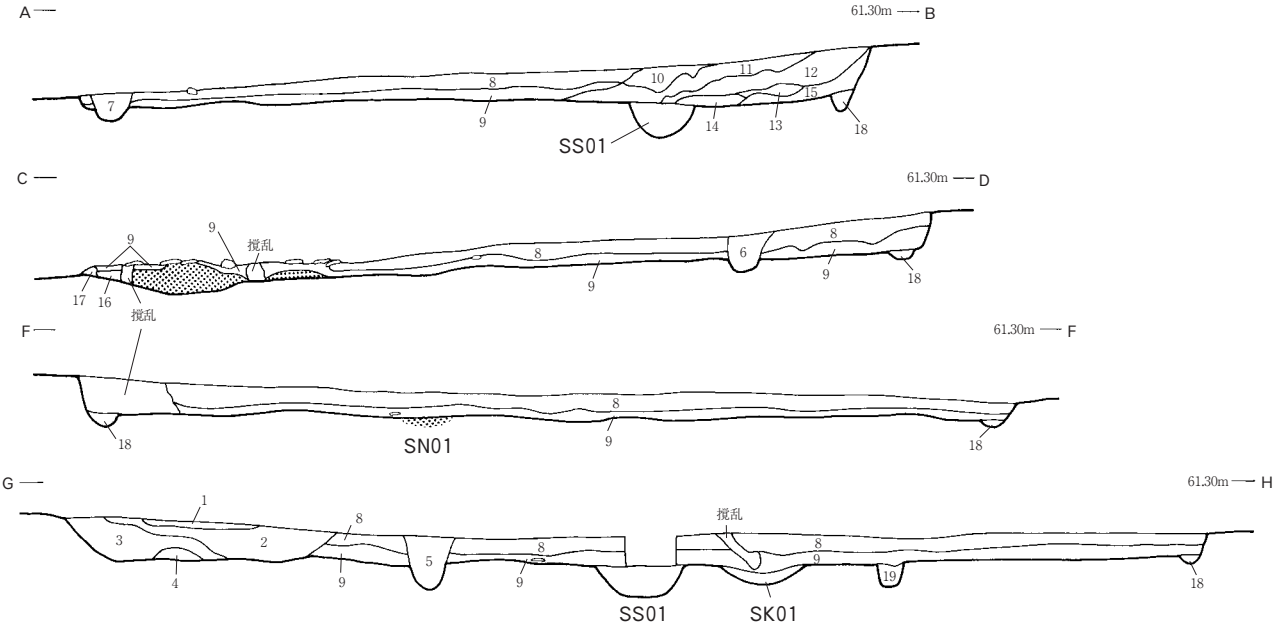
SI86
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒1%、焼土粒(径1㎜)1%未満、地山粒1%未満
3．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径1～30㎜)10%
4．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%
5．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%、地山ブロック(径50㎜)1%
6．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒10%
7．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒3%
8．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%
9．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒3%
10．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径1～3㎜)1%
11．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径3～5㎜)1%、焼土粒7%
12．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性中、焼土粒(径5㎜)10%
13．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
14．明赤褐色(5YR5／8)、しまり強、粘性弱
15．赤褐色(2.5YR4／8)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満
16．にぶい褐色(7.5YR5／4)、粘性中、しまり強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%

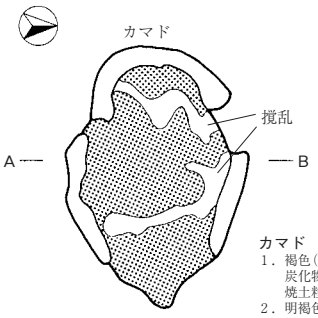


第15図　検出遺構(竪穴住居跡①)



第16図　検出遺構（竪穴住居跡②）





カマド
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱
　炭化物粒(径1～3㎜)5%
　焼土粒(径3～7㎜)7%
2．明褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性弱
　袖部

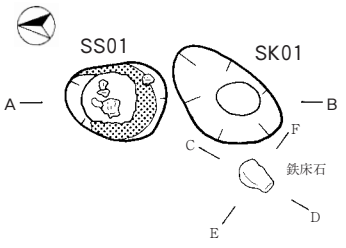
SK1908
1．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒(径1㎜)3%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒(径2㎜)3%
4．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性弱

SKP3398
5．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱

SKP3374
6．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱

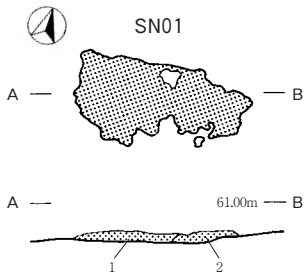
SD374
7．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)5%、焼土粒(径2㎜)5%

SI1800
8．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～5㎜)2%
9．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～5㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%
10．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)5%
11．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)5%、焼土粒(径2㎜)5%
12．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%
13．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)2%
14．暗褐色(10YR3／3)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1～10㎜)10%
15．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%
16．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)2%
17．明褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性なし
18．褐色(7.5YR4／4)、しまり弱、粘性弱
19．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)3%

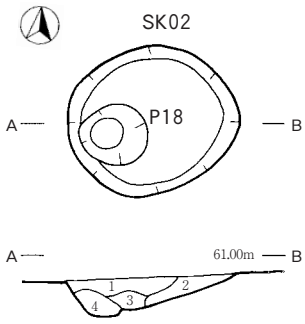


SK01
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒5%、焼土粒(径1㎜)5%

SS01
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)3%、焼土粒(径1～10㎜)7%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱
4．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性弱
5．黒褐色(10YR2／3)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%、地山粒(径2㎜)1%
6．黒色(10YR1.7／1)、しまり強、粘性弱、炭化物層
7．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱
8．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性弱、焼土層

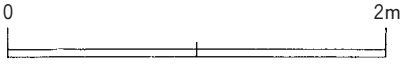


SN01
1．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱
2．暗赤褐色(2.5YR3／4)、しまり強、粘性弱

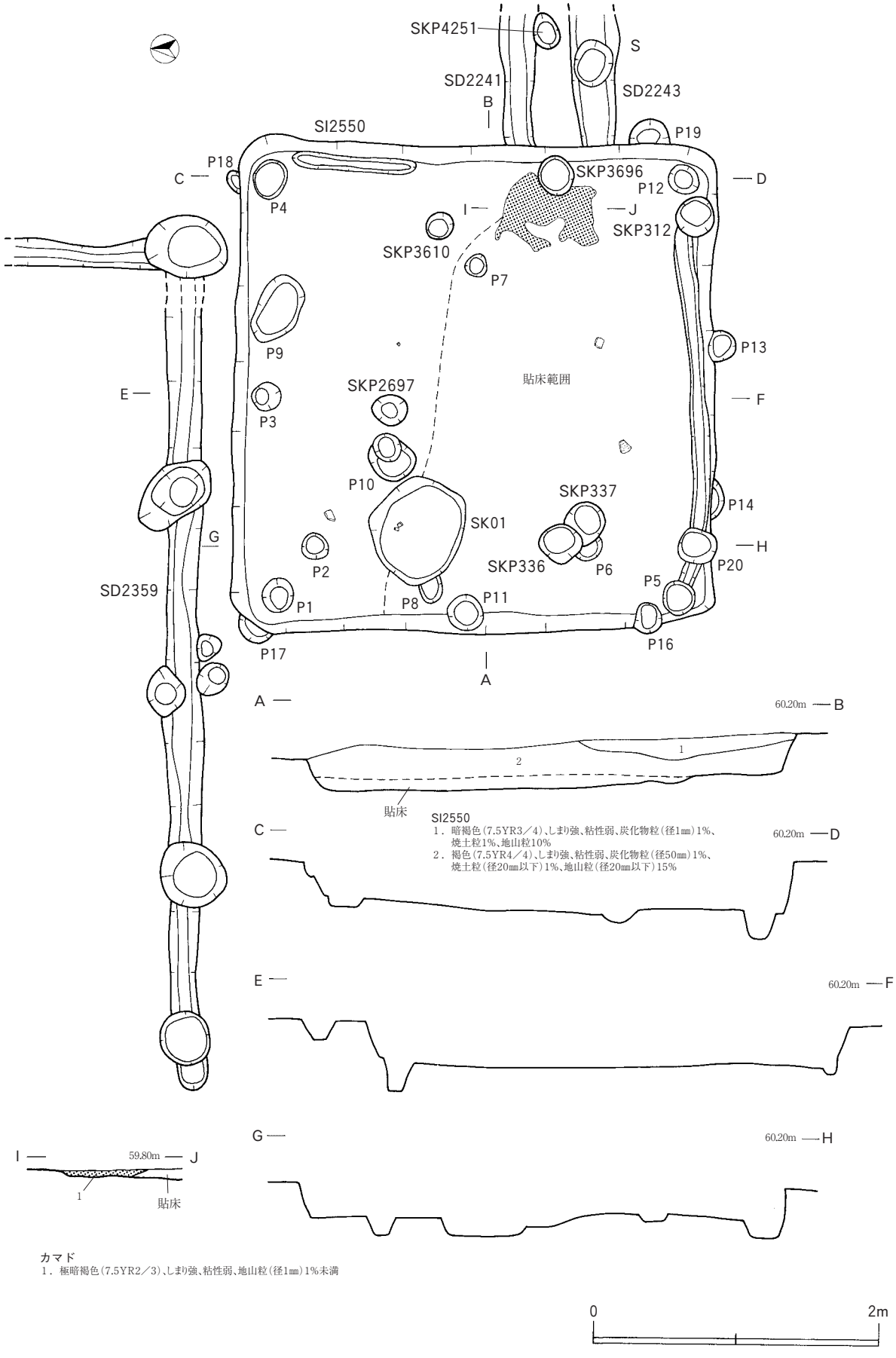


SK02
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)5%、
　焼土粒(径2㎜)3%
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%
3．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱

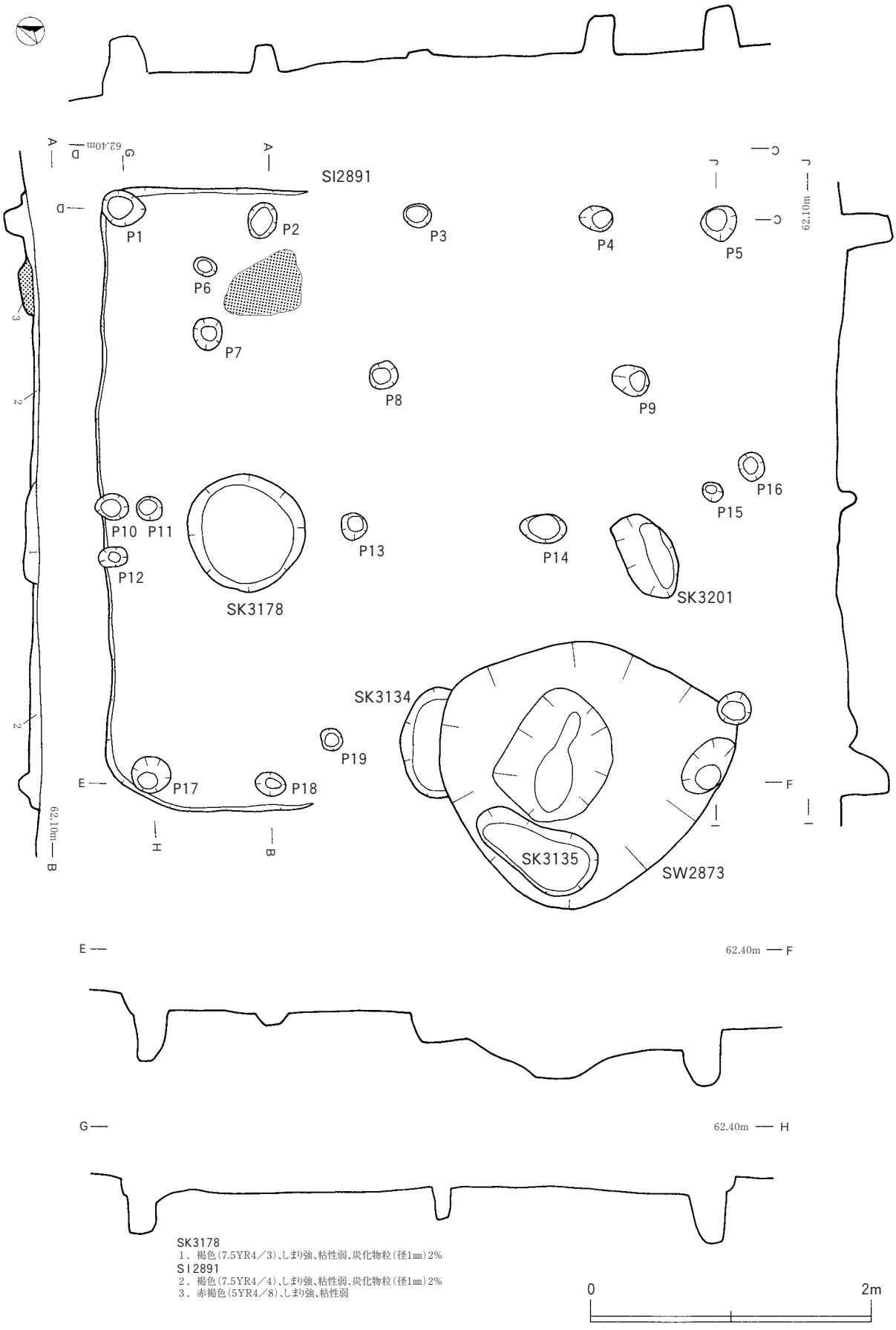
P18
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%



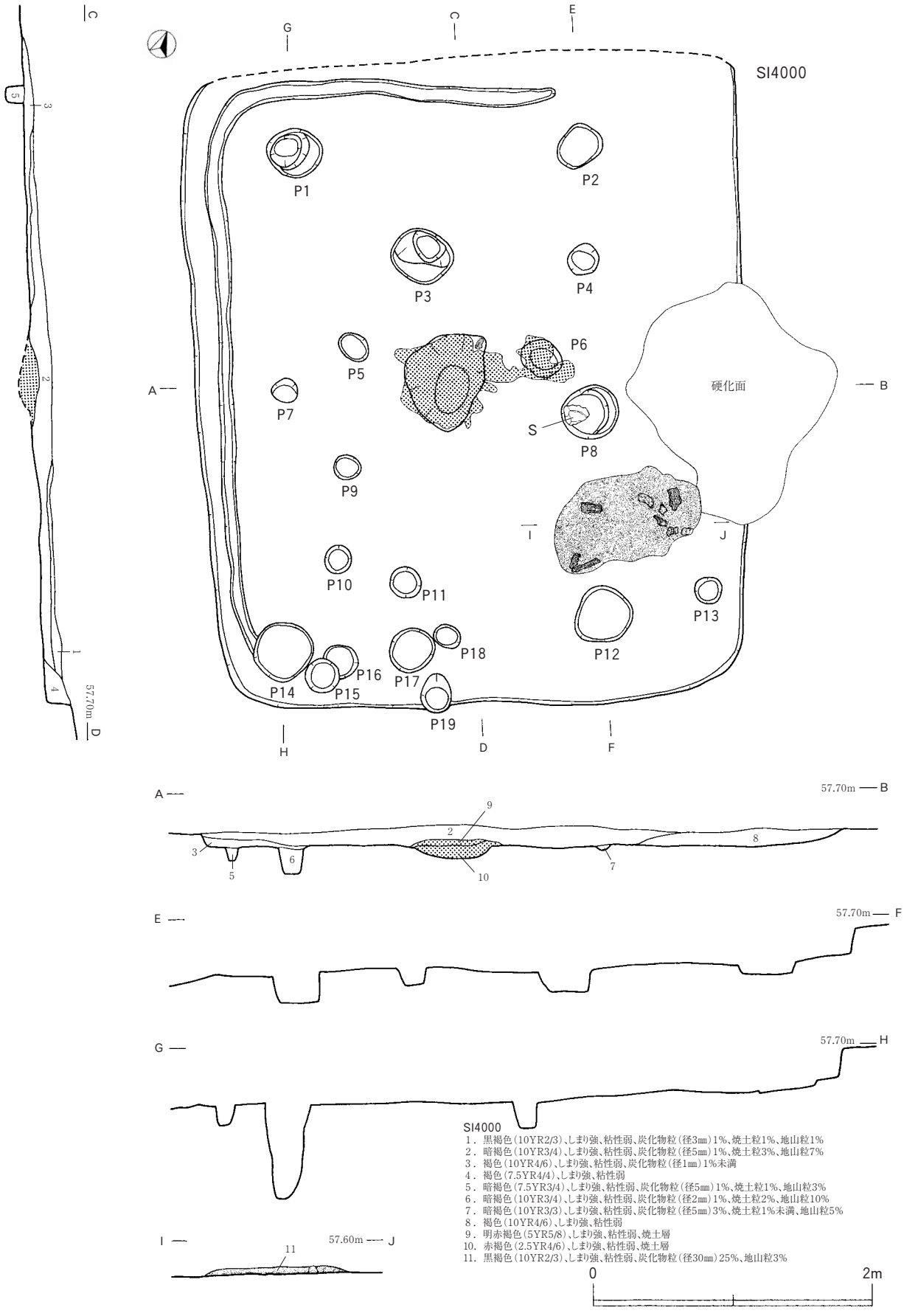
第17図　検出遺構(竪穴住居跡③)



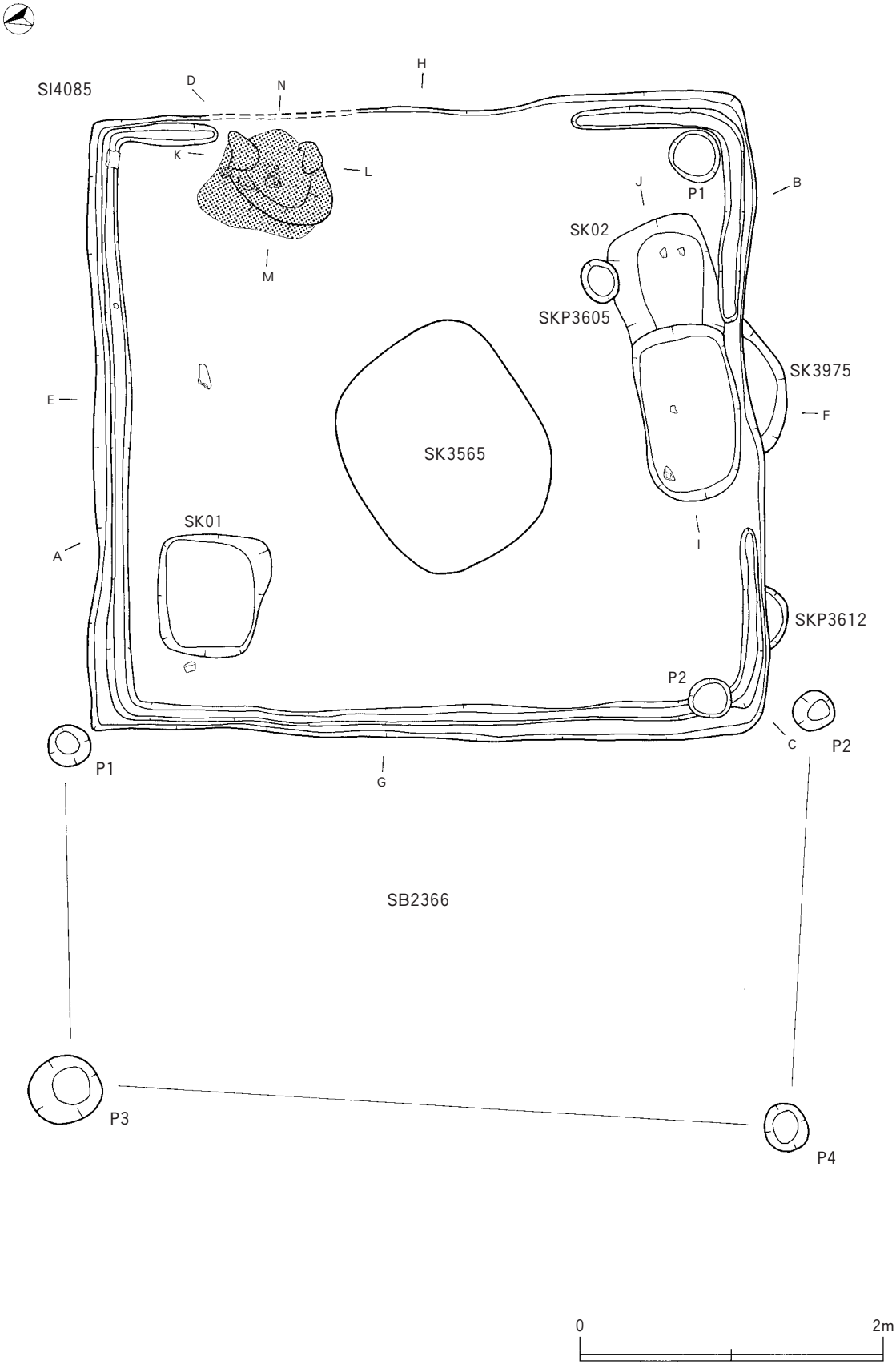
第18図　検出遺構(竪穴住居跡④)



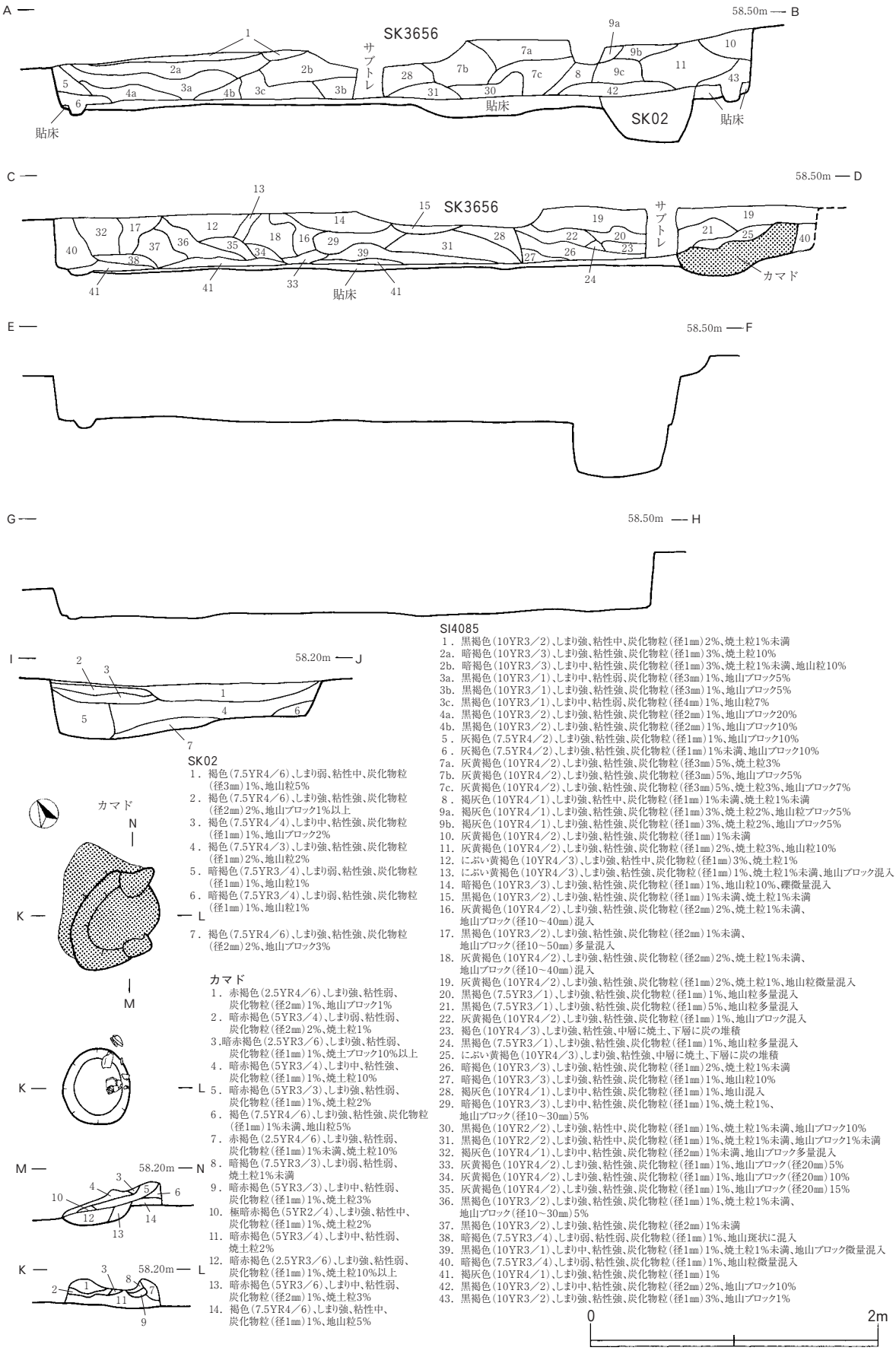
第19図　検出遺構(竪穴住居跡⑤)



第20図　検出遺構（竪穴住居跡⑥）



第21図　検出遺構（竪穴住居跡⑦）



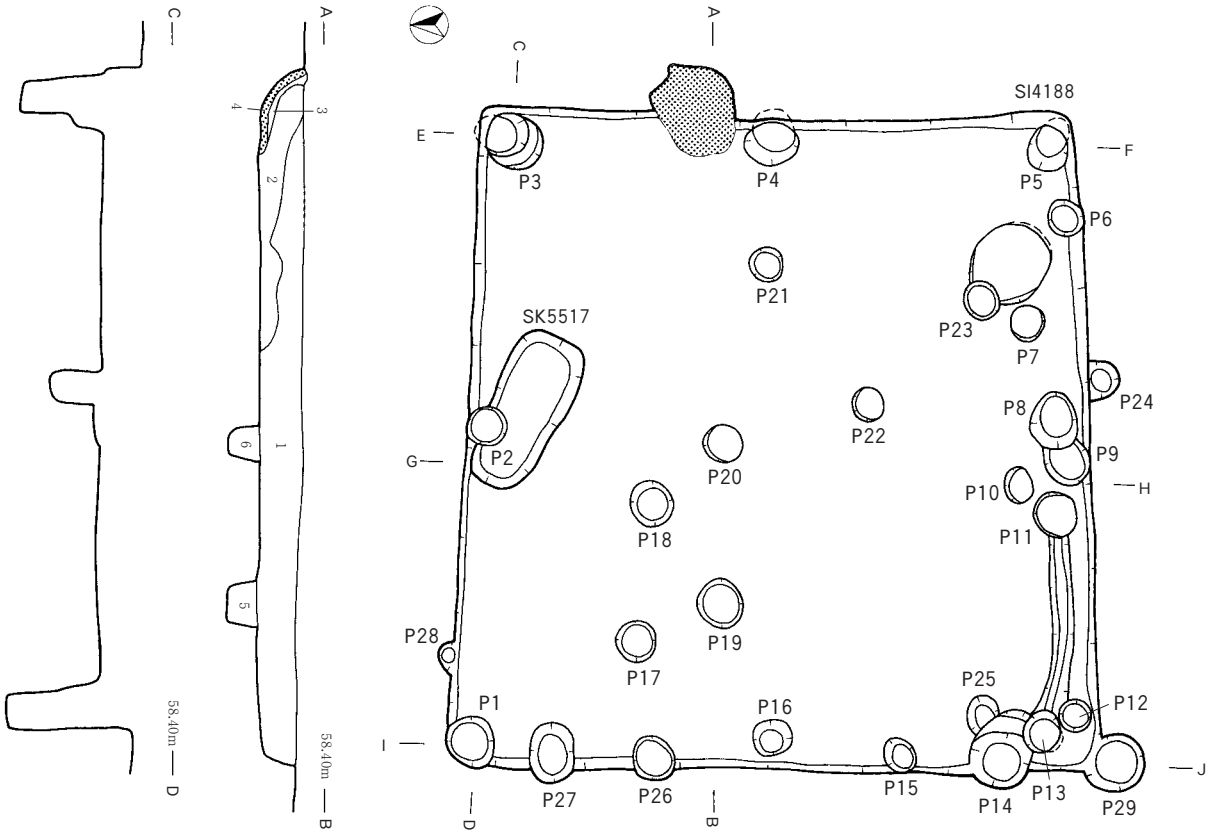
SI4085
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒1%未満
2a．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒10%
2b．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒1%未満、地山粒10%
3a．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)1%、地山ブロック5%
3b．黒褐色(10YR3／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%、地山ブロック5%
3c．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径4㎜)1%、地山粒7%
4a．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、地山ブロック20%
4b．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、地山ブロック10%
5．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック10%
6．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山ブロック10%
7a．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)5%、焼土粒3%
7b．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)5%、地山ブロック5%
7c．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)5%、焼土粒3%、地山ブロック7%
8．褐灰色(10YR4／1)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒1%未満
9a．褐灰色(10YR4／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒2%、地山粒ブロック5%
9b．褐灰色(10YR4／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒2%、地山ブロック5%
10．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満
11．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒3%、地山粒10%
12．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒1%
13．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%未満、地山ブロック混入
14．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒10%、礫微量混入
15．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒1%未満
16．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒1%未満、
地山ブロック(径10～40㎜)混入
17．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%未満、
地山ブロック(径10～50㎜)多量混入
18．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒1%未満、
地山ブロック(径10～40㎜)混入
19．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒1%、地山粒微量混入
20．黒褐色(7.5YR3／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒多量混入
21．黒褐色(7.5YR3／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)5%、地山粒多量混入
22．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック混入
23．褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、中層に焼土、下層に炭の堆積
24．黒褐色(7.5YR3／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒多量混入
25．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、中層に焼土、下層に炭の堆積
26．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒1%未満
27．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒10%
28．褐灰色(10YR4／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山混入
29．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%、
地山ブロック(径10～30㎜)5%
30．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%未満、地山ブロック10%
31．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%未満、地山ブロック1%未満
32．褐灰色(10YR4／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%未満、地山ブロック多量混入
33．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック(径20㎜)5%
34．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック(径20㎜)10%
35．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック(径20㎜)15%
36．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%未満、
地山ブロック(径10～30㎜)5%
37．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%未満
38．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、地山斑状に混入
39．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%未満、地山ブロック微量混入
40．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒微量混入
41．褐灰色(10YR4／1)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
42．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山ブロック10%
43．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、地山ブロック1%

SK02
1．褐色(7.5YR4／6)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径3㎜)1%、地山粒5%
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山ブロック1%以上
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック2%
4．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、地山粒2%
5．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒1%
6．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒1%
7．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山ブロック3%

カマド
1．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、地山ブロック1%
2．暗赤褐色(5YR3／4)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒1%
3．暗赤褐色(2.5YR3／6)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土ブロック10%以上
4．暗赤褐色(5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒10%
5．暗赤褐色(5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒2%
6．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒5%
7．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒10%
8．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性弱、焼土粒1%未満
9．暗赤褐色(5YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒3%
10．極暗赤褐色(5YR2／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒2%
11．暗赤褐色(5YR3／4)、しまり中、粘性弱、焼土粒2%
12．暗赤褐色(2.5YR3／6)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒10%以上
13．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒3%
14．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒5%

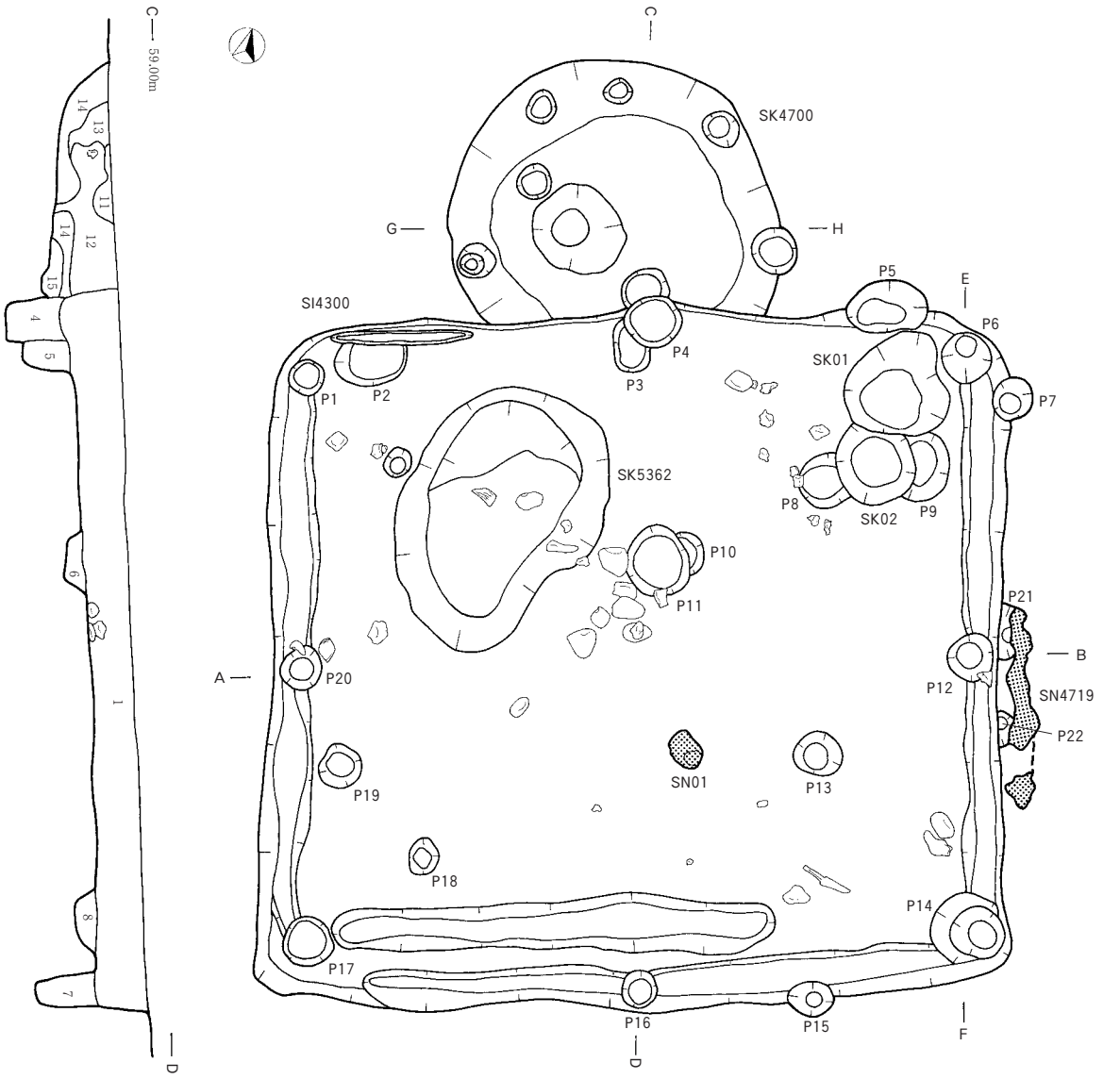
0　2m

第22図　検出遺構(竪穴住居跡⑧)



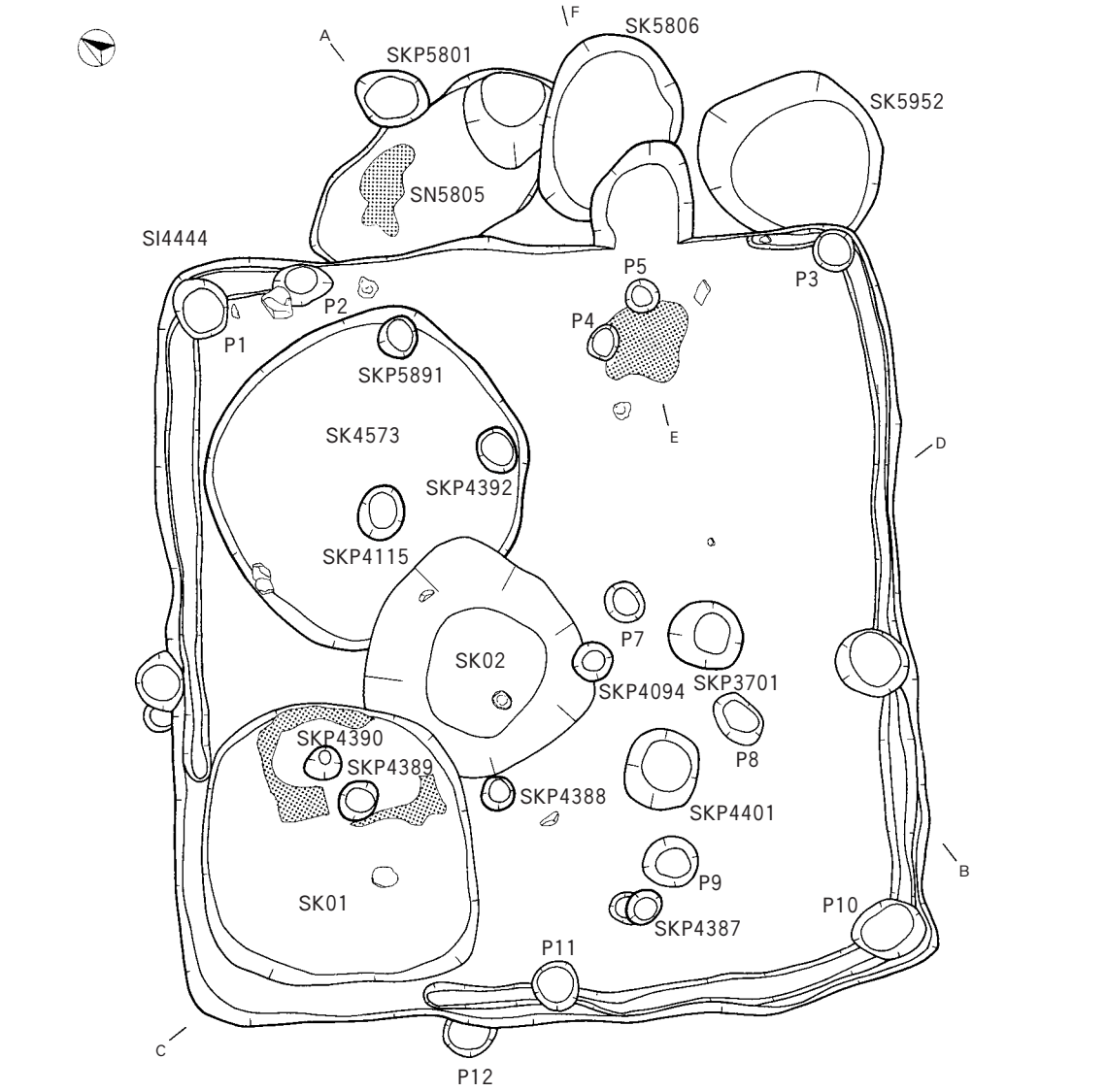
SI4188
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)1%未満、焼土粒1%、地山混入
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径10㎜)1%、焼土1%
3．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱
カマド
4．赤褐色(5YR4／8)、しまり強、粘性中
P19
5．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強
P20
6．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強
P10
7．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強
SK5517
8．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性強

第23図　検出遺構(竪穴住居跡⑨)



SI4300
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒2%、地山ブロック10%
2．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強
3．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり弱、粘性弱
4．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒3%
5．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒2%
6．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒3%
7．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、地山ブロック10%
8．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒7%
SN4719
9．赤褐色(5YR4／8)、しまり強、粘性中
10．暗褐色(5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径2㎜)3%
SK4700
11．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強
12．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、焼土粒(径2㎜)2%
13．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱
14．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強
15．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒3%

第24図　検出遺構(竪穴住居跡⑩)

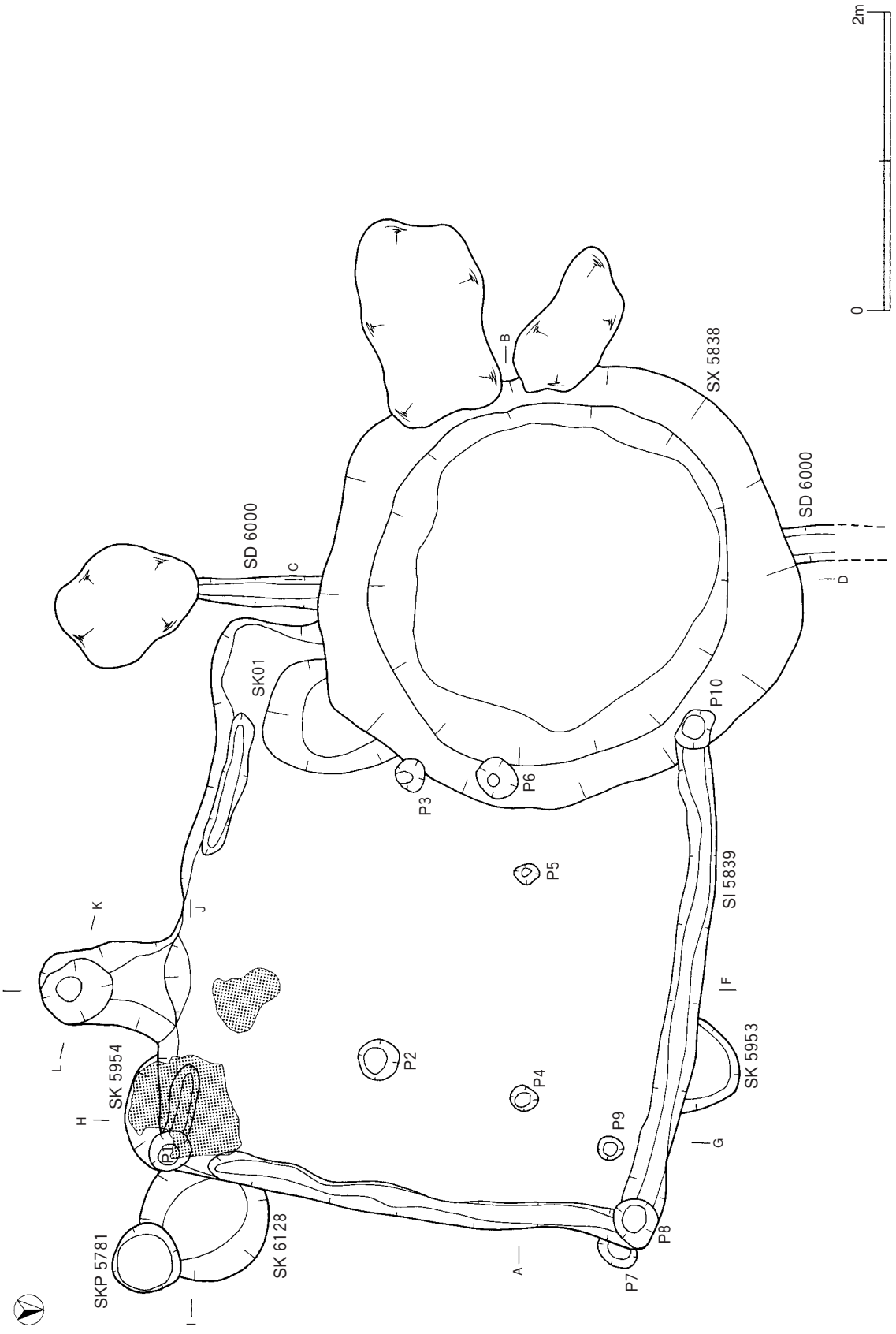


カマド
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径15㎜)3%未満、焼土粒2%、地山粒 5%
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径4㎜)、地山粒1%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径10㎜)7%、焼土粒2%、地山粒1%
4．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径30㎜)、地山粒1%
5．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)、焼土粒2%、地山粒2%
6．赤褐色(2.5YR4／8)、しまり強、粘性弱、焼土層
7．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径20㎜)2%、焼土粒2%、地山粒7%

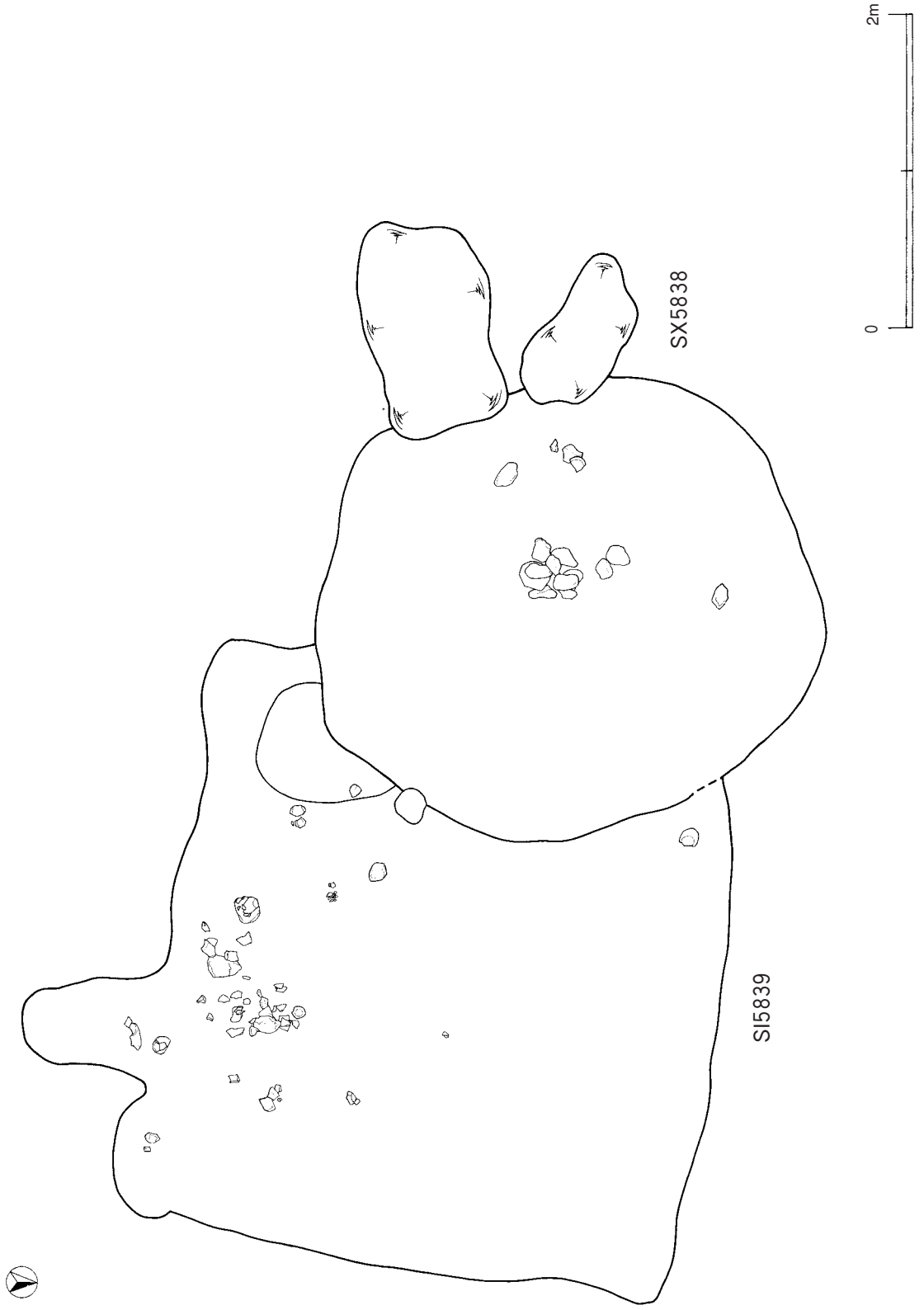
SKP5801
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%、地山ブロック2%
SKP4388
2．暗褐色 (5YR3／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
SKP3701
3．暗褐色 (5YR3／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
SI4444
4．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒1%、焼土粒2%、地山粒5%
5．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径10㎜)2%、焼土粒2%、地山粒5%
6．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%、地山粒3%
7．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径5㎜)2%、焼土粒2%、地山粒3%
8．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径10㎜)1%未満、焼土粒1%、地山粒10%
SN5805
9．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒7%

0　2m

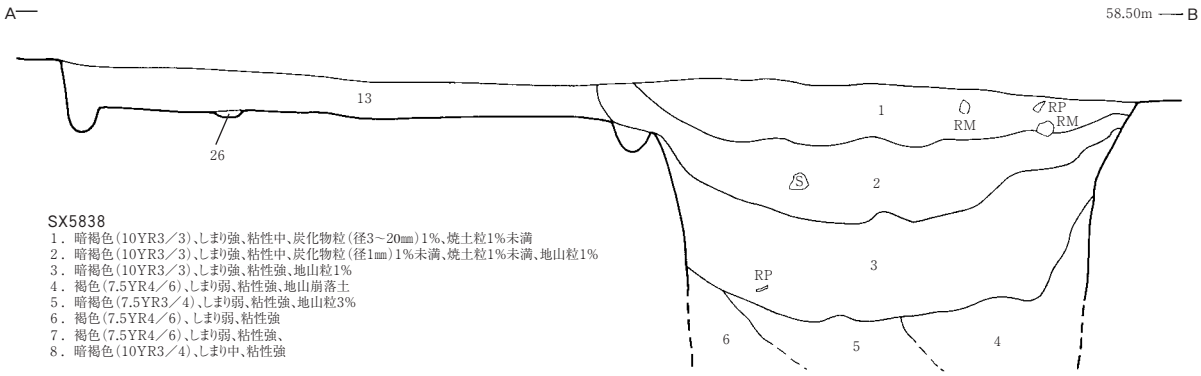
第25図　検出遺構(竪穴住居跡⑪)



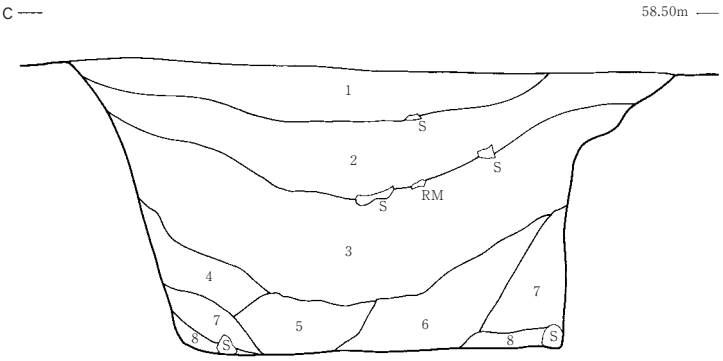
第26図　検出遺構（竪穴住居跡⑫）

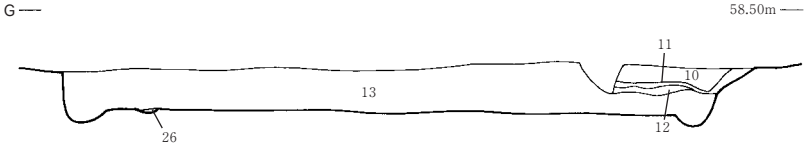


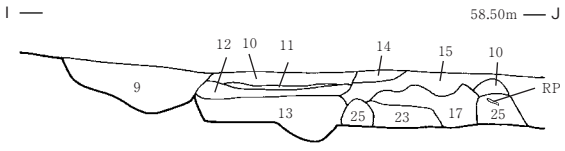
第27図　検出遺構（竪穴住居跡⑬）



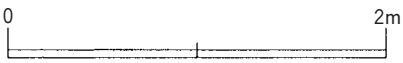
SX5838
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径3～20㎜)1%、焼土粒1%未満
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒1%未満、地山粒1%
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、地山粒1%
4．褐色(7.5YR4／6)、しまり弱、粘性強、地山崩落土
5．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、地山粒3%
6．褐色(7.5YR4／6)、しまり弱、粘性強
7．褐色(7.5YR4／6)、しまり弱、粘性強、
8．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強



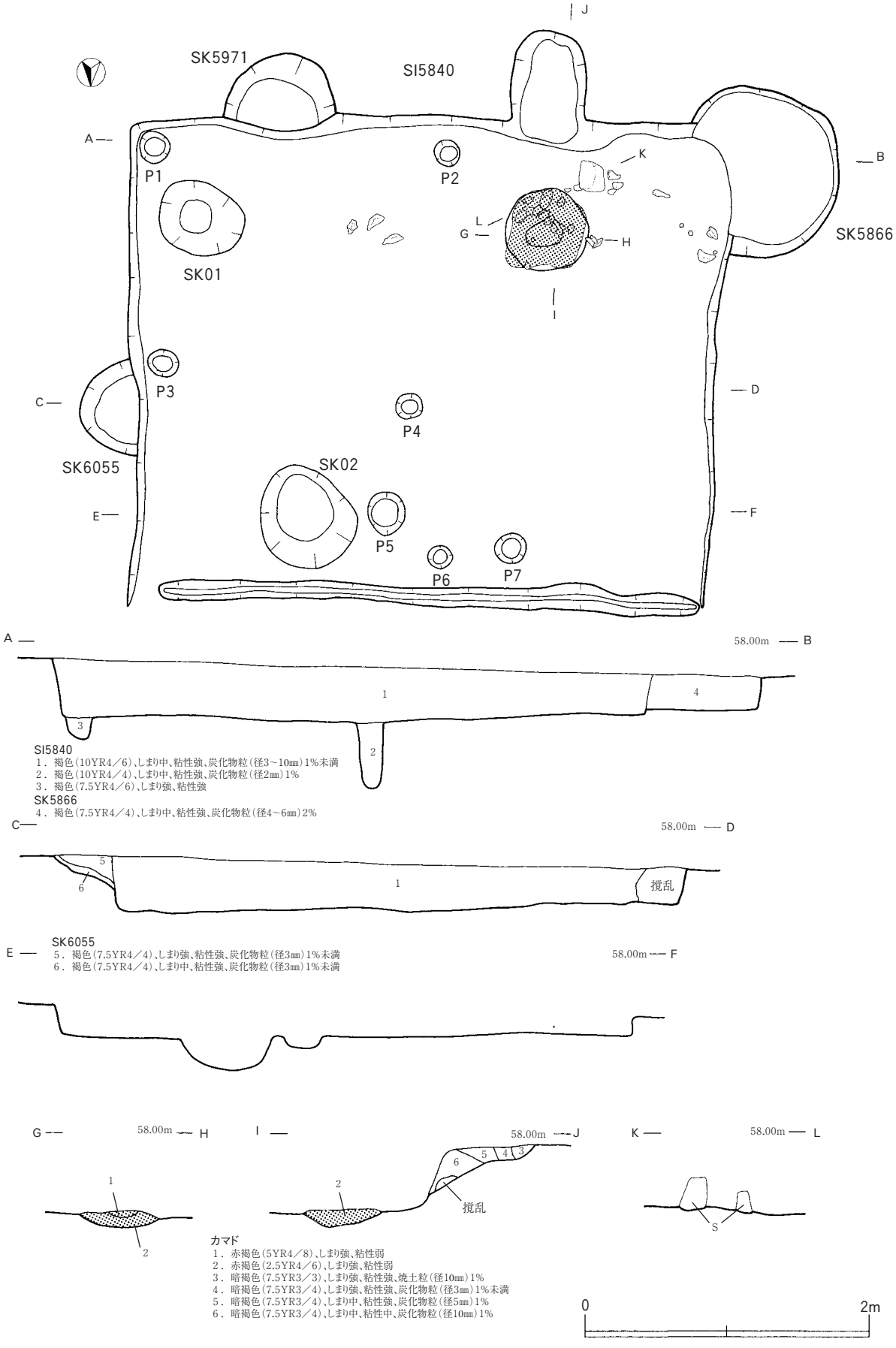




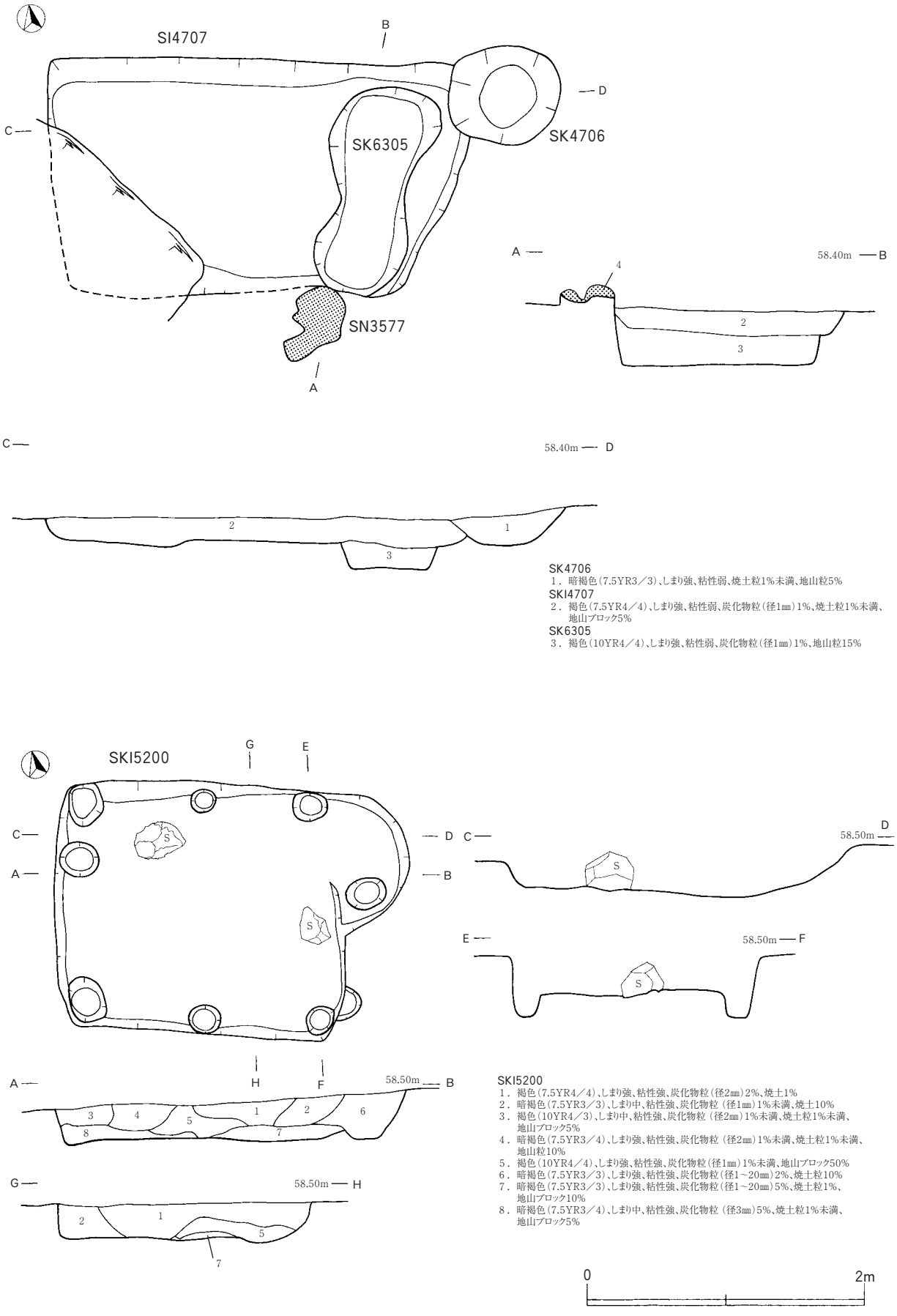
SK6128
9．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、地山ブロック斑状に混入
SK5954
10．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%、地山粒斑状に混入
11．明赤褐色(5YR5／6)、しまり強、粘性なし、焼土層
12．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性中
SI5839
13．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%未満、焼土粒1%未満、 地山粒1%
14．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中、焼土粒1%
15．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、焼土粒5%
16．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中
17．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、焼土粒3%、地山粒1%
18．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中、地山粒2%
19．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性強
20．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性強、地山粒5%
21．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強
22．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性強、地山粒3%
23．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、焼土粒1%、地山粒(径1㎜)斑状に混入
24．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満
25．褐色(7.5YR4／6)、しまり中、粘性強
26．暗褐色(10YR3／3)、しまり弱、粘性強、地山粒1%



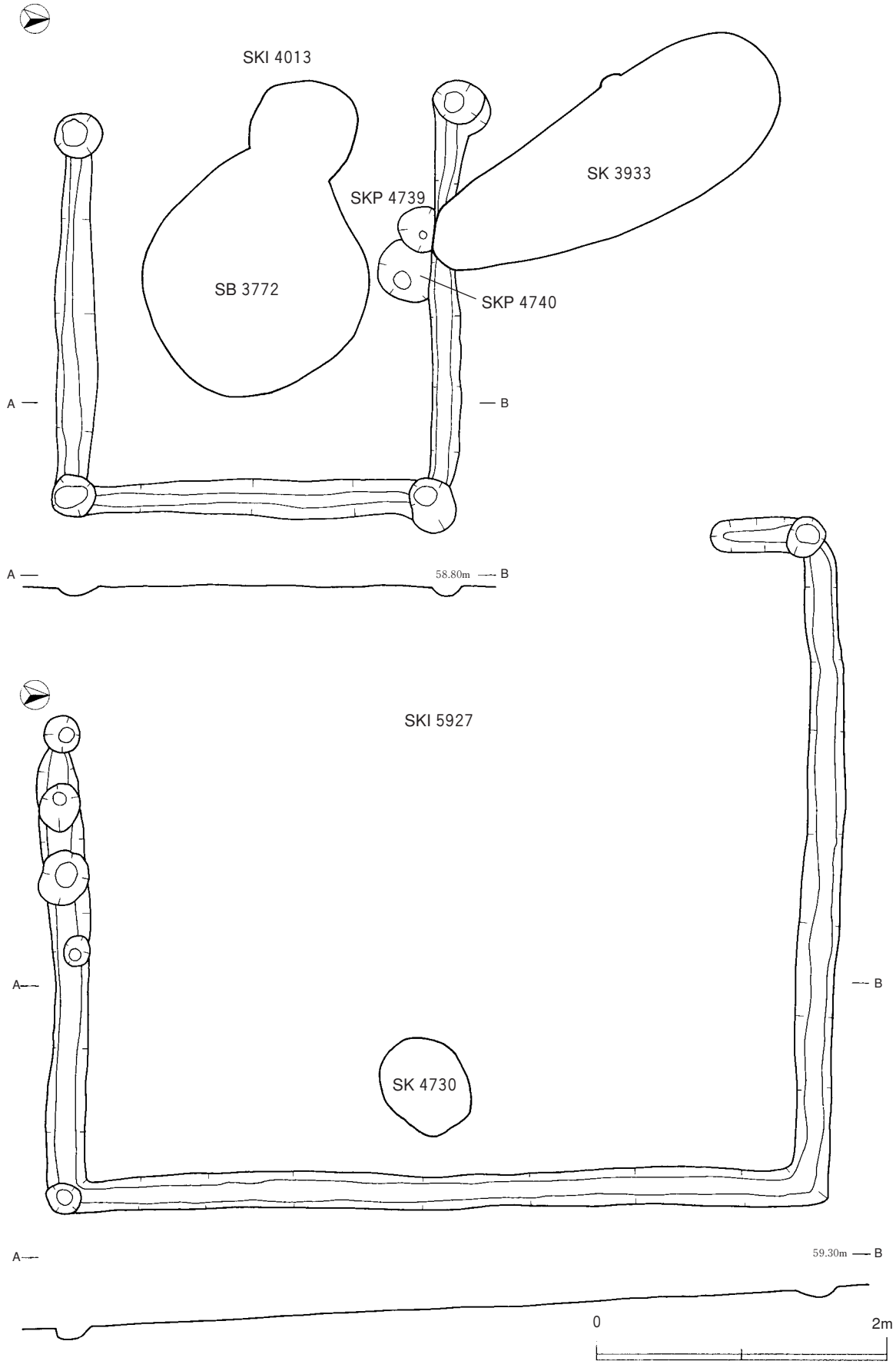
第28図　検出遺構(竪穴住居跡⑭)



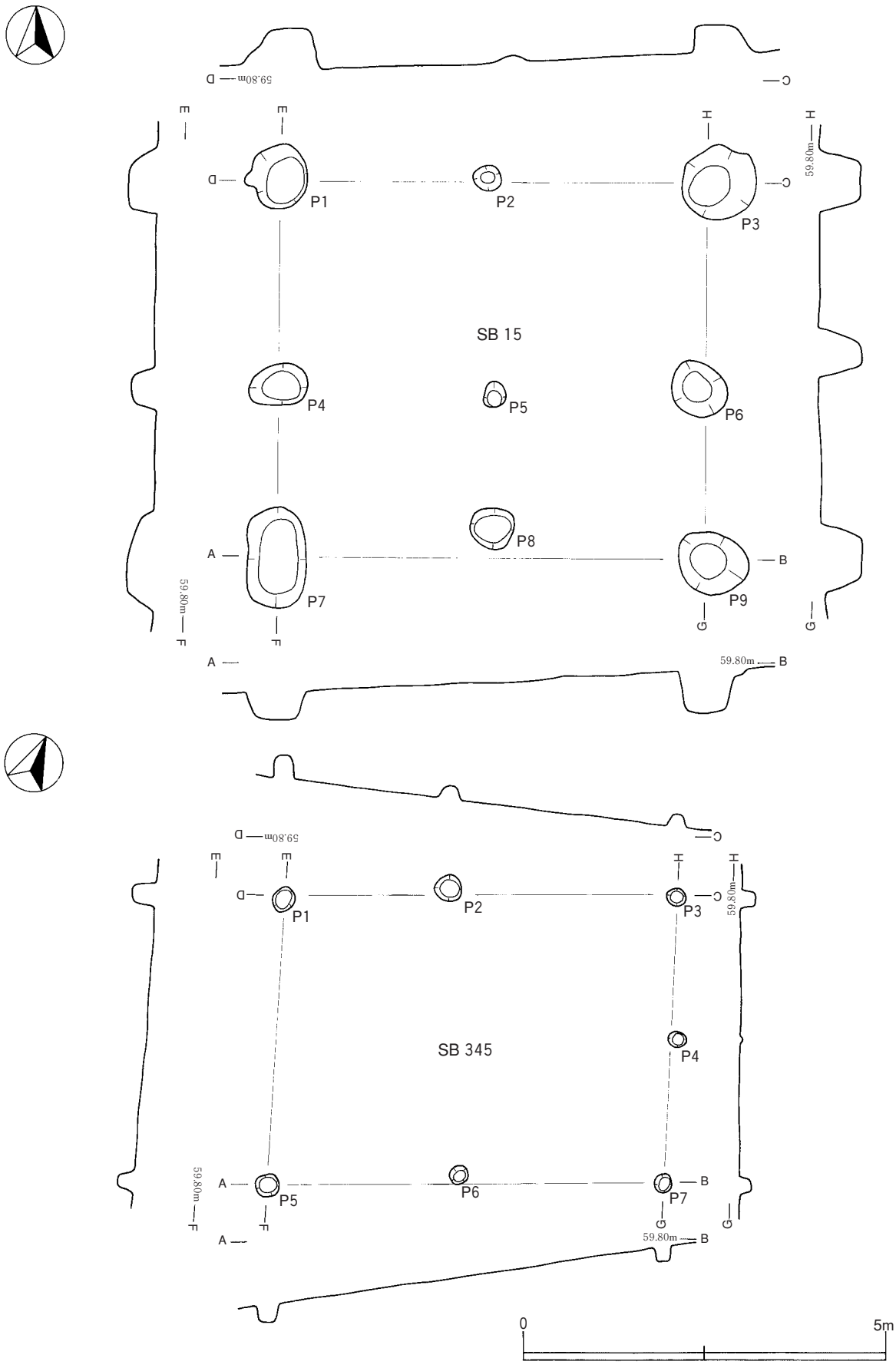
第29図　検出遺構(竪穴住居跡⑮)



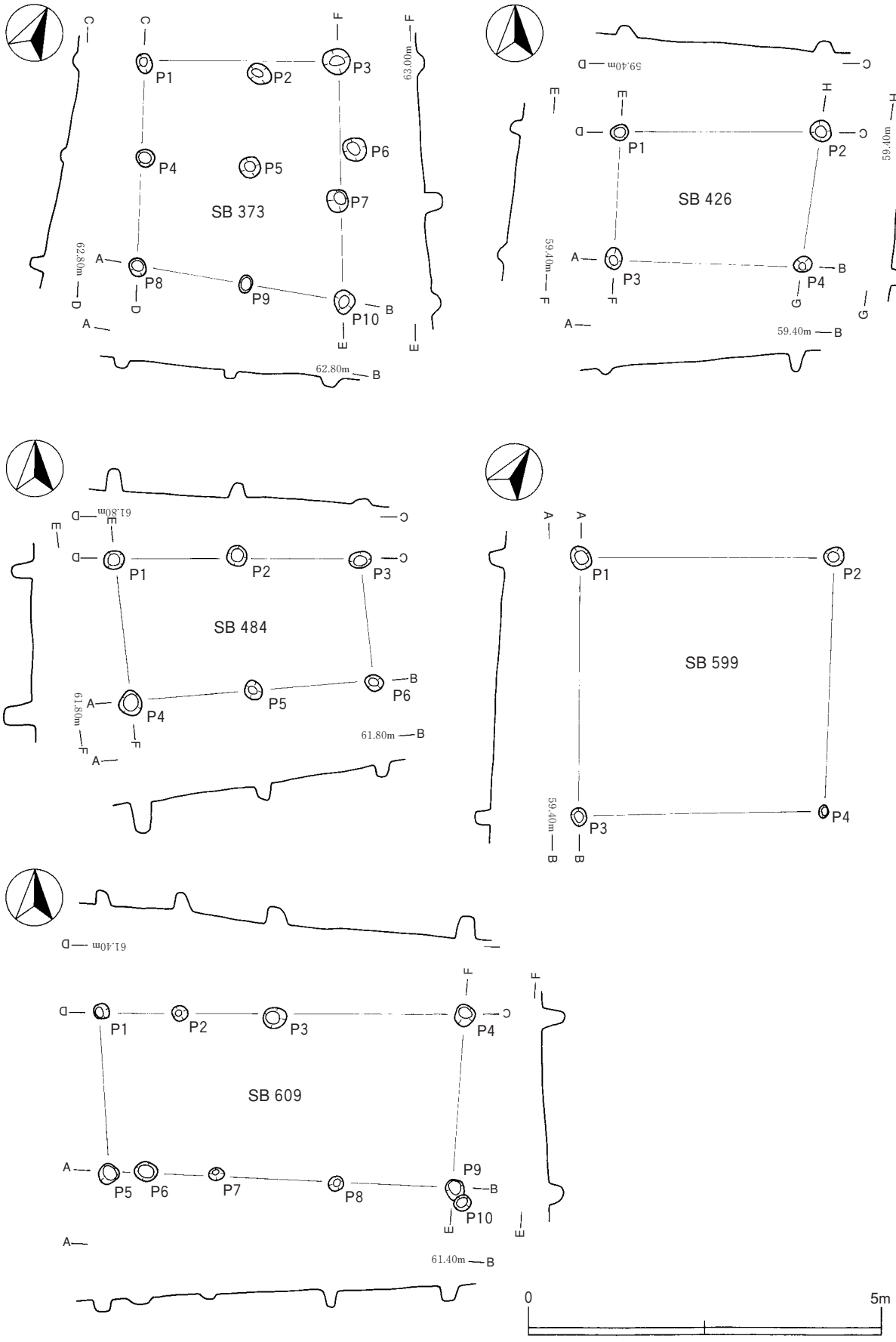
第30図　検出遺構(竪穴状遺構①)



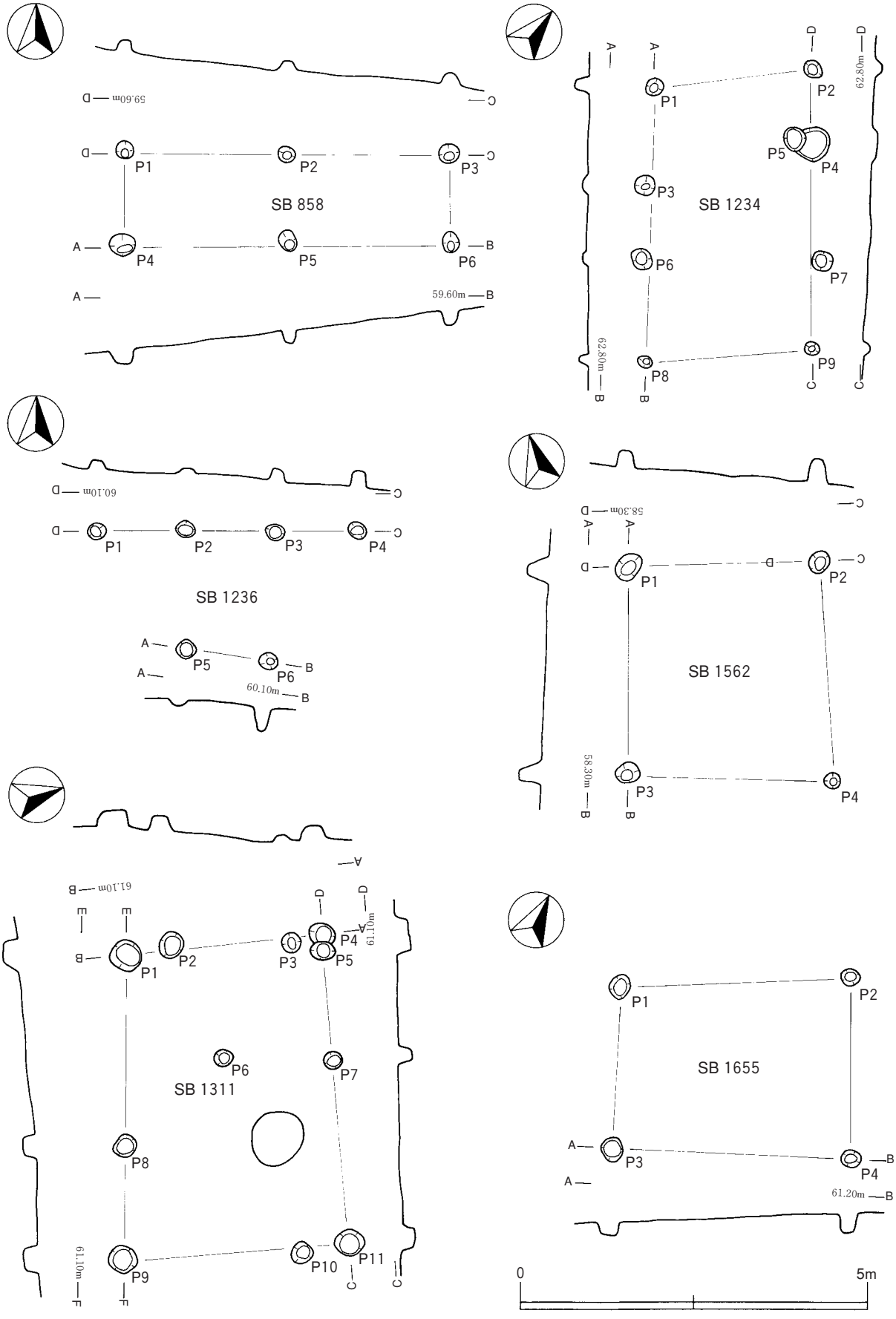
第31図　検出遺構（竪穴状遺構②）



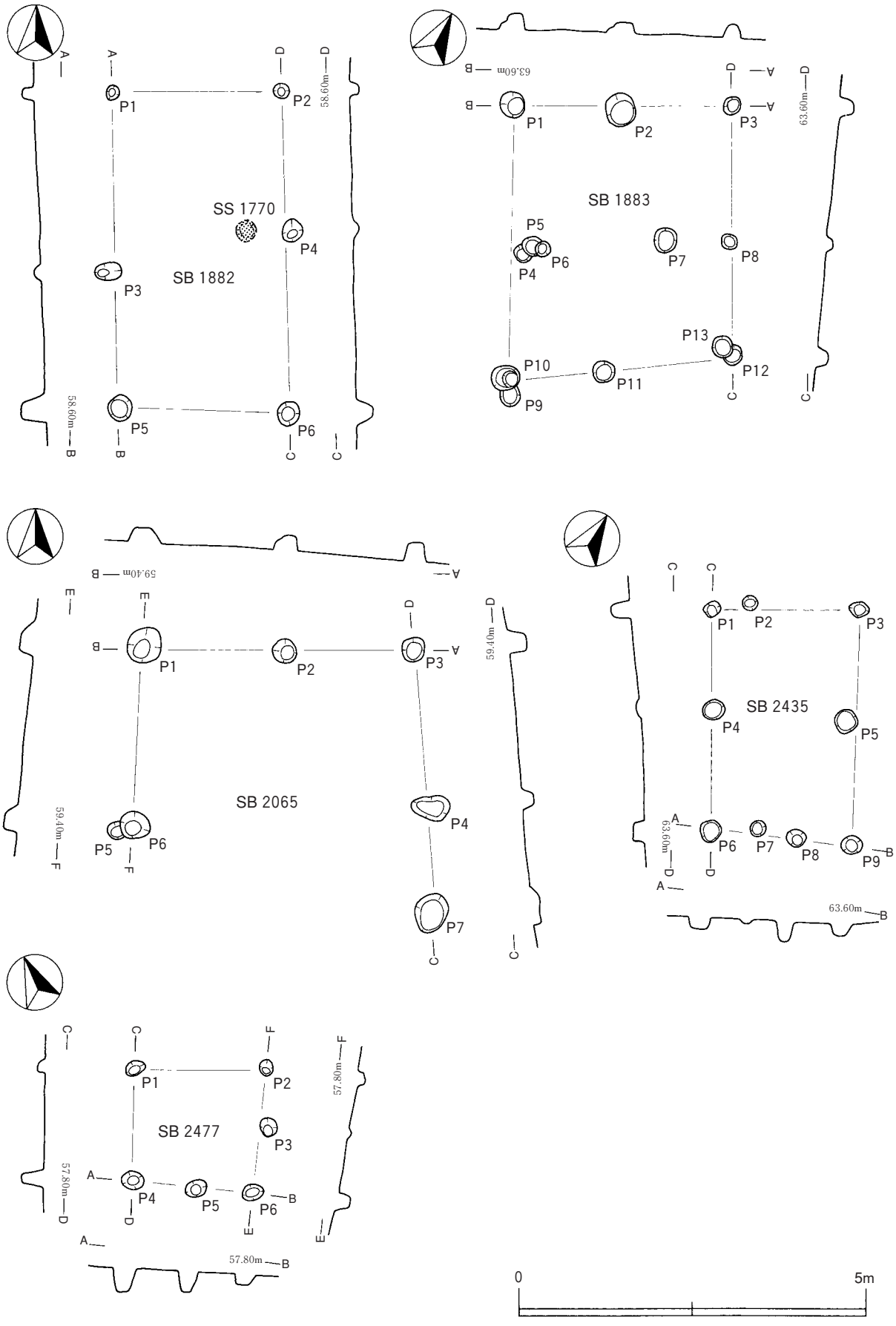
第32図　検出遺構（掘立柱建物跡①）



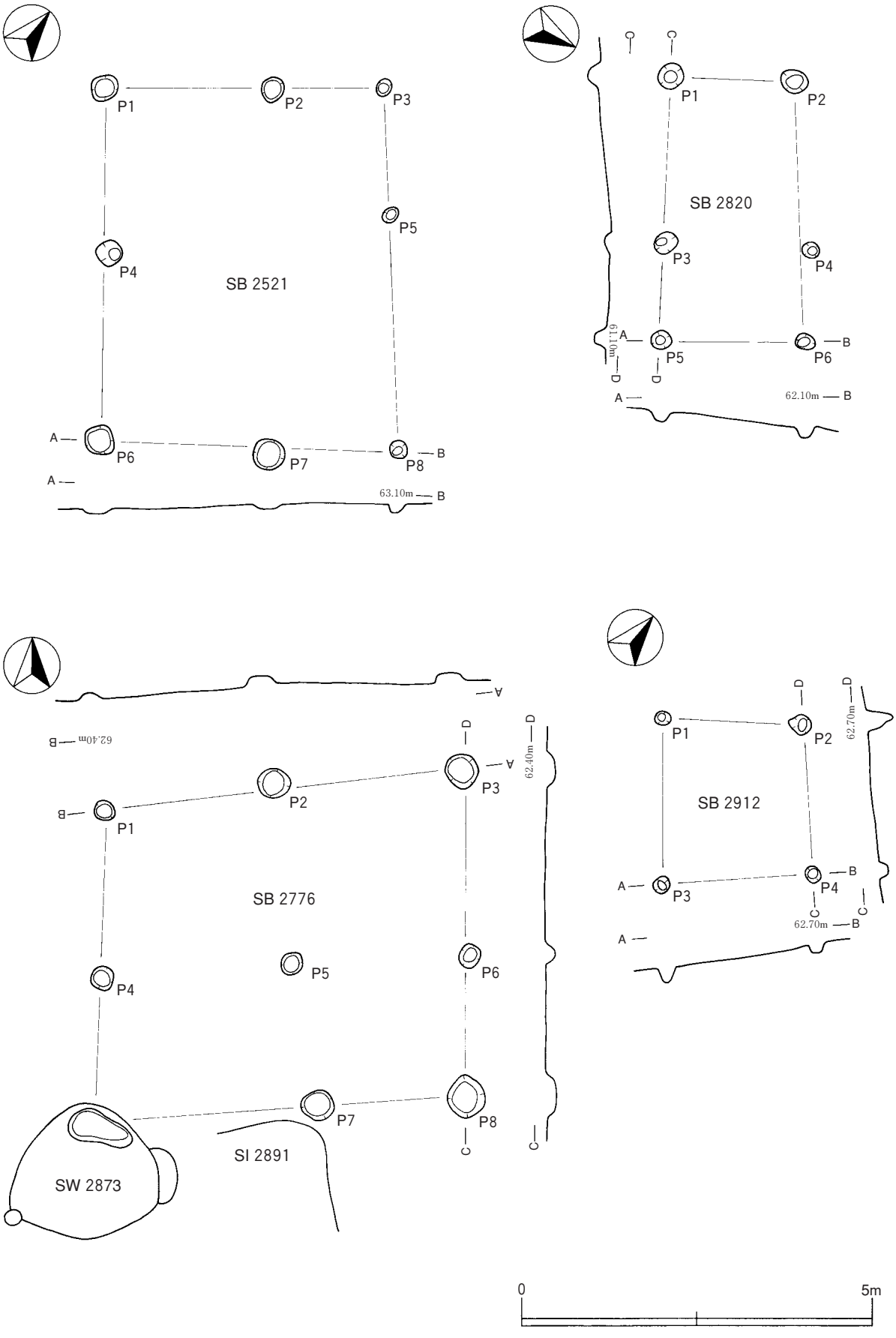
第33図　検出遺構（掘立柱建物跡②）



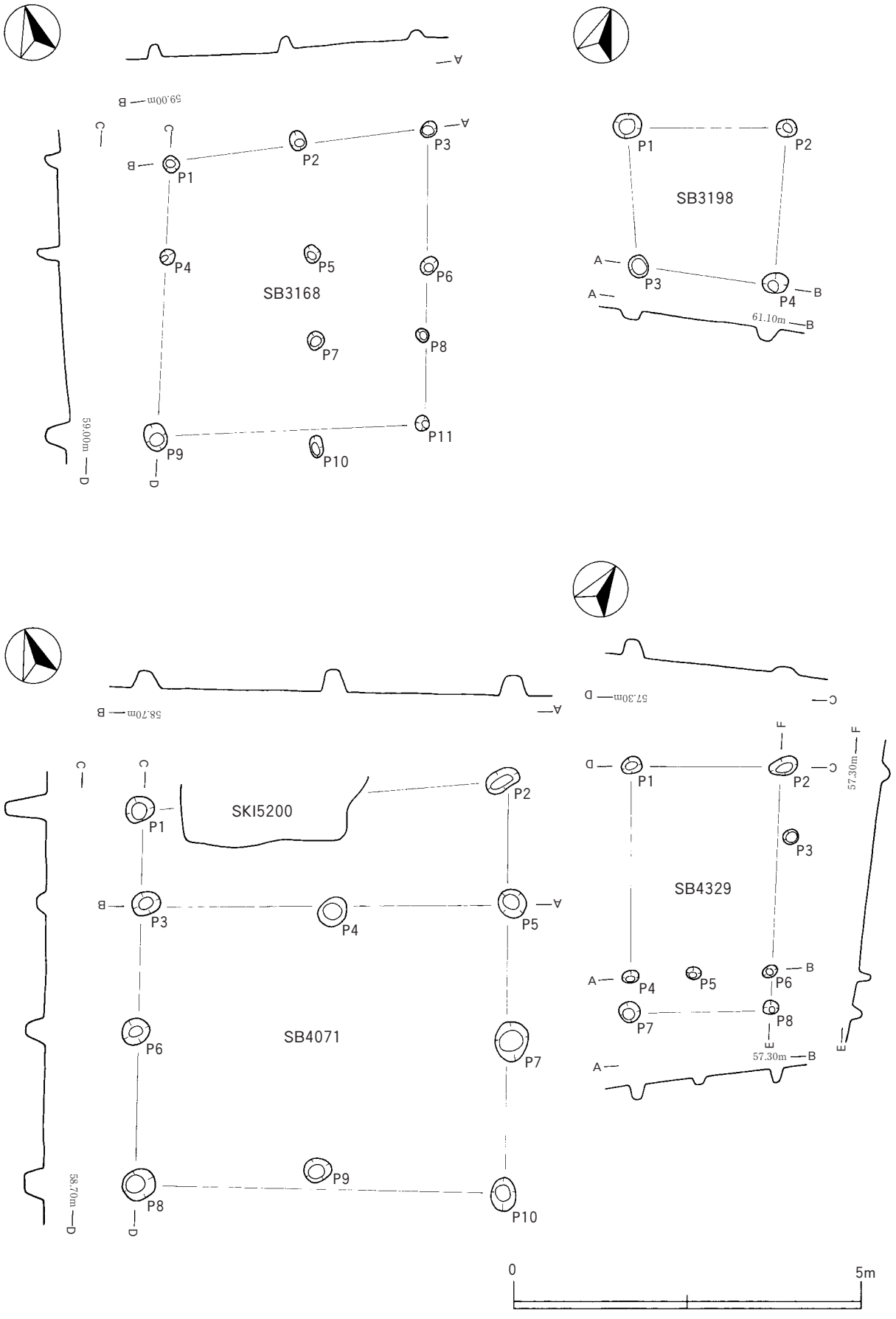
第34図　検出遺構（掘立柱建物跡③）



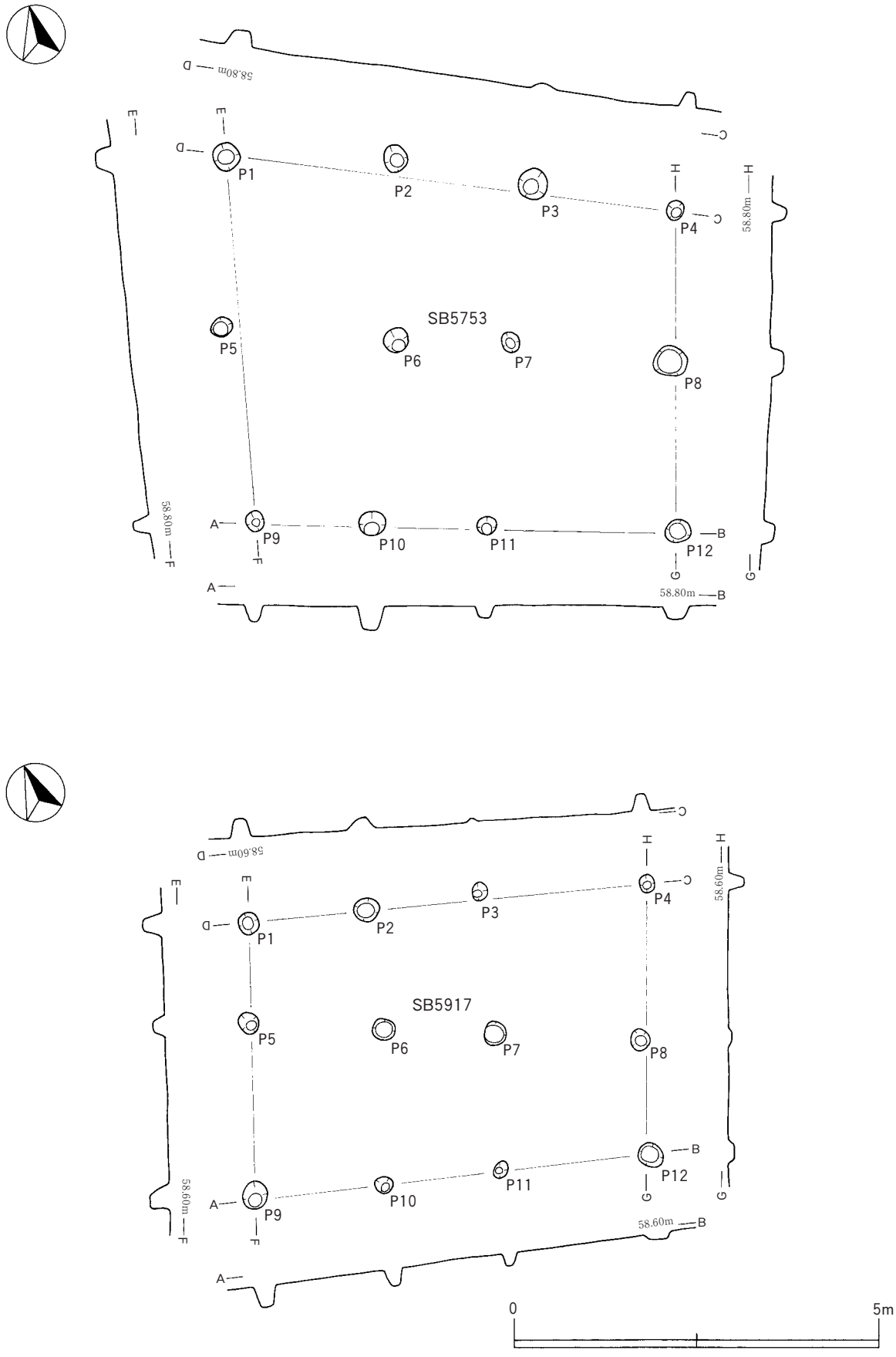
第35図　検出遺構（掘立柱建物跡④）



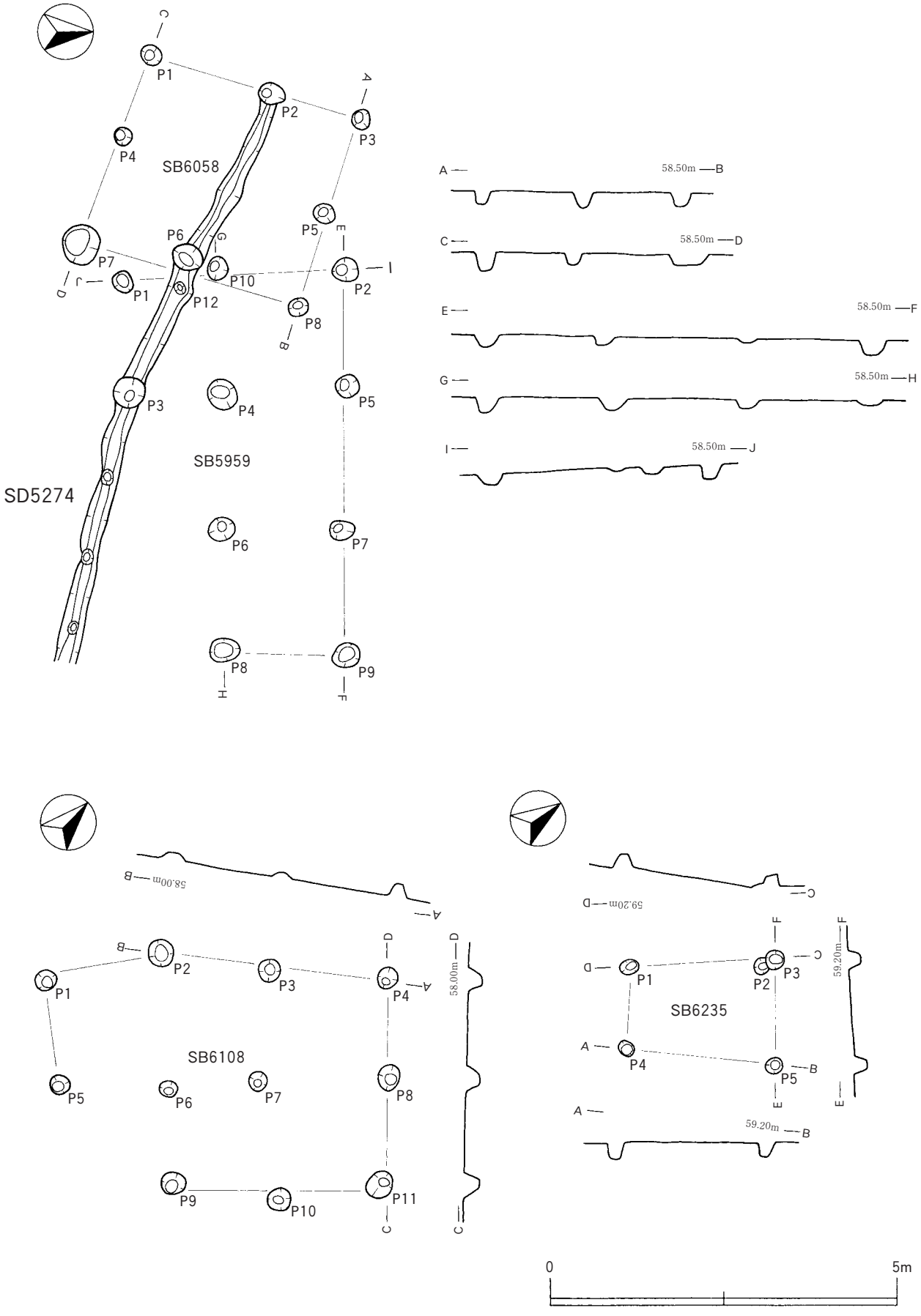
第36図　検出遺構（掘立柱建物跡⑤）



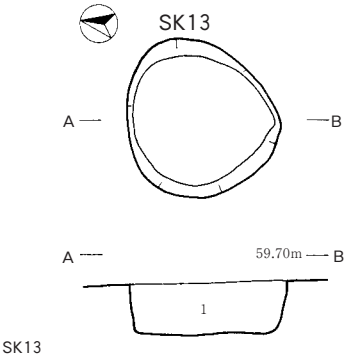
第37図　検出遺構（掘立柱建物跡⑥）



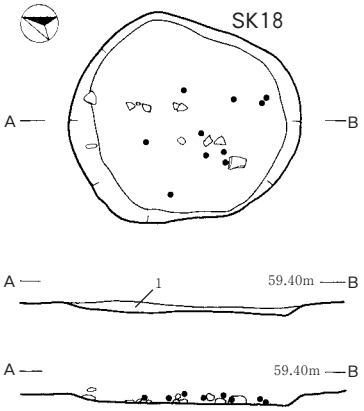
第38図　検出遺構（掘立柱建物跡⑦）



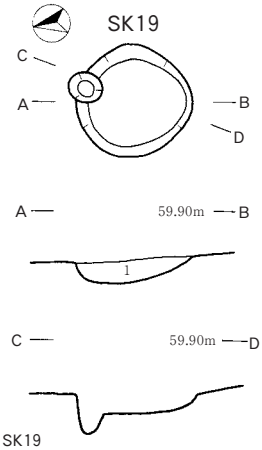
第39図　検出遺構（掘立柱建物跡⑧）



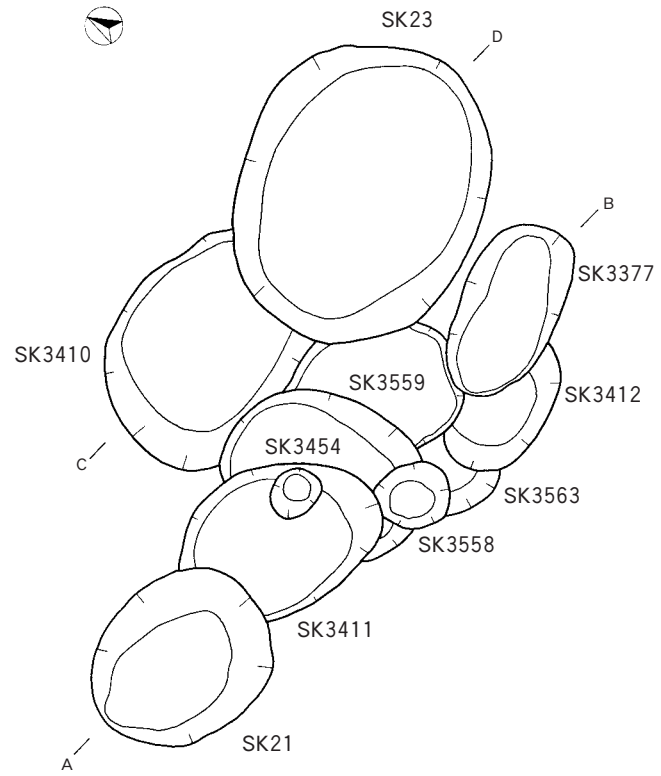
SK13
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5㎜)1%未満、
地山粒(径10㎜)3%

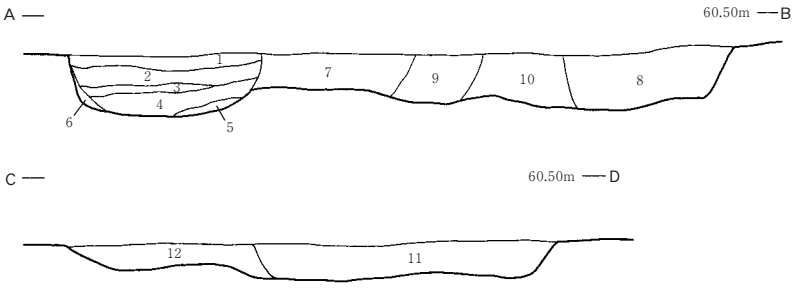


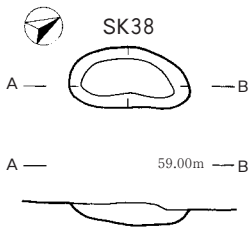
SK18
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、
焼土粒混入



SK19
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～2㎜)1%、
焼土粒(径1～3㎜)2%

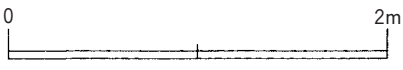




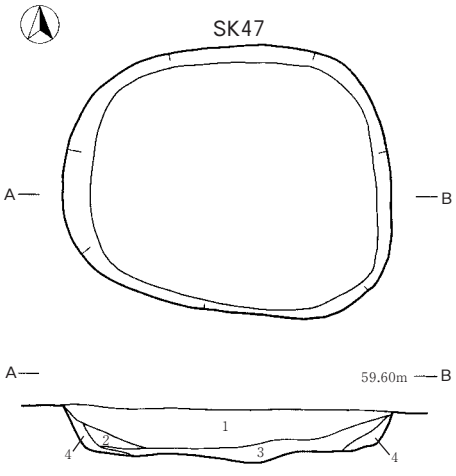


SK38
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%

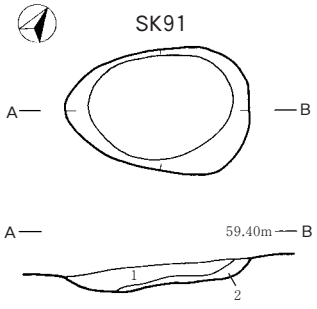
SK21
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)1%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%未満
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径5～10㎜)1%
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)1%
5．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強
6．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強
SK3411
7．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%
SK3377
8．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒3%
SK3454
9．(褐色7.5YR4／4)、しまりなし、粘性弱
SK3559
10．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%
SK23
11．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)3%
SK3410
12．褐色(7.5YR4／4)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%



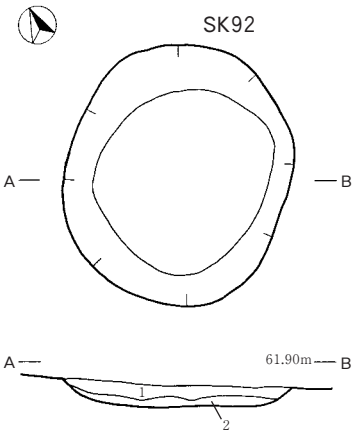
第40図　検出遺構(土坑①)



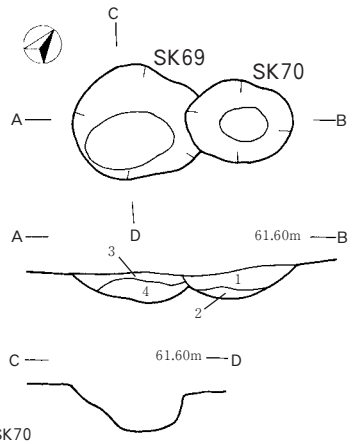
SK47
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～10㎜)2%、焼土粒(径1～10㎜)2%、 地山粒(径1～10㎜)1%
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)2%、焼土粒(径1～2㎜)、地山粒(径1～10㎜)5%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～20㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～10㎜)25%、 壁面崩落土



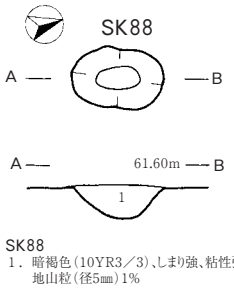
SK91
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、地山粒(径1～5㎜)3%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)5%



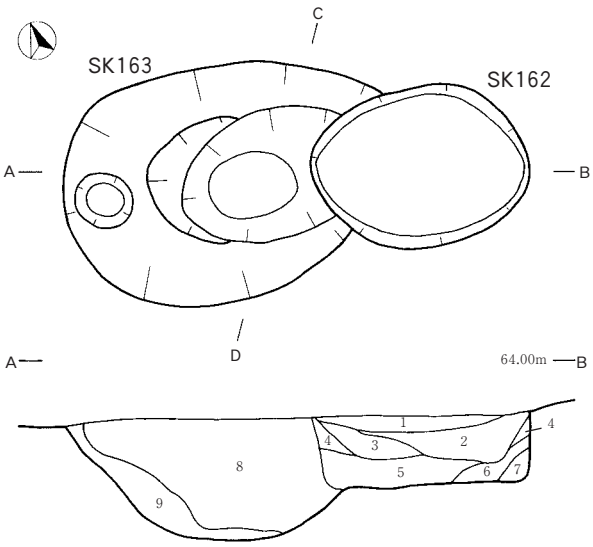
SK92
1．黒褐色(7.5YR3／1)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)10%
2．黒褐色(7.5YR3／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山粒3%

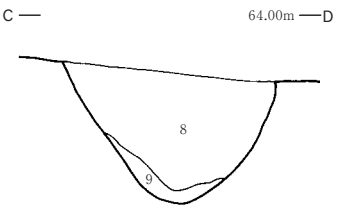


SK70
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中
2．褐色(10YR4／4)、しまり中、粘性強、地山粒15%
SK69
3．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、地山粒7%
4．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径5㎜)1%

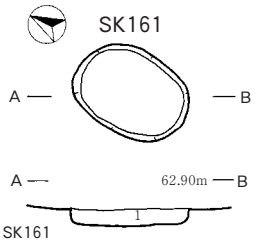


SK88
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、地山粒(径5㎜)1%



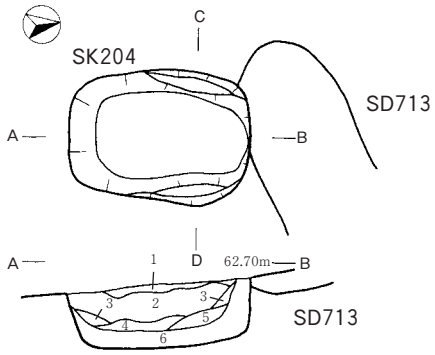


SK162
1．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)2%
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)3%
3．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)3%
4．灰褐色(7.5YR5／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
5．褐灰色(7.5YR4／1)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径2～10㎜)5%
6．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山粒3%
7．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒3%
SK163
8．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)2%
9．灰褐色(7.5YR4／2)、地山粒3%

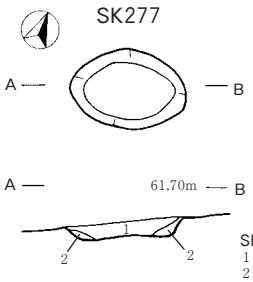


SK161
1．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～8㎜)2%、地山粒3%

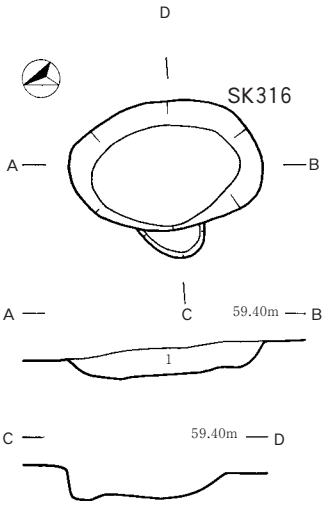
第41図　検出遺構(土坑②)



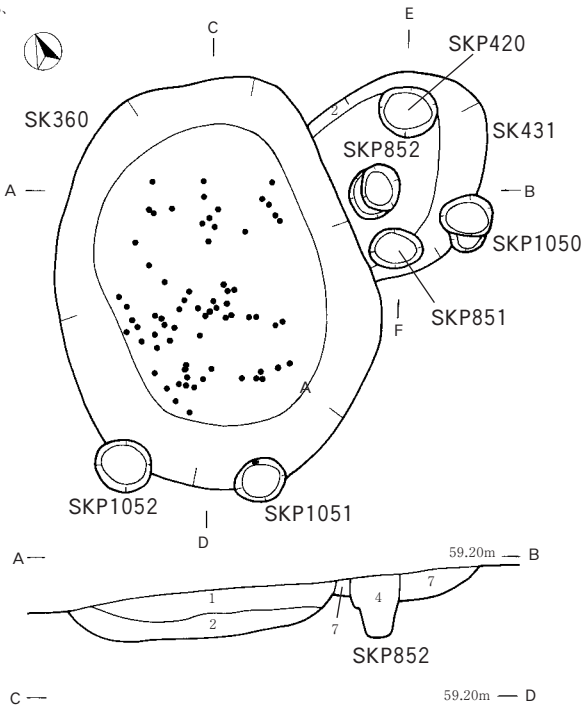
SK204
1．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性弱、炭化物粒1%、焼土粒1%
2．黒色(10YR1.7／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒3%、地山粒5%
3．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒1%
4．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒2%
5．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒1%未満
6．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒3%、焼土粒3%、地山粒3%



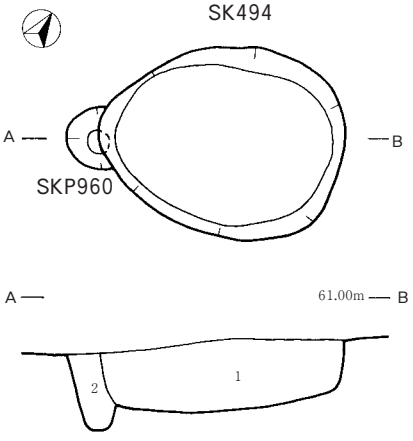
SK277
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性中
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱



SK316
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)5%

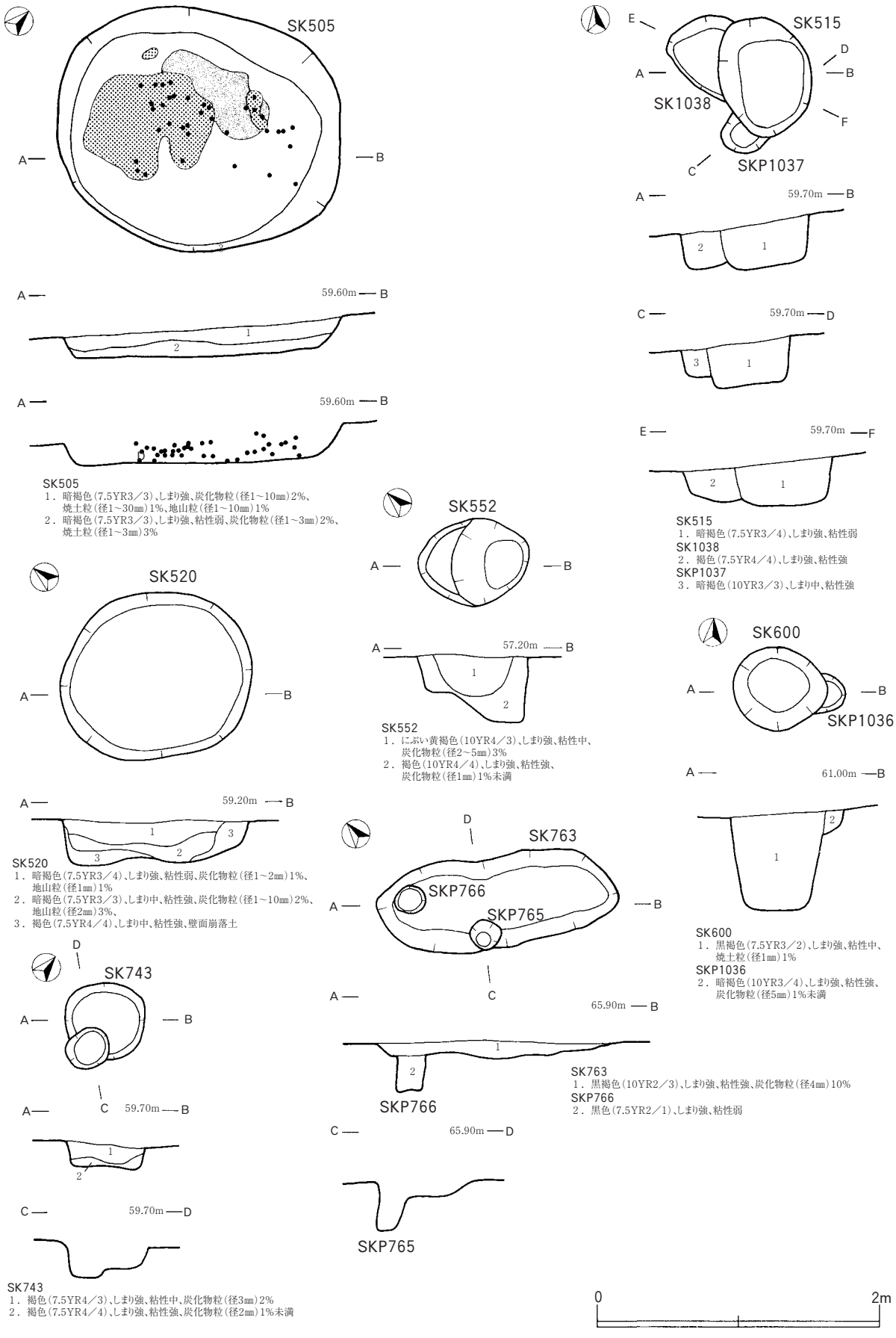


SK360
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～10㎜)3%、焼土粒(径3cm)3%
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～20㎜)2%、焼土粒(径1～10㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)1%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%、地山粒(径1～10㎜)3%
SKP852
4．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)2%、焼土粒(径1～2㎜)1%未満、地山粒(1～30㎜)5%
SKP420
5．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～5㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)3%
SKP851
6．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)1%、焼土粒(径1～20㎜)1%、地山粒(径1～10㎜)2%
SK431
7．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～5㎜)3%、焼土粒(径1～3㎜)10%

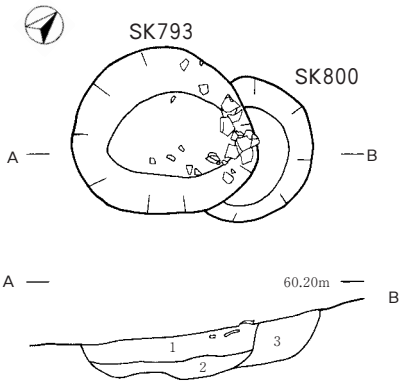


SK494
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径5㎜)1%、地山粒(径3㎜)1%
SKP960
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%

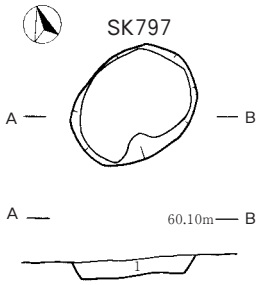
第42図　検出遺構(土坑③)



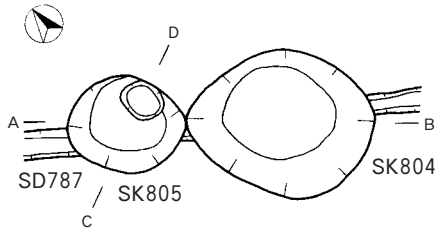
第43図　検出遺構(土坑④)

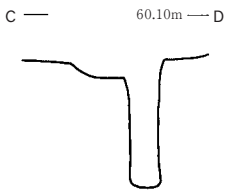


SK793
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5㎜)5%、
　焼土粒(径20㎜)15%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)5%、
　焼土粒(径1㎜)1%
SK800
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)5%、
　焼土粒(径1㎜)1%

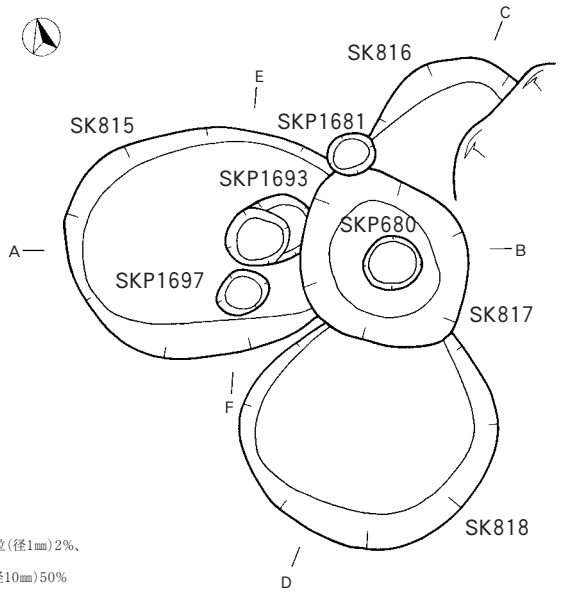


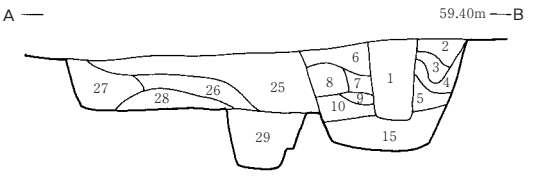
SK797
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)7%、
　焼土粒(径1㎜)1%

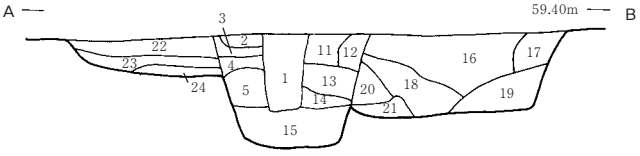


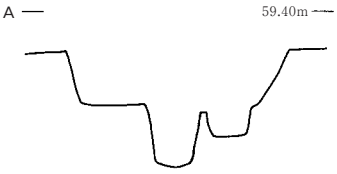


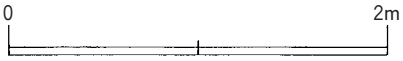
SK805
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)2%、
　焼土粒(径1㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性弱、地山粒(径10㎜)50%
SK804
3．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性弱
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(1㎜)7%





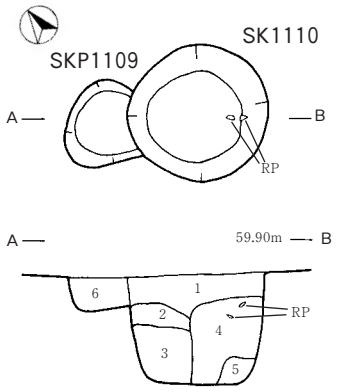




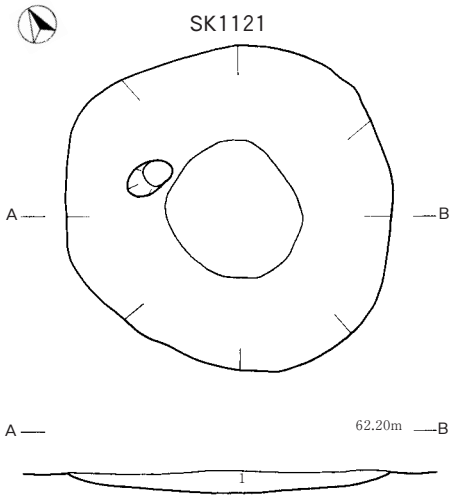


SKP680
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)2%
SK817
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒(径2㎜)1%
4．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～10㎜)2%
5．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%
6．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～5㎜)1%
7．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径2㎜)3%
8．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)2%
9．褐色(7.5YR4／6)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径5㎜)10%
10．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%
11．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径3㎜)5%
12．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%未満
13．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)2%、焼土粒(径5㎜)1%
14．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径5㎜)5%
15．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径5㎜)10%
SK818
16．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%
17．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%
18．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)2%、焼土粒(径3㎜)1%
19．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)2%、焼土粒(径1㎜)1%
20．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)2%、地山粒(径5㎜)3%
21．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)2%、焼土粒(径2㎜)2%
SK816
22．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%
23．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)1%
24．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)2%
SK815
25．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～5㎜)1%
26．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、地山粒(径1～10㎜)3%
27．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径5㎜)3%
28．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、地山粒(径1～5㎜)7%
SKP1693
29．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1～10㎜)2%

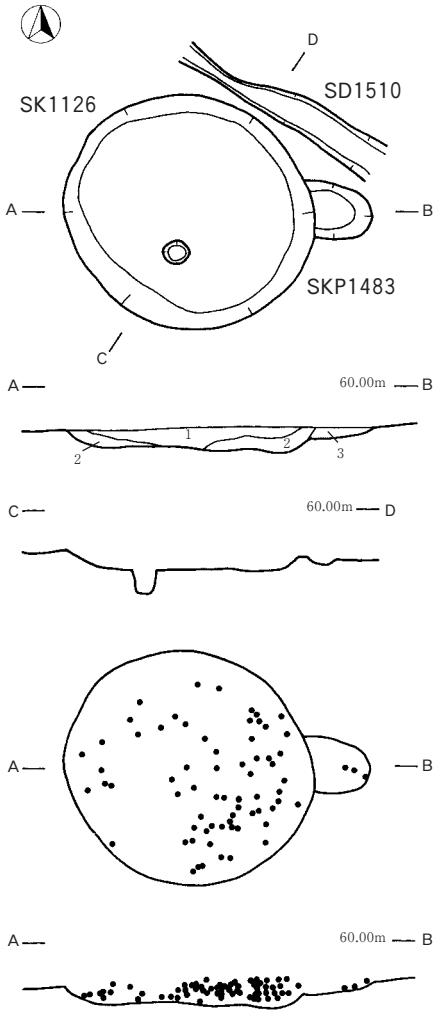
第44図　検出遺構(土坑⑤)



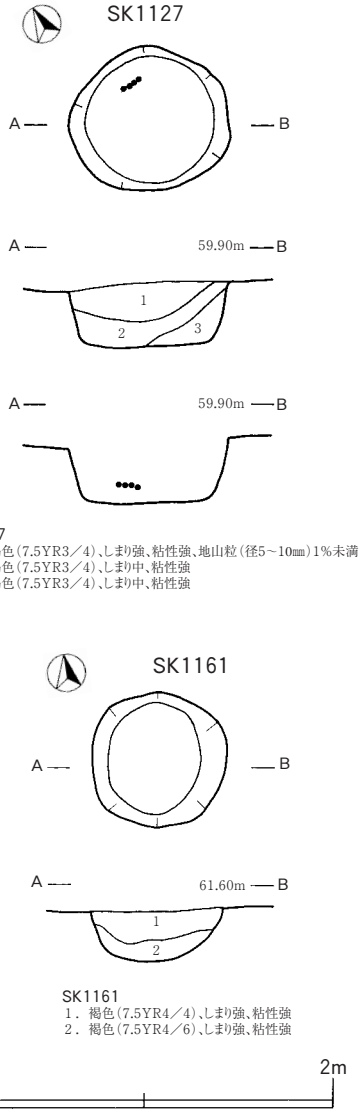
SK1110
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径10㎜)1%未満、地山粒混入
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性強
3．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強
5．暗褐色(10YR3／4)と褐色(10YR4／6)の混合土、しまり強、粘性強
SK1109
6．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強



SK1121
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒混入



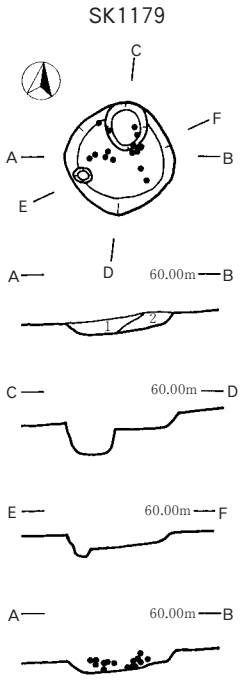
SK1126
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強
SKP1483
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%



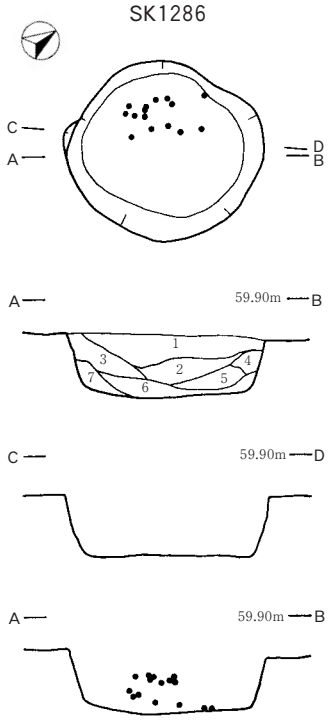
SK1127
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、地山粒(径5～10㎜)1%未満
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強

SK1161
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強

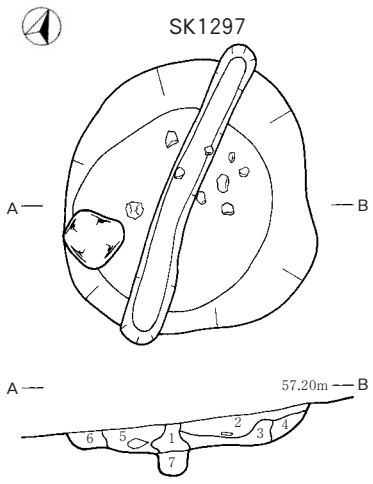
第45図　検出遺構(土坑⑥)



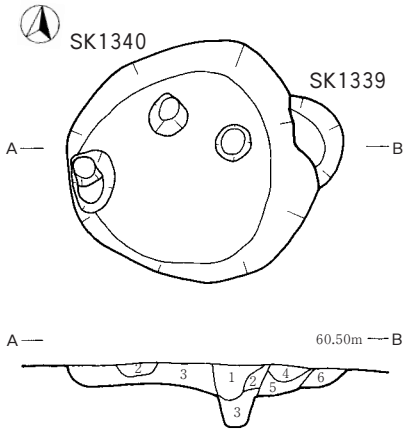
SK1179
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径5㎜)1%未満
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱



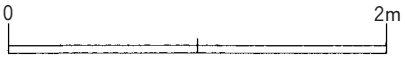
SK1286
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5㎜)1%未満、
焼土粒(径3㎜)1%未満
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%未満、
焼土粒(径5㎜)1%未満、地山粒(径5㎜)1%
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強
4．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強
5．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%未満
6．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強
7．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強



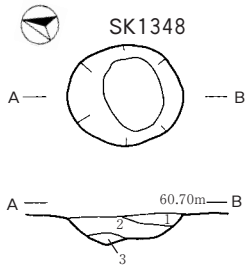
SK1297
1．橙色(7.5YR6／6)・褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)5%、
焼土粒(径2～5㎜)2%
2．にぶい褐色(7.5YR5／4)・赤褐色(2.5YR4／6)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)3%、
焼土粒(径1～20㎜)1%
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1～10㎜)3%、
焼土粒(径1～20㎜)1%
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒(径1㎜)2%
5．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%
6．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%
7．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%



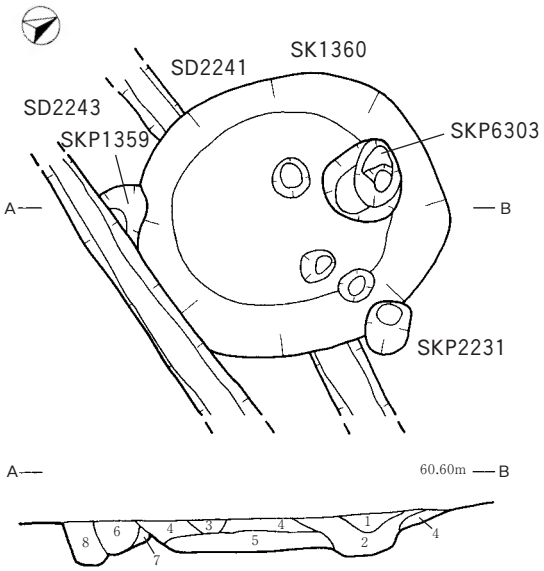
SK1340
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径2㎜)1%
2．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%
3．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒10%
4．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%
5．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%
SK1339
6．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%



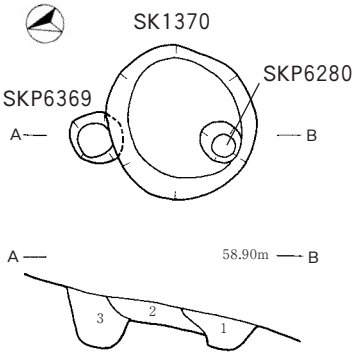
第46図　検出遺構(土坑⑦)



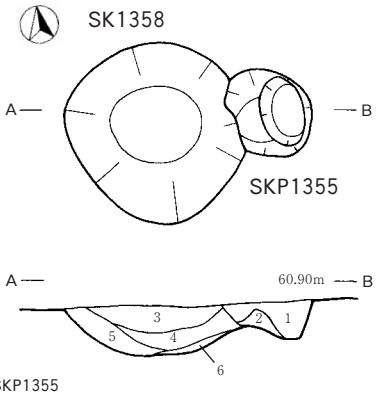
SK1348
1．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性弱
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒1%未満、
　焼土粒(径10㎜大)1%未満
3．にぶい黄褐色(10YR5／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒1%未満



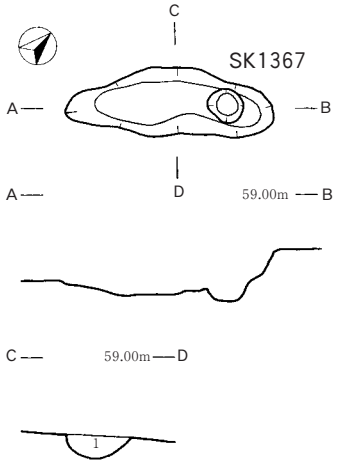
SKP6303
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒1%
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒2%
SK1360
3．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒(径1㎜)1%未満
4．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山7%
5．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山10%
SKP1359
6．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒(径1㎜)1%未満、
　地山粒(径1㎜)1%未満
7．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒2%
SD2243
8．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱 、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒(径1㎜)1%未満



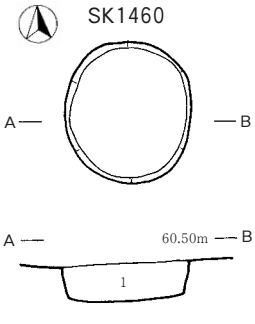
SKP6280
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1㎜)2%、地山(径30㎜)1%未満
SK1370
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径30㎜)3%
SKP1369
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%



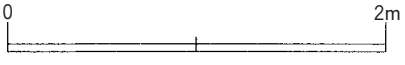
SKP1355
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性強、地山粒(径10～20㎜)2%
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、地山粒20%
SK1358
3．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%未満、
　地山粒混入
4．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜以下)1%未満、
　地山粒混入
5．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜以下)1%未満、
　地山粒20～30%
6．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり中、粘性強、地山粒50%



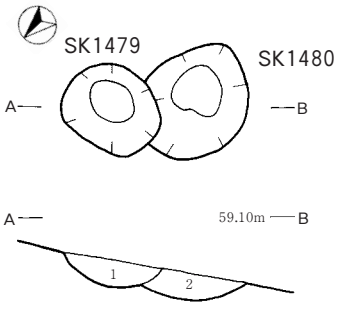
SK1370
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径3㎜)2%



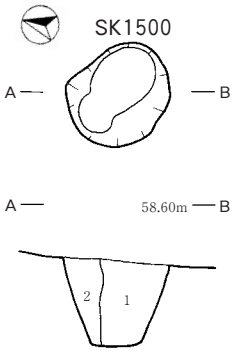
SK1460
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径4㎜)2%



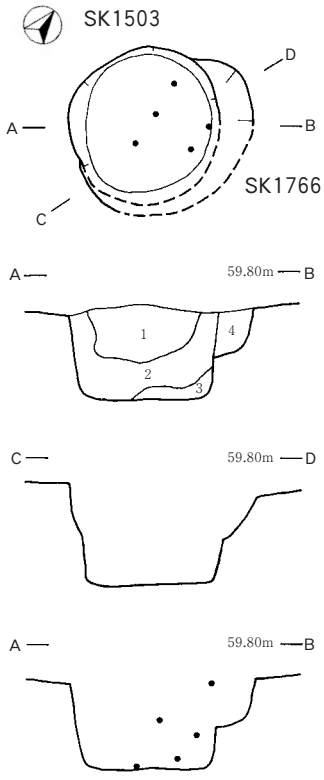
第47図　検出遺構(土坑⑧)



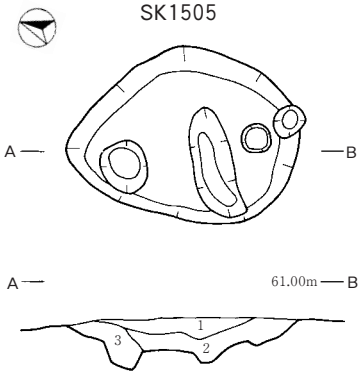
SK1479
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱
SK1480
2．暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱、
炭化物粒(径1㎜)1%



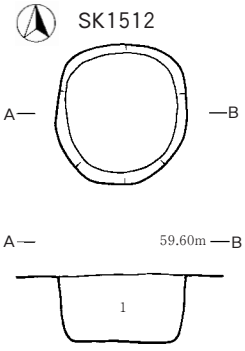
SK1500
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
焼土粒(径1㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)7%、
焼土粒(径1㎜)1%



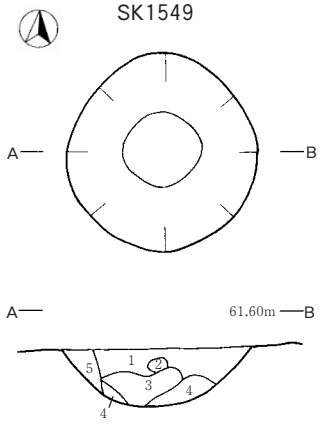
SK1503
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、地山粒(径10㎜)1%
2．褐色(10YR4／4)、しまり中、粘性強、地山粒(径5～10㎜)5%
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強
SK1766
4．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、焼土粒(径5㎜)1%



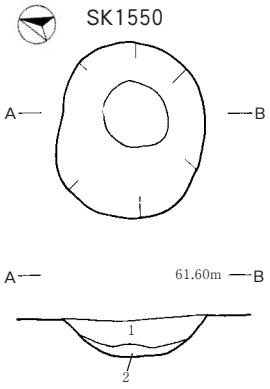
SK1505
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、
焼土粒(径3㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)2%、
焼土粒(径4㎜)2%
3．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、焼土粒(径1～2㎜)1%未満



SK1512
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～3㎜)1%、焼土粒(径1～3㎜)1%未満、
地山粒(径1～2㎜)1%未満

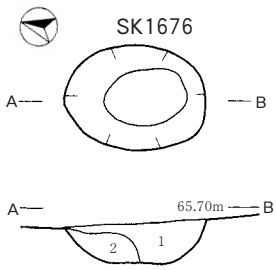


SK1549
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径3～5㎜)5%、
焼土粒(径1㎜)3%、地山粒(径10㎜)2%
2．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性弱
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中
5．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり弱、粘性弱、焼土粒(径1㎜)1%

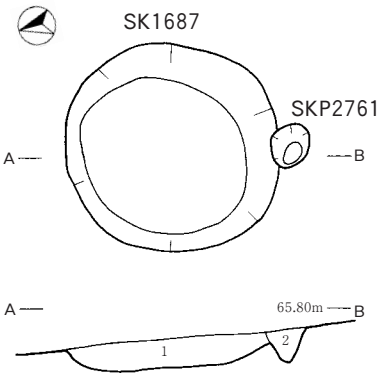


SK1550
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径10㎜)2%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強

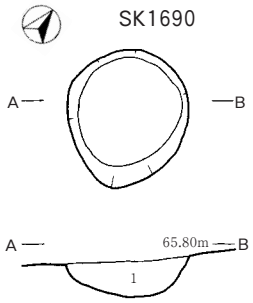
第48図　検出遺構(土坑⑨)



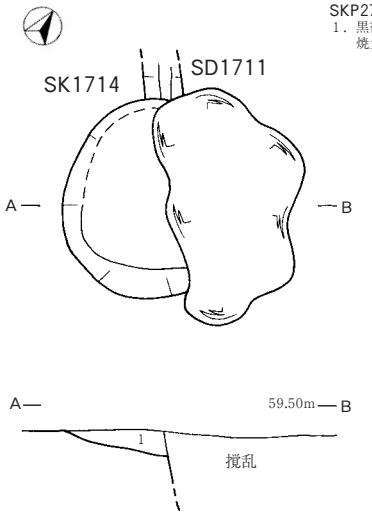
SK1676
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強



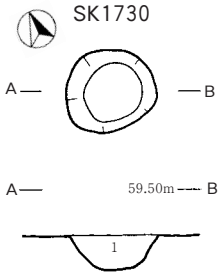
SK1687
1．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3～20㎜)1%、
焼土粒(径5㎜)1%未満
SKP2761
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～10㎜)1%未満、
焼土粒(径1～5㎜)1%以下



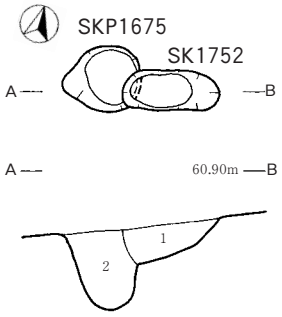
SK1690
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強



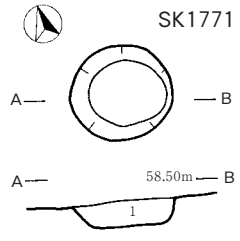
SK1714
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)2%、
地山粒(径1～5㎜)2%



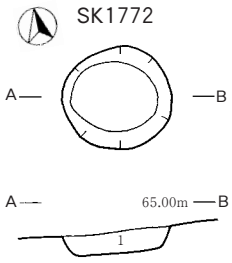
SK1730
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
地山粒(径2㎜)5%



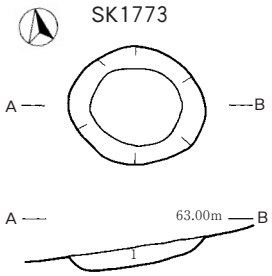
SK1752
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満
SKP1675
1．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)5%



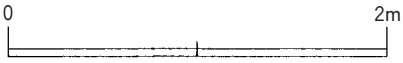
SK1771
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～3㎜)2%、地山粒斑状に混入



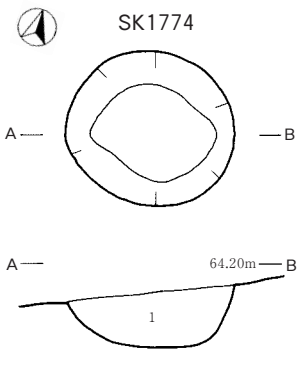
SK1772
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)2%



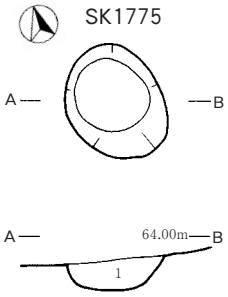
SK1773
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強



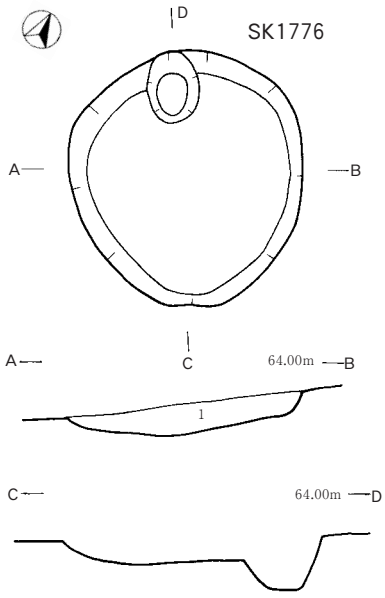
第49図　検出遺構(土坑⑩)



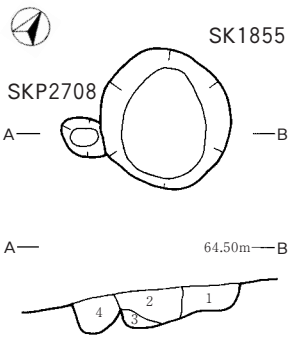
SK1774
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強



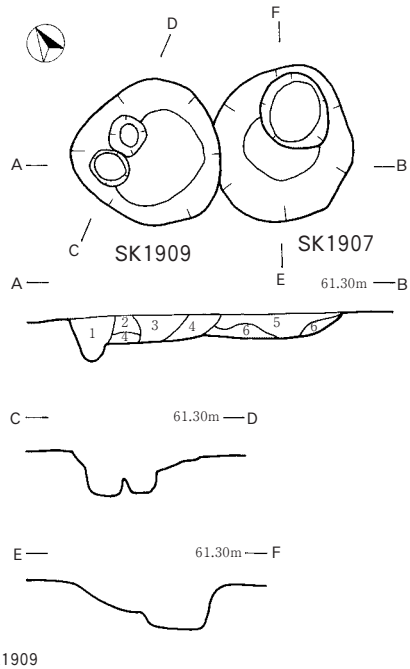
SK1775
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%



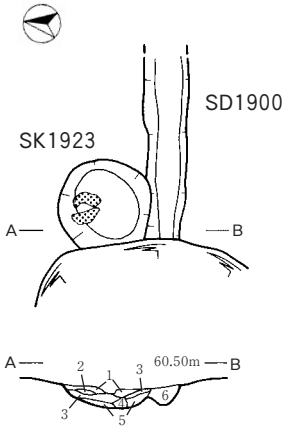
SK1776
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強



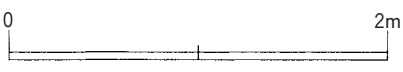
SK1855
1．褐色(7.5YR4／3)と暗褐色(7.5YR3／2)の混合土、しまり強、粘性弱
2．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり強、粘性弱
3．明褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性強
SKP2708
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒1%、焼土粒2%



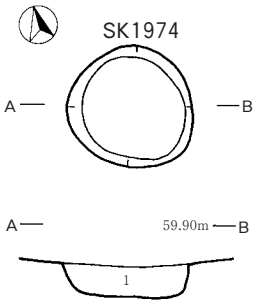
SK1909
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(1㎜)2%
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強
3．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱
SK1907
5．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
6．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強



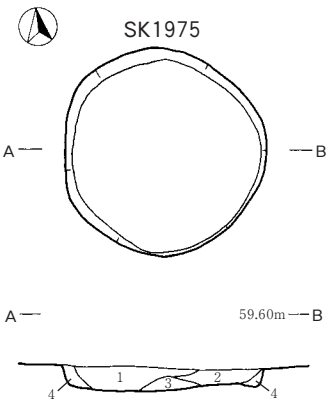
SK1923
1．にぶい黄褐色(10YR5／3)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
地山粒(径10㎜)1%
2．褐灰色(10YR4／1)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、
焼土粒(径1㎜)1%未満
3．橙色(5YR6／8)、しまり強、粘性弱
4．黒色(7.5YR2／1)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒(径4～5㎜)1%、
地山粒(径1㎜)1%
5．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性中
SD1900
6．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満、
焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径10～20㎜)2%



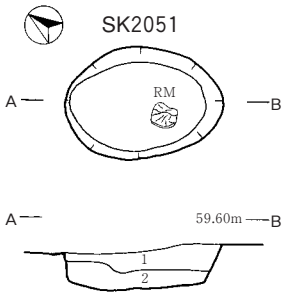
第50図　検出遺構(土坑⑪)



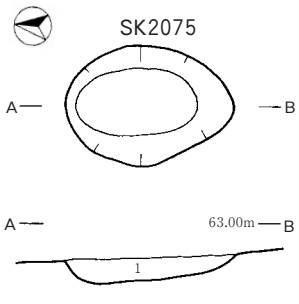
SK1974
1．褐色(10YR4／4)、しまり中、粘性強



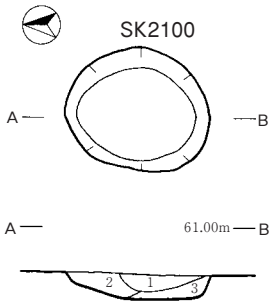
SK1975
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、地山粒(径1～2㎜)1%
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中
4．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性強



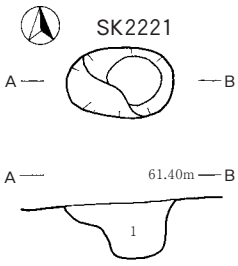
SK2051
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～3㎜)3%、焼土粒(径1～2㎜)1%、
地山粒(径1～3㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
地山粒(径1～10㎜)5%



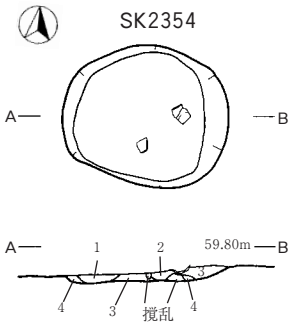
SK2075
1．褐灰色(10YR4／1)、しまり強、粘性弱、
炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒混入



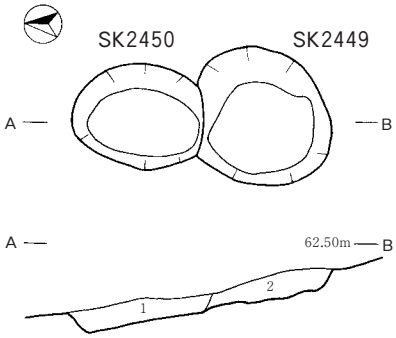
SK2100
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)7%、
地山粒(径2㎜)1%、
2．黒褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強



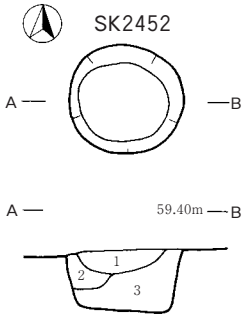
SK2221
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、
炭化物粒(径1㎜)1%、地山(径5～7㎜)2%



SK2354
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)10%
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径5㎜)1%未満、
焼土粒(径1～5㎜)1%、地山粒1%未満
3．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性中
4．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性中

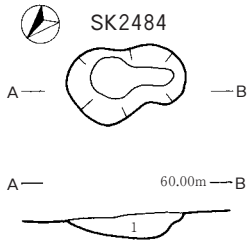


SK2450
1．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
地山粒混入
SK2449
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、地山粒混入

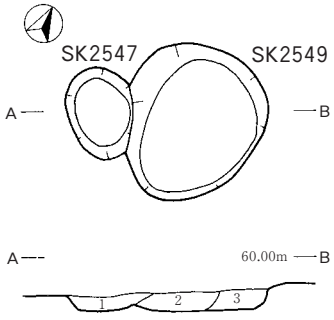


SK2452
1．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径2～3㎜)1%、焼土粒(径2～3㎜)1%
2．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1㎜)1%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1㎜)1%未満

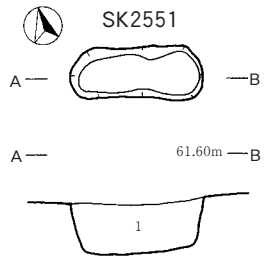
第51図　検出遺構(土坑⑫)



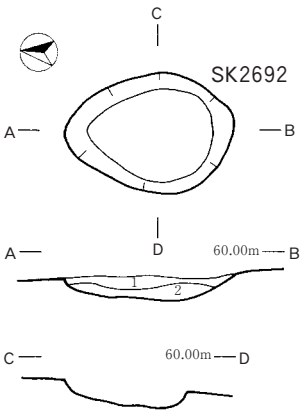
SK2484
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒1%未満、
焼土粒1%未満



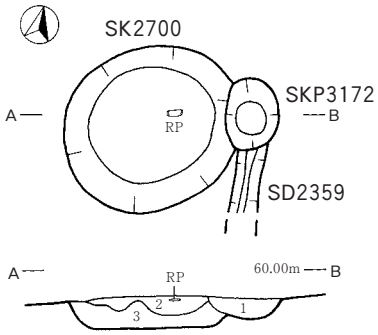
SK2547
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、
焼土粒(径1～3㎜)1%
SK2549
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)1%未満、
焼土粒(径2～5㎜)2%
3．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒1%未満、
焼土粒(径2㎜)1%未満、地山粒(径20～30㎜)2%



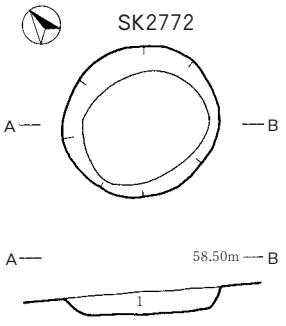
SK2551
1．暗赤褐色(5YR3／2)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～3㎜)3%、焼土粒(径1～3㎜)5%



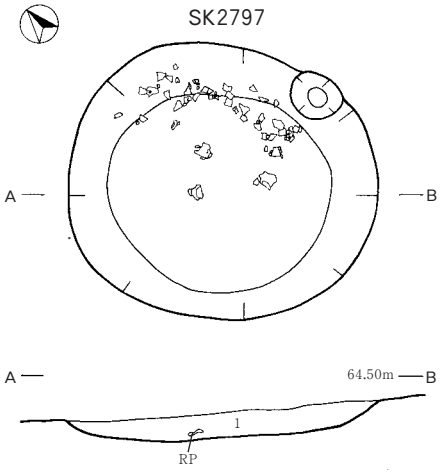
SK2692
1．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性弱
2．灰褐色(7.5YR4／2)、しまり強、粘性弱



SKP3172
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒1%未満
SK2700
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒1%未満、地山粒5%
3．にぶい黄褐色(10YR5／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒1%未満、地山粒10%

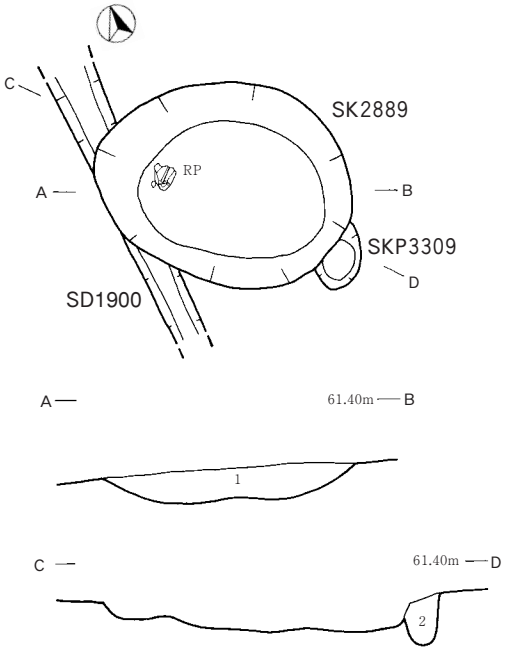


SK2772
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
地山粒(径1～3㎜)1%

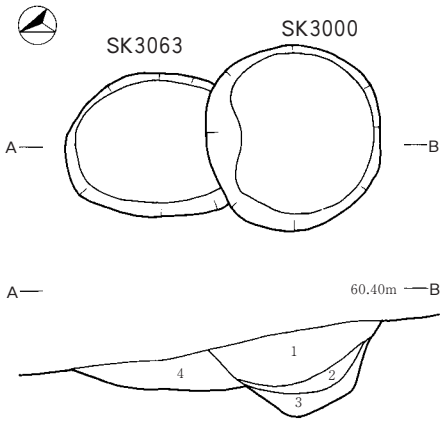


SK2797
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒1%

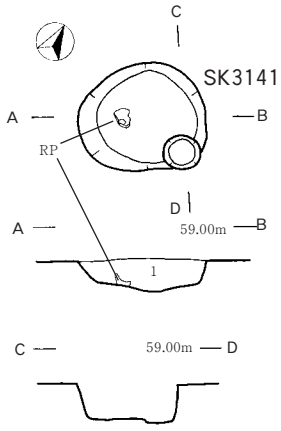
第52図　検出遺構(土坑⑬)



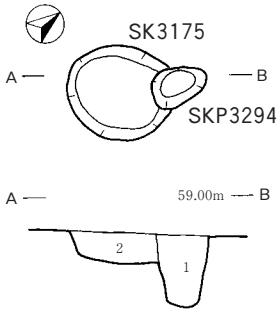
SK2889
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)1%、
焼土粒1%、地山粒1%
SKP3309
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中



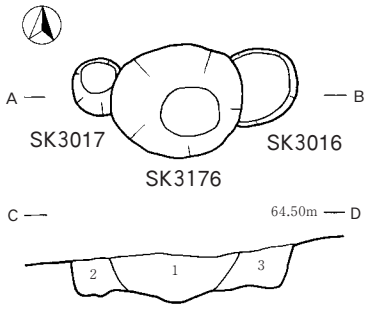
SK3000
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒7%、焼土粒7%、地山粒7%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満
SK3063
4．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、地山粒30%



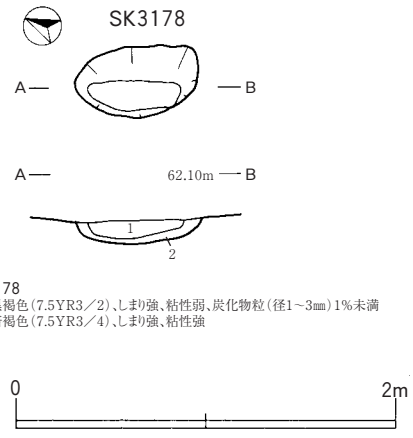
SK3141
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～10㎜)1%、
焼土粒(径1～5㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%



SKP3294
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
地山粒(径1～3㎜)3%
SK3175
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)1%、
地山粒(径1～10㎜)2%

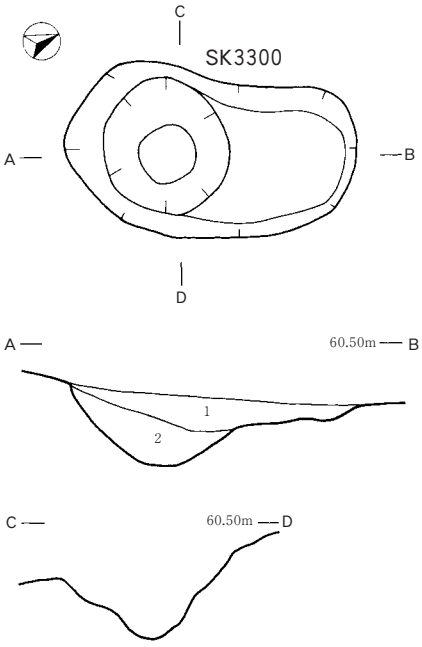


SK3176
1.暗褐色(7.5YR3／3)と褐色(7.5YR4／3)の混合土、しまり中、粘性中
SKP3017
2.褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強
SKP3016
3.褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強

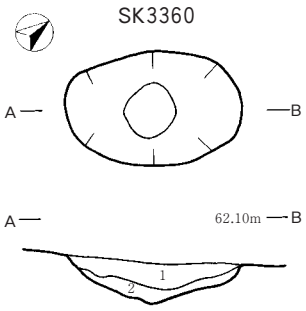


SK3178
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)1%未満
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強

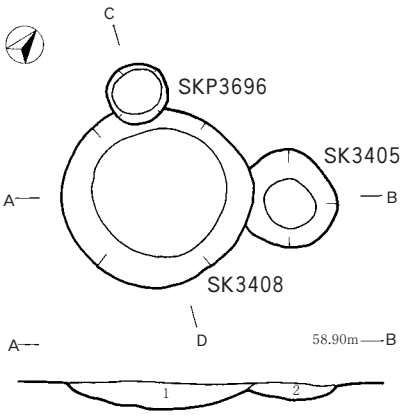
第53図　検出遺構(土坑⑭)



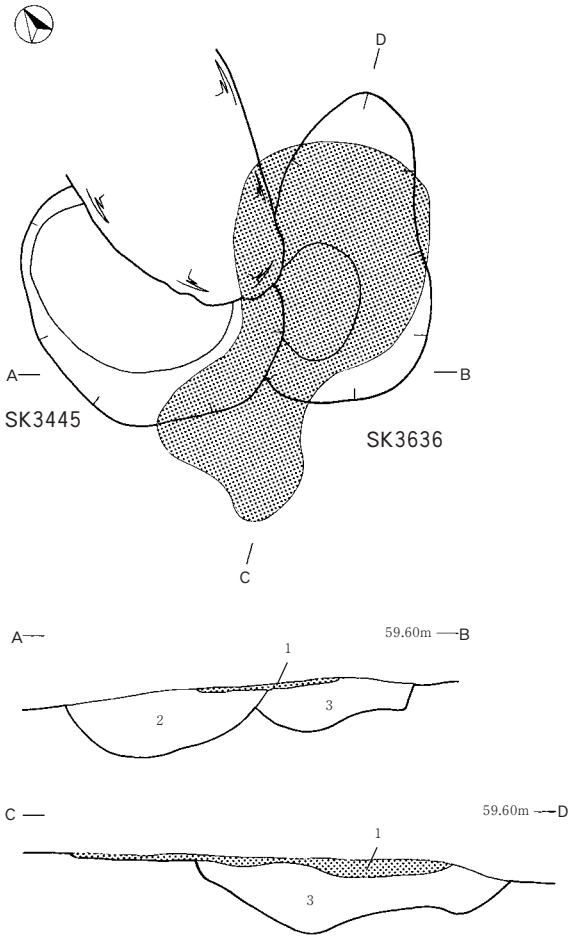
SK3300
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
　地山粒(径2㎜)5%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強



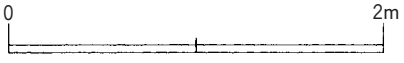
SK3360
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)1%未満、
　地山粒(径5㎜)10%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱



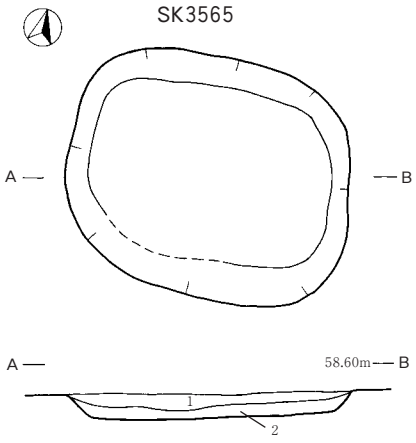
SK3408
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%、
　地山粒(径5㎜)2%
SK3405
2．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)1%、
　焼土粒(径1～3㎜)2%、地山粒(径1～3㎜)2%



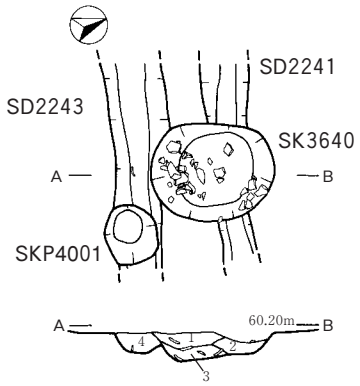
SK3445
1．明赤褐色(5YR5／8)、しまり強、粘性弱
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径10～30㎜)3%、
　焼土粒(径2㎜)5%、地山粒(径30㎜)7%
SK3636
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径10～20㎜)10%



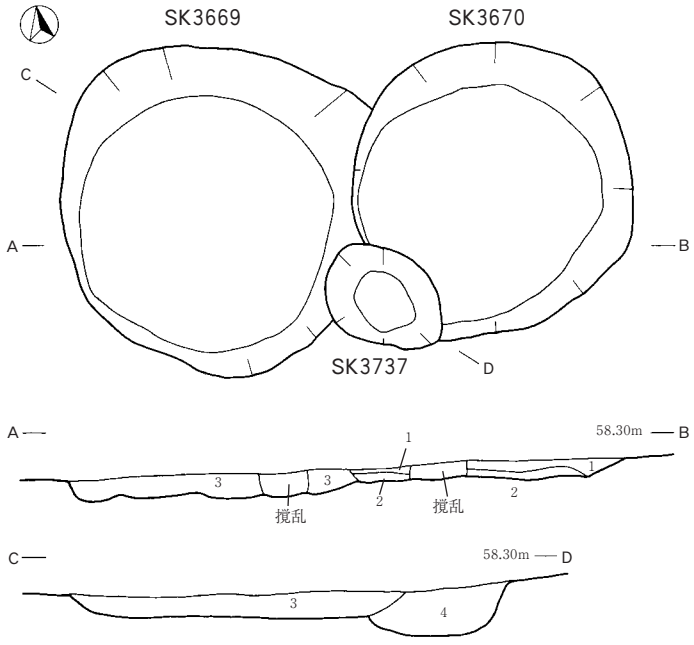
第54図　検出遺構(土坑⑮)



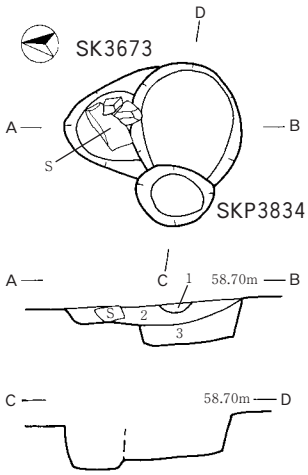
SK3565
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1～5㎜)2%、
　焼土粒(径1～5㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物(径1～2㎜)1%、
　焼土粒(径1～5㎜)2%、地山粒(径1～10㎜)5%



SK3640
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、
　焼土粒(径5㎜)1%、地山粒(径1㎜)1%未満
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%以下、
　焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)1%未満
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径5㎜)3%、
　焼土粒(径10㎜以下)15%、地山粒(径1㎜以下)1%
SD2243
4．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満、
　焼土粒(径1㎜)1%未満、地山粒(径1㎜)1%未満

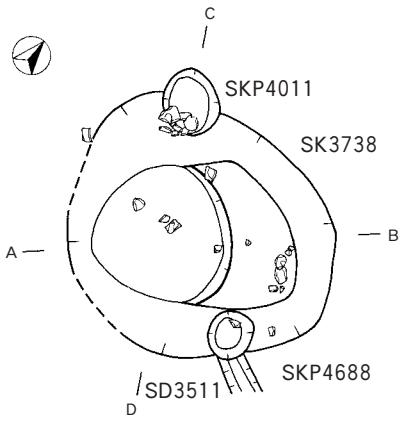


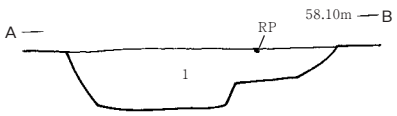
SK3670
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　焼土粒(径5～10㎜)10%
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　焼土粒(径1～2㎜)3%
SK3669
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)3%、
　焼土粒(径1～2㎜)1%
SK3737
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　焼土粒(径1～2㎜)1%未満、地山粒(径5～10㎜)3%



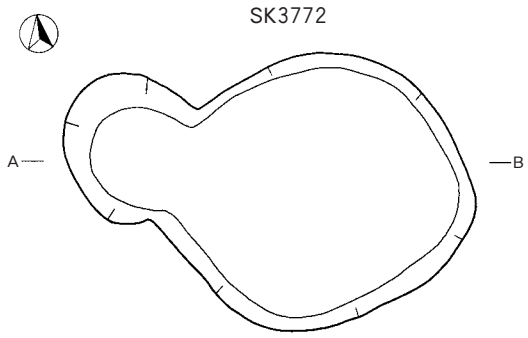
SK3673
1．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　焼土粒(径1～5㎜)3%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)1%、
　焼土粒(径1～3㎜)1%
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　地山粒(径1～3㎜)1%

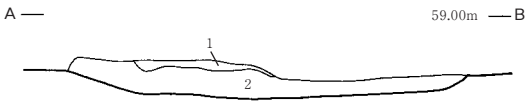
第55図　検出遺構(土坑⑯)



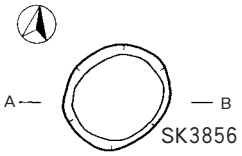


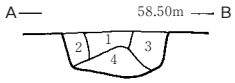
SK3738
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)2%、
　焼土粒(径1～5㎜)1%、地山粒(径1～5㎜)2%



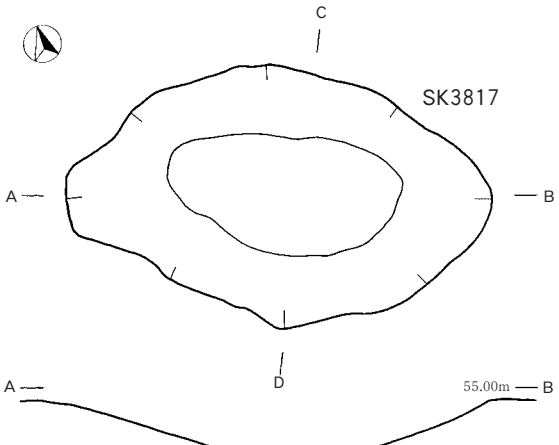


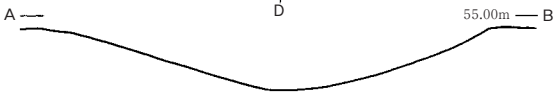
SK3772
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)30%、
　焼土粒(径10㎜)30%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径5㎜)5%、
　地山粒(径10㎜)40%

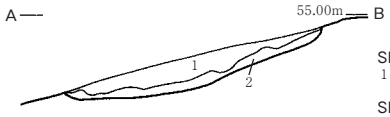




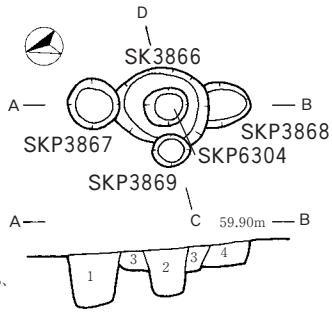
SK3856
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)1%、
　地山粒(径1～3㎜)3%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、(径1～2㎜)1%未満、
　地山粒(径1～5㎜)5%
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　地山粒(径1～3㎜)1%
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%、
　地山粒(径1～3㎜)1%

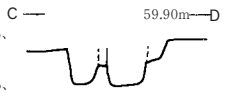






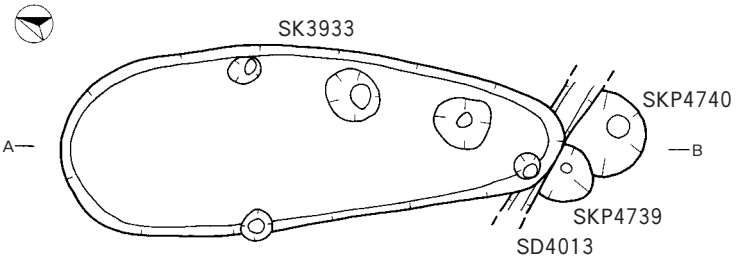
SK3817
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)2%
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強



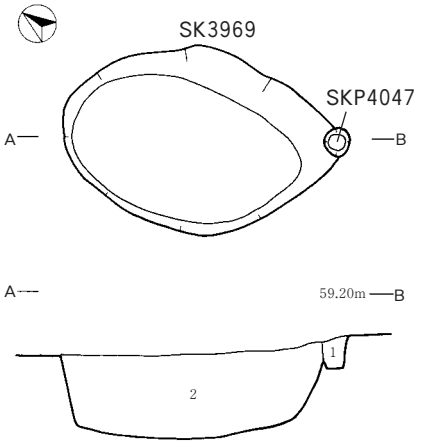


SKP3867
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1～5㎜)3%
SKP6304
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、
　焼土粒(径1～10㎜)5%
SK3866
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)2%、
　焼土粒(径1～10㎜)5%、地山粒(径1～5㎜)1%
SKP3868
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)3%

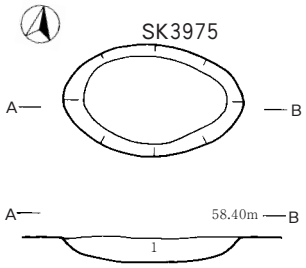
第56図　検出遺構(土坑⑰)



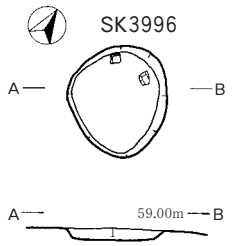
SK3933
1．黒褐色(10YR3／1)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)3%、焼土粒(径2㎜)3%、地山粒(径2㎜)3%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、地山粒5%
SD4013
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)15%、焼土粒(径10㎜)30%
SKP4740
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)15%、焼土粒(径10㎜)30%



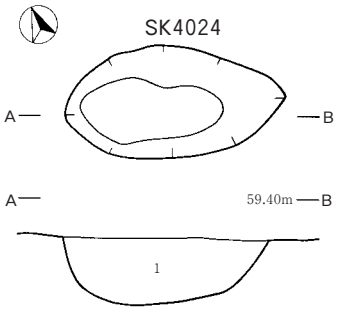
SKP4047
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強
SK3969
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、地山粒(径10㎜)15%



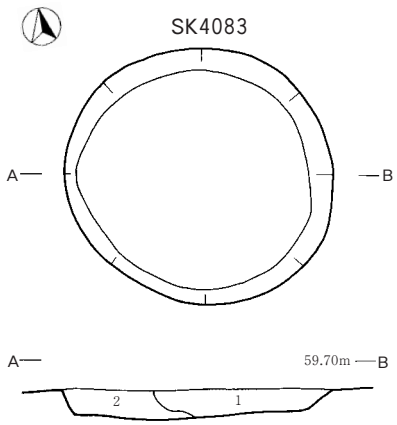
SK3975
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)2%



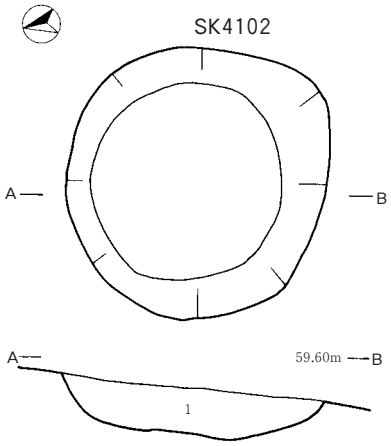
SK3996
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、地山粒(径1～3㎜)2%



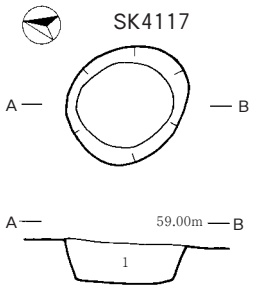
SK4024
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強



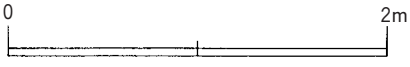
SK4083
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%未満、地山粒(径1～10㎜)3%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒(径1～10㎜)5%



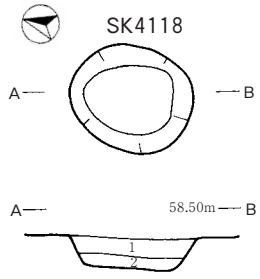
SK4102
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1～3㎜)2%



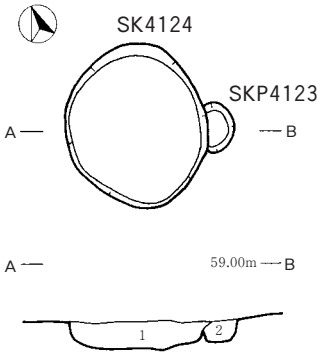
SK4117
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%未満、地山粒(径1～3㎜)2%



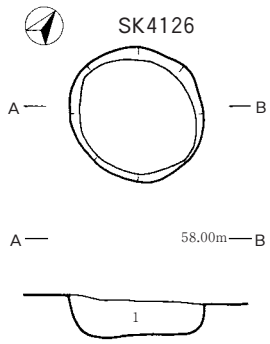
第57図　検出遺構(土坑⑱)



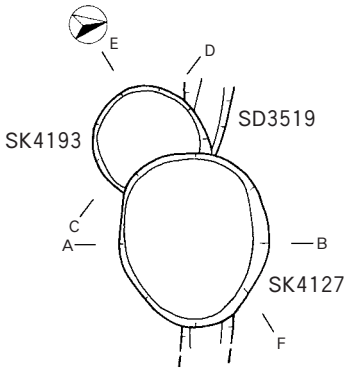
SK4118
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、
　焼土粒(径1～5㎜)1%、地山粒(径1～2㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
　地山ブロック(径1～10㎜)5%

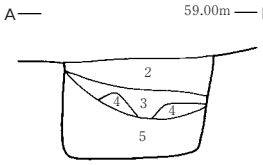


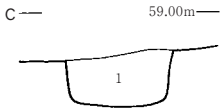
SK4124
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱
SKP4123
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱



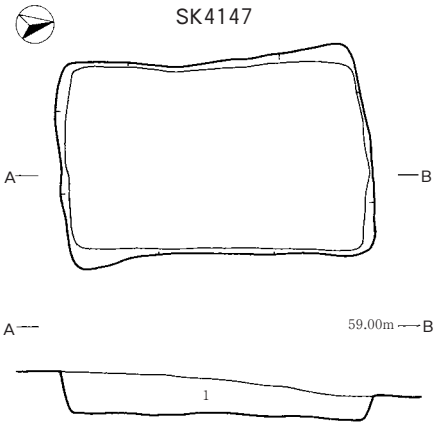
SK4126
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、
　炭化物粒(径2㎜)5%



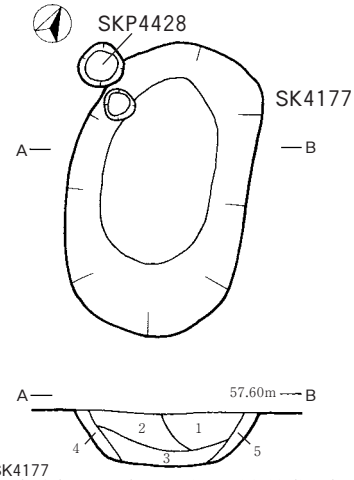




SK4127
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1㎜)1%未満
2．黒色(N2／0)、しまり弱、粘性弱、焼土粒(径5～10㎜)5%
3．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性弱、地山粒(径5㎜)20%
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%
SK4193
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、地山粒(径5㎜)10%

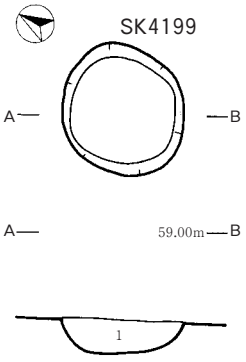


SK4147
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径20㎜)5%、
　地山粒(径5㎜)10%

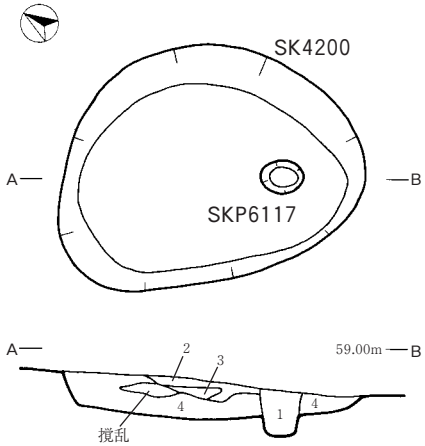


SK4177
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1㎜)1%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
　地山粒(径2㎜)1%
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、壁面崩落土
5．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%

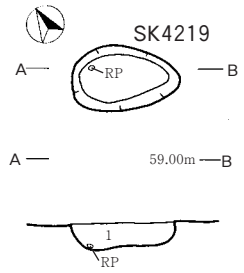
第58図　検出遺構(土坑⑲)



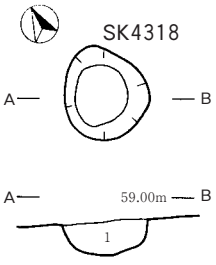
SK4199
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%、
　焼土粒(径3㎜)5%、地山粒(径5㎜)10%



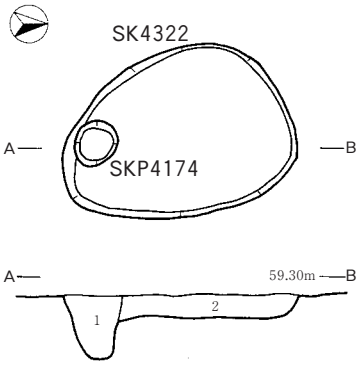
SKP6117
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径3㎜)3%、焼土粒(径2㎜)1%、
SK4200
2．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)3%、焼土粒(径2㎜)2%
3．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径2㎜)2%
4．暗褐色(10YR3／4)と褐色(7.5YR4／6)の混合、しまり強、粘性強、
　炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径1～5㎜)1%、地山粒(径1～3㎜)1%



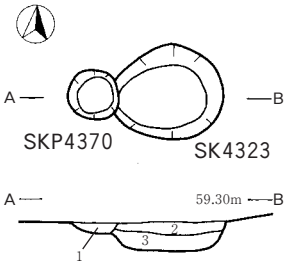
SK4219
1．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、
　炭化物粒(径2㎜)3%



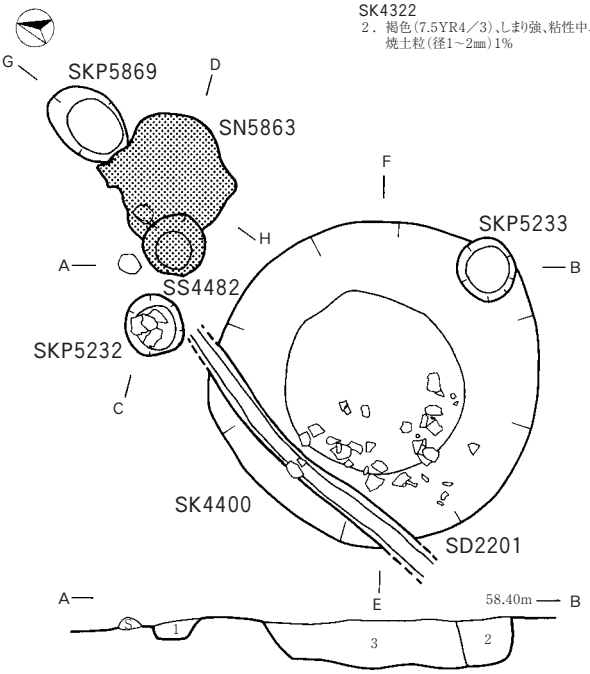
SK4318
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、
　炭化物粒(径2～5㎜)1%未満、
　焼土粒(径10～20㎜)25%

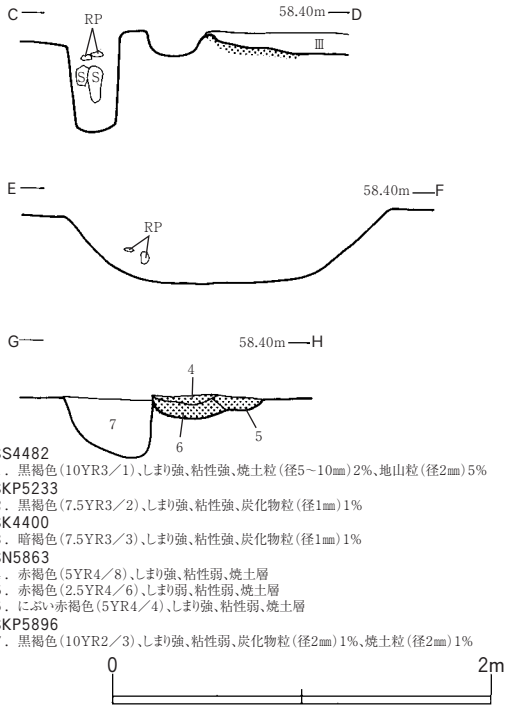


SKP4174
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
　焼土粒(径1～2㎜)1%未満
SK4322
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)2%、
　焼土粒(径1～2㎜)1%



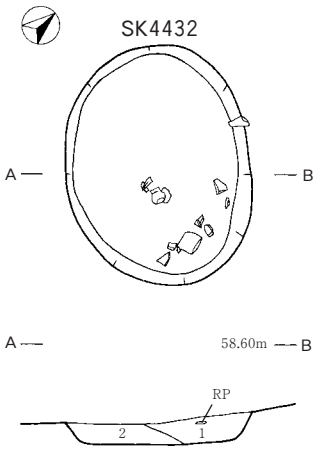
SKP4370
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、
　炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
　焼土粒(径1～2㎜)1%未満
SK4323
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強



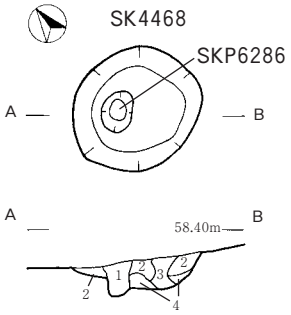


SS4482
1．黒褐色(10YR3／1)、しまり強、粘性強、焼土粒(径5～10㎜)2%、地山粒(径2㎜)5%
SKP5233
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
SK4400
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
SN5863
4．赤褐色(5YR4／8)、しまり強、粘性弱、焼土層
5．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり弱、粘性弱、焼土層
6．にぶい赤褐色(5YR4／4)、しまり強、粘性弱、焼土層
SKP5896
7．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%

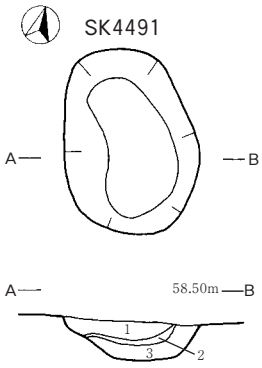
第59図　検出遺構(土坑⑳)



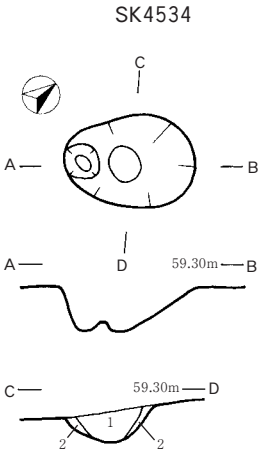
SK4432
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)1%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)10%、



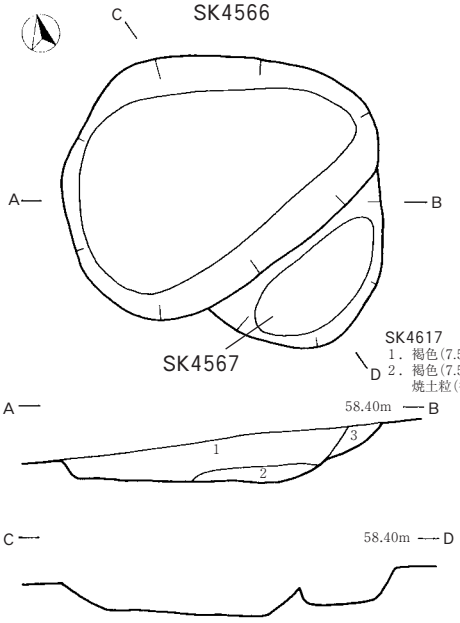
SKP6285
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)2%
SK4468
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強
3．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり弱、粘性弱
4．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強



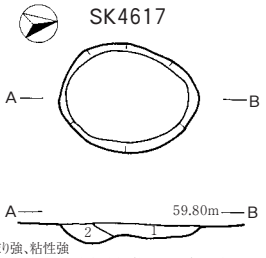
SK4491
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)4%
2．黒色(10YR2／1)、しまり弱、粘性弱、炭層
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性中、地山粒(径1㎜)2%



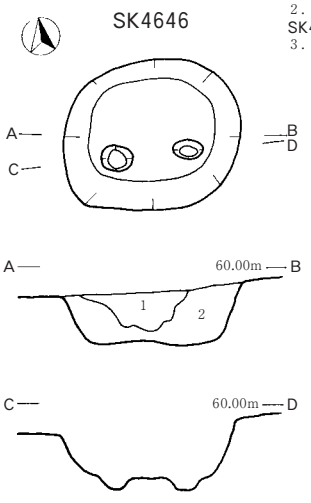
SK4534
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強
3．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強



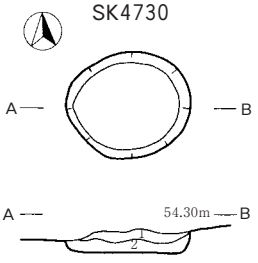
SK4566
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径3㎜)2%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径3㎜)1%
SK4567
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径3㎜)3%



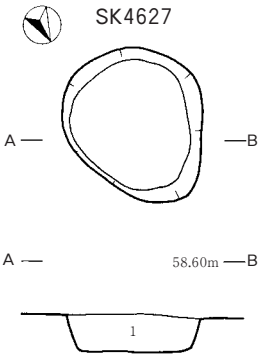
SK4617
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、
　焼土粒(径1～2㎜)1%未満



SK4646
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径10㎜)2%、
　焼土粒(径1㎜)2%
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性弱

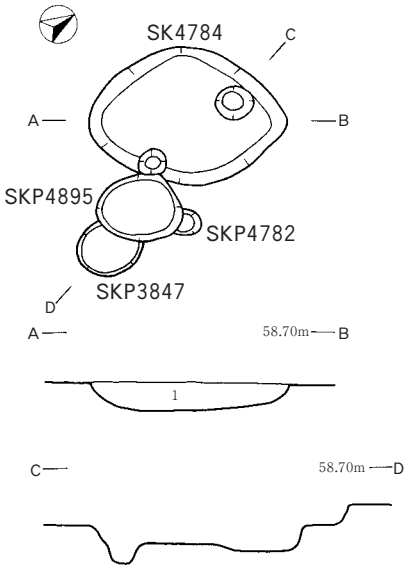


SK4730
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、焼土粒(径2㎜)2%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1～8㎜)3%

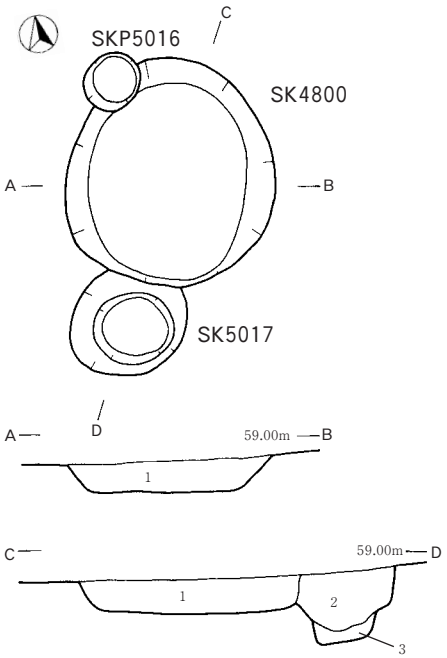


SK4627
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)5%、
　焼土粒(径2㎜)5%

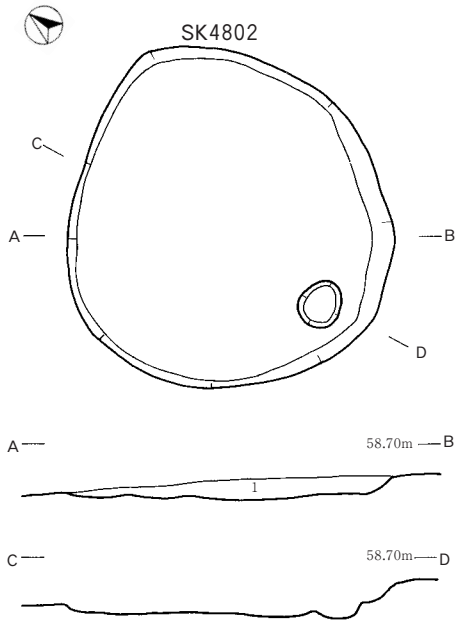
第60図　検出遺構(土坑㉑)



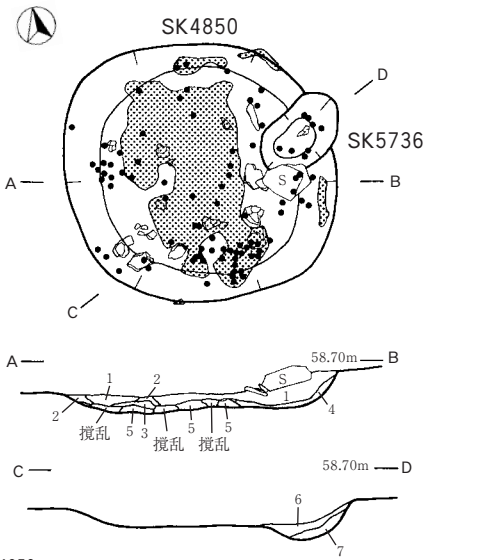
SK4784
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満



SK4800
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、
焼土粒(径2～10㎜)1%、地山粒(径5㎜以下)5%
SK5017
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%、
焼土粒(径3㎜)1%、地山粒(径1㎜以下)1%
3．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
地山粒(径1㎜)3%

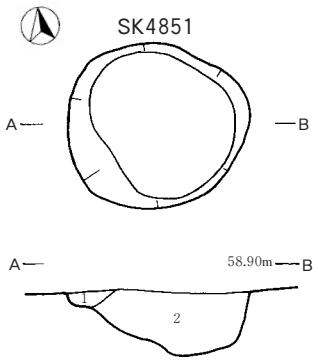


SK4802
1．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)3%、
焼土粒(径1～3㎜)3%

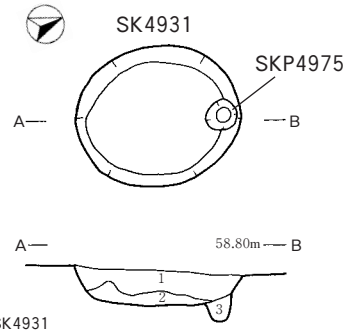


SK4850
1．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)2%
3．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)5%
4．橙色(5YR6／6)、しまり強、粘性弱、焼土層
5．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%、
地山粒(径1㎜)5%
SK5736
6．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径2㎜)5%、焼土粒(径2㎜)3%
7．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強

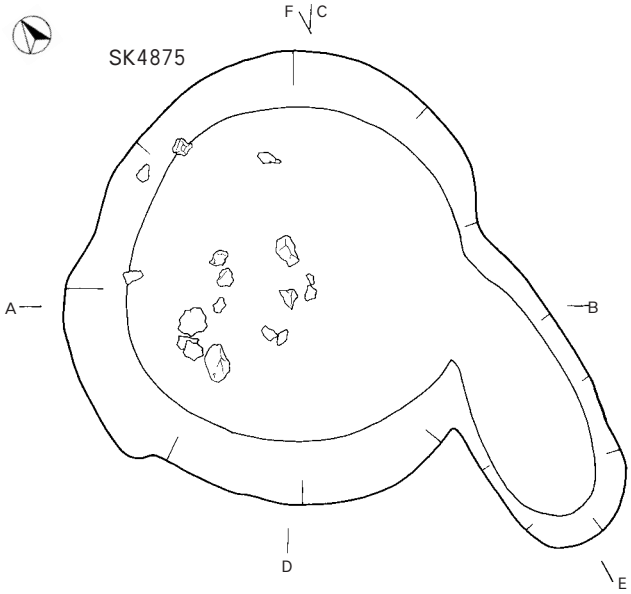
第61図　検出遺構(土坑㉒)



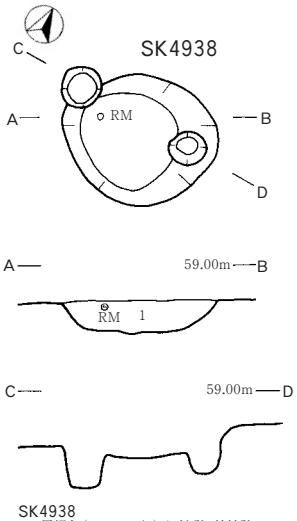
SK4851
1．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%未満
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%、
　焼土粒(径2㎜)1%、地山粒(径3㎜)1%



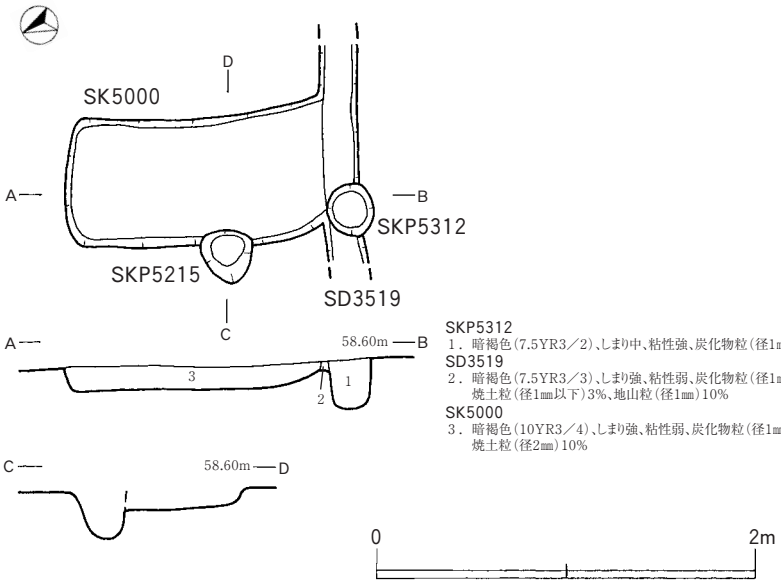
SK4931
1．にぶい黄褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)3%、
　焼土粒(径5㎜)1%
2．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性強
SKP4975
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%



SK4875
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)2%、焼土粒(径1㎜)1%
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒1%未満
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%未満、焼土1%未満、
　地山粒(径2㎜)30%
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%未満、焼土1%未満、
　地山粒(径2㎜)5%

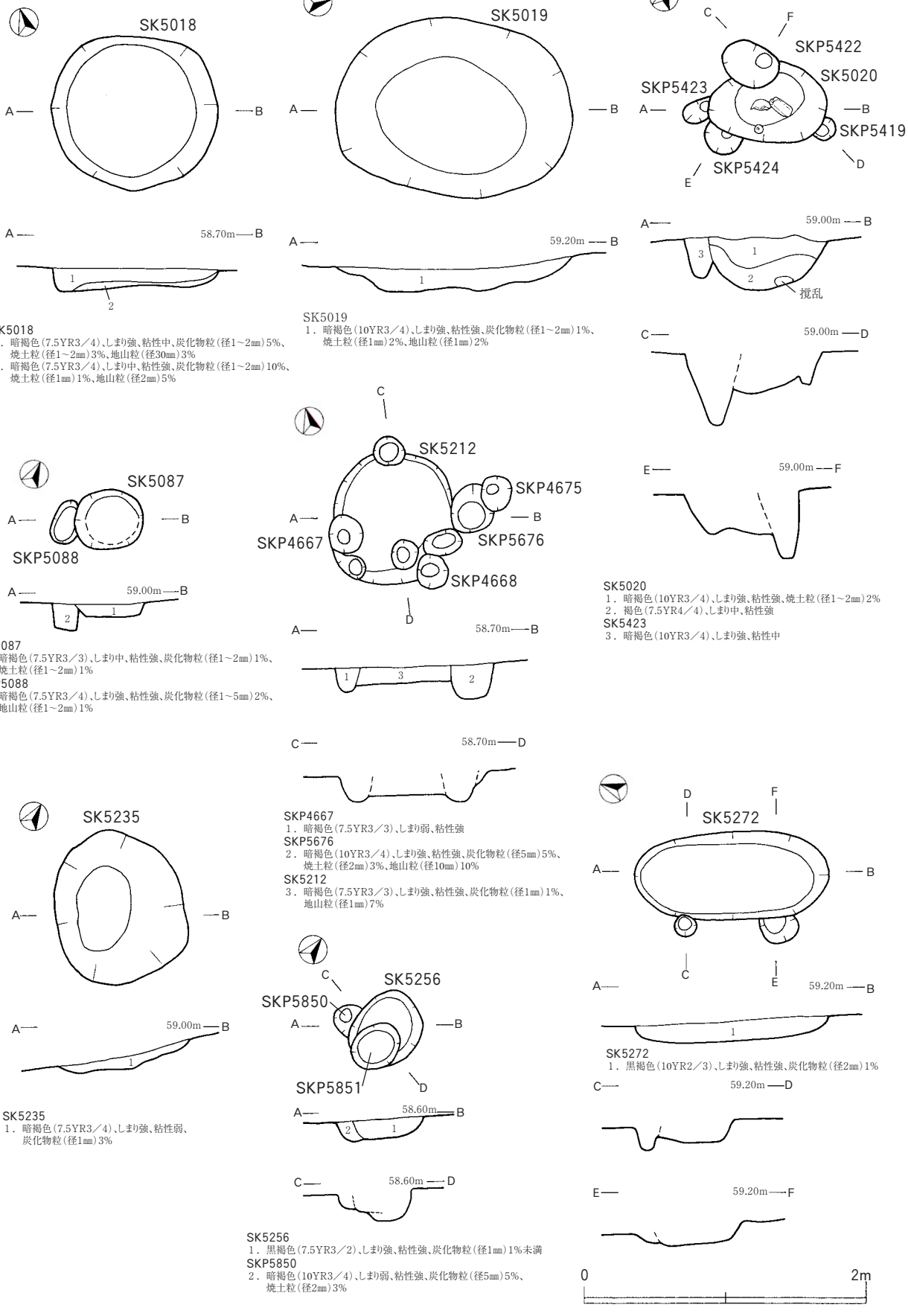


SK4938
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性強、
　炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒(径5㎜)3%



SKP5312
1．暗褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%
SD3519
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜以下)2%、
　焼土粒(径1㎜以下)3%、地山粒(径1㎜)10%
SK5000
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)3%、
　焼土粒(径2㎜)10%

第62図　検出遺構(土坑㉓)



SK5018
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)5%、焼土粒(径1～2㎜)3%、地山粒(径30㎜)3%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)10%、焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径2㎜)5%

SK5019
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、焼土粒(径1㎜)2%、地山粒(径1㎜)2%

SK5020
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1～2㎜)2%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強
SK5423
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中

SK5087
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%
SKP5088
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)2%、地山粒(径1～2㎜)1%

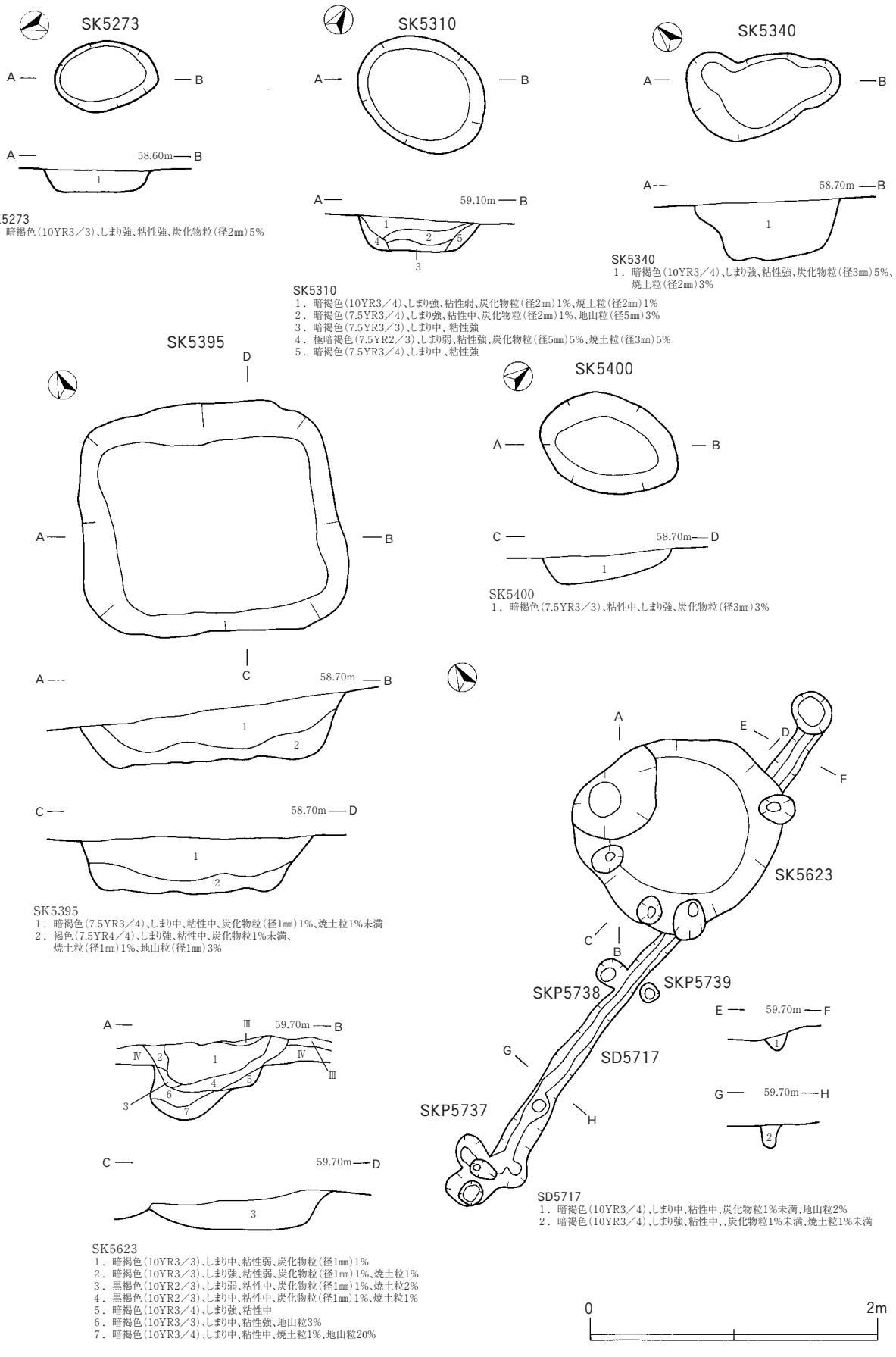
SKP4667
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性強
SKP5676
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5㎜)5%、焼土粒(径2㎜)3%、地山粒(径10㎜)10%
SK5212
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)7%

SK5235
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)3%

SK5256
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満
SKP5850
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)5%、焼土粒(径2㎜)3%

SK5272
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%

第63図　検出遺構(土坑㉔)



SK5273
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)5%

SK5310
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径5㎜)3%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強
4．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)5%、焼土粒(径3㎜)5%
5．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強

SK5340
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)5%、焼土粒(径2㎜)3%

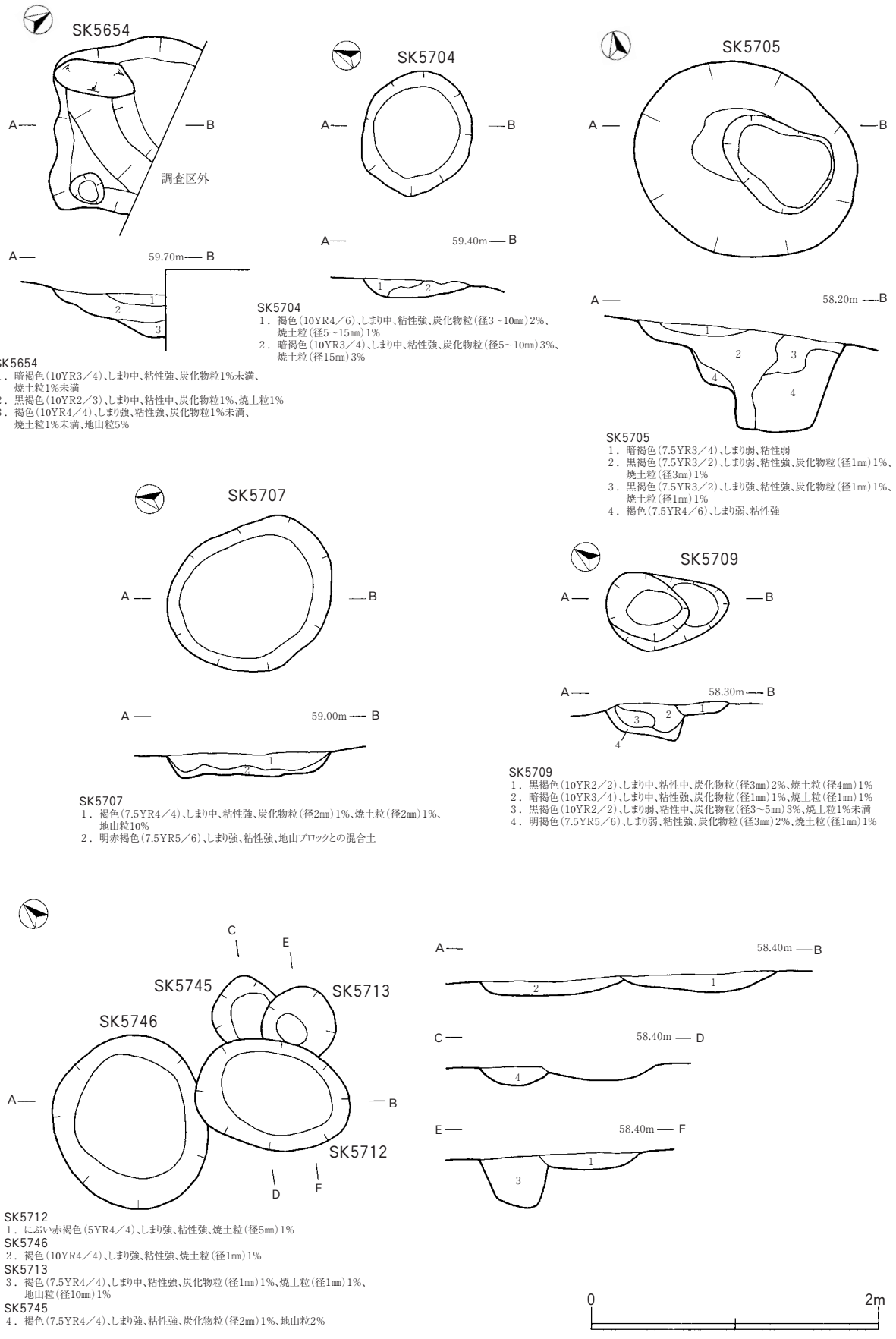
SK5395
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%未満
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒1%未満、焼土粒(径1㎜)1%、地山粒(径1㎜)3%

SK5400
1．暗褐色(7.5YR3／3)、粘性中、しまり強、炭化物粒(径3㎜)3%

SK5623
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%
3．黒褐色(10YR2／3)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒2%
4．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%
5．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中
6．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強、地山粒3%
7．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中、焼土粒1%、地山粒20%

SD5717
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒1%未満、地山粒2%
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中、、炭化物粒1%未満、焼土粒1%未満

第64図　検出遺構(土坑㉕)



SK5654
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒1%未満、
　焼土粒1%未満
2．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒1%、焼土粒1%
3．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒1%未満、
　焼土粒1%未満、地山粒5%

SK5704
1．褐色(10YR4／6)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3～10㎜)2%、
　焼土粒(径5～15㎜)1%
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)3%、
　焼土粒(径15㎜)3%

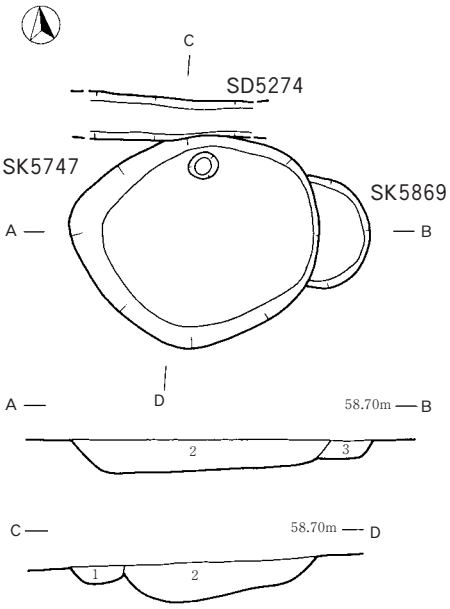
SK5705
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性弱
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径3㎜)1%
3．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1㎜)1%
4．褐色(7.5YR4／6)、しまり弱、粘性強

SK5707
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%、
　地山粒10%
2．明赤褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性強、地山ブロックとの混合土

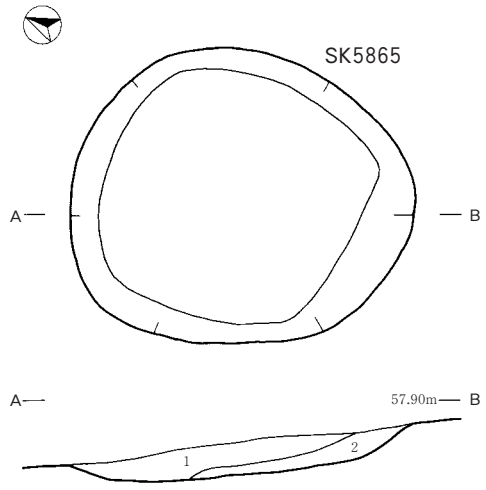
SK5709
1．黒褐色(10YR2／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径3㎜)2%、焼土粒(径4㎜)1%
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%
3．黒褐色(10YR2／2)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径3～5㎜)3%、焼土粒1%未満
4．明褐色(7.5YR5／6)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径3㎜)2%、焼土粒(径1㎜)1%

SK5712
1．にぶい赤褐色(5YR4／4)、しまり強、粘性強、焼土粒(径5㎜)1%
SK5746
2．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1㎜)1%
SK5713
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)1%、
　地山粒(径10㎜)1%
SK5745
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒2%

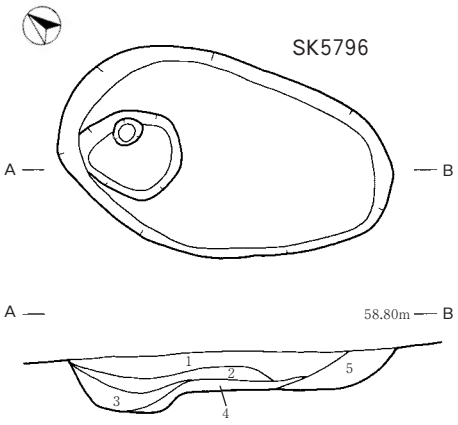
第65図　検出遺構(土坑㉖)



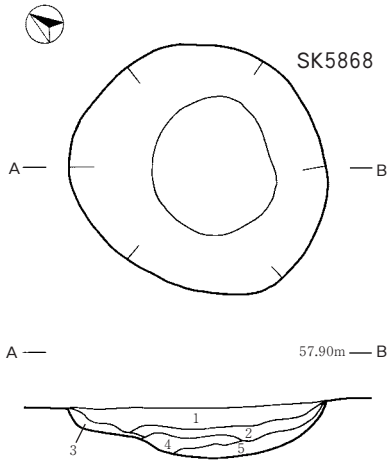
SD5274
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒60%
SK5747
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径20㎜)5%
SK5869
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%



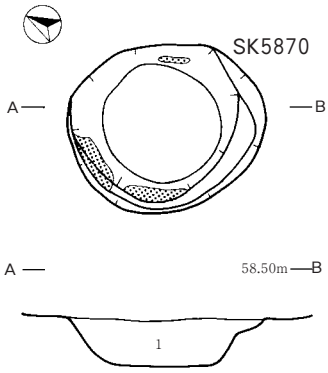
SK5865
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)5%
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)3%、地山粒(径2㎜)10%



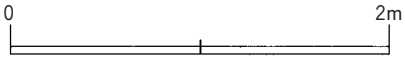
SK5796
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5㎜)5%、焼土粒(径5㎜)5%
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5㎜)15%、焼土粒(径2㎜)3%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強
5．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径2㎜)1%



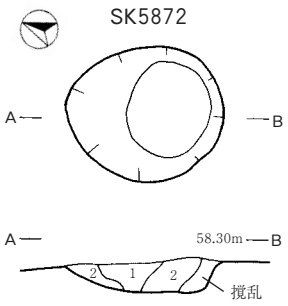
SK5868
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径5㎜)10%、焼土粒15%、
地山粒(径1㎜)5%
2．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1㎜)60%、焼土粒30%
3．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性中、炭化物(径1㎜)5%、地山粒30%
5．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)10%、焼土粒(径3㎜)5%



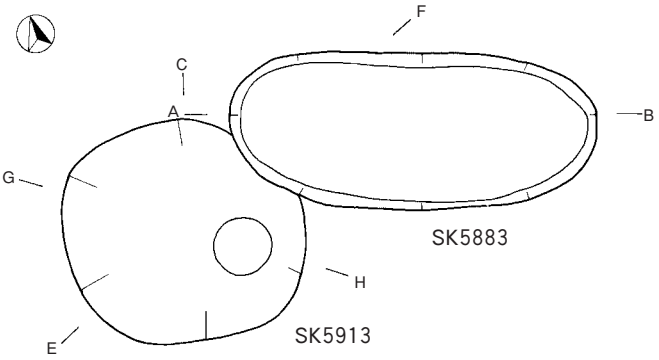
SK5870
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)1%、
焼土粒(径2～20㎜)3%



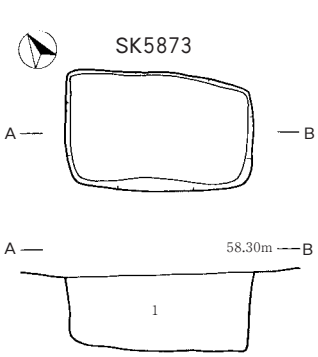
第66図　検出遺構(土坑㉗)



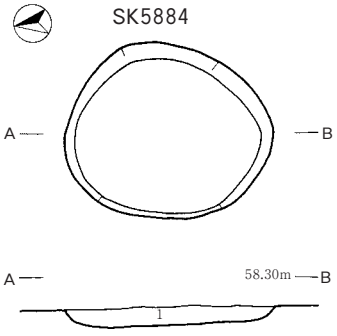
SK5872
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径3㎜)1%
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強



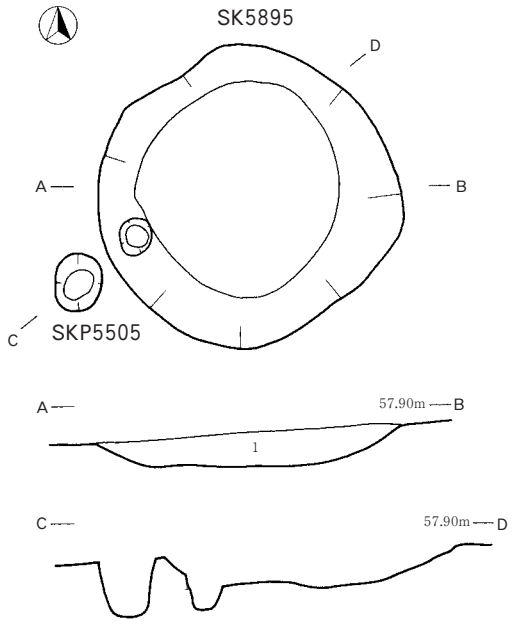
SK5883
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)3%
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)3%
SK5913
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径3㎜)5%、焼土粒(径5㎜)5%
4．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)3%、焼土粒(径2㎜)3%



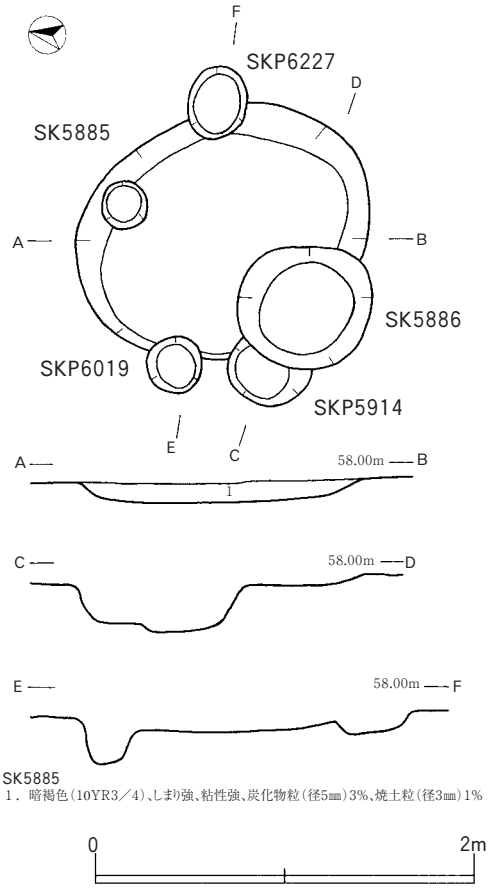
SK5873
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%未満、
焼土粒(径2㎜)2%、地山粒20%



SK5884
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物(径2㎜)5%、
焼土粒(5～30㎜)25%、地山粒30%

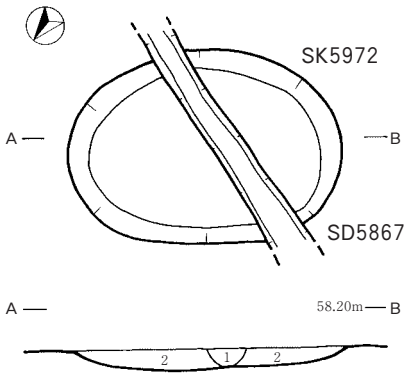


SK5895
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)1%未満、
焼土粒(径1～3㎜)1%未満

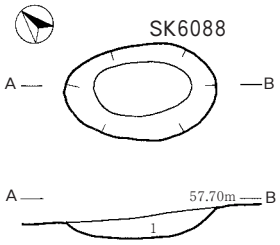


SK5885
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5㎜)3%、焼土粒(径3㎜)1%

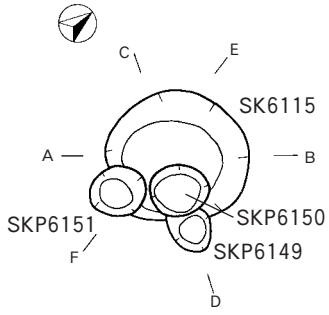
第67図　検出遺構(土坑㉘)



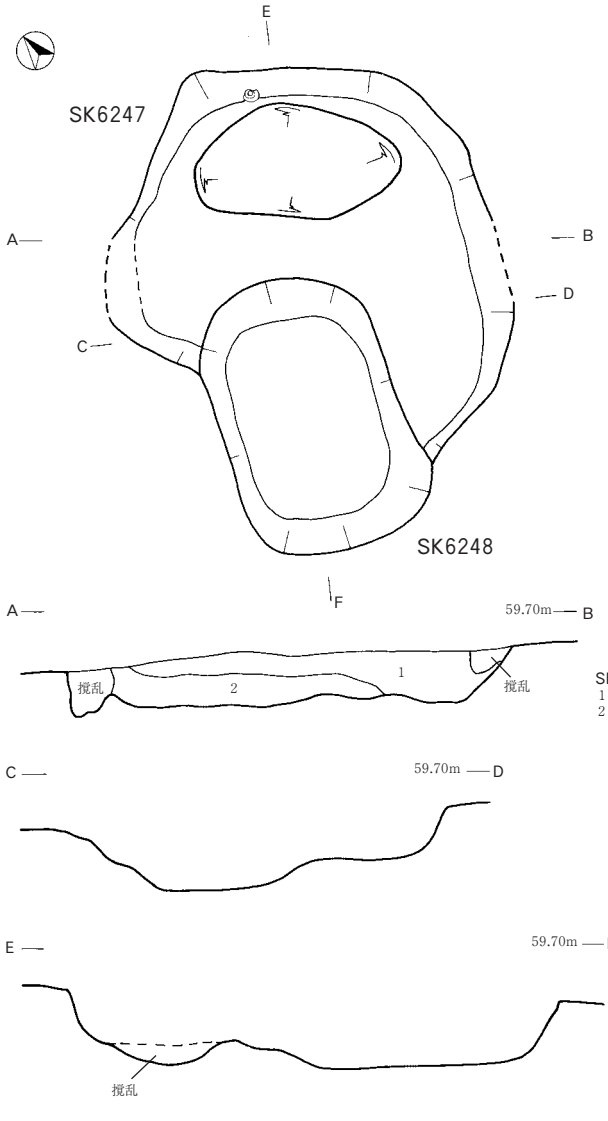
SD5867
１．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)3%
SK5972
２．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)5%、焼土粒(径2㎜)10%



SK6088
１．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)3%、
地山粒(径10㎜)10%

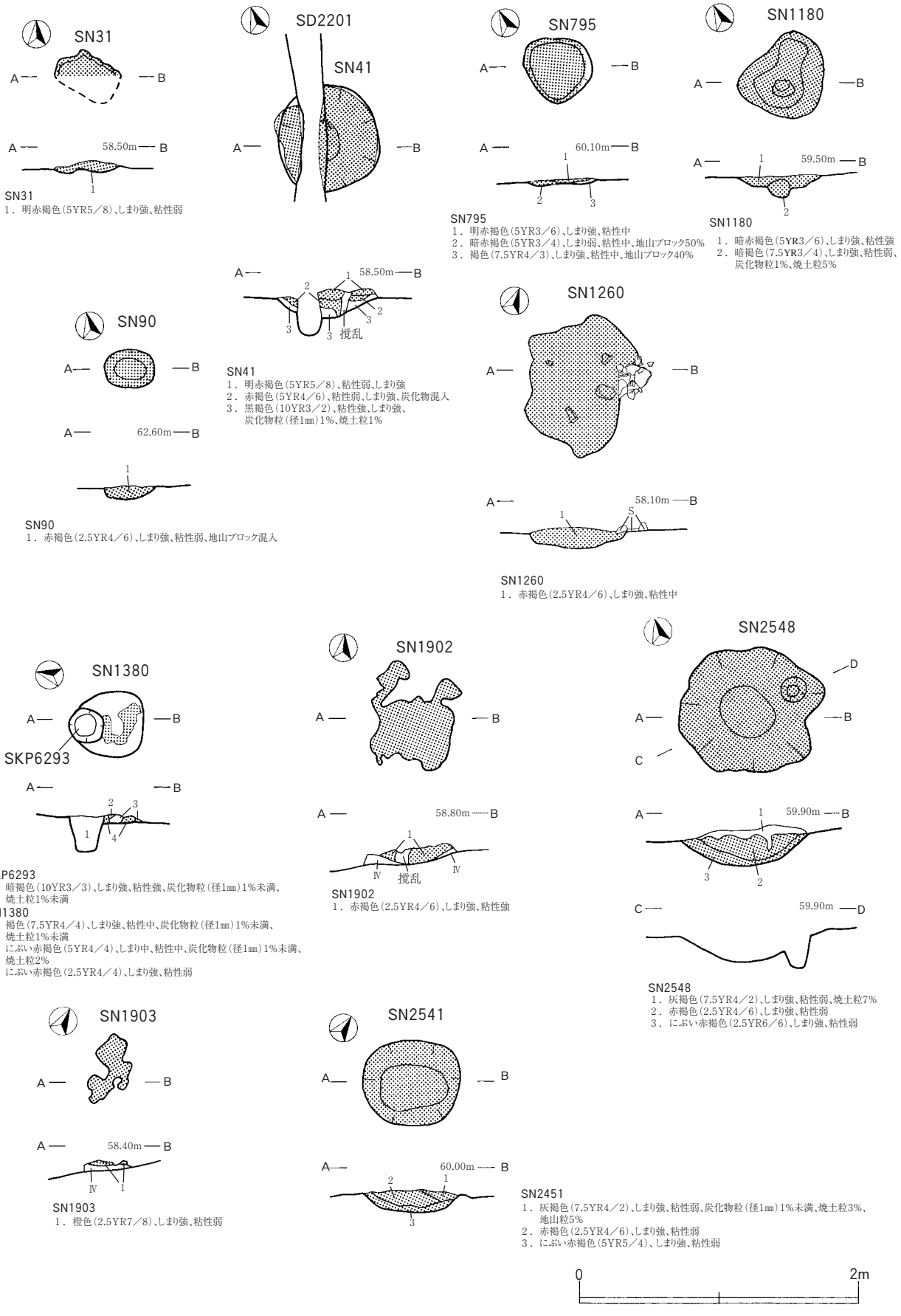


SK6115
１．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径10㎜)1%

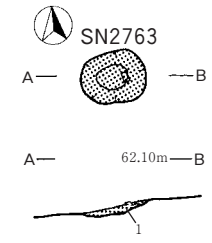


SK6247
１．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒1%未満、焼土粒1%未満
２．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、焼土粒1%

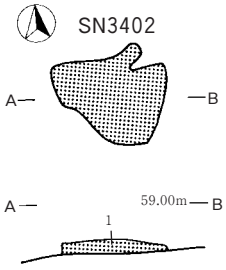
第68図　検出遺構(土坑㉙)



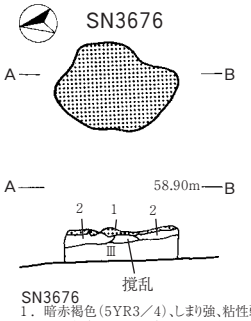
第69図　検出遺構(焼土遺構①)



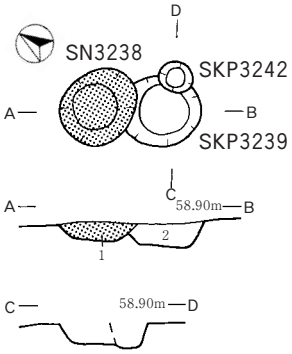
SN2763
1．明赤褐色(2.5YR5／8)、しまり強、粘性強



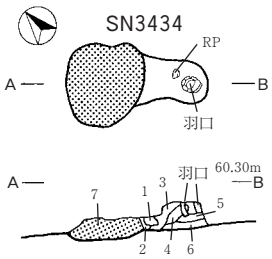
SN3402
1．暗赤褐色(2.5YR3／6)、しまり中、粘性強



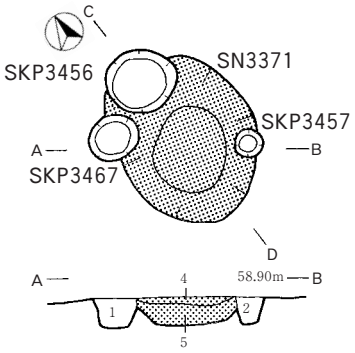
SN3676
1．暗赤褐色(5YR3／4)、しまり強、粘性弱
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性強



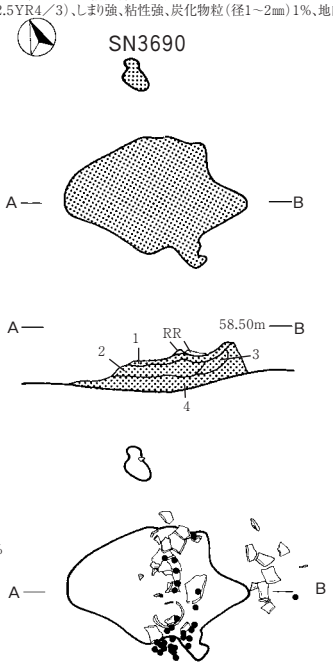
SN3238
1．にぶい赤褐色(5YR4／4)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～5㎜)2%
SKP3239
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性中、
炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒1%



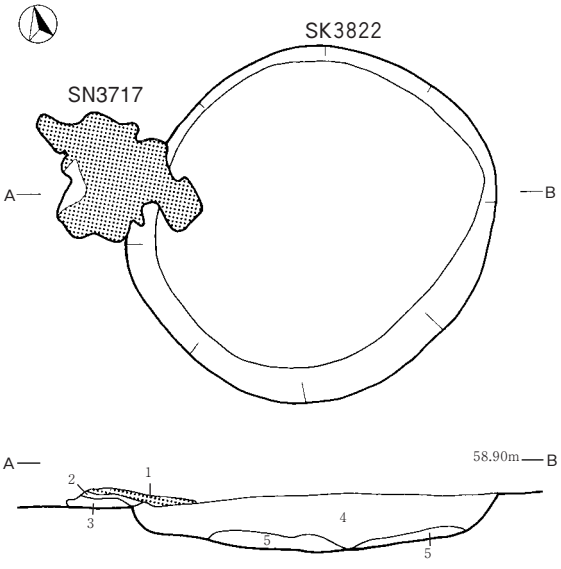
SN3434
1．にぶい黄褐色(10YR5／4)、しまり強、粘性弱、焼土粒1%
2．赤褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、焼土粒1%
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒2%
4．にぶい赤褐色(5YR4／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%
5．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒3%
6．にぶい黄褐色(10YR5／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒3%
7．明赤褐色(2.5YR5／8)、しまり強、粘性弱



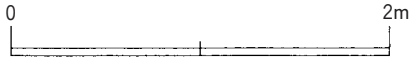
SKP3467
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、焼土粒1%
SKP3457
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満、焼土粒1%
SKP3456
3．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、焼土粒3%
SN3371
4．明赤褐色(5YR5／6)、しまり強、粘性弱、焼土粒10%
5．にぶい赤褐色(2.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%、地山粒1%



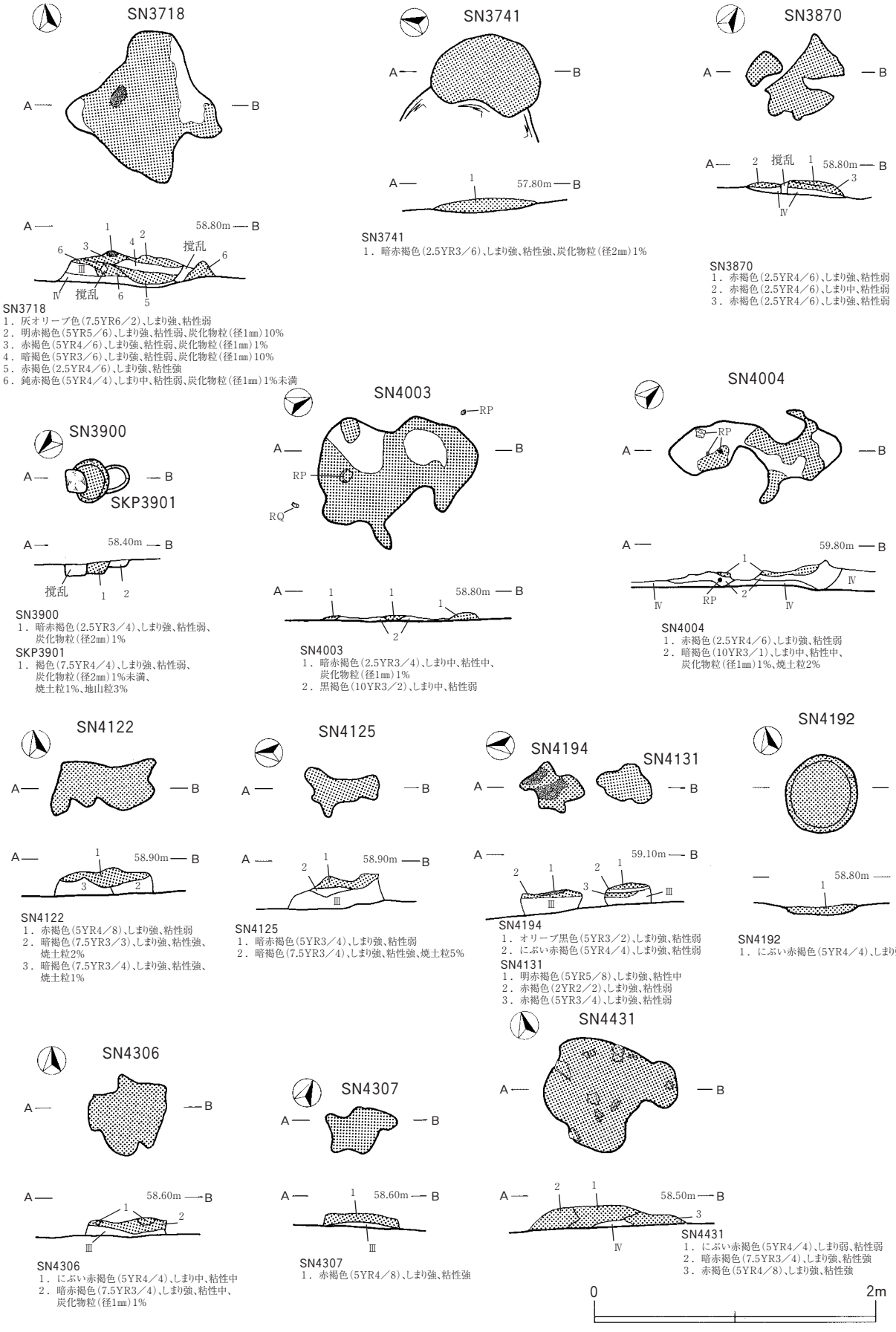
SN3690
1．赤褐色(2.5YR4／8)、しまり強、粘性弱
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満
3．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)1%未満
4．暗褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強



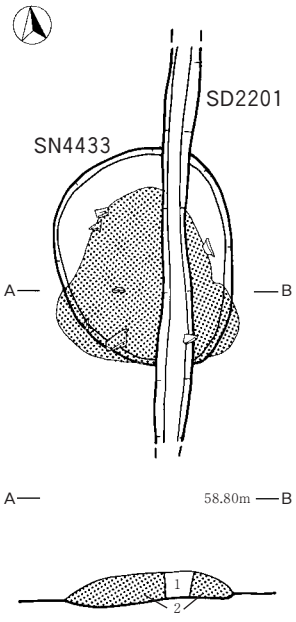
SN3717
1．赤褐色(5YR4／8)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%未満、地山粒30%
2．暗赤褐色(5YR3／4)、しまり強、粘性強
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強
SK3822
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)5%、焼土1%未満、
地山ブロック1%未満
5．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)3%、地山粒10%



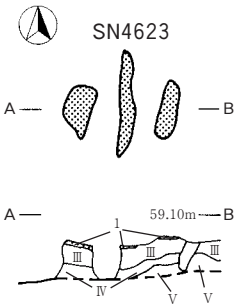
第70図　検出遺構(焼土遺構②)



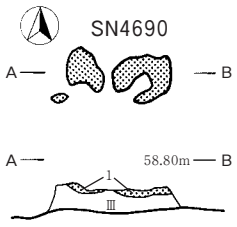
第71図　検出遺構(焼土遺構③)



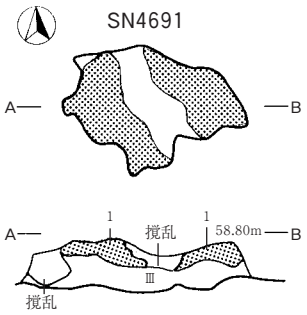
SD2201
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性弱、焼土粒1%
SN4433
2．明赤褐色(5YR5／8)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径3㎜)5%



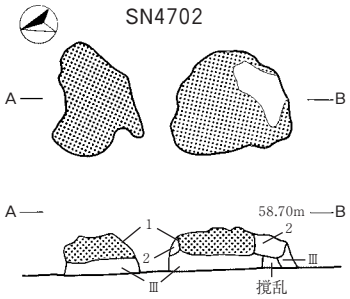
SN4623
1．褐色(5YR6／8)、しまり強、粘性中



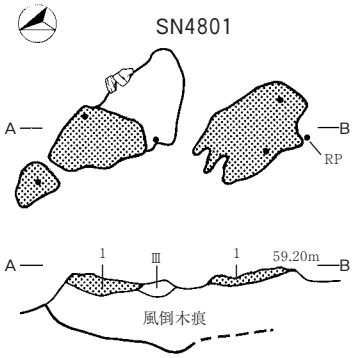
SN4690
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%



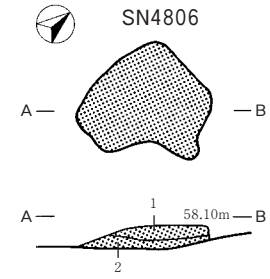
SN4691
1．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性中



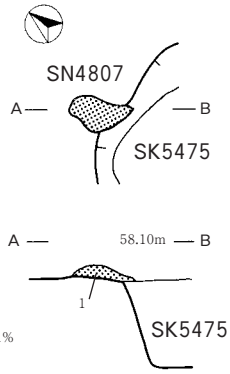
SN4702
1．赤褐色(2.5YR4／8)、しまり強、粘性弱
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5㎜)1%、焼土粒1%



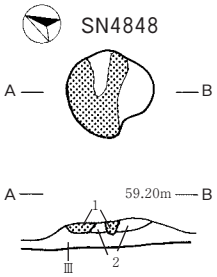
SN4801
1．赤褐色(2.5YR4／8)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%



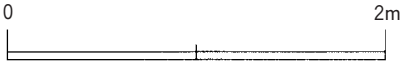
SN4806
1．暗赤褐色(2.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%
2．赤褐色(2.5YR4／8)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒1%



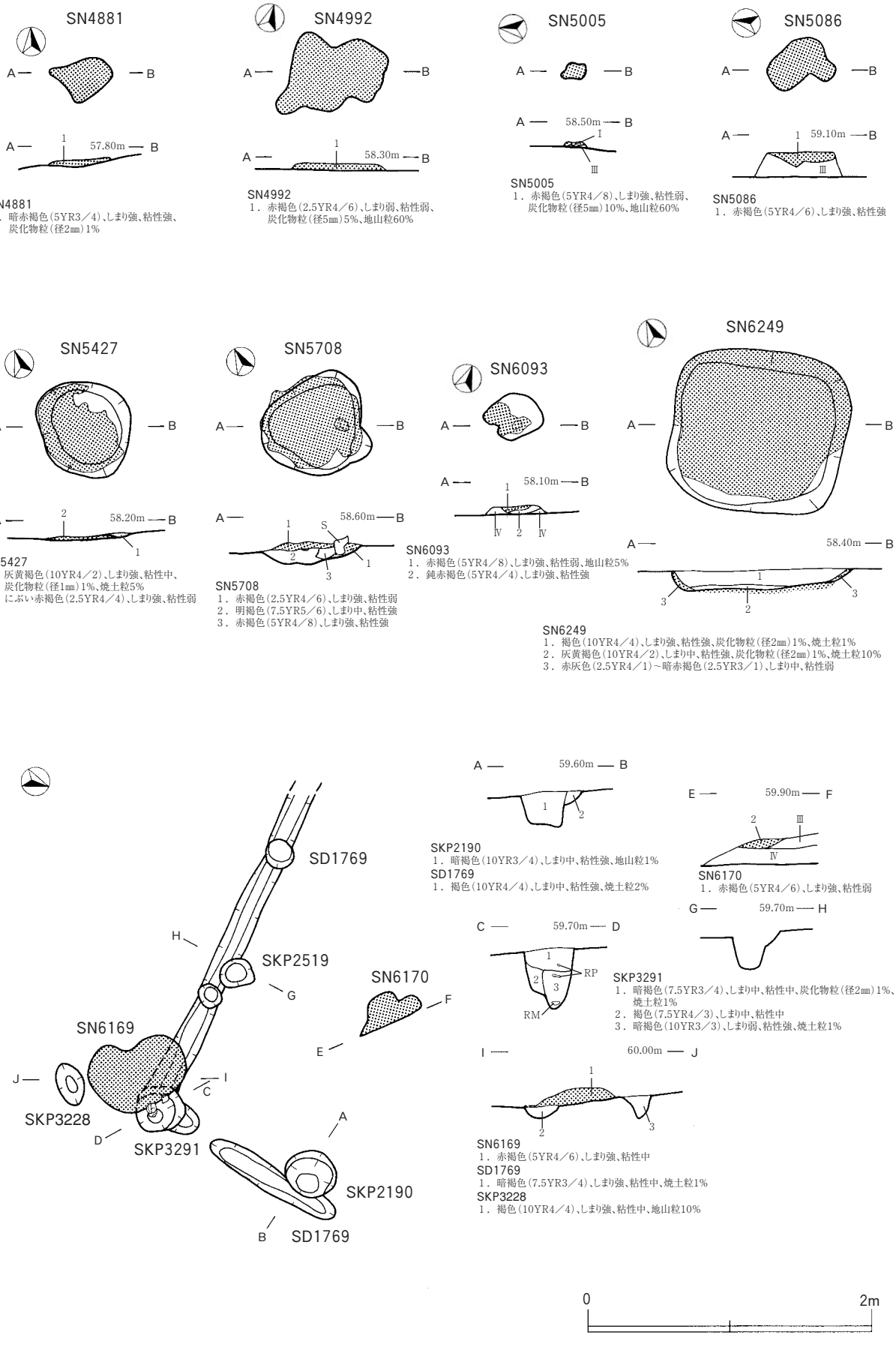
SN4807
1．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%



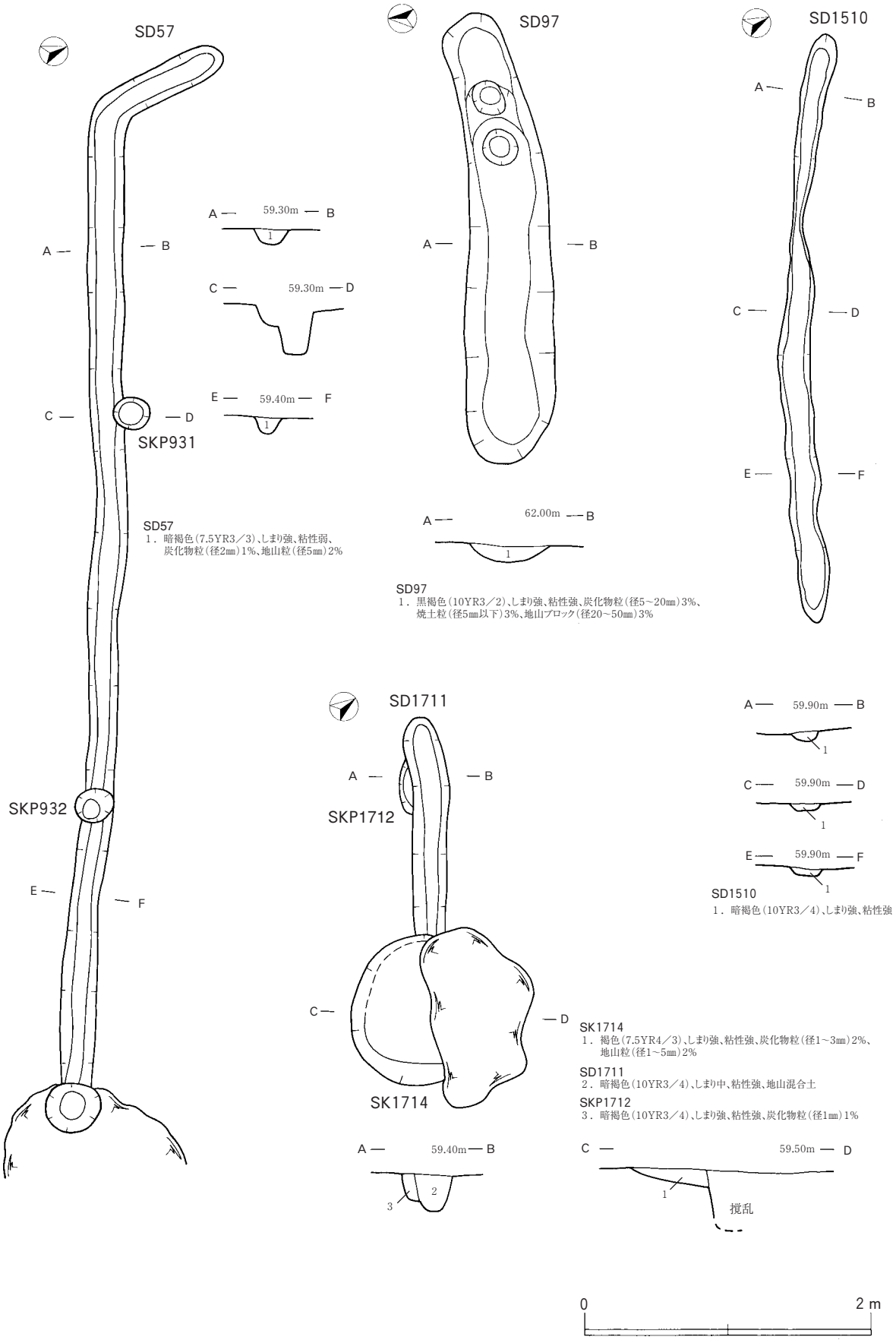
SN4848
1．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒3%
地山ブロック1%



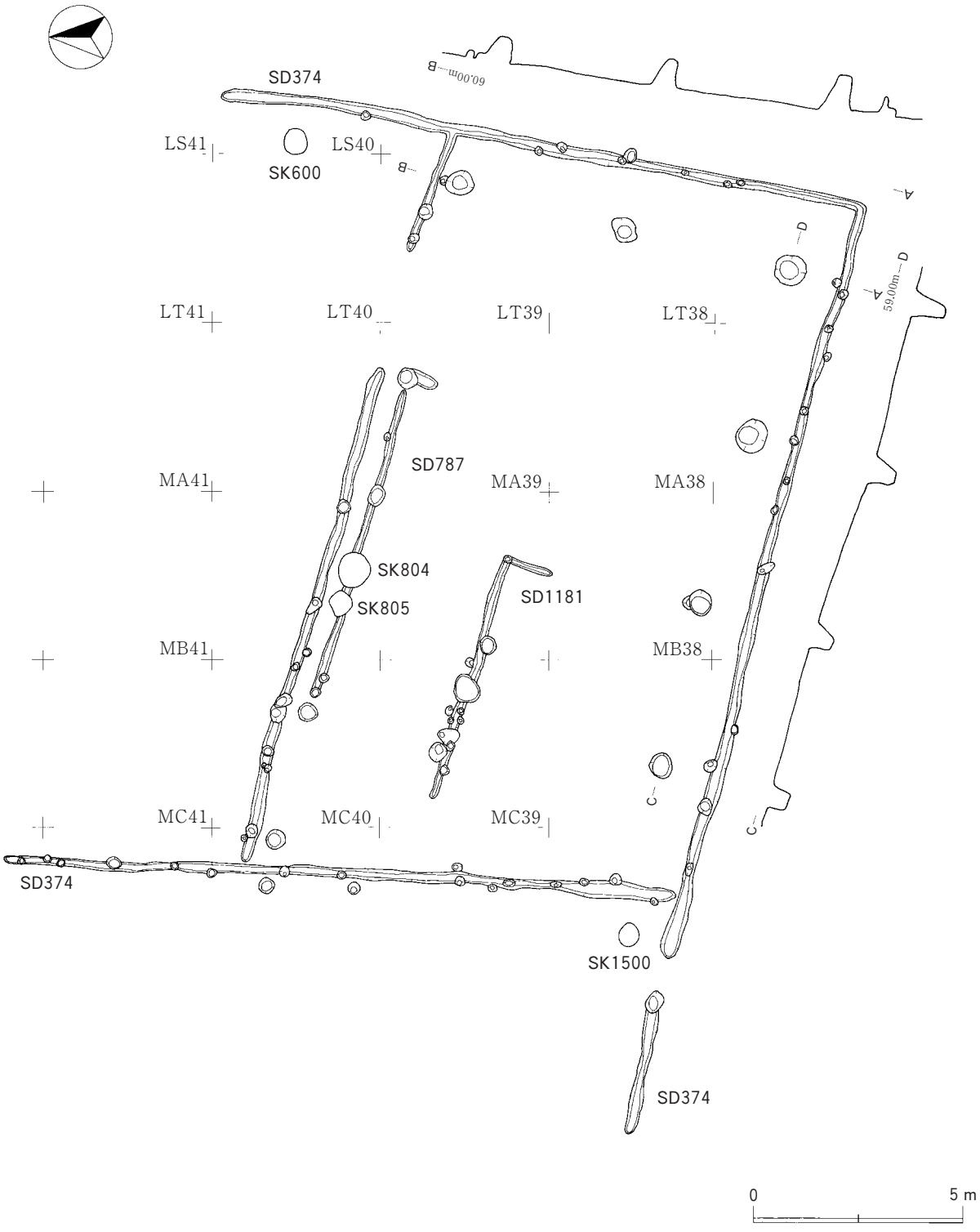
第72図　検出遺構(焼土遺構④)



第73図　検出遺構(焼土遺構⑤)

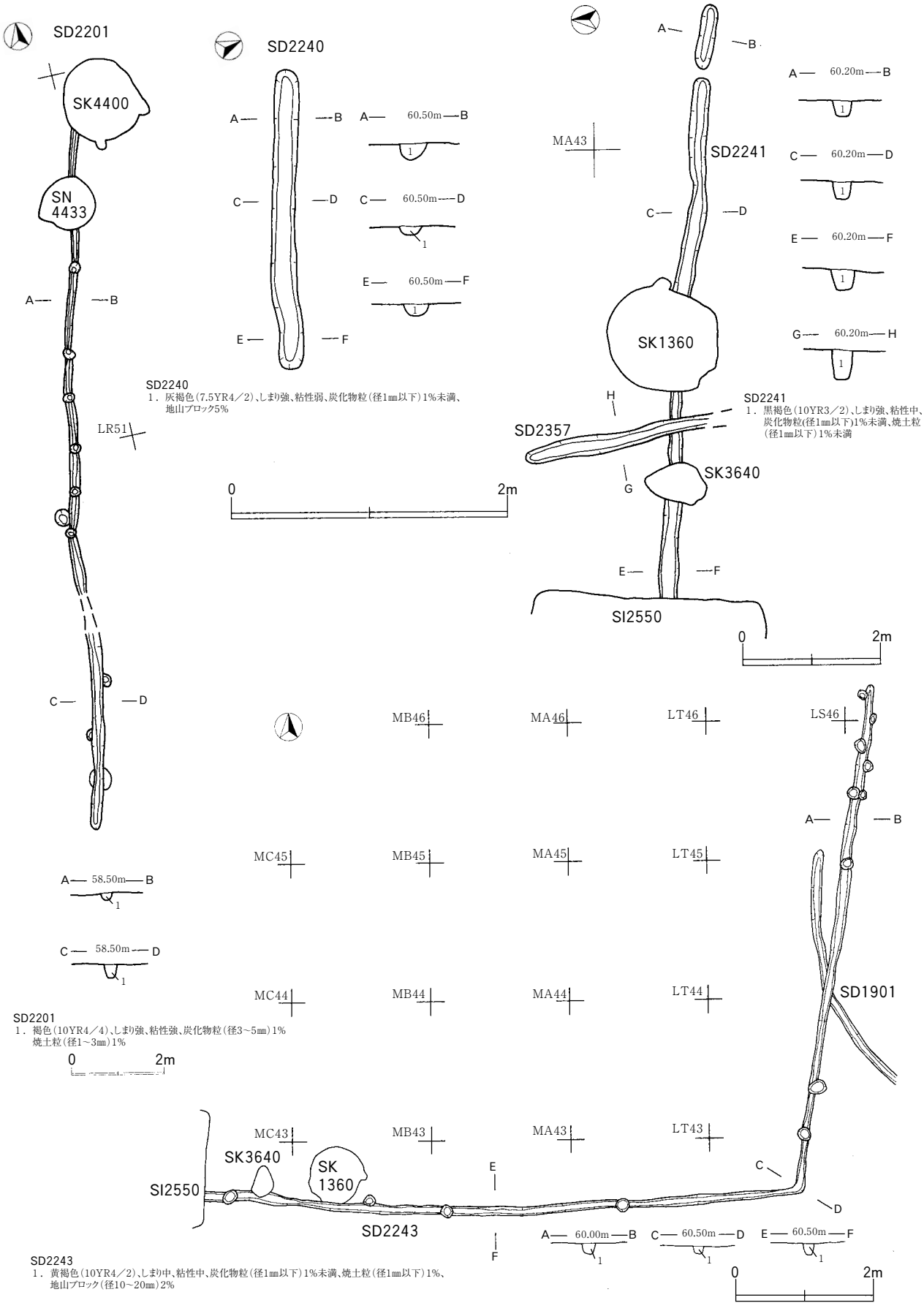


第74図　検出遺構（溝跡①）

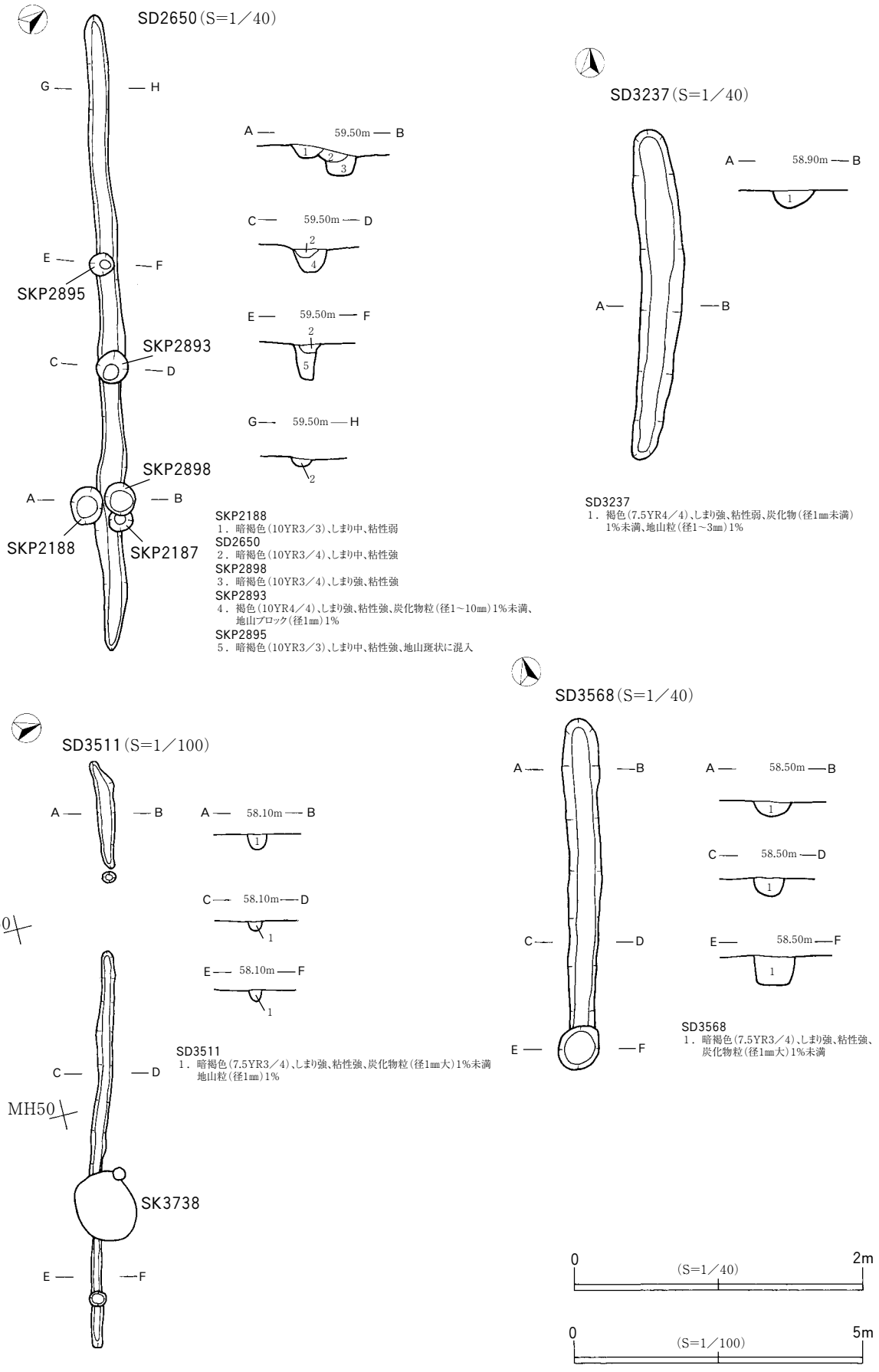


第75図　検出遺構（溝跡②）

第76図　検出遺構（溝跡③）



第77図　検出遺構(溝跡④)



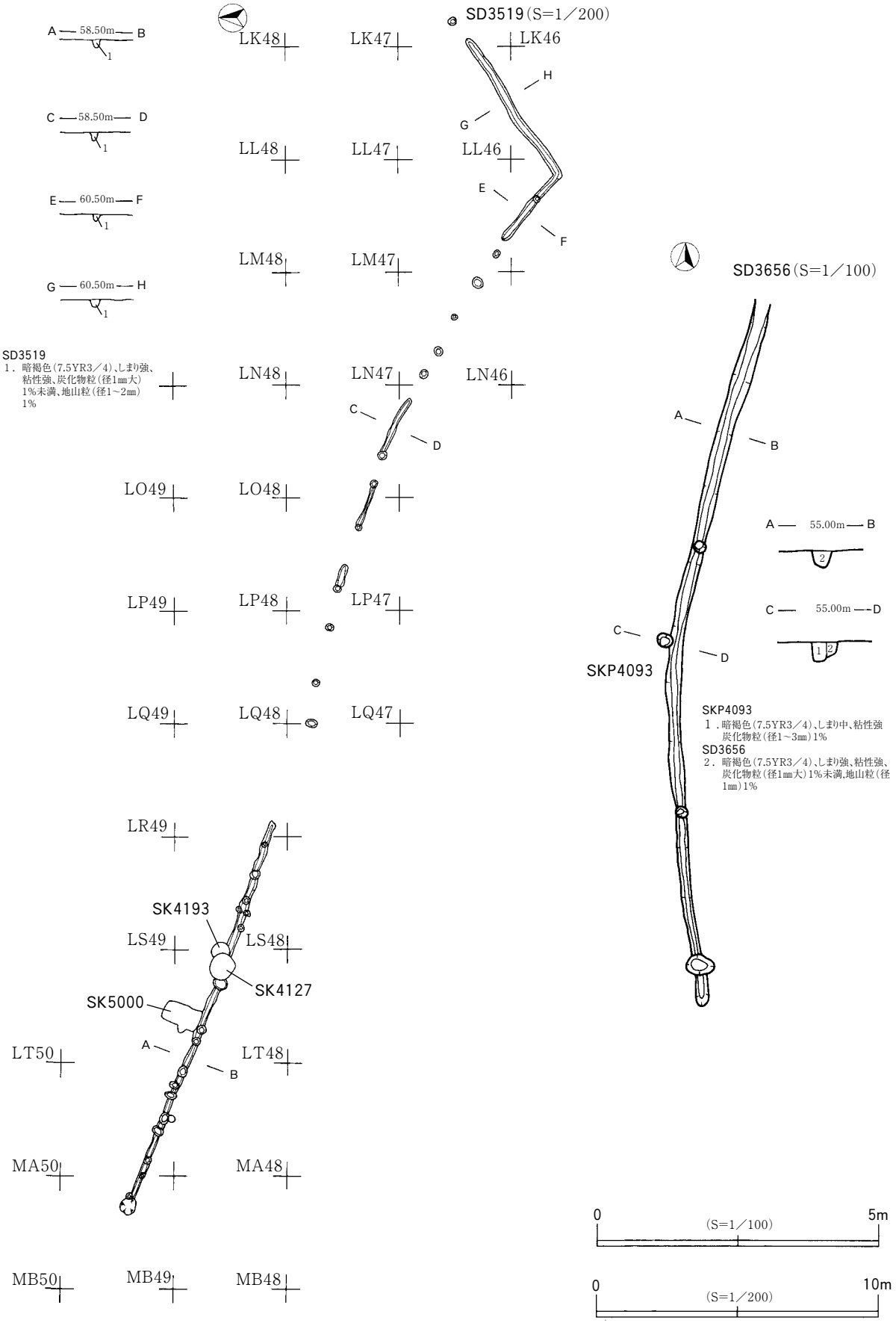
SKP2188
1．暗褐色（10YR3／3）、しまり中、粘性弱
SD2650
2．暗褐色（10YR3／4）、しまり中、粘性強
SKP2898
3．暗褐色（10YR3／4）、しまり強、粘性強
SKP2893
4．褐色（10YR4／4）、しまり強、粘性強、炭化物粒（径1～10㎜）1%未満、地山ブロック（径1㎜）1%
SKP2895
5．暗褐色（10YR3／3）、しまり中、粘性強、地山斑状に混入

SD3237
1．褐色（7.5YR4／4）、しまり強、粘性弱、炭化物（径1㎜未満）1%未満、地山粒（径1～3㎜）1%

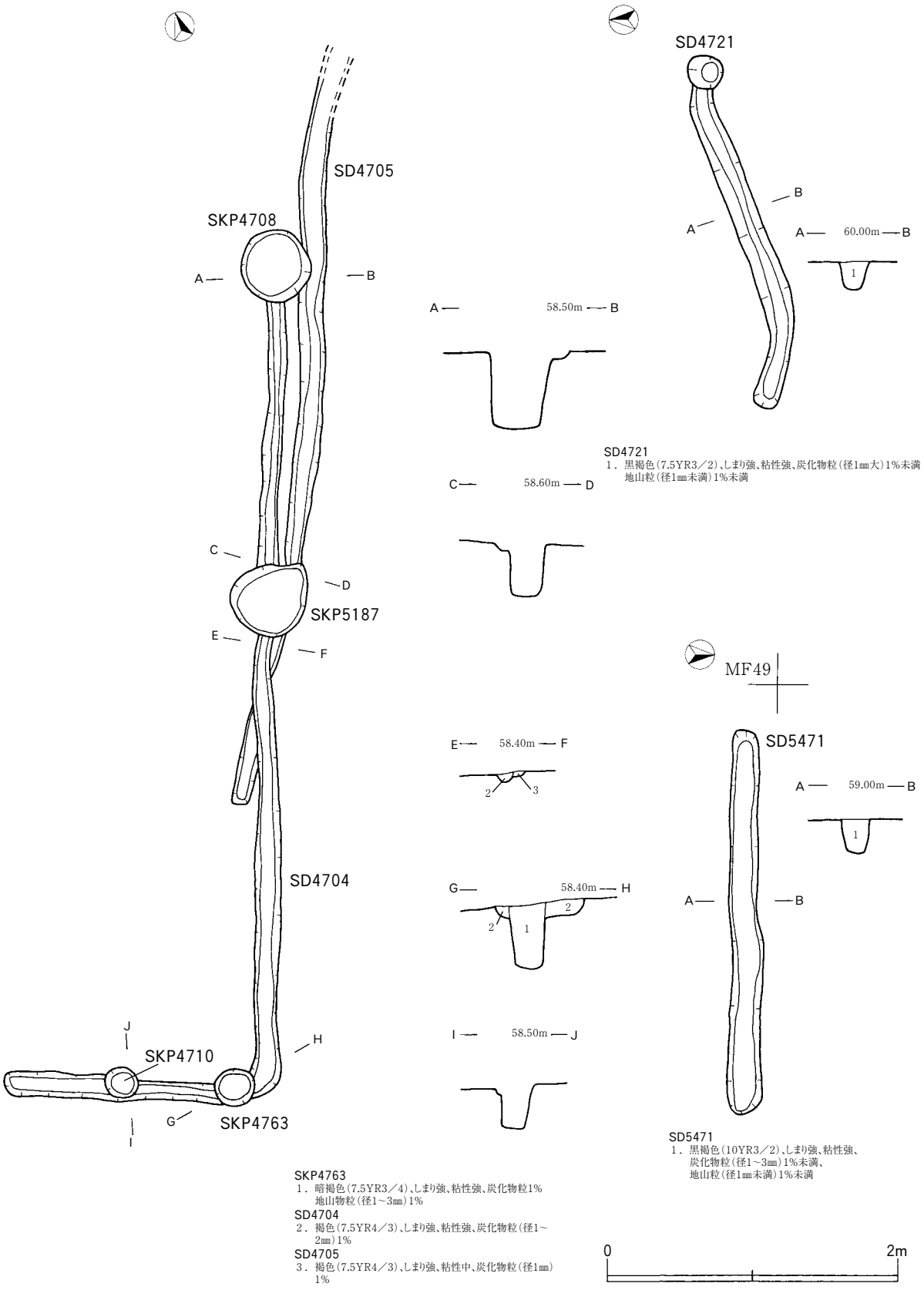
SD3511
1．暗褐色（7.5YR3／4）、しまり強、粘性強、炭化物粒（径1㎜大）1%未満
地山粒（径1㎜）1%

SD3568
1．暗褐色（7.5YR3／4）、しまり強、粘性強、炭化物粒（径1㎜大）1%未満

第78図　検出遺構（溝跡⑤）



第79図　検出遺構（溝跡⑥）

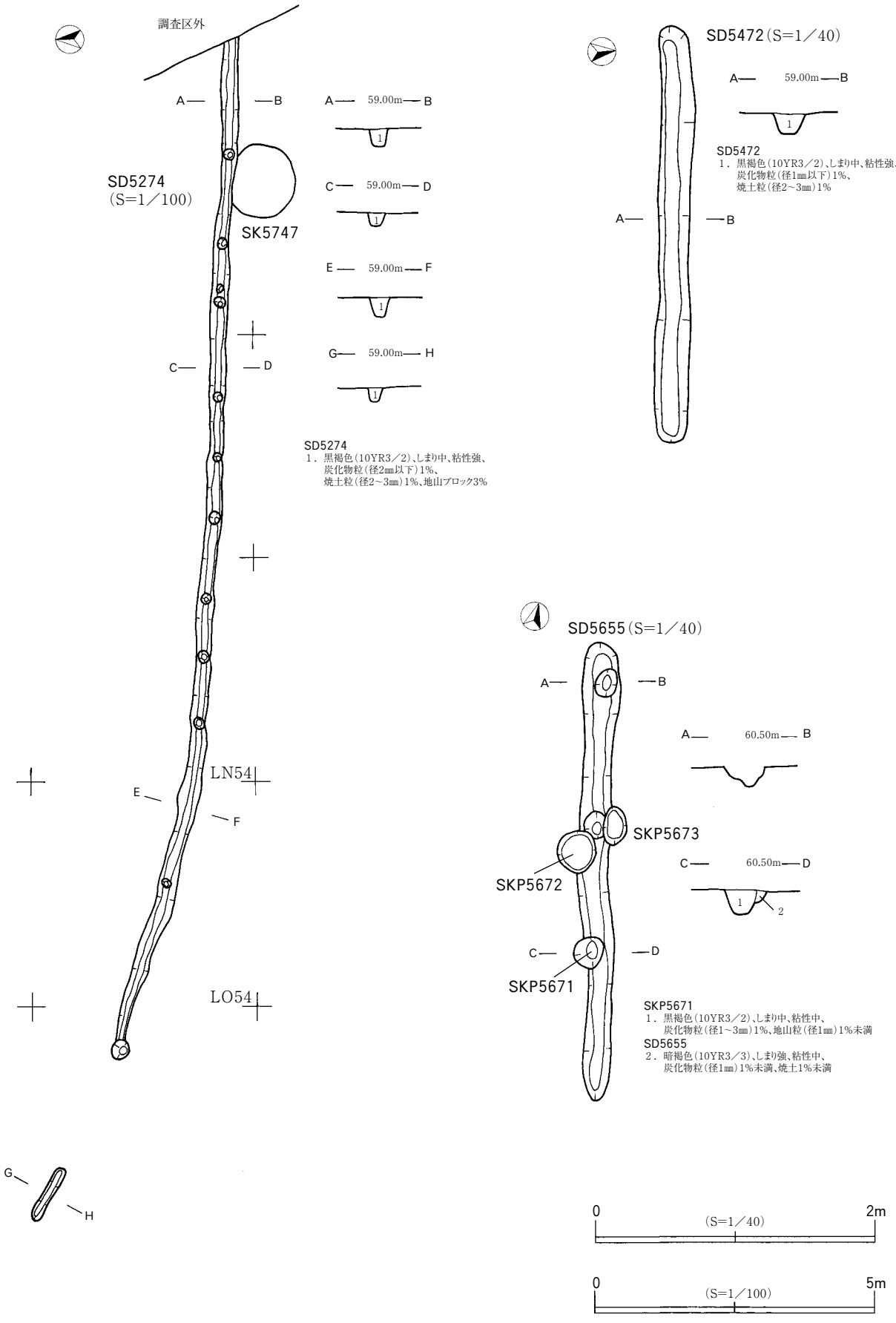


SD4721
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜大)1%未満
地山粒(径1㎜未満)1%未満

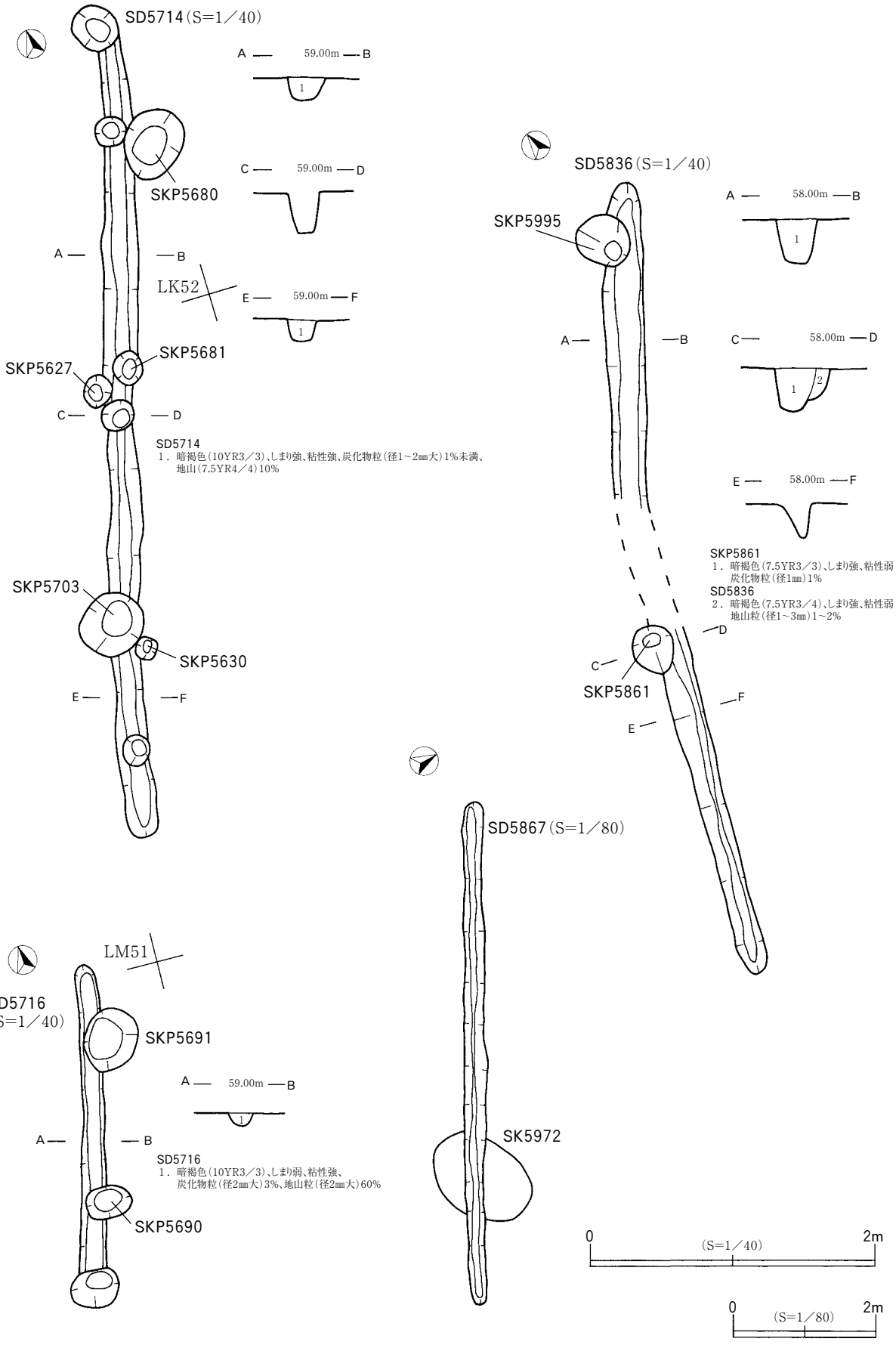
SD5471
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、
炭化物粒(径1～3㎜)1%未満、
地山粒(径1㎜未満)1%未満

SKP4763
1．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒1%
地山物粒(径1～3㎜)1%
SD4704
2．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～
2㎜)1%
SD4705
3．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)
1%

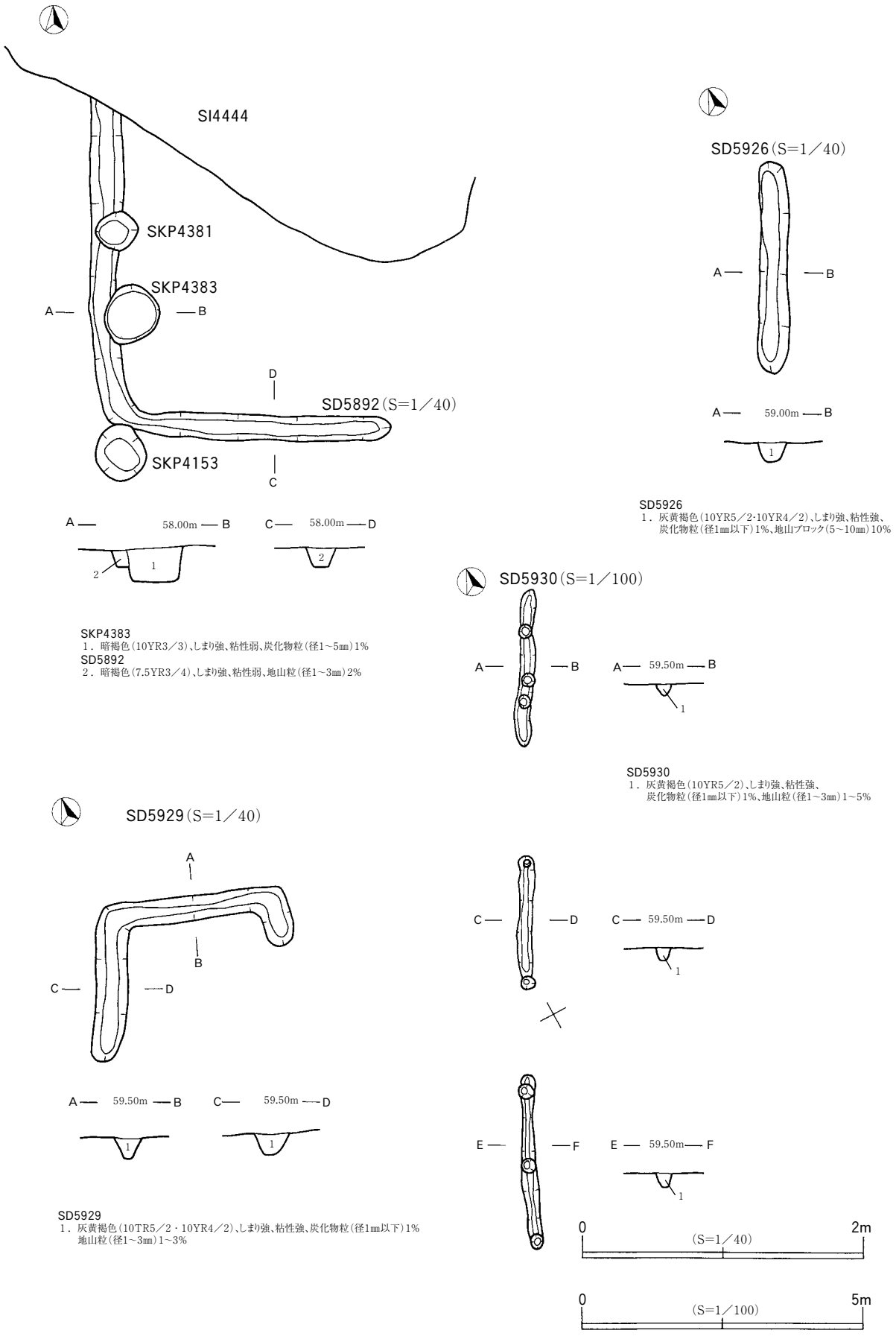
第80図　検出遺構(溝跡⑦)



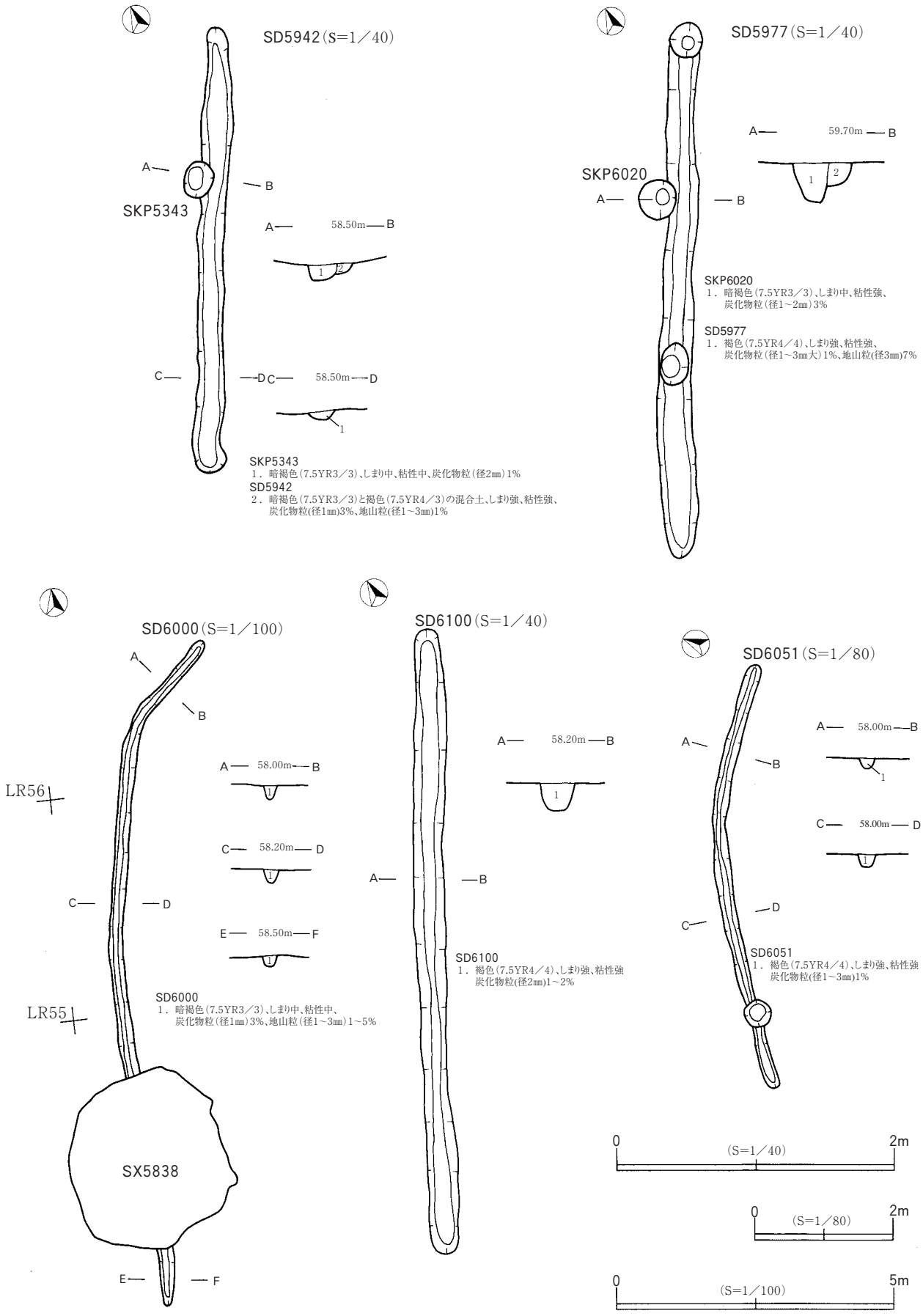
第81図　検出遺構(溝跡⑧)



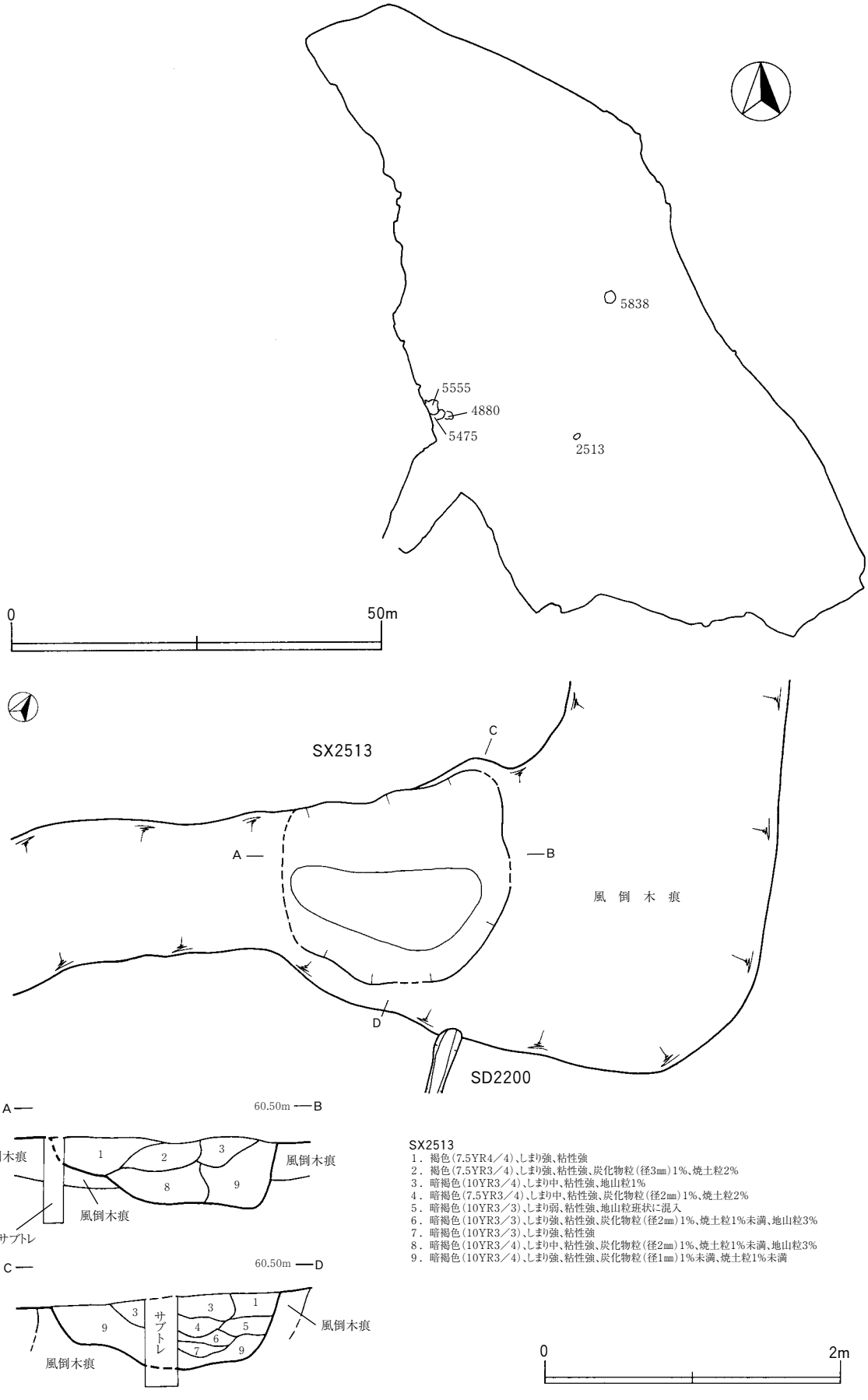
第82図　検出遺構（溝跡⑨）



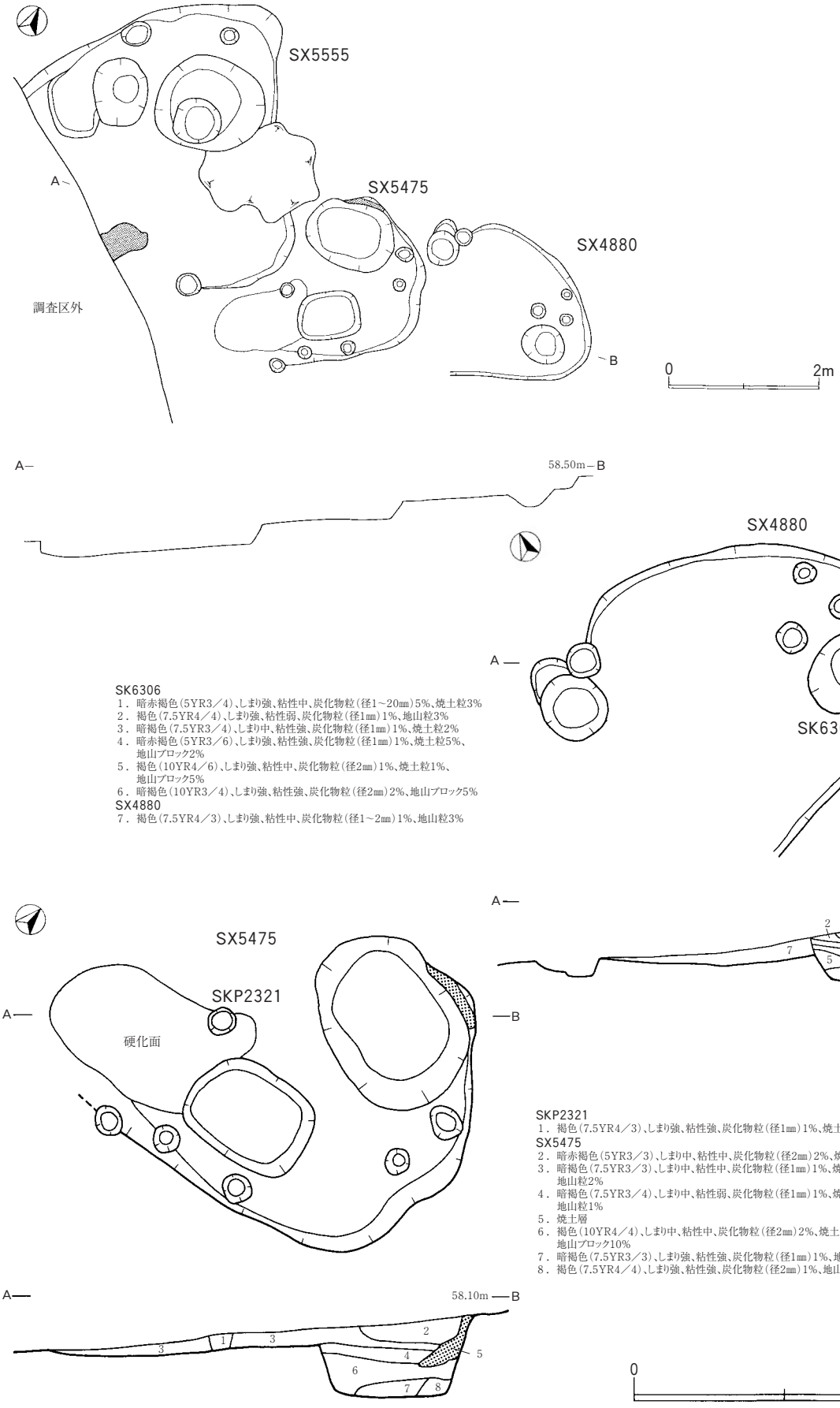
第83図　検出遺構（溝跡⑩）



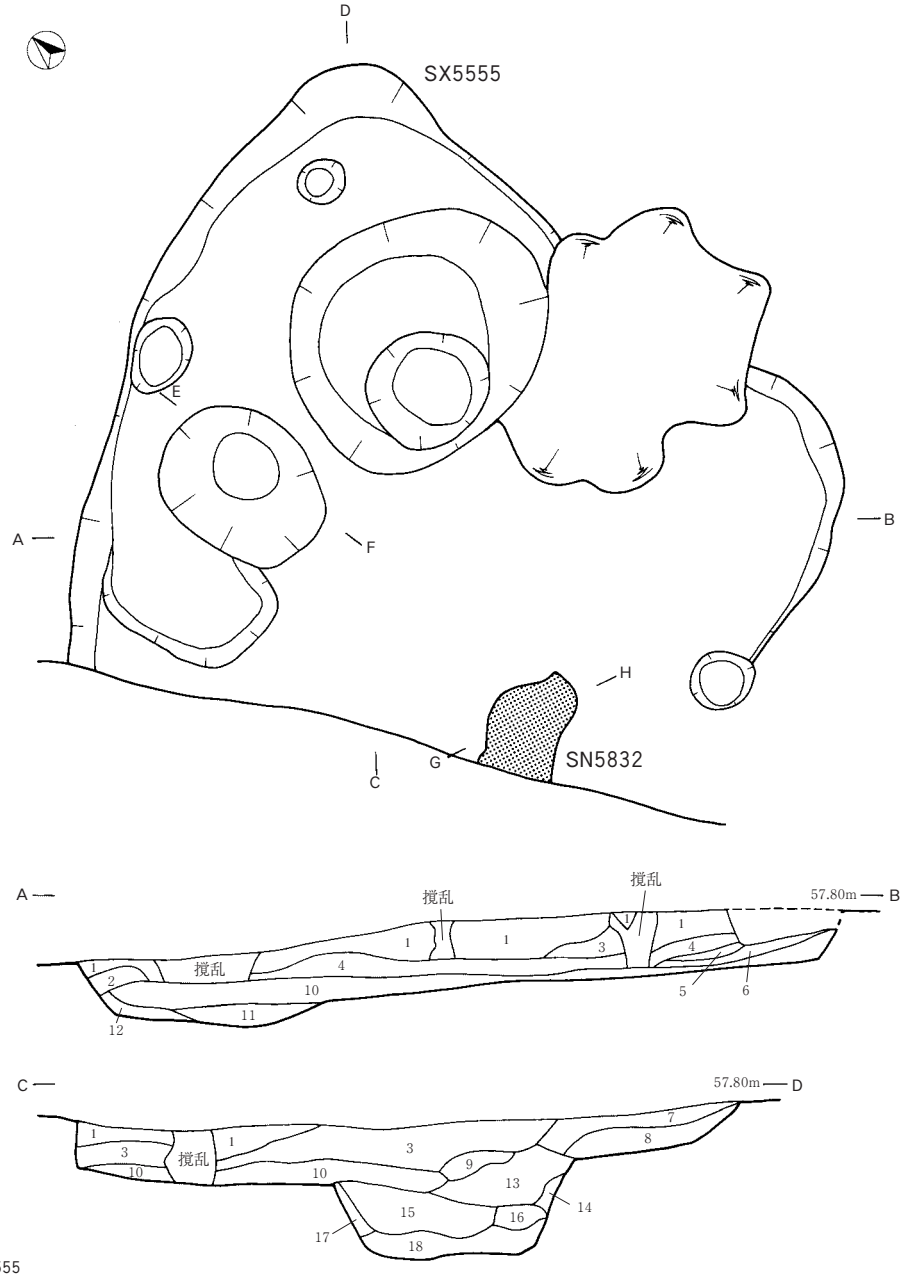
第84図　検出遺構（溝跡⑪）



第85図　検出遺構(性格不明遺構①)



第86図　検出遺構(性格不明遺構②)

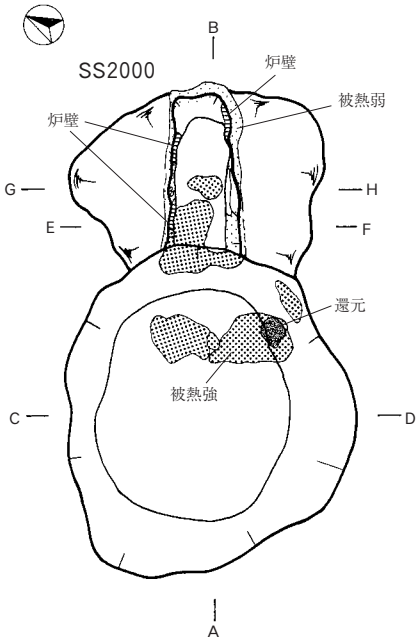


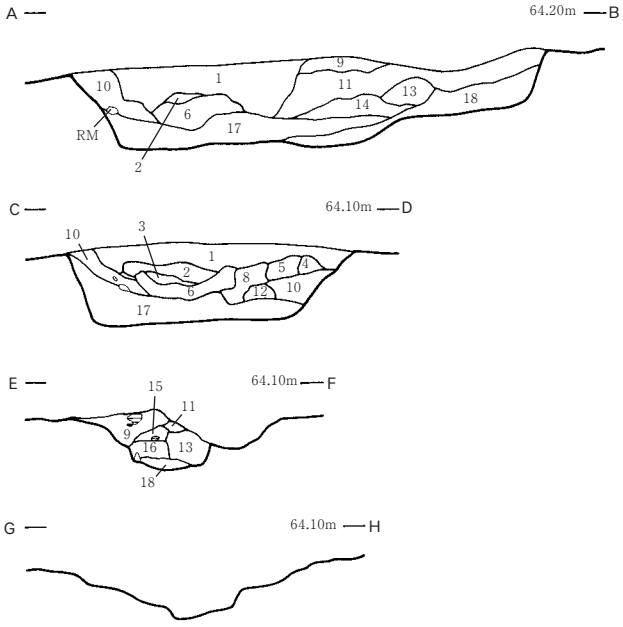
SX5555
1．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%、地山ブロック3%
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、地山ブロック3%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、地山ブロック5%
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒2%
5．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径2㎜)1%、地山ブロック10%
6．褐色(7.5YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、地山粒2%
7．褐色(10YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、地山粒2%
8．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山ブロック5%
9．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒3%
10．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径2㎜)2%、地山ブロック10%
11．黒褐色(10YR2／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～10㎜)10%、焼土粒5%
12．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山ブロック2%
13．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土ブロック1%
　地山ブロック2%
14．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%、地山ブロック10%
15．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土ブロック3%
　地山ブロック2%
16．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒1%
　地山ブロック2%
17．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%
　地山ブロック3%
18．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、焼土粒1%
　地山ブロック5%

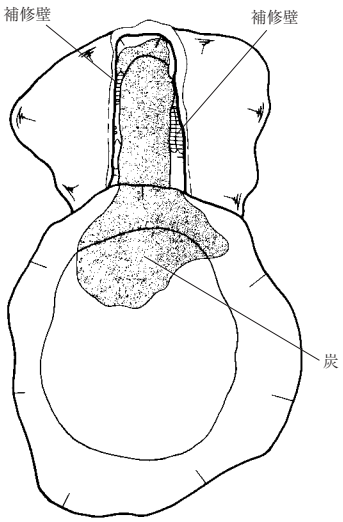
SN5832
1．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱、炭化物(1～10㎜)10%、焼土ブロック10%
2．暗赤褐色(2.5YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物(径1㎜)1%未満

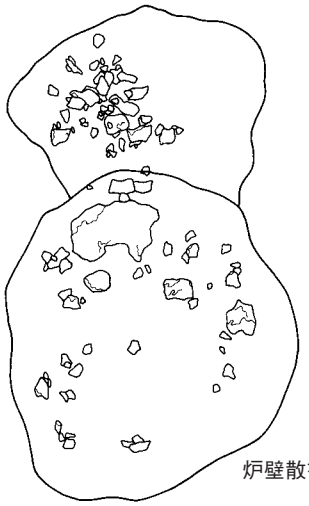
0　2m

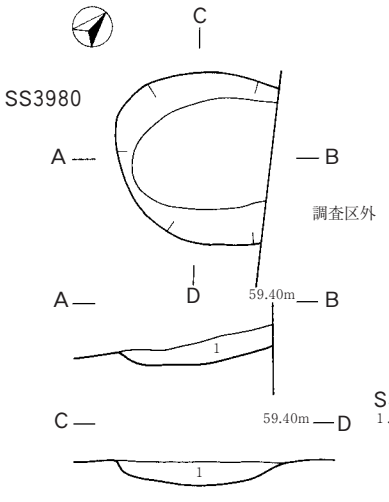
第87図　検出遺構(性格不明遺構③)









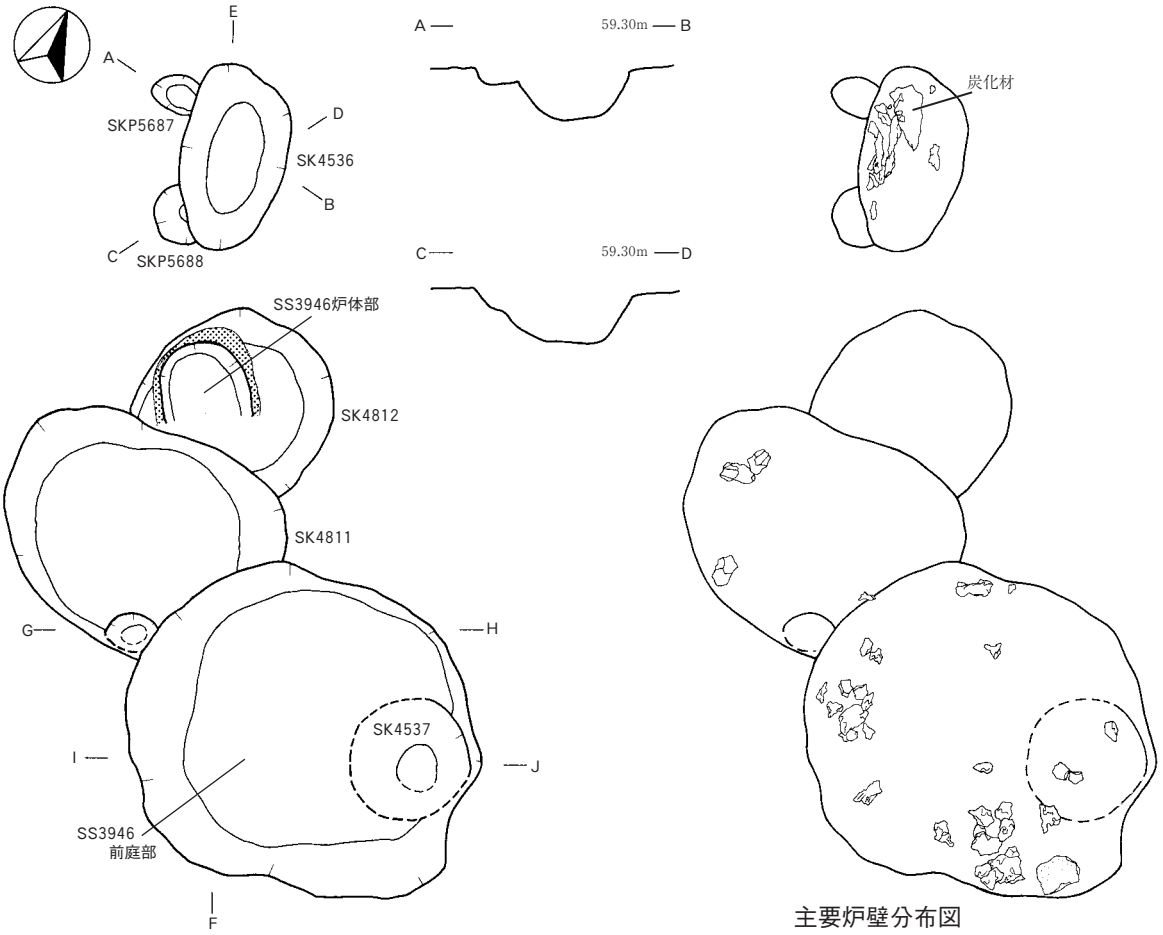


SS2000
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)1%未満、焼土粒(径1～5㎜)
2．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～5㎜)1%、焼土粒(径1～3㎜)
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径1～3㎜)
4．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性中、1層との境目に炭化物粒(径3㎜)2%
5．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、焼土粒(径3～20㎜)多量
6．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、焼土粒(径1～30㎜)
7．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性弱
8．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性中、焼土粒(径1㎜)
9．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)1%、焼土粒(径1～5㎜)10%
10．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物角柱状1%
11．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)1%未満、焼土粒(径5～30㎜)5%
12．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり弱、粘性強、焼土粒(径1㎜)
13．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、焼土粒(径3～10㎜)
14．にぶい赤褐色(5YR4／4)、しまり強、粘性弱、鈍く被熱した焼土粒(径5～30㎜)を基調とする
15．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性なし、焼土(径1～3㎜)
16．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり部分的に強、粘性なし、焼土粒(径1～3㎜)、炉壁を含む
17．黒褐色(10YR2／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～5㎜)1%
18．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり中、粘性なし、炭化物粒(径1㎜)10%

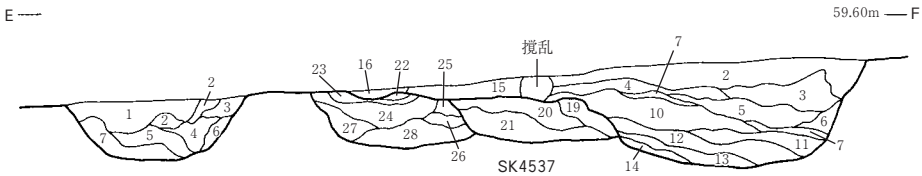
SS3980
1．黒色(10YR2／1)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径2～5㎜)5%、パウダー状の炭化物層

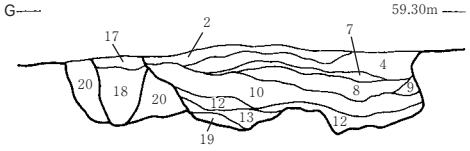
0　2m

第88図　検出遺構(製鉄炉①)



主要炉壁分布図





SK4536
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、焼土粒(径1㎜)1%
2．明赤褐色(5YR5／8)、しまり強、粘性なし、焼土層
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、焼土粒(径1～5㎜)1%
4．黒色(10YR1.7／1)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜未満)7%、焼土ブロック(径1～10㎜)3%
5．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、焼土粒(径1㎜)1%未満
6．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性強、焼土層
7．黒褐色(10YR2／2)、しまり中、粘性強、炭化材(径50㎜大)

SK4537
1．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、地山粒(径20㎜)2%

SS3946
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(1～5㎜)2%,焼土粒(径10㎜)1%
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化材角柱状(1×10㎜)1%
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性中
5．黒色(10YR2／1)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1㎜未満)3%
6．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強
7．黒色(10YR1.7／1)、しまりなし、粘性弱、炭層
8．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)1%、焼土粒(1㎜)2%
9．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強
10．黒色(10YR2／1)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(1㎜未満)3%
11．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(1㎜)1%、焼土粒(1㎜)3%
12．黒色(10YR1.7／1)、しまりなし、粘性弱、炭層
13．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径3㎜)1%、焼土粒(径1㎜)2%
14．黒色(10YR1.7／1)、しまりなし、粘性弱、炭層
15．黒色(7.5YR2／1)、しまり強、粘性弱、炭化材角柱状(径5㎜未満)2%、焼土粒(径1㎜)1%未満
16．赤褐色(5YR4／6)、しまり強、粘性弱、焼土層

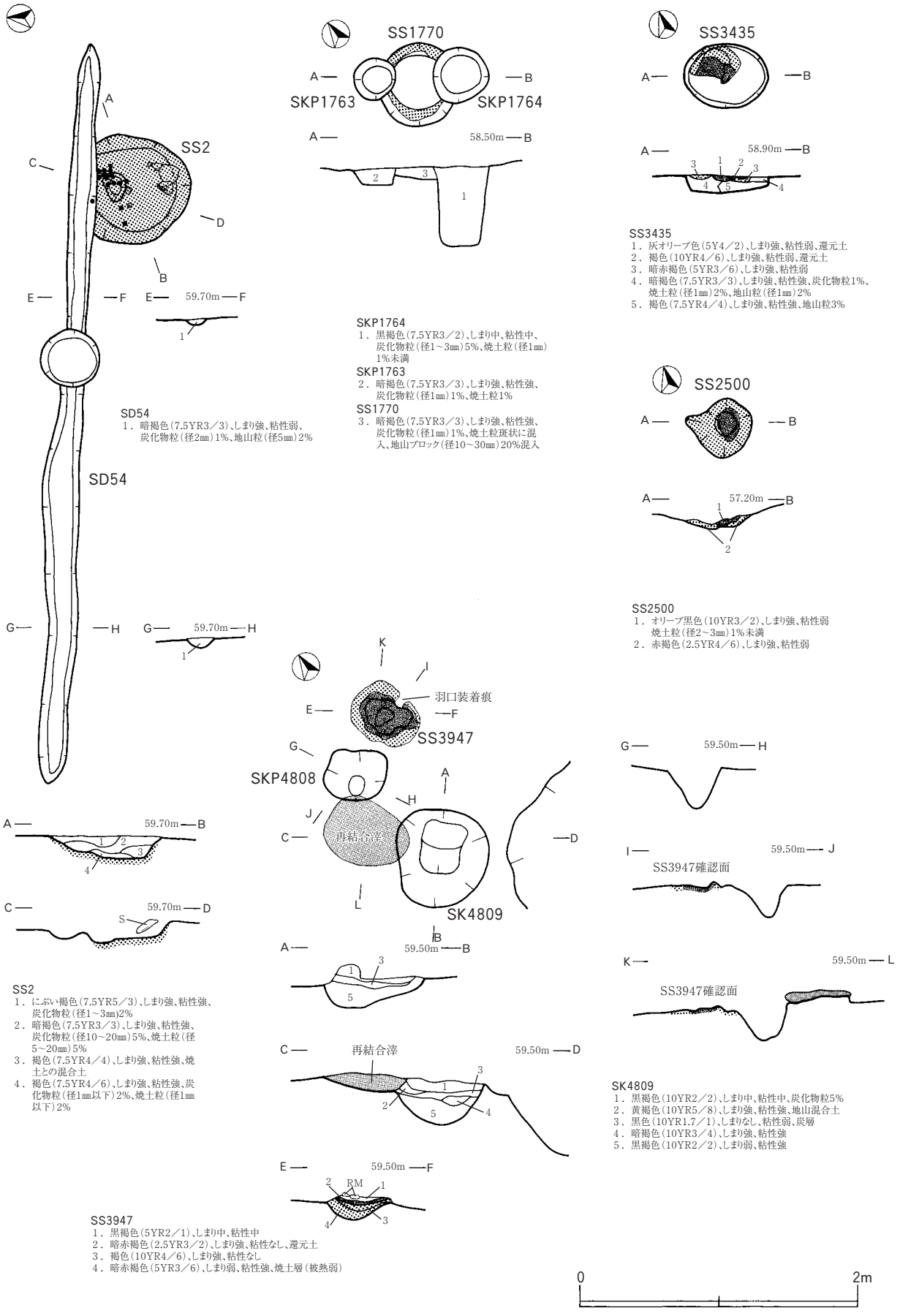
SKP5694
17．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性中、焼土粒(径1㎜)1%未満
18．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、地山粒子斑状

SK4811
19．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性強、地山粒(径1～10㎜)2%
20．黒褐色(10YR3／2)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%未満、地山粒(径1～5㎜)1%
21．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性強、炭化材(径5㎜)10%、焼土粒(径3㎜)1%、地山ブロック(径10㎜大)2%

SK4812
22．赤黒色(2.5YR2／1)、しまり強、粘性弱、還元層
23．暗赤褐色(5YR3／2)、しまり中、粘性中、焼土層
24．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1～5㎜)2%
25．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強
26．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強
27．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強
28．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性強、地山粒(径5～10㎜)1%

0　2m

第89図　検出遺構(製鉄炉②)



SD54
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径2㎜)1%、地山粒(径5㎜)2%

SS1770
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒斑状に混入、地山ブロック(径10～30㎜)20%混入

SKP1764
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)5%、焼土粒(径1㎜)1%未満

SKP1763
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒1%

SS3435
1．灰オリーブ色(5Y4／2)、しまり強、粘性弱、還元土
2．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性弱、還元土
3．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性弱
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒1%、焼土粒(径1㎜)2%、地山粒(径1㎜)2%
5．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、地山粒3%

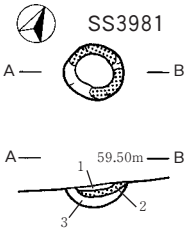
SS2500
1．オリーブ黒色(10YR3／2)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径2～3㎜)1%未満
2．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり強、粘性弱

SS2
1．にぶい褐色(7.5YR5／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)2%
2．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径10～20㎜)5%、焼土粒(径5～20㎜)5%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、焼土との混合土
4．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)2%、焼土粒(径1㎜以下)2%

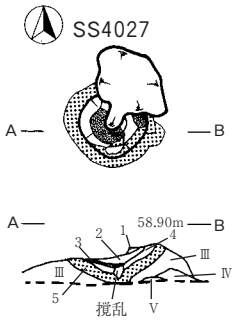
SS3947
1．黒褐色(5YR2／1)、しまり中、粘性中
2．暗赤褐色(2.5YR3／2)、しまり強、粘性なし、還元土
3．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性なし
4．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり弱、粘性強、焼土層(被熱弱)

SK4809
1．黒褐色(10YR2／2)、しまり中、粘性中、炭化物粒5%
2．黄褐色(10YR5／8)、しまり強、粘性強、地山混合土
3．黒色(10YR1.7／1)、しまりなし、粘性弱、炭層
4．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性強
5．黒褐色(10YR2／2)、しまり弱、粘性強

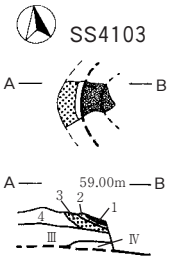
第90図　検出遺構(鍛冶炉①)



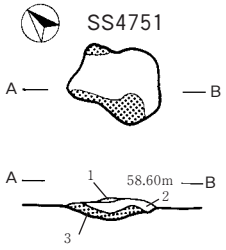
SS3981
1．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)7%
2．純赤褐色(5YR4／4)、しまり強、粘性弱
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1㎜)3%



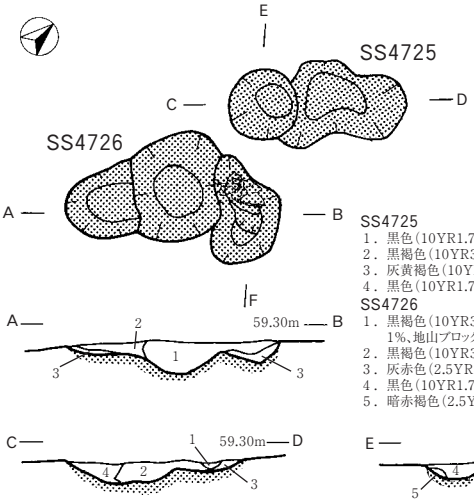
SS4027
1．黒褐色(10YR3／1)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径5㎜)3%
2．黒色(10YR2／1)、しまり強、粘性弱、焼土粒(径2㎜)1%
3．オリーブ灰色(2.5GY6／1)、しまり強、粘性弱、還元土
4．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性弱
5．にぶい赤褐色(2.5YR4／4)、しまり強、粘性弱



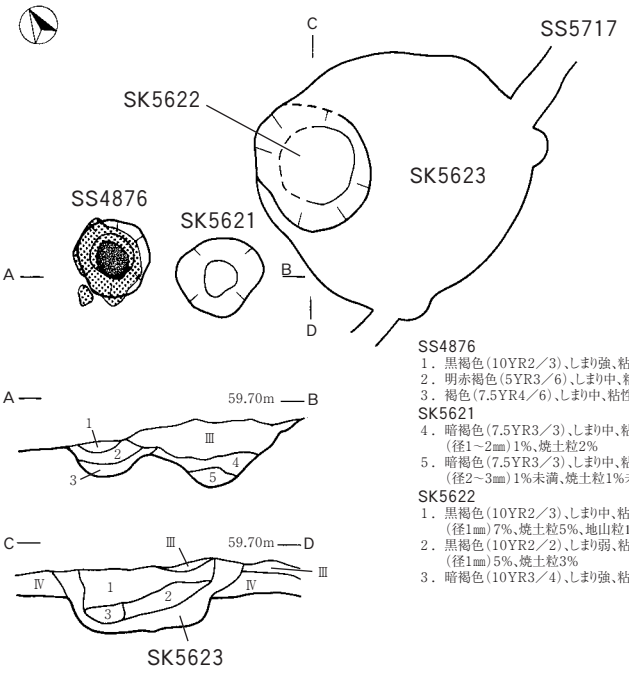
SS4103
1．暗オリーブ灰(2.5YG4／1)、しまり強、粘性弱、
　還元土
2．灰色(10Y6／1)、しまり強、粘性弱
3．暗赤褐色(2.5YR3／4)、しまり強、粘性弱
4．黒色(10YR2／1)、しまり強、粘性中、炭化物粒
　(径1㎜)1%未満、焼土粒(径1㎜以下)1%未満



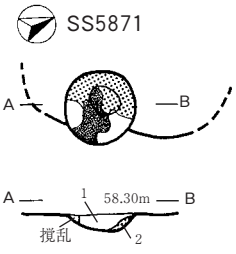
SS4751
1．黒色(7.5YR2／1)、しまり強、粘性弱、
　炭化物粒(径2～5㎜)1%、焼土粒(1～2㎜)1%
2．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり強、粘性中、
　炭化物粒(径2～5㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%
3．鈍赤褐色(5YR4／3)、しまり強、粘性中、
　炭化物粒(径1～2㎜)1%



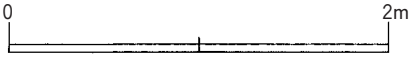
SS4725
1．黒色(10YR1.7／1)、しまり強、粘性弱
2．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性中、焼土粒(径2㎜)1%
3．灰黄褐色(10YR5／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)3%、地山粒50%
4．黒色(10YR1.7／1)、しまり中、粘性中
SS4726
1．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、焼土粒(径1㎜)
　1%、地山ブロック5%
2．黒褐色(10YR3／1)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～5㎜)20%、地山粒1%
3．灰赤色(2.5YR4／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～2㎜)2%、地山粒50%
4．黒色(10YR1.7／1)、しまり中、粘性弱、焼土粒(径2㎜)1%、地山粒2%
5．暗赤褐色(2.5YR3／2)、しまり強、粘性弱



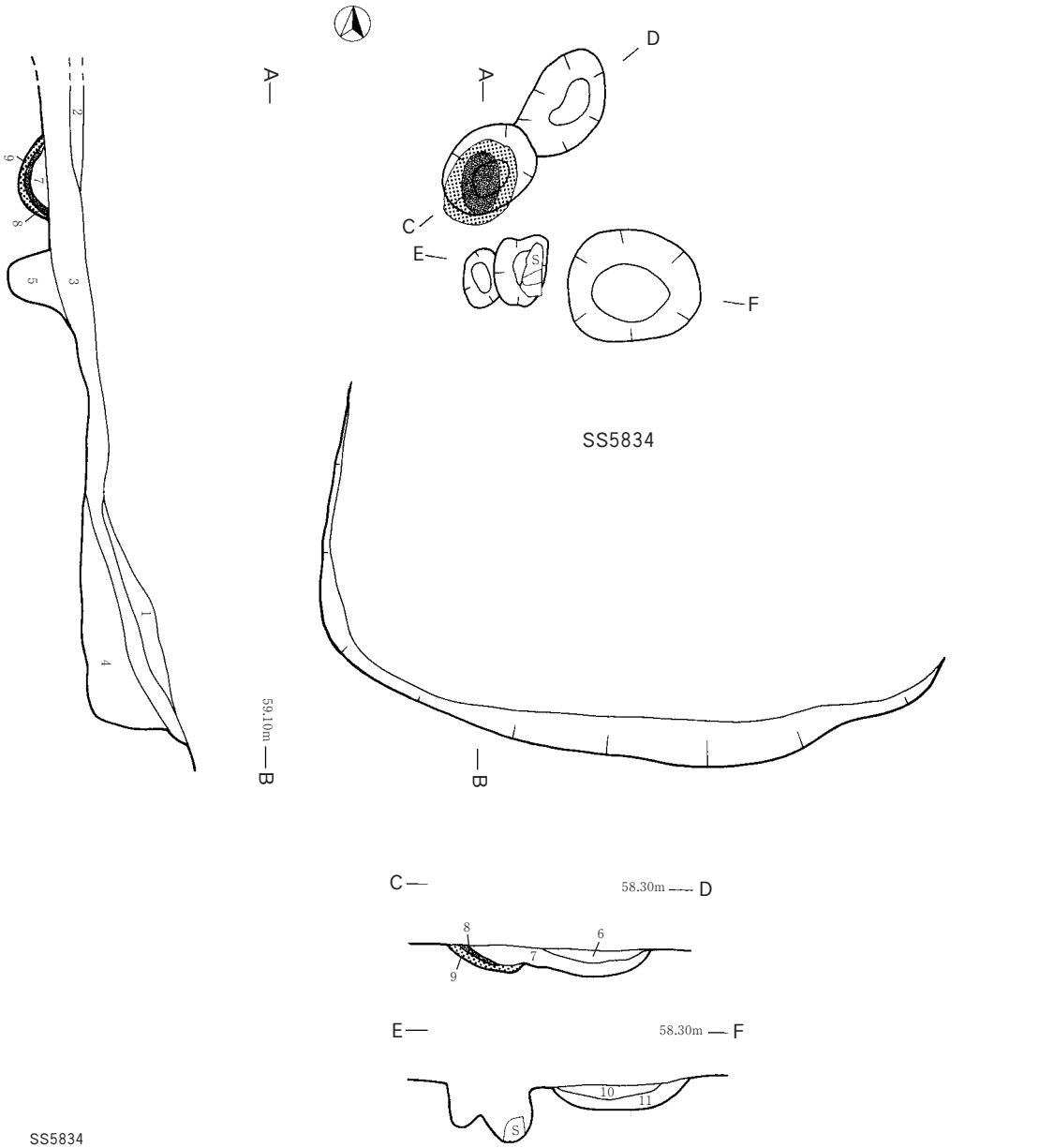
SS4876
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性強、焼土粒5%
2．明赤褐色(5YR3／6)、しまり中、粘性強
3．褐色(7.5YR4／6)、しまり中、粘性強
SK5621
4．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒
　(径1～2㎜)1%、焼土粒2%
5．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒
　(径2～3㎜)1%未満、焼土粒1%未満
SK5622
1．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒
　(径1㎜)7%、焼土粒5%、地山粒10%
2．黒褐色(10YR2／2)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒
　(径1㎜)5%、焼土粒3%
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中



SS5871
1．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒
　(径1～2㎜)1%、焼土粒(径1～2㎜)1%以下
2．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性中、炭化物粒
　(径1㎜以下)1%未満



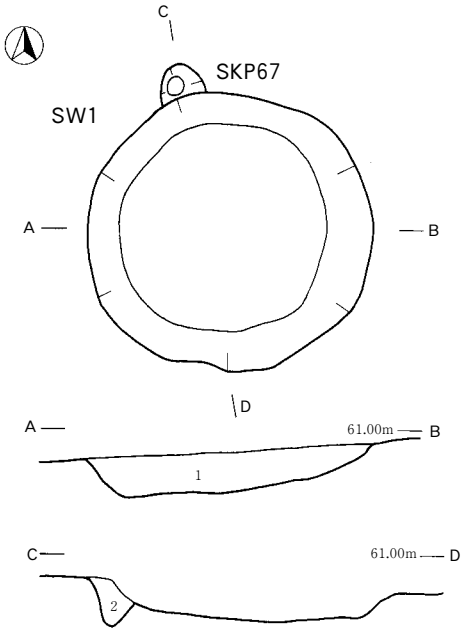
第91図　検出遺構(鍛冶炉②)



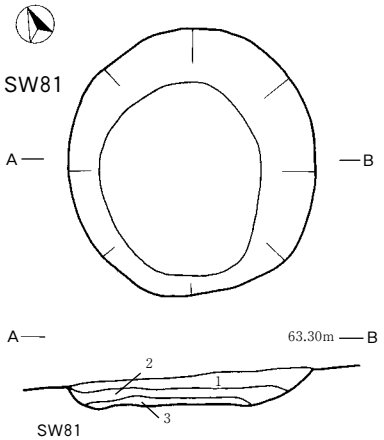
SS5834
1．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径2㎜)2%、
　焼土粒(径2㎜)2%、地山粒(径2㎜)1%
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性弱
3．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径3㎜)3%、
　地山粒(径3㎜)7%
4．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%、
　焼土粒(径1㎜)1%未満
5．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5～30㎜)50%、
　焼土粒(径1㎜)1%未満
6．黒褐色(10YR2／3)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径3㎜)7%、
　焼土粒(径2㎜)3%、地山粒(径3㎜)5%
7．赤黒色(2.5YR2／1)、しまり弱、粘性中、炭化物粒(径5～30㎜)50%、
　焼土粒(径1～3㎜)1%
8．暗褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性弱、還元土
9．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性弱
10．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～5㎜)5%、
　焼土粒(径2～3㎜)3%
11．褐色(10YR4／4)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径1～3㎜)3%、
　焼土粒(径1～3㎜)3%

0　2m

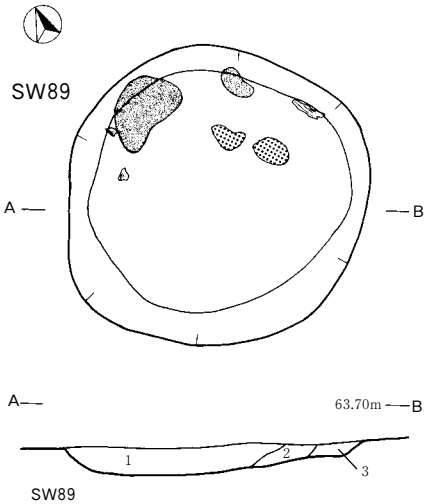
第92図　検出遺構(鍛冶炉③)



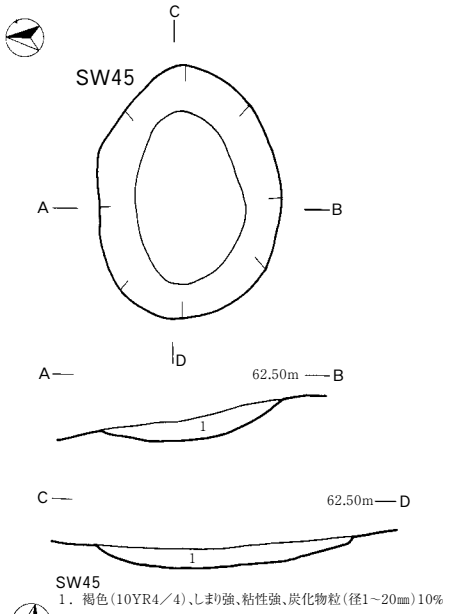
SW1
1．黒色(10YR2／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～30㎜)30%、
　焼土粒(径1～3㎜)5%
SKP67
2．暗褐色(10YR3／4)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径5㎜)1%



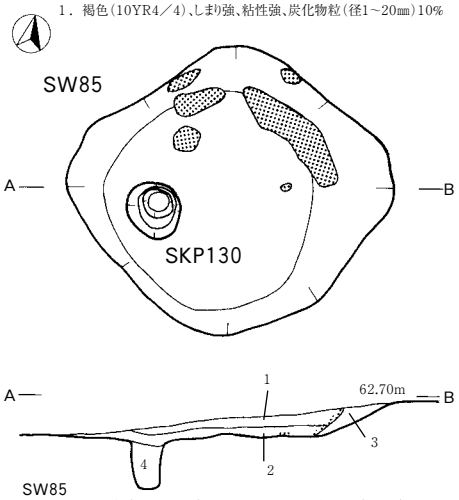
SW81
1．極褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～10㎜)3%
2．黒色(7.5YR2／1)、しまり強、粘性強、中央部に焼土面あり
3．2層と地山の混合土、しまり強、粘性強



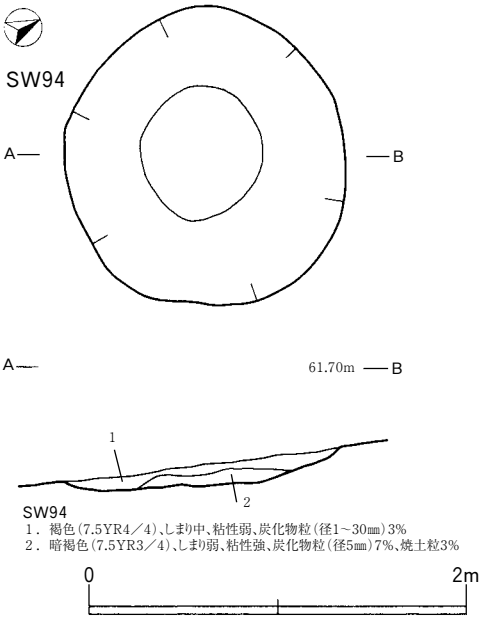
SW89
1．黒色(10YR1.7／1)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径3㎜)3%
2．黒色(10YR2／1)、しまり中、粘性強、炭化物(径5㎜)2%、焼土粒5%
3．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性強、炭化物(径5㎜)5%、焼土粒5%



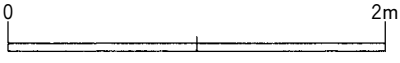
SW45
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～20㎜)10%



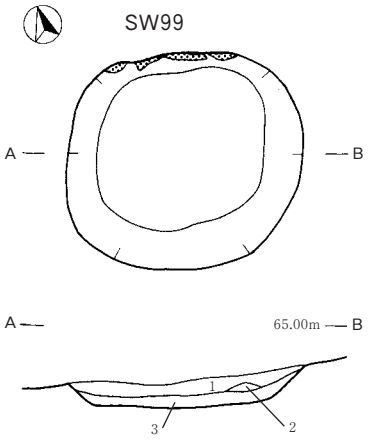
SW85
1．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5㎜)1%
2．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性中、炭化物粒(径3㎜)1%
3．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性中
SKP130
4．黒褐色(10YR2／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)1%



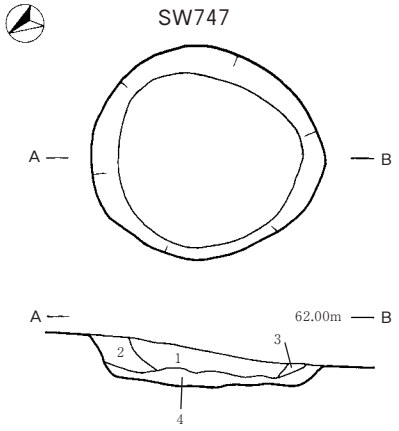
SW94
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性弱、炭化物粒(径1～30㎜)3%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径5㎜)7%、焼土粒3%



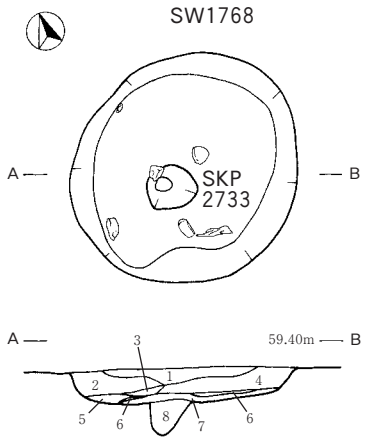
第93図　検出遺構(炭窯①)



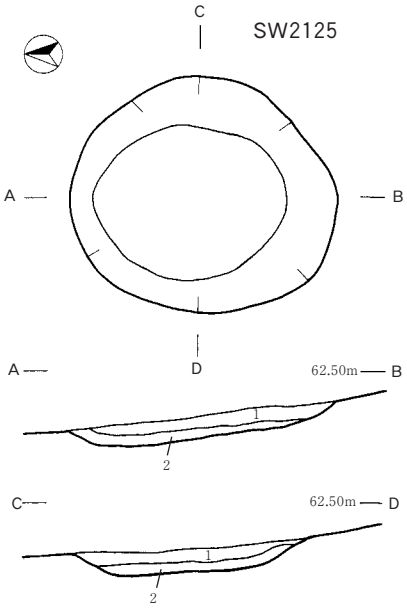
SW99
1．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)20%未満
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径3㎜)30%、焼土粒(径5㎜)3%
3．暗褐色(10YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)30%、焼土粒(径3㎜)10%



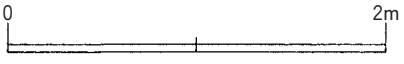
SW747
1．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%、焼土粒(径1㎜以下)1%
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%未満
3．1層と4層の混合土、しまり強、粘性強、炭化物粒(径10㎜)20%
4．黒褐色(10YR2／3)、しまり強、粘性強、焼土粒(1㎜以下)1%、炭化物底面に堆積



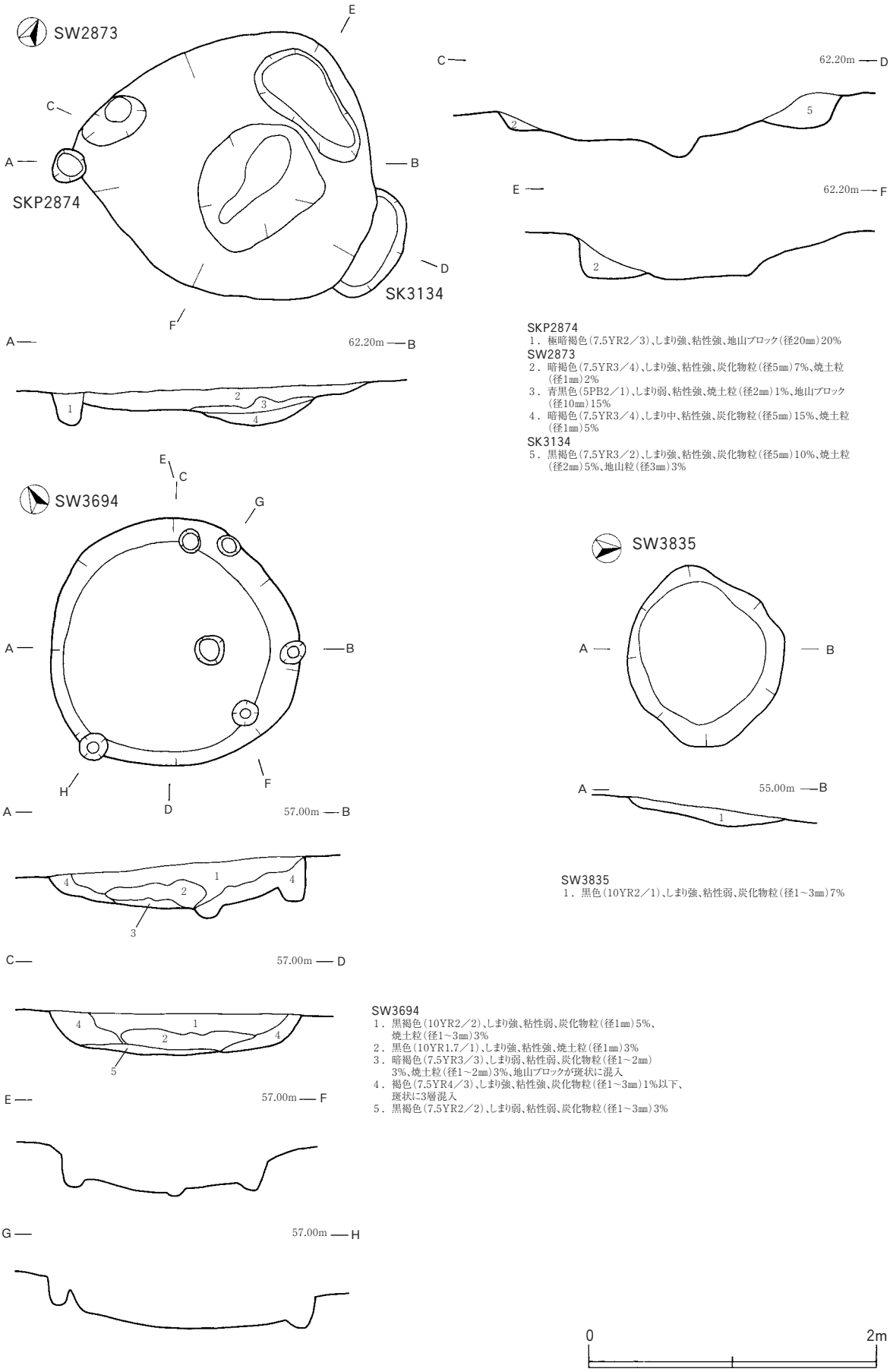
SW1768
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、地山粒(径1～5㎜)5%
2．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満
3．にぶい赤褐色(5YR4／4)と褐色(7.5YR4／4)の混合土、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1～5㎜)3%
4．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%未満、焼土粒(径1㎜)1%未満、地山粒(径5㎜)1%未満
5．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)1%
6．黒色(10YR1.7／2)、しまり弱、粘性中
7．黒色(10YR2／1)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1～5㎜)2%
SKP2733
8．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり弱、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)3%



SW2125
1．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)7%、焼土粒(径1～5㎜)3%、地山粒(径10～30㎜)3%
2．1層と地山の混合土、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～2㎜)1%



第94図　検出遺構(炭窯②)



SKP2874
1．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性強、地山ブロック(径20㎜)20%

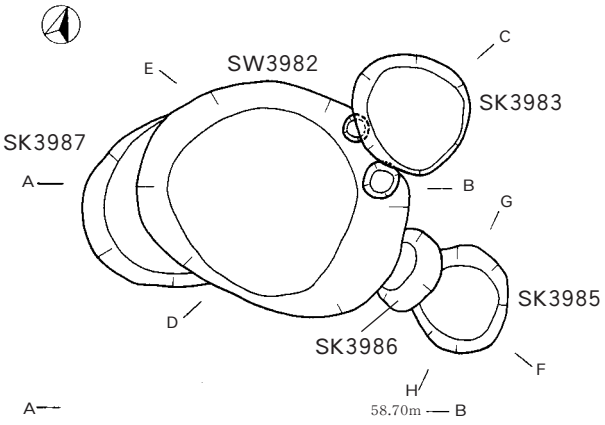
SW2873
2．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5㎜)7%、焼土粒(径1㎜)2%
3．青黒色(5PB2／1)、しまり弱、粘性強、焼土粒(径2㎜)1%、地山ブロック(径10㎜)15%
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5㎜)15%、焼土粒(径1㎜)5%

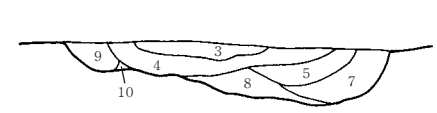
SK3134
5．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径5㎜)10%、焼土粒(径2㎜)5%、地山粒(径3㎜)3%

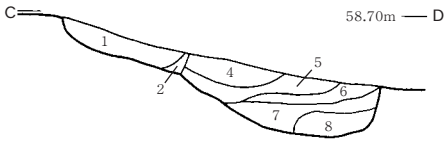
SW3835
1．黒色(10YR2／1)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)7%

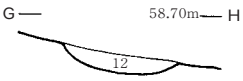
SW3694
1．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径1㎜)5%、焼土粒(径1～3㎜)3%
2．黒色(10YR1.7／1)、しまり強、粘性強、焼土粒(径1㎜)3%
3．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1～2㎜)3%、焼土粒(径1～2㎜)3%、地山ブロックが斑状に混入
4．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)1%以下、斑状に3層混入
5．黒褐色(7.5YR2／2)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径1～3㎜)3%

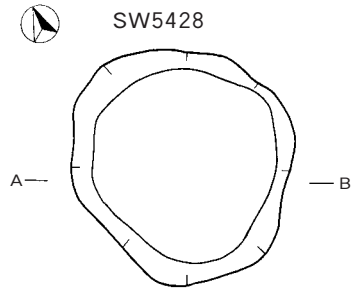
第95図　検出遺構(炭窯③)

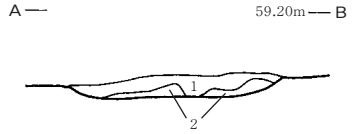












SW5428
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径3～10㎜)3%、焼土粒(径5～15㎜)5%、地山ブロック(径10～50㎜)20%
2．黒色(7.5YR2／1)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径5～10㎜)3%、焼土粒(径15㎜)1%

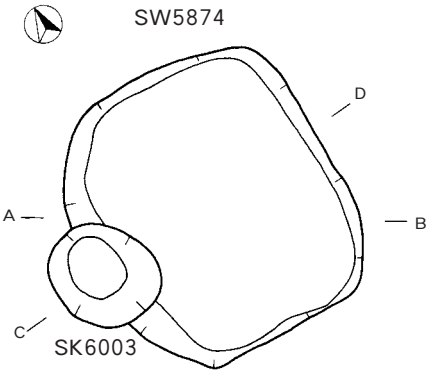
SK3983
1．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2～5㎜)1%　末満、焼土粒(径1～2㎜)2%
2．黒褐色(10YR2／3)、しまり弱、粘性弱、炭化物粒(径2～3㎜)3%、焼土粒(径1～3㎜)2%

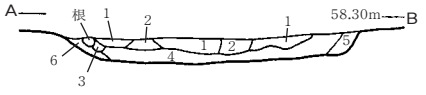
SW3982
3．黒褐色(7.5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%
4．暗褐色(7.5YR3／4)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜以下)1%
5．暗赤褐色(5YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)3%
6．にぶい褐色(7.5YR5／4)、しまり強、粘性弱
7．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～3㎜)5%、焼土粒(径1～3㎜)5%
8．褐色(7.5YR4／3)、しまり強、粘性弱

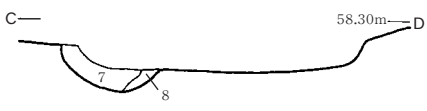
SK3983
9．にぶい褐色(7.5YR5／4)、しまり強、粘性弱
10．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1㎜)2%

SK3986
11．暗褐色(7.5YR3／3)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径1～10㎜)7%

SK3985
12．極暗褐色(7.5YR2／3)、しまり強、粘性弱、炭化物粒(径3～5㎜)7%、焼土粒(径3㎜)3%

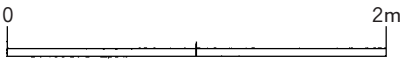




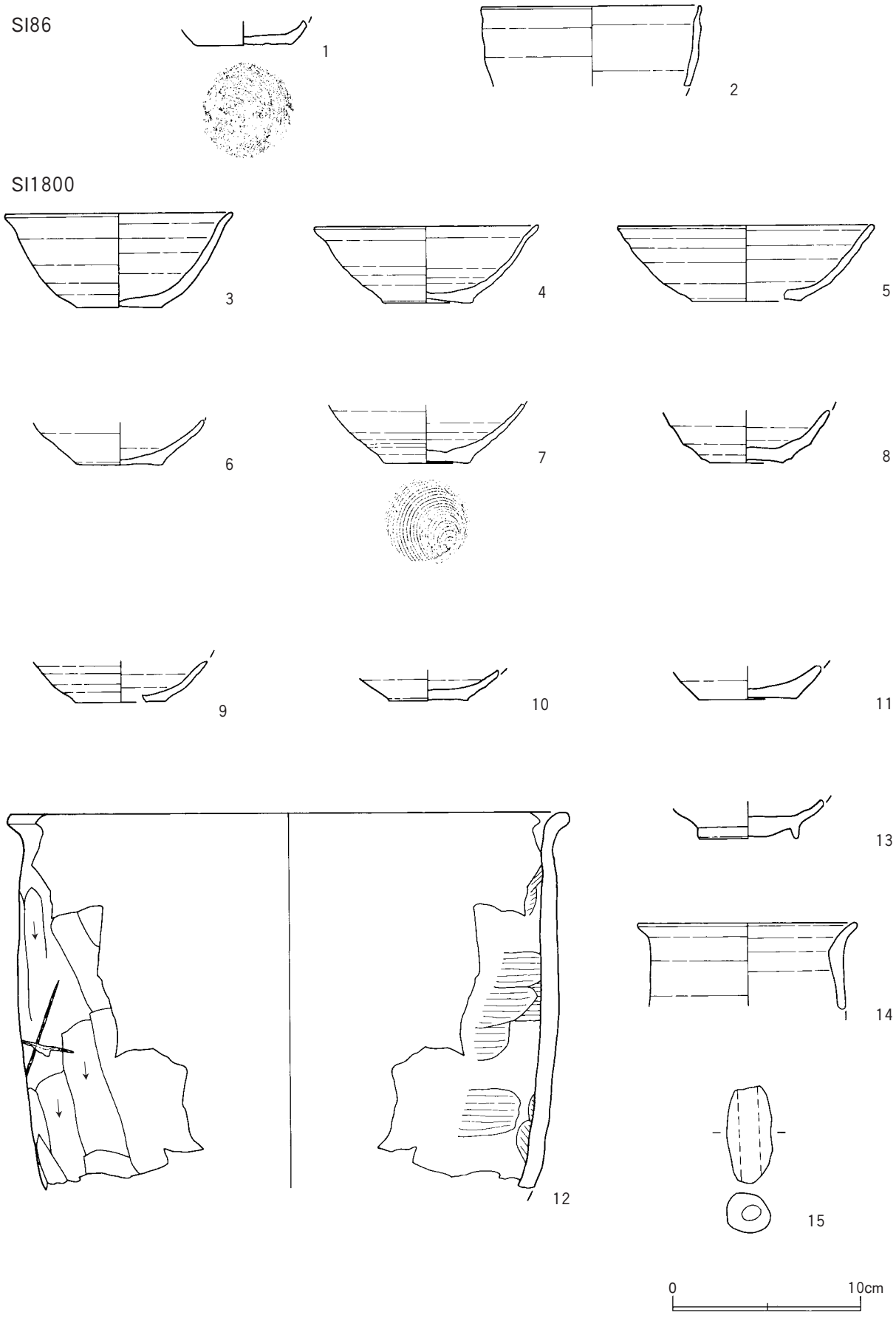


SW5874
1．暗褐色(10YR3／3)、しまり中、粘性強、炭化物粒(径2㎜)2%、地山粒(径1㎜以下)1%
2．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性強、炭化物粒(径2㎜)1%
3．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強、地山粒(径5～10㎜)50%
4．黒色(N1.5／0)、しまり強、粘性強、炭化物層、地山粒(径1㎜)1%
5．褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性強、焼土粒3㎜1%
6．褐色(7.5YR4／4)、しまり強、粘性強

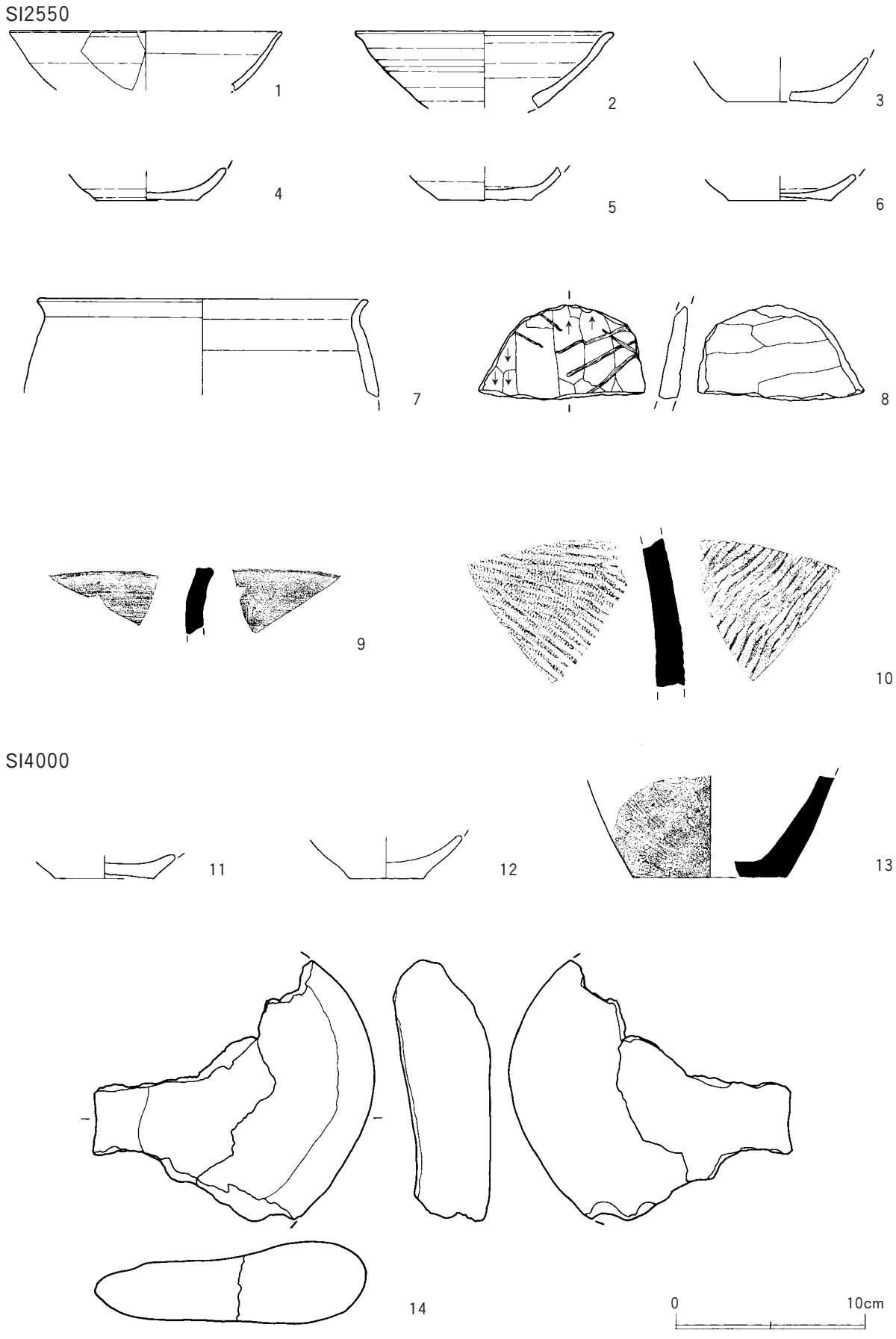
SK6003
7．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性強、焼土粒(径2㎜)1%、砂粒2%
8．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性強、焼土と地山の混合土



第96図　検出遺構(炭窯④)

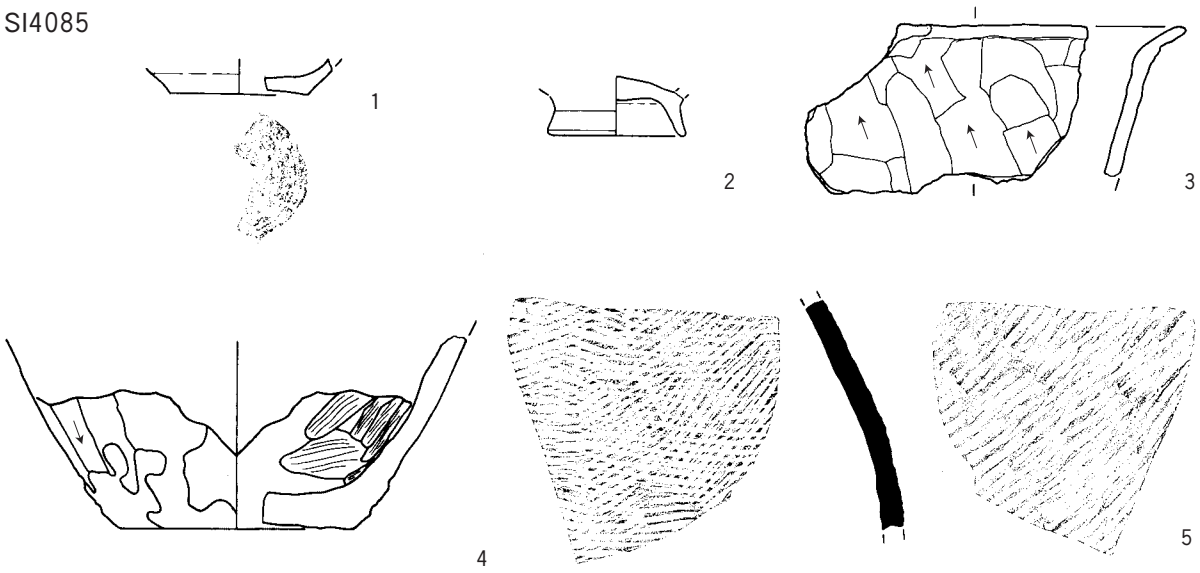


第97図　出土遺物（遺構内①）

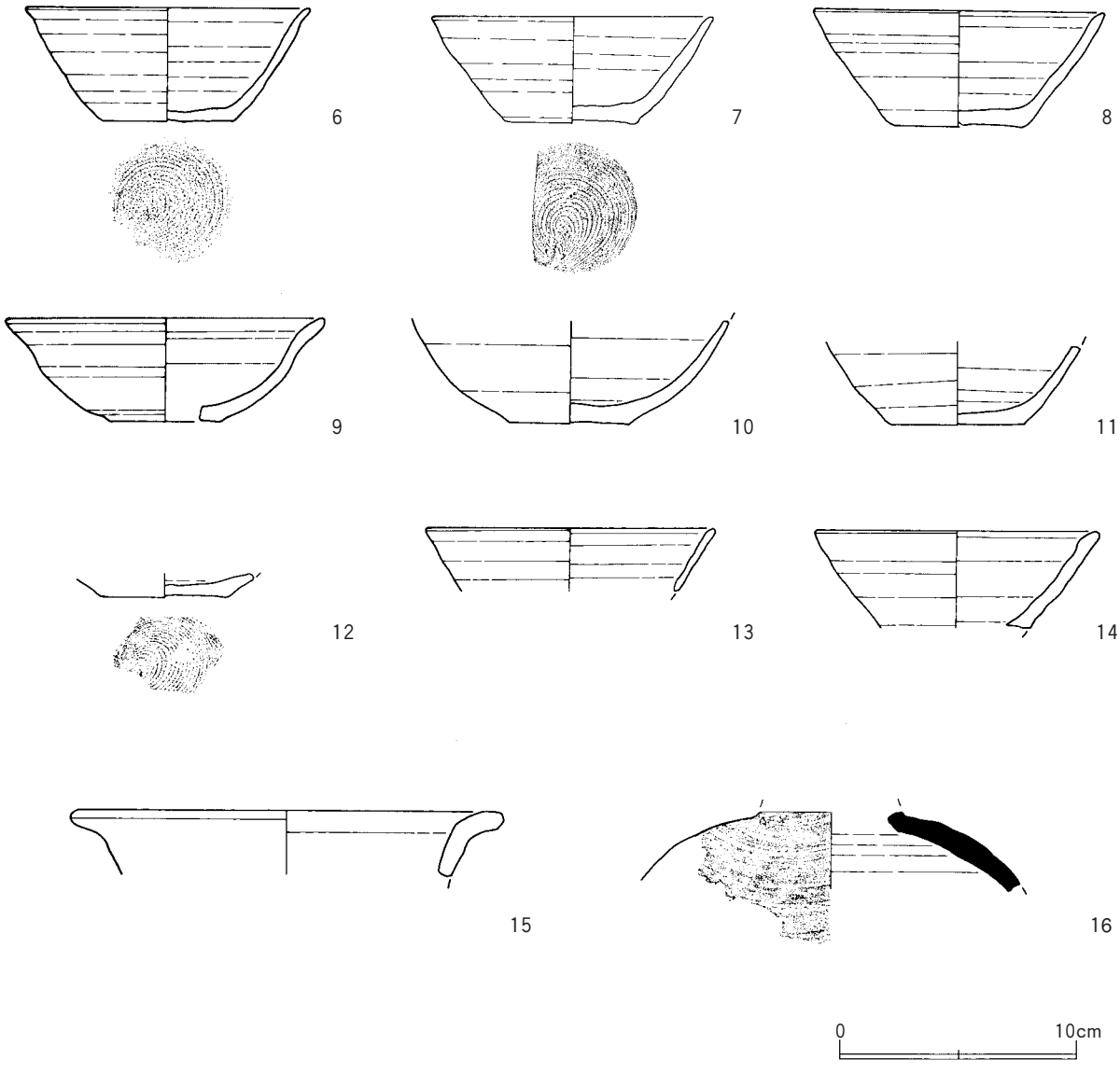


第98図　出土遺物（遺構内②）

SI4085

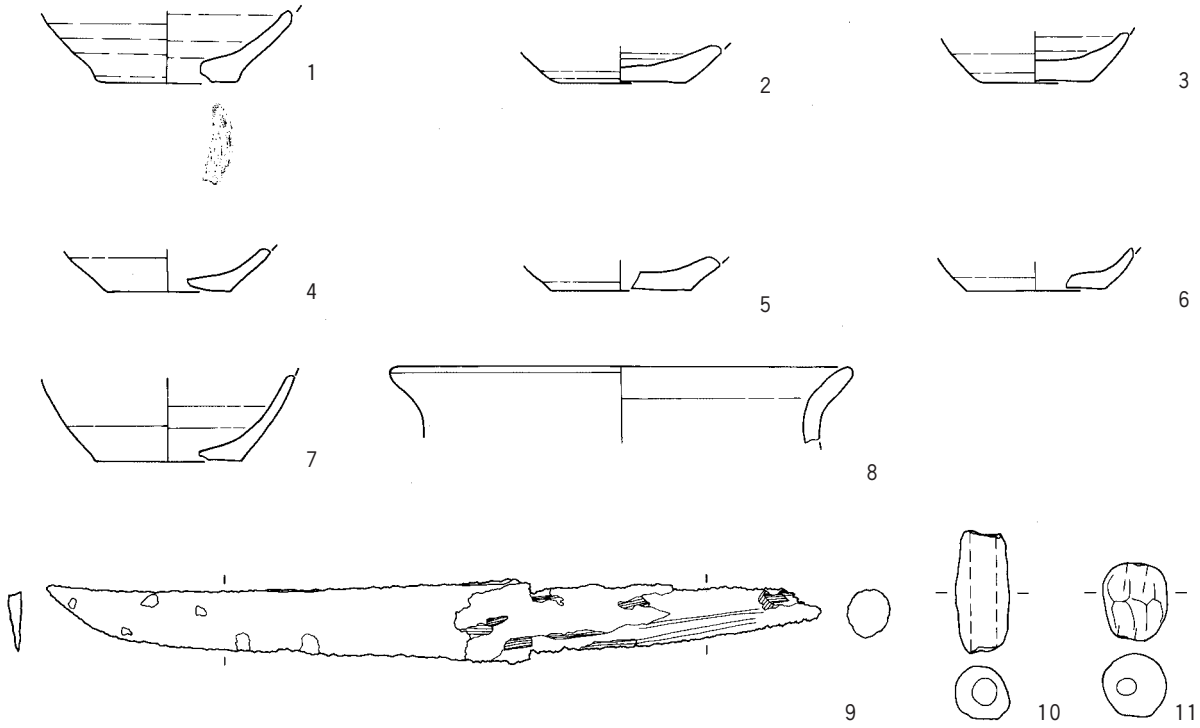


SI4188

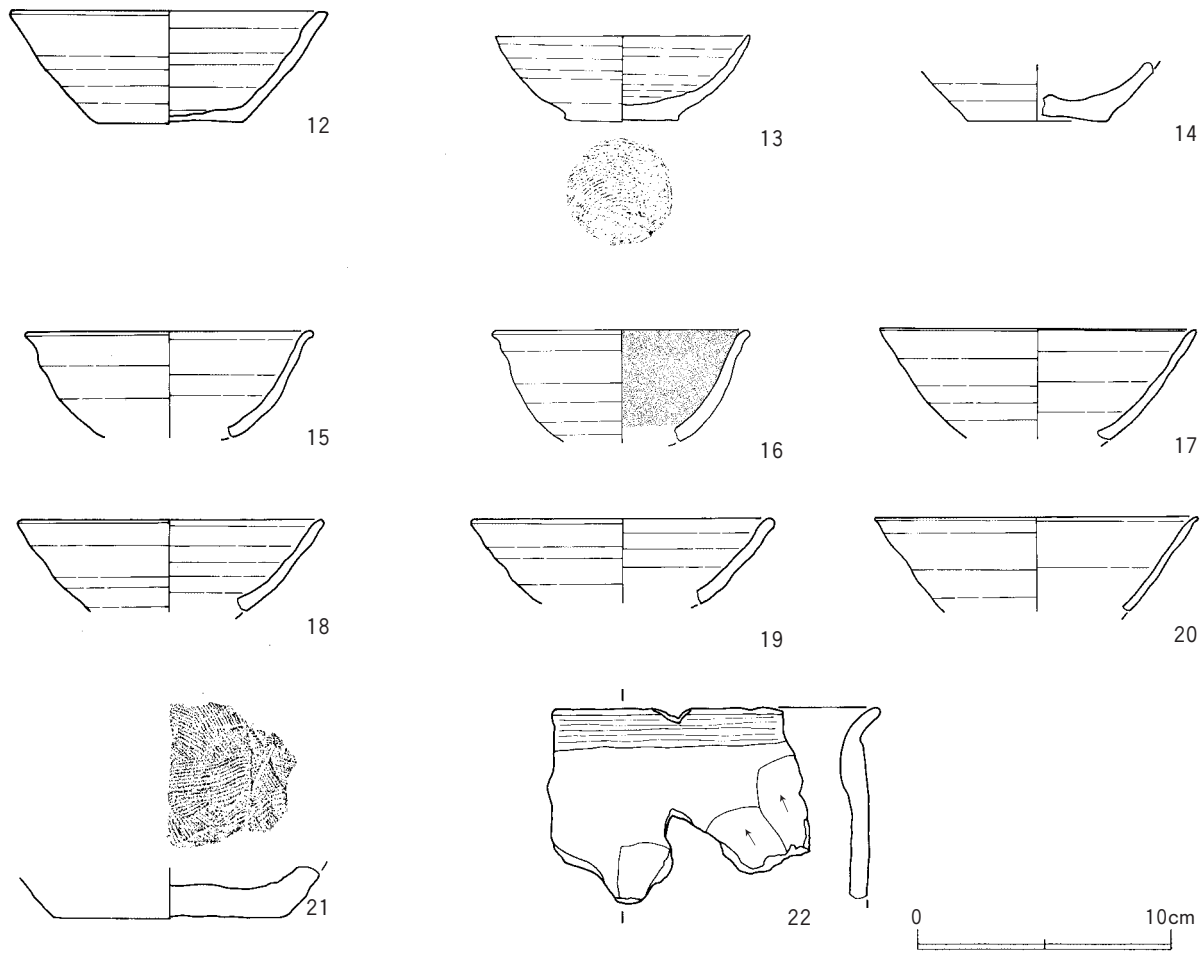


第99図　出土遺物（遺構内③）

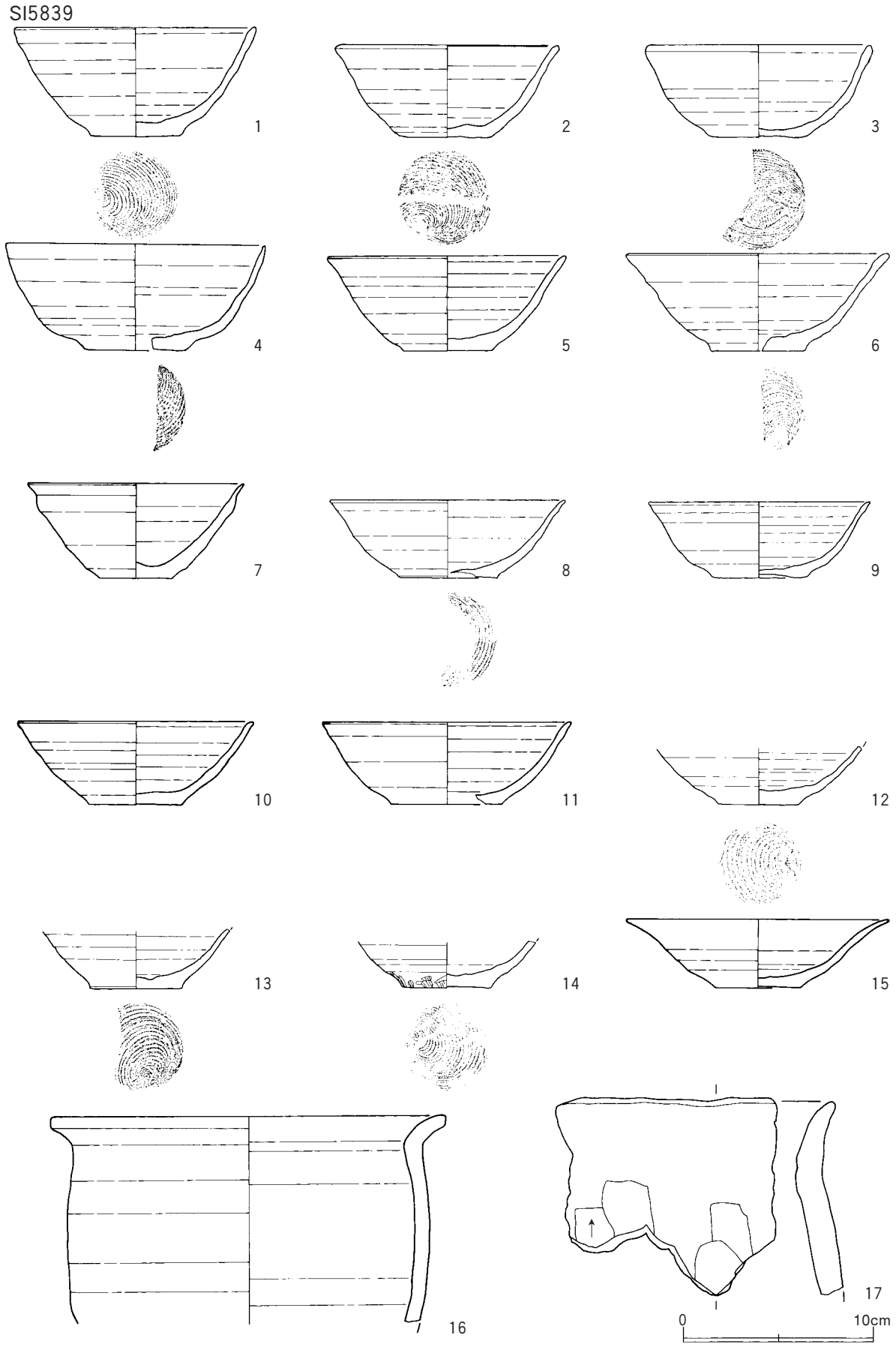
SI4300



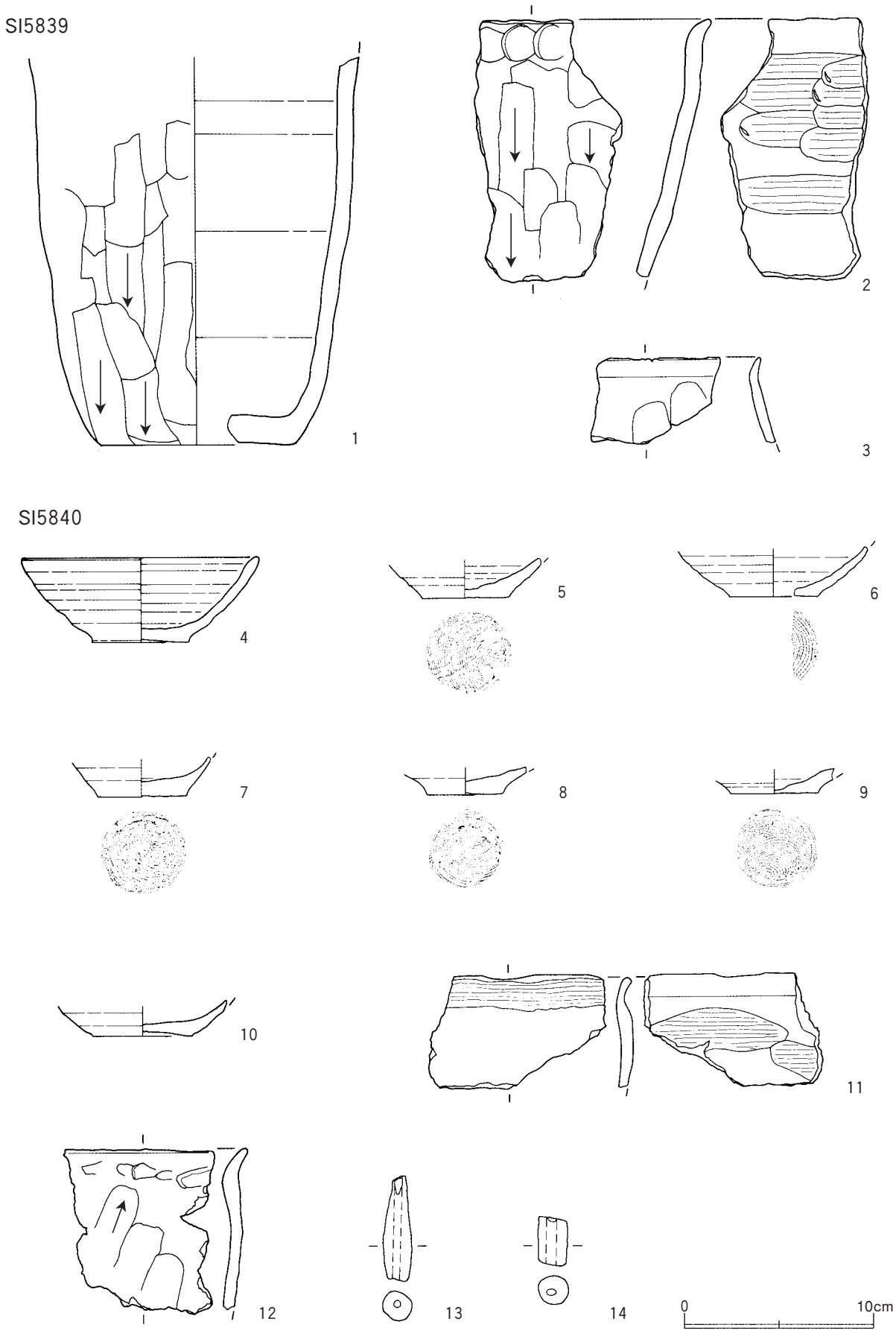
SI4444



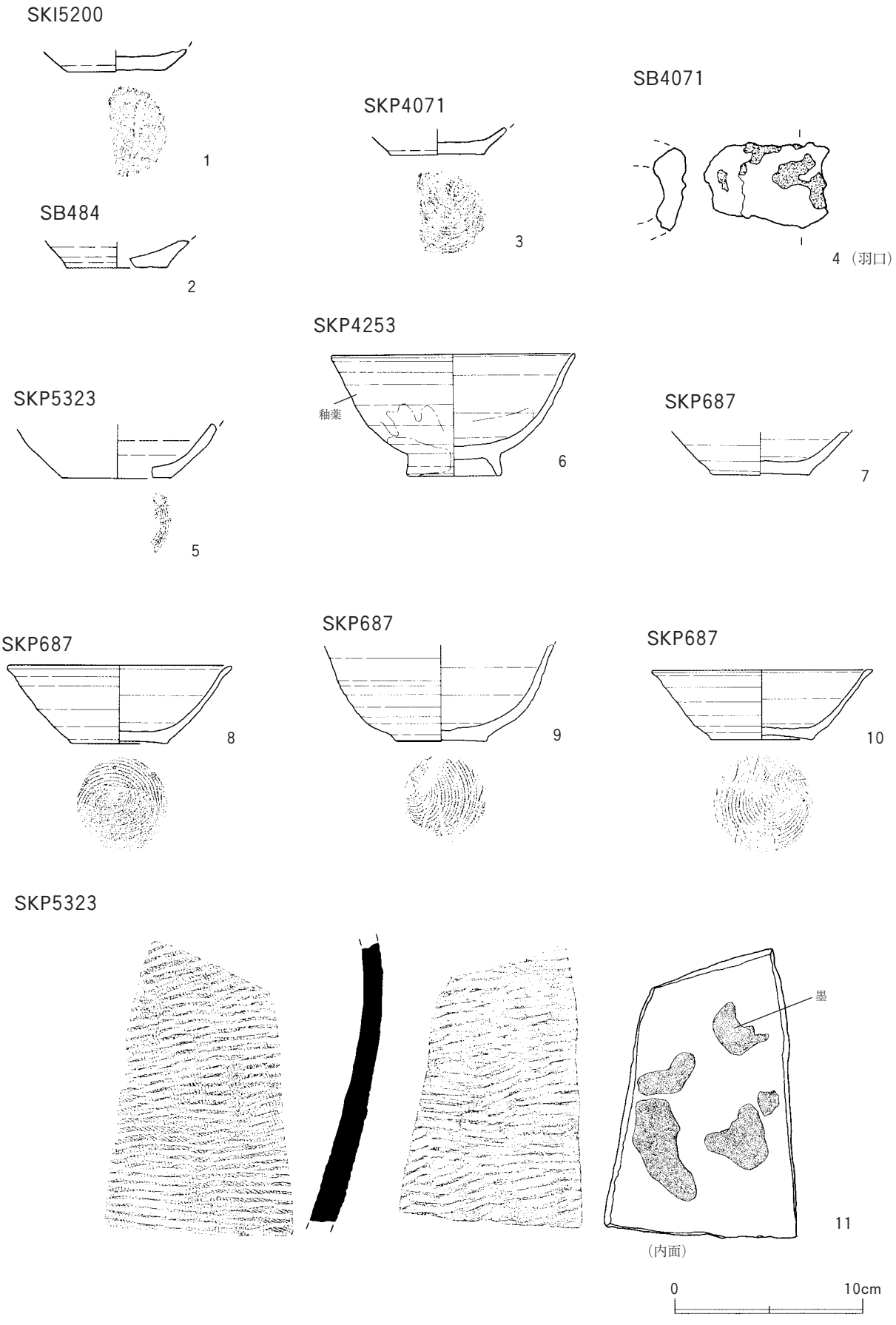
第100図　出土遺物（遺構内④）



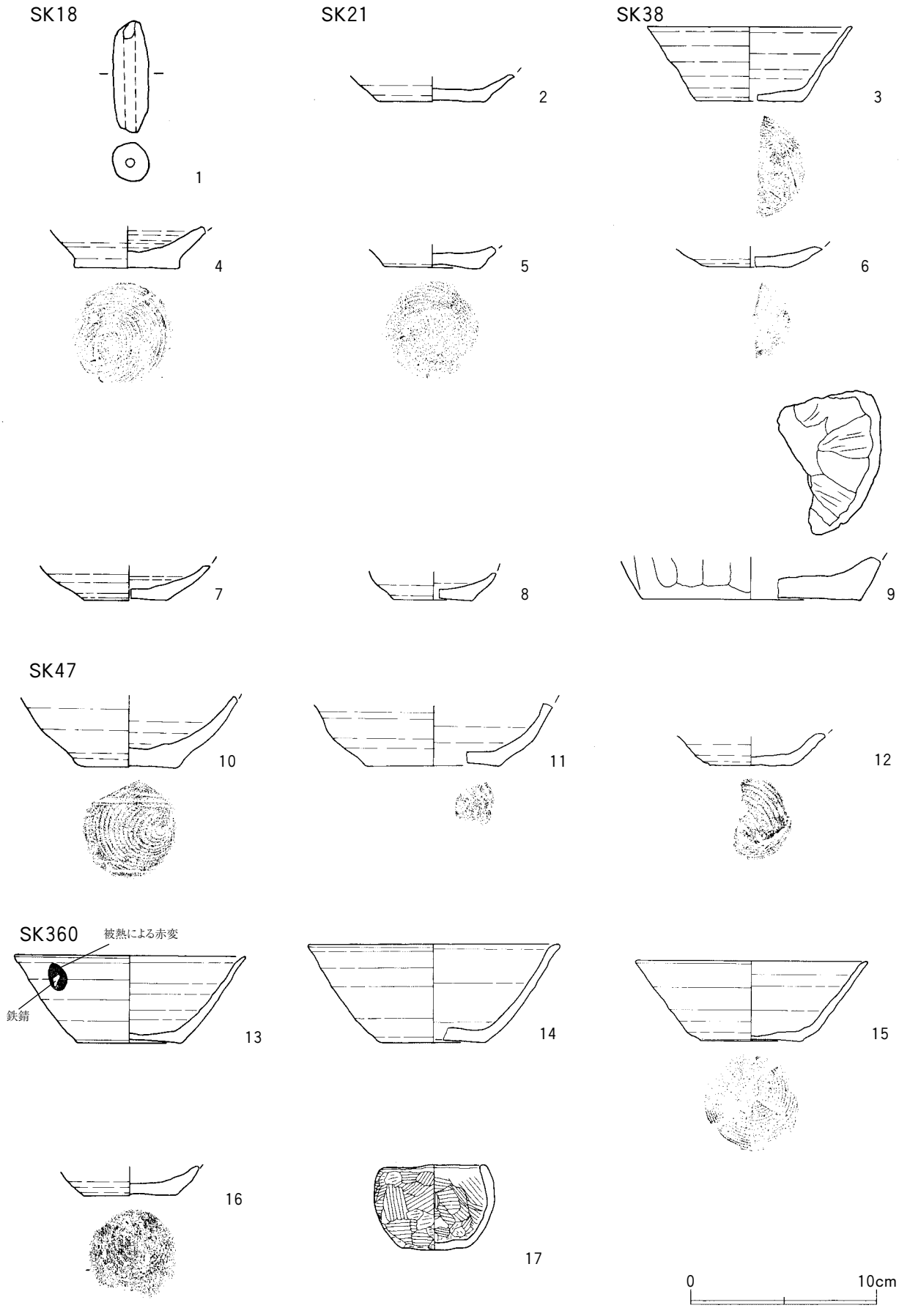
第101図　出土遺物（遺構内⑤）



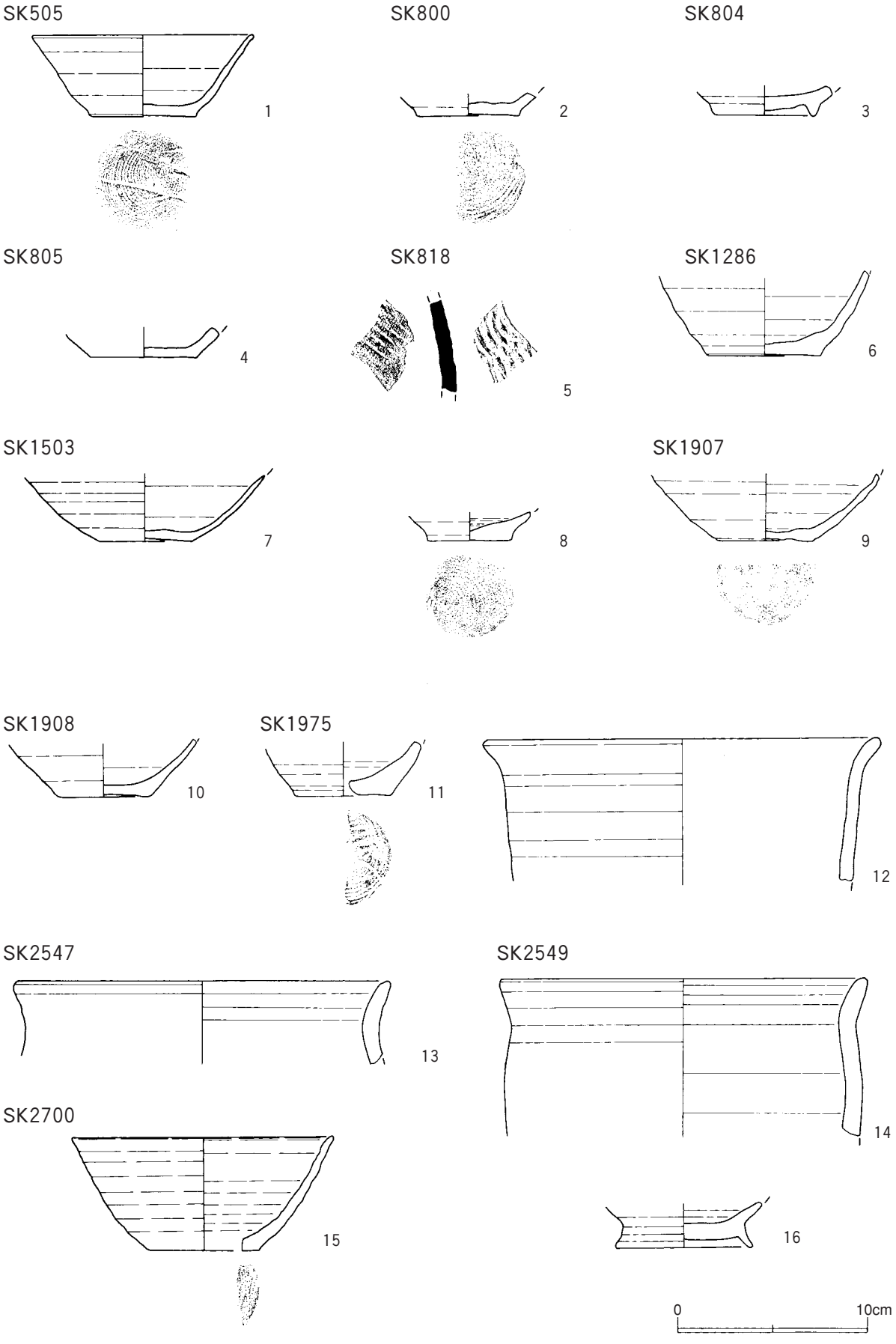
第102図　出土遺物（遺構内⑥）



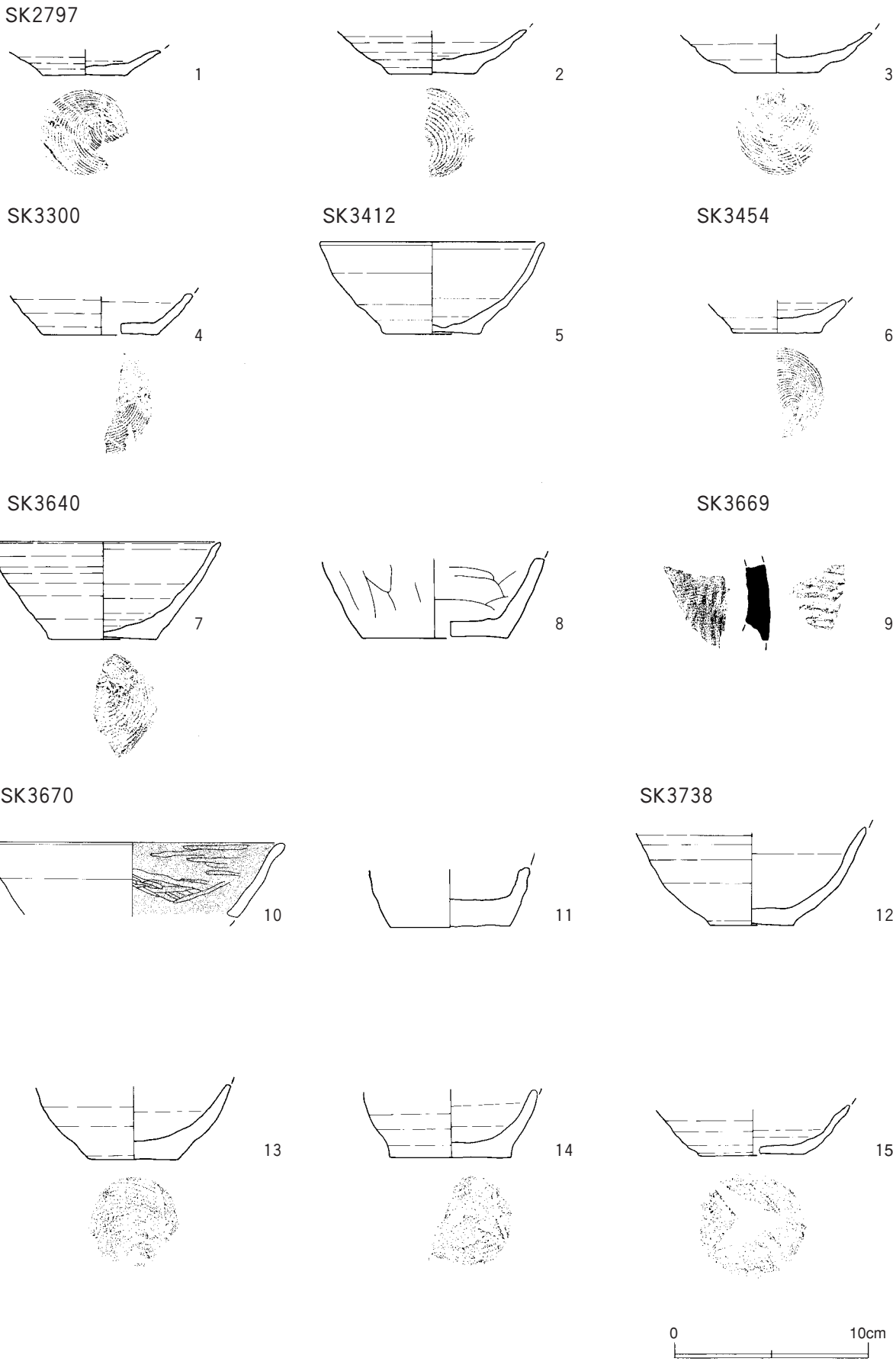
第103図　出土遺物（遺構内⑦）



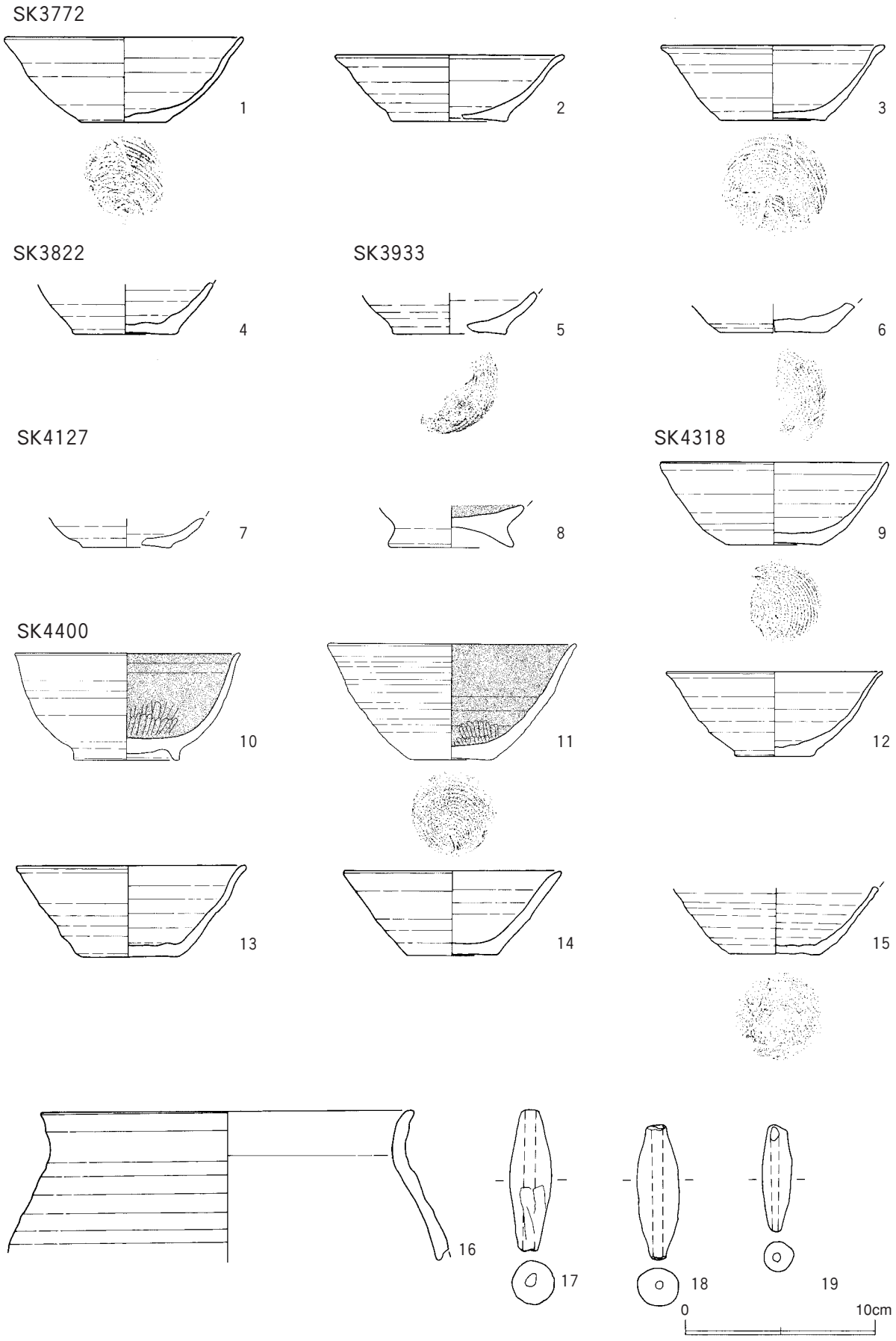
第104図　出土遺物（遺構内⑧）



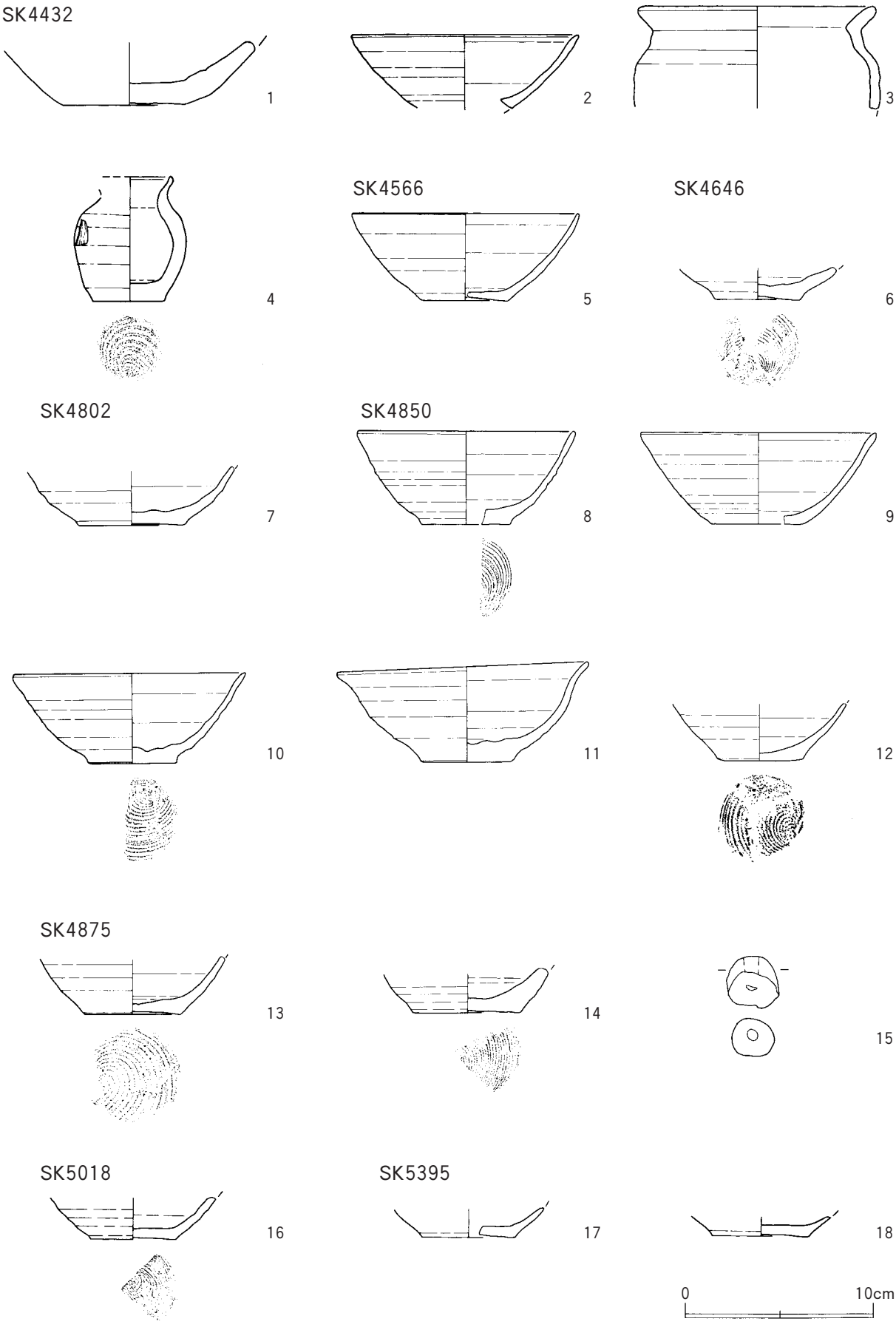
第105図　出土遺物（遺構内⑨）



第106図　出土遺物（遺構内⑩）

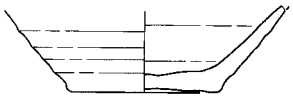


第107図　出土遺物（遺構内⑪）



第108図　出土遺物（遺構内⑫）

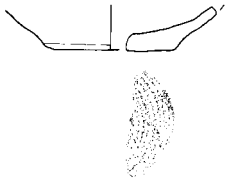
SK5705



1

2

SK5865

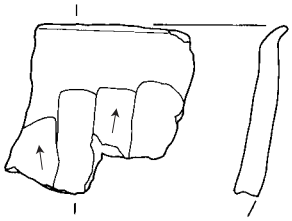


3

SK5866

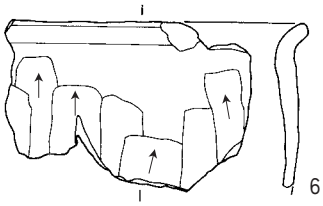
4

SK5870

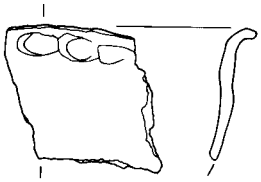


5

SK5873

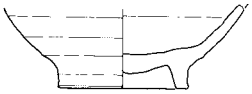


6



7

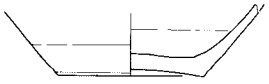
SK6247



8

SN2763

9

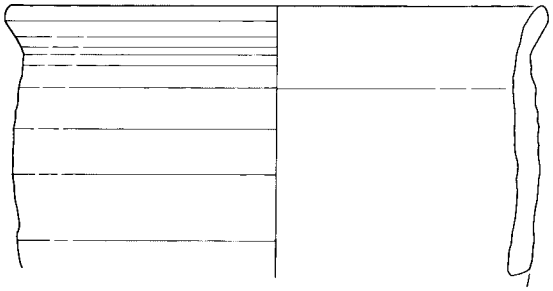


10

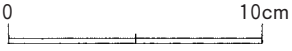
SN3676

11

SN3371

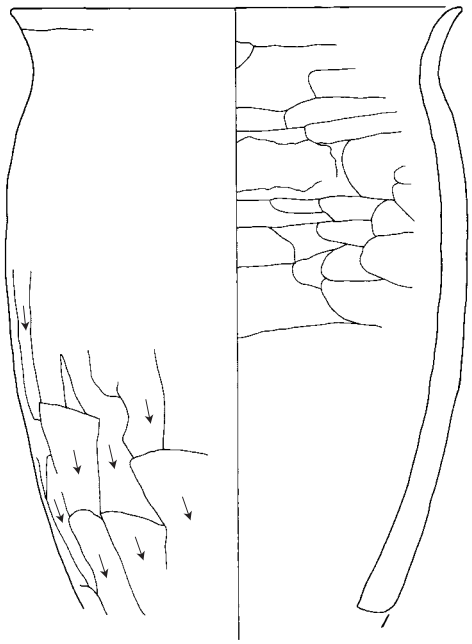


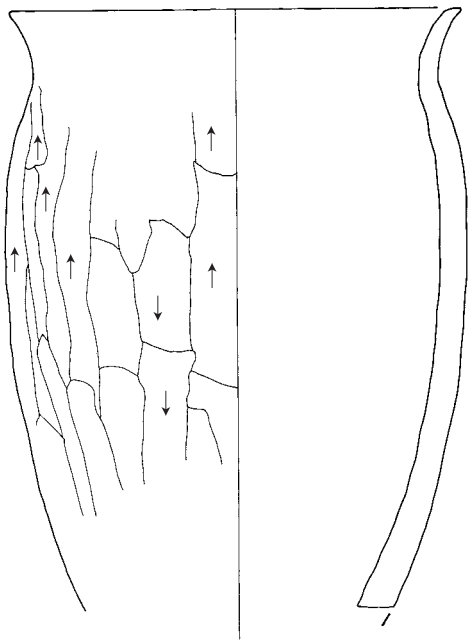
12



第109図　出土遺物（遺構内⑬）

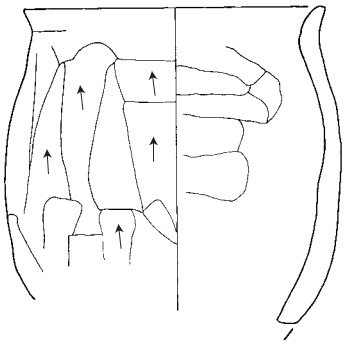
SN3690



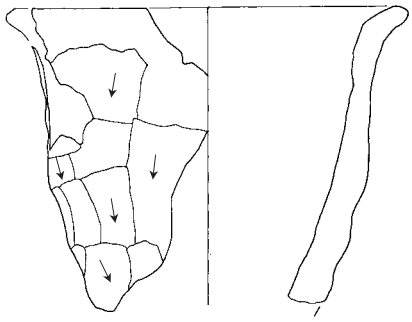


1

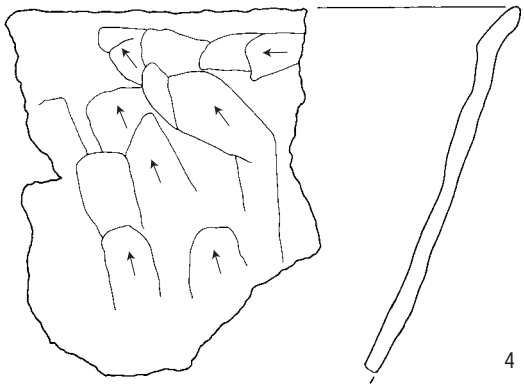
（左図と同一個体の反対外面）



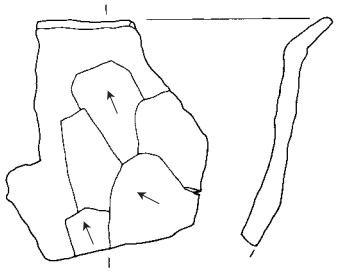
2



3



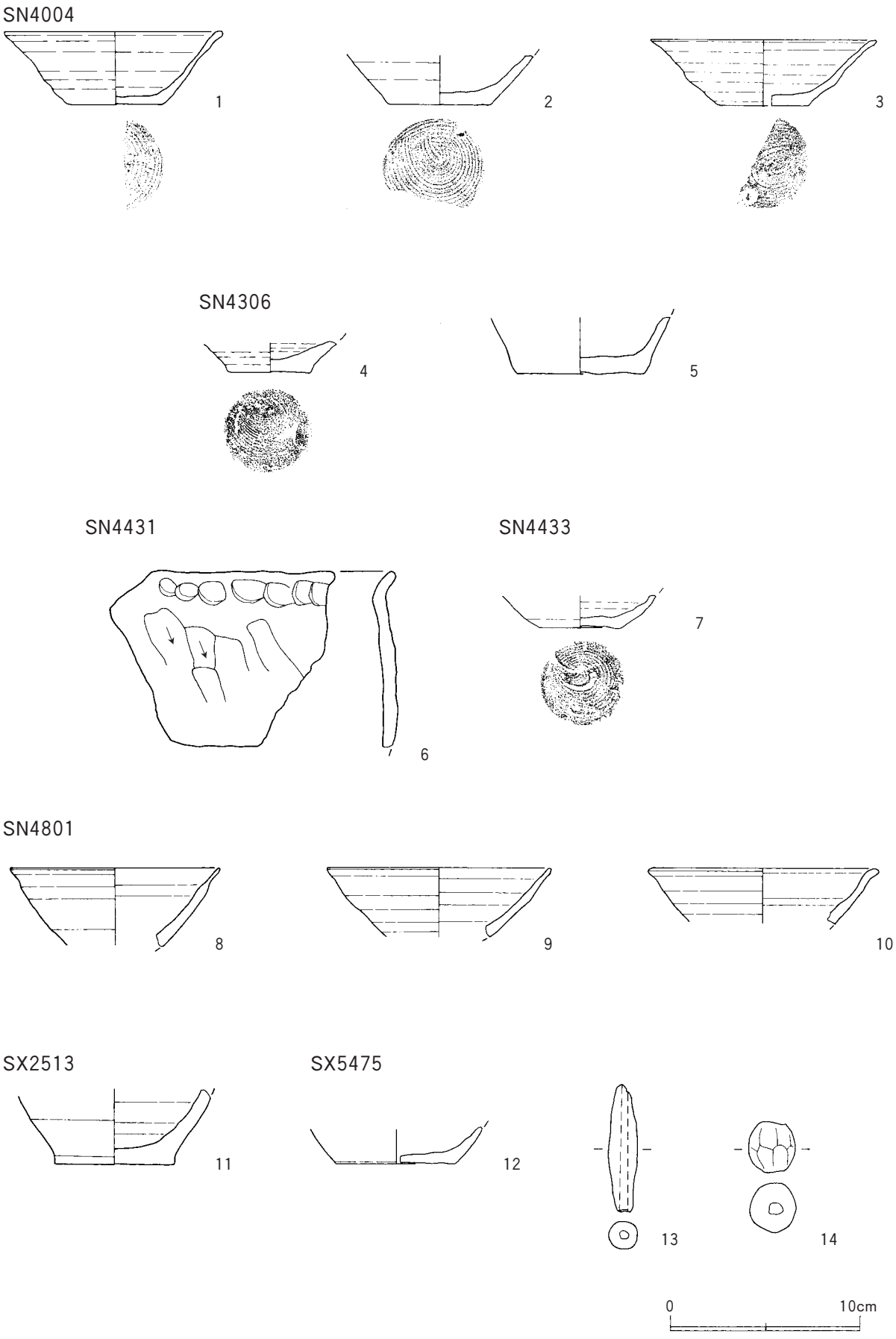
4



5

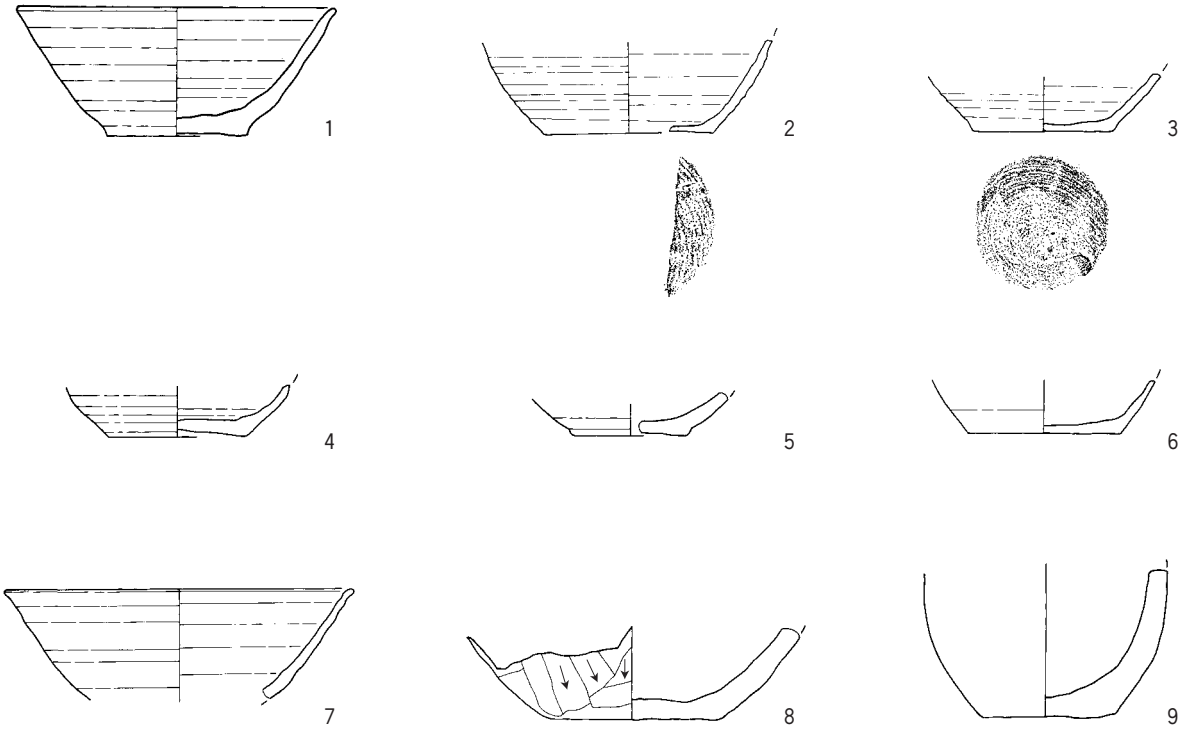
0　10cm

第110図　出土遺物（遺構内⑭）

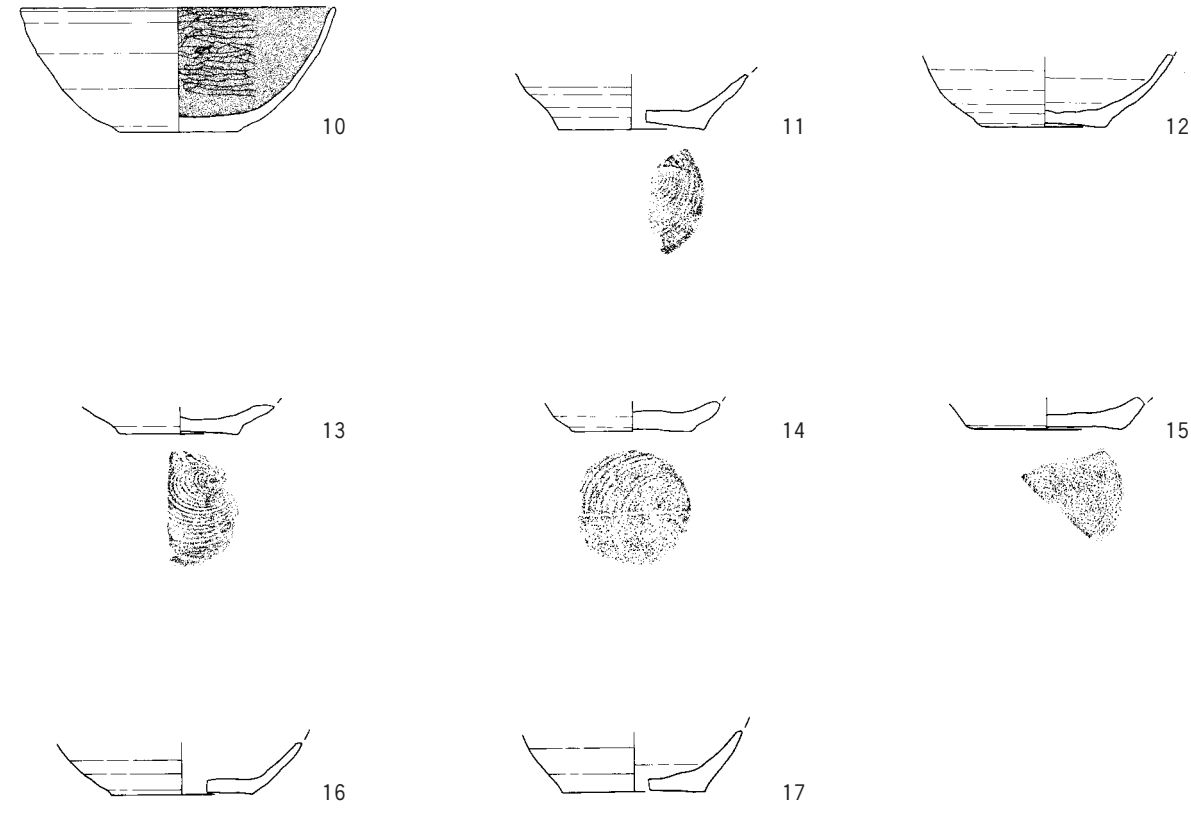


第111図　出土遺物（遺構内⑮）

SX5555



SX5838



第112図　出土遺物（遺構内⑯）

第２節　平安時代における製鉄関連遺構と遺物の分析

製鉄関連遺構と遺物の分析では、穴澤義功氏に助言を頂きながら、以下に示す識別方法で分類を行った[(註2)]。なお、本書に掲載した遺構内出土鉄滓の観察表は第９～11表に掲げた。表中の磁着度は標準磁石を、メタル度は特殊金属探知器を用いて、測定を行った結果の数値である。

《製練工程》

鉄滓

製練・精錬工程全般で生じた鉄残滓の総称。

炉壁

人為的に鉱石や金属を還元したり、加熱したりする場合に設けられる炉の壁。スサが必ず混入している。補熱や酸化・還元空間の確保に加えて、媒溶剤の役割を果たす場合が多い。

【識別方法】黒いガラス質の部分と焼成した粘土の部分で構成される。鉄滓と比較した場合、比重の軽いものが多いが、鉄滓や砂鉄の付着などがあり、重さだけでは判断しないようにする。

流動滓

流動状の鉄滓全般を指し示す用語。炉内の場合は炉内流動滓と呼ばれ、炉外の場合は炉外流動滓と呼び分けられるが、本書では細分は行わなかった。また、炉内外で単独に形成されたものはとくに単位流動滓として分類した。

【識別方法】主成分は砂鉄であるが、鋼材でないため磁着しない。タールが流れ出たようなツルツルした滑らかな面をもつ。色調は青灰色～グレーであるが、流れたあと空気に触れ赤く酸化した部分がある。流動滓に含まれた木炭は、空気に触れると燃焼してしまうので、木炭の痕跡があるものは炉内滓の可能性がある。

流出孔滓

製鉄炉などの炉内から壁に穿たれた流出孔を経て炉外に流れ出る途中で、流出孔にとどまったまま固化した滓。その時々の流出孔の形状や鉄滓の状態がよく分かる資料である。

【識別方法】円錐状・棒状を呈したものが比較的多い。底面や上面に比較的均一に土が付着している。小さな破片では識別が困難であるため、一定の大きさ以上のものに偏ってしまう傾向にあった。

流出溝滓

製鉄炉の流出孔から延びる流出溝内にとどまって固化した滓。

【識別方法】流出孔滓と類似するが、断面が半円状で径が大きく、下面は凹凸がある。流出溝滓下面の状態は溝底面の状態を反映している。また、流出孔滓は全面に土が付着するのに対し、流出溝滓は下面にのみ付着する。流出孔滓同様、識別するには一定の大きさ以上のものである必要があった。

炉底塊

各種の炉の底部に形成された鉄滓を指す。生成された鉄は炉底塊を割ることにより分離・選別され、鉄塊系遺物となる。

【識別方法】流出孔滓、流出溝滓よりも大きな径で、盤状を呈している。炉内で生成されたため還元しており、色調は光沢をもったグレー～銀色。底面には炉底の土が付着しており、流出孔滓よりも均一な面を形成している場合が多い。

炉内滓

炉内で生成された鉄滓全般を指し示す用語。木炭痕の顕著な炉内滓や流動状の炉内流動滓などが代表的なものである。本書では後者を除いたものを指す。含鉄の場合もあり、鉄塊系遺物はここから分割して選別される。

【識別方法】炉底塊の一部(炉内部分)を炉内滓という。土や木炭(痕)が付着しており、形状はいびつな球状のものが多い。赤もしくはオレンジ色を呈した錆が多く出ており、非常に脆く、破損しやすい。本書では、炉底塊と識別しがたい場合は炉内滓とし、流動滓と識別しがたい場合は流動滓として位置づけた。

鉄塊系遺物

主に砂鉄を原料とし、木炭などの還元剤によって分離した、鉄滓混じりの第一次工程で生成されたもののうち、滓分の割合が非常に少ないもの、また、未鍛造の鉄塊を指す。荒鉄ともいわれ、鍛冶や鋳造用の素材となる。

【識別方法】小さくても鉄滓に比べて明らかに重く、形状はやや球状。不純物はほとんど付いていない。肉眼では炉内滓との識別が困難であるが、標準磁石による磁着度や特殊金属探知器によるメタル度(特L)などを用いる。強力磁石では全ての面で強くひきつけられる。

羽口

フイゴから炉の中に風を送り込む管の先に取り付ける筒状の送風管で、古代では土製であった。金属の製錬や鍛冶作業に用いられた。製錬用と鍛冶用では羽口の内径が異なり、前者の方が後者に比べて大きい。

【識別方法】筒状を呈する。先端部は高温のため赤く焼けており、黒色のガラス質部が見られる。また、先端部以外の胎土の色調は、赤色・ピンク・白色・黒色がマーブル状の模様を形成する傾向にある。破片であっても土器とは容易に区別できる。

砂鉄

花崗岩などに数％含まれている微量の磁鉄鉱が、岩石の風化により分離し、水流などにより淘汰されて、川や海に堆積したものである。母岩によって性質が異なり、チタン酸化物が共存している場合が多い。

【識別方法】0.8㎜以下のフルイにかけ、強力磁石により磁着ありと判断されたもののうち、黒色の粒子。チタンとの違いは磁石につくか否かで識別する。

《精錬・鍛錬工程》

再結合滓

微細な炉壁片や鉄滓片、炭化材などが鉄錆によって二次的に結合したもの。

【識別方法】色調は赤～オレンジで、炉内滓との区別は難しいが、多様な付着物により識別。

鍛冶滓

鍛冶作業の際に排出される鉄滓の総称。特徴的なものに鍛冶炉の底に形成される椀形鍛冶滓がある。

【識別方法】色調は赤～オレンジで、表面は凹凸がありザラザラしている。気泡も見られる。下面には木炭痕や鍛造剥片、砂が面的に付着する場合が多い。このうち、椀形鍛冶滓は、断面がお椀のように半月状もしくは三日月状を呈している。

鍛造剥片

鍛冶作業の際に排出される鉄滓のうち、剥片状のもの。鍛冶の工程により、厚みや色調が異なる。【識別方法】表面もしくは表裏面に青白色の光沢があり、非常に薄い。大きさはおおよそ４㎜以下である。識別は容易なものの、一部、鉄滓片との区別が困難なものがある。

粒状滓

鍛冶作業の際に飛び散る滓分が、空気中で球状に固化したもの。

【識別方法】色調は鍛造剥片と同じ。大きさは一般的に４㎜以下で、球体。

鉄床石

鍛錬鍛冶の際に台石として用いたもの。本遺跡の場合、多くは三倉鼻近辺で採取される輝石安山岩を用いている。

【識別方法】輝石安山岩の特徴は、薄緑を基調に、径１～２㎜程度の白色や金色の鉱物を含む。そのうち、鉄床石と判断されるものは、鍛造剥片や鉄滓が表面に付着しており、部分的に被熱により赤化している。

砥石

鍛造により製作された鉄器等を研ぐための石。

【識別方法】砥面は滑らかでツルツルしており、面取りされているものが一般的。形状は多様で、砥面は荒いものから細かいものまである。

上記の基準に従って分類を行ったが、鉄滓の分類に対する経験が浅く、必ずしも完全に分類し得たとは言い難い。大まかにいえば、製鉄炉では炉内滓と流動滓が圧倒的多数を占め、鍛冶炉では椀形を含む鍛冶滓が他を圧倒する結果となった。

発掘調査時には穴沢義功氏の指導のもと、メッシュによるサンプル回収を行った。以下に、その分析結果を示す。なお、製鉄炉は１㎝以上の遺物を、鍛冶炉は１㎝未満の遺物を中心に記述する。

１　ＳＳ2000（第113～130図）

炉壁・炉底塊・炉内滓・流動滓などの製鉄関連遺物は総計で46073.55ｇ出土した。すべて遺構内からの出土であり、周囲に散布することはなかった。

炉壁は、一部原位置を保っているものもあるが、破損しているものは炉体や前庭部の北側に集中して出土する傾向にある。当時の工人が南側から炉壁を壊して炉内生成物を取り出した状況を示しているのだろうか。前述した湯溜りと推定される窪みも南側にあり、示唆的である。

炉底塊は炉内にはみられず、前庭部南東側にまとまる傾向にある。本来、炉内で生成される炉底塊が前庭部のみに分布するという状況は、当時の工人がかき出した結果を反映しているといえよう。これも前述の状況と対応する。

炉内滓は本遺構に万遍なく分布するが、とくに炉内及び前庭部西側に密集域がある。

流出孔滓・流出溝滓は前述の通り識別に限界があったが、炉内にはみられず、前庭部両脇に集中する傾向にある。こうした分布の傾向は、流出孔・流出溝が炉体中軸線の両脇に穿たれていたことを示していると考えられる。

流動滓はほぼ万遍なく分布するが、流出孔滓・流出溝滓同様、炉体の延長線上よりも、その両側、すなわち北壁と南壁側に密集域が認められる。流出孔・流出溝が推定された配置と矛盾しない。

１㎝未満の鉄滓は、ほとんどが流動滓と考えられるが、炉内から前庭部東側に分布する傾向にある。

砂鉄は鉄滓類とは違い、炉内に多く見られ、炉の構造や製錬工程上、矛盾しない。

重量別分布図に示していないが、鍛冶関連遺物も出土している。椀形を含む鍛冶滓はＤ８にのみ93.9ｇ出土している。鍛冶炉は近接しておらず、離れた場所から本製鉄炉の前庭部に廃棄されたものと考えられる。再結合滓はＧ８で353.2ｇ、Ｆ３で61.4ｇ、Ｄ７で27.5ｇ、Ｄ９で7.7ｇ出土している。砥石はＥ５にのみ16.6ｇ出土している。

以上の分布状況は、製鉄炉が複数回操業される過程での自然堆積と、操業・廃棄に伴う人為的な二次堆積が複雑に絡み合った結果である。しかし、遺物の種別ごとに分布傾向が共通する状況にあることは、製鉄炉の操業のあり方を考える際に大きな示唆を与えてくれる。

２　ＳＳ3946（第131～150図）

炉壁・炉内滓・流動滓などの製鉄関連遺物は、遺構内外のメッシュ設定地区から、総計で268888.10ｇ出土した。

炉壁はＣ３で4998.6ｇともっとも多く、他は前庭部に分布する傾向にある。ＳＫ4536との関連が考慮される。また、炉体にみられないのは、前述したように現在の林道などにより大半が失われているためであろう。

炉底塊は識別できなかったが、流動滓に混ざっている可能性がある。

炉内滓は前庭部Ｅ列に集中傾向が読み取れる。

流出孔滓・流出溝滓は前庭部の北西側から南東側に漸移的に集中していく傾向がある。さらに流出孔滓は北側に、流出溝滓は南側にまとまりをもち、北から南へと鉄滓が流出する状況を示している。流動滓もこれらと同様の分布状況を示し、とくに前庭部南側で多い。これらの状況を総合すると、炉体から前庭部に向かって流出孔滓→流出溝滓→流動滓となり、滓生成過程のあり方において整合性を見る。

羽口はＤ６に最も多く、炉体北側にフイゴ座を推定することが可能であろう。このとき、ＳＫ4536との関連も考えなければならない。

砂鉄は、ＳＳ2000と違い前庭部Ｆ列にとくに集中する。これは本遺構の炉体がほとんど失われているためと考えられる。

重量別分布図には示していないが、鍛冶関連遺物として鉄床石がＩ20から160.0ｇ、Ｆ15から130.3ｇ出土した。付近にＳＳ3947などの鍛冶炉がみられるので、そこからの廃棄もしくは流れ込みと考えられる。

以上から、ＳＳ2000同様、遺物の分布状況には操業過程を探る上で有意なまとまりを認めることができる。

３　ＳＩ1800（第151～159図）

炉壁・鍛冶滓・鍛造剥片などの鍛冶関連遺物は、遺構内から総計で8370.20ｇ出土した。なお、南東隅は発掘調査工程上、50㎝メッシュでのサンプリングを行えなかったため、今回の分析から除外した。

鍛冶滓は、鉄床石周辺（Ｆ６・Ｇ６）、ＳＮ０１北側（Ｄ４）、カマド北側（Ｃ７）の３カ所に密集域がみられる。

鍛造剥片は鉄床石周辺（Ｆ６）にのみ高密集域を認めることができる。

粒状滓はＳＮ01南側（Ｄ６）に若干の集中があるが、密集域を形成せず、全体的に散漫な分布状況を示す。

砂鉄は遺構内のほぼ全面に分布が認められるが、とくに鍛冶炉北東側（Ｈ３）に密集域が認められる。ただし、明瞭な「砂鉄置き場」は確認されなかった。

鍛冶炉や鉄床石周辺に鍛冶滓･鍛造剥片が密集する傾向は、鍛冶作業の結果を如実に反映している。ただし、鍛冶滓がＳＮ01やカマドにもまとまってみられるということは、これらの遺構が鍛冶に関わる場であったのか、もしくは、鍛冶滓の二次的利用があったことを示唆していようか。

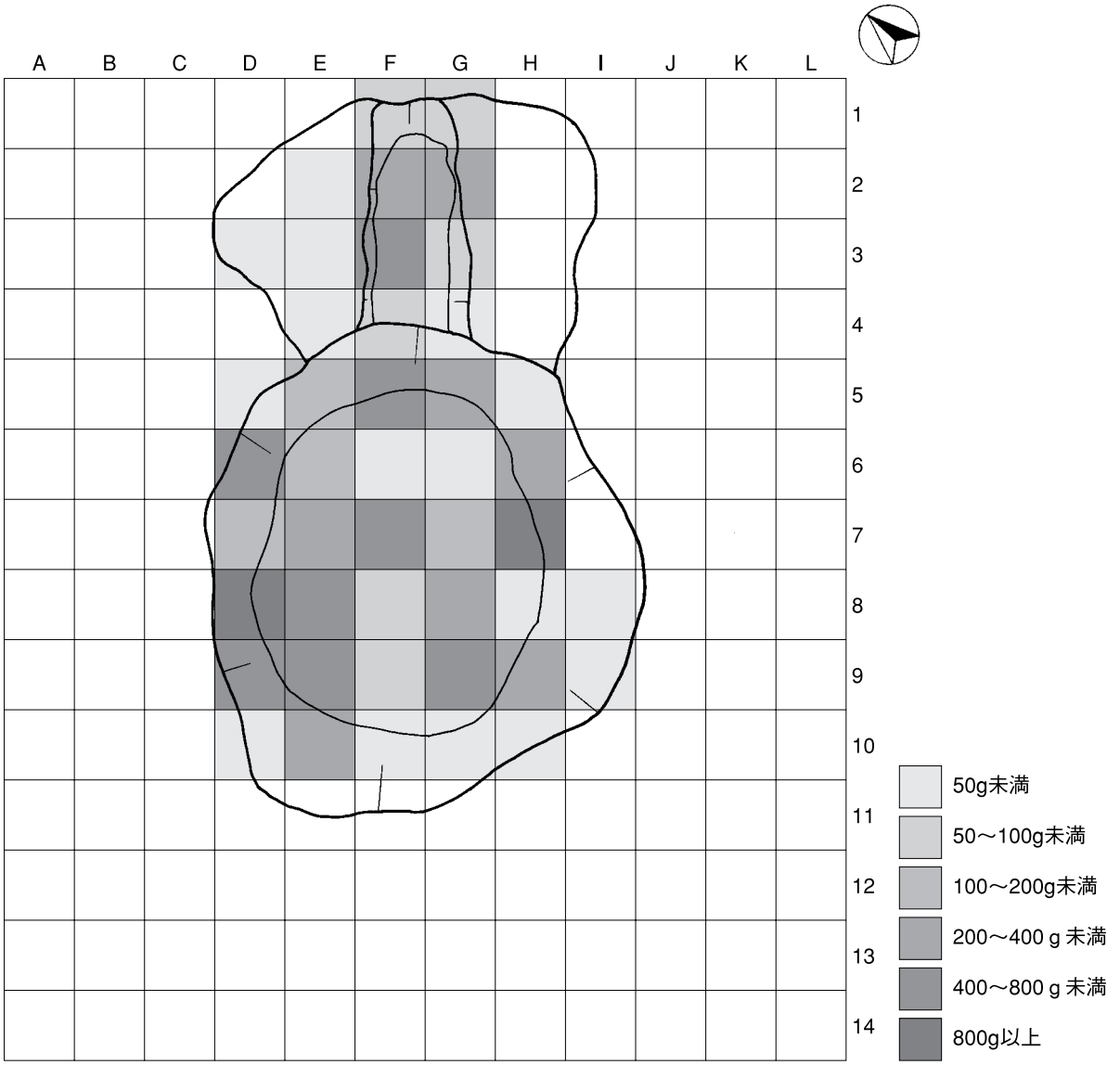
４　その他の遺構内出土製鉄関連遺物（第160～164図）

製鉄に直接関わる遺構以外からも多くの製鉄関連遺物が出土した。そのほとんどが調査区中央部の平坦地に分布する遺構、とくに竪穴住居跡からの出土である。

出土遺物の多くは鍛冶滓であり、鉄製品は調査区全体の中でも少量である。ただし、注目すべきものとしてＳＫ5895の鉄鍋（第164図６～８）とＳＤ2201の鉄鈴（第164図９）があげられる。

ＳＫ5895の鉄鍋は破片であったが２個体が重なるようにして出土した。土師器などを伴うことから平安時代の鉄鍋とも考えられるが、沢を挟んで北側にある堂の下遺跡では13世紀の鉄鍋の鋳型が大量に出土しており、その関連も考えられる。

ＳＤ2201の鉄鈴は、平安時代のものとしては県内でも珍しく、東北地方でも限られた分布範囲を示す。(註3)

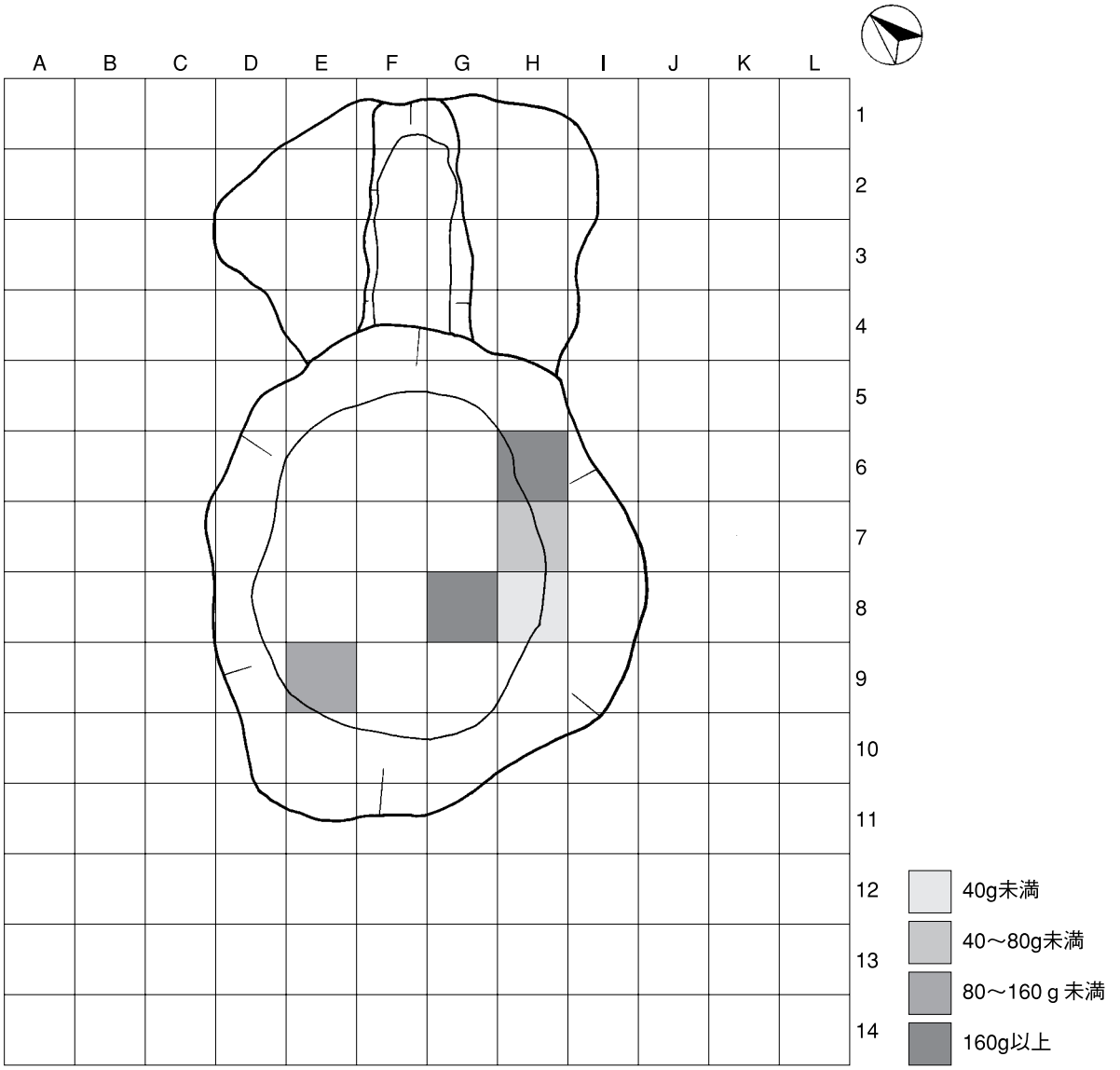


炉壁（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	88.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	46.6	229.4	251.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	6.4	38.0	598.4	86.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	84.6	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.7	140.7	555.4	375.4	24.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	552.4	121.0	4.6	41.7	294.4	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	114.5	350.0	579.4	175.3	1183.2	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	855.4	491.4	81.5	263.4	24.4	8.8	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	667.4	763.8	78.5	403.4	306.4	10.5	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.8	206.0	35.9	24.6	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　10239.4g

第113図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（炉壁）

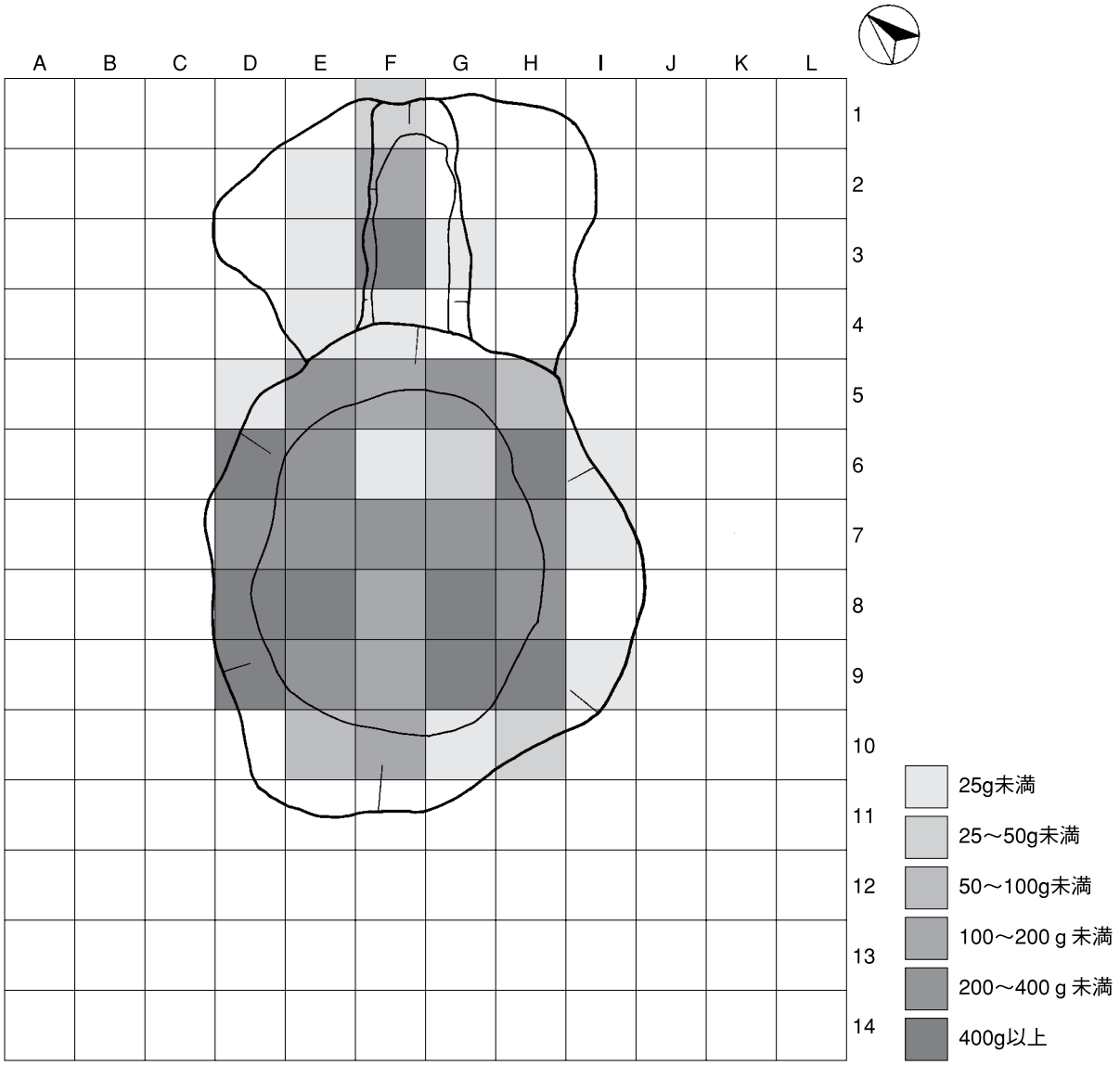


炉底塊（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	232.5	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	315.4	33.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	96.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　732.2g

第114図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（炉底塊）

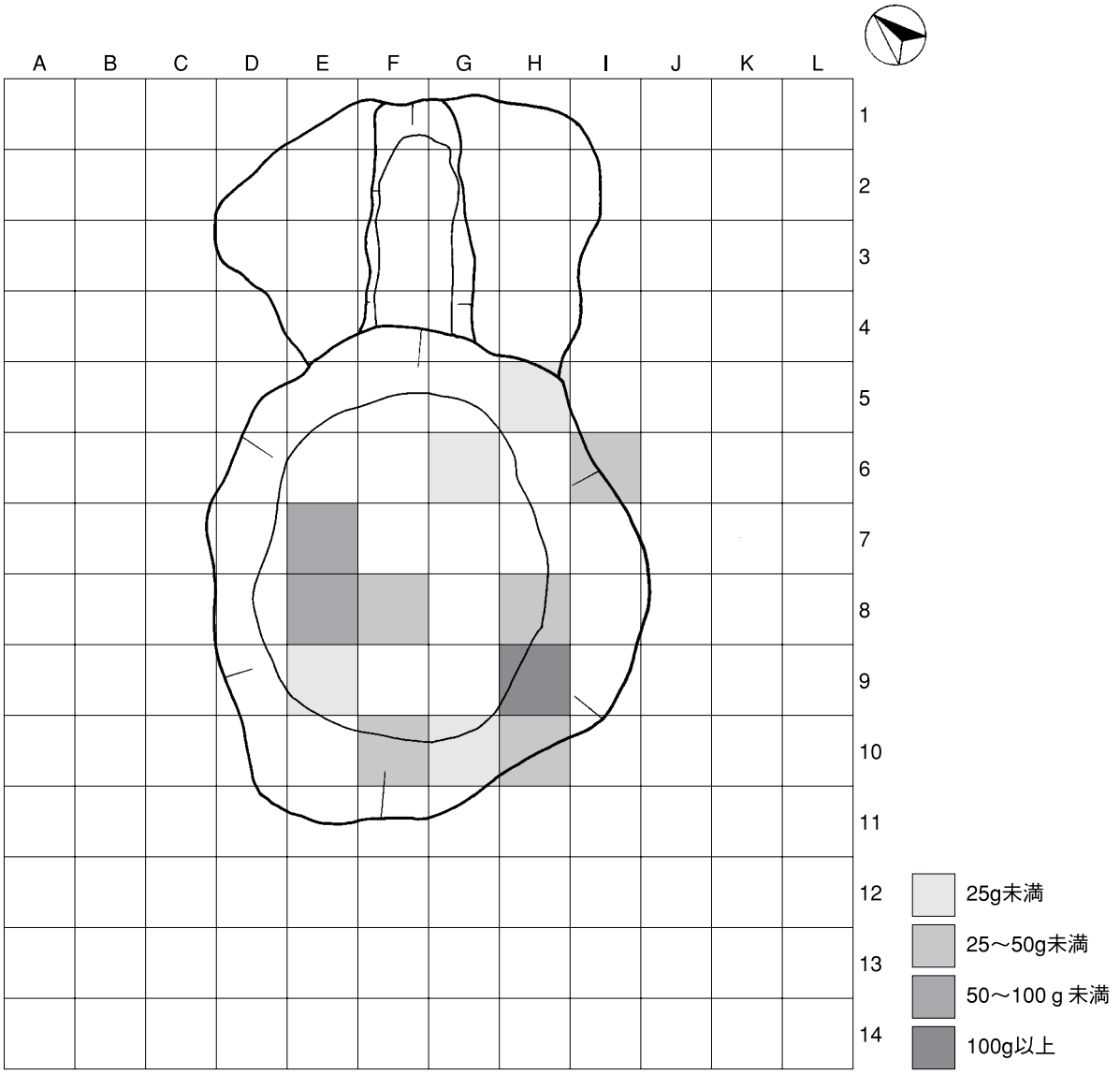


炉内滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	34.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	20.3	150.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	5.7	517.0	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	16.2	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	4.6	332.0	121.2	367.5	59.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	702.0	244.0	20.3	32.6	469.8	8.2	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	295.1	283.9	223.9	322.5	364.2	10.7	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	649.1	555.4	102.7	795.9	335.4	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	487.0	386.3	168.4	453.4	472.2	18.4	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	67.8	124.0	23.3	27.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　9293.6g

第115図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（炉内滓）

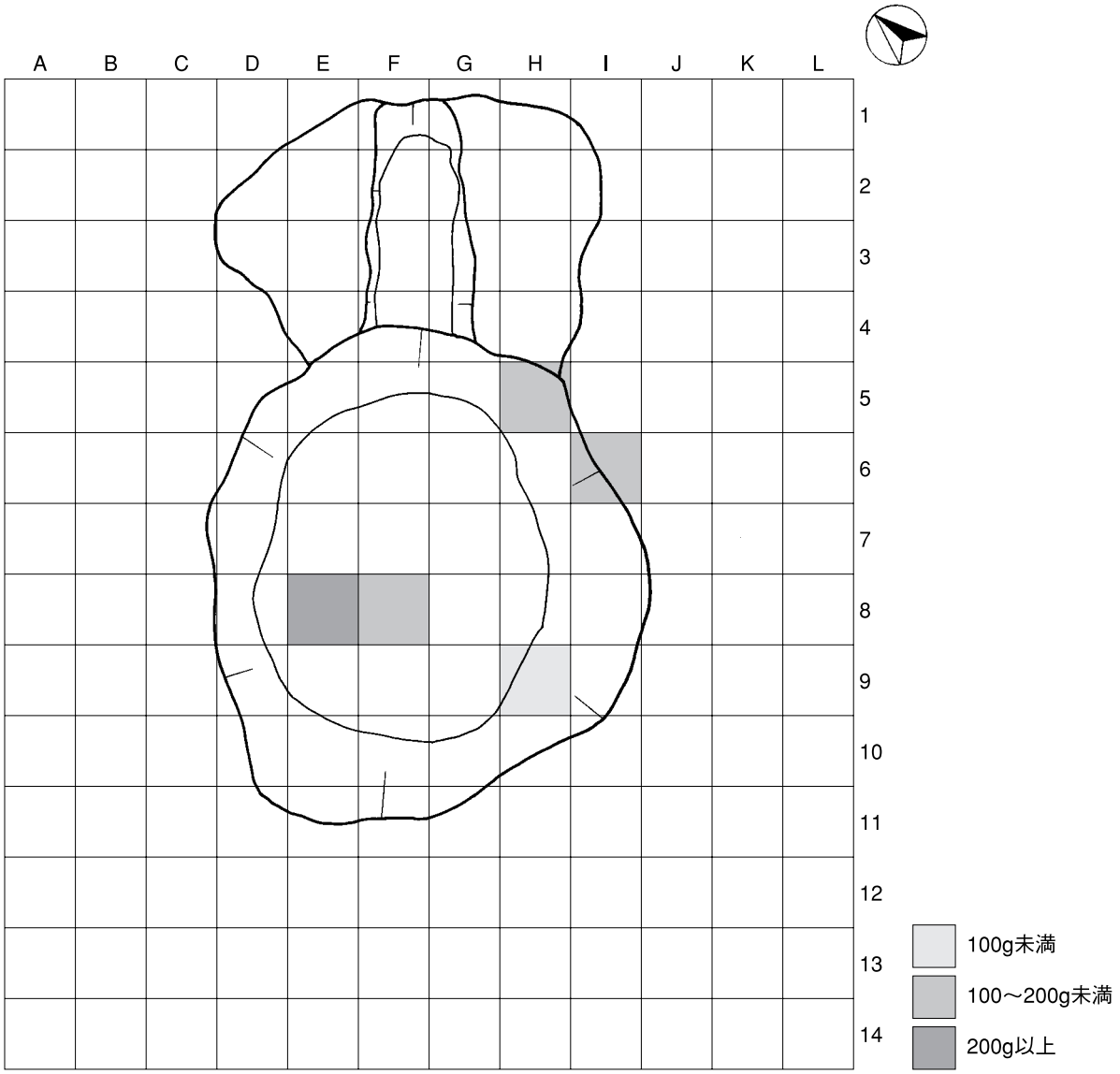


流出孔滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.7	0.0	29.7	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	68.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	86.8	41.0	0.0	40.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0	152.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.6	16.9	30.6	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　545.7g

第116図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（流出孔滓）

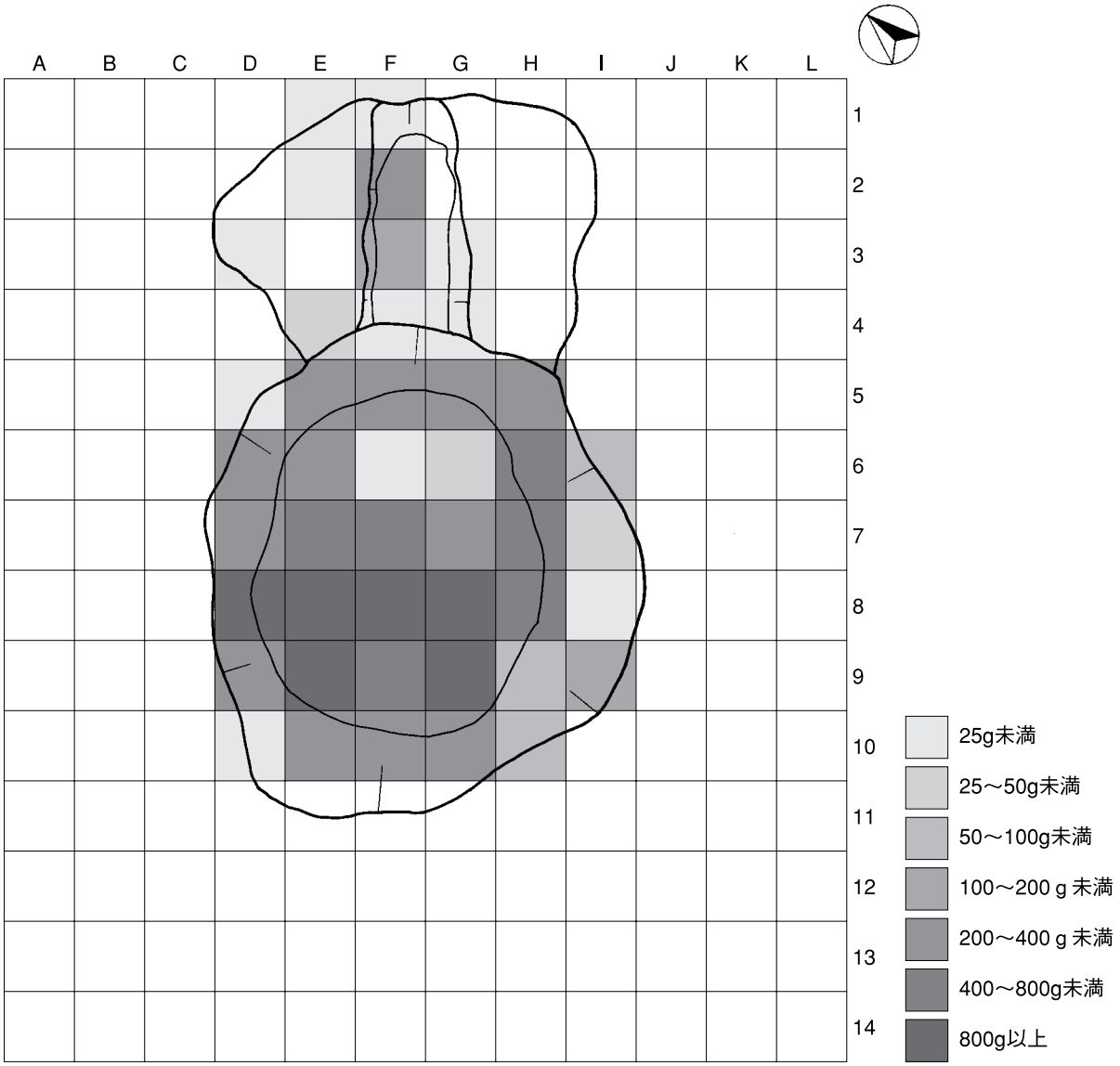


流出溝滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	117.9	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	151.9	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	310.9	121.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	70.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　772.4g

第117図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（流出溝滓）

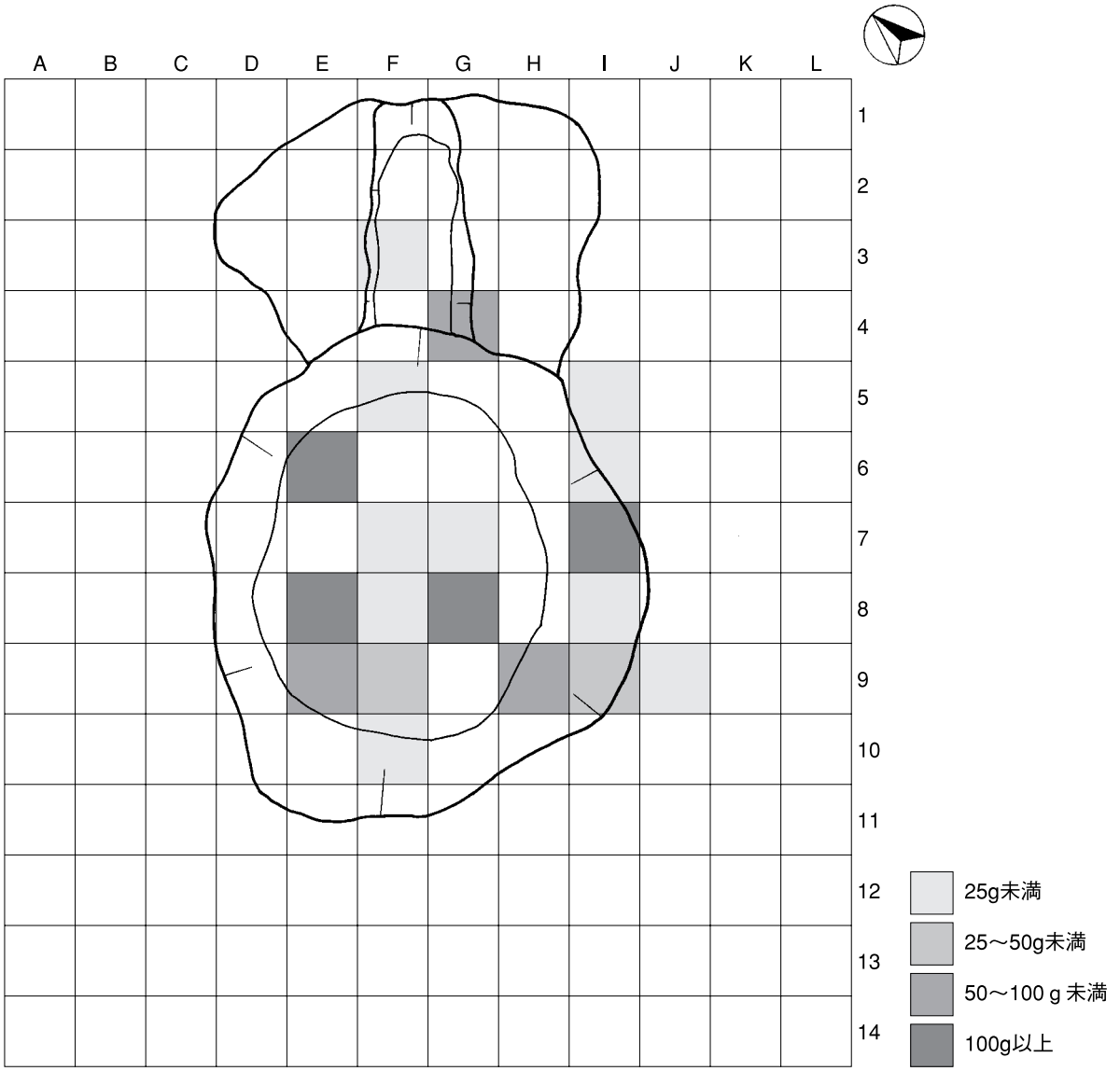


流動滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	5.5	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	219.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	110.5	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	30.4	8.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	2.5	296.0	232.5	325.1	237.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	311.1	335.3	22.2	44.9	538.2	82.6	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	386.9	767.1	463.6	331.8	669.2	48.1	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	1199.7	921.6	815.5	1266.5	707.2	17.6	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	335.2	1225.1	434.5	902.4	86.0	136.2	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	1.2	289.5	267.1	373.5	97.6	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　14566.7g

第118図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（流動滓）

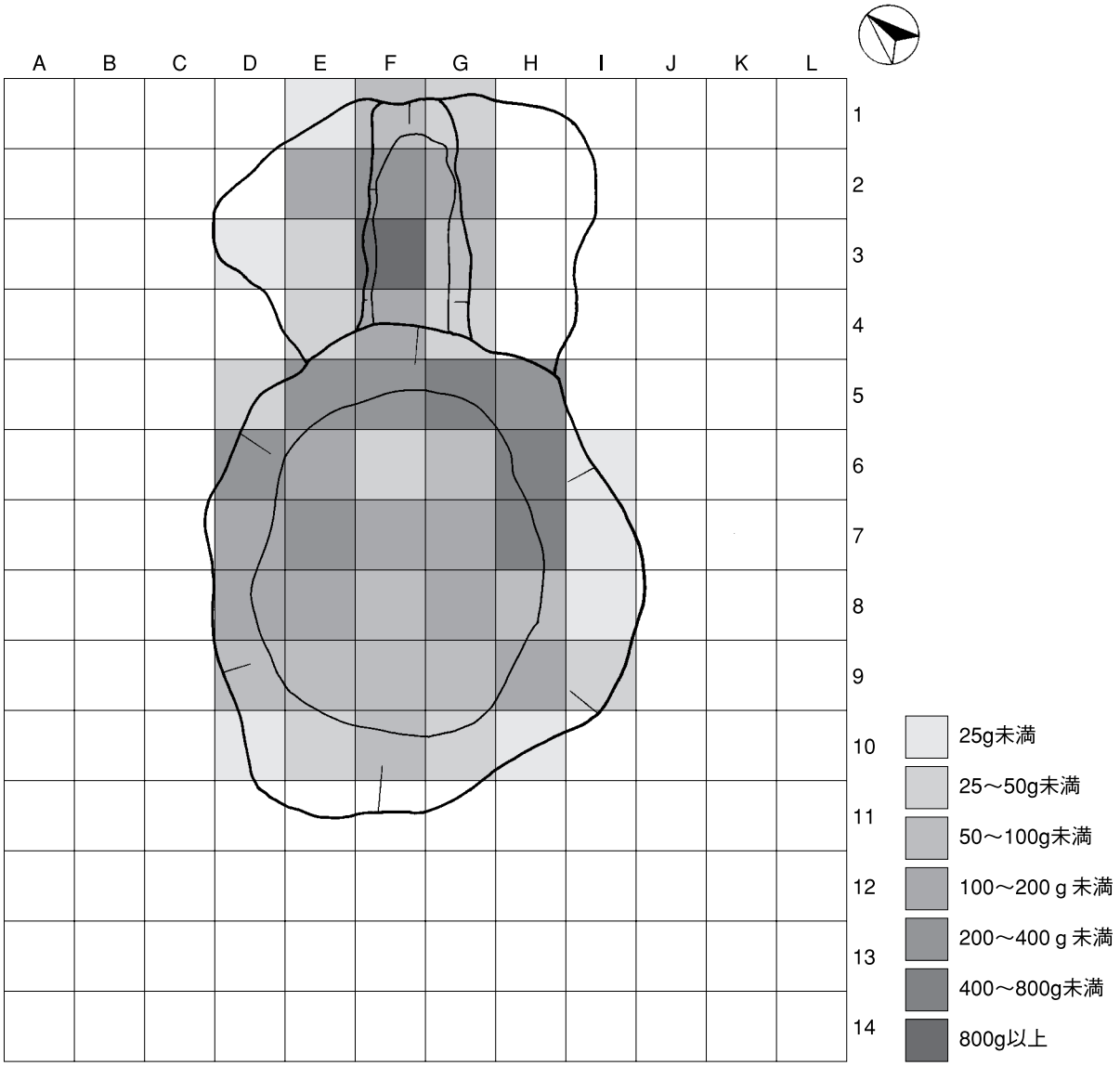


羽口（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	99.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	101.0	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.4	20.7	0.0	109.2	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	122.9	5.2	101.9	0.0	13.2	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	59.1	25.4	0.0	70.6	33.4	0.4	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　798.7g

第119図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（羽口）

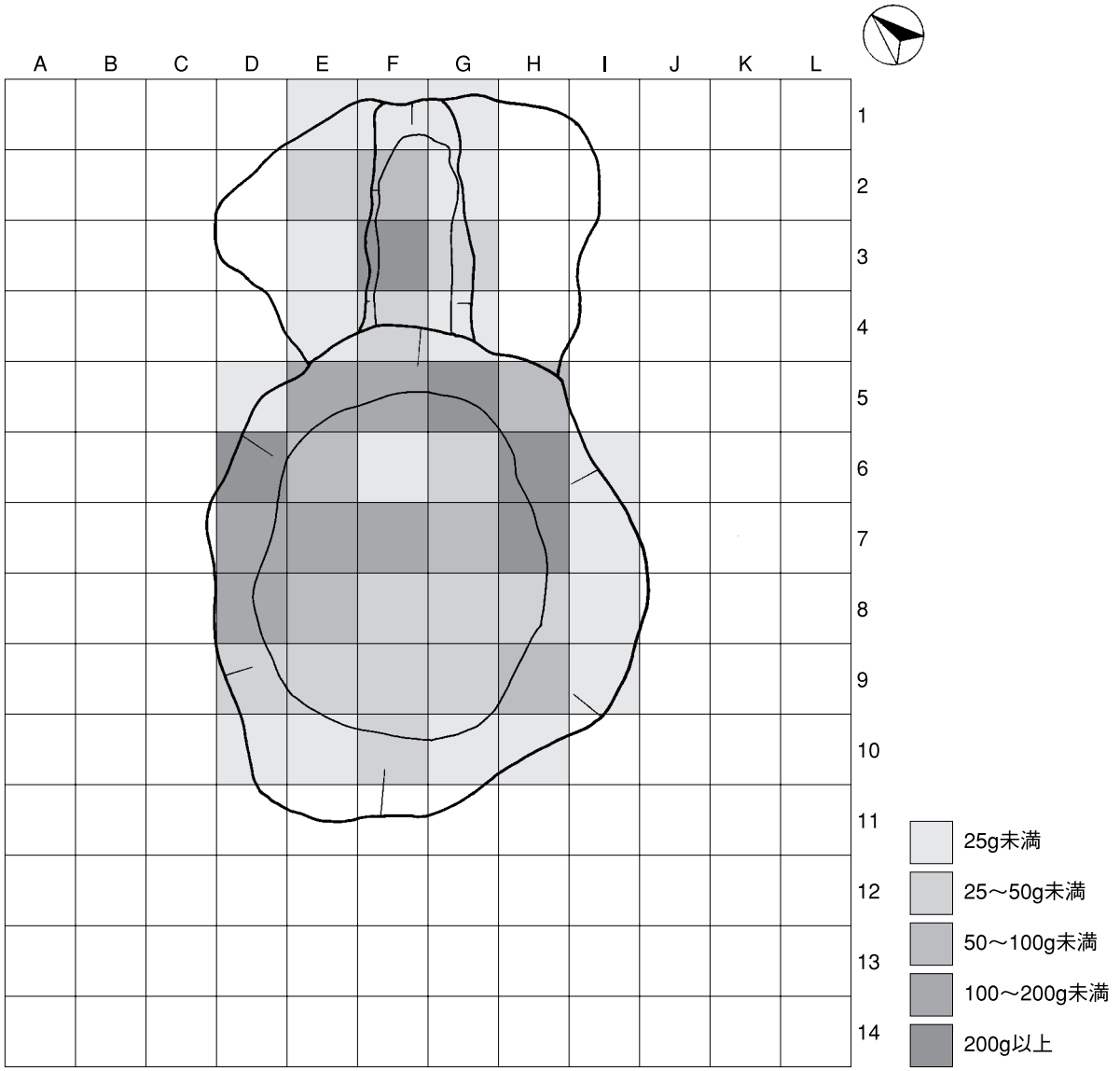


砂鉄（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	79.8	37.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	119.5	289.5	101.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	3.7	49.3	854.7	94.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	49.1	106.6	27.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	49.9	388.3	276.3	612.9	234.5	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	258.2	126.8	26.1	74.0	786.7	6.7	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	126.3	252.8	187.1	197.6	424.6	24.3	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	109.1	142.7	75.3	158.1	74.6	8.3	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	74.1	70.3	61.6	68.3	107.7	33.6	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	4.5	44.0	53.1	45.5	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　7018.5g

第120図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（砂鉄）

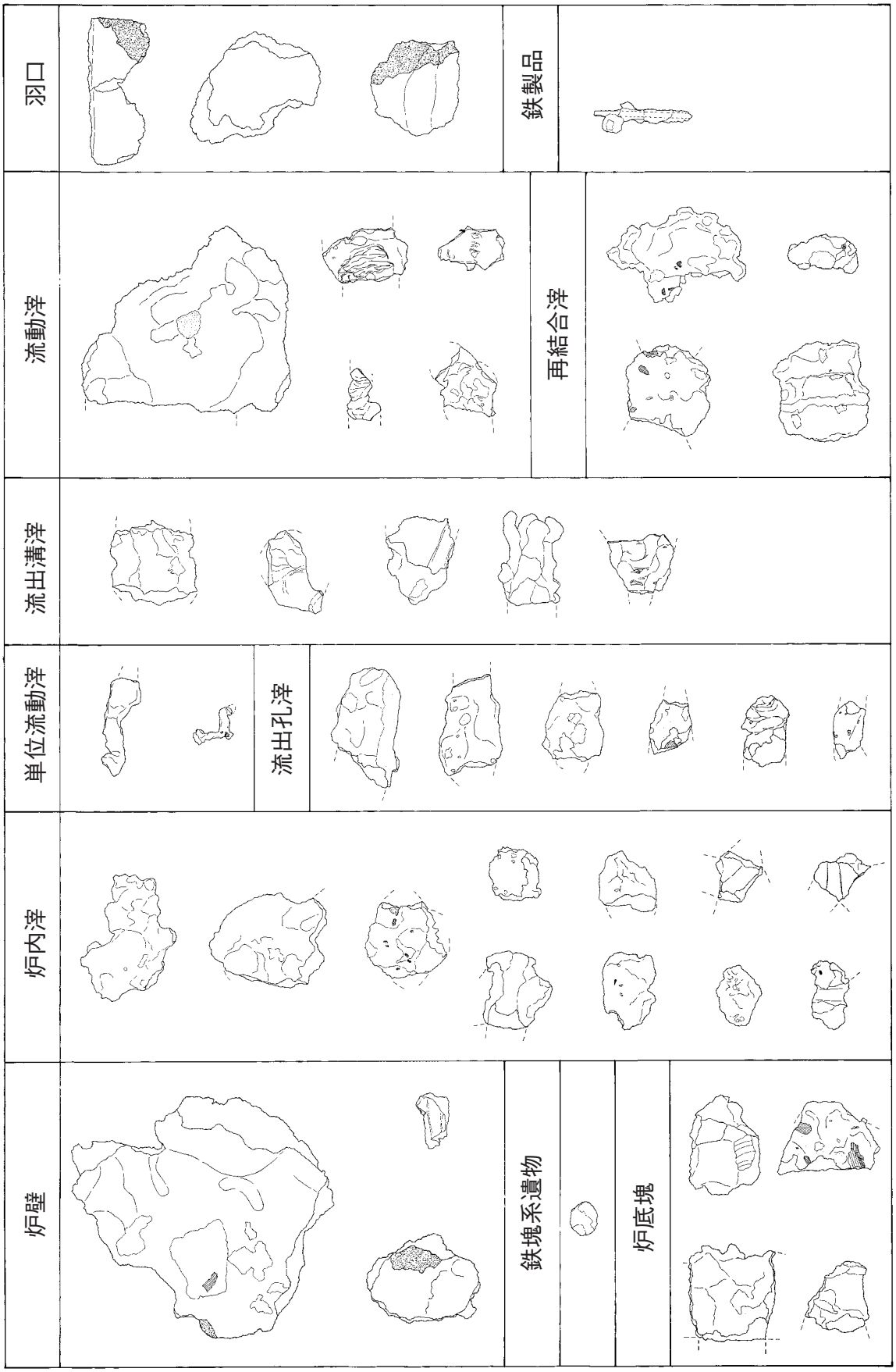


鉄滓（1cm未満）（g）

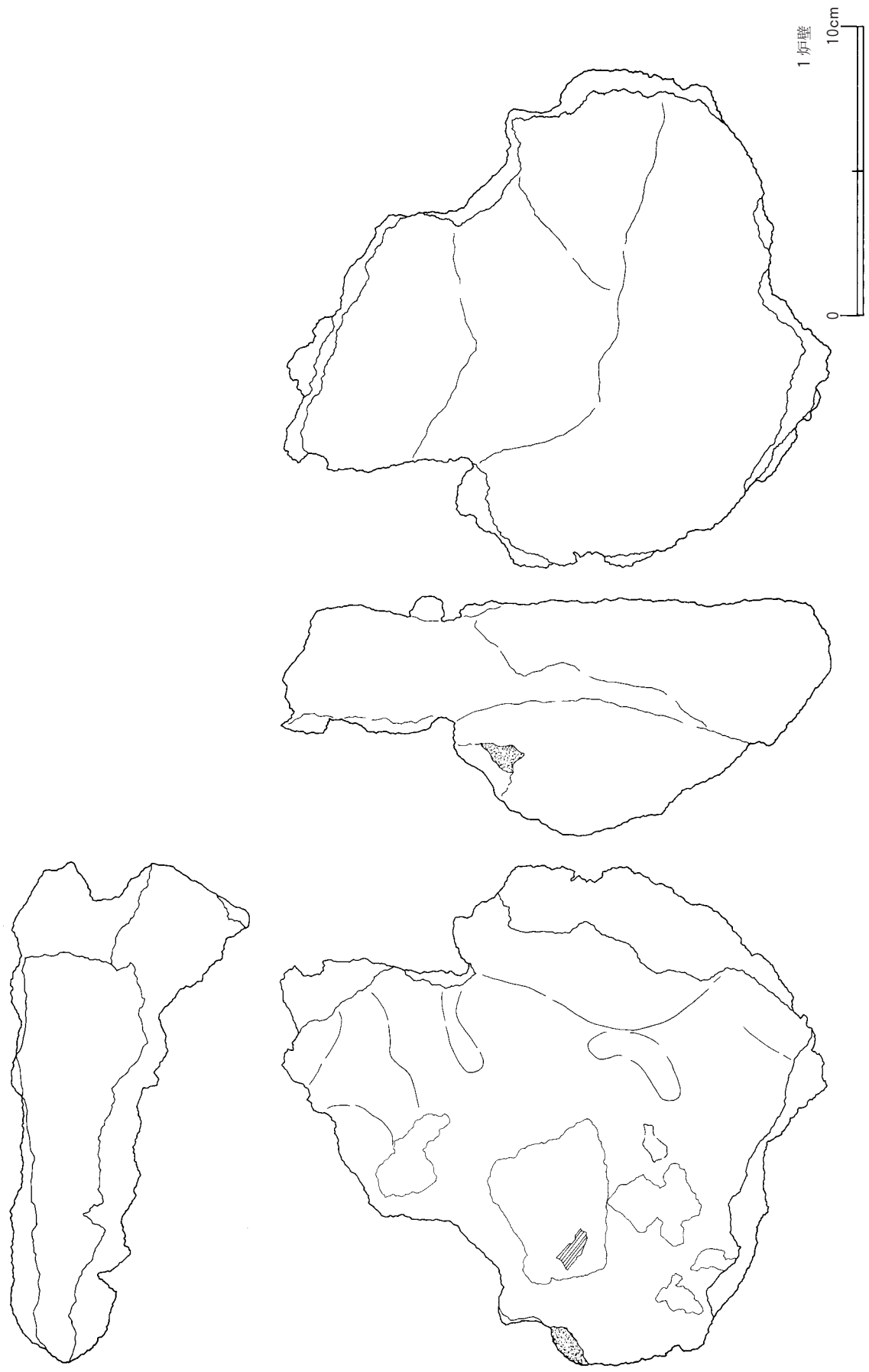
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	8.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	26.0	65.3	23.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	15.1	317.2	30.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	16.9	28.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	3.0	180.6	115.9	341.7	81.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	235.9	87.4	4.8	25.1	381.8	0.3	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	145.9	180.1	129.2	80.6	233.5	4.8	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	111.3	99.9	40.9	36.3	31.4	1.9	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	36.7	41.2	27.9	38.4	61.2	8.2	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	1.9	8.1	31.1	21.2	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14

総計　3367.4g

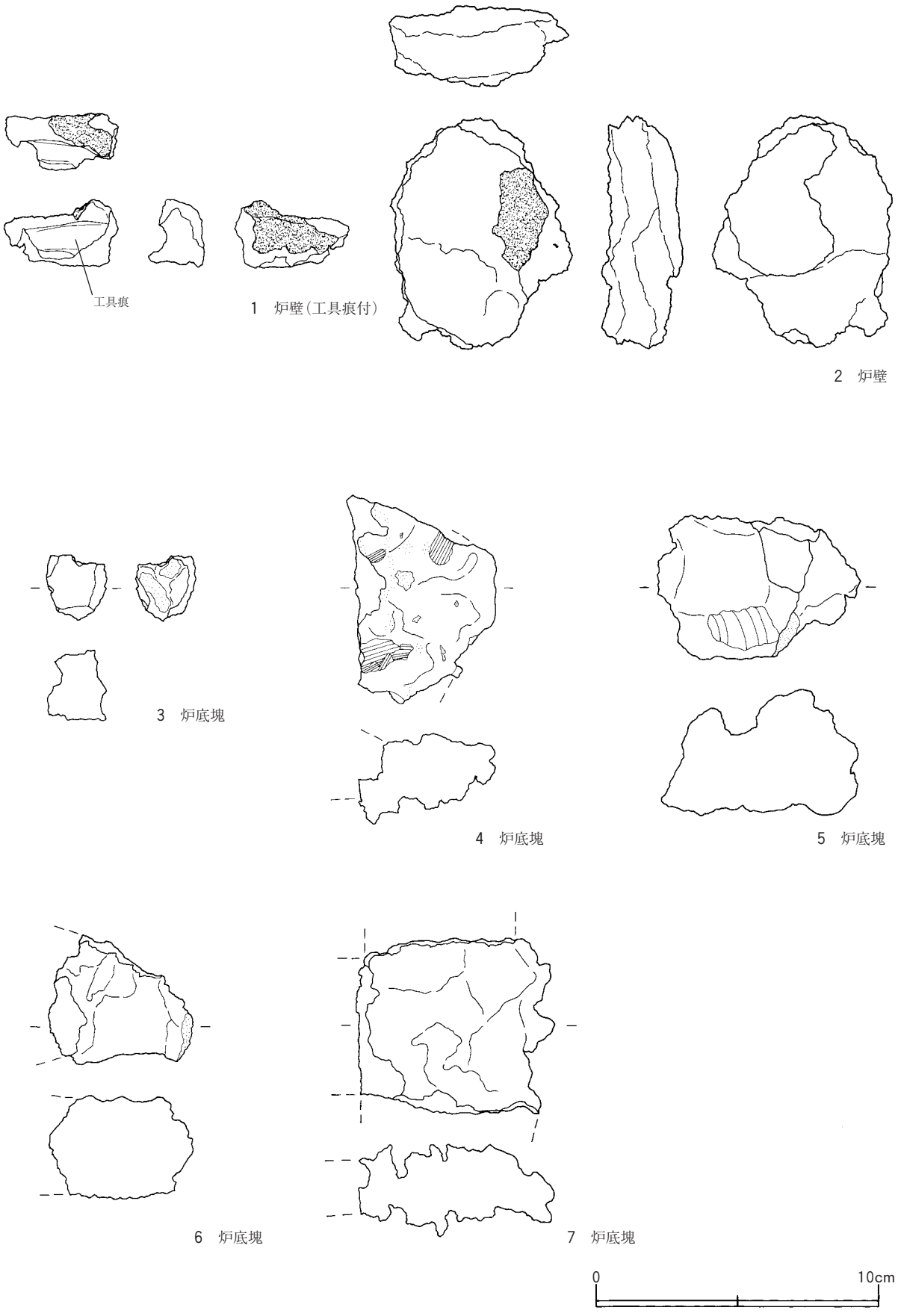
第121図　ＳＳ2000重量別遺物分布図（鉄滓１cm未満）



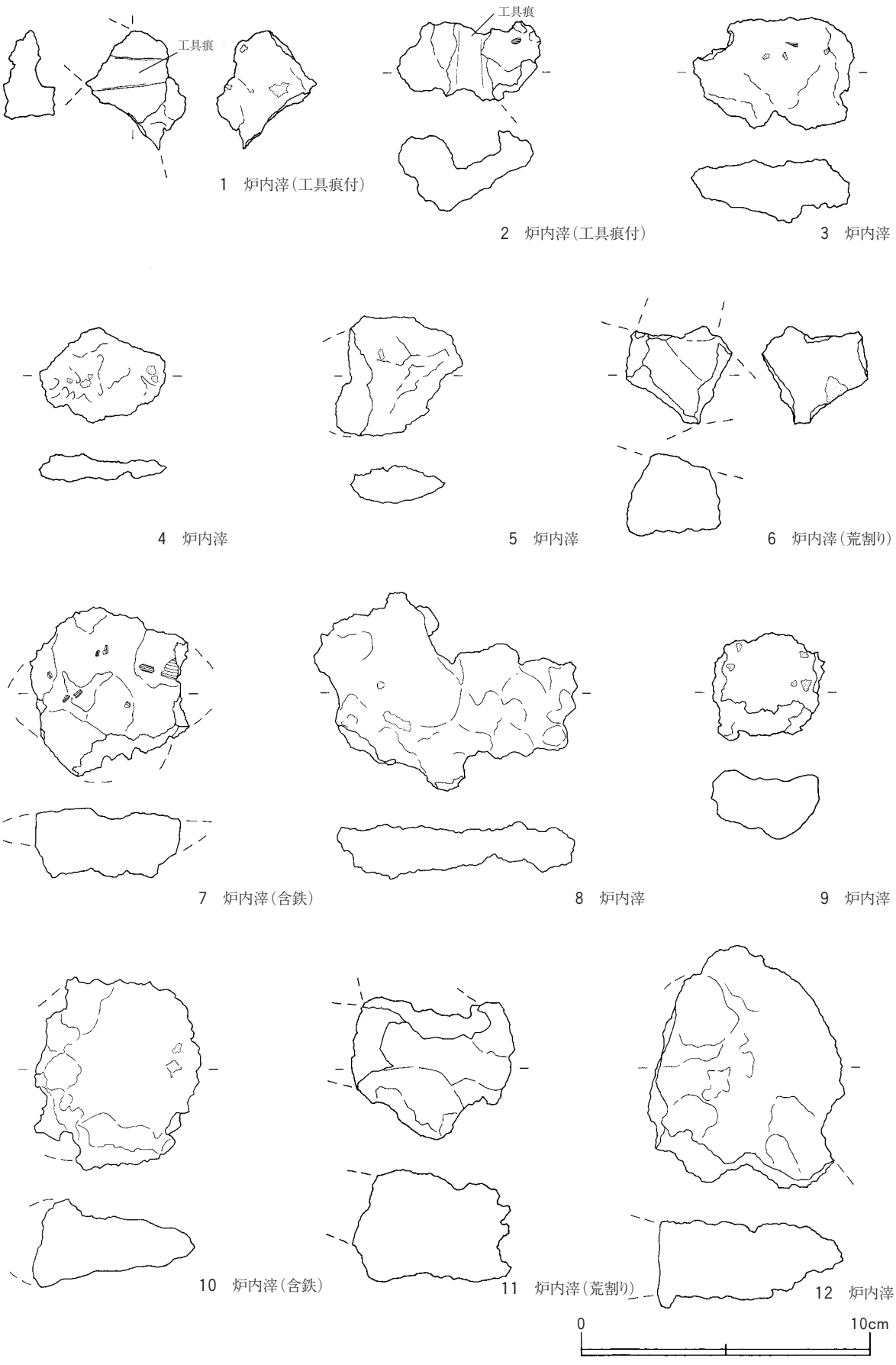
第122図　ＳＳ2000製鉄関連遺物構成図



第123図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物①

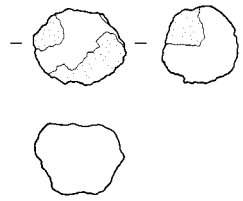


第124図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物②



1　炉内滓（工具痕付）　2　炉内滓（工具痕付）　3　炉内滓
4　炉内滓　5　炉内滓　6　炉内滓（荒割り）
7　炉内滓（含鉄）　8　炉内滓　9　炉内滓
10　炉内滓（含鉄）　11　炉内滓（荒割り）　12　炉内滓

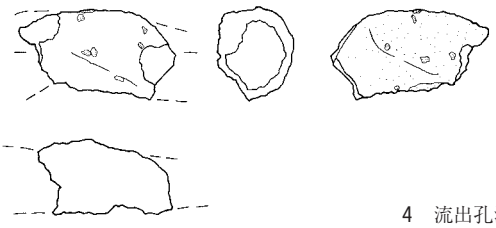
第125図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物③



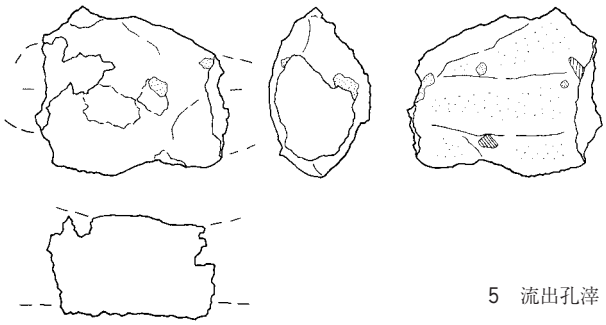
1　鉄塊系遺物

2　単位流動滓

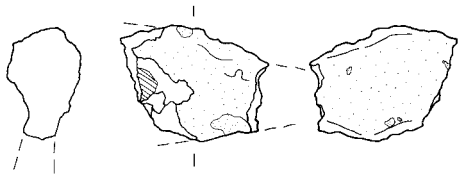
3　単位流動滓



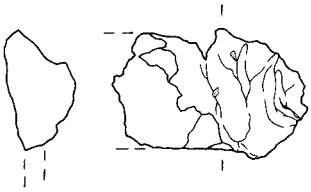
4　流出孔滓（細）



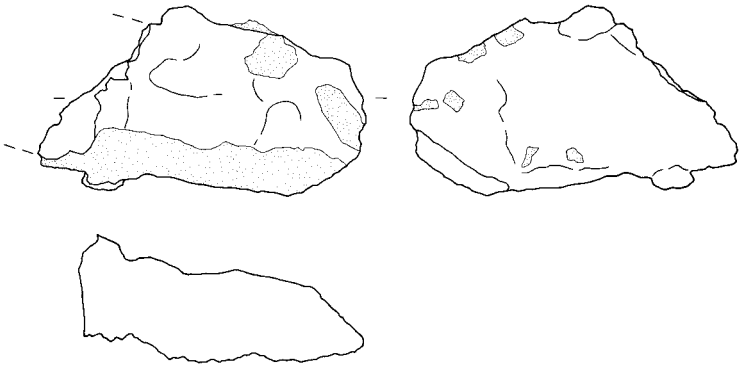
5　流出孔滓



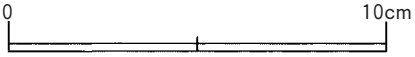
6　流出孔滓（細）



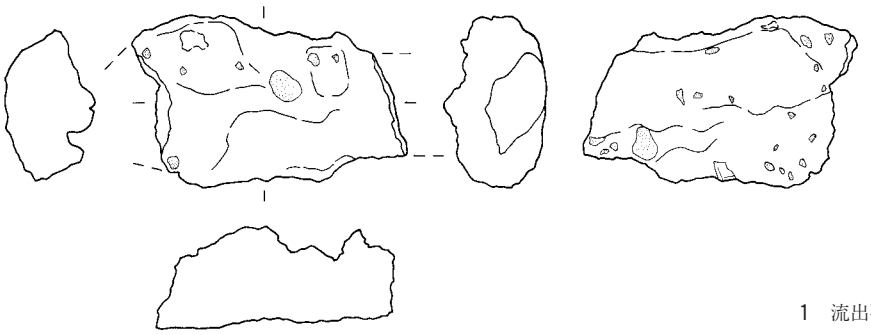
7　流出孔滓（つまり）



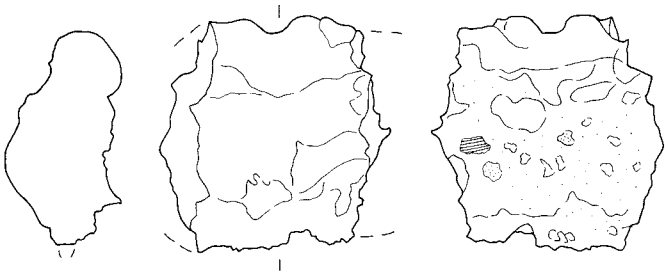
8　流出孔滓（太）



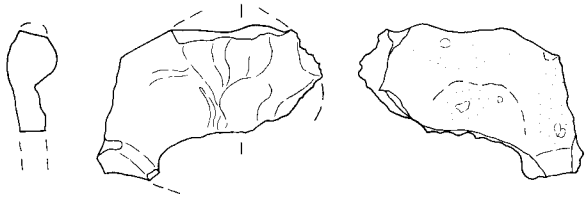
第126図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物④



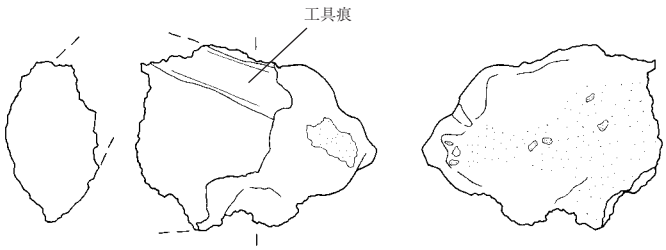
1　流出孔滓（中）



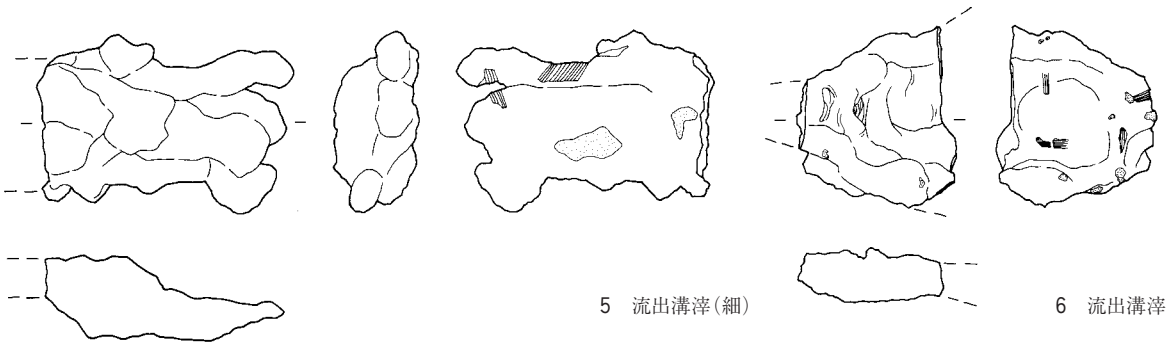
2　流出溝滓



3　流出溝滓



4　流出溝滓（太･工具痕付）

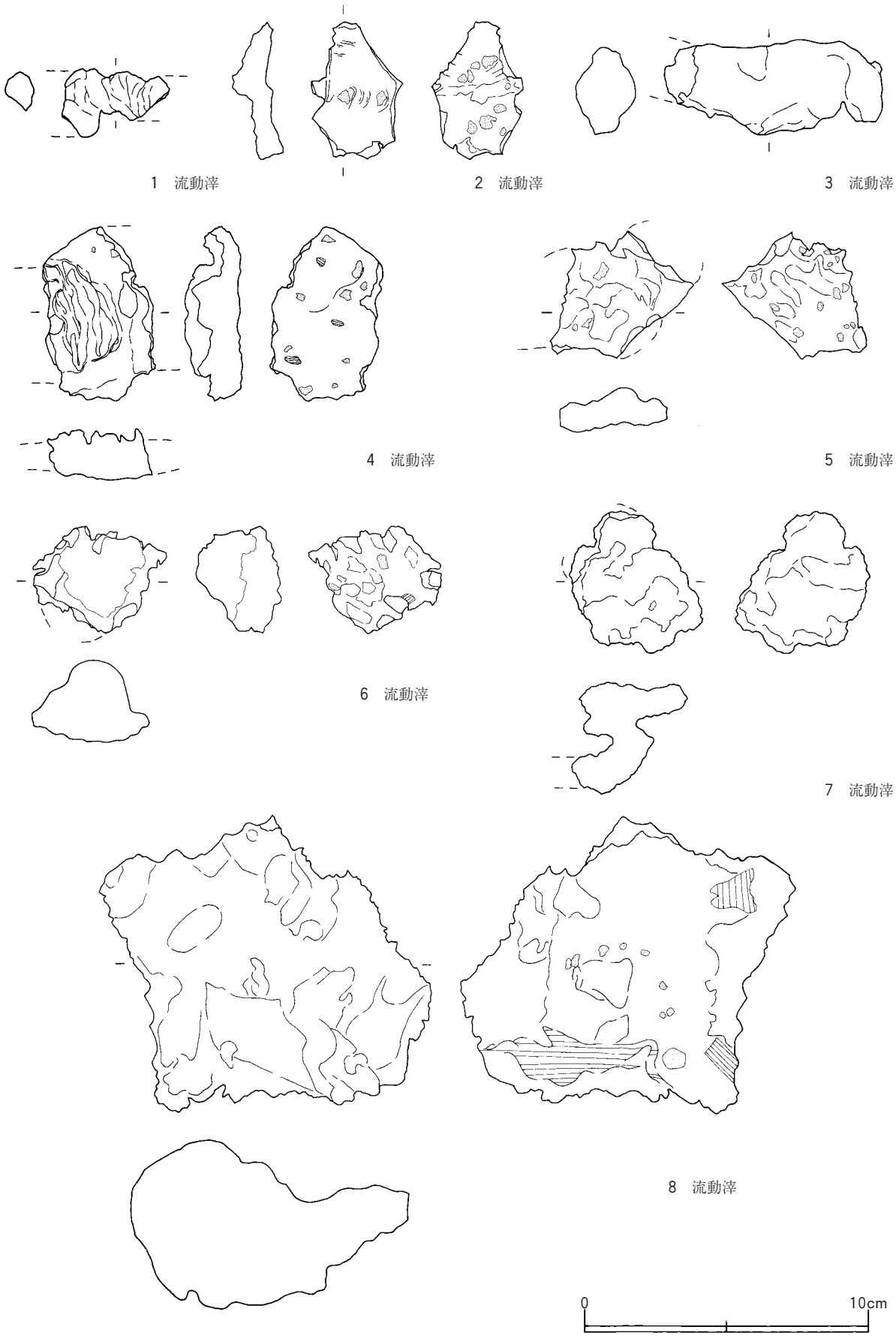


5　流出溝滓（細）

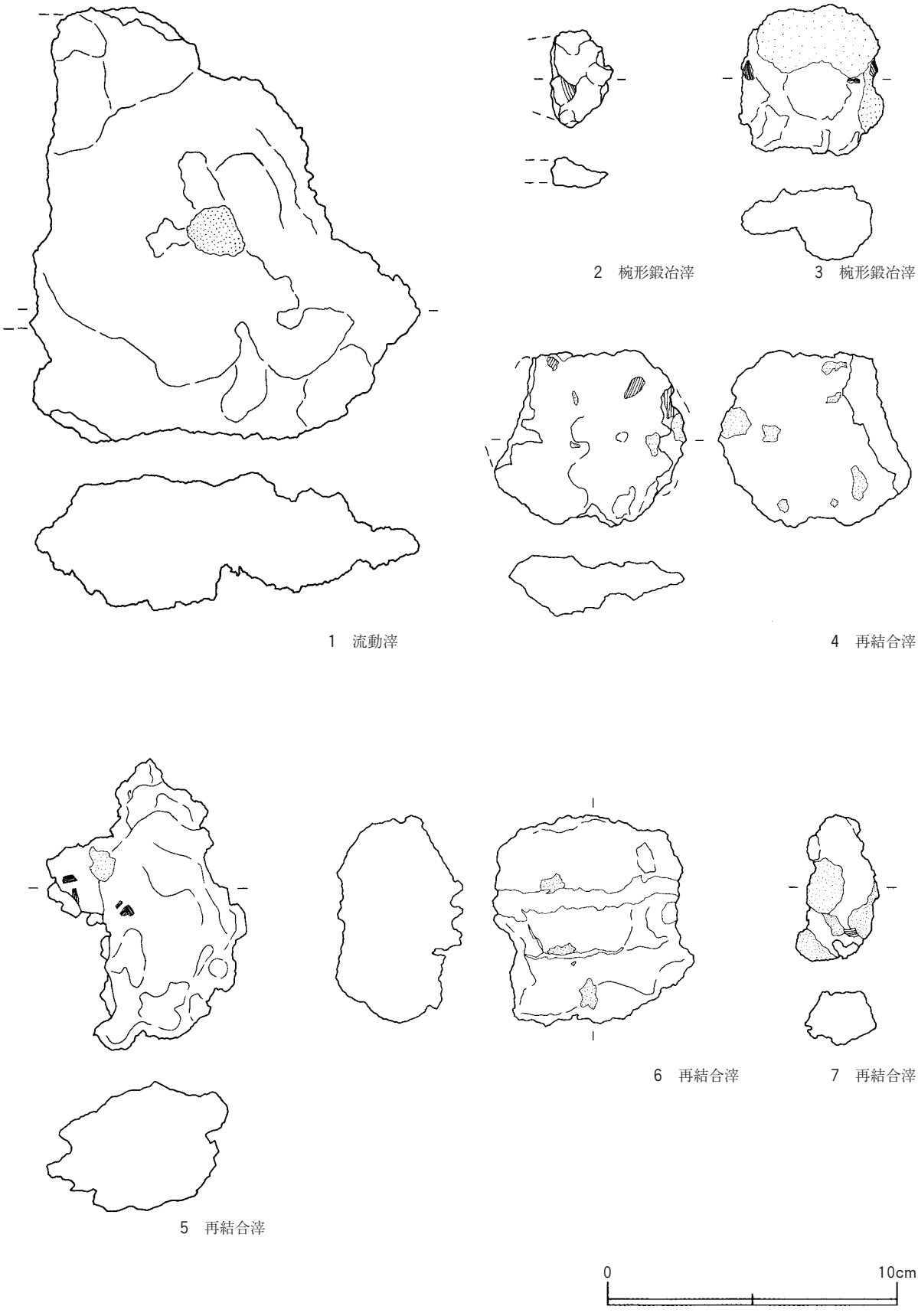
6　流出溝滓

0　10cm

第127図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑤

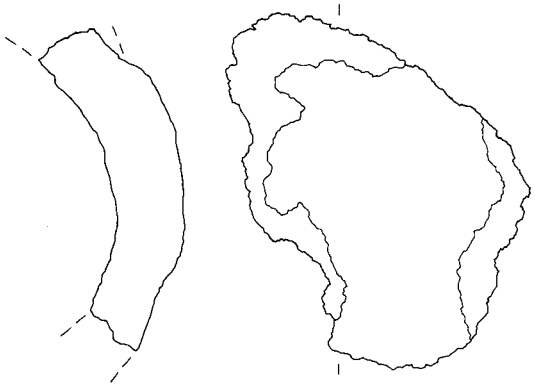


第128図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑥

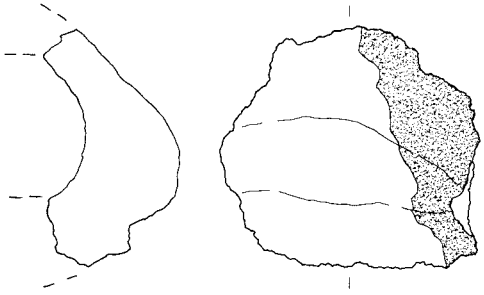


第129図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑦

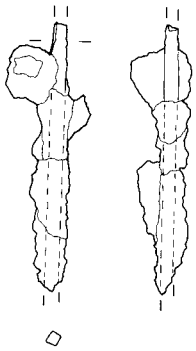
1　羽口



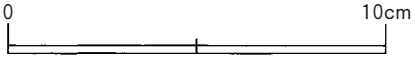
2　羽口



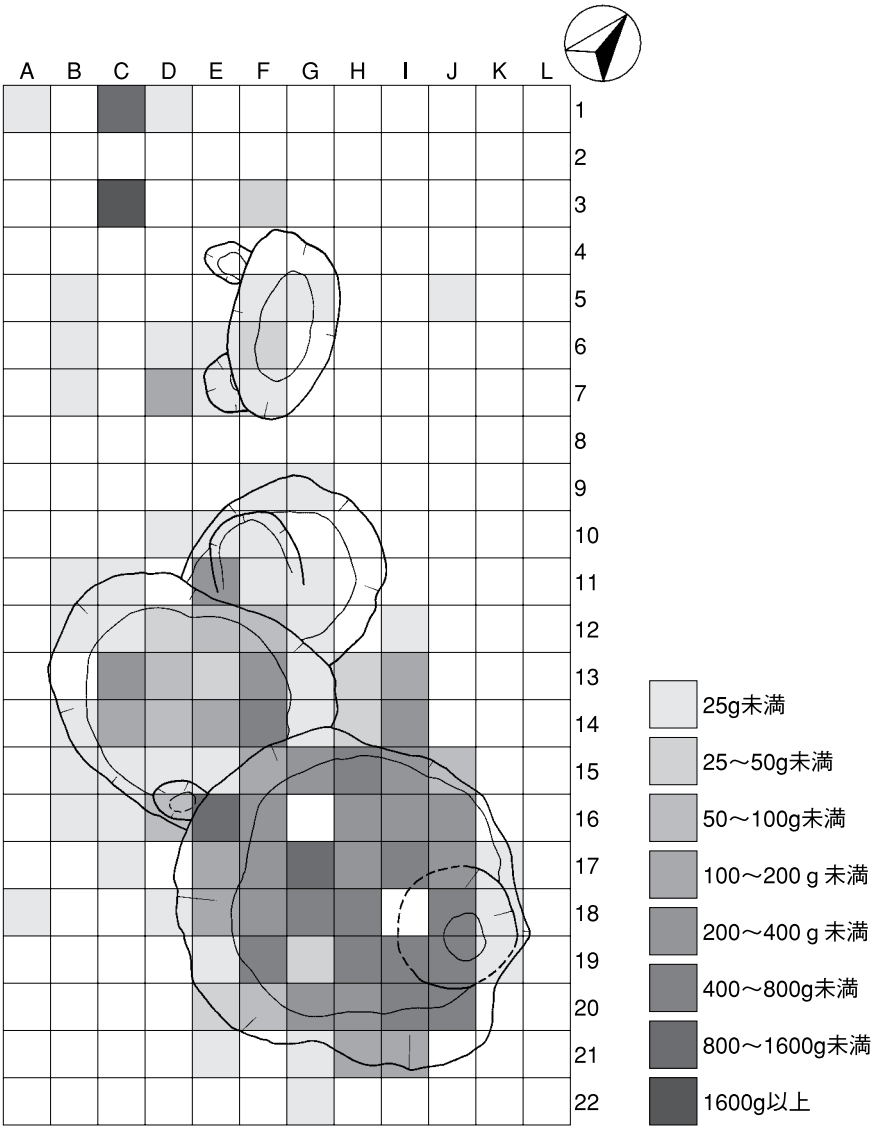
3　羽口



4　鉄鏃



第130図　ＳＳ2000内出土製鉄関連遺物⑧

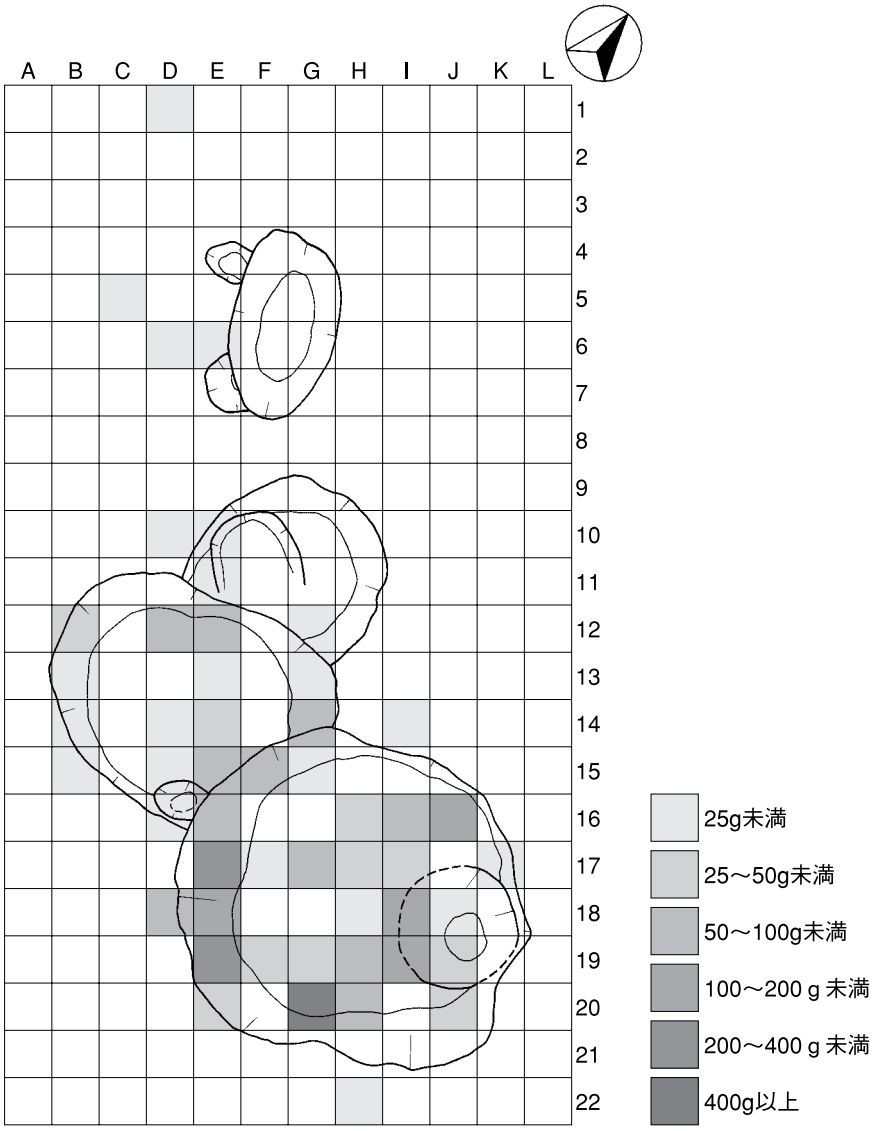


炉壁（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
1.1	0.0	1190.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	4998.6	0.0	0.0	26.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.4	5.4	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	5
0.0	19.7	0.0	2.1	2.7	47.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	13.4	0.0	141.4	1.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	3.0	5.4	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	8.8	17.0	0.0	202.3	1.8	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	6.0	10.1	27.1	86.0	53.4	22.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	234.8	54.6	29.5	292.5	21.6	41.3	102.2	0.0	0.0	0.0	13
0.0	2.3	196.3	78.0	138.8	496.0	14.7	40.4	201.6	0.0	0.0	0.0	14
0.0	5.1	0.6	7.1	20.9	117.4	251.7	424.4	213.0	80.4	0.0	0.0	15
0.0	1.7	1.9	77.3	1446.8	319.6	0.0	353.5	252.8	231.6	0.0	0.0	16
0.0	0.0	10.0	0.0	177.7	372.7	1316.3	308.0	414.9	396.2	1.1	0.0	17
0.4	0.0	0.0	21.6	191.0	205.8	551.6	631.4	0.0	710.4	2.4	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	7.9	493.8	42.5	518.4	458.7	635.0	1.9	0.0	19
0.0	0.0	0.0	0.0	46.1	50.1	333.3	248.9	568.2	764.2	0.0	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	10.9	137.4	135.3	0.0	0.0	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　22425.9g

第131図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(炉壁)

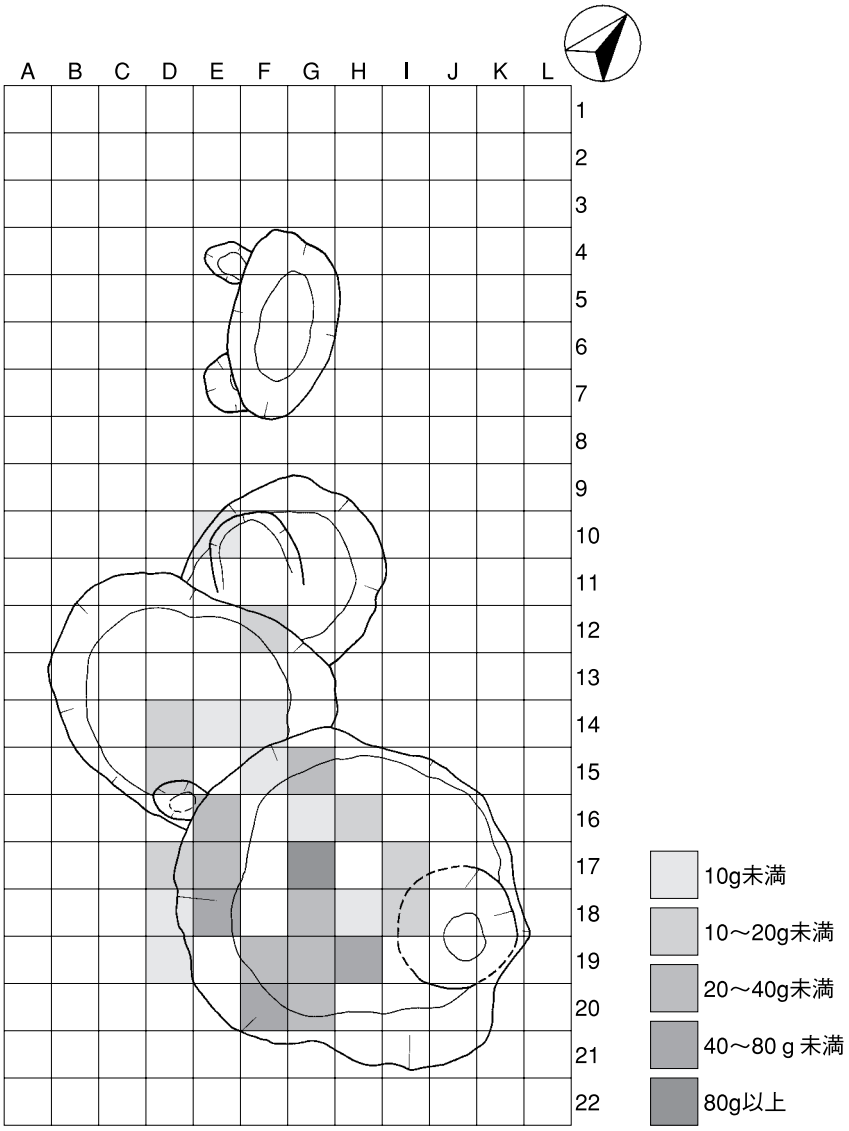


炉内滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	3.0	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	15.4	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	36.6	0.0	87.2	79.4	0.0	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	8.1	0.0	0.0	9.7	0.0	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	20.5	0.0	10.5	28.5	0.0	61.6	0.0	18.9	0.0	0.0	0.0	14
0.0	12.8	0.0	7.7	56.8	54.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15
0.0	0.0	0.0	7.0	60.8	0.0	0.0	37.7	86.6	159.6	0.0	0.0	16
0.0	0.0	0.0	0.0	350.7	12.0	53.7	44.2	41.2	0.0	4.1	0.0	17
0.0	0.0	0.0	57.7	101.3	0.0	0.0	11.3	147.3	20.0	0.0	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	308.9	27.3	32.6	50.4	197.7	43.3	0.0	0.0	19
0.0	0.0	0.0	0.0	33.2	0.0	829.1	73.5	0.0	27.7	0.0	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　3381.8g

第132図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（炉内滓）

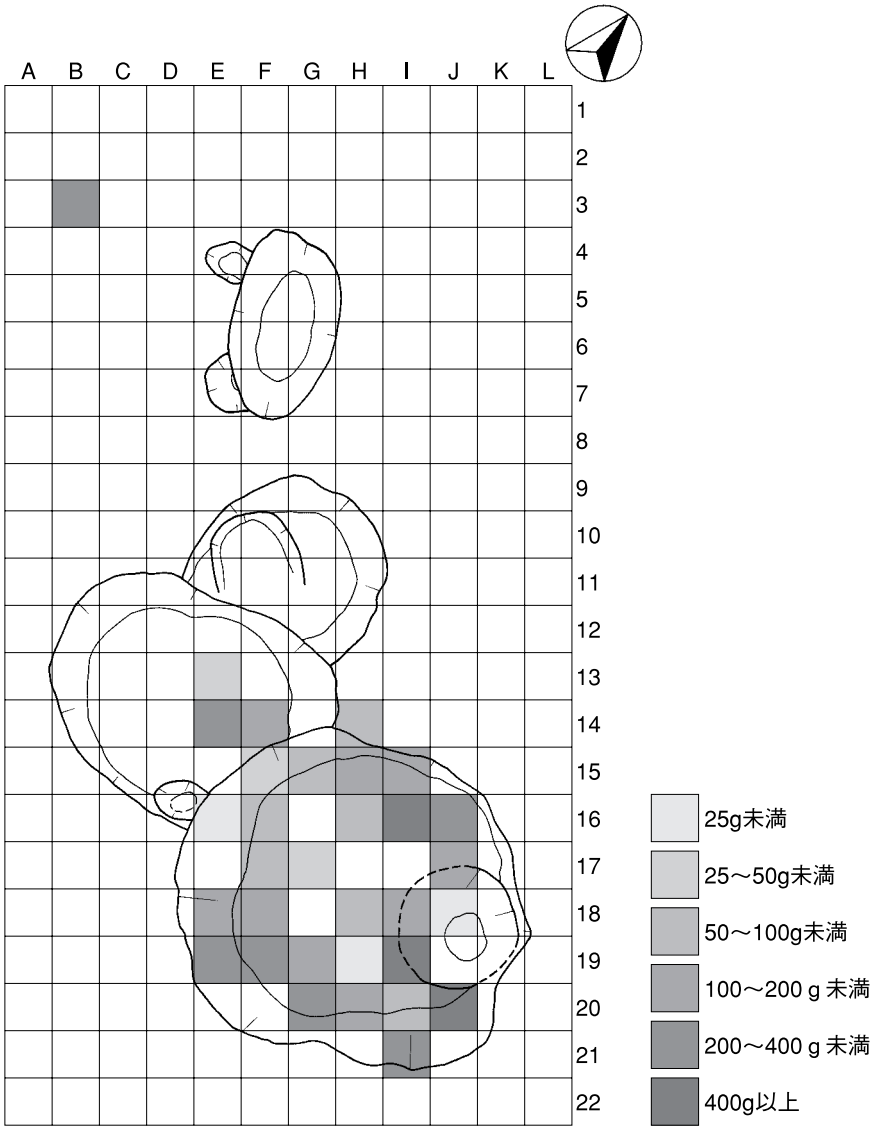


単位流動滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	17.3	5.7	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14
0.0	0.0	0.0	15.6	0.0	6.8	23.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15
0.0	0.0	0.0	0.0	27.8	0.0	5.9	14.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16
0.0	0.0	0.0	14.8	23.7	0.0	916.0	0.0	19.5	0.0	0.0	0.0	17
0.0	0.0	0.0	2.6	46.3	0.0	33.5	7.8	13.1	0.0	0.0	0.0	18
0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	31.7	33.7	45.1	0.0	0.0	0.0	0.0	19
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	33.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　1433.4g

第133図　ＳＳ3946重量別遺物分布図(単位流動滓)

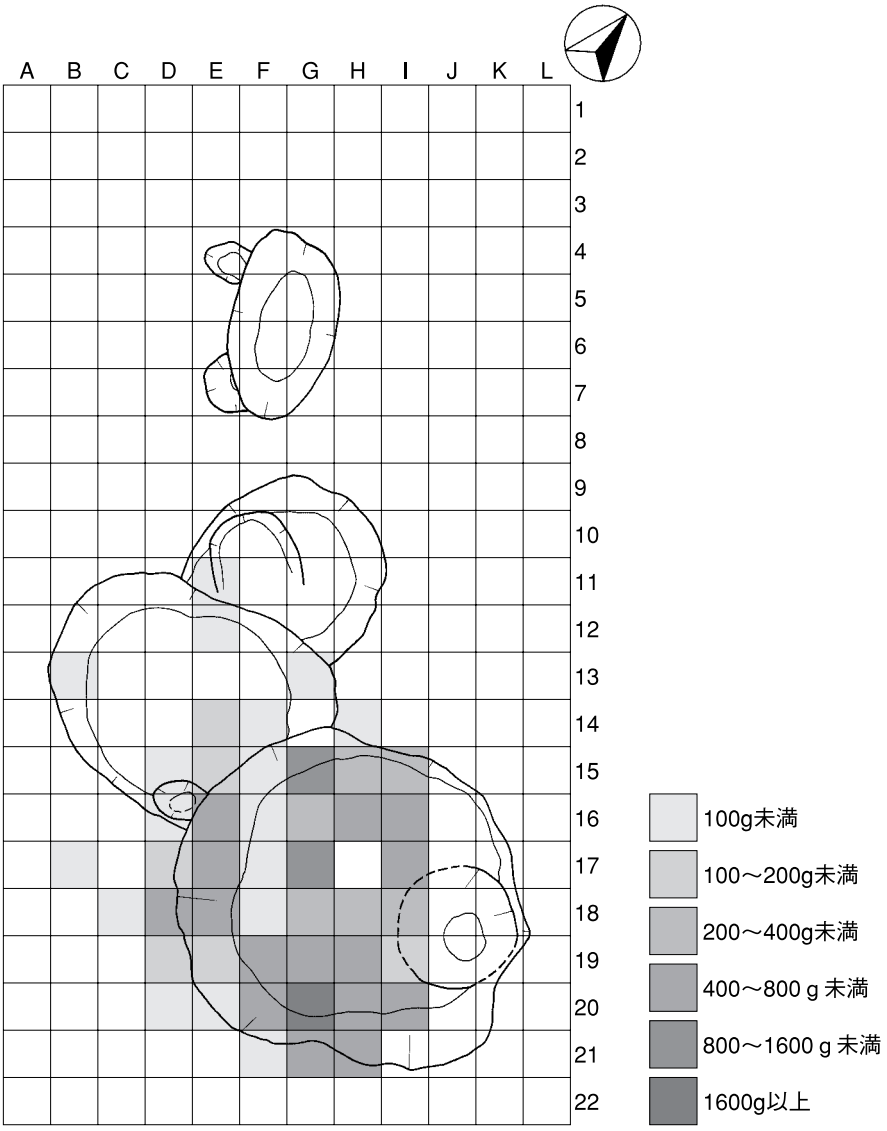


流出孔滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	250.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	0.0	49.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	308.8	101.4	0.0	62.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	39.8	98.9	128.4	111.5	0.0	0.0	0.0	15
0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	79.6	0.0	78.1	630.7	210.6	0.0	0.0	16
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	82.8	28.4	0.0	0.0	197.9	0.0	0.0	17
0.0	0.0	0.0	0.0	167.7	146.7	0.0	57.8	193.0	22.7	0.0	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	317.8	307.6	125.9	17.1	505.4	0.0	0.0	0.0	19
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	331.5	183.4	65.7	572.8	0.0	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	354.1	0.0	0.0	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　5849.7g

第134図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（流出孔滓）

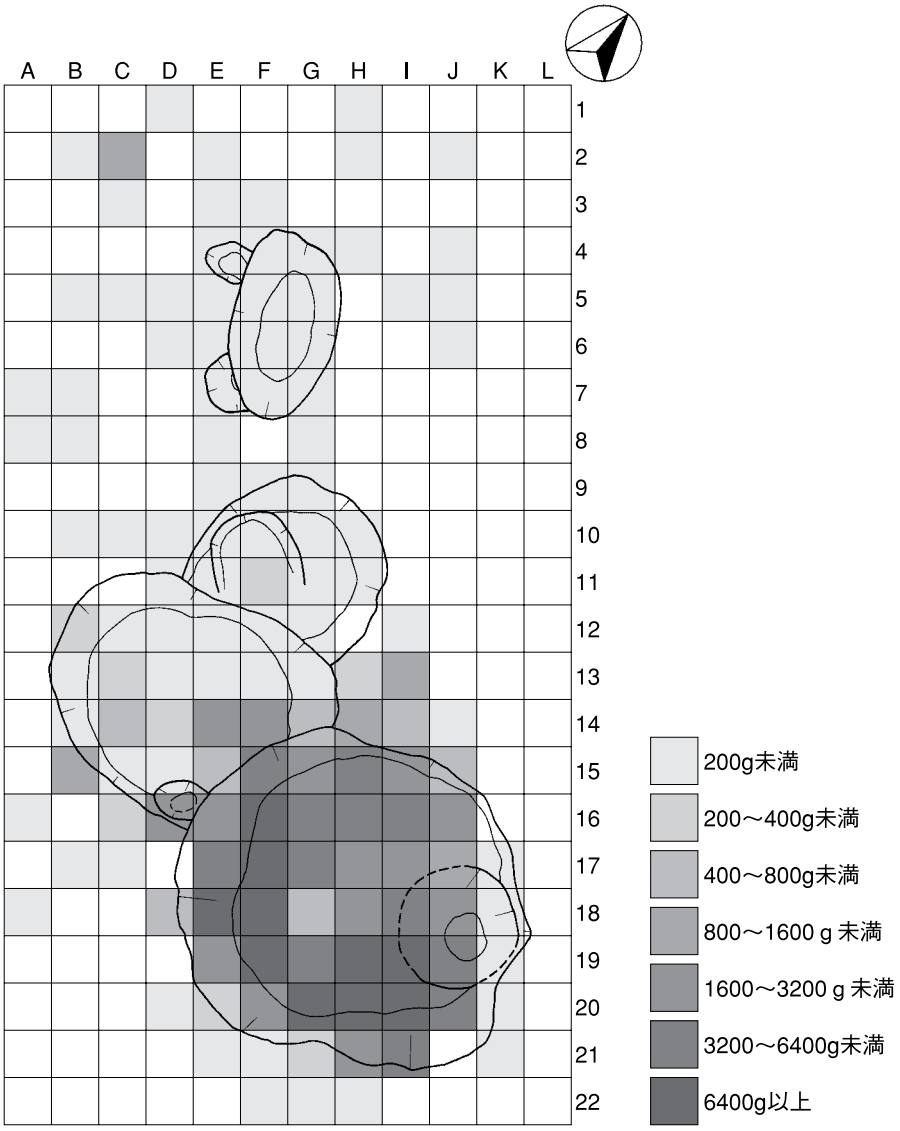


流出溝滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	22.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	66.6	0.0	0.0	0.0	0.0	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	0.0	0.0	0.0	177.6	63.4	0.0	50.4	0.0	0.0	0.0	0.0	14
0.0	0.0	0.0	15.5	195.8	44.7	997.7	257.7	291.3	0.0	0.0	0.0	15
0.0	0.0	0.0	43.4	522.7	38.8	205.4	437.4	518.5	0.0	0.0	0.0	16
0.0	6.0	0.0	139.2	524.9	43.1	1007.3	0.0	546.8	0.0	0.0	0.0	17
0.0	0.0	36.0	782.9	421.9	79.0	247.2	340.6	364.2	0.0	0.0	0.0	18
0.0	0.0	0.0	130.8	153.5	656.4	638.6	513.0	117.4	0.0	0.0	0.0	19
0.0	0.0	0.0	15.1	52.2	521.6	3551.4	636.6	514.5	0.0	0.0	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	82.8	401.0	659.2	0.0	0.0	0.0	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　17154.1g

第135図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（流出溝滓）

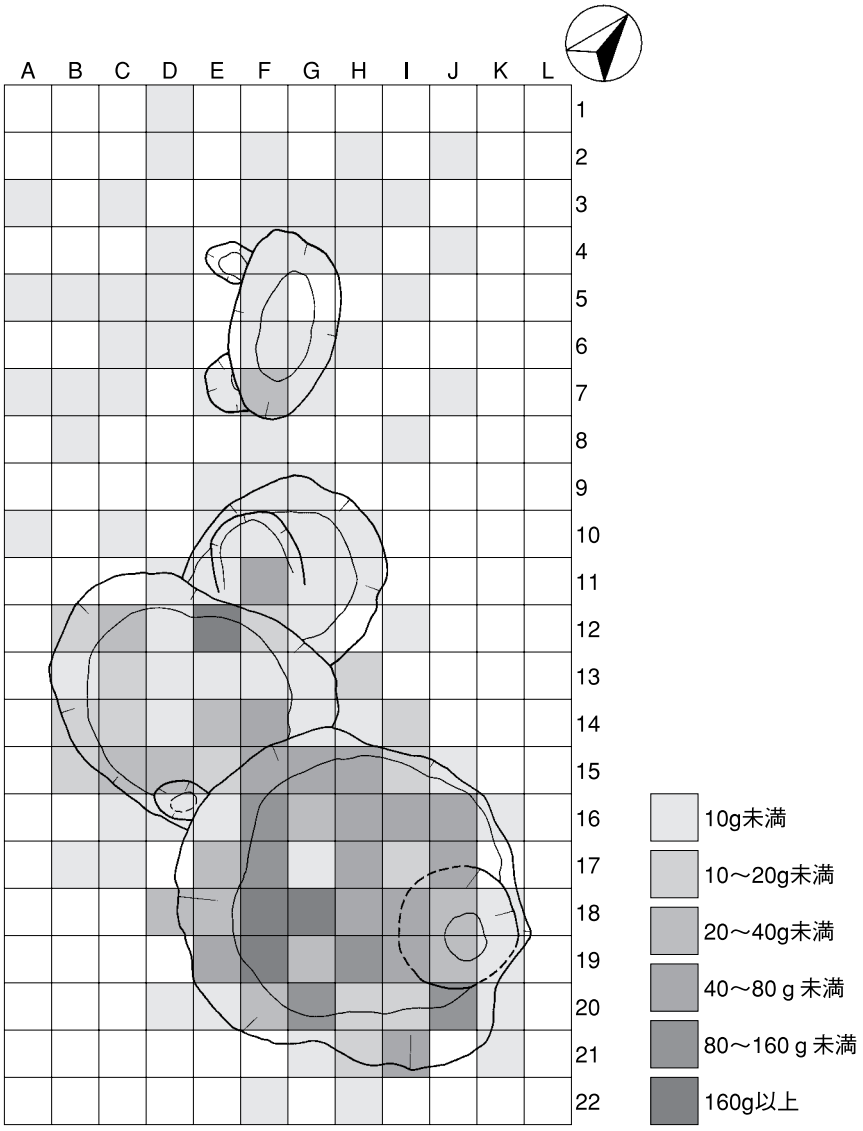


流動滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	127.1	1142.5	0.0	2.4	0.0	0.0	1.3	0.0	6.6	0.0	0.0	2
0.0	0.0	30.4	0.0	7.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	23.1	7.3	6.9	0.0	9.6	0.0	0.0	4
0.0	39.2	1.1	1.5	3.6	7.3	47.9	0.0	2.3	3.9	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	38.7	9.8	25.3	10.2	0.0	0.0	20.9	0.0	0.0	6
37.8	9.1	0.0	0.0	17.4	2.8	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
2.1	3.3	0.0	0.0	12.5	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	16.4	7.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	8.0	12.9	34.2	6.9	4.6	61.2	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	7.7	16.5	317.7	28.5	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	270.6	150.1	163.8	152.7	193.6	132.6	0.0	27.2	0.0	0.0	0.0	12
0.0	41.8	385.9	180.3	115.8	74.2	94.8	297.3	1066.3	0.0	0.0	0.0	13
0.0	54.8	517.3	261.8	2306.8	2076.0	532.2	877.9	485.5	2.1	0.0	0.0	14
0.0	1087.4	50.4	190.1	689.3	3708.8	2667.9	5987.7	3165.0	799.4	0.0	0.0	15
0.5	0.0	275.7	1709.9	2215.0	7820.6	5837.1	5150.6	4678.7	2191.5	0.0	0.0	16
0.0	11.8	179.2	0.0	5281.0	13730.1	4366.5	2613.6	2623.2	1532.1	15.8	0.0	17
29.7	0.0	0.0	532.2	6699.9	9260.6	756.7	2921.8	5509.4	2136.1	25.9	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	2492.6	9707.8	4939.4	8906.2	8058.7	3726.9	12.9	0.0	19
0.0	0.0	0.0	7.8	388.4	1833.1	11965.8	9843.5	7843.6	5551.1	3.2	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	40.8	4.8	241.4	3032.0	5668.9	0.0	4.2	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.6	16.7	10.5	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　203435.3g

第136図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（流動滓）

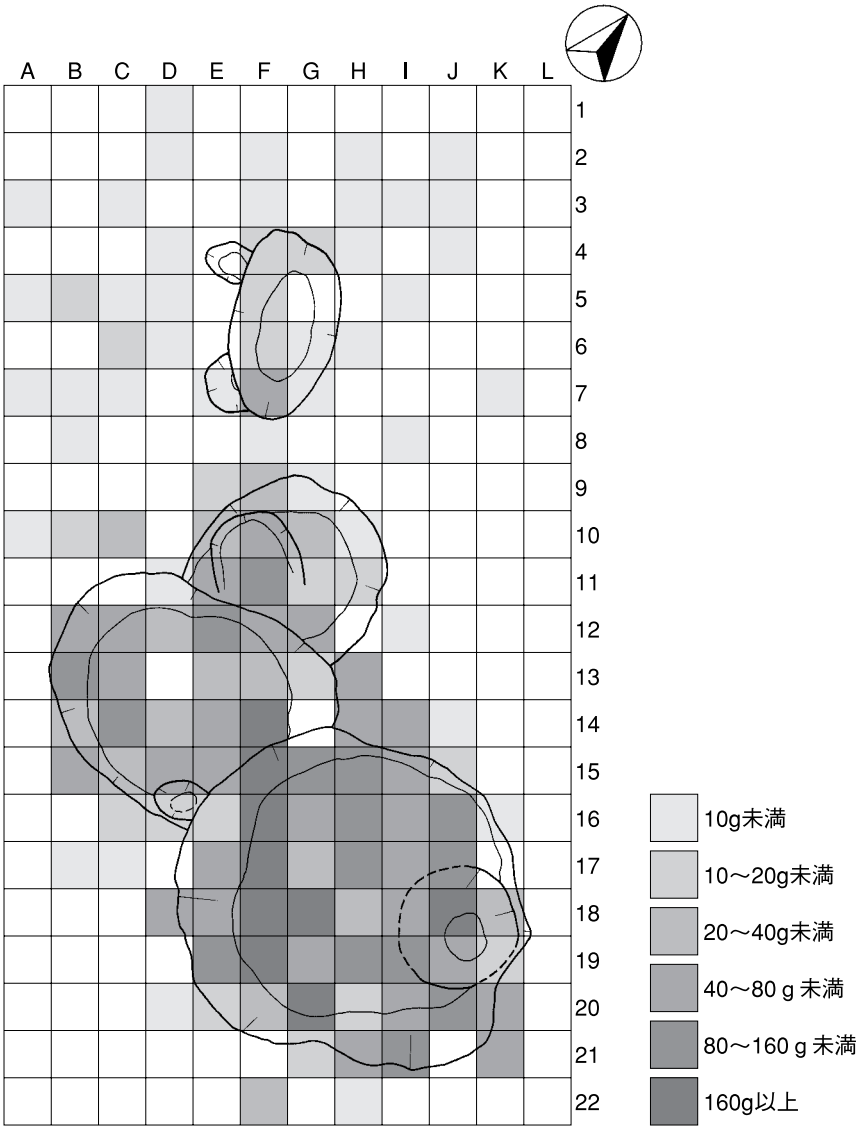


鉄滓（1cm未満）（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	2
0.2	0.0	4.1	0.0	0.0	0.6	0.5	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	4.0	2.0	0.1	0.0	1.1	0.0	0.0	4
0.8	2.3	0.5	1.1	0.0	1.6	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.5	1.4	0.0	4.2	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.1	0.1	0.4	0.0	1.3	20.8	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	7
0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.3	0.0	7.8	0.0	5.8	8.7	3.5	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.3	7.3	43.7	1.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	14.3	27.8	9.3	264.5	17.8	5.6	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	7.0	15.6	0.2	8.9	5.6	2.1	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	15.9	19.1	5.8	29.4	77.7	1.1	3.2	19.7	0.0	0.0	0.0	14
0.0	15.4	25.0	36.8	11.5	57.5	41.4	48.9	18.1	6.1	0.0	0.0	15
0.0	0.0	8.0	9.3	6.0	106.4	38.9	48.9	53.7	44.7	1.2	0.0	16
0.0	0.2	2.3	0.0	31.3	103.8	1.7	44.1	14.0	62.5	0.0	0.0	17
0.0	0.0	0.0	33.9	25.9	179.5	171.1	40.1	56.6	25.6	2.9	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	76.4	250.6	27.6	121.2	52.7	28.2	1.1	0.0	19
0.0	0.0	0.0	0.6	3.5	23.0	91.3	15.4	17.3	94.9	0.9	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	14.1	75.6	0.0	0.4	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　2979.8g

第137図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（鉄滓１cm未満）

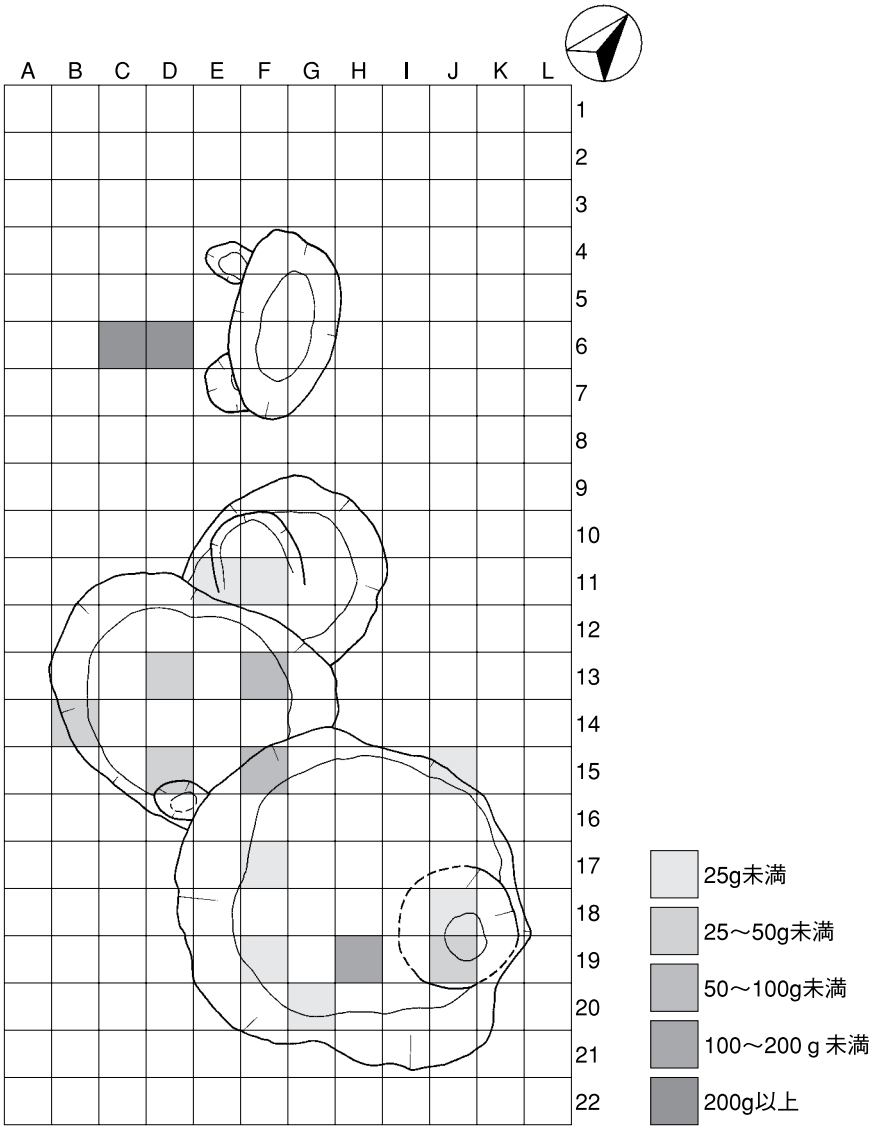


砂鉄（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.8	0.0	4.0	0.0	4.7	0.0	0.0	2
6.9	0.0	7.2	0.0	0.0	3.6	0.0	4.8	3.3	3.9	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	11.4	10.0	5.7	0.0	5.6	0.0	0.0	4
6.3	14.1	4.2	8.4	0.0	11.3	0.0	0.0	8.8	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	10.1	5.4	0.0	14.5	3.7	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	6
5.1	7.5	8.4	0.0	4.5	40.5	5.6	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0	7
0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	21.1	8.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
9.0	11.5	25.0	0.0	25.6	47.1	26.4	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	5.7	49.0	133.9	11.0	19.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	77.5	40.4	36.8	147.2	49.2	59.8	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	84.0	74.3	0.0	29.1	25.9	10.7	43.8	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	31.5	90.3	20.6	78.8	180.7	0.0	49.2	43.1	1.4	0.0	0.0	14
0.0	46.8	27.5	74.7	45.4	165.5	137.5	112.3	72.5	11.6	0.0	0.0	15
0.0	0.0	16.6	17.5	15.6	259.4	57.9	103.9	65.7	81.1	2.7	0.0	16
0.0	5.1	8.4	0.0	62.1	199.6	27.2	143.0	68.2	148.4	0.0	0.0	17
0.0	0.0	0.0	42.8	46.9	228.6	180.7	33.7	67.1	202.5	37.0	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	101.6	235.5	52.5	117.3	91.8	58.8	16.7	0.0	19
0.0	0.0	0.0	4.9	10.4	29.0	160.2	15.3	49.1	146.2	57.3	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1	40.1	122.1	0.0	43.1	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　6084.9g

第138図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（砂鉄）

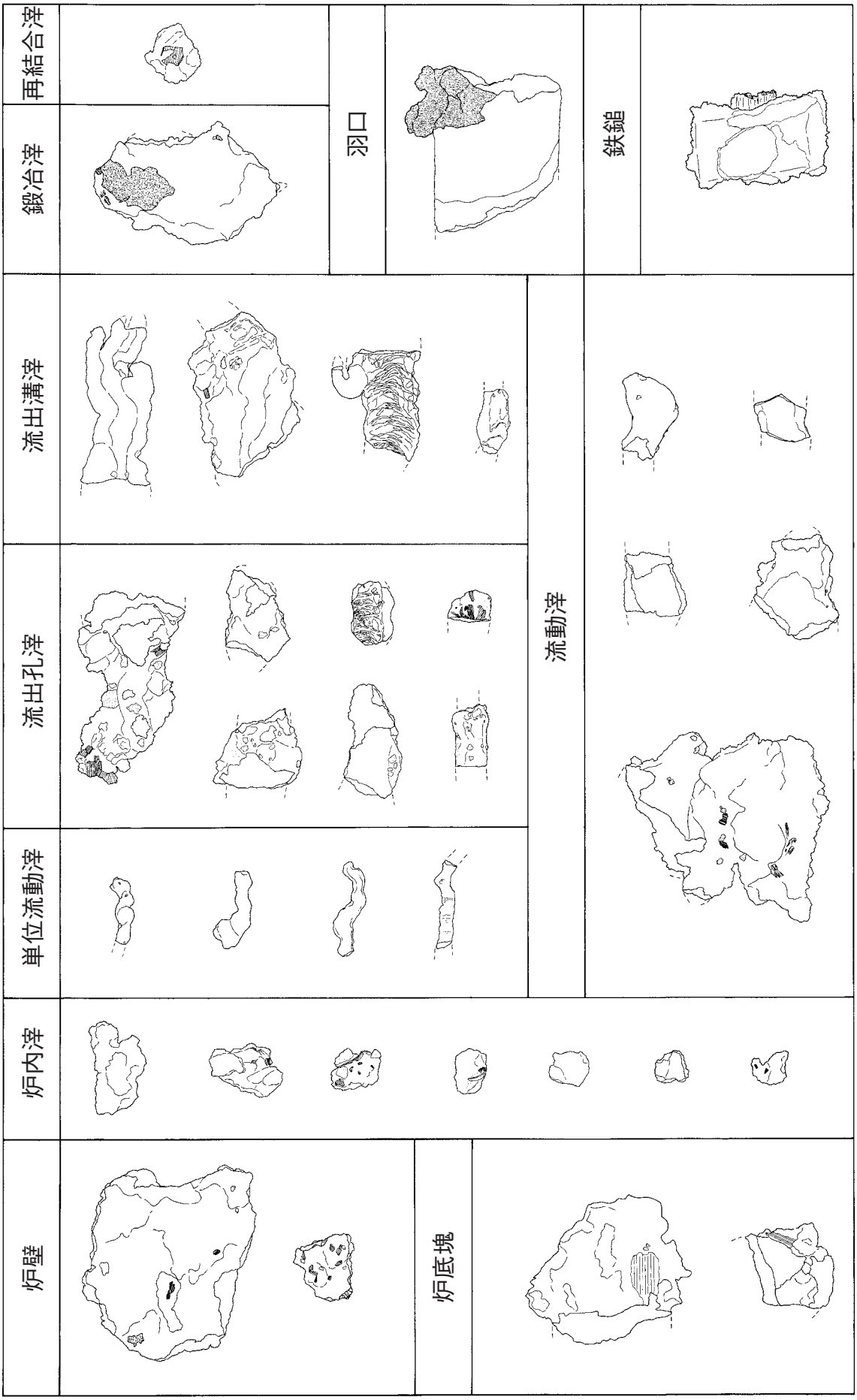


羽口（g）

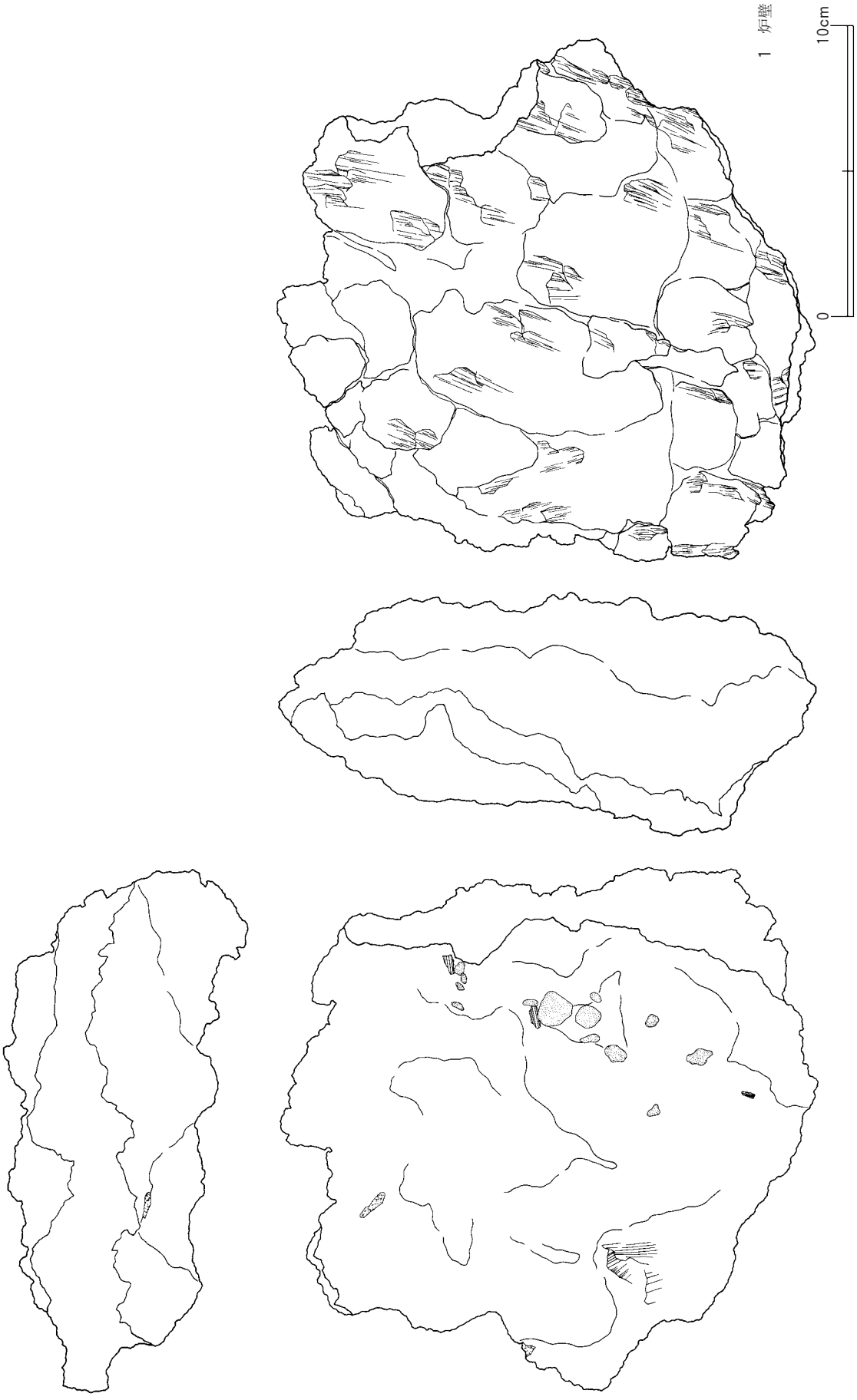
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	741.1	533.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	15.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
0.0	0.0	0.0	37.1	0.0	62.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13
0.0	40.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14
0.0	0.0	0.0	29.0	0.0	52.7	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	15
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	18
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	0.0	108.4	0.0	30.9	0.0	0.0	19
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

総計　1708.7g

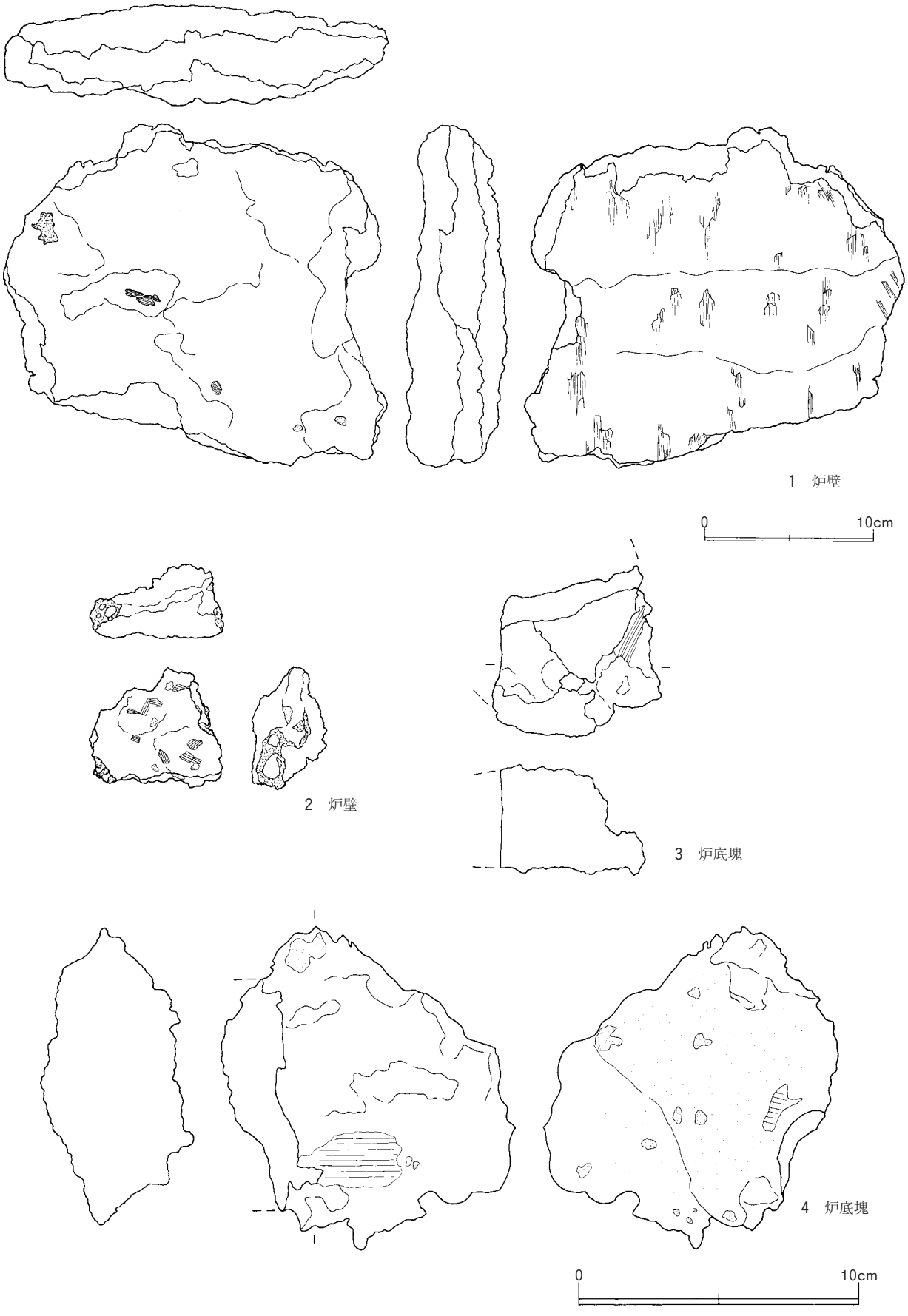
第139図　ＳＳ3946重量別遺物分布図（羽口）



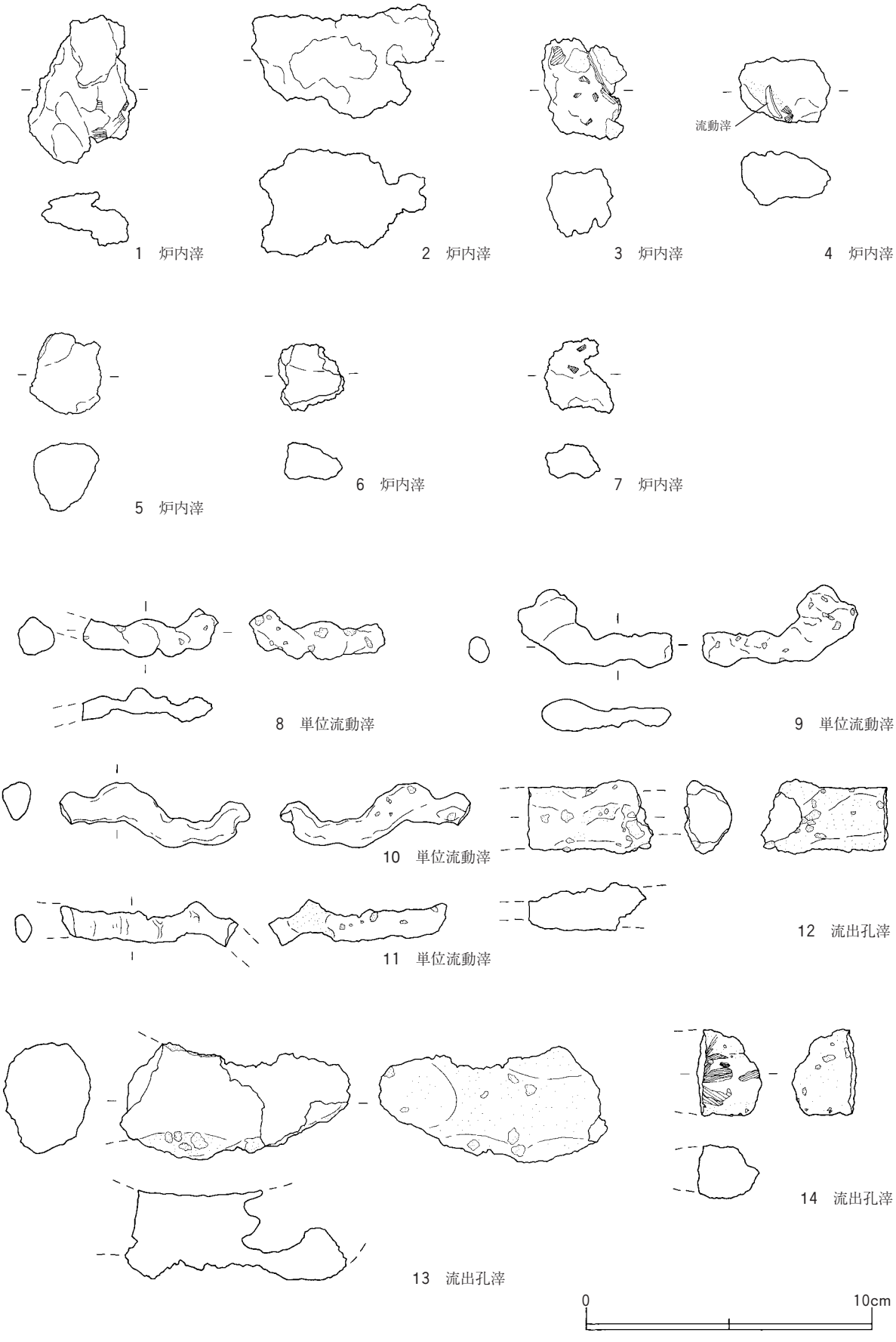
第140図　ＳＳ3946製鉄関連遺物構成図



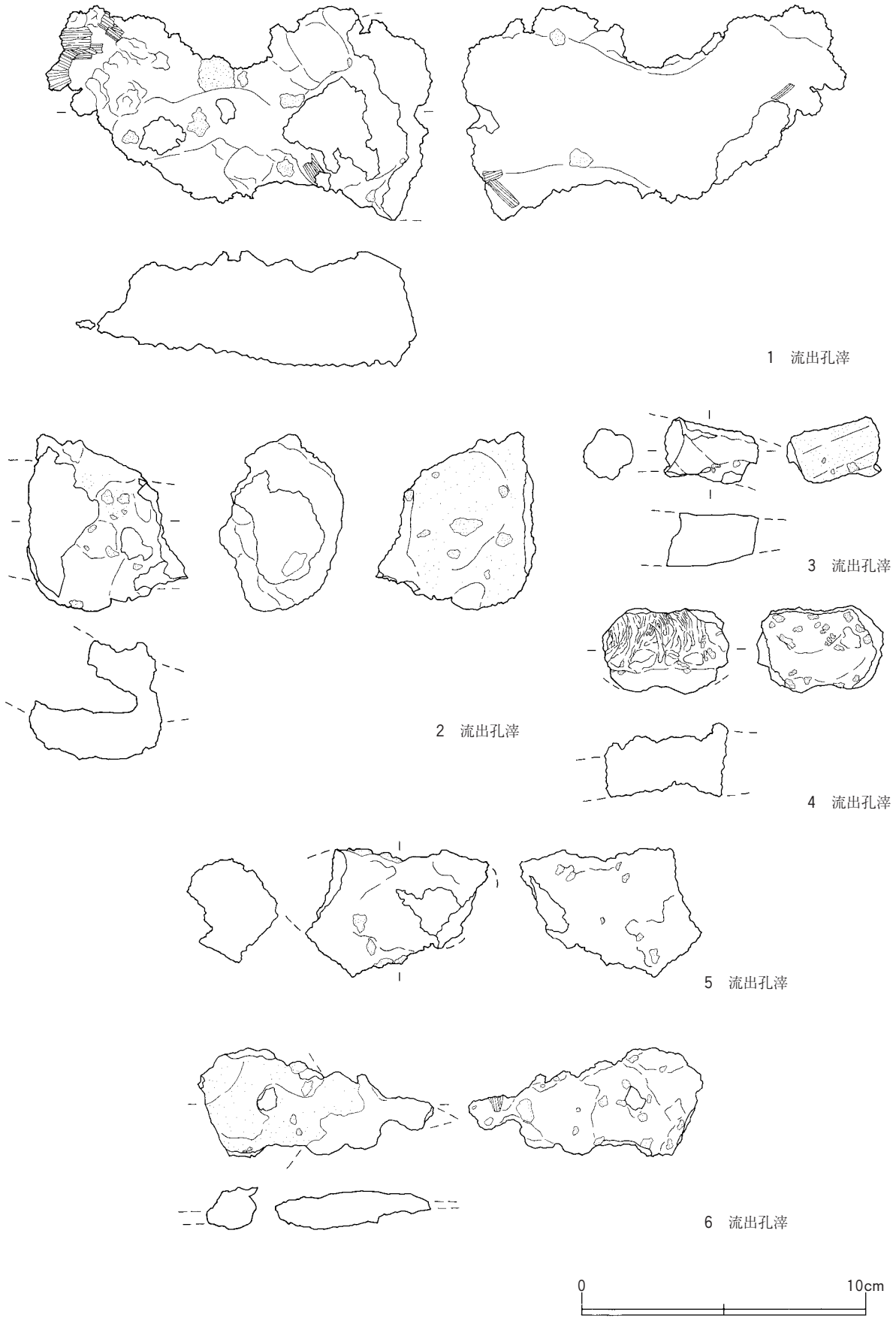
第141図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物①



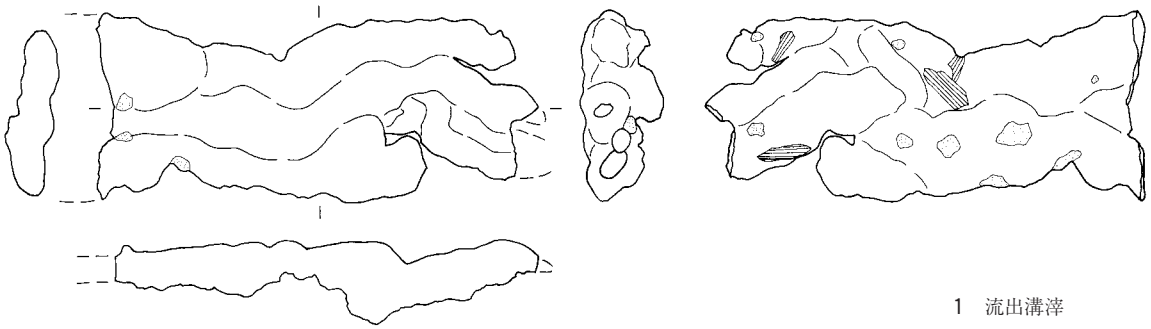
第142図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物②



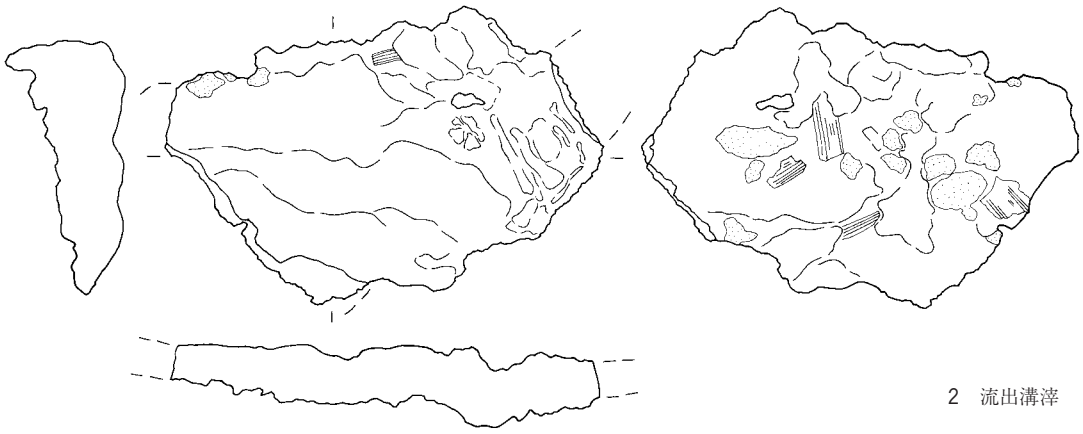
第143図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物③



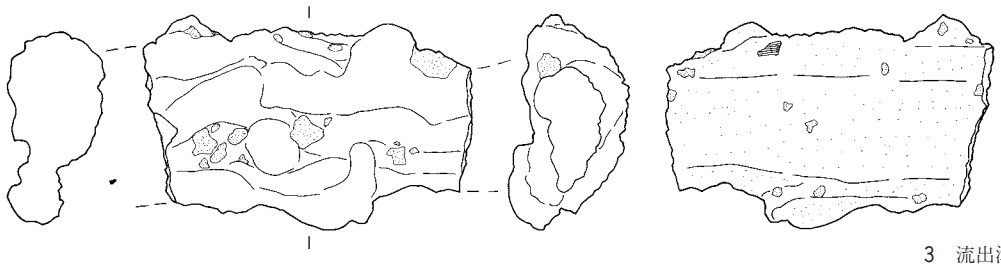
第144図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物④



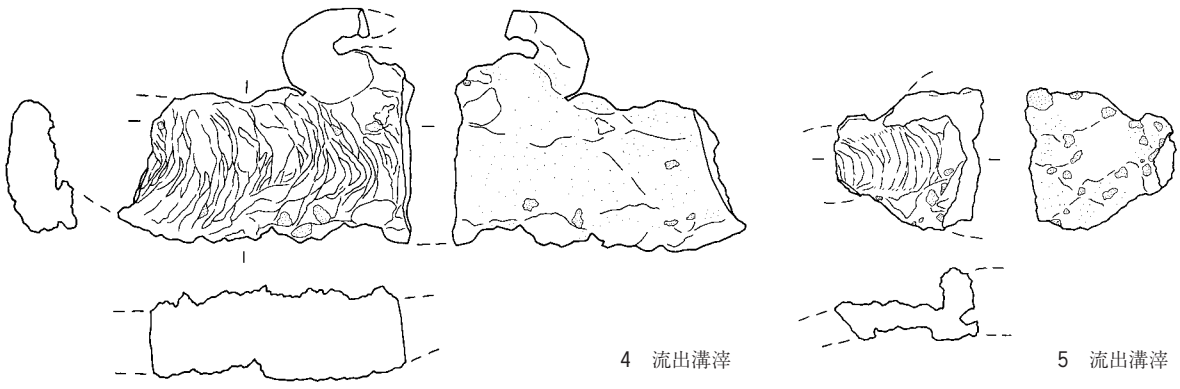
1　流出溝滓



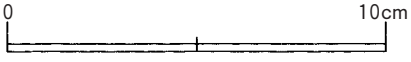
2　流出溝滓



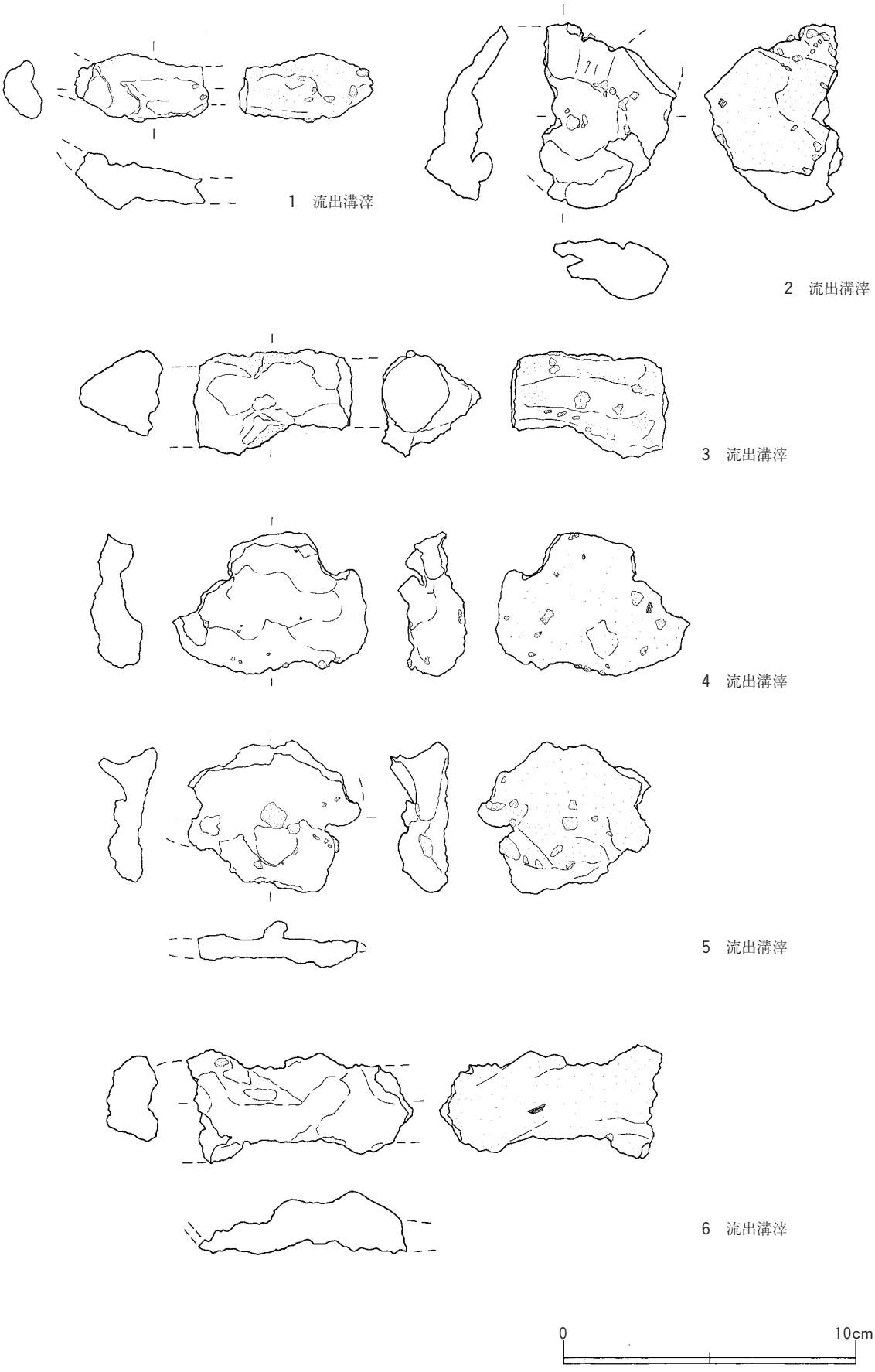
3　流出溝滓



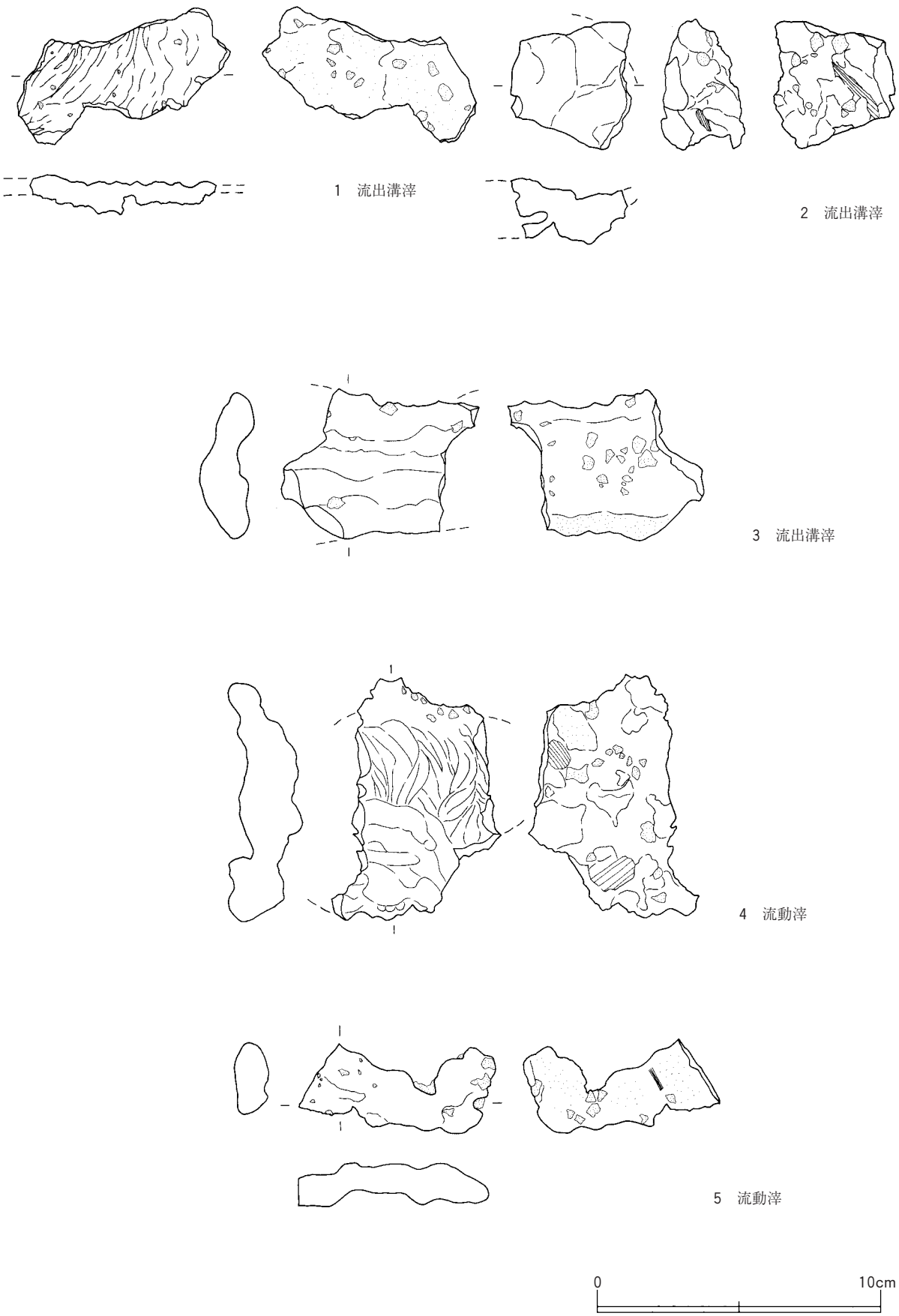
4　流出溝滓　　5　流出溝滓



第145図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑤

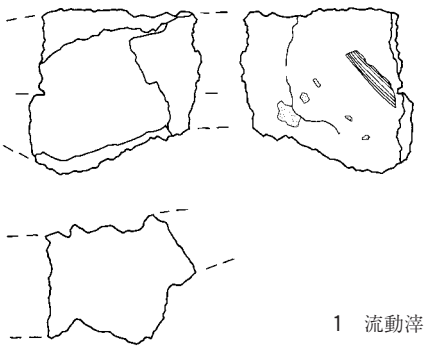


第146図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑥

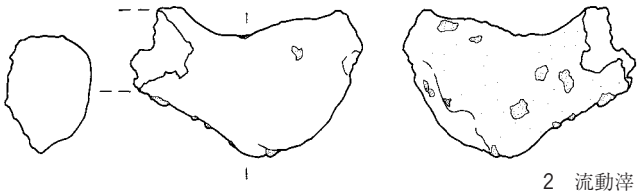


第147図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑦

第148図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑧

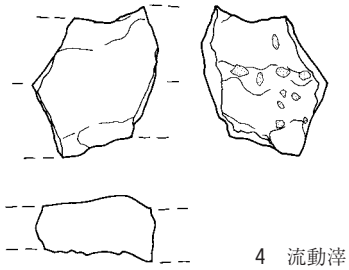


1　流動滓

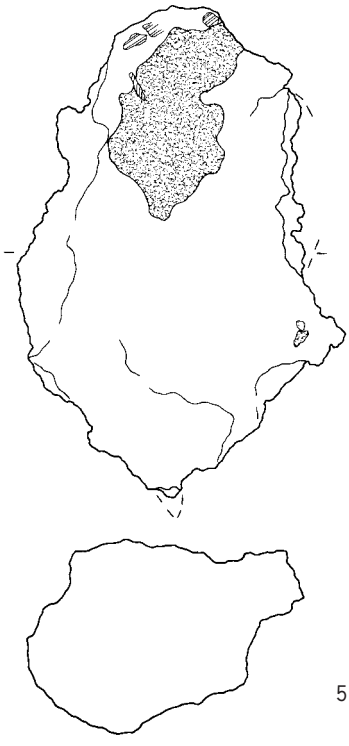


2　流動滓

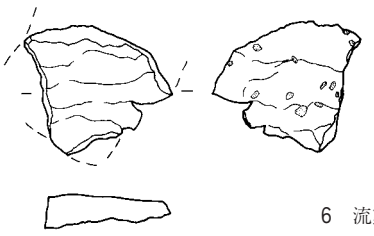
3　流動滓



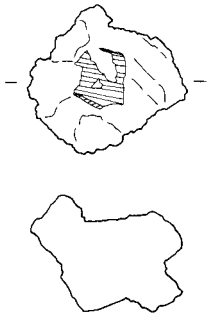
4　流動滓



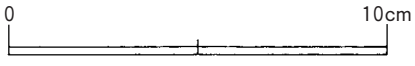
5　椀形鍛冶滓



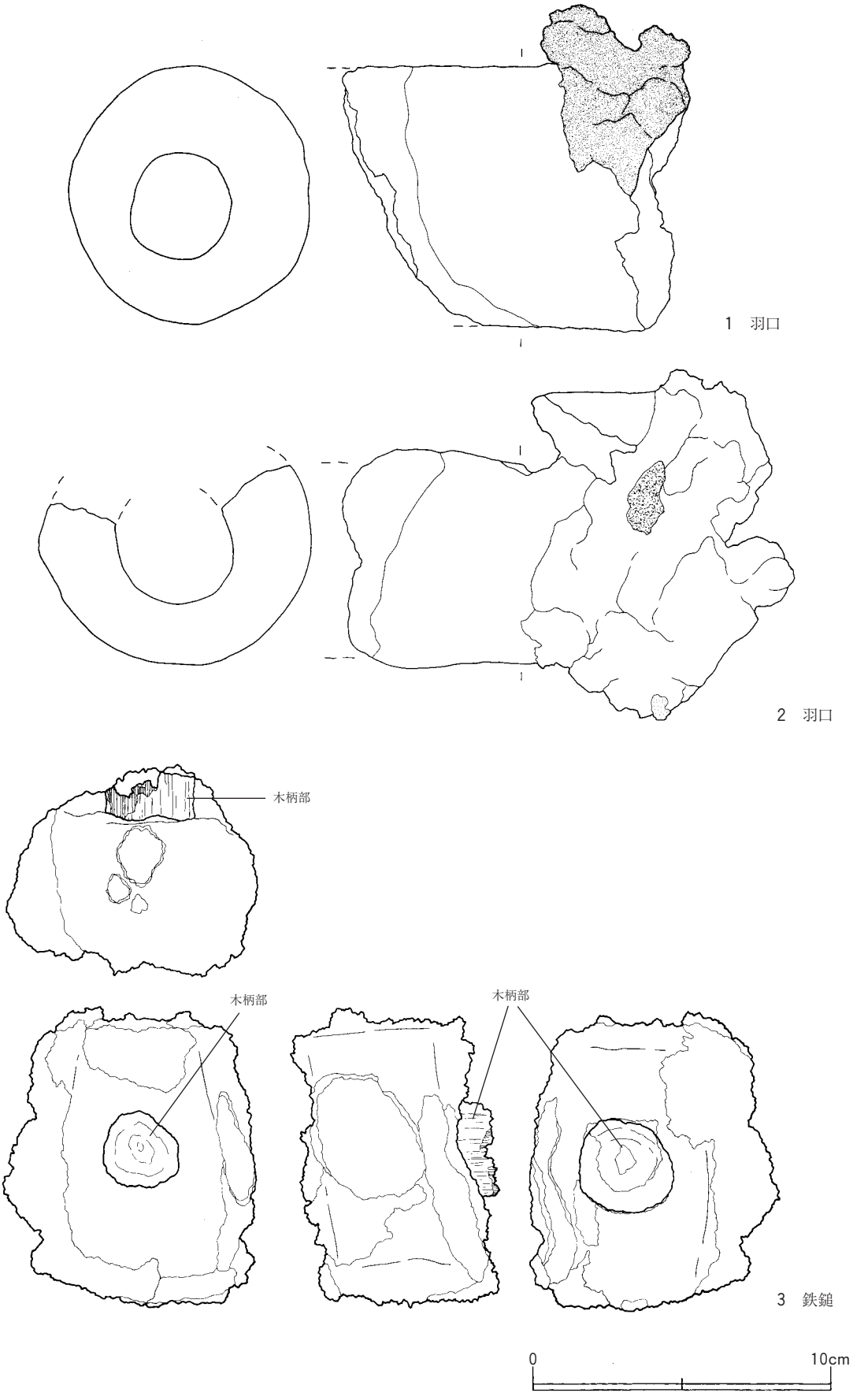
6　流動滓



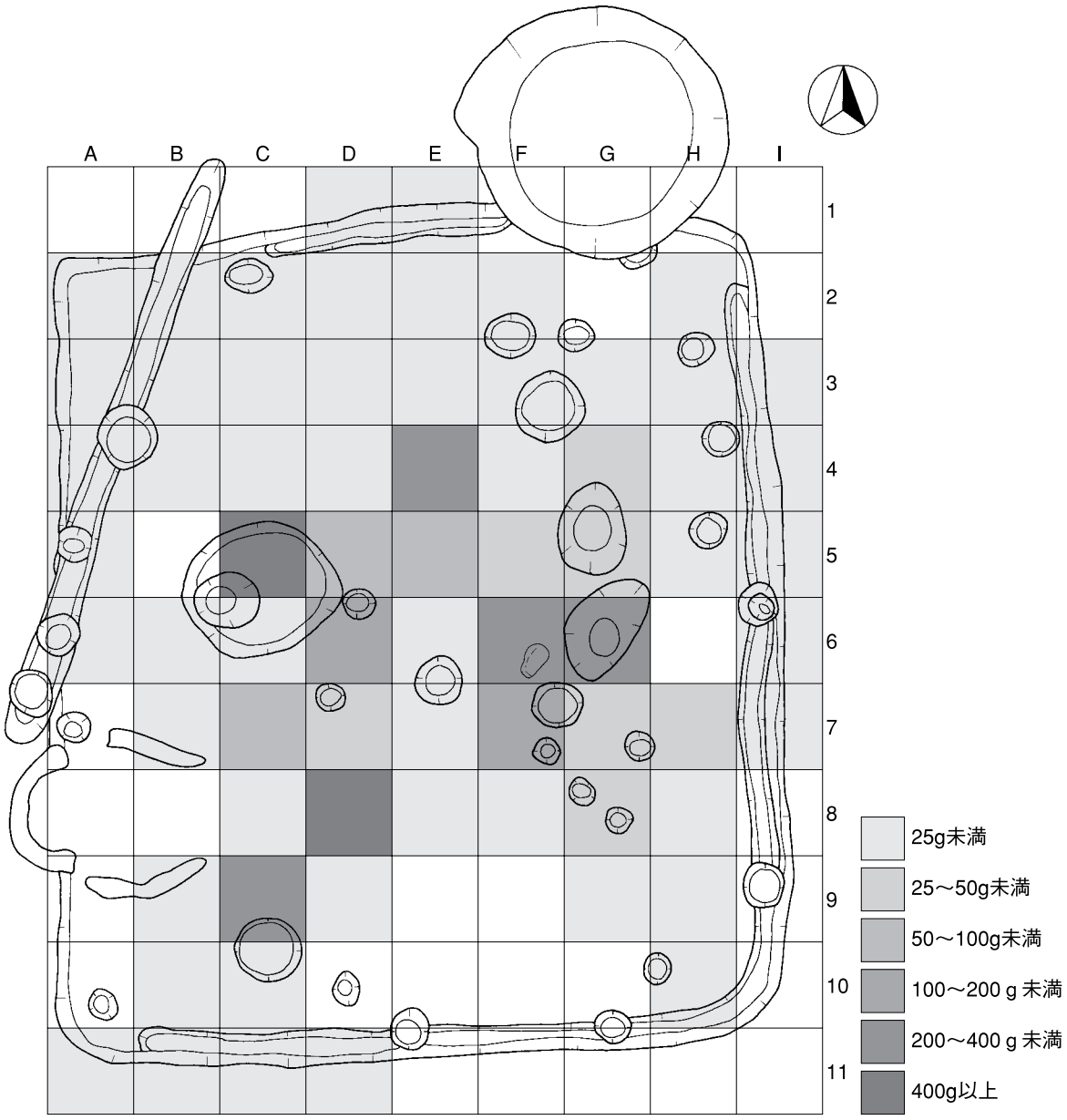
7　再結合滓



第149図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑨



第150図　ＳＳ3946内出土製鉄関連遺物⑩

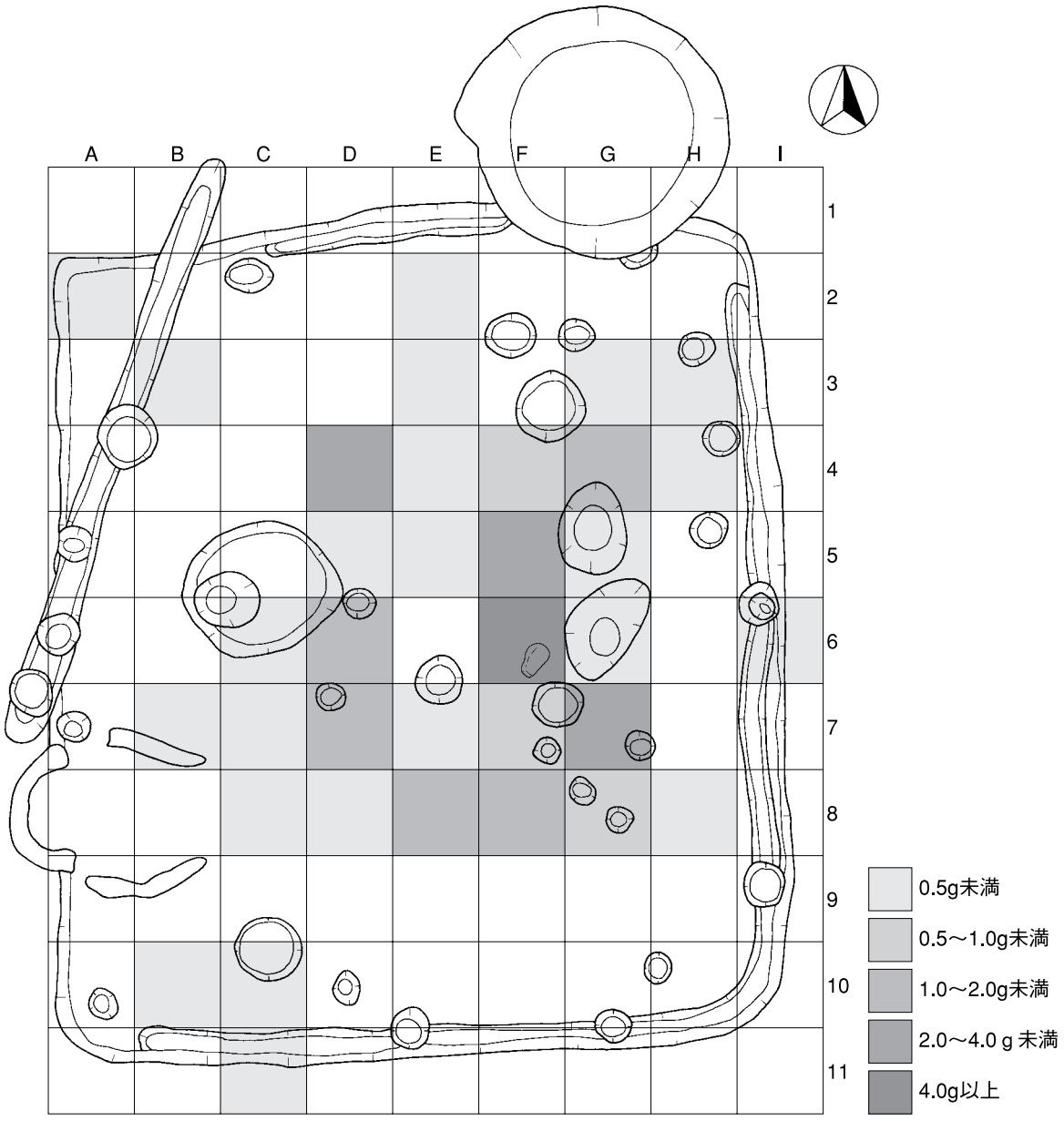


鉄滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	
0.0	0.0	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.7	0.2	0.2	9.3	0.6	0.5	0.0	1.5	0.0	2
0.1	0.7	0.8	3.8	0.6	0.1	2.0	1.2	0.2	3
0.1	0.6	5.0	19.0	216.8	2.0	27.3	2.2	2.1	4
0.4	0.0	447.7	52.8	55.2	46.7	29.2	1.5	0.3	5
0.2	0.3	1.9	152.7	0.2	336.3	335.4	0.0	0.1	6
0.0	0.8	60.1	42.9	17.5	119.8	28.5	41.3	1.0	7
0.0	0.0	8.2	413.9	7.8	12.3	33.9	2.8	0.0	8
0.0	1.2	217.4	8.3	0.0	0.0	4.3	1.1	0.0	9
0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	0.0	10
0.2	0.1	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11

総計　2790.5g

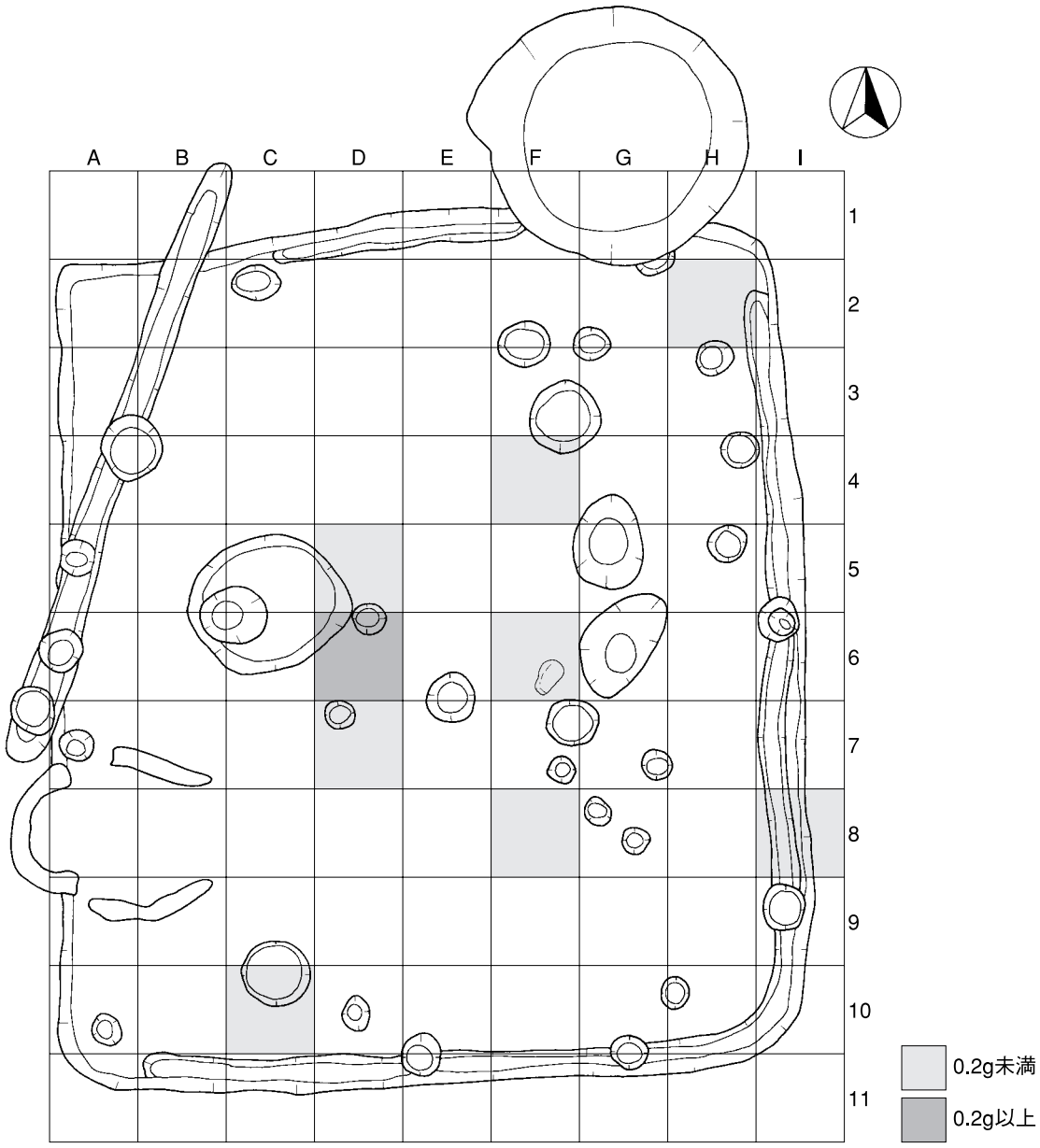
第151図　ＳＩ1800重量別遺物分布図（鉄滓）



鍛造剥片（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.1	0.0	3
0.0	0.0	0.0	2.3	0.1	0.7	1.0	0.1	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.3	0.2	2.2	0.1	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.2	1.2	0.0	11.0	0.3	0.0	0.1	6
0.0	0.1	0.1	1.4	0.3	0.9	2.1	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.1	0.4	1.1	1.2	0.7	0.3	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
								総計	29.4g

第152図　ＳＩ1800重量別遺物分布図（鍛造剥片）

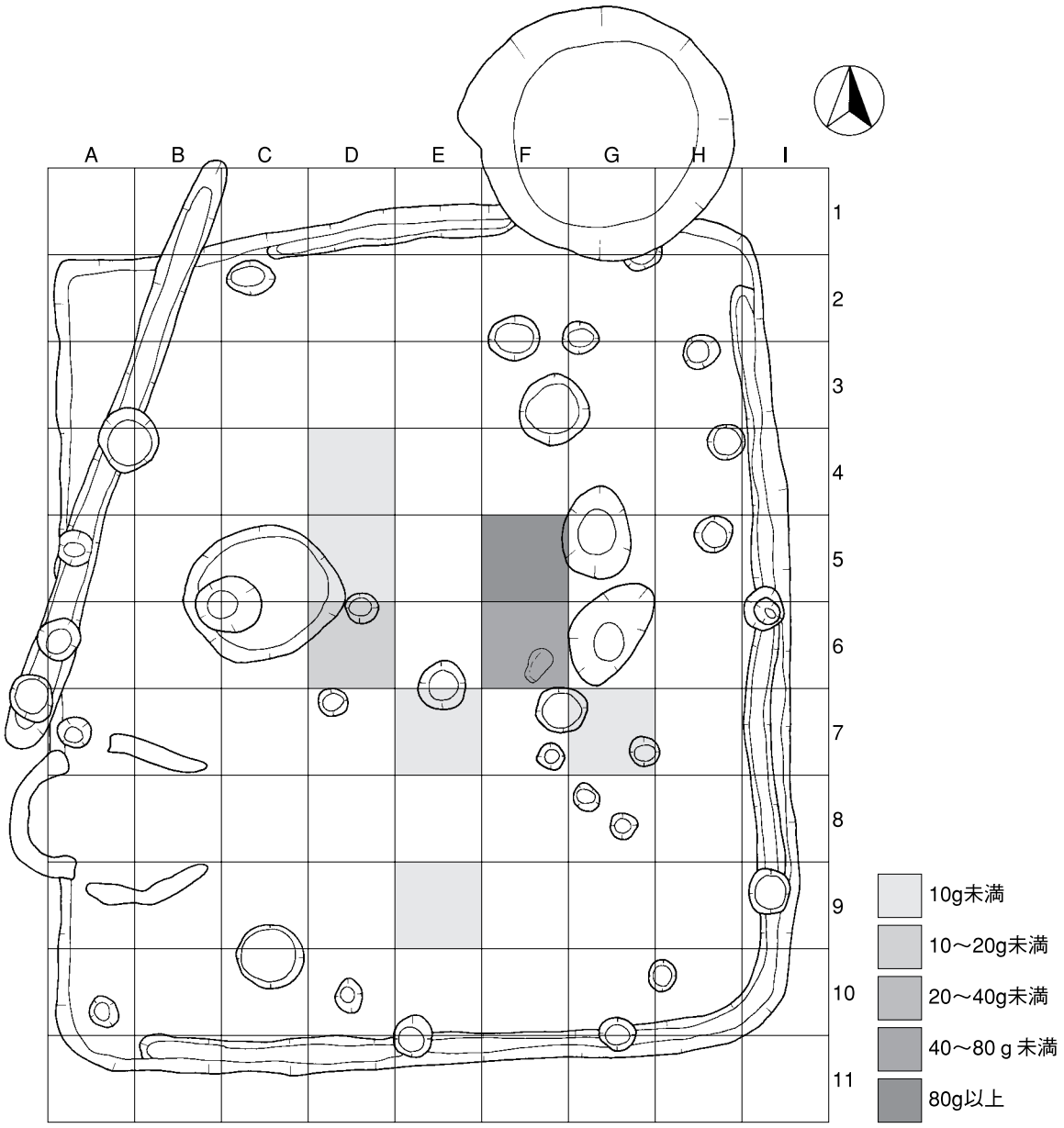


粒状滓（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11

総計　1.0g

第153図　ＳＩ1800重量別遺物分布図（粒状滓）

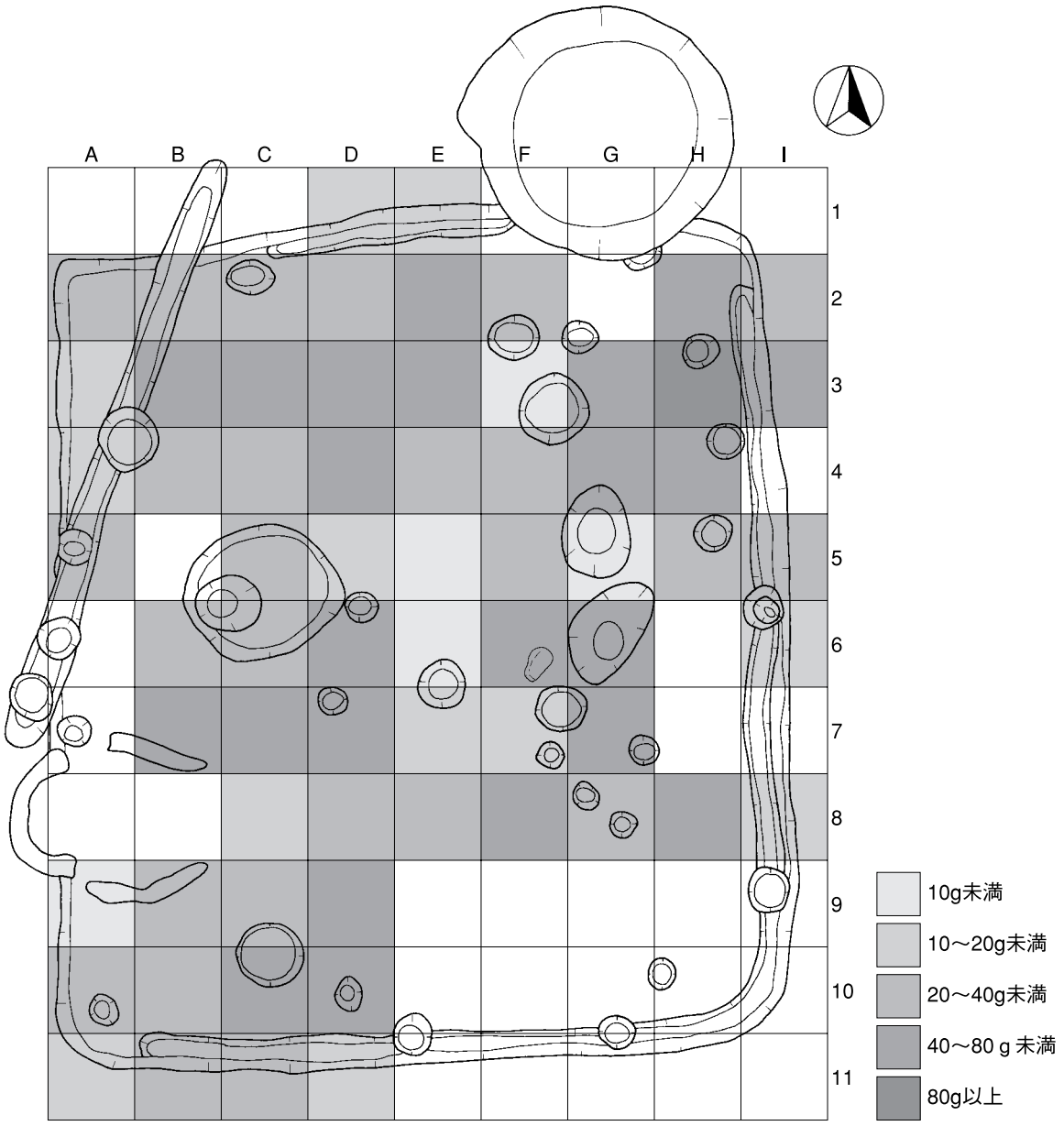


羽口（g）

A	B	C	D	E	F	G	H	I	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3
0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	103.0	0.0	0.0	0.0	5
0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	47.0	0.0	0.0	0.0	6
0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	5.0	0.0	0.0	7
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8
0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	9
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11

総計　174.9g

第154図　ＳＩ1800重量別遺物分布図（羽口）

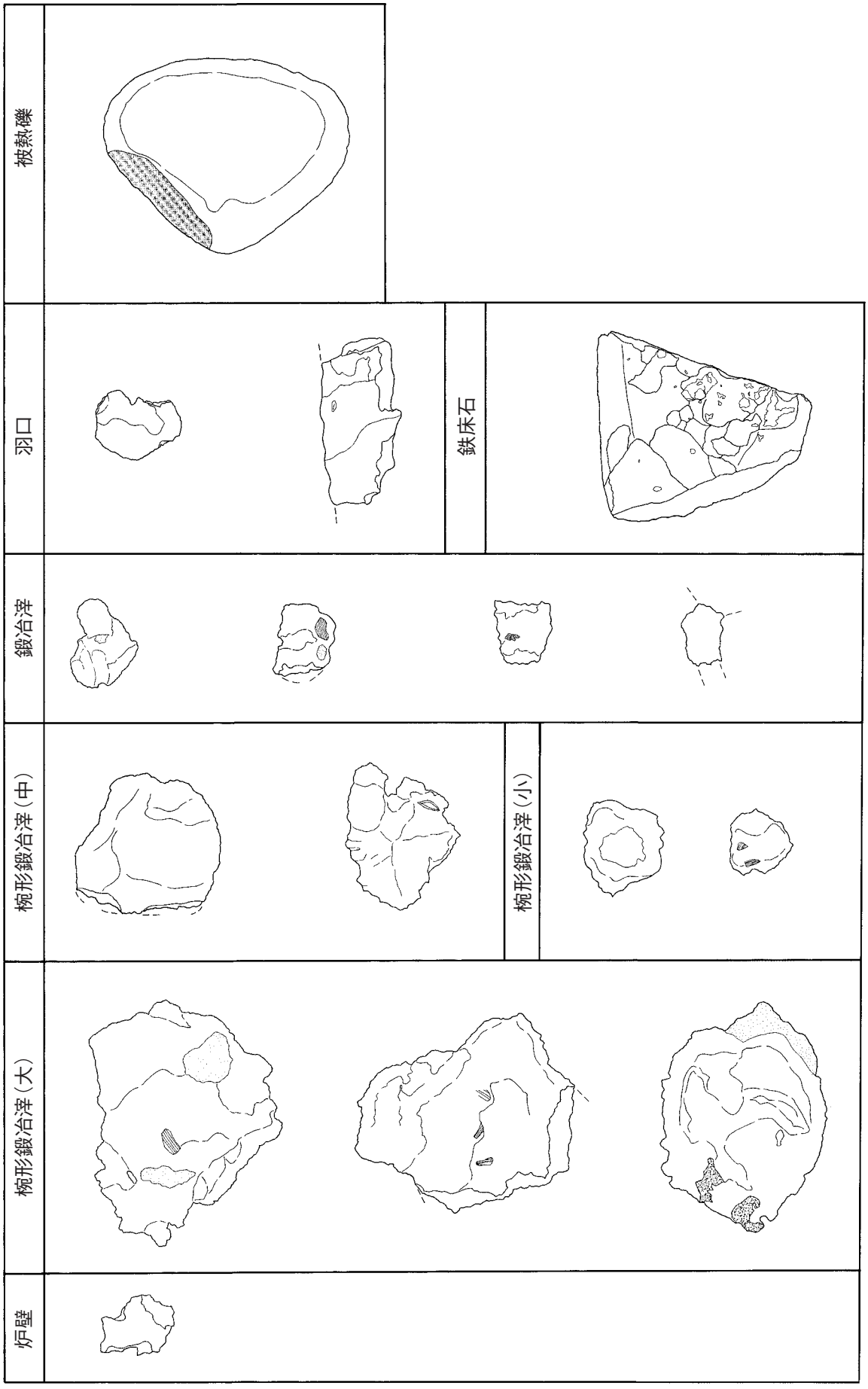


砂鉄（g）

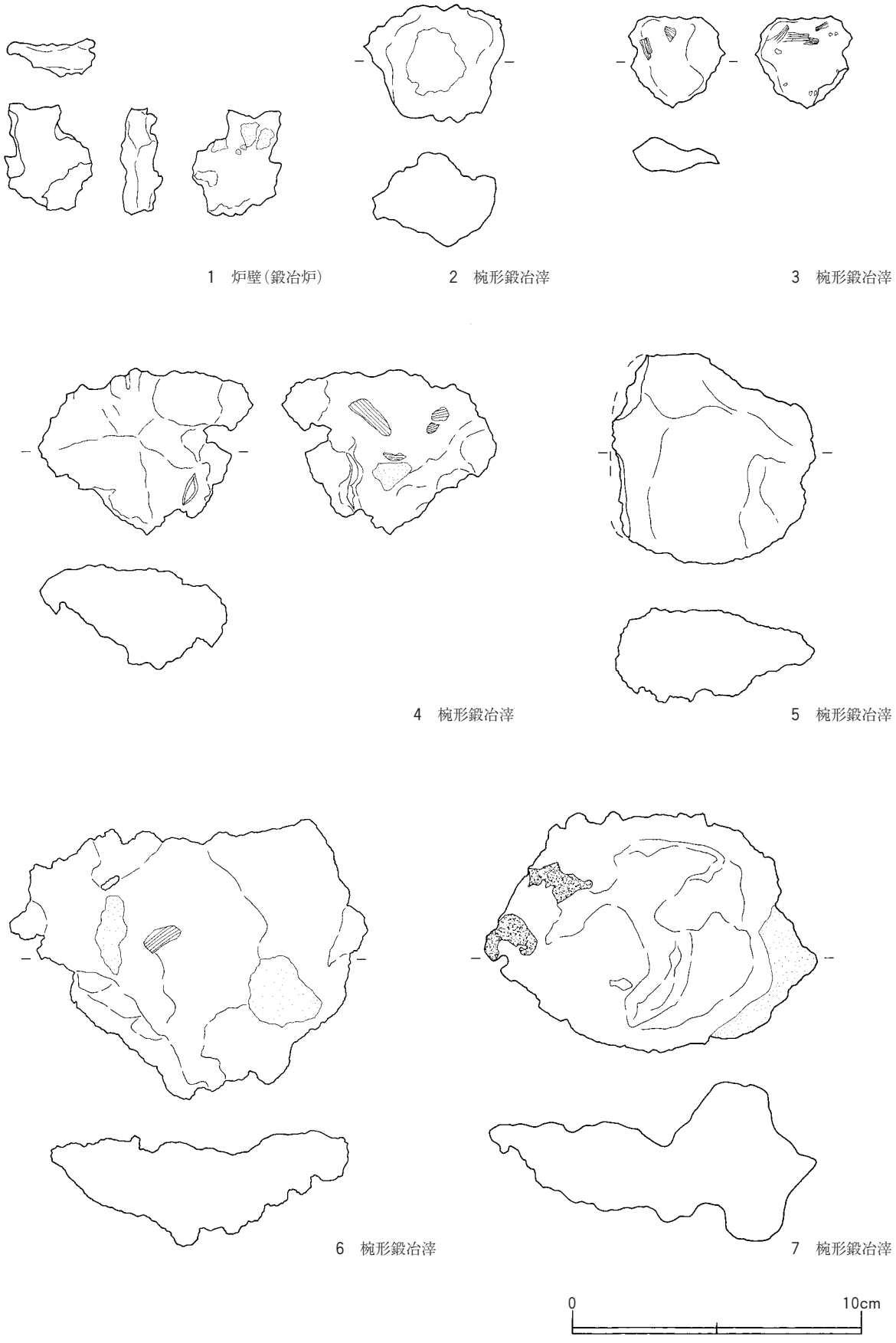
A	B	C	D	E	F	G	H	I	
0.0	0.0	0.0	12.0	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1
37.9	29.1	31.2	30.3	42.0	35.9	0.0	63.4	27.7	2
15.1	41.4	46.9	40.2	65.4	5.4	64.0	87.5	42.3	3
19.3	28.4	39.9	71.4	27.3	39.6	53.7	52.5	0.0	4
38.0	0.0	24.9	16.4	0.5	35.6	7.4	35.4	33.0	5
0.0	22.7	20.3	43.8	0.5	59.9	64.3	0.0	15.4	6
0.0	40.8	52.9	63.6	11.8	12.6	40.7	0.0	0.0	7
0.0	0.0	19.5	32.2	25.7	47.5	39.7	40.3	13.9	8
5.7	26.3	28.1	47.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9
20.1	35.9	40.0	48.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10
17.1	20.8	22.0	19.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11

総計　2255.2g

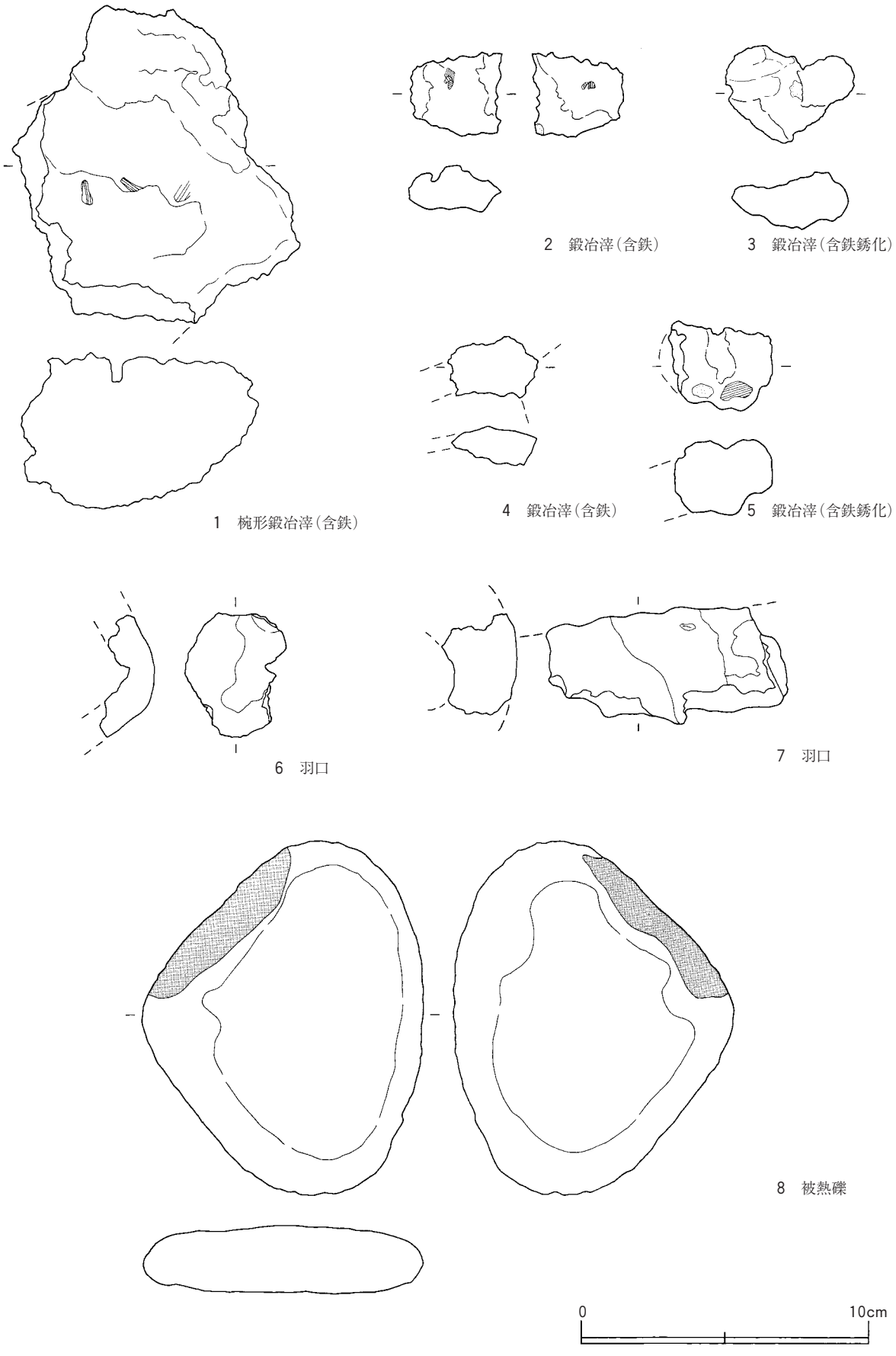
第155図　ＳＩ1800重量別遺物分布図(砂鉄)



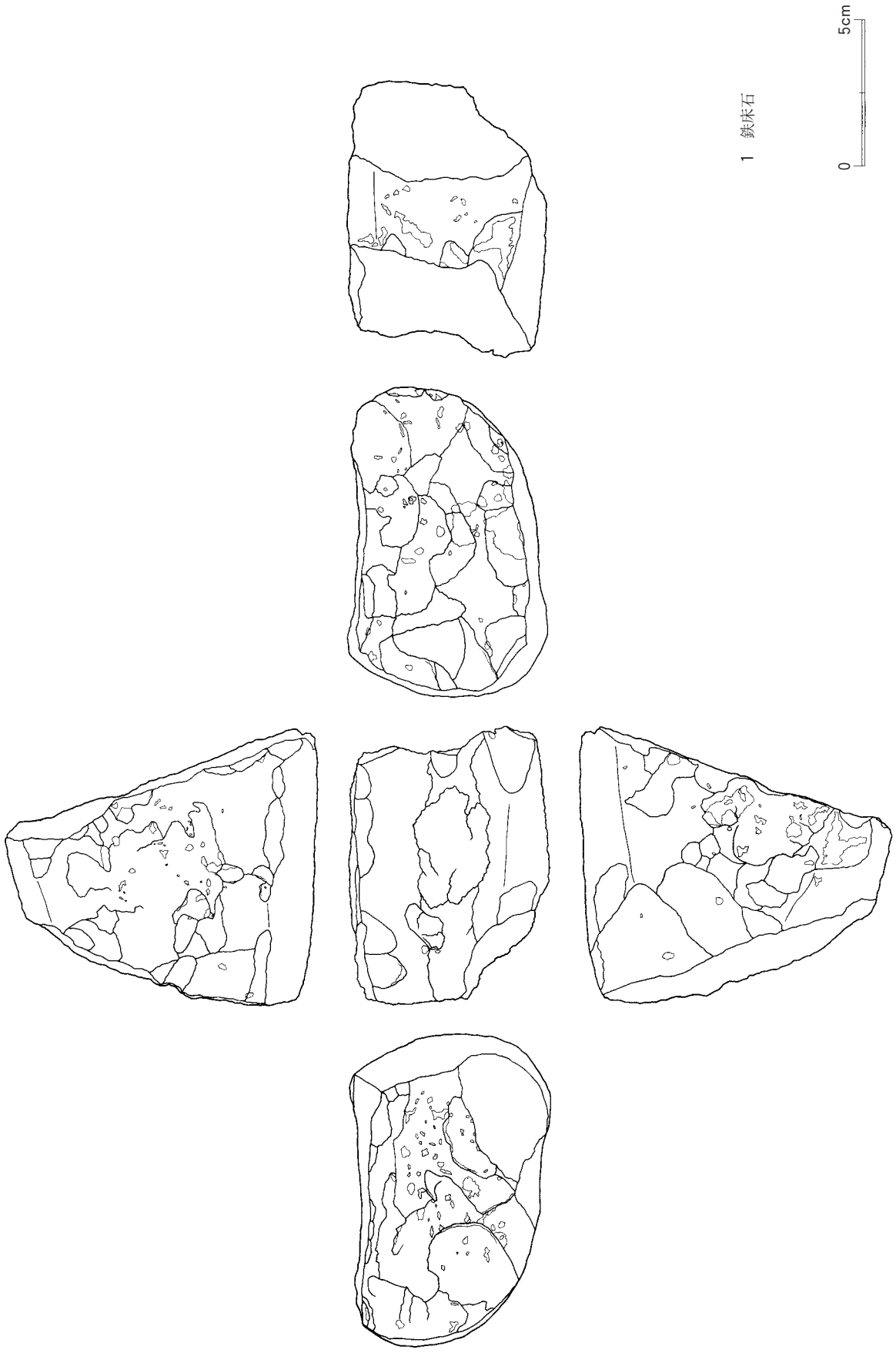
第156図　ＳＩ1800製鉄関連遺物構成図



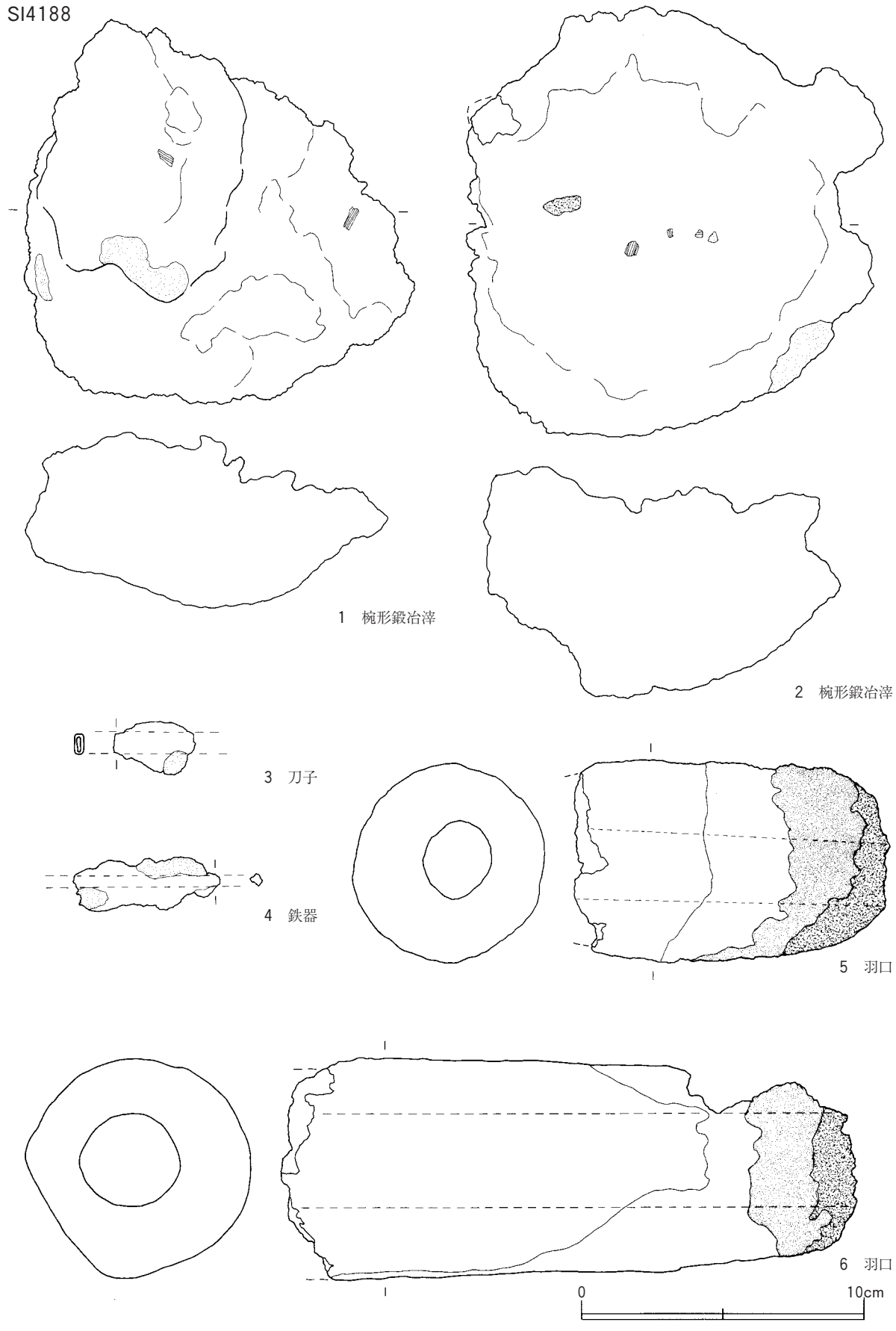
第157図　ＳＩ1800内出土製鉄関連遺物①



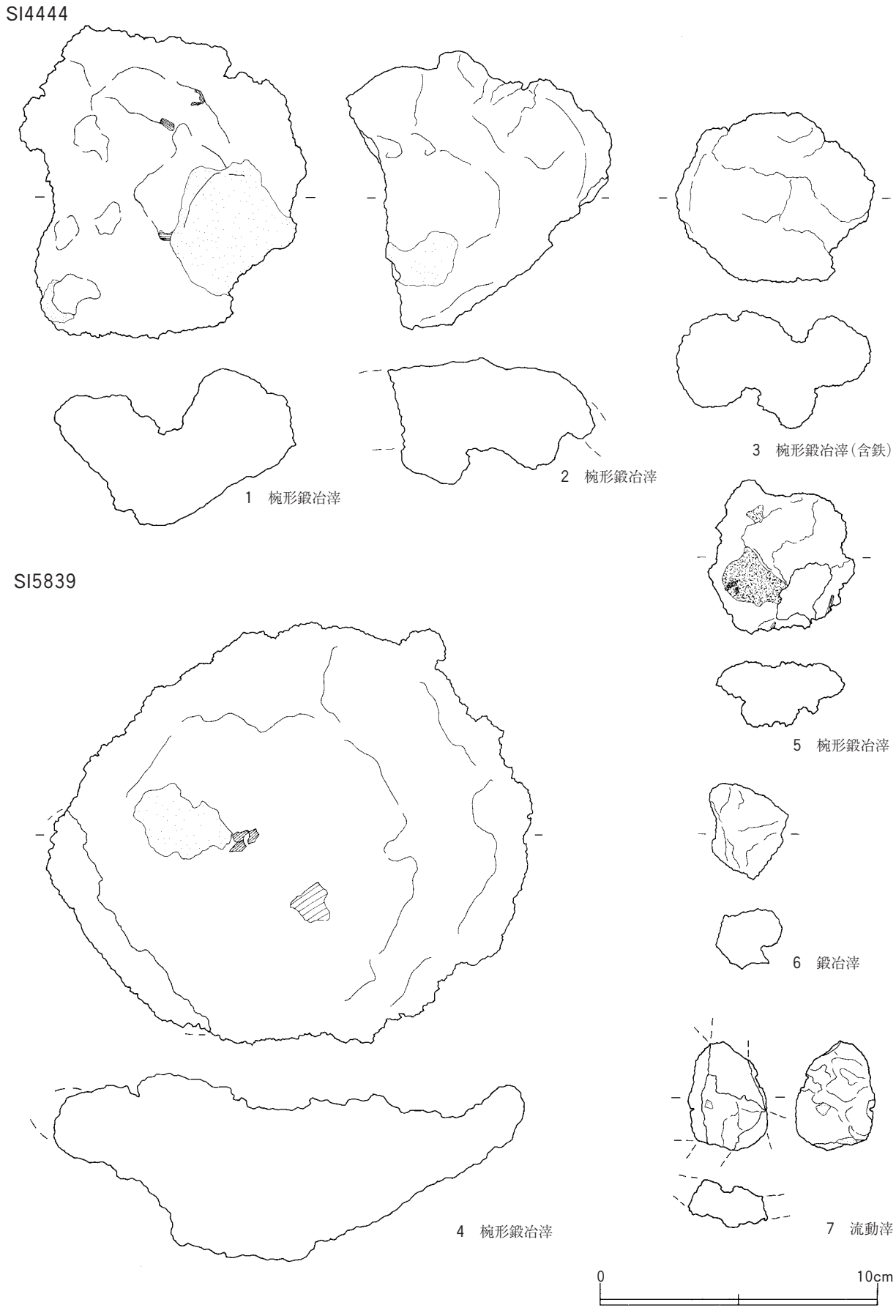
第158図　ＳＩ1800内出土製鉄関連遺物②



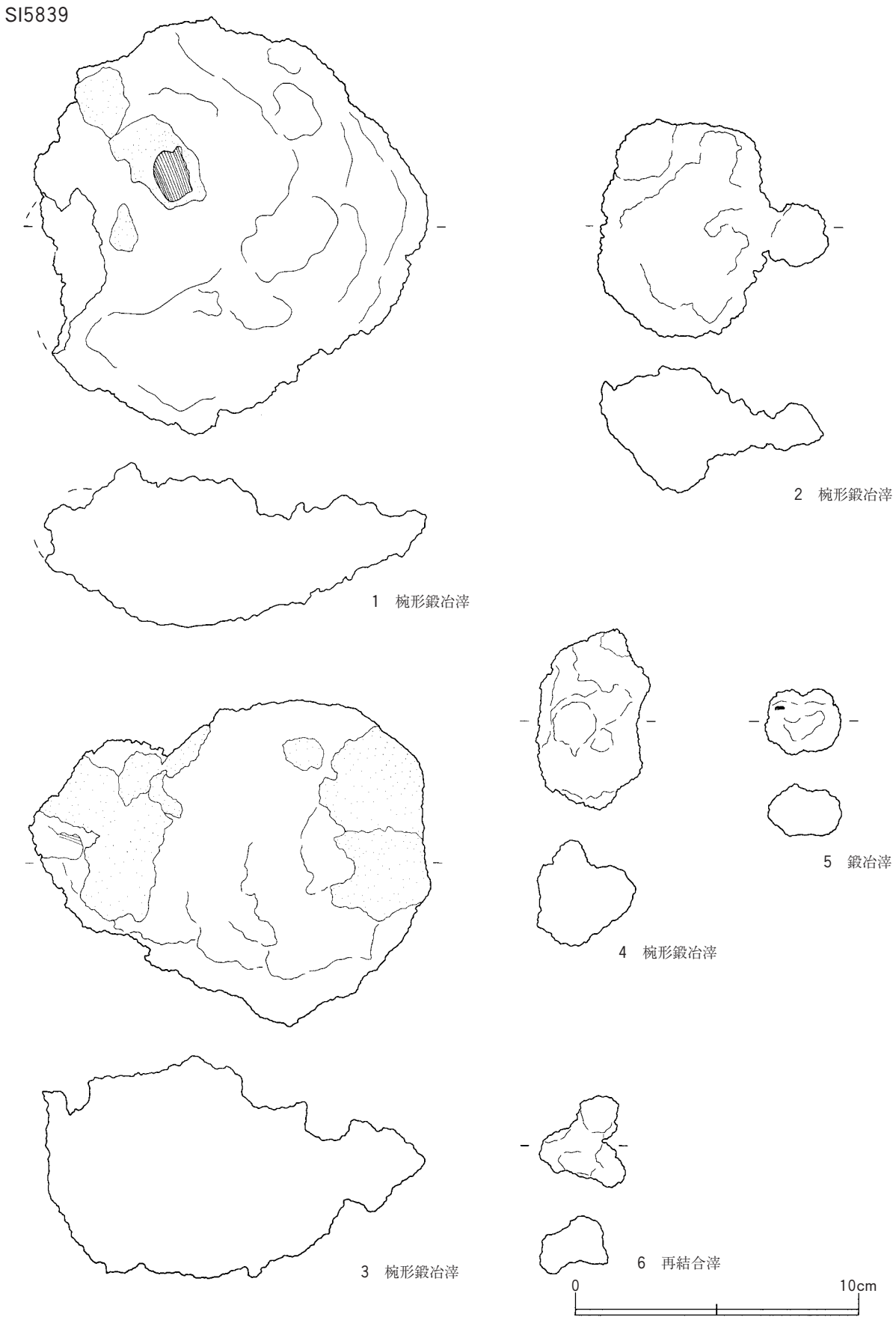
第159図　ＳＩ1800内出土製鉄関連遺物③



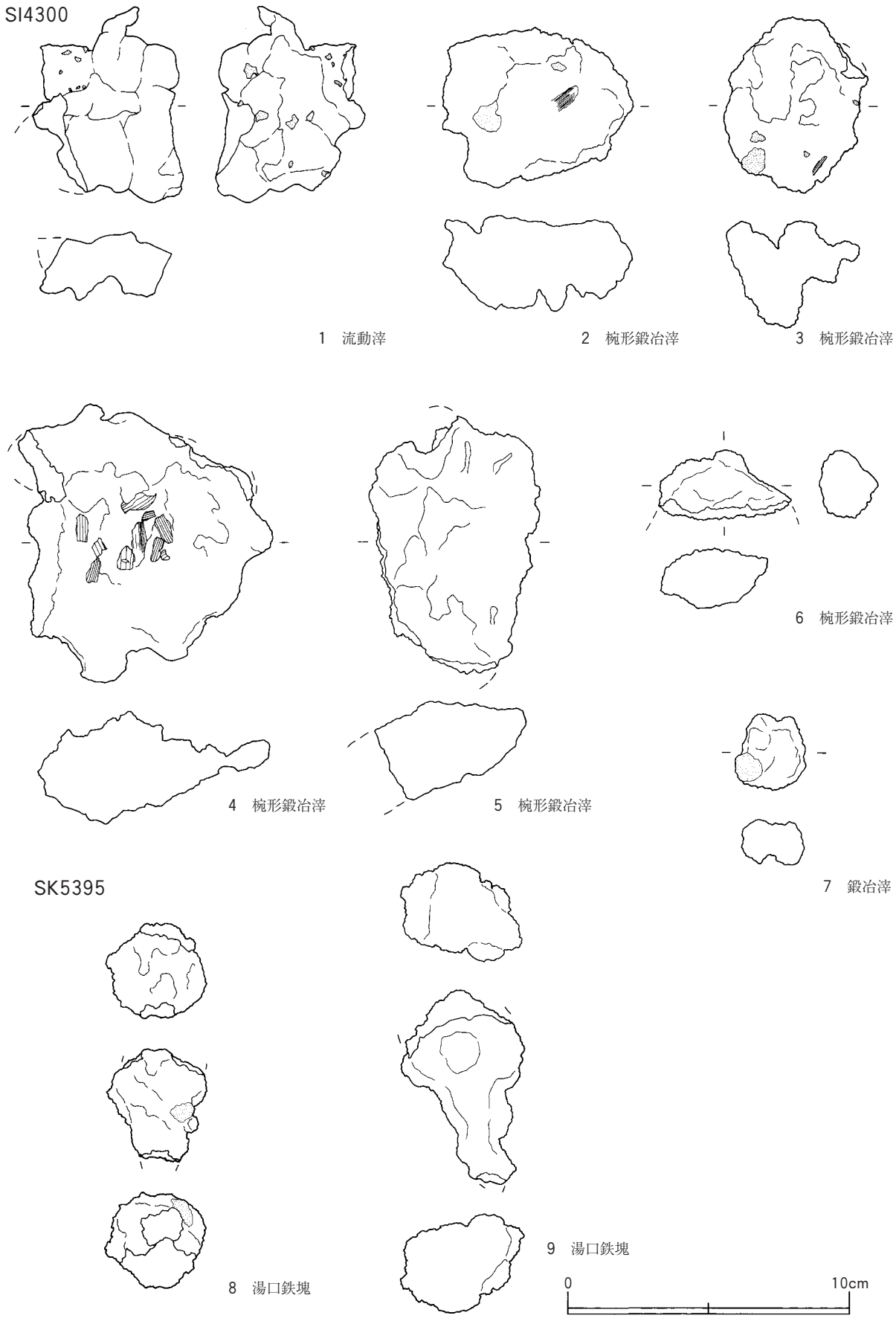
第160図　遺構内出土製鉄関連遺物①



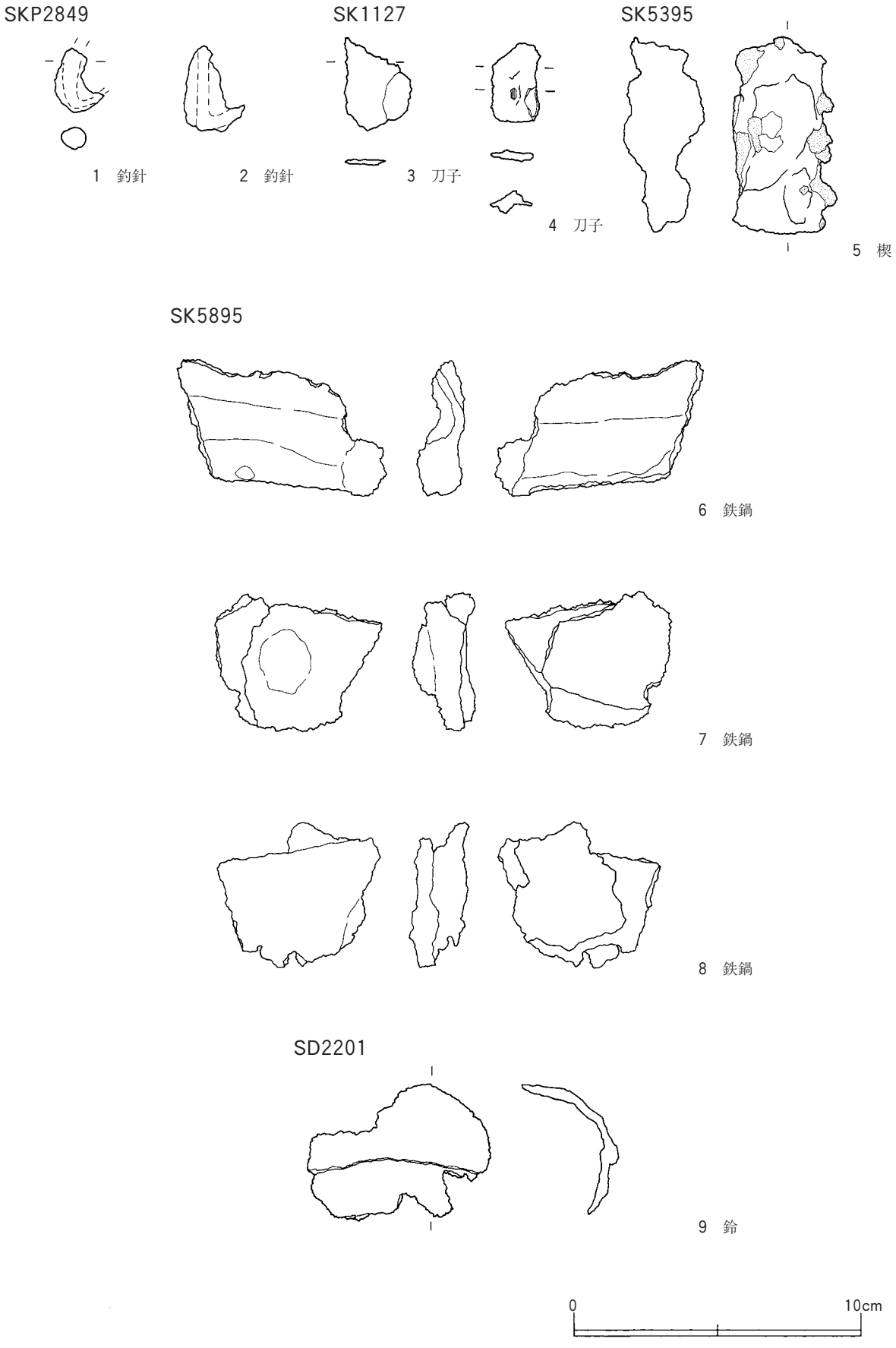
第161図　遺構内出土製鉄関連遺物②



第162図　遺構内出土製鉄関連遺物③



第163図　遺構内出土製鉄関連遺物④



第164図　遺構内出土製鉄関連遺物⑤

第３節　中世の検出遺構と出土遺物

性格不明遺構３基、炭窯４基が検出された。炉壁の出土からは、周囲に製鉄炉の存在も推測される。

１　性格不明遺構

ＳＸ3971（第165図）

ＭＫ71・ＭＬ71グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(E-W)4.56ｍ×短軸(N-S)1.68ｍの略長方形を呈する。確認面からの深さは0.17ｍである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分けられた。東側底面には径0.44ｍのピットが１基穿たれていた。

遺物が出土しなかったため本遺構の時期は不明であるが、中世に帰属する地下式炭窯跡に隣接して検出されたことから、同じく中世のものとして判断した。同様の理由から、ＳＸ4596・ＳＸ4687も中世のものとした。

ＳＸ4596（第166図）

ＭＯ70・ＭＰ70グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NE-SW)3.01ｍ×短軸(NW-SE)2.24ｍの略楕円形を呈する。確認面からの深さは0.30ｍである。底面は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は３層に分けられた。

遺物は出土しなかった。

ＳＸ4687（第166図）

ＭＮ68グリッド第Ⅴ層上面で確認された。平面形は長軸(NW-SE)2.45ｍ×短軸(NE-SW)1.51ｍの略楕円形を呈し、ＳＸ4596に類似する。底面は凹凸があり、明確な壁の立ち上がりは確認されなかった。覆土は１層で炭層である。

遺物が出土しなかった。

２　炭窯

ＳＷ3805（第167図、巻頭図版３－２）

ＭＫ70・ＭＫ71・ＭＫ72グリッド第Ⅴ層上面で確認された。前庭部～焚口部～焼成部で構成された地下式炭窯である。斜面の等高線にほぼ直交して造られており、平面形は長軸(N-S)7.52ｍ×短軸(E-W)1.63ｍを測る。奥壁の確認面からの深さは1.69ｍである。確認面標高は、奥壁53.94ｍ・前庭部52.17ｍで、比高差は1.77ｍである。

前庭部の底面は平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。焚口部～焼成部の底面は平坦で、奥壁に向かって緩やかな傾斜をもち、壁は急に立ち上がる。底面傾斜角は８度である。壁面下半及び底面全体に強い被熱が見られる。壁面上半に被熱が見られないのは、壁面の崩落によるものである。

覆土はＡＢセクションで20層に分けられた。煙道を検出することはできなかったが、崩落してしまった天井部に設けられていたものと推測される。

遺物は、椀形鍛冶滓（９点7,307.8g）が出土した（第170図１～４、第171図１～５）。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦1020年、１σ年代幅西暦995－1040年（66.1％）という値を得た。また、同一試料の樹種はカエデ属と同定された。

ＳＷ3806（第167図、巻頭図版３－２）

ＭＪ70・ＭＪ71グリッド第Ⅴ層上面で確認された。前庭部～焚口部～焼成部で構成された地下式炭

窯である。斜面の等高線にほぼ直交して造られており、平面形は長軸(N-S)8.54ｍ×短軸(E-W)1.66ｍを測る。奥壁の確認面からの深さは1.66ｍである。確認面標高は、奥壁54.64ｍ・前庭部51.80ｍで、比高差は2.84ｍである。

前庭部の底面は平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。焚口部～焼成部の底面は平坦で、奥壁に向かって緩やかな傾斜をもち、壁は急に立ち上がる。底面傾斜角は９度である。壁面下半及び底面全体に強い被熱が見られる。

覆土はＡＢセクションで14層に分けられた。

前庭部の西側には排水溝と思われる溝が、東側には性格不明の円形を呈する掘り込みが検出された。煙道を検出することはできなかったが、天井部に設けられていたものと推測される。

遺物は、炉壁(１点508.2g)、椀形鍛冶滓(１点624.0g)が出土した(第172図２・３)。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、２σ年代幅西暦1,150－1,220年(56.2%)という値を得た。また、同一試料の樹種はミズキ属と同定された。

ＳW3831(第168図、図版５－１)

ＭＫ69・ＭＬ67・ＭＬ68・ＭＬ69・MM68グリッド第Ⅴ層上面で確認された。前庭部～焚口部～焼成部で構成された地下式炭窯である。斜面の等高線にほぼ直交して造られており、平面形は長軸(NE-SW)9.05ｍ×短軸(NW-SE)1.52ｍを測る。奥壁の確認面からの深さは2.61ｍである。確認面標高は、奥壁54.33ｍ・前庭部50.57ｍで、比高差は3.76ｍである。

前庭部の底面は平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。焚口部～焼成部の底面は平坦で、奥壁に向かって緩やかな傾斜をもち、壁は急に立ち上がる。底面傾斜角は７度である。壁面下半および底面全体に強い被熱が見られる。

覆土はＡＢセクションで21層に分けられた。

遺物は出土しなかった。

なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦1,255年、２σ年代幅西暦1,210－1,280年(98.5%)という値を得た。また、同一試料の樹種はクリと同定された。

ＳW3832(第169図、図版５－２)

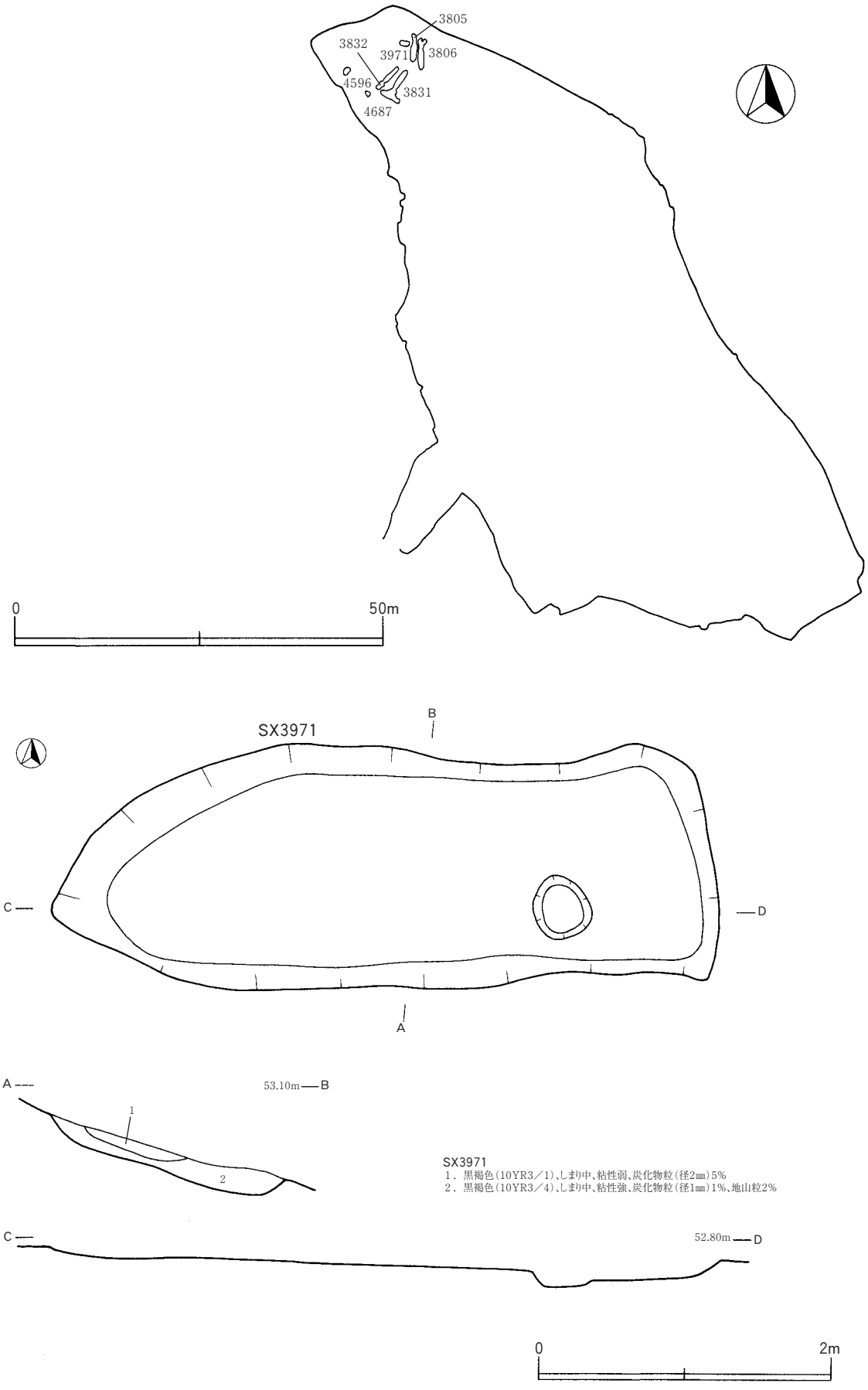
ＭＬ69・ＭＬ70・MM68・MM69グリッド第Ⅴ層上面で確認された。前庭部～焚口部～焼成部で構成された地下式炭窯である。斜面の等高線にほぼ直交して造られており、平面形は長軸(NE-SW)8.33ｍ×短軸(NW-SE)1.41ｍを測る。奥壁の確認面からの深さは2.04ｍである。確認面標高は、奥壁54.09ｍ・前庭部50.64ｍで、比高差は3.45ｍである。

前庭部は瓢箪形を呈し、底面はやや凹凸があって、壁面は急に立ち上がる。焚口部～焼成部の底面は平坦で、奥壁に向かって緩やかな傾斜をもち、壁は急に立ち上がる。底面傾斜角は11度である。壁面下半および底面全体に強い被熱が見られる。

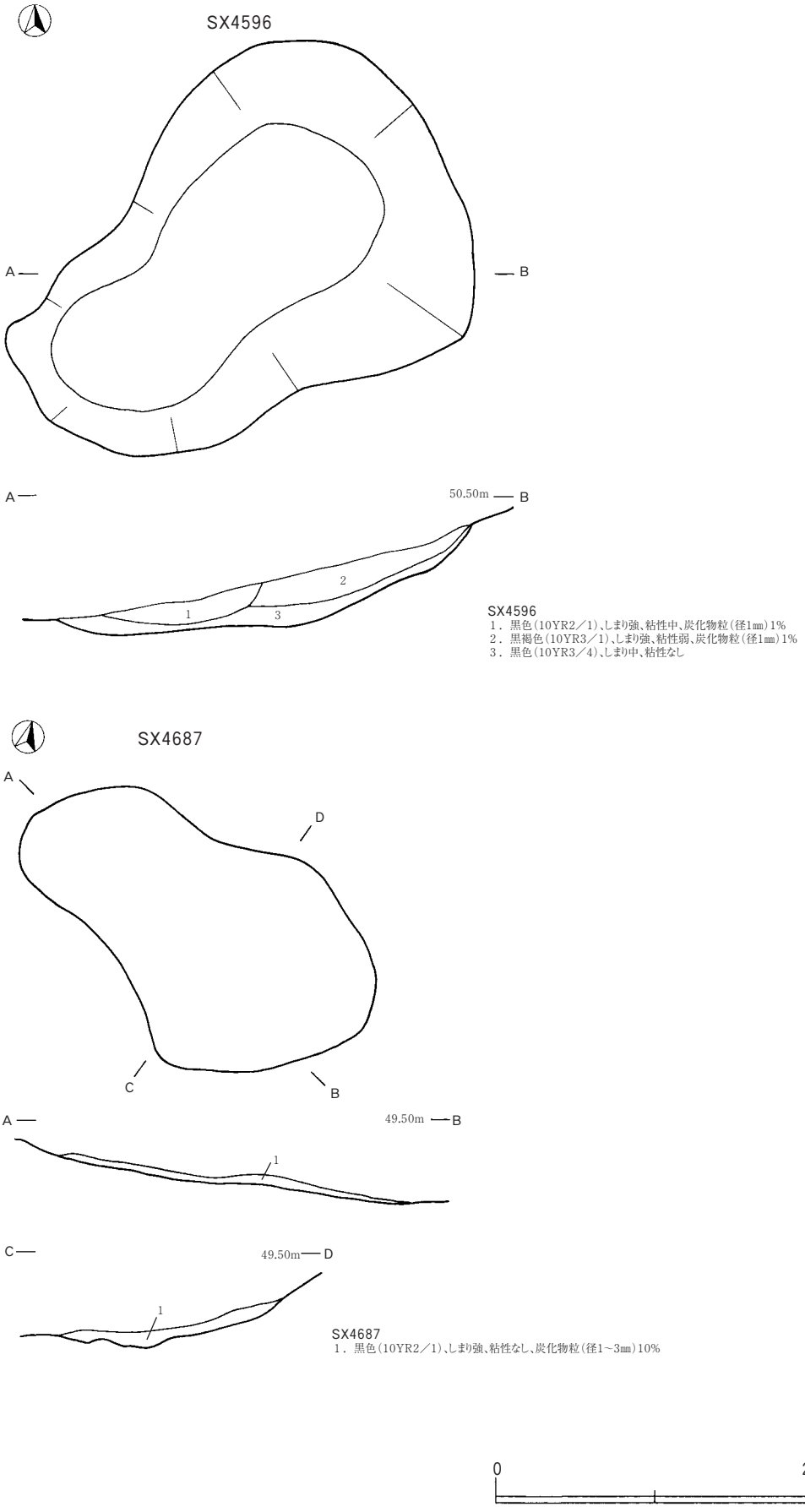
覆土はＡＢセクションで15層に分けられた。

遺物は、炉壁(１点570.1g)が出土した(第172図１)。

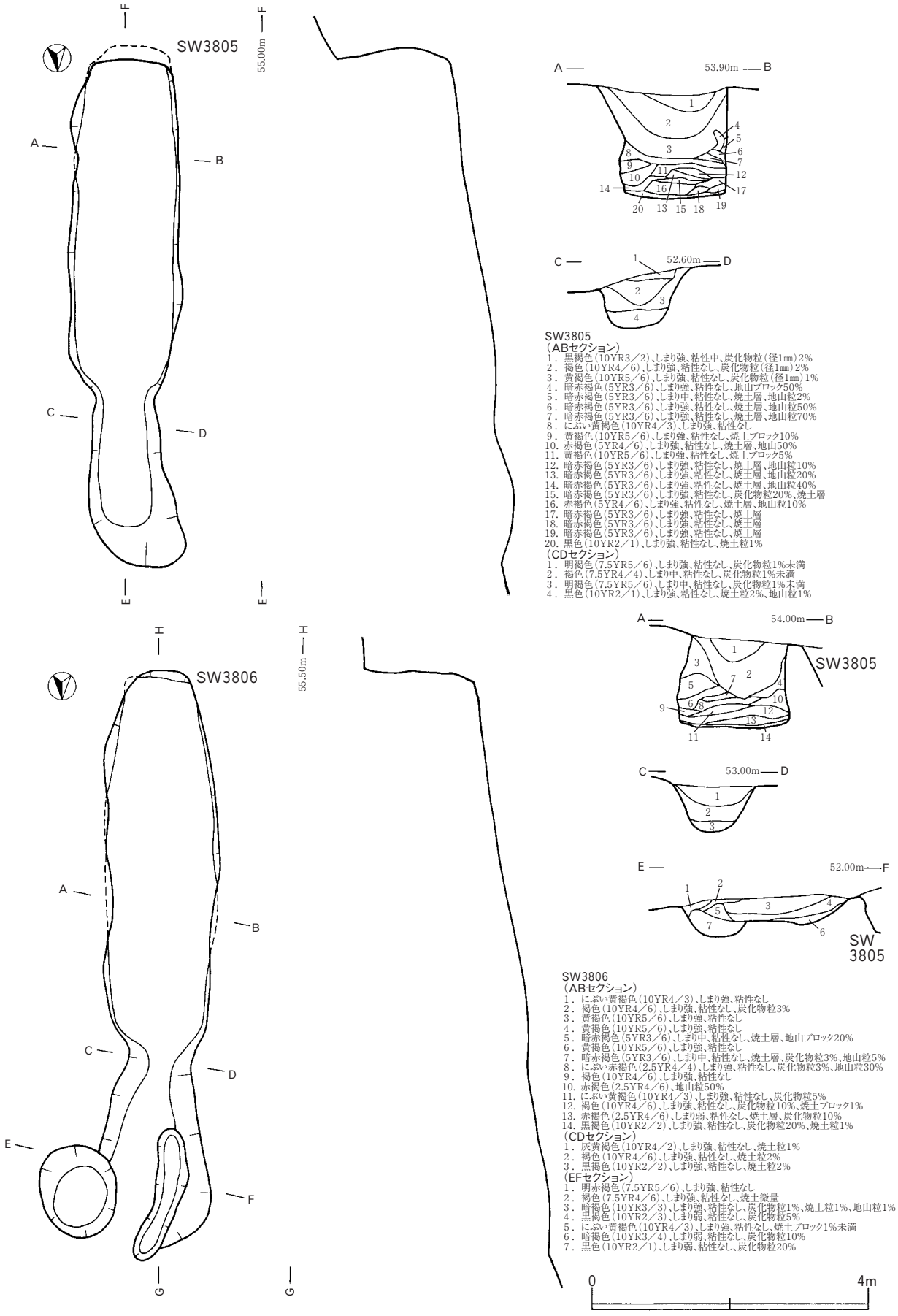
なお、遺構内から採取した炭化材による放射性炭素年代測定の結果、交点西暦1,215年、２σ年代幅西暦1,160－1,270年(98.4%)という値を得た。また、同一試料の樹種はミズキ属と同定された。



第165図　検出遺構(性格不明遺構①)



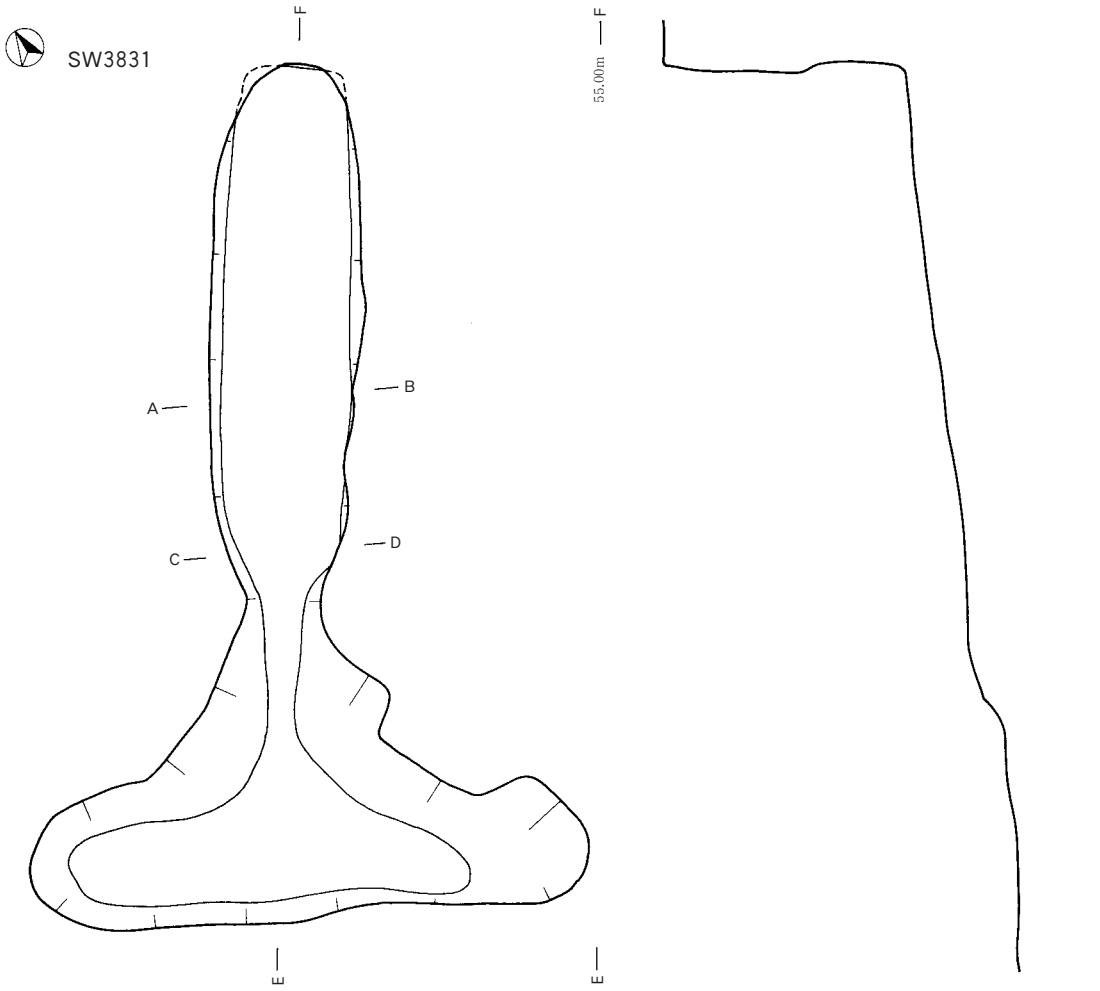
第166図　検出遺構(性格不明遺構②)

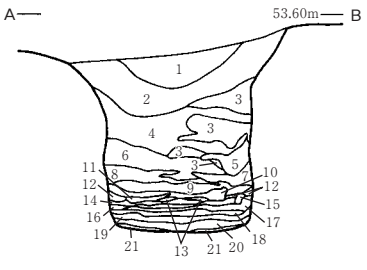


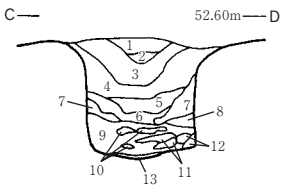
SW3805
（ABセクション）
1．黒褐色(10YR3／2)、しまり強、粘性中、炭化物粒(径1㎜)2%
2．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性なし、炭化物粒(径1㎜)2%
3．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性なし、炭化物粒(径1㎜)1%
4．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、地山ブロック50%
5．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり中、粘性なし、焼土層、地山粒2%
6．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山粒50%
7．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山粒70%
8．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性なし
9．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性なし、焼土ブロック10%
10．赤褐色(5YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山50%
11．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性なし、焼土ブロック5%
12．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山粒10%
13．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山粒20%
14．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山粒40%
15．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、炭化物粒20%、焼土層
16．赤褐色(5YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土層、地山粒10%
17．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層
18．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層
19．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層
20．黒色(10YR2／1)、しまり強、粘性なし、焼土粒1%
（CDセクション）
1．明褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性なし、炭化物粒1%未満
2．褐色(7.5YR4／4)、しまり中、粘性なし、炭化物粒1%未満
3．明褐色(7.5YR5／6)、しまり中、粘性なし、炭化物粒1%未満
4．黒色(10YR2／1)、しまり強、粘性なし、焼土粒2%、地山粒1%

SW3806
（ABセクション）
1．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性なし
2．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性なし、炭化物粒3%
3．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性なし
4．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性なし
5．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり中、粘性なし、焼土層、地山ブロック20%
6．黄褐色(10YR5／6)、しまり強、粘性なし
7．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり中、粘性なし、焼土層、炭化物粒3%、地山粒5%
8．にぶい赤褐色(2.5YR4／4)、しまり強、粘性なし、炭化物粒3%、地山粒30%
9．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性なし
10．赤褐色(2.5YR4／6)、地山粒50%
11．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性なし、炭化物粒5%
12．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性なし、炭化物粒10%、焼土ブロック1%
13．赤褐色(2.5YR4／6)、しまり弱、粘性なし、焼土層、炭化物粒10%
14．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性なし、炭化物粒20%、焼土粒1%
（CDセクション）
1．灰黄褐色(10YR4／2)、しまり強、粘性なし、焼土粒1%
2．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土粒2%
3．黒褐色(10YR2／2)、しまり強、粘性なし、焼土粒2%
（EFセクション）
1．明赤褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性なし
2．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土微量
3．暗褐色(10YR3／3)、しまり強、粘性なし、炭化物粒1%、焼土粒1%、地山粒1%
4．黒褐色(10YR2／3)、しまり弱、粘性なし、炭化物粒5%
5．にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり強、粘性なし、焼土ブロック1%未満
6．暗褐色(10YR3／4)、しまり弱、粘性なし、炭化物粒10%
7．黒色(10YR2／1)、しまり弱、粘性なし、炭化物粒20%

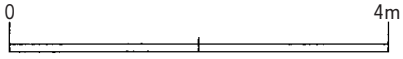
第167図　検出遺構（炭窯①）



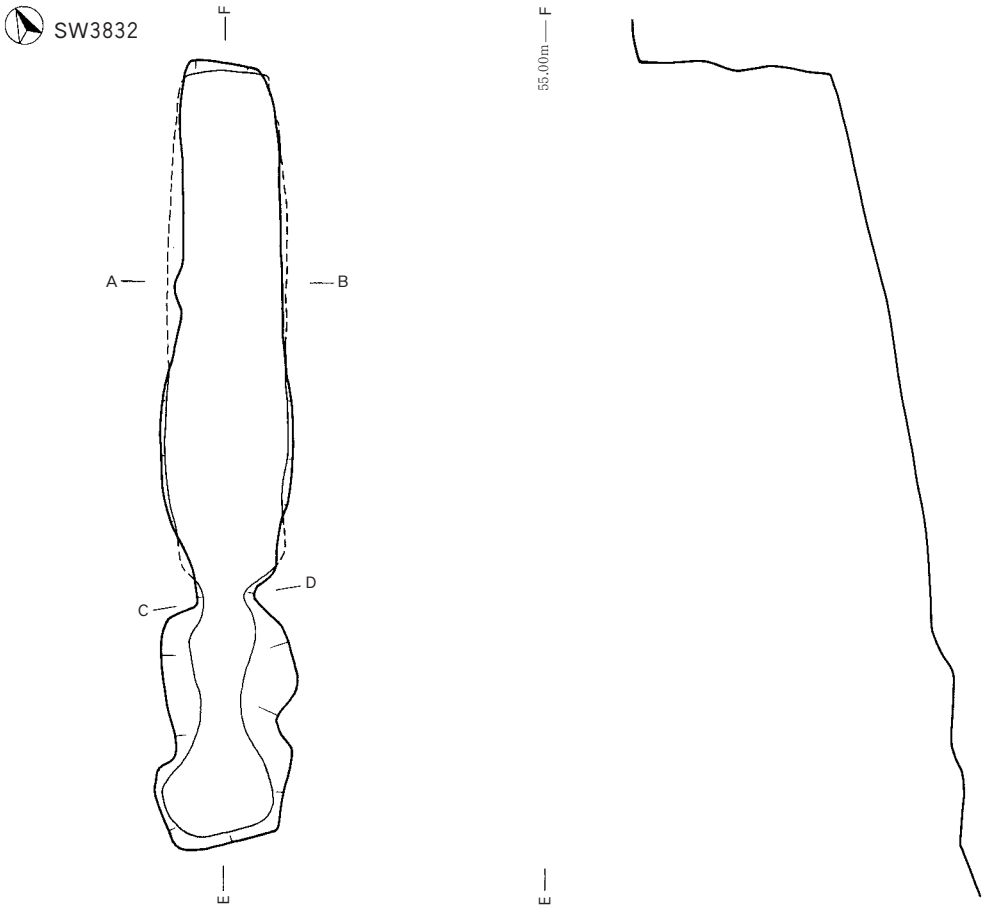




SW3831
（ABセクション）
1．暗褐色（10YR3／4）、しまり強、粘性弱、炭化物粒1%未満
2．褐色（10YR4／6）、しまり強、粘性弱
3．黄褐色（10YR5／8）・明黄褐色（10YR6／6）、しまり強、粘性なし
4．明褐色（7.5YR5／8）、しまり強、粘性なし
5．黄褐色（10YR5／8）、しまり強、粘性なし
6．赤褐色（5YR4／8）、しまり強、粘性なし、焼土層
7．赤褐色（5YR4／8）、しまり強、粘性なし、焼土層
8．7層と9層の互層
9．褐色（7.5YR4／6）・明褐色（7.5YR5／6）、しまり強、粘性なし、焼土粒20%
10．赤褐色（5YR4／8）、しまり強、粘性なし、焼土層
11．赤褐色（5YR4／8）、しまり強、粘性なし、焼土層
12．炭層
13．暗赤褐色（2.5YR3／3）、しまり中、粘性なし
14．暗赤褐色（5YR3／6）、しまり強、粘性なし、焼土層
15．赤褐色（5YR4／8）、しまり強、粘性なし、焼土層
16．炭層
17．極暗褐色（7.5YR2／3）・暗褐色（7.5YR3／3）、しまり中、粘性なし、焼土粒10%
18．黒褐色（10YR2／2）、しまり中、粘性なし、焼土ブロック2%
19．褐色（10YR4／6）、しまり強、粘性なし、焼土粒10%
20．黒褐色（7.5YR2／2）、しまり強、粘性なし、炭化材30～40%、焼土粒5%
21．明赤褐色（5YR5／8）、しまり強、粘性なし、焼土層
（CDセクション）
1．暗褐色（10YR3／4）・にぶい黄褐色（10YR4／3）、しまり強、粘性中
2．褐色（10YR4／6）、しまり中、粘性なし
3．暗褐色（10YR3／4）、しまり中、粘性中
4．褐色（10YR4／6）、しまり強、粘性なし
5．褐色（10YR4／6）、しまり強、粘性なし、焼土粒30%
6．暗赤褐色（5YR3／4）、しまり中、粘性なし、焼土層
7．赤褐色（5YR4／6）、しまり強、粘性なし、焼土層
8．黒色（10YR2／1）、しまり中、粘性なし、炭化材50%、地山粒30%
9．黒色（10YR2／1）、しまり中、粘性なし、炭化材50%.
10．暗褐色（5YR3／6）・暗赤褐色（5YR3／4）、しまり強、粘性なし、焼土層
11．褐色（10YR4／6）、しまり中、粘性なし、炭化材40%、焼土ブロック40%
12．赤褐色（5YR4／8）・明赤褐色（5YR5／6）、しまり強、粘性なし、焼土層
13．赤褐色（5YR4／8）、しまり強、粘性なし、焼土層

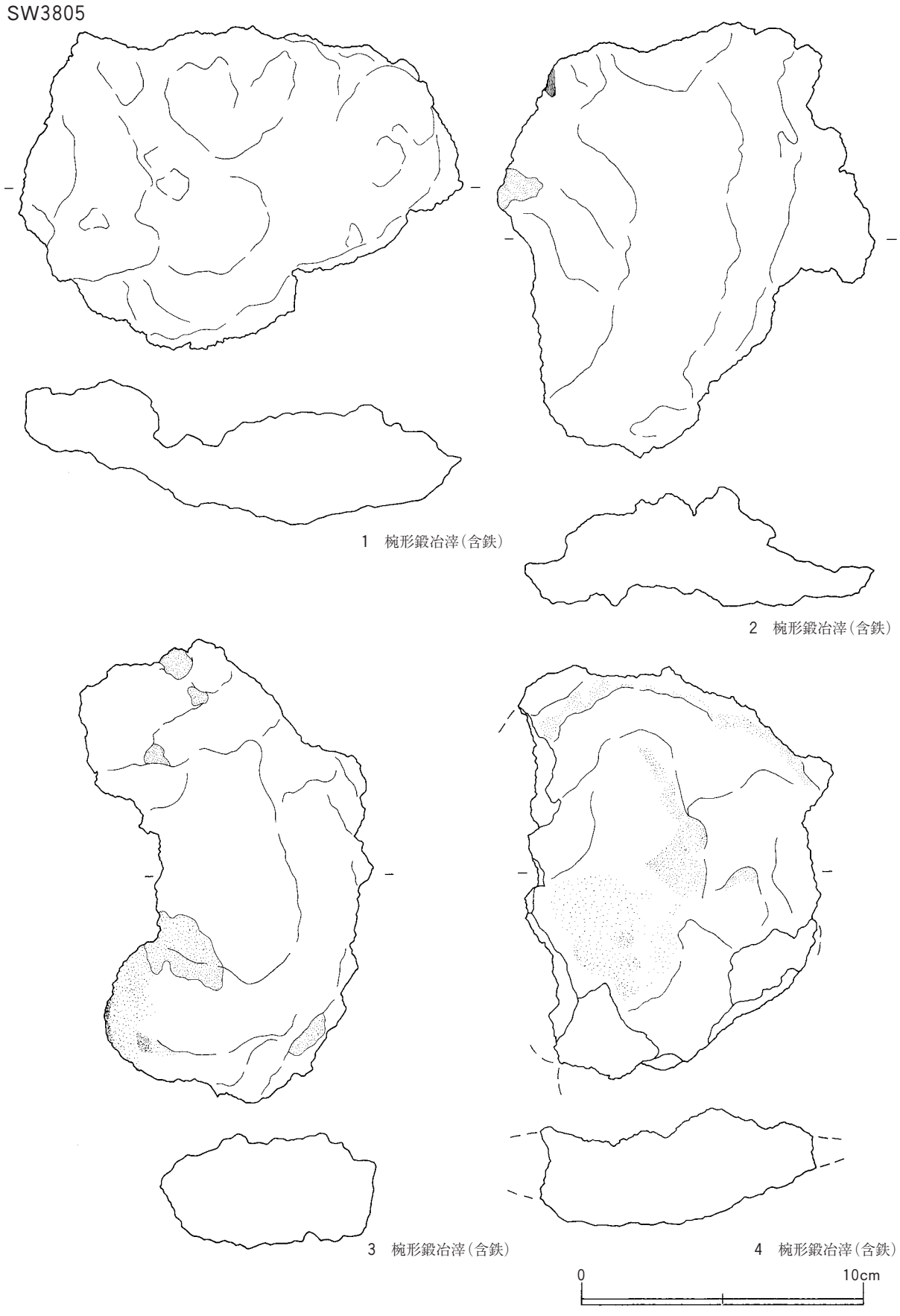


第168図　検出遺構（炭窯②）



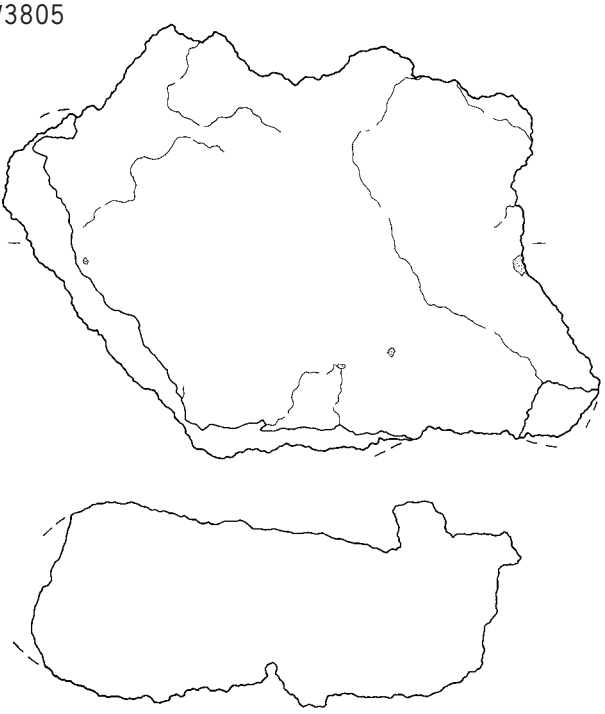
SW3832
(ABセクション)
１．暗褐色(10YR3／4)･褐色(10YR4／4)、しまり強、粘性弱
２．褐色(10YR4／6)、しまり強、粘性弱
３．明褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性なし
４．褐色(10YR4／4)･にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり中、粘性弱
５．明褐色(7.5YR5／6)･明褐色(7.5YR5／8)、しまり強、粘性なし
６．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし
７．赤褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土粒30～40%
８．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり中、粘性なし、焼土層
９．明褐色(7.5YR5／6)、しまり強、粘性なし、焼土粒40%
10．褐色(7.5YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土粒60%
11．暗赤褐色(2.5YR3／3)、しまり中、粘性なし
12．褐色(10YR4／4)、しまりなし、粘性なし、炭化材60%、焼土粒20%
13．赤褐色(5YR4／6)、しまり強、粘性なし、焼土ブロック5%
14．極暗褐色(7.5YR4／6)、しまりなし、粘性なし、炭化材30%
15．暗赤褐色(5YR3／6)、しまり強、粘性なし、焼土層
(CDセクション)
１．暗褐色(10YR3／4)･にぶい黄褐色(10YR4／3)、しまり中、粘性弱
２．褐色(7.5YR4／6)･明褐色(7.5YR5／8)、しまり強、粘性弱
３．黒褐色(10YR2／3)･暗褐色(10YR3／3)、炭化材30～40%、焼土ブロック3%

第169図　検出遺構(炭窯③)



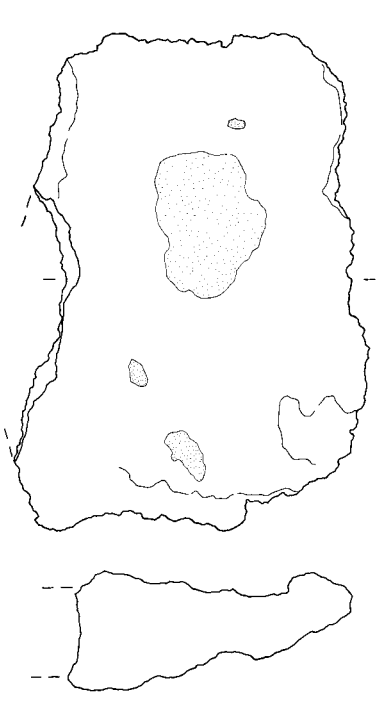
第170図　出土遺物（炭窯内①）

SW3805

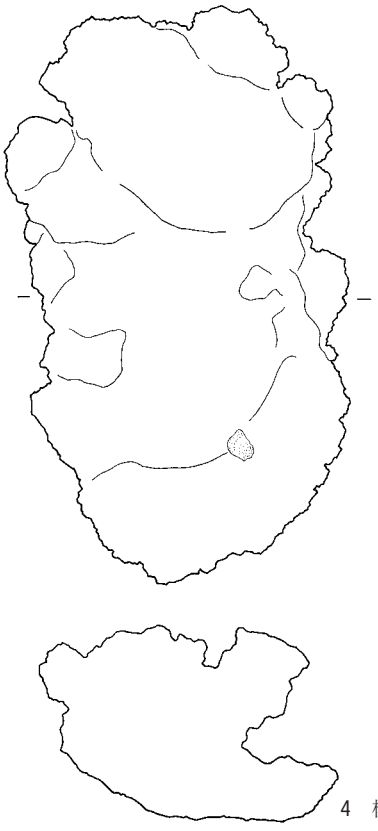


1　椀形鍛冶滓（含鉄）

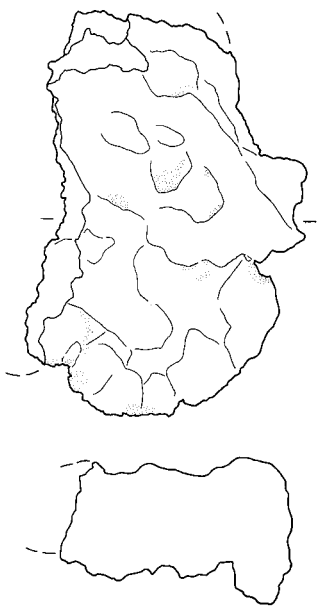
2　椀形鍛冶滓（含鉄）



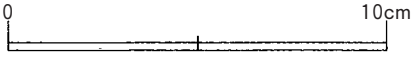
3　椀形鍛冶滓（含鉄）



4　椀形鍛冶滓（含鉄錆化）

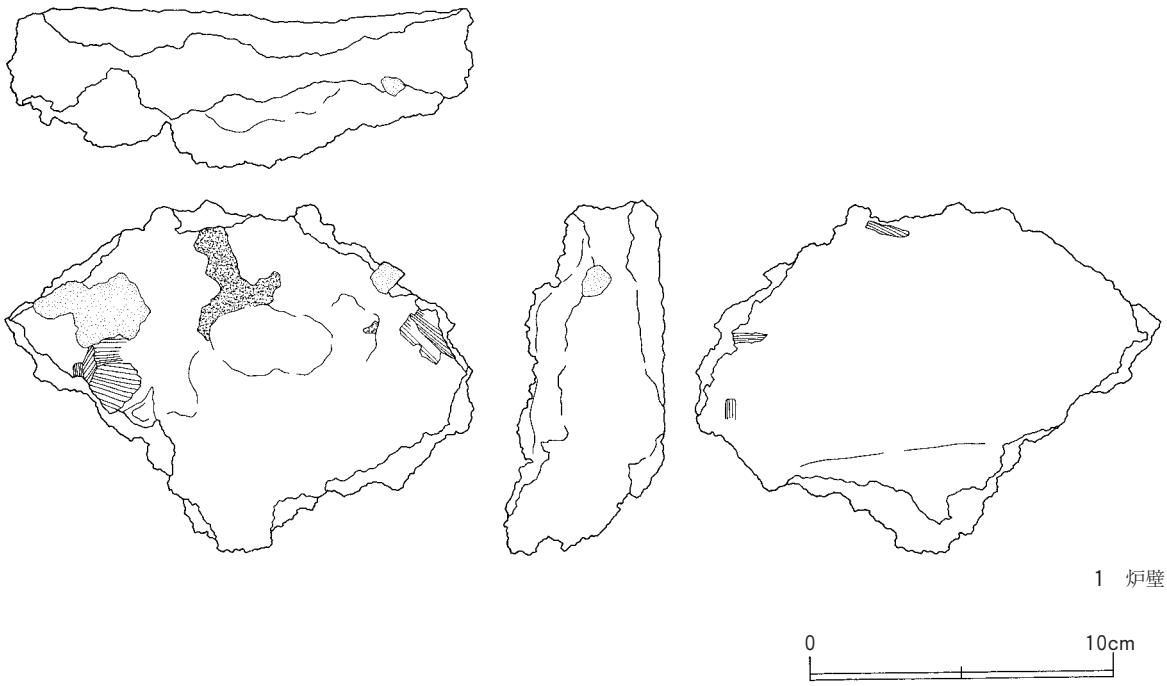


5　椀形鍛冶滓（含鉄）

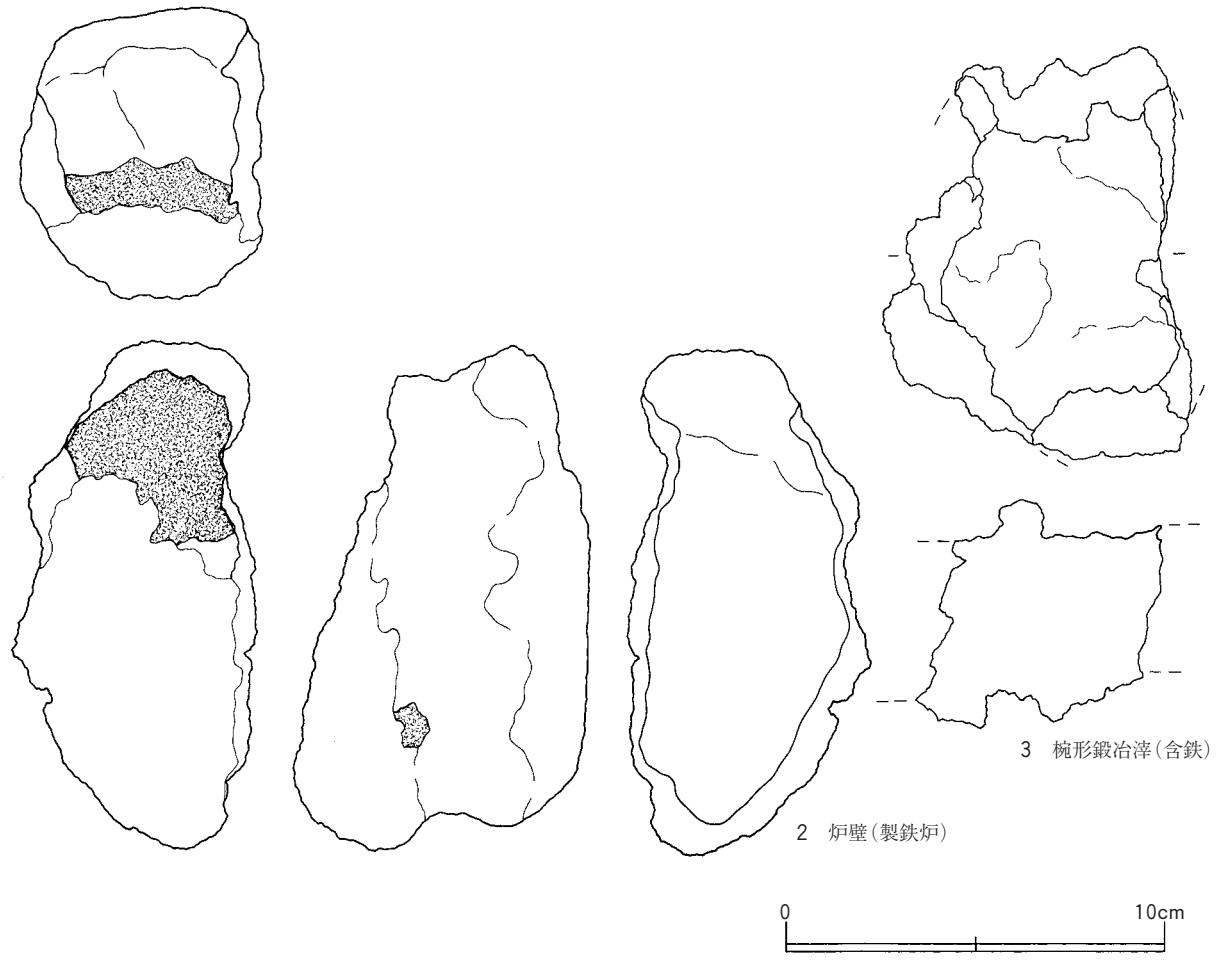


第171図　出土遺物（炭窯内②）

SW3832



SW3806



第172図　出土遺物（炭窯内③）

第４節　出土遺物

本節では、遺構内及び遺構外の出土遺物をまとめて記載する。遺構内出土遺物については、前節までの各遺構についての記述の中でも部分的にふれている。

１　土師器

本遺跡出土の土師器はほとんどが坏と甕という、単純な器種組成を示しており、９世紀後半～10世紀前半に属するもので占められている。

坏はほとんどが底部無調整で、回転糸切り技法による底部切り離しのものである。形態的な特徴から、**Ａ類**：底部から口縁部にかけて大きく外反するもの(第101図15等)、**Ｂ類**：底部から口縁部かけて直線的なもの(第99図７・８等)、**Ｃ類**：底部から口縁部にかけて緩やかに内湾するもの(第101図１・３・４等)、**Ｄ類**：底部から体部にかけて内湾し、口縁部で短く外反するもの(第99図９、第100図15・16等)に分類される。Ａ類は皿に近い形態で、Ｃ・Ｄ類は椀に近い形態である。

内面黒色処理の坏は少量認められるが、内外面ともに黒色処理されたものはみられない。これらには高台を有するもの(第107図８・10、第173図13等)と高台を有さないもの(第107図11、第112図10等)がある。形態は高台の有無にかかわらず、Ｄ類で占められるが、第107図11は体部中央に稜線を持つ。

甕は、ロクロ成形によるものを中心に、一部輪積み痕が認められるものもある。タタキ目のみられるものはなく、外面をヘラケズリ調整、内面を横ナデ調整によって仕上げられているものが多い。また、頸部に指頭によるオサエがみられるものがある(第102図２・12、第109図７、第111図６)。形態的に、**Ａ類**：底部から胴部にかけて緩やかに開くように内湾し、頸部で「く」の字状に屈曲し外反するもの(第111図６、第110図１～３等)、**Ｂ類**：胴部が大きく内湾し、頸部から口縁部にかけてやや外反するもの(第107図16等)、**Ｃ類**：胴部はほぼ直線的で、頸部で直立し口縁部が短く外反するもの(第97図12等)、**Ｄ類**：底部から頸部にかけて直線的に開くように立ち上がり、口縁部で短く外反するもので、鉢に近いもの(第110図３～５等)、**Ｅ類**：肩部が強く屈曲し、頸部が直立して口縁部にかけて大きく開くもの(第108図３)に分類される。このうち本遺跡ではＡ類がもっとも多く組成する。

このほかに、小形の壺がＳＫ4432よりほぼ完形の状態で出土した。外面にワラのような植物圧痕がみられる。遺構外からは甕の把手が１点出土した(第181図11)。

２　須恵器

本遺跡では甕の破片がほとんどで、他には坏３点と長頸瓶・鉢が１点づつ組成する。

坏(第181図12～14)は、底部無調整で回転糸切り技法により切り離しがなされている。

甕は胴部破片がほとんどで内外面にタタキが認められる。これら胴部破片はすべて接合せず、底部や口縁部がみられないことから、胴部破片が選択的に遺跡内に持ち込まれたと推測することも可能である。第103図11は須恵器の胴部内面に墨の付着が認められ、甕破片転用硯と考えられる。

長頸瓶(第99図16)はロクロ成形で、形態から９世紀に属するものと考えられる。

３　陶磁器

国内産陶器には、ＳＫＰ4253から出土した灰釉陶器の埦１個体がある(第103図６)。井上喜久雄氏(愛知県陶磁資料館)に鑑定して頂いた結果、東濃産で10世紀に属するとのことであった。

中国産陶器には、ＳＩ2550から出土した青磁の口縁部破片がある(第98図１)。越窯産のもので、山

本信夫氏(山本考古研究所)に鑑定して頂いた結果、椀Ⅰ２類、９世紀後半～10世紀中頃の年代が与えられるとのことであった。(註４)

４　土製品

ＳＮ3676より勾玉が出土した(第109図11)。表裏から径３㎜の穿孔が施されている。

土錘は調査区中央の平坦部を中心として、遺構の内外から多く出土した。形態は砲弾状のものから球状のものまで多様である。

５　石製品

鍛冶作業に伴う鉄床石や砥石が遺構の内外から多く出土した。

鉄床石はすべて花崗岩製で、本遺跡より南へ約2.5㎞下った三倉鼻に産地が求められる。大きいものでもＳＩ1800出土のもので、すべて破砕したものや割れたものである。ＳＩ1800出土の鉄床石(第159図１)は割れ面を含む全面に敲打痕が認められた。本来はもっと大きかったのであろうが、使用に伴い破損し続け、安定のため最終的に地面に埋め込まれてまで使用されていたことがわかる。

砥石には板状のもの(第189図２～４)、多角柱状のもの(第189図１、第190図１)、盤状のもの(第189図５)がある。前者は小形のものが多く、破損しているが平面形態は撥形を呈するものと推測される。後２者は大形で安定感のあるもので占められる。

６　鉄製品・製鉄関連遺物

製鉄関連遺物は調査区中央の平坦部を中心に多く出土した。一方、鉄製品は点数が非常に少なく、鉄鏃(第130図４、第191図１・２)・釣針(第164図１・２)、小刀(第100図９)、刀子(第160図３、第164図３・４)、鉄槌(第150図３)、楔(第164図５、第191図３)、鉄鍋(第164図６～８)、鉄鈴(第164図９)、その他器種不明品が組成する。

鉄製品以外の製鉄関連遺物には、炉壁・羽口などの土壁類と、炉内滓・鍛冶滓などの鉄滓類がある。このうち、中世の地下式炭窯内出土の炉壁と椀形鍛冶滓(第170～172図)は、平安時代のものと質感や色調を明らかに異にし、炉壁胎土や鍛冶滓に付着する砂粒のキメが細かく均質的で、肉眼でも容易に識別できる。また、本遺跡では特殊な遺物として、ＳＫ5395から湯口鉄塊が出土した(第163図８・９、第191図６)。ＳＫ5895から出土した鉄鍋との関連が考えられる。

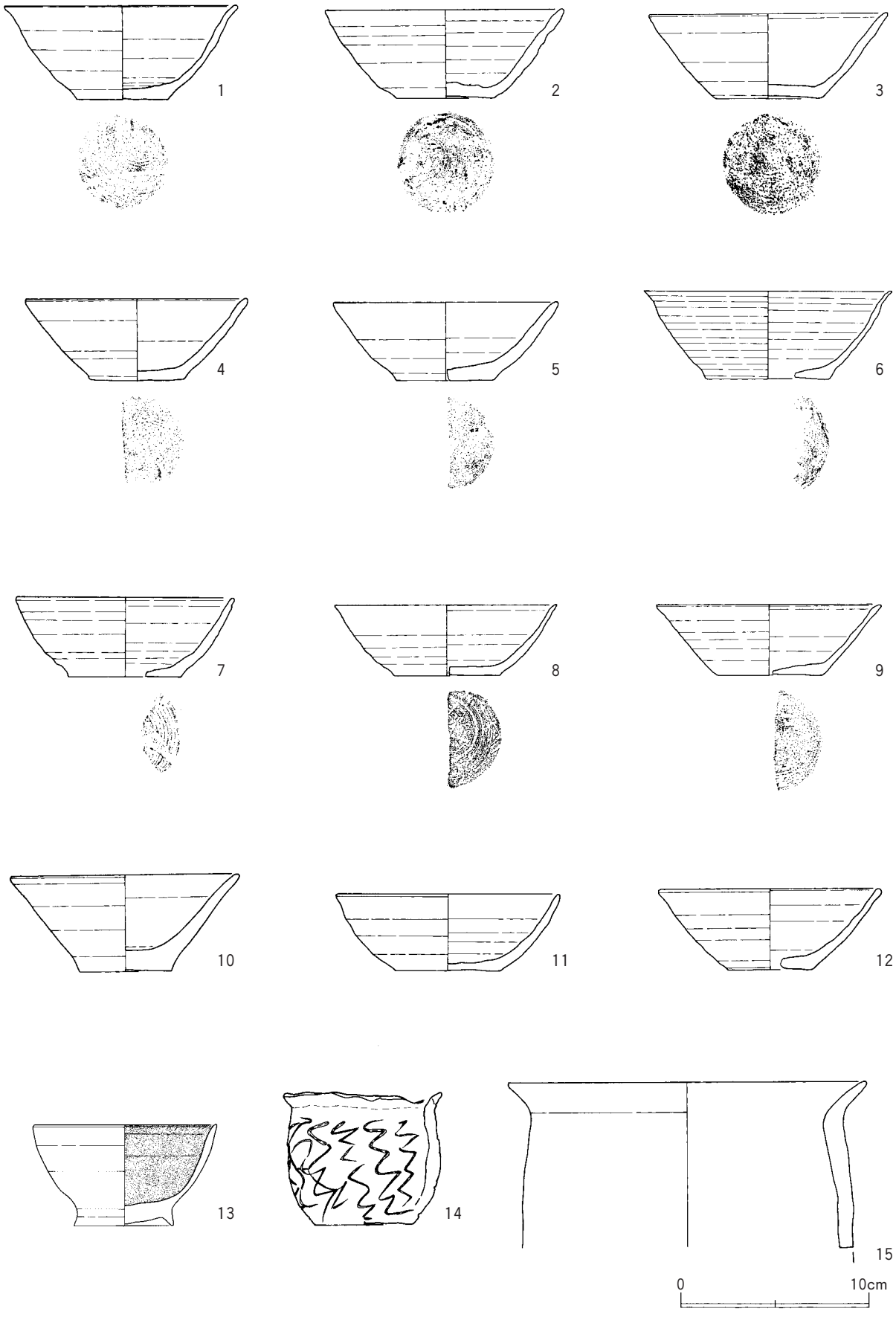
【註】

1　竪穴住居跡に掘立柱建物跡が併設される事例はすでに高橋学により指摘されている。本例はその分類に従えば、Ⅱｂ類に相当しようか。高橋学　「竪穴住居と掘立柱建物が併列して構築される遺構について－能代市副題石・十二林遺跡を端緒として－」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』　第４号　1989(平成元)年、高橋玲子　「平安時代東北地方における掘立柱施設付竪穴住居について」『秋田考古学』　第47号　2001(平成13)年

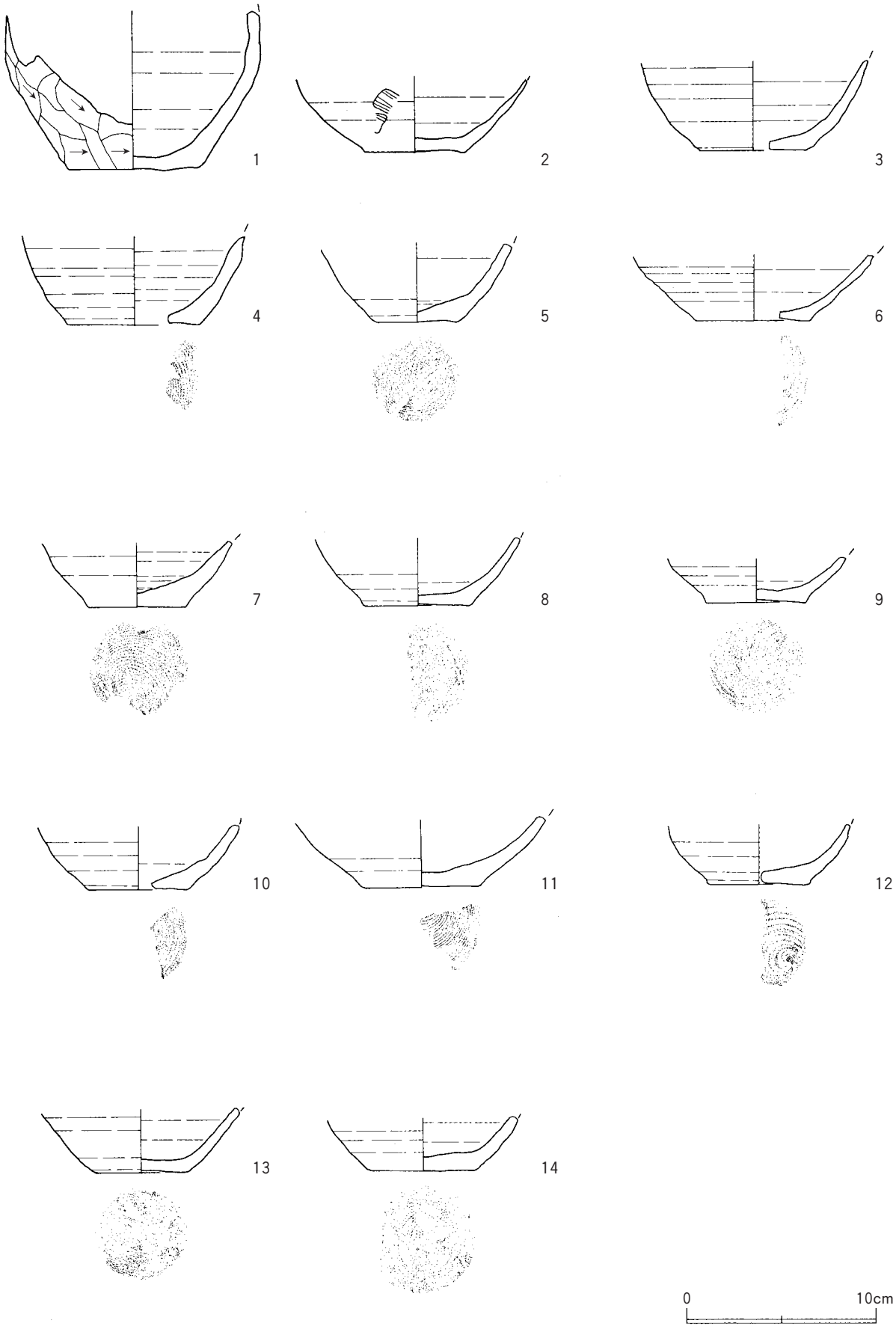
2　鉄滓の識別方法に関しては、他に以下の報告書を参考にした。
新津市教育委員会　『金津丘陵製鉄遺跡群Ⅱ　居村遺跡Ｅ・Ａ・Ｃ地点、大入遺跡Ａ地点』　1997(平成９)年
青森市教育委員会　『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ　野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』　青森市埋蔵文化財調査報告書第54集　2000(平成12)年

3　下山信昭　「東北地方における土鈴集成」『青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要』　第１号　1996(平成８)年

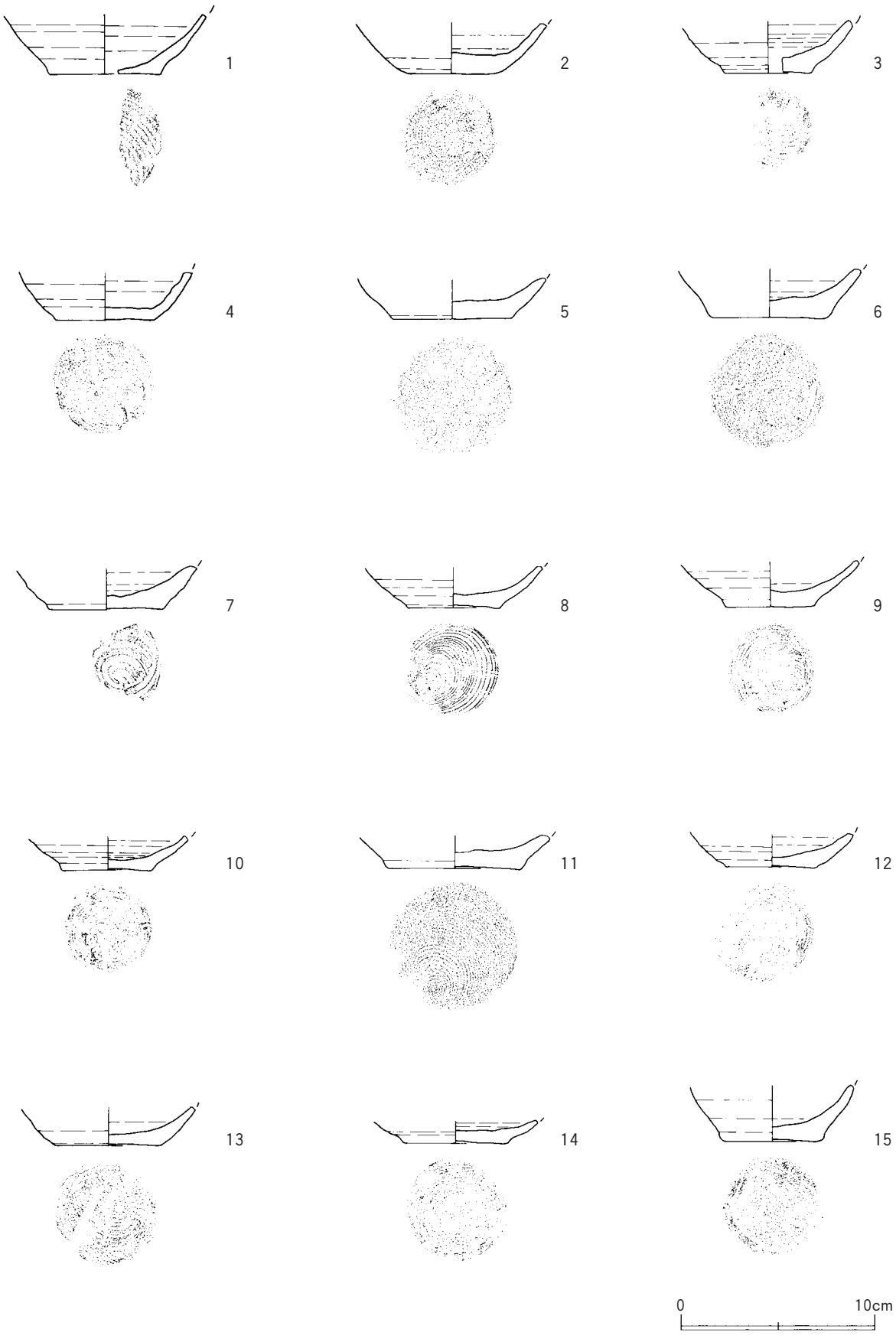
4　太宰府市教育委員会　『太宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』　太宰府市の文化財第49集　2000(平成12)年



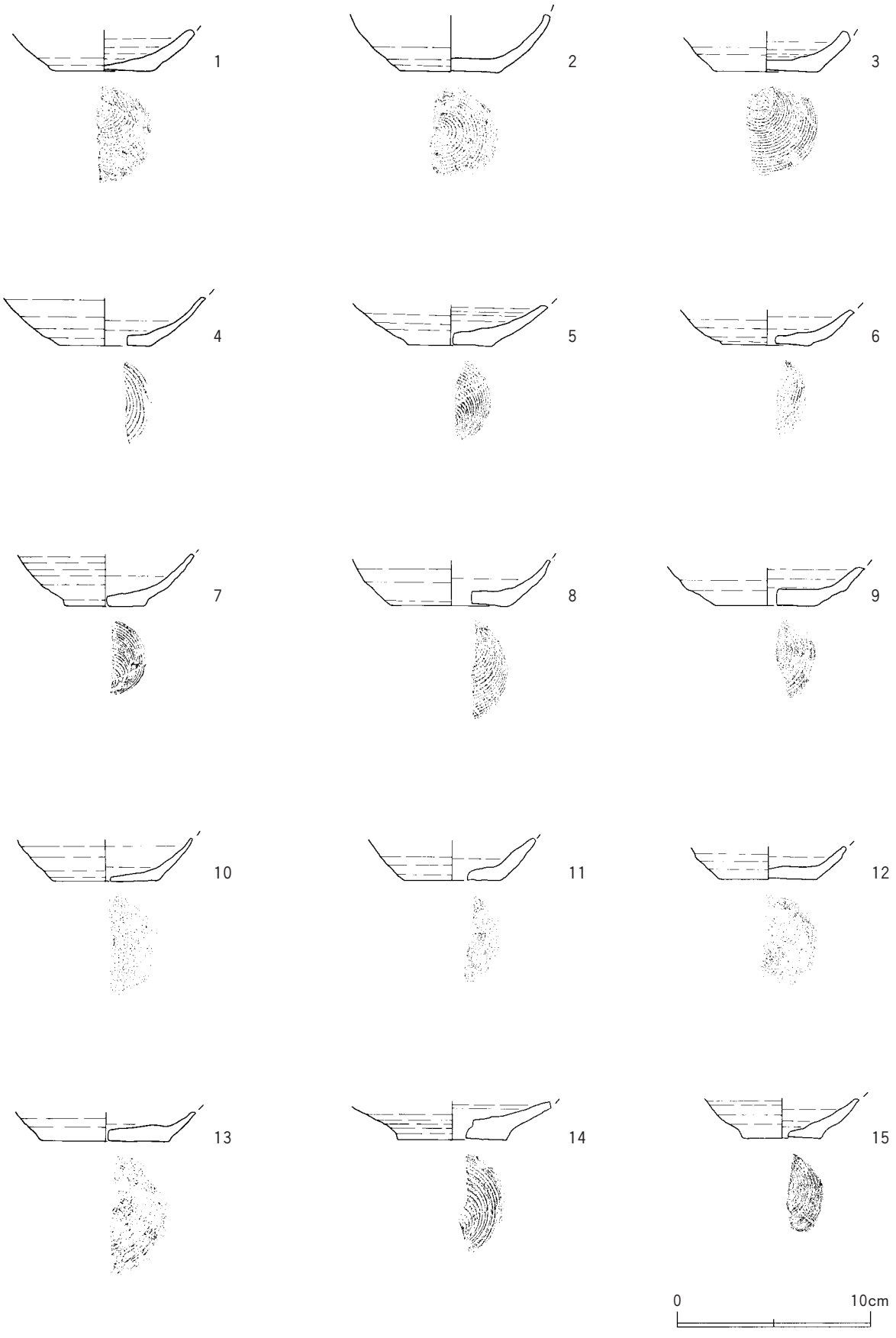
第173図　出土遺物（遺構外①）



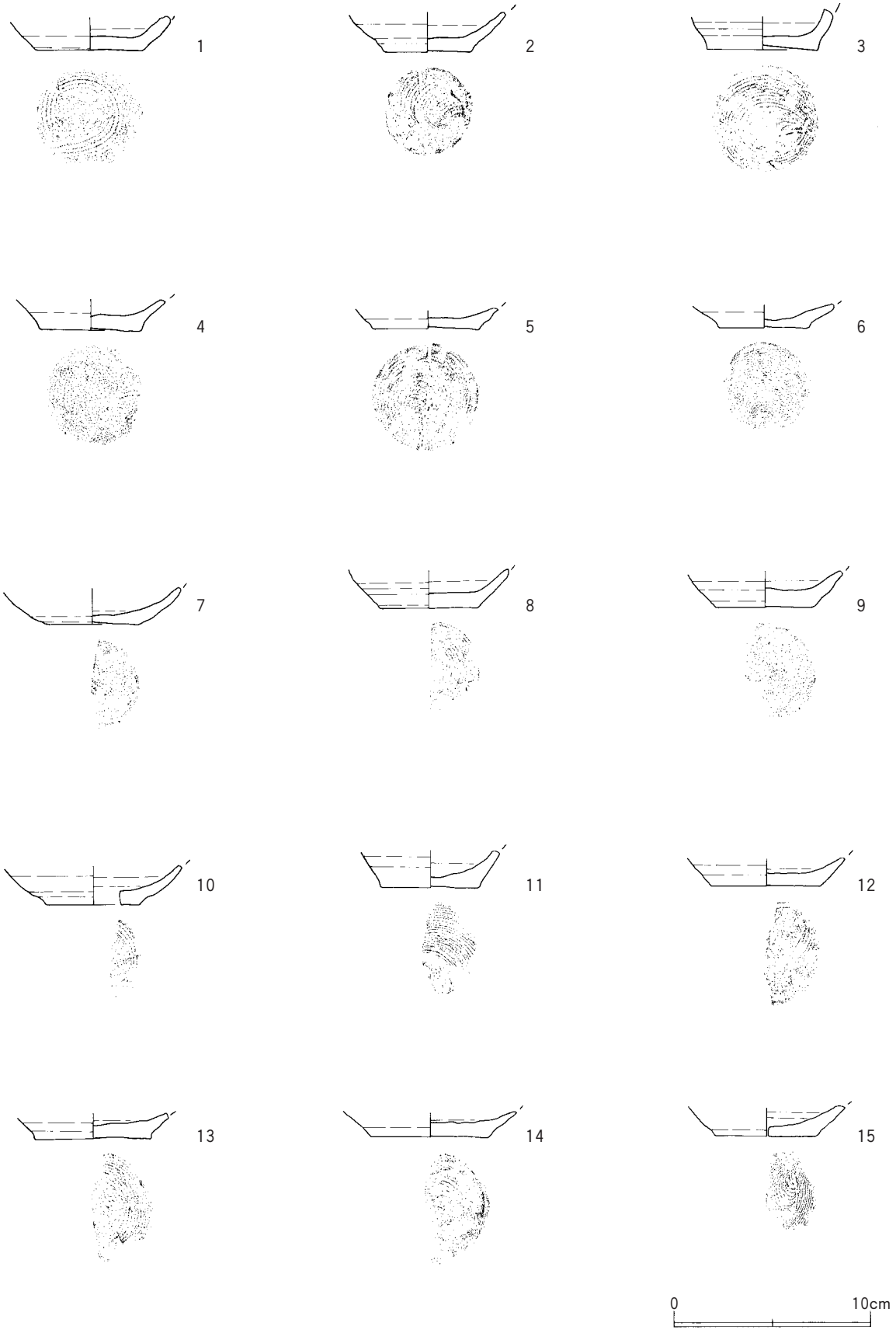
第174図　出土遺物（遺構外②）



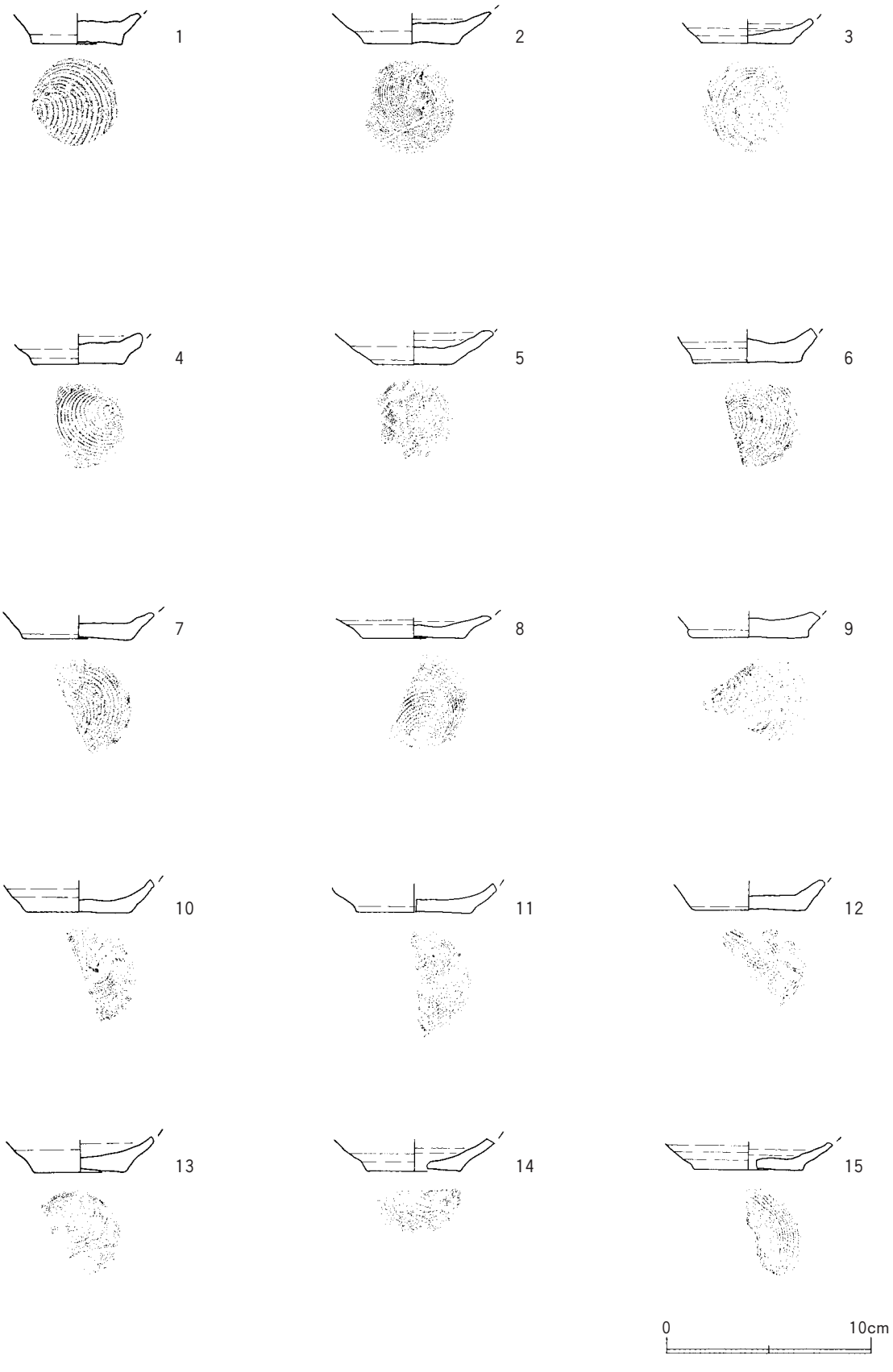
第175図　出土遺物（遺構外③）



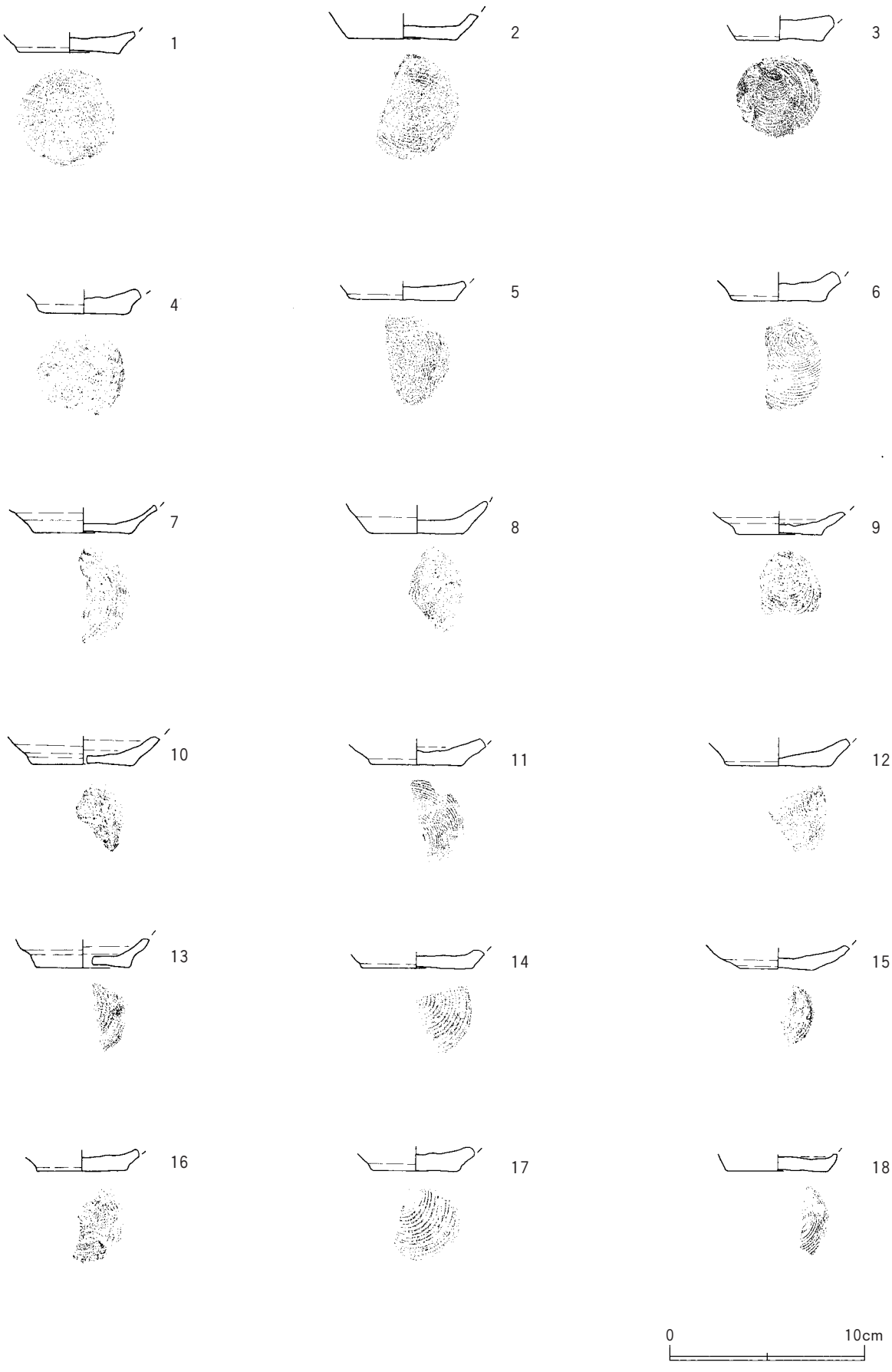
第176図　出土遺物（遺構外④）



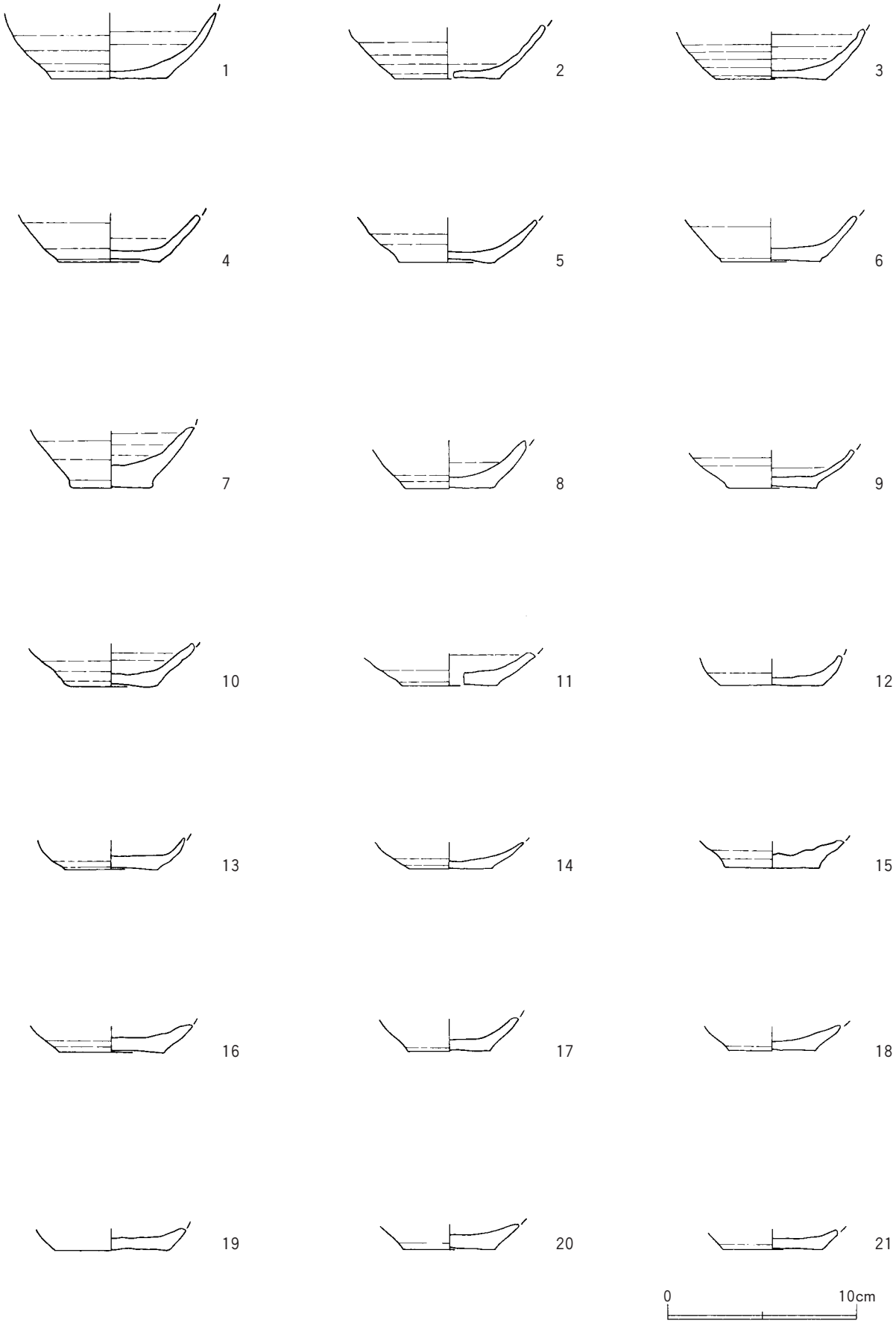
第177図　出土遺物（遺構外⑤）



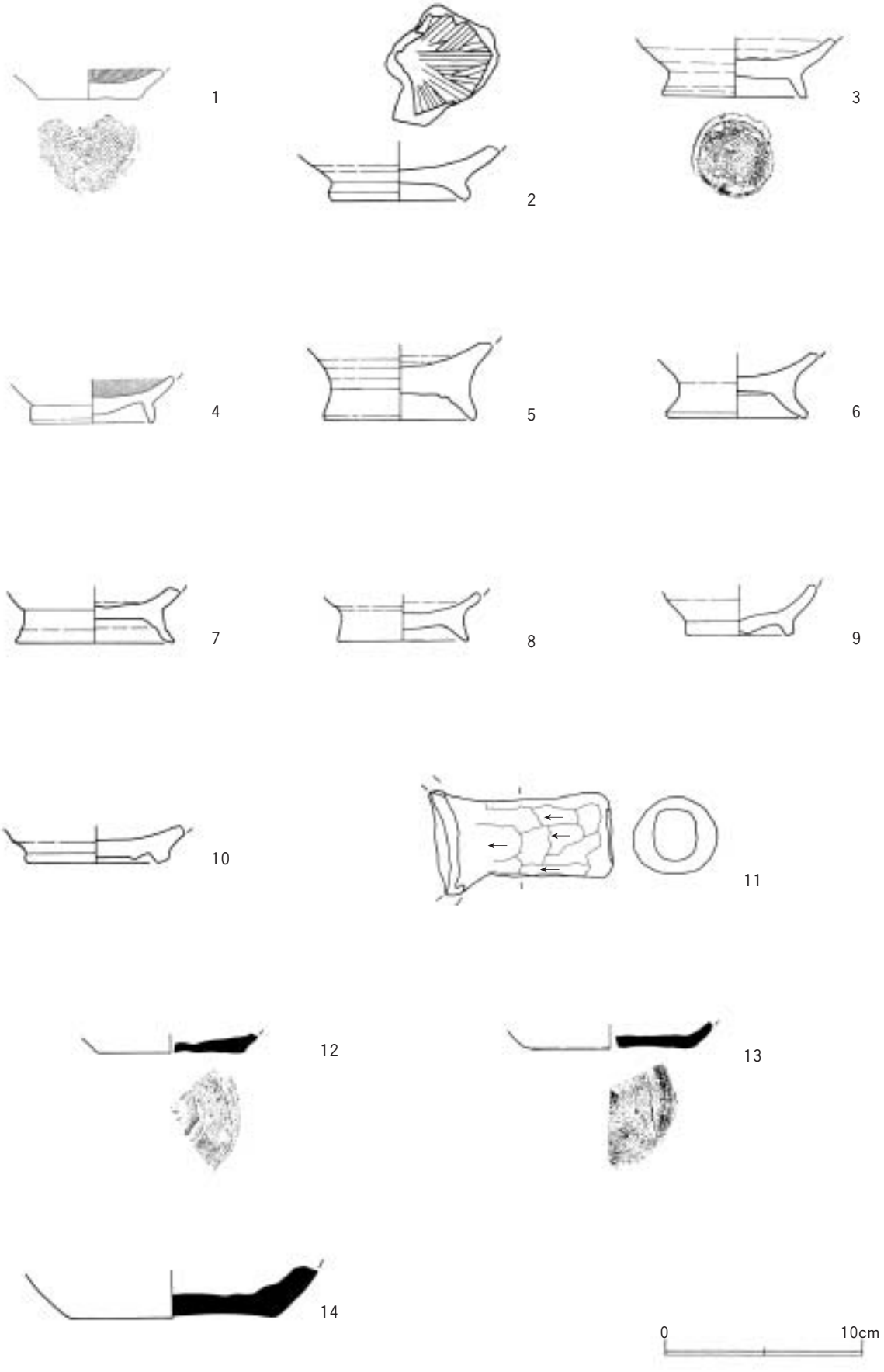
第178図　出土遺物（遺構外⑥）



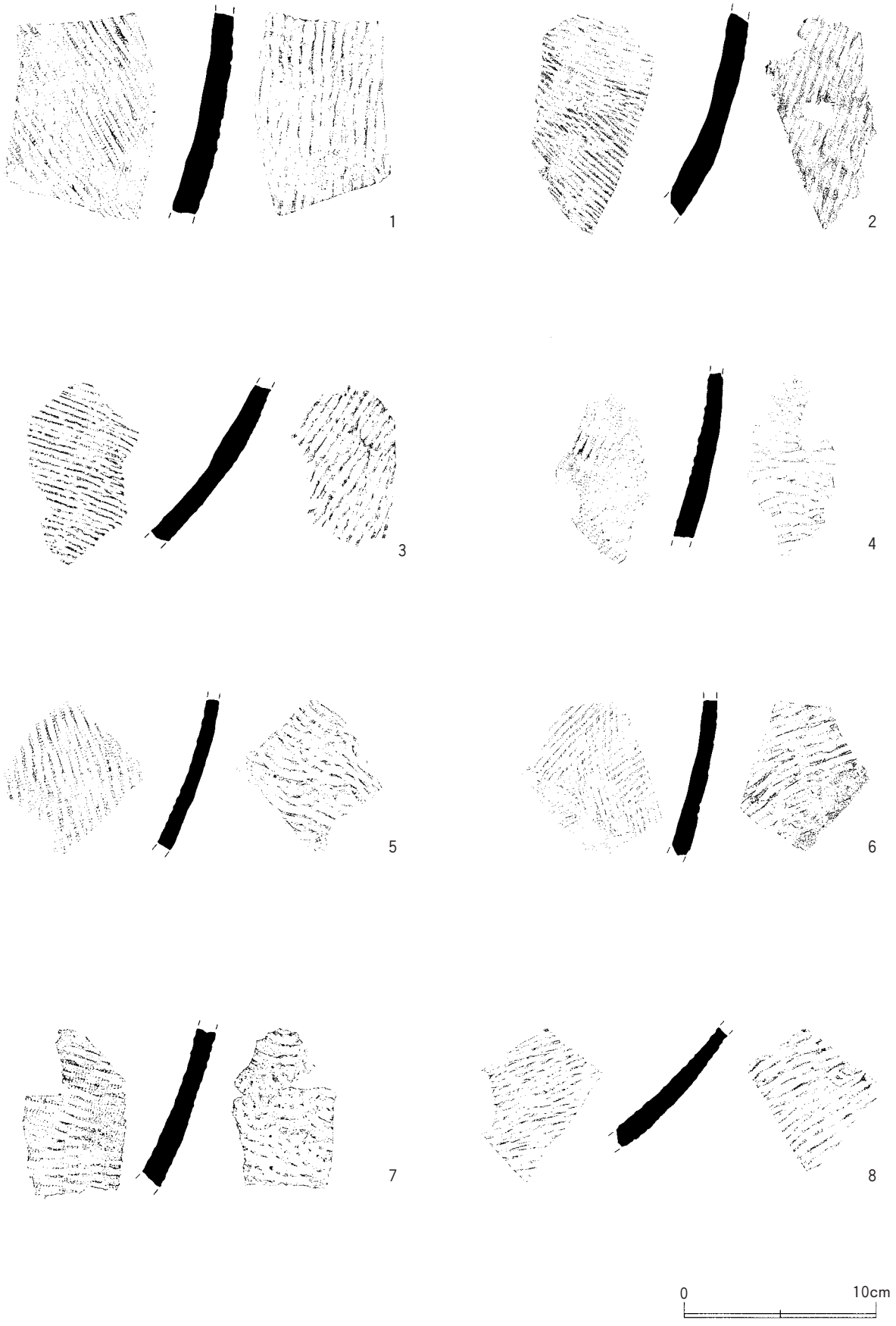
第179図　出土遺物（遺構外⑦）



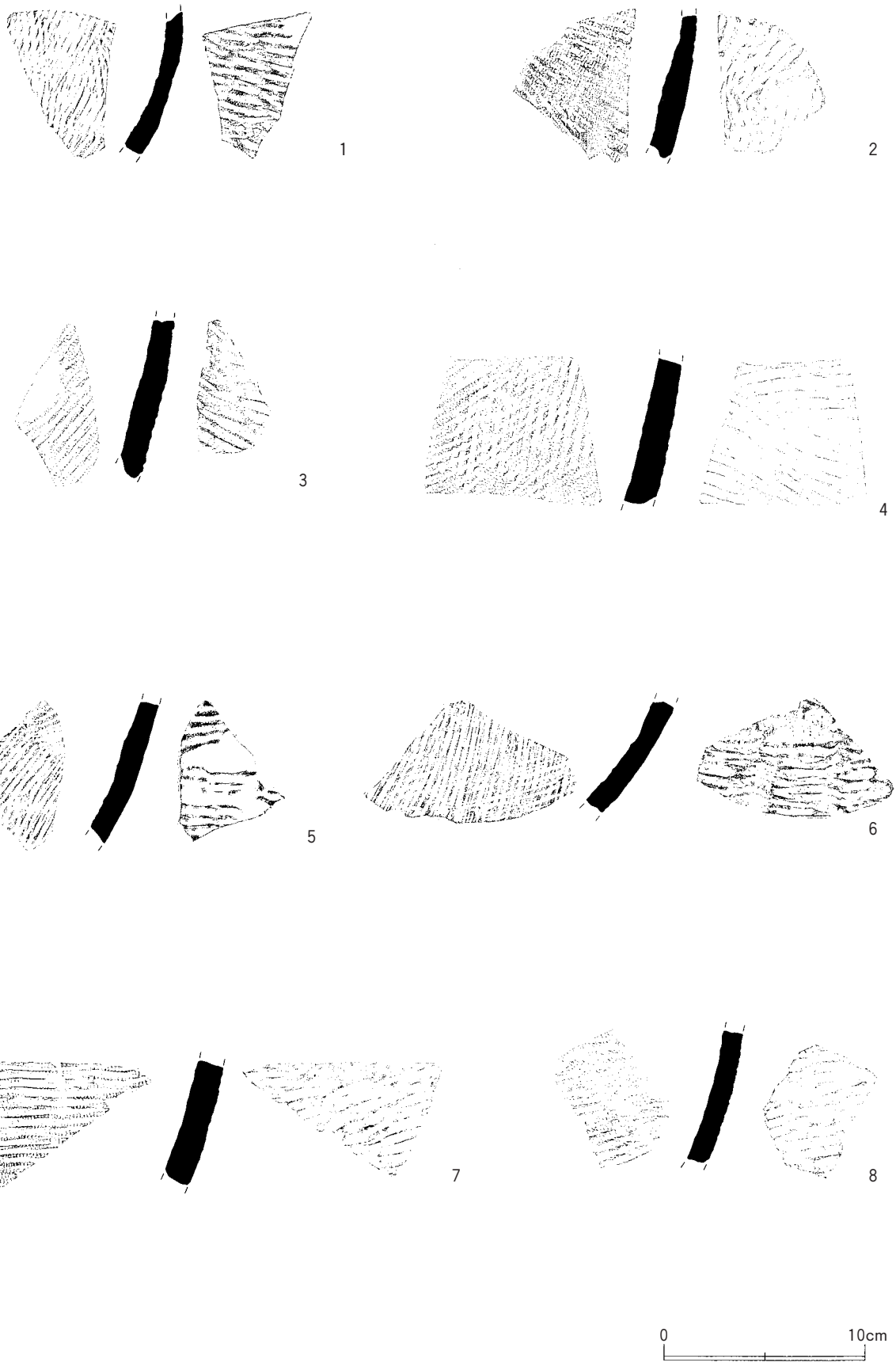
第180図　出土遺物（遺構外⑧）



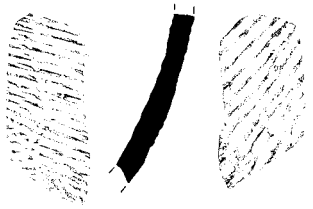
第181図　出土遺物（遺構外⑨）

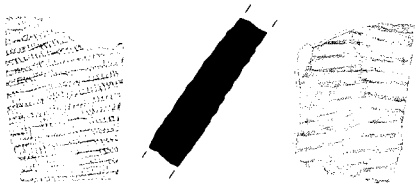


第182図　出土遺物（遺構外⑩）

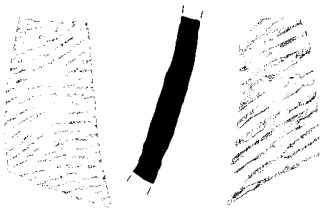


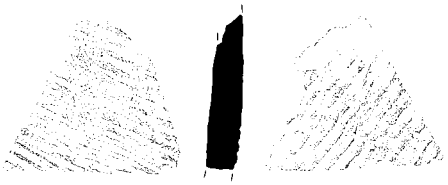
第183図　出土遺物（遺構外⑪）


1

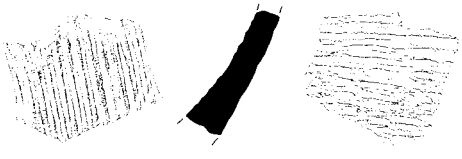

2

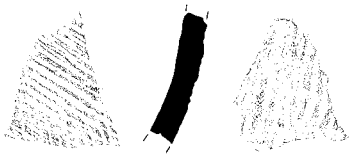
3


4

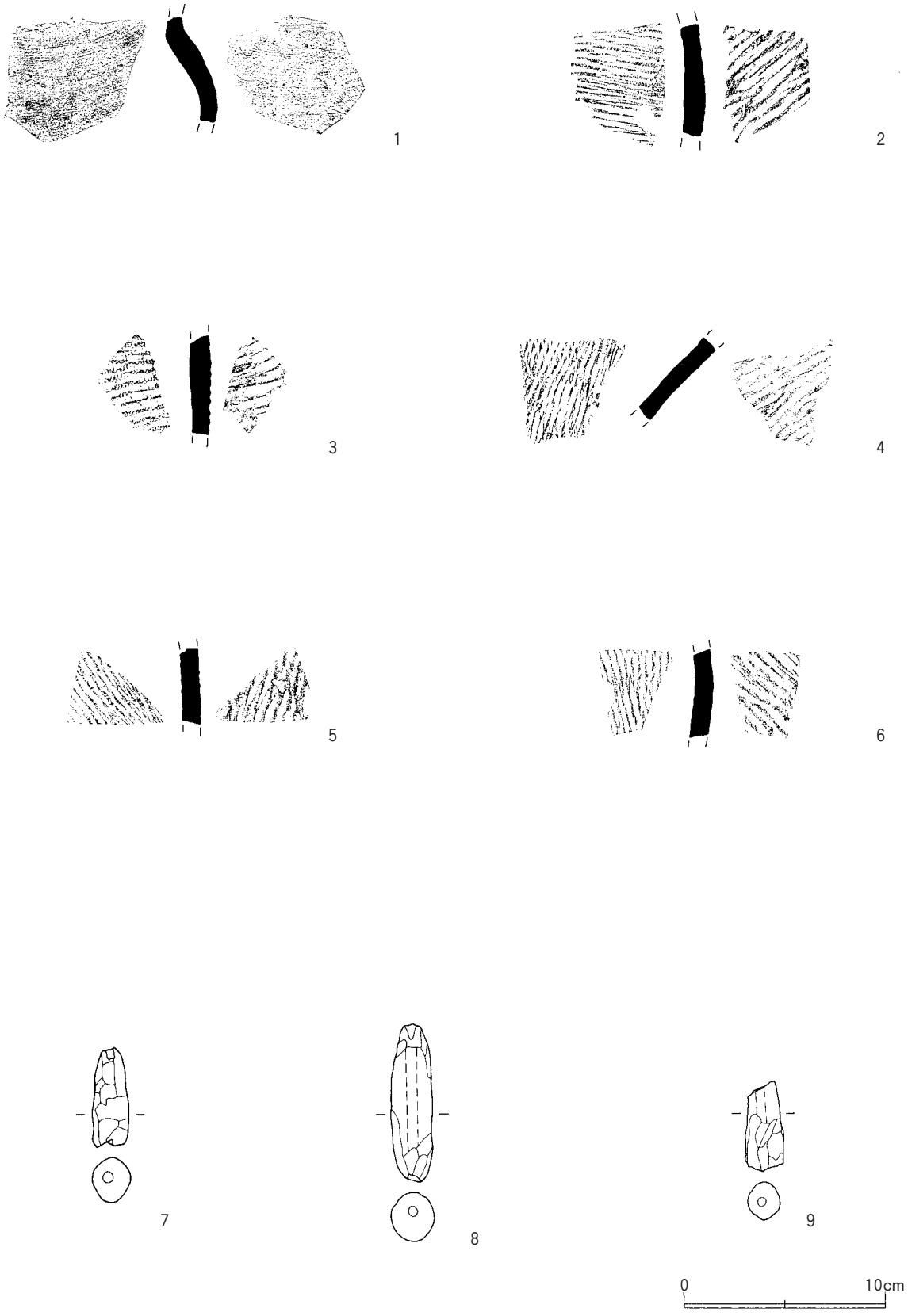

5

6

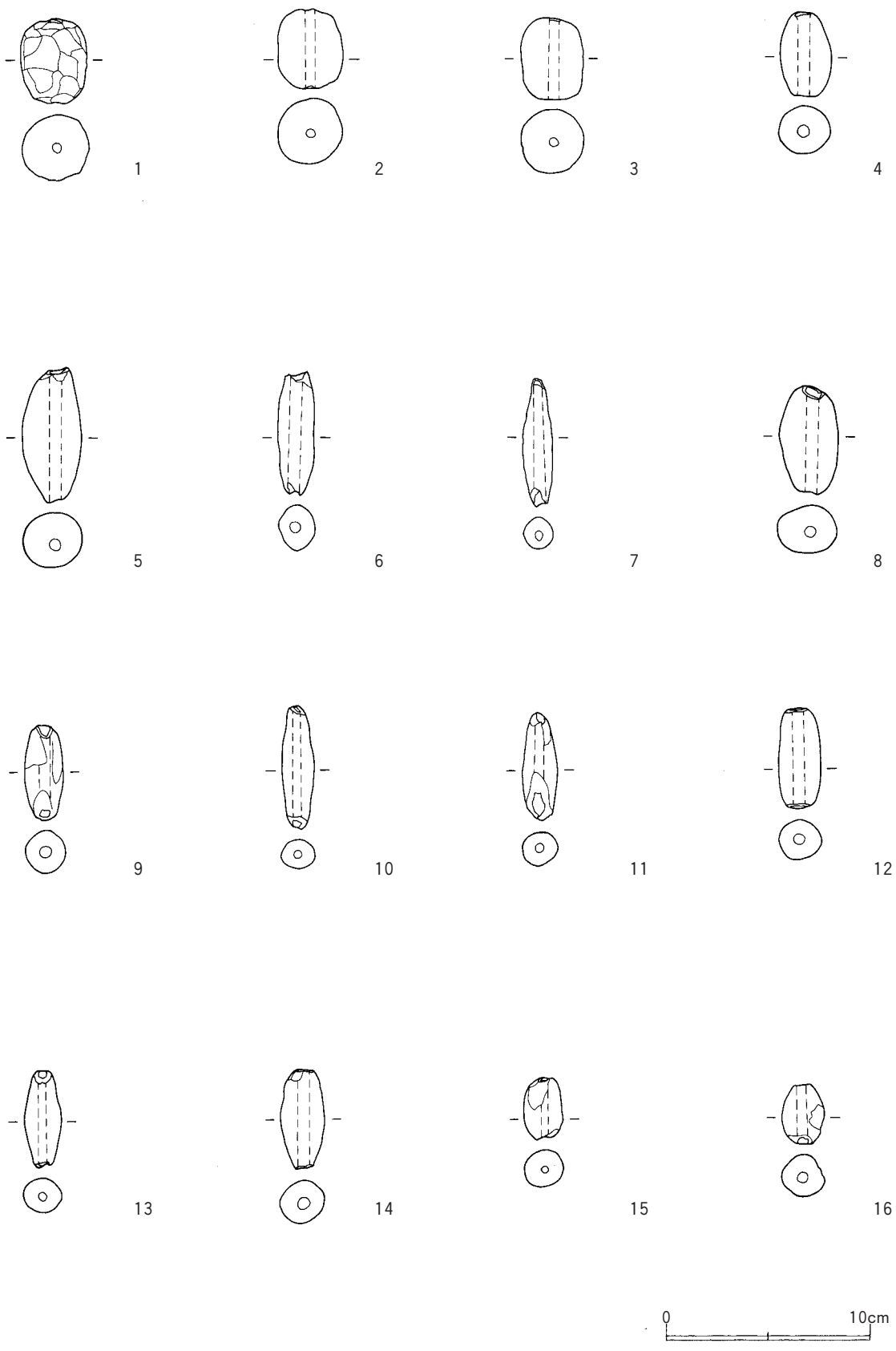

7


8

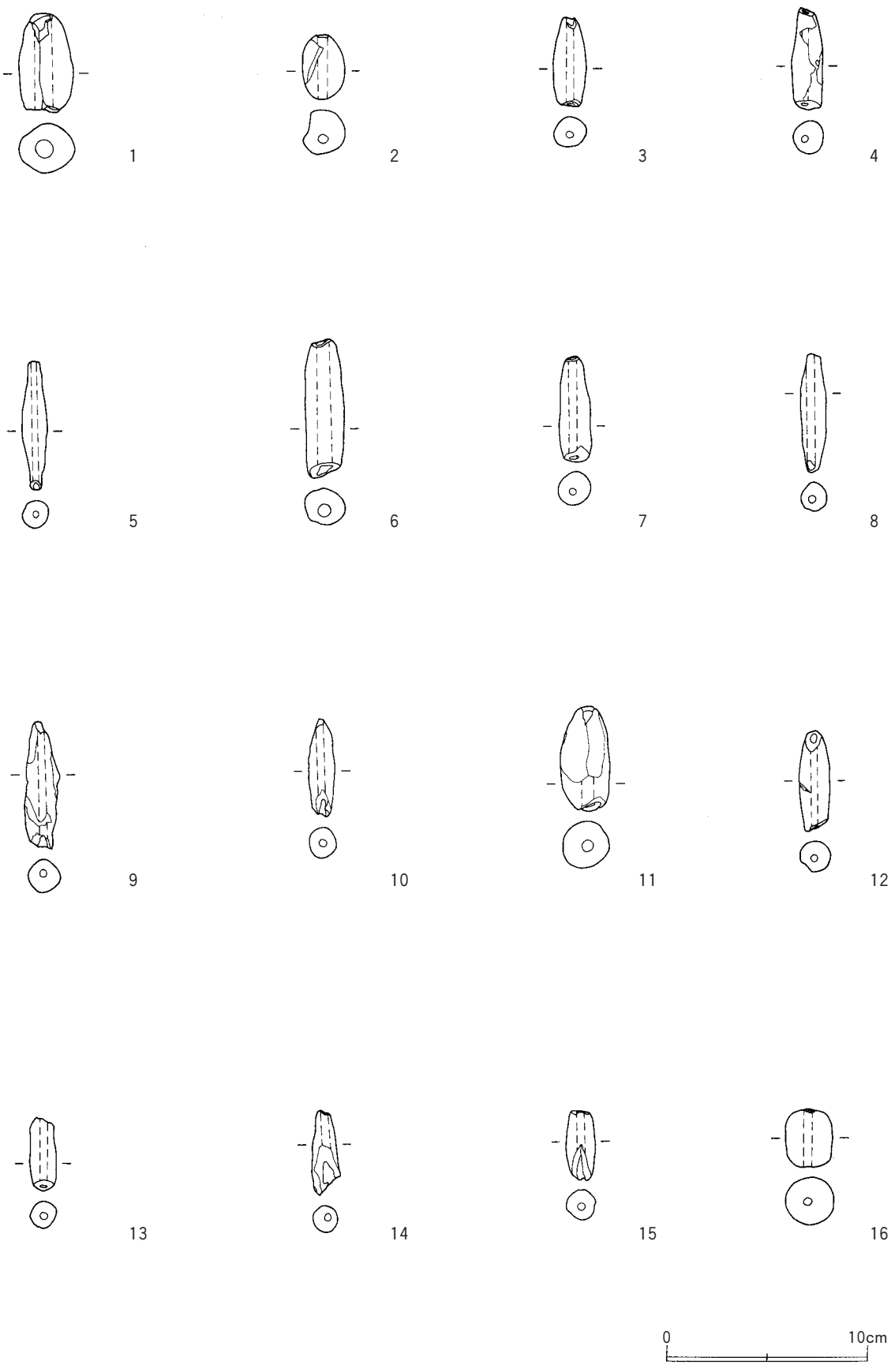
第184図　出土遺物（遺構外⑫）



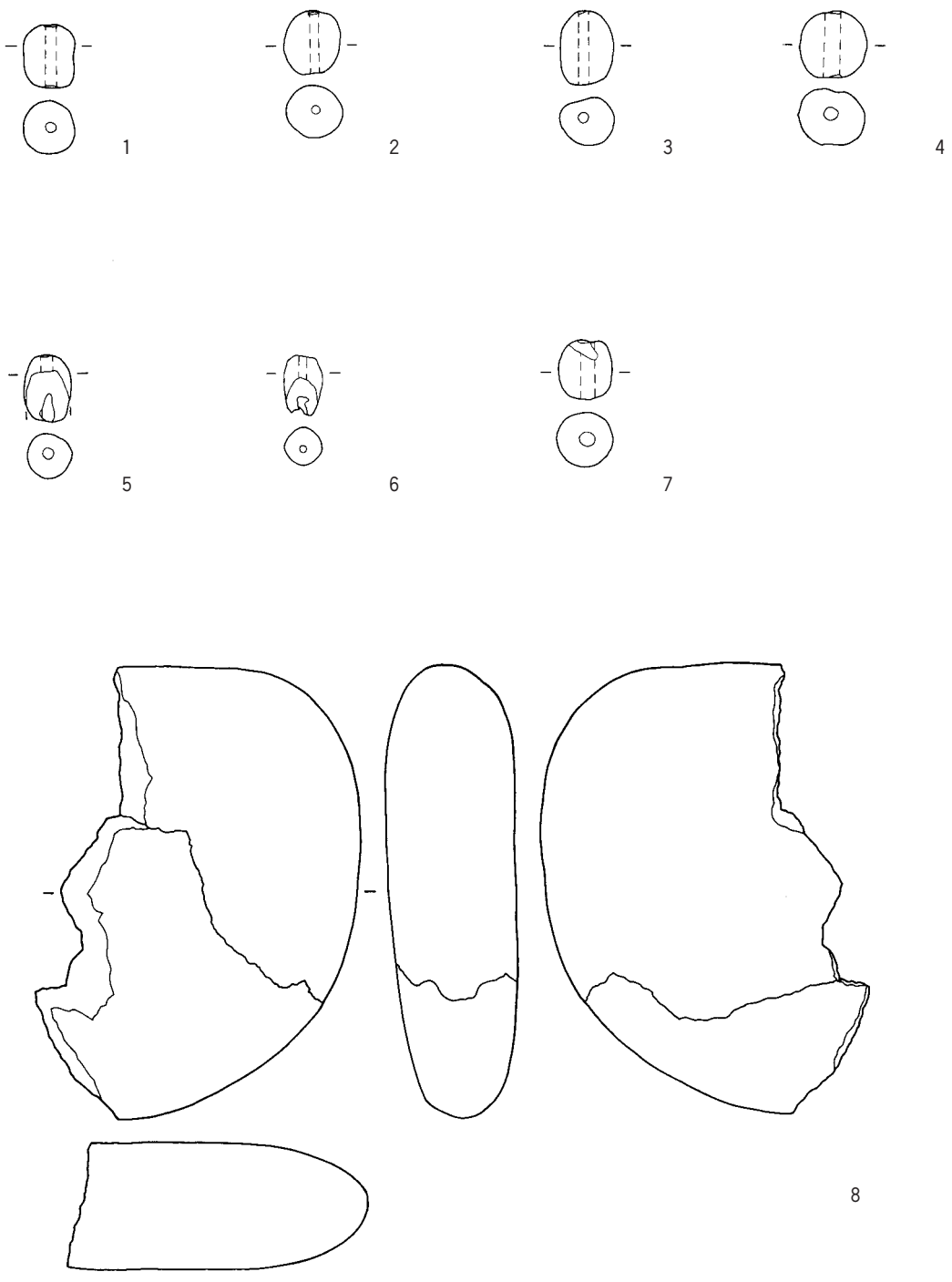
第185図　出土遺物（遺構外⑬）



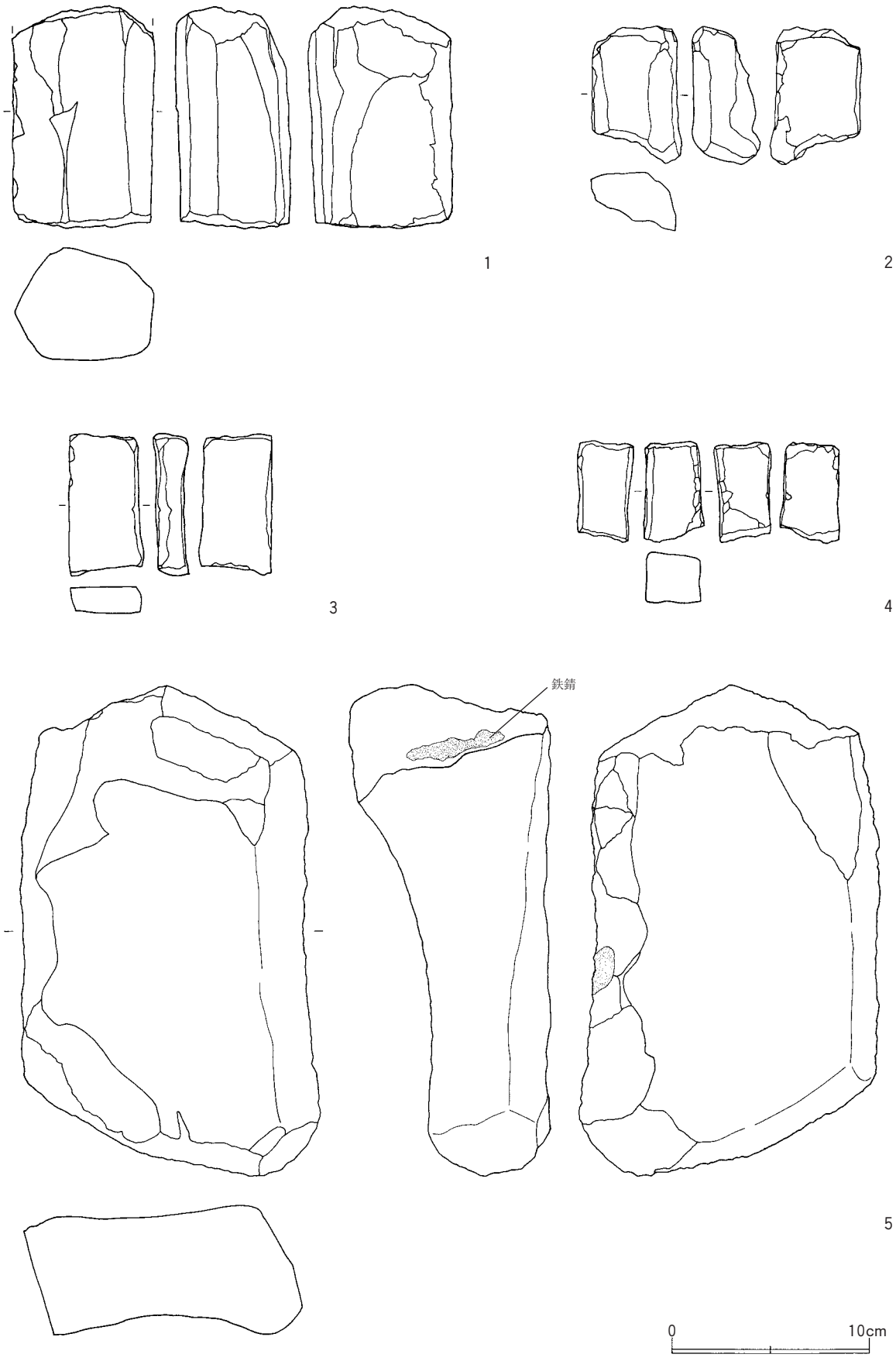
第186図　出土遺物（遺構外⑭）



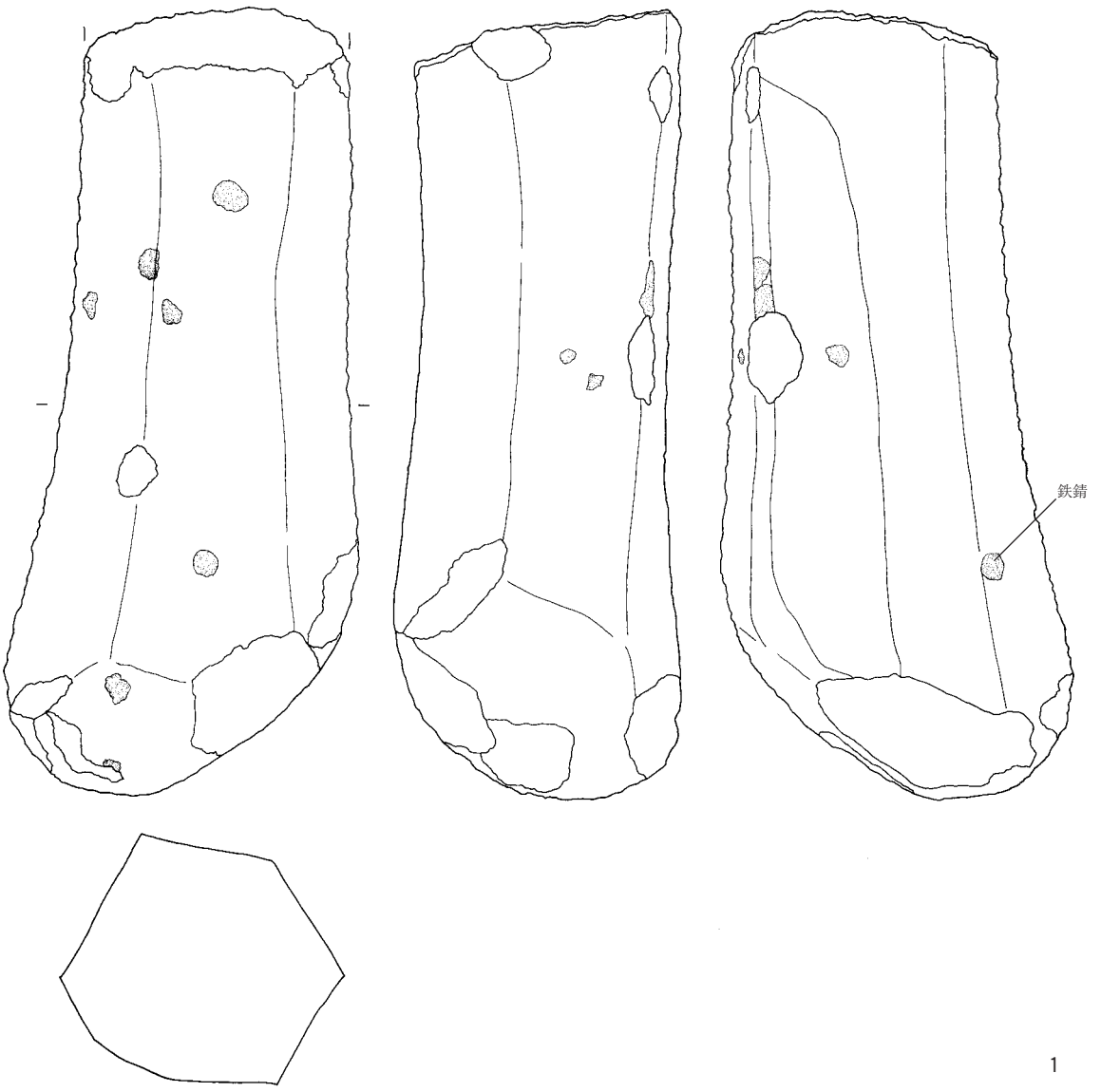
第187図　出土遺物（遺構外⑮）



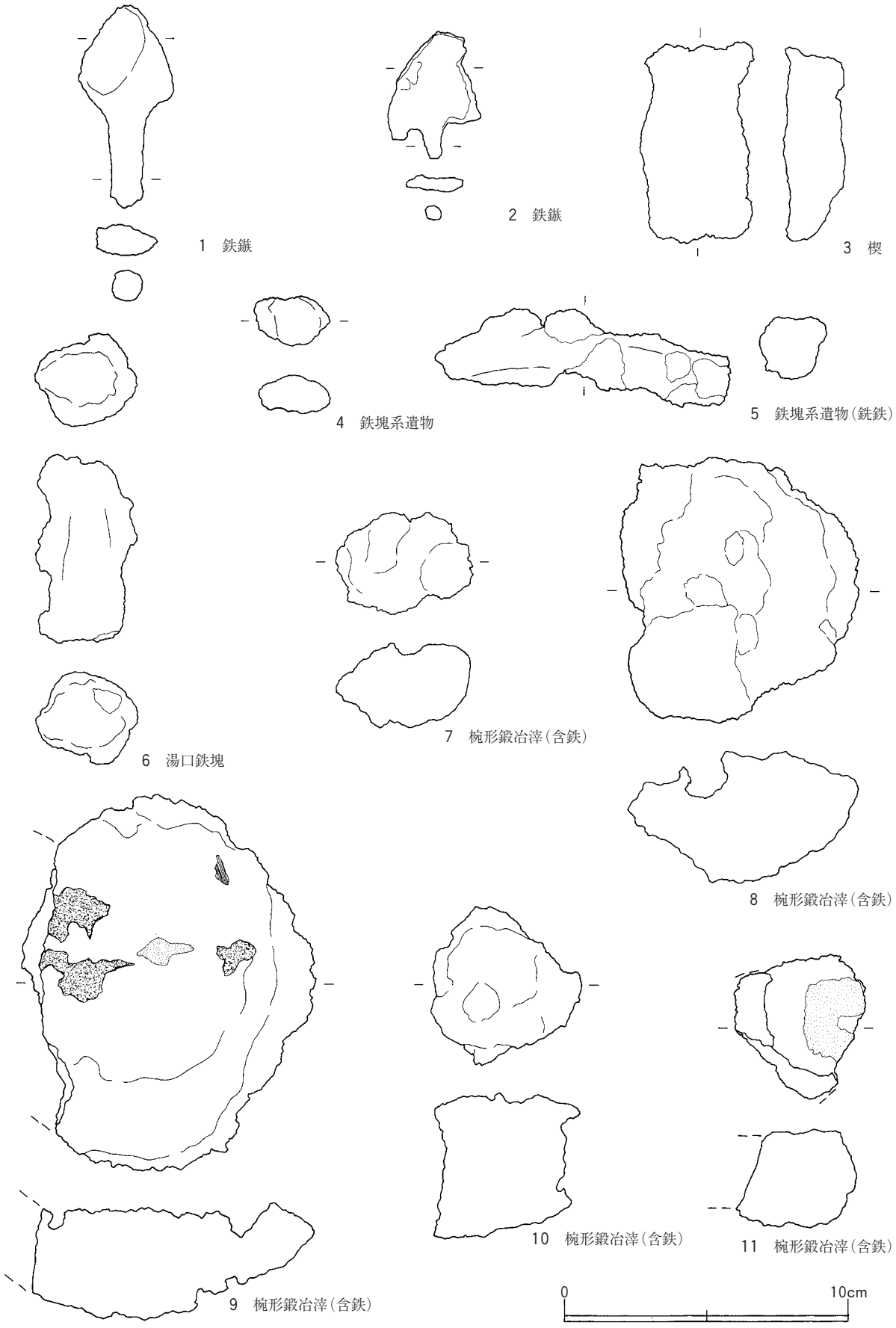
第188図　出土遺物（遺構外⑯）



第189図　出土遺物（遺構外⑰）



第190図　出土遺物（遺構外⑱）



第191図　出土遺物（遺構外⑲）

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
97	1	SI 86	土師器	坏	底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		5.2	(1.3)			回糸(右)		
97	2	SI 86	土師器	甕	口縁～胴部	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	11.8		(4.3)				ロクロ	
97	3	SI 1800	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	12.2	4.4	5.1			摩滅	ロクロ	
97	4	SI 1800	土師器	坏	口縁～底部	浅黄 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	12.1	4.8	4.1			回糸(右)	ロクロ	
97	5	SI 1800	土師器	坏	口縁～底部	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	13.8	5.8	4.1				ロクロ	
97	6	SI 1800	土師器	坏	体～底部	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		4.6	(2.4)			回糸(右)	ロクロ	
97	7	SI 1800	土師器	坏	体～底部	黒褐 7.5YR3/1	浅黄 2.5Y7/4		4.7	(3.1)			回糸(左)	ロクロ	
97	8	SI 1800	土師器	坏	体～底部	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6		3.9	(2.8)			摩滅	ロクロ	
97	9	SI 1800	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6		4.8	(2.2)			摩滅	ロクロ	
97	10	SI 1800	土師器	坏	底部	灰白 5Y8/1	灰白 2.5Y8/2		4.2	(1.6)			回糸(右)	ロクロ	
97	11	SI 1800	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		5.3	(1.8)			摩滅	ロクロ	
97	12	SI 1800	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	30.1		(20.1)				ケズリ	
97	13	SI 1800	土師器	高台付坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	淡黄 2.5Y8/3		5.4	(2.0)	0.5	5.4	摩滅	ロクロ	
97	14	SI 1800	土師器	甕	口縁～胴部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	11.7		(4.4)			摩滅	摩滅	
98	1	SI 2550	青磁	碗	口縁	オリーブ黄 5Y6/3	オリーブ黄 5Y6/3	14.5		(3.1)					
98	2	SI 2550	土師器	坏	口縁～胴部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	13.7		(4.1)				摩滅	
98	3	SI 2550	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.8	(2.4)			摩滅	ロクロ	
98	4	SI 2550	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3		5.4	(1.6)			摩滅	摩滅	
98	5	SI 2550	土師器	坏	体～底部	明褐灰 5YR7/2	にぶい橙 5YR7/4		5.0	(1.8)			回糸(右)	ロクロ	
98	6	SI 2550	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 10YR8/2		5.2	(1.3)			摩滅	摩滅	
98	7	SI 2550	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	17.5		(5.0)				摩滅	
98	8	SI 2550	土師器	甕	胴部	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/3							ケズリ	
98	9	SI 2550	須恵器	甕	口縁部	灰 N4/0	灰色 10Y6/1								
98	10	SI 2550	須恵器	甕	胴部	暗灰 N3/0	灰白 10Y7/1							タタキ	
98	11	SI 4000	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 10YR8/2		5.2	(1.3)			回糸		
98	12	SI 4000	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.0	(2.2)			摩滅	ロクロ	
98	13	SI 4000	須恵器	甕	胴～底部	灰 N5/0	青灰 10BG6/1		8.0	(5.4)				ケズリ	
99	1	SI 4085	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		5.4	(1.4)			回糸	ロクロ	
99	2	SI 4085	土師器	高台付坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		5.5	(2.3)	1.9	5.0		ロクロ	
99	3	SI 4085	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3			(6.7)				ケズリ	
99	4	SI 4085	土師器	甕	胴～底部	浅黄橙 10YR8/4	にぶい黄橙 10YR7/2		9.2	(7.5)				ケズリ	
99	5	SI 4085	須恵器	甕	胴部	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y5/1							タタキ	SK02
99	6	SI 4188	土師器	坏	口縁～底部	灰白 10YR8/2	灰白 7.5YR8/2	12.0	5.4	4.9			回糸(右)	ロクロ	
99	7	SI 4188	土師器	坏	口縁～底部	灰白 10YR8/2	浅黄 2.5Y8/3	11.8	5.6	4.5			回糸(左)	ロクロ	
99	8	SI 4188	土師器	坏	口縁～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	12.5	5.4	4.9			摩滅	ロクロ	
99	9	SI 4188	土師器	坏	口縁～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	(13.5)	4.6	(4.4)			摩滅	ロクロ	
99	10	SI 4188	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3		5.2	(4.4)			摩滅	ロクロ	
99	11	SI 4188	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 7.5YR8/2		5.8	(3.5)			回糸(右)	ロクロ	
99	12	SI 4188	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		5.3				回糸(右)	ロクロ	
99	13	SI 4188	土師器	坏	口縁部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	12.3		(2.7)				ロクロ	
99	14	SI 4188	土師器	坏	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 10YR8/2	12.1		(4.3)				ロクロ	
99	15	SI 4188	土師器	坏	口縁部	明褐灰 7.5YR7/2	褐灰 10YR5/1	18.4		(2.8)					
99	16	SI 4188	須恵器	長頸瓶	胴～底部	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1		6.0	(3.3)				ロクロ	
100	1	SI 4300	土師器	坏	胴～底部	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3		5.2	(2.9)			回糸	ロクロ	
100	2	SI 4300	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.8	(1.5)			回糸	ロクロ	
100	3	SI 4300	土師器	坏	胴～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.2	(2.0)			摩滅	ロクロ	
100	4	SI 4300	土師器	坏	胴～底部	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/4		4.9	(1.7)			摩滅	ロクロ	
100	5	SI 4300	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	灰 7.5Y6/1		5.5	(1.3)			回糸(右)	ロクロ	
100	6	SI 4300	土師器	坏	体～底部	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2		5.6	(1.1)			回糸	ロクロ	
100	7	SI 4300	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.8	(3.3)			回糸	ロクロ	
100	8	SI 4300	土師器	甕	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	18.4		(3.0)					
100	12	SI 4444	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	12.6	5.8	4.5			摩滅	ロクロ	
100	13	SI 4444	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.4	(3.4)			回糸(左)	ロクロ	
100	14	SI 4444	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4		5.6	(2.3)			回糸	ロクロ	
100	15	SI 4444	土師器	坏	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/2	黄灰 2.5Y6/1	11.5		(4.2)				ロクロ	
100	16	SI 4444	土師器	坏	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰 N3/0	10.2		(4.4)				ロクロ	内黒
100	17	SI 4444	土師器	坏	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	12.6		(4.4)				ロクロ	

第２表　遺構内出土土器観察表①

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
100	18	SI 4444	土師器	坏	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	12.1		(3.6)				ロクロ	
100	19	SI 4444	土師器	坏	口縁～胴部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	12.0		(3.4)				ロクロ	
100	20	SI 4444	土師器	坏	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	12.8		(3.7)				ロクロ	
100	21	SI 4444	土師器	甕	底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3		9.2	(2.0)			ヘラ	ケズリ	
100	22	SI 4444	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	26.0						ケズリ	
101	1	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	12.8	4.8	5.7			回糸(左)	ロクロ	
101	2	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	11.8	5.0	4.9			回糸(左)	ロクロ	
101	3	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	12.0	5.3	4.9			回糸(右)	ロクロ	
101	4	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	13.6	5.2	5.6			回糸	ロクロ	
101	5	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	12.6	4.8	5.0			回糸(左)	ロクロ	
101	6	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	14.0	5.1	5.1			回糸(左)	ロクロ	
101	7	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	橙 5YR7/6	橙 5YR7/8	11.3	3.6	5.0			回糸(右)	ロクロ	
101	8	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	12.5	5.1	4.1			回糸	ロクロ	
101	9	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	11.7	5.1	4.0			回糸(右)	ロクロ	
101	10	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/4	12.4	4.9	4.4			回糸(右)	ロクロ	
101	11	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	13.1	5.9	4.3			回糸(右)	ロクロ	
101	12	SI 5839	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4		4.4	(3.0)			回糸(左)	ロクロ	
101	13	SI 5839	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		4.8	(3.0)			回糸(左)	ロクロ	
101	14	SI 5839	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3						回糸(左)	ロクロ	
101	15	SI 5839	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	13.3	4.3	(3.7)			回糸(左)	ロクロ	
101	16	SI 5839	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR7/6	20.8		(10.9)				ロクロ	
101	17	SI 5839	土師器	甕	口縁～胴部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/4	19.8		(10.4)				ケズリ	
102	1	SI 5839	土師器	甕	胴～底部	浅黄橙 10YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/3		10.6	(21.3)				ケズリ	
102	2	SI 5839	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	19.3		(13.9)				ケズリ・ナデ	
102	3	SI 5839	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/4	9.8		(4.5)				ケズリ	
102	4	SI 5840	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	12.4	5.1	4.5			回糸(右)	ロクロ	
102	5	SI 5840	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		4.5	(2.1)			回糸(左)	ロクロ	
102	6	SI 5840	土師器	坏	体～底部	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		4.6	(2.6)			回糸	ロクロ	SK02
102	7	SI 5840	土師器	坏	体～底部	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6		4.5	(2.1)			回糸(左)	ロクロ	
102	8	SI 5840	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3		4.0	(1.4)			回糸(左)	ロクロ	
102	9	SI 5840	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		4.6	(1.3)			回糸(左)	ロクロ	
102	10	SI 5840	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	淡黄 2.5Y8/3		5.2	(1.6)			回糸	ロクロ	
102	11	SI 5840	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい褐 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/4	13.5		(6.0)				ケズリ・ナデ	
102	12	SI 5840	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい褐 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/4	14.6		(8.3)				ケズリ・ナデ	
103	1	SKI 5200	土師器	坏	底部	黄橙 10YR7/8	黄橙 10YR7/8		4.9	(1.2)			回糸(右)	ロクロ	
103	2	SB 484	土師器	坏	体～底部	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2		5.2	(1.4)			回糸		
103	3	SKP 4071	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.0	(1.4)			回糸(右)	ロクロ	
103	5	SKP 5323	土師器	坏	体～底部	黄橙 7.5YR7/8	黄橙 7.5YR7/8		5.8	(2.9)			回糸	ロクロ	
103	6	SKP 4253	灰釉陶器	埦	口縁～底部	灰白 2.5GY8/1	灰白 2.5GY8/1	13.1	5.0	6.4	0.8	4.6		ロクロ	
103	7	SKP 687	土師器	坏	体～底部	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8		5.3	(2.3)			回糸	ロクロ	
103	8	SKP 687	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	12.1	5.1	4.1			回糸(右)	ロクロ	
103	9	SKP 687	土師器	坏	体～底部	黄橙 10YR7/8	黄橙 10YR7/8		4.9	(5.1)			回糸	ロクロ	
103	10	SKP 687	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	11.9	5.5	3.7			回糸(右)	ロクロ	
103	11	SKP 5232	須恵器	甕	胴部	灰 10Y4/1	灰白 7.5Y7/1							タタキ	転用硯
104	2	SK 21	土師器	坏	底部	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y8/2		5.8	(1.4)			ヘラ切り	ロクロ	
104	3	SK 38	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	11.0	5.7	4.0			回糸(右)	ロクロ	
104	4	SK 38	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.7	(2.3)			回糸(左)	ロクロ	
104	5	SK 38	土師器	坏	底部	灰白10YR8/1	灰白10YR8/1		5.3	(1.2)			回糸(左)	ロクロ	
104	6	SK 38	土師器	坏	底部	浅黄橙10YR8/4	浅黄橙10YR8/4		4.7	(1.1)			回糸	ロクロ	
104	7	SK 38	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.5	(1.8)			摩滅	摩滅	
104	8	SK 38	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.2	(1.5)			摩滅	ロクロ	
104	9	SK 38	土師器	甕	胴～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/3		11.8	(2.3)			ヘラ	ケズリ	
104	10	SK 47	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.4	(3.9)			回糸(右)	ロクロ	
104	11	SK 47	土師器	坏	体～底部	黄橙 10YR8/6	黄橙 10YR8/6		7.1	(3.3)			回糸	ロクロ	
104	12	SK 47	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.8	(1.6)			回糸	ロクロ	
104	13	SK 360	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	12.5	5.6	4.7			回糸(左)	ロクロ	
104	14	SK 360	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	13.7	5.6	5.3			回糸	ロクロ	

第3表　遺構内出土土器観察表②

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
104	15	SK 360	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	12.6	5.5	4.3			回糸(右)	ロクロ	
104	16	SK 360	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4		5.1	(1.6)			回糸	ロクロ	
104	17	SK 360	土師器	椀	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	5.8	3.5	4.6				ケズリ	手づくね
105	1	SK 505	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	11.8	5.7	4.3			回糸(右)	ロクロ	
105	2	SK 800	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		5.4	(1.2)			回糸	ロクロ	
105	3	SK 804	土師器	高台付坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.6	(1.6)	(0.3)	5.0	ヘラ切り	ロクロ	
105	4	SK 805	土師器	坏	底部	淡黄 2.5YR8/3	淡黄 2.5YR8/3		5.6	(1.1)			回糸	ロクロ	
105	5	SK 818	須恵器	甕	胴部	青黒 10BG1.7/1	褐灰 10YR6/1							タタキ	
105	6	SK 1286	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4		6.0	(4.4)			回糸	ロクロ	
105	7	SK 1503	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.8	(3.5)			回糸	ロクロ	
105	8	SK 1503	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.4	(1.5)			回糸	ロクロ	
105	9	SK 1907	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		5.1	(3.6)			回糸	ロクロ	
105	10	SK 1908	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		5.0	(3.0)			ヘラ切り	ロクロ	
105	11	SK 1975	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		5.0	(2.9)			回糸	ロクロ	
105	12	SK 1975	土師器	甕	口縁～胴部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	21.0		(7.6)				ロクロ	
105	13	SK 2547	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	19.8		(4.4)				ロクロ	
105	14	SK 2549	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	19.4		(8.4)				ロクロ	
105	15	SK 2700	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	黒褐 10YR3/1	13.8	5.8	6.0			回糸	ロクロ	
105	16	SK 2700	土師器	高台付坏	体～底部	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		7.2	(2.3)	0.4	7.2	ヘラ切り	ロクロ	
106	1	SK 2797	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.4	(1.3)			回糸(右)	ロクロ	
106	2	SK 2797	土師器	坏	体～底部	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2		4.6	(2.2)			回糸	ロクロ	
106	3	SK 2797	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.4	(2.0)			回糸(右)		
106	4	SK 3300	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.9	(2.0)			回糸(右)	ロクロ	
106	5	SK 3412	土師器	坏	口縁～底部	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	11.7	5.1	4.7			回糸(右)	ロクロ	
106	6	SK 3454	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		4.6	(1.7)			回糸(右)	ロクロ	
106	7	SK 3640	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	12.2	5.6	5.1			回糸	ロクロ	
106	8	SK 5838	土師器	甕	胴～底部	橙 7.5YR7/6	灰 5Y5/1		7.6	(4.1)			ヘラ	ケズリ・ナデ	
106	9	SK 3669	須恵器	甕	胴部	黄灰 2.5Y6/1	灰 10Y6/1							タタキ	
106	10	SK 3670	土師器	坏	口縁～胴部	灰白 10YR8/1	黒 5Y2/1	15.8		(3.8)				ミガキ	内黒
106	11	SK 3670	土師器	甕	胴～底部	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3		6.2	(3.0)			ヘラ	ケズリ	
106	12	SK 3738	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		4.4	(4.8)		5.6	回糸	ロクロ	
106	13	SK 3738	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		4.9	(3.8)			回糸(右)	ロクロ	
106	14	SK 3738	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		6.3	(3.5)			ヘラ切り	ロクロ	
106	15	SK 3738	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		5.5	(2.4)			ヘラ切り	ロクロ	
107	1	SK 3772	土師器	坏	口縁～底部	明黄褐 10YR7/6	橙 7.5YR7/6	12.7	4.5	4.5			回糸(右)	ロクロ	
107	2	SK 3772	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	12.3	6.2	3.5			回糸(右)	ロクロ	
107	3	SK 3772	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	12.0	5.7	4.0			回糸(右)	ロクロ	
107	4	SK 3822	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		5.5	(2.7)			回糸(右)	ロクロ	
107	5	SK 3933	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		6.0	(2.2)			回糸	ロクロ	
107	6	SK 3933	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		5.8	(1.5)			回糸		
107	7	SK 4127	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	橙 7.5YR7/6		4.6	(1.6)			回糸	ロクロ	
107	8	SK 4127	土師器	高台付坏	体～底部	灰白 10YR8/1	黒褐 10YR3/1		5.9	(2.2)	1.0	6.6	ヘラ切り	ミガキ	内黒
107	9	SK 4318	土師器	坏	口縁～底部	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR6/6	12.2	5.1	4.3			回糸(右)	ロクロ	
107	10	SK 4400	土師器	高台付坏	口縁～底部	橙 2.5YR6/6	緑黒 10G1.7/1	11.9	5.6	5.6	0.4	5.0	ヘラ切り	ミガキ	内黒
107	11	SK 4400	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	緑黒 10G1.7/1	13.2	4.4	6.1			回糸(右)	ミガキ	内黒
107	12	SK 4400	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	11.6	4.1	4.5			回糸(右)	ロクロ	
107	13	SK 4400	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	12.3	5.1	4.8			回糸(右)	ロクロ	
107	14	SK 4400	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	11.5	4.8	4.5			回糸	ロクロ	
107	15	SK 4400	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR8/4	にぶい橙 7.5YR8/4		4.8	(3.5)			回糸(右)	ロクロ	
107	16	SK 4400	土師器	甕	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	19.6		(8.0)				ロクロ	
108	1	SK 4432	土師器	甕	底部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6		7.0	(3.4)			ヘラ		
108	2	SK 4432	土師器	坏	口縁～胴部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	12.2		(3.9)				ロクロ	
108	3	SK 4432	土師器	甕	口縁～胴部	灰黄褐 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/3	12.8		(5.4)					
108	4	SK 4432	土師器	壷	胴～底部	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		3.8	(6.7)			回糸(右)	ロクロ	
108	5	SK 4566	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	12.2	4.6	4.7			回糸	ロクロ	
108	6	SK 4646	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2		4.7	(1.8)			回糸(右)	ロクロ	
108	7	SK 4802	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.2	(3.1)			回糸	ロクロ	

第４表　遺構内出土土器観察表③

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
108	8	SK 4850	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6	11.8	4.8	5.0			回糸(右)	ロクロ	
108	9	SK 4850	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR8/3	12.7	5.0	4.0			回糸	ロクロ	
108	10	SK 4850	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	12.5	4.7	4.1			回糸(右)	ロクロ	
108	11	SK 4850	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	13.6	4.8				回糸(右)	ロクロ	
108	12	SK 4850	土師器	坏	体～底部	黄橙 7.5YR8/8	黄橙 7.5YR8/8		4.6	3.0			回糸(左)	ロクロ	
108	13	SK 4875	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6		2.6	(3.1)			回糸(右)	ロクロ	
108	14	SK 4875	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1		5.8	(2.1)			回糸	ロクロ	
108	16	SK 5018	土師器	坏	体～底部	明黄褐 10YR7/6	明黄褐 10YR7/6		4.5	(2.2)			回糸	ロクロ	
108	17	SK 5395	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙　10YR6/3	にぶい黄橙　10YR6/3		5.0	(1.6)			回糸	ロクロ	
108	18	SK 5395	土師器	坏	底部	にぶい黄橙　10YR6/3	にぶい黄橙　10YR6/3		5.1	(1.0)			回糸(右)		
109	1	SK 5705	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		6.0	(3.4)			回糸(右)	ロクロ	
109	2	SK 5705	須恵器	甕	胴部	褐灰 10YR6/1	灰黄褐 10YR6/2							ロクロ	
109	3	SK 5865	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4		5.0	(1.8)			回糸		
109	4	SK 5866	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	12.6	4.8	4.5			回糸	ロクロ	
109	5	SK 5870	土師器	甕	口縁～胴部	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	11.6		(6.8)				ケズリ	
109	6	SK 5873	土師器	甕	口縁～胴部	明黄褐 5YR5/6	明黄褐 5YR5/6	14.6		(6.7)				ケズリ	
109	7	SK 5873	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	10.0		(5.3)				ケズリ オサエ	
109	8	SK 6247	土師器	高台付坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4		5.2	(3.3)	0.6	4.4	ヘラ切り	ロクロ	
109	9	SN 2763	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	12.0	5.6	5.1			回糸(右)	ロクロ	
109	10	SN 2763	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.8	(2.9)			回糸	ロクロ	
109	12	SN 3371	土師器	甕	口縁～胴部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	21.4		(10.7)				ロクロ	
110	1	SN 3690	土師器	甕	口縁～胴部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	17.9		(23.7)				ケズリ ・ナデ	
110	2	SN 3690	土師器	甕	口縁～胴部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	12.0		(12.5)				ケズリ ・ナデ	
110	3	SN 3690	土師器	甕	口縁～胴部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	15.9		(11.8)				ケズリ ・ナデ	
110	4	SN 3690	土師器	甕	口縁～胴部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	22.2		(14.4)				ケズリ ・ナデ	
110	5	SN 3690	土師器	甕	口縁～胴部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	21.5		(9.5)				ケズリ ・ナデ	
111	1	SN 4004	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	11.5	5.0	3.9			回糸	ロクロ	
111	2	SN 4004	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR6/1		5.5	(2.6)			回糸(右)	ロクロ	
111	3	SN 4004	土師器	坏	口縁～底部	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	12.0	4.8	3.5			回糸(右)	ロクロ	
111	4	SN 4306	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 6/3		4.3	(1.6)			回糸(右)	ロクロ	
111	5	SN 4306	土師器	甕	胴～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄褐 10YR5/2		7.0	(3.0)			ヘラ		
111	6	SN 4431	土師器	甕	口縁～胴部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	20.6		(9.3)				ケズリ ・ナデ	
111	7	SN 4433	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		4.4	(1.7)			回糸(右)	ロクロ	
111	8	SN 4801	土師器	坏	口縁～胴部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	11.1		(4.3)				ロクロ	
111	9	SN 4801	土師器	坏	口縁～胴部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	11.8		(3.7)				ロクロ	
111	10	SN 4801	土師器	坏	口縁～胴部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	12.3		(2.9)				ロクロ	
111	11	SX 2513	土師器	坏	体～底部	橙 7.5YR6/8	橙 7.5YR6/8		6.4	(4.0)			ヘラ	ロクロ	
111	12	SX 5475	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		6.3	(1.8)			摩滅	摩滅	
112	1	SX5555	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	13.3	5.6	5.1			回糸(右)	ロクロ	
112	2	SX5555	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	浅黄橙 10YR8/3		6.7	(3.7)			回糸	ロクロ	
112	3	SX5555	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4		5.5	(2.2)			回糸(左)	ロクロ	
112	4	SX5555	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3		5.4	(2.2)			ヘラ切り	ロクロ	
112	5	SX5555	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR6/4	浅黄橙 10YR6/4		4.8	(1.8)			回糸		
112	6	SX5555	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		6.0	(2.1)			摩滅	摩滅	
112	7	SX5555	土師器	坏	口縁～胴部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	13.9		(4.3)				ロクロ	
112	8	SX5555	土師器	甕	胴～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		7.3	(3.7)			ヘラ	ケズリ	
112	9	SX5555	土師器	甕	胴～底部	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3		5.2	(5.9)			ヘラ	ケズリ	
112	10	SX 5838	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	青黒 5PB1.7/1	12.6	4.8	4.9			回糸(右)	ミガキ	内黒
112	11	SX 5838	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		5.8	(2.2)			回糸	ロクロ	
112	12	SX 5838	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		5.0	(2.8)			回糸(右)	ロクロ	
112	13	SX 5838	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.7	(1.1)			回糸(右)		
112	14	SX 5838	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.8	(1.2)			回糸(右)		
112	15	SX 5838	土師器	坏	底部	褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR6/1		6.0	(1.2)			ヘラ切り		
112	16	SX 5838	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.6	(2.0)			回糸	ロクロ	
112	17	SX 5838	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.7	(2.3)			摩滅	ロクロ	

第5表　遺構内出土土器観察表④

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
173	1	LS40Ⅲ	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/6	12.3	4.8	5.0			回糸(右)	ロクロ	
173	2	MA 50	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	12.7	5.2	4.7			回糸(右)	ロクロ	
173	3	MD 56	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	12.7	5.6	4.5			回糸	ロクロ	
173	4	MF 53	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6	11.8	5.0	4.4			回糸(右)	ロクロ	
173	5	LN 56	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	にぶい黄橙 7.5YR8/4	11.9	5.2	4.2			回糸(右)	ロクロ	
173	6	LR 49	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3	13.2	6.4	4.7			回糸	ロクロ	
173	7	LO 49	土師器	坏	口縁～底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	11.6	6.0	4.4			回糸	ロクロ	
173	8	ME 53	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	11.8	5.6	3.8			回糸(右)	ロクロ	
173	9	LS 50	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4	12.0	5.6	3.8			回糸	ロクロ	
173	10	ME 56	土師器	坏	口縁～底部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	12.2	4.9	5.2			回糸(右)	ロクロ	
173	11	LP 53	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR7/6	11.9	5.5	4.1			回糸	ロクロ	
173	12	LM 50	土師器	坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	12.0	4.4	4.3			ヘラ切り	ロクロ	
173	13	MC 42	土師器	高台付坏	口縁～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	暗褐 N3/1	9.8	5.2	5.4			ヘラ切り	ロクロ	
173	14	LT 50	土師器	甕	口縁～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	8.4	5.1	7.0			ヘラ切り	ナデ	ヘラガキ
173	15	MC 43	土師器	甕	口縁～胴部	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	19.0		(8.8)				ケズリ・ナデ	
174	1	LT 48	土師器	甕	胴～底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4		6.9	8.4			ヘラ	ケズリ	
174	2	LP 48	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		5.3	(4.2)			回糸(右)	ロクロ	
174	3	LP56	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.7	(4.8)			ヘラ切り	ロクロ	
174	4	LM 57	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2		7.1	(4.6)			回糸	ロクロ	
174	5	ME 57	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.6	(4.1)			回糸(右)	ロクロ	
174	6	LO 48	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3		6.1	(3.5)			回糸	ロクロ	
174	7	LS 52	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2		5.2	(3.5)			回糸(右)	ロクロ	
174	8	LM 50	土師器	坏	体～底部	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3		5.6	(3.6)			回糸(右)	ロクロ	
174	9	LM 40	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 10YR8/2		5.3	(7.4)			回糸(右)	ロクロ	
174	10	NF 53	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 2.5YR8/1		5.3	(3.4)			回糸	ロクロ	
174	11	LQ 53	土師器	坏	体～底部	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3		6.2	(3.6			回糸(右)	ロクロ	
174	12	LS 66	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.4	(3.2)			回糸(右)	ロクロ	
174	13	LO 48	土師器	坏	体～底部	橙 5YR7/8	橙 5YR7/8		4.9	(3.4)			回糸(右)	ロクロ	
174	14	MB 54	土師器	坏	体～底部	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3		5.8	(2.8)			回糸(右)	ロクロ	
175	1	LO 53	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/3		5.8	(3.1)			回糸(右)	ロクロ	
175	2	ME 54	土師器	坏	体～底部	橙 5YR7/8	橙 5YR7/8		5.0	(2.7)			回糸(右)	ロクロ	
175	3	LN 56	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		4.5	(2.7)			回糸(右)	ロクロ	
175	4	LO 51	土師器	坏	体～底部	にぶい浅黄橙 10YR7/3	にぶい浅黄橙 10YR7/3		5.0	(2.5)			回糸(右)	ロクロ	
175	5	LO 51	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		6.1	(2.1)			回糸(右)		
175	6	ME 56	土師器	坏	体～底部	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6		6.0	(2.6)			回糸(右)	ロクロ	
175	7	LO 58	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 10YR8/3		5.9	(2.2)			回糸(右)	ロクロ	
175	8	LO 57	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 2.5YR8/2		4.7	(2.1)			回糸(右)	ロクロ	
175	9	LQ 50	土師器	坏	体～底部	灰白 7.5YR8/2	灰白 7.5YR8/2		4.7	(2.3)			回糸(左)	ロクロ	
175	10	ME 55	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/3		4.6	(1.8)			回糸(右)	ロクロ	
175	11	ME 56	土師器	坏	底部	橙 5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4		7.0	(1.8)			回糸(右)		
175	12	MD 55	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/4		4.7	(1.8)			回糸(右)		
175	13	LS40Ⅳ	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4		5.5	(2.0)			回糸(右)		
175	14	LS 50	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/4		5.4	(1.2)			回糸(右)		
175	15	ME 57	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.0	(2.9)			回糸(右)	ロクロ	
176	1	LO 49	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/4		5.3	(2.1)			回糸(右)		
176	2	MD 55	土師器	坏	体～底部	にぶい橙 5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3		5.2	(2.9)			回糸(右)	ロクロ	
176	3	LM 49	土師器	坏	体～底部	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6		5.4	(2.1)			回糸(右)	ロクロ	
176	4	ME 56	土師器	坏	体～底部	浅黄 2.5Y7/3	灰白 2.5YR8/2		4.8	(2.5)			回糸(右)	ロクロ	
176	5	LP 56	土師器	坏	体～底部	淡橙 5YR8/3	にぶい橙 5YR7/3		4.4	(2.2)			回糸(左)	ロクロ	
176	6	LS 47	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2		4.6	(1.9)			回糸(右)	ロクロ	
176	7	MI 46	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3		4.1	(2.6)			回糸(左)	ロクロ	
176	8	MD 55	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	橙 7.5YR7/6		6.1	(2.4)			回糸(右)	ロクロ	
176	9	LM 55	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.1	(2.0)			回糸(右)	ロクロ	
176	10	ME 56	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 10YR8/2		5.4	(2.2)			摩滅	ロクロ	
176	11	LP50	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		5.0	(2.1)			回糸(右)	ロクロ	
176	12	MJ 42	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.0	(1.7)			回糸(右)		
176	13	LS 49	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		6.6	(1.5)			回糸(右)		

第６表　遺構外出土土器観察表①

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
176	14	LM 48	土師器	坏	底部	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3		5.6	(2.0)			回糸(左)	ロクロ	
176	15	MC 42	土師器	坏	体～底部	灰白 10YR8/2	にぶい橙 7.5YR7/3		4.0	(2.0)			回糸(右)	ロクロ	
177	1	LR 49	土師器	坏	底部	暗灰黄 2.5Y5/2	にぶい黄 2.5Y6/3		5.4	(1.7)			回糸(右)	ロクロ	
177	2	LS 52	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 7.5YR8/2		4.4	(2.0)			回糸(右)	ロクロ	
177	3	MB 46	土師器	坏	底部	灰白 2.5Y8/2	にぶい黄橙 10YR7/3		5.7				回糸(右)		
177	4	LO 57	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	灰白 10YR8/2		5.2	(1.6)			回糸(右)		
177	5	LO 47	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	にぶい橙 7.5YR7/3		5.4	(1.0)			回糸(左)		
177	6	MH 47	土師器	坏	底部	灰白 2.5YR8/2	浅黄橙 10YR8/3		4.6	(1.2)			回糸(左)		
177	7	LO 49	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい橙 5YR7/4		4.8	(1.9)			回糸	ロクロ	
177	8	LP 50	土師器	坏	体～底部	浅黄 2.5Y7/3	灰白 2.5Y8/2		5.0	(2.0)			回糸(左)	ロクロ	
177	9	LS 51	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.0	(1.9)			回糸(右)	ロクロ	
177	10	ME 56	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3		4.8	(2.0)			回糸		
177	11	LO 48	土師器	坏	底部	灰褐 7.5YR6/2	灰褐 7.5YR5/1		5.0	(1.9)			回糸		
177	12	LQ 51	土師器	坏	底部	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2		5.6	(1.4)			回糸(右)		
177	13	LM 57	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	浅黄橙 7.5YR8/3		6.0	(1.3)			回糸		
177	14	LO 48	土師器	坏	底部	灰白 2.5Y8/2	にぶい橙 7.5YR7/4		6.0	(1.3)			回糸(右)		
177	15	LM 56	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/2		5.2	(1.5)			回糸(右)		
178	1	ME 56	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		4.4	(1.5)			回糸(右)		
178	2	LR 47	土師器	坏	底部	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2		4.6	(1.5)			回糸(右)		
178	3	LR 41	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		4.5	(1.2)			回糸(左)		
178	4	LQ 52	土師器	坏	底部	淡橙 5YR8/3	淡橙 5YR8/4		4.4	(1.5)			回糸(左)		
178	5	LM 56	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/2		4.0	(1.7)			回糸	ロクロ	
178	6	MC 61	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.3	(1.7)			回糸		
178	7	LN 60	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10Y6/3	にぶい黄橙 10Y7/3		5.4	(1.2)			回糸		
178	8	LP 58	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/3		5.0	(1.1)			回糸(左)	ロクロ	
178	9	MD 56	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4		5.9	(1.3)			回糸(右)		
178	10	MG 51	土師器	坏	底部	にぶい橙 5YR7/4	灰白 10YR8/2		5.2	(1.6)			ヘラ切り		
178	11	LM 54	土師器	坏	底部	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3		5.6	(1.5)			回糸		
178	12	LQ 48	土師器	坏	底部	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y8/2		5.5	(1.5)			回糸(右)		
178	13	LO 53	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2		4.6	(1.6)			回糸(左)	摩滅	
178	14	LS 59	土師器	坏	底部	淡黄 2.5Y8/3	淡黄 2.5Y8/3		4.6	(1.6)			回糸	ロクロ	
178	15	LS 66	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		5.4	(1.4)			回糸	ロクロ	
179	1	LR 49	土師器	坏	底部	淡黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y8/2		5.2	(1.1)			回糸		
179	2	ME 53	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2		5.6	(1.4)			回糸(右)		
179	3	LP 51	土師器	坏	底部	暗黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2		4.5	(1.3)			回糸(右)		
179	4	ME 56	土師器	坏	底部	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1		4.6	(1.3)			回糸		
179	5	ME 57	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.2	(1.0)			回糸		
179	6	LO 49	土師器	坏	底部	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4		4.9	(1.5)			回糸(左)		
179	7	ME 53	土師器	坏	底部	灰白 2.5YR8/1	灰白 10YR8/1		5.0	(1.4)			回糸	ロクロ	
179	8	LP 51	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		4.9	(1.5)			回糸(右)		
179	9	LT 42	土師器	坏	底部	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/4		4.4	(1.2)			回糸(右)		
179	10	ME 56	土師器	坏	底部	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6		5.2	(1.5)			ヘラ切り		
179	11	MA 55	土師器	坏	底部	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6		4.7	(1.4)			回糸(左)		
179	12	LP 48	土師器	坏	底部	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2		5.3				回糸(右)		
179	13	表採	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		4.9	(1.5)			回糸		
179	14	MA 60	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2		5.7	(0.9)			回糸		
179	15	LM 56	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3		3.9	(1.2)			回糸		
179	16	LM 49	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 10YR8/4		4.6	(1.1)			回糸(右)		
179	17	LI 50	土師器	坏	底部	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3		4.3	(1.3)			回糸		
179	18	LN 56	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2		5.2	(0.9)			回糸(右)	ロクロ	
180	1	LP 50	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		6.2	(3.5)			摩滅	ロクロ	
180	2	LT 51	土師器	坏	体～底部	にぶい黄褐 10YR7/3	灰白 7.5Y7/1		5.6	(2.7)			ヘラ切り	ロクロ	
180	3	MA 46	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		5.9	(2.5)			回糸	ロクロ	
180	4	LS 50	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/3		5.4	(2.6)			回糸(右)	ロクロ	
180	5	LA 50	土師器	坏	体～底部	黄橙 10YR8/6	浅黄橙 10YR8/4		5.1	(2.4)			回糸(右)	ロクロ	
180	6	LP 51	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2		5.3	(2.4)			回糸	ロクロ	
180	7	MC 42	土師器	坏	体～底部	にぶい黄橙 10YR7/2	浅黄橙 7.5YR8/3		4.2	(3.3)			回糸(右)	ロクロ	

第7表　遺構外出土土器観察表②

挿図	遺物番号	出土地点	種別	器種	残存部位	外面色調	内面色調	口径	底径	器高	台高	台径	外底部特徴	器面調整	備考
180	8	MD 55	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 7.5YR8/4		4.8	(2.6)			ヘラ切り	ロクロ	
180	9	LO 57	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 5YR7/8		4.7	(2.0)			ヘラ切り	摩滅	
180	10	LR 52	土師器	坏	体～底部	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/6		4.9	(2.3)			ヘラ切り	摩滅	
180	11	LM 57	土師器	坏	底部	淡橙 5YR8/4	淡橙 2.5YR8/3		5.0	(1.7)			摩滅	摩滅	
180	12	MD 43	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/3		5.4	(1.6)			回糸		
180	13	LN 57	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/4	にぶい黄橙 7.5YR8/4		5.0	(1.7)			摩滅	摩滅	
180	14	LN 56	土師器	坏	底部	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		4.6	(1.4)			ヘラ切り	摩滅	
180	15	LR 51	土師器	坏	底部	灰白7.5YR8/2	灰白 7.5YR8/2		5.0	(1.4)			ヘラ切り		
180	16	LT 50	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4		5.6	(1.4)			摩滅	摩滅	
180	17	LM 57	土師器	坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4		4.4	(1.7)			ヘラ切り		
180	18	LO 51	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		4.6	(1.3)			回糸(右)		
180	19	LN 58	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.9	(1.2)			回糸		
180	20	LM 56	土師器	坏	底部	浅黄橙 7.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR7/6		4.9	(1.4)			ヘラ切り		
180	21	LP 51	土師器	坏	底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		5.3	(1.0)			回糸		
181	1	ME 56	土師器	坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 N4/1		5.2	(1.5)			回糸(右)	ミガキ	内黒
181	2	MD 43	土師器	高台付坏	底部	にぶい橙 7.5YR6/4	青黒 5B1.7/1		6.8	(2.8)	0.9	6.8	ヘラ	ミガキ	内黒
181	3	ME 54	土師器	高台付坏	体～底部	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3		6.8	(3.0)	1.1	7.4	回糸(右)→付高台	ロクロ	
181	4	ME 56	土師器	高台付坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰 N3/1		6.1	(2.3)	0.9	6.2	ヘラ切り		内黒
181	5	LO 49	土師器	高台付坏	体～底部	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2		7.2	(4.0)	1.4	7.2	ヘラ切り	ロクロ	
181	6	MF 49	土師器	高台付坏	底部	橙 5YR7/6	青黒 5B1.7/1		5.8	(3.3)	1.3	6.8	ヘラ	ミガキ	内黒
181	7	MD 43	土師器	高台付坏	底部	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6		7.0	(2.9)	1.8	7.8	回糸(右)→付高台	ロクロ	
181	8	LN 56	土師器	高台付坏	底部	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい褐 7.5YR5/4		6.1	(2.4)	1.2	6.6	ヘラ		
181	9	NE 55	土師器	高台付坏	体～底部	橙 2.5YR6/6	灰 7.5YR5/1		5.4	(2.6)	0.7	5.4	ヘラ		
181	10	LN 57	土師器	高台付坏	底部	浅黄橙 10YR8/4	橙 7.5YR7/6		7.3	(1.9)	0.7	6.7	回糸(右)→付高台		
181	12	LD 58	須恵器	坏	底部	明緑灰 5G7/1	明青灰 5BG7/1		7.4	(1.0)			回糸		
181	13	LQ 42	須恵器	坏	底部	緑灰 10BG6/1	緑灰 10BG6/1		7.9	(1.3)			回糸		
181	14	LP 58	須恵器	坏	底部	明オリーブ灰 2.5GB7/1	明オリーブ灰 2.5GB7/1		10.9	(2.4)			ヘラ		
182	1	MA 46	須恵器	甕	胴部	明緑灰 5G7/1	明青灰 5BG7/1								
182	2	ME 40	須恵器	甕	胴部	明オリーブ灰 2.5GB7/1	明オリーブ灰 2.5GB7/1						タタキ		
182	3	C 区	須恵器	甕	胴部	灰 10Y6/1	灰白 7.5Y7/2						タタキ		
182	4	LR 50	須恵器	甕	胴部										
182	5	LS 52	須恵器	甕	胴部	灰 10Y5/1	灰 10Y5/1						タタキ		
182	6	LQ 42	須恵器	甕	胴部	灰 10Y5/1	灰 10Y5/1						タタキ		
182	7	MC 43	須恵器	甕	胴部	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
182	8	MF 49	須恵器	甕	胴部	灰 10Y5/1	灰 10Y5/1						タタキ		
183	1	MA 53	須恵器	甕	胴部	灰 10Y5/1	灰 10Y5/1						タタキ		
183	2	LL 50	須恵器	甕	胴部	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
183	3	LQ 54	須恵器	甕	胴部	灰 7.5Y4/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
183	4	LO 47	須恵器	甕	胴部	オリーブ黒 7.5Y3/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
183	5	MB 37	須恵器	甕	胴部	黒 7.5Y2/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
183	6	MC 39	須恵器	甕	胴部	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
183	7	MD 42	須恵器	甕	胴部	黒 7.5Y2/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
183	8	LT 46	須恵器	甕	胴部	黒 7.5Y2/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
184	1	MC 42	須恵器	甕	胴部	オリーブ黒 7.5Y3/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
184	2	LP 57	須恵器	甕	胴部	オリーブ黒 7.5Y3/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
184	3	LO 53	須恵器	甕	胴部	黒 7.5Y2/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
184	4	MA 53	須恵器	甕	胴部	灰 7.5Y5/1	灰 5Y6/1						タタキ		
184	5	LO 57	須恵器	甕	胴部	オリーブ黒 7.5Y3/1	灰 5Y6/1						タタキ		
184	6	MC 37	須恵器	甕	胴部	黒 N2/0	灰 7.5Y5/1						タタキ		
184	7	LN 56	須恵器	甕	胴部	灰 N5/0	灰 7.5Y6/1						タタキ		
184	8	LT 35	須恵器	甕	胴部	暗灰 N3/0	灰 7.5Y6/1						タタキ		
185	1	LS 48	須恵器	鉢	胴部	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y6/1						ロクロ		
185	2	LN 57	須恵器	甕	胴部	灰 N5/0	灰 7.5Y6/1						タタキ		
185	3	MA 54	須恵器	甕	胴部	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y6/1						タタキ		
185	4	MC 35	須恵器	甕	胴部	暗灰 N3/0	灰 7.5Y6/1						タタキ		
185	5	MB 37	須恵器	甕	胴部	灰 N4/0	灰 7.5Y6/1						タタキ		
185	6	MC 42	須恵器	甕	胴部	灰オリーブ 7.5Y6/2	灰 7.5Y6/1						タタキ		

第８表　遺構外出土土器観察表③

挿図	遺物番号	遺構名	地区	遺　物　名	重　量	メタル度	磁着度	備　　考
123	1	SS2000		炉壁	951.3	錆化	1	
124	1	SS2000	D-8	炉壁	8	なし	2	工具痕付き
124	2	SS2000	E-10	炉壁	103.8	錆化	4	
124	3	SS2000	H-7	炉底塊	16.4	なし	1	
124	4	SS2000	E-9	炉底塊	96.8	なし	1	
124	5	SS2000	G-8	炉底塊	171.1	なし	3	
124	6	SS2000	H-6	炉底塊	61.5	なし	3	
124	7	SS2000	G-8	炉底塊	144.3	なし	2	
125	1	SS2000	G-8	炉内滓	18	なし	2	工具痕付き
125	2	SS2000	H-9	炉内滓	25.5	錆化	3	工具痕付き
125	3	SS2000	F-3	炉内滓	33.1	錆化	7	
125	4	SS2000	F-3	炉内滓	9.9	錆化	2	
125	5	SS2000	E-8	炉内滓	20	錆化	6	
125	6	SS2000	D-8	炉内滓	34.7	なし	3	荒割り
125	7	SS2000	C-3	炉内滓	75	M	7	含鉄
125	8	SS2000	E-8	炉内滓	90.4	H	5	
125	9	SS2000	F-2	炉内滓	23	錆化	7	
125	10	SS2000		炉内滓	121	L	7	含鉄
125	11	SS2000	D-9	炉内滓	117.9	なし	3	荒割り
125	12	SS2000	E-9	炉内滓	195.2	錆化	7	
126	1	SS2000	E-7	鉄塊系遺物	19.2	L	7	
126	2	SS2000	D-8	単位流動滓	15.3	なし	1	
126	3	SS2000	I-9	単位流動滓	3.7	なし	1	
126	4	SS2000	F-10	流出孔滓(細)	16.9	なし	1	
126	5	SS2000	E-8	流出孔滓	41	なし	3	
126	6	SS2000	H-6	流出孔滓(細)	21.5	なし	1	
126	7	SS2000	G-5	流出孔滓	21.3	なし	1	つまり
126	8	SS2000	G-9	流出孔滓(太)	152.2	なし	2	
127	1	SS2000	D-8	流出孔滓(中)	54.7	なし	4	
127	2	SS2000	E-8	流出溝滓	92.9	なし	3	
127	3	SS2000	E-8	流出溝滓	28.2	なし	3	
127	4	SS2000	H-6	流出溝滓(太)	57.2	なし	2	工具痕付き
127	5	SS2000	D-8	流出溝滓(細)	67.7	なし	2	
127	6	SS2000	J-19	流出溝滓	39.9	なし	2	
128	1	SS2000	H-6	流動滓	10.2	なし	1	
128	2	SS2000	J-19	流動滓	19.1	なし	2	
128	3	SS2000	H-5	流動滓	48	なし	2	
128	4	SS2000	H-9	流動滓	34.5	なし	1	
128	5	SS2000	H-10	流動滓	27.7	なし	2	
128	6	SS2000	E-8	流動滓	35.7	錆化	6	
128	7	SS2000	F-8	流動滓	58.5	なし	3	
128	8	SS2000	F-8	流動滓	541.3	なし	5	
129	1	SS2000	G-8	流動滓	595.4	H	1	
129	2	SS2000	H-6	椀形鍛冶滓	6.7	H	2	
129	3	SS2000	D-8	椀形鍛冶滓	62.1	錆化	6	
129	4	SS2000	F-3	再結合滓	61.4	錆化	7	砂鉄床直
129	5	SS2000	C-3	再結合滓	148.8	錆化	9	
129	6	SS2000	B-2	再結合滓	177.8	錆化	8	
129	7	SS2000	D-7	再結合滓	27.5	錆化	5	
130	1	SS2000	F-8	羽口	101.9	なし	2	
130	2	SS2000		羽口	99.8	なし	3	
130	3	SS2000	D-8	羽口	97.9	なし	1	
130	4	SS2000	F-7	鉄鏃	7.4	H	8	
141	1	SS3946	C-2	炉壁	1142.5	錆化	2	
142	1	SS3946	D-2	炉壁	1019	なし	3	
142	2	SS3946	J-18	炉壁	26	なし	4	
142	3	SS3946	G-20	炉底塊	176.1	なし	2	

第9表　遺構内出土製鉄関連遺物観察表①

挿図	遺物番号	遺構名	地区	遺　物　名	重　量	メタル度	磁着度	備　　考
142	4	SS3946	G-20	炉底塊	501.1	なし	2	
143	1	SS3946	G-20	炉内滓	28.1	錆化	6	
143	2	SS3946	F-17	炉内滓	92.3	H	6	
143	3	SS3946	J-18	炉内滓	19.5	H	7	
143	4	SS3946	G-20	炉内滓	16.8	H	6	
143	5	SS3946	G-14	鉄塊系遺物	15.6	H	8	
143	6	SS3946	B-12	炉内滓	7.9	錆化	4	
143	7	SS3946	B-12	炉内滓	5.6	錆化	3	
143	8	SS3946	J-19	単位流動滓	9.5	なし	1	
143	9	SS3946	G-20	単位流動滓	15.3	なし	1	
143	10	SS3946	H-16	単位流動滓	11.6	なし	2	
143	11	SS3946	J-20	単位流動滓	8.3	なし	1	
143	12	SS3946	J-20	流出孔滓	22.7	なし	3	
143	13	SS3946	J-20	流出孔滓	78.9	なし	2	
143	14	SS3946	H-16	流出孔滓	16.9	なし	2	
144	1	SS3946	B-3	流出孔滓	250.8	錆化	2	
144	2	SS3946	E-17	流出孔滓	131.5	なし	3	
144	3	SS3946	I-16	流出孔滓	19.5	なし	2	
144	4	SS3946	F-17	流出孔滓	39.6	なし	1	
144	5	SS3946	G-20	流出孔滓	79.5	なし	2	
144	6	SS3946	E-17	流出孔滓	41.5	なし	2	
145	1	SS3946	H-20	流出溝滓	110.9	なし	2	
145	2	SS3946	J-20	流出溝滓	171.6	なし	1	
145	3	SS3946	J-20	流出溝滓	177.3	なし	2	
145	4	SS3946	G-20	流出溝滓	129	なし	1	
145	5	SS3946	I-18	流出溝滓	20.2	なし	2	つまり
146	1	SS3946	H-19	流出溝滓	21.1	なし	1	
146	2	SS3946	F-17	流出溝滓	60.1	なし	1	
146	3	SS3946	H-20	流出溝滓	72.1	なし	2	
146	4	SS3946	J-19	流出溝滓	62.6	なし	3	
146	5	SS3946	J-18	流出溝滓	51.6	なし	3	
146	6	SS3946	H-18	流出溝滓	60.4	なし	3	
147	1	SS3946	I-19	流出溝滓	29.4	なし	2	
147	2	SS3946	F-17	流動滓	59.6	なし	2	
147	3	SS3946	G-20	流出溝滓	71.6	なし	1	
147	4	SS3946	J-19	流動滓	83.2	なし	3	
147	5	SS3946	G-20	流動滓	31.2	なし	2	
148	1	SS3946	G-16	流動滓	757.2	H	4	
149	1	SS3946	H-16	流動滓	72.2	なし	3	
149	2	SS3946	E-17	流動滓	30.9	なし	2	
149	3	SS3946	F-20	流動滓	94.1	なし	2	
149	4	SS3946	F-20	流動滓	32.4	なし	1	
149	5	SS3946	F-20	流動滓	18.4	なし	2	
149	6	SS3946	H-19	椀形鍛冶滓	561.7	H	5	
149	7	SS3946	J-18	再結合滓	29.7	H	6	
150	1	SS3946	D-6	羽口	533.9	なし	2	
150	2	SS3946	C-6	羽口	739.8	H	7	
150	3	SS3946	F-19	鉄鎚	1034	特L	10	
157	1	SI1800		炉壁	7.7	錆化	4	鍛冶炉
157	2	SI1800	F-8	椀形鍛冶滓	6	錆化	5	
157	3	SI1800		椀形鍛冶滓	10	なし	3	
157	4	SI1800		椀形鍛冶滓	111	錆化	5	
157	5	SI1800		椀形鍛冶滓	238.9	特L	7	含鉄
157	6	SI1800	B-13	椀形鍛冶滓	390.4	錆化	5	
157	7	SI1800	F-11	椀形鍛冶滓	447	錆化	7	
158	1	SI1800	C-12	椀形鍛冶滓	672	M	6	含鉄
158	2	SI1800	G-8	鍛冶滓	15	錆化	3	含鉄

第10表　遺構内出土製鉄関連遺物観察表②

挿図	遺物番号	遺構名	地区	遺　物　名	重　量	メタル度	磁着度	備　　考
158	3	SI1800	G-2	鍛冶滓	20	錆化	3	含鉄錆化
158	4	SI1800	G-6	鍛冶滓	10	錆化	2	含鉄
158	5	SI1800	G-5	鍛冶滓	28	錆化	5	含鉄錆化
158	6	SI1800	G-5	羽口	18	なし	3	
158	7	SI1800	G-8	羽口	103	なし	2	
158	8	SI1800	J-6	被熱礫	371	なし	1	
159	1	SI1800		鉄床石	6082	なし	4	
160	1	SI4188		椀形鍛冶滓	1017	錆化	6	
160	2	SI4188		椀形鍛冶滓	1042	H	3	
160	3	SI4188		刀子	6	錆化	3	
160	4	SI4188		鉄器	15	なし	5	
160	5	SI4188		羽口	416.5	なし	2	
160	6	SI4188		羽口	751.3	なし	4	
161	1	SI4444		椀形鍛冶滓	630	H	5	
161	2	SI4444		椀形鍛冶滓	418	なし	5	
161	3	SI4444		椀形鍛冶滓	180	H	10	含鉄
161	4	SI5839		椀形鍛冶滓	1950	なし	4	
161	5	SI5839		椀形鍛冶滓	60	錆化	5	
161	6	SI5839		鍛冶滓	28	なし	4	
161	7	SI5839		流動滓	29	なし	4	
162	1	SI5839		椀形鍛冶滓	1188.8	錆化	7	
162	2	SI5839		椀形鍛冶滓	245	なし	4	
162	3	SI5839	D-4	椀形鍛冶滓	862	なし	6	
162	4	SI5839		椀形鍛冶滓	71	錆化	4	
162	5	SI5839		鍛冶滓	10	なし	4	
162	6	SI5839		再結合滓	15	錆化	4	
163	1	SI4300		流動滓	86.5	なし	2	
163	2	SI4300		椀形鍛冶滓	111	なし	6	
163	3	SI4300		椀形鍛冶滓	82	なし	4	
163	4	SI4300	B-4	椀形鍛冶滓	209	H	3	
163	5	SI4300	B-2	椀形鍛冶滓	237	なし	5	
163	6	SI4300		椀形鍛冶滓	25	なし	4	
163	7	SI4300		鍛冶滓	12	なし	4	
163	8	SK5395		湯口鉄塊	71	特L	3	
163	9	SK5395		湯口鉄塊	107	特L	5	
164	1	SKP2849		釣針	2.1	なし	1	
164	2	SKP2849		釣針	7.9	H	3	
164	3	SK1127		刀子	3.1	錆化	4	
164	4	SK1127		刀子	2.1	錆化	4	
164	5	SK5395		楔	107	特L	8	
164	6	SK5895		鉄鍋	27.7	特L	5	
164	7	SK5895		鉄鍋	64.4	特L	6	
164	8	SK5895		鉄鍋	55.4	H	5	
164	9	SD2201		鈴	23.1	H	9	
170	1	SW3805	MK71	椀形鍛冶滓	986	L	6	含鉄
170	2	SW3805	D-5	椀形鍛冶滓	1117	H	6	含鉄
170	3	SW3805	E-3	椀形鍛冶滓	847	L	10	含鉄
170	4	SW3805		椀形鍛冶滓	843	L	6	含鉄
171	1	SW3805	MK71	椀形鍛冶滓	1211	L	8	含鉄
171	2	SW3805	D-4	椀形鍛冶滓	815	H	6	含鉄
171	3	SW3805	MK71	椀形鍛冶滓	588	H	8	含鉄
171	4	SW3805		椀形鍛冶滓	591	錆化	6	含鉄錆化
171	5	SW3805			309	L	7	含鉄
172	1	SW3832	D-5	炉壁	570.1	錆化	なし	
172	2	SW3806		炉壁	508	H	7	製錬炉
172	3	SW3806		椀形鍛冶滓	624	H	8	含鉄

第11表　遺構内出土製鉄関連遺物観察表③

第５章　まとめ

小林遺跡は、丘陵上に立地する製鉄作業を営んだ平安時代の集落跡である。しかし、一概に製鉄関連の集落跡といっても、その内容は複雑であり、当時の人々が様々な生活を営んだ痕跡が集積されている。よって、これを紐解いていく作業が必要となる。本章では、小林遺跡の性格と位置付けについて、遺構・遺物から検討し、若干の考察を加えたい。

１　検出遺構について

①竪穴住居跡

①－１．カマド形態と配置からみた分類

本遺跡の竪穴住居跡は、カマド煙道の形態から、**A類**：強く張り出した煙道をもつもの(ＳＩ5839・ＳＩ5840)、**B類**：張り出しの顕著ではない煙道をもつもの(ＳＩ1800・ＳＩ2550・ＳＩ4085・ＳＩ4188・ＳＩ4444)、**C類**：明確なカマドをもたないもの(ＳＩ86・ＳＩ2891・ＳＩ4000・ＳＩ4300)に分類される。秋田県北部ではＡ類が主体をなす傾向にあるが、本遺跡ではＡ～Ｃ類までほぼ均等に認められる。Ａ類は調査区北側に偏った分布を示しているが、Ｂ類とＣ類に分布上の偏りはみられない。

次にカマドの配置からの分類を試みると、**１類**：東側に設けられているもの(ＳＩ2550・ＳＩ4085・ＳＩ4444・ＳＩ4188・ＳＩ4300)、**２類**：南側に設けられているもの(ＳＩ5839・ＳＩ5840)、**その他**(ＳＩ86・ＳＩ1800・ＳＩ4000・ＳＩ4300)という構成になる。１類が５軒と圧倒的に多い。その他のＳＩ1800は、一見特殊だが、東側に鍛冶炉が設けられており、火床を東へ配置するあり方からは１類と同類である。ここで、カマド形態からみた類型との組み合わせで竪穴住居跡を捉え直すと下表のようになる。

	Ａ　類	Ｂ　　類	Ｃ　　類
１　　類		1800・2550・4085・4188・4444	2891？
２　　類	5839・5840		
その他(地床炉等)		1800（カマドを西側に配置）	86・4000・4300

カマド形態とカマド配置には一定の対応関係を読み取ることができる。また、分布をみてみるとＢ１類は調査区の中央平坦部に分布する一方、Ａ２類は北側にまとまる。このように、＜カマドの形態－カマドの配置－分布＞には何らかの相関関係が看取されよう。カマド形態は地域性との、カマド配置は風向きとの関連を仮に想定すると、前者が文化伝統を、後者が立地環境を反映していると推測される。この中でカマド配置と立地はもっとも密接な関連がありそうである。Ａ２類の分布範囲では北風を意識し、西方に男鹿半島が臨めるＢ１類の分布域では西風を意識していたのであろうか。

なお、ＳＩ5840ではカマドの芯材として花崗岩が使われていたが、他の竪穴住居跡では芯材は確認されなかった。

カマド・地床炉の配置

①－２．竪穴住居跡に伴う遺構

ほとんどの竪穴住居跡内には壁溝と柱穴が検出された。壁柱穴は四隅に穿たれる傾向にあり、他の柱穴は浅く不規則な配置をみせる。貼床はＳＩ2550とＳＩ4085で確認された。ＳＩ1800、ＳＩ2550、ＳＩ4085、ＳＩ4300、ＳＩ4444、ＳＩ5839、ＳＩ5840は床面に土坑をもつ。これらの土坑内からは遺物がほとんど出土せず、その機能については不明である。また、ＳＩ4000では東側に硬化面が検出された。入口の可能性がある。竪穴住居跡外に付属する施設としては、ＳＩ4085に西接するＳＢ2366等がある。本来、こうした掘立柱建物跡はカマド側に付属する場合が多いようである。(註１)

②その他の遺構

竪穴状遺構で注目されるのは、出入口と考えられる張り出し部をもつＳＫＩ5200である。この形態は本来、中世によく見られるものであり、県内では雄勝町桐木田遺跡(註２)や同町館堀城跡(註３)などで確認されている。しかし、本遺跡において検出された竪穴状遺構は出土遺物および放射性炭素年代測定の結果から平安時代に帰属するものと考えられ、注目されよう。

また、本遺跡では多くの柱穴様ピットが検出された。このうち、33棟の掘立柱建物跡が認定された。どれも規模的には大きくなく、倉庫や作業小屋としての機能が考えられる。現地認定がほとんどであったが、今後の検討により、新たに掘立柱建物跡が屋内認定される可能性がある。

土坑は、平断面形態により１～４類に類型化した。その結果、２類が最も多く認められ、ついで４類→１類→３類となる。このうち、３類とした土坑内からは遺物が比較的まとまって出土した。形態による類型がすぐに土坑の機能を示しているとは言えないが、出土遺物量との間に相関関係が認められる点は、幾分、機能的な差異も反映しているものと考えられる。

性格不明遺構のうち、ＳＸ5838は大規模な掘削がなされており、ローム下の砂層をさらに約0.7ｍほど掘り抜いている。このため水はけが良好である。規模や形態からその機能として「氷室」が考えられるが、(註４)底面や壁面に氷を底上げするためのピットが検出されず、「氷室」と考える他の有力な証拠は得られなかった。ただし、底面に円礫が積み重なって出土し、機能面で示唆的である。

２　出土遺物について

①　土師器・須恵器

土師器の坏はすべてロクロ整形で、回転糸切りを中心に、ヘラおこしも若干認められた。平安時代のロクロ回転は右回転が主流であるが、ＳＩ5839では左回転が目立っていた。先のカマド形態とも関連して何らかの地域性が混在しているのだろうか。もしくは個性レベルなのだろうか。今後の検討課題である。甕は外面ナタケズリで、輪積み痕を残すものもある。県北を中心によく見られる在地性の

ものが占められる。

須恵器は、坏３点、長頸瓶１点、鉢１点のほかは、甕の破片ばかりであり、接合はほとんどしない。破片の中には硯に転用されたものも見られる。これらのことから、もともと甕として本遺跡で使用されていたのではなく、破片として搬入された可能性も視野に入れなければならない。

②　陶磁器

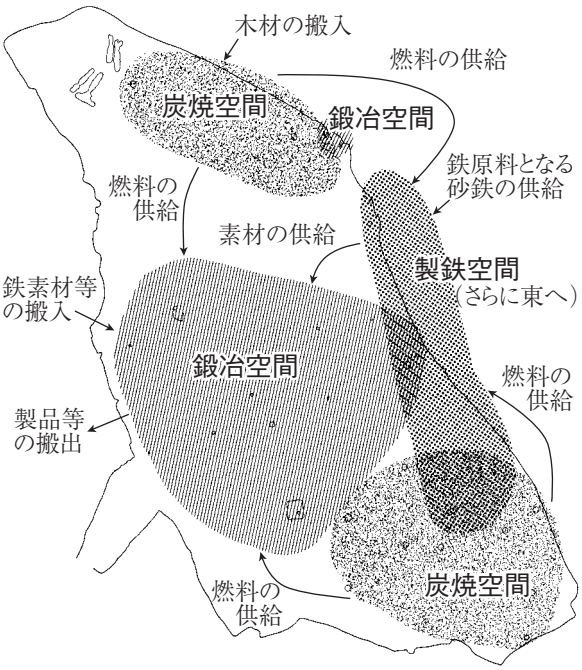
10世紀の中国・越窯産の青磁碗と、東濃窯産の灰釉陶器埦が各１個体出土した。越窯産青磁は県内では、千畑町内村遺跡(註５)、仙北町払田柵跡・第119次(註６)の２遺跡２点のみの出土しか知られておらず、基本的には官衙や寺院からしか出土しないものである。灰釉陶器についても払田柵跡、秋田市秋田城跡といった官衙でしか出土が知られておらず、一般集落での出土はこれまで確認されていない。出土地点は、青磁が調査区南西側のＳＩ2550内、灰釉陶器がそれに近接したＳＫＰ4253内である。付近にＬ字状の大形柱穴列があることも考え合わせると、その地区が特殊な空間であったことを示唆していようか。

③ 土製品

土製品の中でもっとも多いのが土錘である。鉄製の釣針も出土していることから、眼前に広がる日本海を舞台とした海産資源の利用が頻繁だったことを物語っている。ほかには、勾玉が１点出土した。平安時代の土製勾玉は、県内では五城目町開防遺跡(註７)など少数だが、岩手県では数多くの出土が報告されている(註８)。

④　製鉄関連遺物

砂鉄原料から鉄素材を取り出し、鍛冶工程を経て製品に仕上げるまでの各段階で生じる遺物のほぼすべてが組成し、後述する製鉄関連遺構のあり方と対応する。構成図から総体的にみれば、遺跡内で作業工程のすべてが完結していたことがうかがえる。しかし、総体を作業単位に分解してより詳細に検討すれば、砂鉄原料からはじまる工程ばかりではなく、鉄塊の搬入から鍛造までを行う部分的な工程や遺跡内で生産した鉄素材と製品の搬出といった交易の姿も浮き彫りになる可能性がある。現在、作業単位に分解・分析する具体的な方法をもち合わせていないため、今後の課題としたい。



第192図　小林遺跡における製鉄空間の構造

３　平安時代の製鉄関連遺構とその空間構成について

本遺跡では３基の製鉄炉が検出された。製鉄炉の形態は炉体部と前庭部(作業場)から構成される竪形炉で、規模・形態ともに秋田・青森県下に分布する古代製鉄炉と共通する。鍛冶炉は、ＳＩ1800を除いて、柱穴などの遺構を伴っていないが、本来掘立柱建物など何らかの施設を伴っていたと考えられる。炭窯は円形の掘り込みをもつ伏せ焼きのもので占められていた。これについても、覆い屋などを伴っていた可能性がある。

次に製鉄関連遺構の空間構成をみてみると、そ

れぞれが無秩序に構築されたのではなく、種別ごとに占有空間があったことが認められる。製鉄炉は３基とも調査区東側に偏って分布し、鍛冶炉は調査区中央の平坦部に、炭窯は調査区の南北端に帯状に分布する。遺構の分布域はとりもなおさず、それぞれの作業が行われた区域を指し示している。よって、砂鉄から鉄塊を取り出すまでの製鉄空間は調査区を含めてより東側の平坦部に展開していた可能性が指摘できる。そして、鍛冶空間は調査区中央の平坦部に、炭焼き空間は周縁に広がっていたものと推測される(第192図)。作業の流れが東から西へとベルトコンベアのごとく規律的であることがうかがえる。すなわち、原料や燃料の供給方向をみると、調査区周縁の尾根から中央の平坦部へと集約されており、本遺跡の中心地区が平坦部にあったことが分かる。これは製鉄関連以外の遺構数・遺物量のあり方とも矛盾しない。このことからまた、製鉄・鍛冶作業は、当時において特別な生業であったということではなく、その他の生業と一体をなしたものであったことが指摘できよう。

4　小林遺跡の時期的変遷

本遺跡では平安時代に属する数多くの遺構が検出されたが、それらがすべて同時期であるとは考えにくい。ただし、時期の決め手となる遺物はすべて10世紀前後の年代が与えられ、放射性炭素年代測定でも同様の結果が得られたため、非常に近接した時期内での変遷が考えられる。すべての竪穴住居跡は他の竪穴住居跡と切り合い関係をもたないため、ここでは竪穴住居跡と掘立柱建物跡、溝跡の軸線から遺跡の変遷を捉えてみたい。

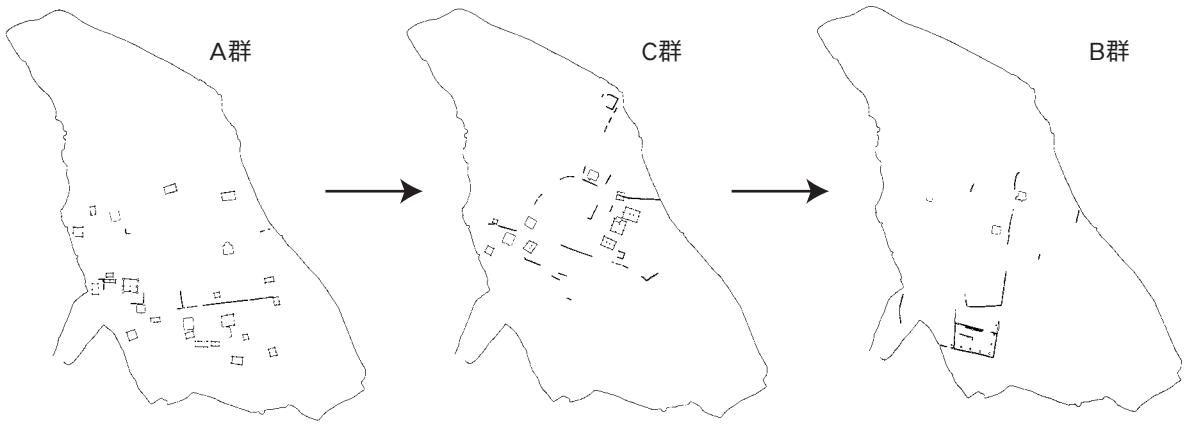
遺構群は、その軸線から、Ａ群：Ｎ－３°－Ｗ、Ｂ群：Ｎ－11°－Ｅ、Ｃ群：Ｎ－25°－Ｅと大きく３区分できる。Ａ群からＣ群に向かって約13°ずつ東へと傾いている(第193図)。

ＳＩ1800(Ａ群)とＳＤ374(Ｂ群)の切り合い関係、ＳＩ2550(Ｂ群)とＳＤ2243(Ａ群)の切り合い関係からＡ群よりＢ群のほうが新しく、ＳＩ4444(Ｃ群)とＳＤ5892(Ａ群)の切り合い関係からはＡ群よりＣ群のほうが新しいといえる。よって、Ａ群がもっとも古いと推測されるが、Ｂ群とＣ群の新旧関係は不明といわざるを得ない。第４章でふれたように、ＳＤ374(Ｂ群)の年代測定の結果は西暦935－980年(57.8％)であり、ＳＫＩ5200(Ｃ群)の年代測定の結果は西暦805－905年(52.9％)であった。この値を参考にすると、Ｂ群はＣ群より新しいといえる。

以上のように、遺構の切り合い関係と年代測定の結果を援用するとＡ群→Ｃ群→Ｂ群という変遷が追えた。ただし、今回用いた年代測定の確率は50％強と低く、あくまで参考にすぎない。ただ、竪穴住居跡のうち、Ｂ群のＳＩ4188とＳＩ5839のみ自然堆積の可能性が高い点は、集落の廃絶過程を示唆しており、この変遷案を裏付けているかもしれない。では、こうした変遷の中で製鉄作業の消長は捉えられるのだろうか。遺構軸線ではＳＳ2000はＡ群に、ＳＳ3946はＢ群に含まれる。このことから製鉄作業は集落が営まれている間、中断するのではなく、連綿と行われていたと考えられる。

5　小林遺跡の性格

本遺跡は標高約60ｍの丘陵地に立地する集落跡である。こうした高地に立地する古代集落は外的に対する防御的意識の表れとして、とくに「防禦集落」と呼称され、秋田県内ではある程度認められる。(註９)それらの事例は、空堀や土塁といった明らかな防御施設を伴ったものであるが、本遺跡ではそうした施設が認められなかった。こうした点からは「防禦集落」と呼びがたいが、立地上、全く防御的な意識がなかったとは考えにくい。また、本遺跡では製鉄関連の作業が顕著に認められた。製鉄を行うにあたっては、燃料となるクリや鉄原料となる砂鉄が容易に獲得でき、水はけや風通しの良い環境が好



第193図　小林遺跡の変遷

まれるであろう。よって、防御と製鉄の少なくとも２点が選地条件としてあったことが推測される。

ところで、出土遺物のうち、土師器甕はナタケズリが中心であった。この手法は秋田県北部に多くみられる在地色の強いものである。しかし、ＳＩ2550内およびＳＤ374北西側からは越窯産青磁と灰釉陶器が、ＳＤ2201からは鉄鈴が出土した。これらは明らかに地域外から搬入されたもので、県内ではこれまで官衙や寺院でしか出土が見られなかったものであり、その入手方法が問題となる。１つの考えとしては、在地集落が律令体制下に組み込まれる過程で、中央から製鉄技術の導入が図られ、中央役人が赴いた際にもち込まれた、という背景を想定できる。いま１つは、製鉄技術の向上により力をつけた在地豪族が、越窯産青磁等を入手できるまでに成長したとも考えられる。ＳＩ2550が最も古いＡ群に属することからは前者の仮説が幾分有力であろうか。

以上のように、まったく相反する２つの背景が想定されるが、現段階でモノから社会へ短絡的に結びつけるのは時期尚早であろう。いずれにせよ、青磁や灰釉陶器といった、一般集落での出土がこれまで確認されなかったものが小林遺跡で出土したことの意義は大きく、その背景については、今後、事例が蓄積され、当時の鉄生産を含めた社会のあり方をより具体的に論じることのできる時期を待って再考したい。第２章第２節でも述べたように、本遺跡周辺の日本海沿岸には、近年多くの製鉄関連遺跡が発見され始めている。個々の遺跡の徹底した分析はもとより、遺跡間の関係性や当時の鉄をめぐる物流ネットワーク、社会関係のあり方を論じるための礎を今後、より堅固に築いていかねばならない。また、中世に至ると小林遺跡では炭窯のみとなり、空間利用に劇的変化が訪れる。小林遺跡とそれに隣接する堂の下遺跡との関係性は、同一段丘上における平安時代から鎌倉時代にかけての継続的な鉄生産と土地利用のあり方を紐解く鍵となるであろう。

【註】

1　高橋学　「竪穴住居と掘立柱建物跡が併列して構築される遺構について」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』　第４号　秋田県埋蔵文化財センター　1989(昭和64)年

2　秋田県教育委員会　『桐木田遺跡』　秋田県文化財調査報告書第95集　1982(昭和57)年

3　秋田県教育委員会　『館堀城跡』　秋田県文化財調査報告書第320集　2001(平成13)年

4　中山晋　「古代日本の『氷室』の実体」『立正史学』　第79号　1996(平成８)年
　中山晋　「古代日本の氷室の研究」『食文化助成研究の報告』９　1999(平成11)年

5　秋田県教育委員会　『内村遺跡発掘調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第82集　1981(昭和56)年

6　秋田県教育委員会　『払田柵跡第119・120次調査概要』　秋田県文化財調査報告書第343集　2002(平成14)年

7　秋田県教育委員会　『開防遺跡・貝保遺跡』　秋田県文化財調査報告書第361集　2003(平成15)年

8　金子裕之編　「律令期祭祀遺物集成」『日本古代の律令制神祇祭祀の成立過程と構造の研究　研究成果報告書』　菊地康明　1988(平成元)年

9　高橋学　「秋田県における平安時代の防禦集落」『考古学ジャーナル』　No.387　1995(平成７)年

1　遺跡の遠景（西から）

2　ＳＩ4300（西から）

3　ＳＩ2550（西から）

図版2

1　ＳＸ5838
　　ＳＩ5839（西から）

2　ＳＸ5838（西から）

3　ＳＩ4000（南から）

1　S B 4071
　　S B 5753
　　（北から）

2　S K P 687
　　（南西から）

3　S S 3946
　　（南から）

図版4

1　ＳＳ２（南から）

2　ＳＳ3947
（北西から）

3　ＳＷ１（南から）

1　SW3831
SW3832
（南東から）

2　現地説明会風景1

3　現地説明会風景2

図版6

土師器壺（ＳＫ 4432）

土師器甕（遺構外）

土師器坏（ＳＩ 4188）

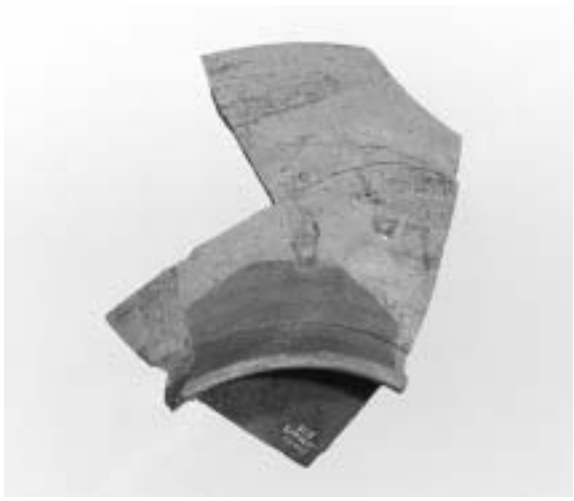
土師器坏（ＳＩ 4188）

土師器甕（ＳＮ 3690）

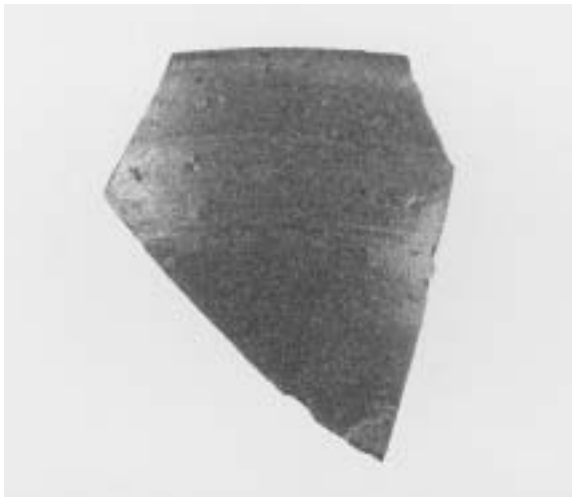
土師器甕（ＳＮ 3690）

出土遺物①

灰釉陶器埦・内面（ＳＫＰ 4253）



同左・外面



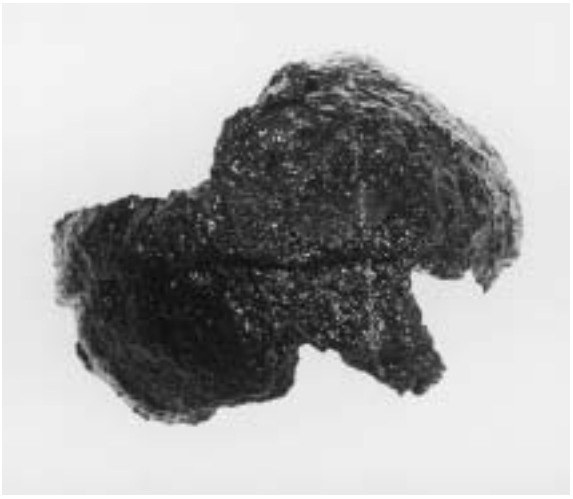
青磁碗（ＳＩ 2550）

転用硯（ＳＫＰ 5232）

小刀（ＳＩ 4300）

鉄鏃・釣針（上段：遺構外、下段：ＳＫＰ 2849）

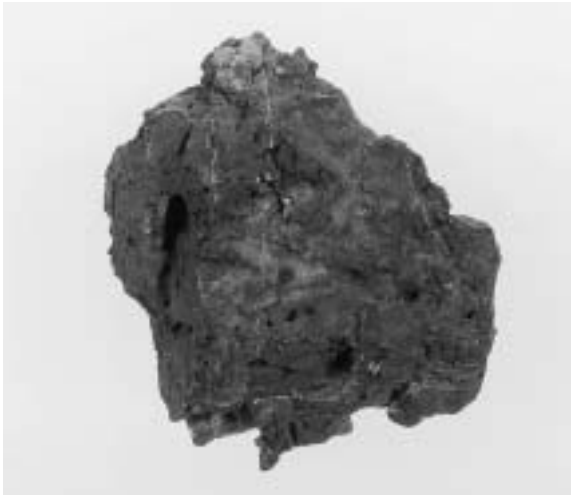
出土遺物②



鉄鈴（S D 2201）

鉄鍋（S K 5895）

炉壁（S S3946）



炉底塊（S S 3946）

流出溝滓（S S 3946）

流出溝滓（S S 3946）

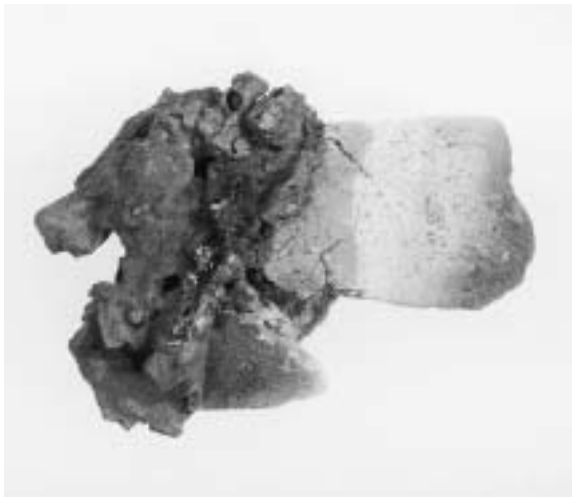
出土遺物③

流動滓（ＳＳ 3946）

流動滓（ＳＳ 3946）

椀形鍛冶滓（ＳＳ 3946）

流動滓（ＳＳ 3946）



羽口（ＳＳ 3946）

鉄床石（ＳＩ 1800）

出土遺物④

報 告 書 抄 録

ふりがな	こばやしいせき
書名	小林遺跡
副書名	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	XIX
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第376集
編著者名	吉川耕太郎・大森浩・藤田賢哉・渡邊慎一・太田剛・菊地亮・工藤幸作・小澤昌広 高橋浩樹・播摩芳紀・皆川友紀子・森川千春
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　　電話0187-69-3331
発行年月日	西暦2004年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
小林遺跡（こばやしいせき）	秋田県山本郡琴丘町（あきたけんやまもとぐんことおかまち） 鯉川字小林（こいかわあざこばやし）39外	05341		40° 00′ 12″	140° 5′ 33″	20000424 ～ 20001102	14,300 m²	日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小林遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡 陥し穴状土坑 フラスコ状土坑	縄文土器 石器	縄文時代と平安時代の複合遺跡。縄文時代の遺構・遺物は中期が中心（平成14年度報告）。平安時代は、10世紀前後の製鉄関連の集落跡。
	集落跡	平安時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 溝跡 製鉄炉 鍛冶炉 炭窯 土坑 柱穴様ピット	土師器 須恵器 陶磁器 土製品 石製品 鉄製品 鉄滓	

秋田県文化財調査報告書第376集

小　林　遺　跡　Ⅱ　（平安時代・中世編）

－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅨ－

印刷・発行　平成16年3月

編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話 0187（69）3331　FAX 0187（69）3330

発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王4丁目1番1号
電話 018（860）3193

印　　刷　五十嵐印刷株式会社